

科目名	法学の基礎		開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	法学を学ぶための基礎知識・基本技法を習得する。			
授業の目的及び概要	法学部で学んでいくために必要となる基本的な知識を学習します。身に着けた知識を用いて、憲法、刑法、民法の入門書を自力で読んでいけることを目標とします。 また、法学部で学んでいく際に必要となる、法的三段論法の技法を中心に、基本的な法解釈・法適用について身に着けることも目標とします。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①法学の基礎的（ベーシック）な用語・概念を他者にわかりやすく説明することができる。 ②法律科目の授業についていくために必要なツール（六法など）を使うことができる。 ③憲法、刑法、民法の基本的な概念を理解し、それぞれの科目で自主的・主体的に学修を進めることができる。			
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「法学入門」分野）：11 月の試験での合格を目指します。			
フィードバックの方法	中間テストは採点したうえで講評を行い、講義内で解説等を実施する。また、希望者には得点を開示する。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	①ポケット六法 令和7年版，荒木=森田編，有斐閣，2024 年 ②条文の読み方 第2 版，法制執務・法令用語研究会，有斐閣，2021 年 ③2025 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年 ③については、購入を求めるか配布するかは未定である。	ISBN	①9784641009257 ②9784641126268 ③未定	
参考書	特になし。		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	40		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	60		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	法学は、日常生活になじみのない専門用語が沢山出てきます。学生諸君は、初めは戸惑うかもしれませんが、この科目の学修は、法学の学修や社会生活において必ず役に立ちます。ですから、まず、授業には出席してください。それから、予習・復習をしてください。あせらずに、やってください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、法学の世界 （法的三段論法、法解釈）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第2回	対面	民事裁判制度、刑事裁判制度 （三審制、最高裁、判例検索方法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第3回	対面	立法過程、法形式、法の適用範囲 （二院制、内閣法制局、法律用語の基本）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第4回	対面	憲法① 違憲審査制、法の支配 （最高法規性、自然権、法律上の争訟）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第5回	対面	憲法② 三権分立 （国民主権、司法権、大津事件）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第6回	対面	憲法③ 事例 （警察予備隊、砂川事件、統治行為論）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第7回	対面	刑法① 犯罪論、死刑制度 （応報刑、一般予防、罪刑法定主義）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第8回	対面	刑法② 刑事法の判断プロセス （構成要件該当性、違法性、責任）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第9回	対面	刑法③ 事例 （殺人罪と傷害致死罪）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第10回	対面	中間テスト①	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第11回	対面	民法① 民法の基礎概念 （権利能力、物、私的自治の原則、契約自由の原則）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第12回	対面	民法② 物権法・債権法の基礎 （所有権絶対の原則、物権法定主義、債権の相対性）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第13回	対面	民法③ 不法行為、事例 （過失責任主義、一般法・特別法、PL法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第14回	対面	中間テスト②	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。	4時間

2025/05/01

			②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	
第15回	オンデマンド	授業のまとめ	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間

科目名	法学の基礎	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法学を学ぶための基礎知識・基本技法を習得する。		
授業の目的及び概要	法学部で学んでいくために必要となる基本的な知識を学習します。身に着けた知識を用いて、憲法、刑法、民法の入門書を自力で読んでいけることを目標とします。 また、法学部で学んでいく際に必要となる、法的三段論法の技法を中心に、基本的な法解釈・法適用について身に着けることも目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①法学の基礎的（ベーシック）な用語・概念を他者にわかりやすく説明することができる。 ②法律科目の授業についていくために必要なツール（六法など）を使うことができる。 ③憲法、刑法、民法の基本的な概念を理解し、それぞれの科目で自主的・主体的に学修を進めることができる。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「法学入門」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	中間テストは採点したうえで講評を行い、講義内で解説等を実施する。また、希望者には得点を開示する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ポケット六法 令和7年版，荒木=森田編，有斐閣，2024 年 ②条文の読み方 第2 版，法制執務・法令用語研究会，有斐閣，2021 年 ③2025 年法学検定試験問題集ベーシック<基礎>コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年 ③については、購入を求めるか配布するかは未定である。	ISBN	①9784641009257 ②9784641126268 ③未定
参考書	特になし。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	法学は、日常生活になじみのない専門用語が沢山出てきます。学生諸君は、初めは戸惑うかもしれませんが、この科目の学修は、法学の学修や社会生活において必ず役に立ちます。ですから、まず、授業には出席してください。それから、予習・復習をしてください。あせらずに、やってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、法学の世界 （法的三段論法、法解釈）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第2回	対面	民事裁判制度、刑事裁判制度 （三審制、最高裁、判例検索方法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第3回	対面	立法過程、法形式、法の適用範囲 （二院制、内閣法制局、法律用語の基本）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第4回	対面	憲法① 違憲審査制、法の支配 （最高法規性、自然権、法律上の争訟）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第5回	対面	憲法② 三権分立 （国民主権、司法権、大津事件）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第6回	対面	憲法③ 事例 （警察予備隊、砂川事件、統治行為論）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第7回	対面	刑法① 犯罪論、死刑制度 （応報刑、一般予防、罪刑法定主義）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第8回	対面	刑法② 刑事法の判断プロセス （構成要件該当性、違法性、責任）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第9回	対面	刑法③ 事例 （殺人罪と傷害致死罪）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第10回	対面	中間テスト①	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第11回	対面	民法① 民法の基礎概念 （権利能力、物、私的自治の原則、契約自由の原則）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第12回	対面	民法② 物権法・債権法の基礎 （所有権絶対の原則、物権法定主義、債権の相対性）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第13回	対面	民法③ 不法行為、事例 （過失責任主義、一般法・特別法、PL法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第14回	対面	中間テスト②	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。	4時間

2025/05/01

			②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	
第15回	オンデマンド	授業のまとめ	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間

科目名	法学の基礎	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法学を学ぶための基礎知識・基本技法を習得する。		
授業の目的及び概要	法学部で学んでいくために必要となる基本的な知識を学習します。身に着けた知識を用いて、憲法、刑法、民法の入門書を自力で読んでいけることを目標とします。 また、法学部で学んでいく際に必要となる、法的三段論法の技法を中心に、基本的な法解釈・法適用について身に着けることも目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①法学の基礎的（ベーシック）な用語・概念を他者にわかりやすく説明することができる。 ②法律科目の授業についていくために必要なツール（六法など）を使うことができる。 ③憲法、刑法、民法の基本的な概念を理解し、それぞれの科目で自主的・主体的に学修を進めることができる。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「法学入門」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	中間テストは採点したうえで講評を行い、講義内で解説等を実施する。また、希望者には得点を開示する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ポケット六法 令和7年版，荒木=森田編，有斐閣，2024 年 ②条文の読み方 第2 版，法制執務・法令用語研究会，有斐閣，2021 年 ③2025 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年 ③については、購入を求めるか配布するかは未定である。	ISBN	①9784641009257 ②9784641126268 ③未定
参考書	特になし。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	法学は、日常生活になじみのない専門用語が沢山出てきます。学生諸君は、初めは戸惑うかもしれませんが、この科目の学修は、法学の学修や社会生活において必ず役に立ちます。ですから、まず、授業には出席してください。それから、予習・復習をしてください。あせらずに、やってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、法学の世界 （法的三段論法、法解釈）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第2回	対面	民事裁判制度、刑事裁判制度 （三審制、最高裁、判例検索方法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第3回	対面	立法過程、法形式、法の適用範囲 （二院制、内閣法制局、法律用語の基本）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第4回	対面	憲法① 違憲審査制、法の支配 （最高法規性、自然権、法律上の争訟）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第5回	対面	憲法② 三権分立 （国民主権、司法権、大津事件）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第6回	対面	憲法③ 事例 （警察予備隊、砂川事件、統治行為論）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第7回	対面	刑法① 犯罪論、死刑制度 （応報刑、一般予防、罪刑法定主義）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第8回	対面	刑法② 刑事法の判断プロセス （構成要件該当性、違法性、責任）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第9回	対面	刑法③ 事例 （殺人罪と傷害致死罪）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第10回	対面	中間テスト①	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第11回	対面	民法① 民法の基礎概念 （権利能力、物、私的自治の原則、契約自由の原則）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第12回	対面	民法② 物権法・債権法の基礎 （所有権絶対の原則、物権法定主義、債権の相対性）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第13回	対面	民法③ 不法行為、事例 （過失責任主義、一般法・特別法、PL法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第14回	対面	中間テスト②	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。	4時間

2025/05/01

			②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	
第15回	オンデマンド	授業のまとめ	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間

科目名	法学の基礎	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法学を学ぶための基礎知識・基本技法を習得する。		
授業の目的及び概要	法学部で学んでいくために必要となる基本的な知識を学習します。身に着けた知識を用いて、憲法、刑法、民法の入門書を自力で読んでいけることを目標とします。 また、法学部で学んでいく際に必要となる、法的三段論法の技法を中心に、基本的な法解釈・法適用について身に着けることも目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①法学の基礎的（ベーシック）な用語・概念を他者にわかりやすく説明することができる。 ②法律科目の授業についていくために必要なツール（六法など）を使うことができる。 ③憲法、刑法、民法の基本的な概念を理解し、それぞれの科目で自主的・主体的に学修を進めることができる。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「法学入門」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	中間テストは採点したうえで講評を行い、講義内で解説等を実施する。また、希望者には得点を開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①ポケット六法 令和 7 年版，荒木=森田編，有斐閣，2024 年 ②条文の読み方 第 2 版，法制執務・法令用語研究会，有斐閣，2021 年 ③2025 年法学検定試験問題集ベーシック<基礎>コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年 ③については、購入を求めるか配布するかは未定である。	ISBN	①9784641009257 ②9784641126268 ③未定
参考書	特になし。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	法学は、日常生活になじみのない専門用語が沢山出てきます。学生諸君は、初めは戸惑うかもしれませんが、この科目の学修は、法学の学修や社会生活において必ず役に立ちます。ですから、まず、授業には出席してください。それから、予習・復習をしてください。あせらずに、やってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、法学の世界 （法的三段論法、法解釈）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第2回	対面	民事裁判制度、刑事裁判制度 （三審制、最高裁、判例検索方法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第3回	対面	立法過程、法形式、法の適用範囲 （二院制、内閣法制局、法律用語の基本）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第4回	対面	憲法① 違憲審査制、法の支配 （最高法規性、自然権、法律上の争訟）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第5回	対面	憲法② 三権分立 （国民主権、司法権、大津事件）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第6回	対面	憲法③ 事例 （警察予備隊、砂川事件、統治行為論）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第7回	対面	刑法① 犯罪論、死刑制度 （応報刑、一般予防、罪刑法定主義）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第8回	対面	刑法② 刑事法の判断プロセス （構成要件該当性、違法性、責任）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第9回	対面	刑法③ 事例 （殺人罪と傷害致死罪）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第10回	対面	中間テスト①	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第11回	対面	民法① 民法の基礎概念 （権利能力、物、私的自治の原則、契約自由の原則）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第12回	対面	民法② 物権法・債権法の基礎 （所有権絶対の原則、物権法定主義、債権の相対性）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第13回	対面	民法③ 不法行為、事例 （過失責任主義、一般法・特別法、PL法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2時間）。	4時間
第14回	対面	中間テスト②	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認する	4時間

2025/05/01

			こと（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	
第 1 5 回	オンデマンド	授業のまとめ	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間

科目名	政治学入門	開講年度	2025
担当者	山口 治男	配当年次	12
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治の仕組みを理論的な基礎と具体的な社会から学ぶ		
授業の目的及び概要	日々耳にするニュースからは、日本や世界の政治に関する多くの情報が流れてきます。しかし、多くの問題が起きているにも関わらず、なぜ社会や政治の問題は解決しないのでしょうか？私たちは今、本当に自分たちが望む社会や国の形を作れているのでしょうか？ この講義では、それらの疑問について自分の頭で考え自分の意見を持てるように、これからの社会で生きていくための基礎知識としての政治学を学びます。そのために現代の様々な時事問題を取り上げつつ、具体的な社会に即して政治について考えられるようになることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 政治学という観点から、日本の社会や政治についての基礎知識を身につける。 2. 日本でいま起きている事柄についての知識を深め、自分自身の意見を持ち、論述できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付けることで、講義内容への理解を深めるとともに、関心に合わせて議論を広げられるようにしていく。また、そこで議論した内容については適宜教室全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニング の取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない。予復習のための参考文献は、講義内容に応じて毎回の講義で指示する。	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。全体としての参考文献としては以下を指定する。 『はじめての政治学』、佐藤史郎編、法律文化社、2021年	ISBN	9784589041425
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日々触れるニュースは、「なんとなく大事」だと思っけていても、実際にそれがどのような問題を持っているのか、自分にどう関係しているのかが分かりにくいものも多いです。それらを自分の目で見て、自分の頭で考えられるようにしていきましょう。興味を持ったテーマについては、その日のテーマと関連していないように思えても、積極的に質問してみてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義の概要と導入	講義内容の確認の小テストで復習を行う。授業後に、政治概念の一般的な定義とこの講義での定義の違いを区別し、まとめる	4時間
第2回	対面	政治における権力と自由の関係性を学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。権力とは何かを学術的に説明し、その実例について調べ考察を加える。	4時間
第3回	対面	政治における透明性について学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。権力と政治の関係について整理し、なぜ透明性が重要なのかを理解し記述できるようにする。	4時間
第4回	対面	立憲主義について学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。政治について考える上でなぜ憲法が重要なのかを前回の権力との関連で理解し、まとめる。	4時間
第5回	対面	立憲主義の具体的事例の考察	講義内容の確認の小テストで復習を行う。現代の日本の問題に対して前回の立憲主義の意義と問題点を整理し考察する。	4時間
第6回	対面	日本の安全保障と政治の関係について学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。現在の日本の安全保障に関して具体的な問題をニュースから読み取り、自分の考えを持つ。	4時間
第7回	対面	日本の安全と世界の安全保障について学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。国際関係の中で日本が置かれている安全保障環境について前回の内容を踏まえて考察を加える。	4時間
第8回	対面	三権分立について学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。日本の政治の基本的な仕組みである三権分立について、その意義を政治という観点から理解し論述できるようにする	4時間
第9回	対面	行政の仕組みについて学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。行政と政治の関係の理解を深め、その具体的事例について考察する。	4時間
第10回	対面	立法の仕組みについて学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。立法の重要性を政治という観点から理解し、その現状についてニュースを通じて考察する。	4時間
第11回	対面	政党政治について学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。政党の仕組みの基礎を理解し、その意義と問題点についてまとめる。	4時間
第12回	対面	政治意識と政治文化について学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。政治意識と政治文化の区別を踏まえ、日本特有の政治文化について考察を加える。	4時間
第13回	対面	メディアと政治の関係について学ぶ	講義内容の確認の小テストで復習を行う。前回の政治文化についての理解を踏まえ、日本においてメディアが果たす役割の考察を深める。	4時間
第14回	対面	日本の政治と、私たちの政治を考える	これまでの講義内容全体を踏まえ、入り口であった「政治」の意味について理解を深め、日本の実例を通じて論理的に考察しレポートにまとめる。	4時間
第15回	オンデマンド	レポートに向けたまとめと補足	これまでの具体的事例のポイントについてまとめた上で、教科書的な政治の仕組みについての基礎を固めておく。	4時間

科目名	経済学入門	開講年度	2025
担当者	木下 英雄	配当年次	12
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	初めて経済学を学ぶ学生を対象に、経済学の基礎を説明する。		
授業の目的及び概要	本講義は、法学部生の皆さんに、「経済」の現象に関心を持ってもらうことを目的としています。また、経済学を学ぶために必要な基本的な知識をつけることも目的としています。経済学の基礎を学びながら、私たちの身の回りで起きている問題について考えていきます。また、講義内容の理解を深めるために問題演習を実施します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目の目標は、以下の通り設定しています。 （1）経済学で用いられる基礎用語について理解し、説明することができる。 （2）市場メカニズムの働きとその限界について説明することができる。 （3）授業で紹介した経済現象や経済問題について、自身の意見を述べるすることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	問題演習については、Learning Portal のテスト欄で解答・解説を公開します。 期末試験については、Learning Portal で解答・解説を公開します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	アクティブ・ラーニングで学ぶ日本の経済、根岸毅宏・中泉真樹編著、東洋経済新報社、2021 年	ISBN	9784492315347
参考書	①ろけっとぼっぼー＆ホッホー博士と学ぶミクロ経済学入門「市場」ってなんだろう？、竹内建蔵、有斐閣、2021 年 ②ミクロ経済学の基礎（ベーシック+）、小川 光・家森信善、中央経済社、2016 年 ③マクロ経済学の基礎（ベーシック+）第 2 版、家森信善、中央経済社、2021 年	ISBN	①9784641165908 ②9784502179518 ③9784502371318
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	講義では問題演習を行って理解度を確かめるので、必ず復習を行ってください。 新聞やニュース等で講義で取り扱った理論に関する記事について関心を持ってください。講義内容の理解が進みます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：授業の概要や到達目標についてのガイダンスを行います。また、経済とは何かについて説明します。	【予習】：シラバスと講義資料を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第1章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第2回	対面	市場経済（需要と供給、市場メカニズム）について学びます。	【予習】：テキスト第2章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第2章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第3回	対面	市場経済の長所（市場の重要性）と短所（「市場の失敗」）について学びます。	【予習】：テキスト第3章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第3章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第4回	対面	経済の大きさを測る GDP について学びます。	【予習】：テキスト第4章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第4章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第5回	対面	GDPがどのようにして決まるのかを学びます。	【予習】：テキスト第5章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第5章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第6回	対面	企業の役割について学びます。	【予習】：テキスト第6章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第6章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第7回	対面	前半のまとめと中間テストを行います。	【予習】：テキスト第1章から第6章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第1章から第6章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第8回	対面	会計の役割について学びます。	【予習】：テキスト第7章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第7章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第9回	対面	雇用について市場経済の仕組みから学びます。	【予習】：テキスト第8章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第8章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第10回	対面	日本的雇用慣行の特徴と問題点について学びます。	【予習】：テキスト第9章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第9章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第11回	対面	貨幣の役割と金融の基本的な仕組みについて学びます。	【予習】：テキスト第10章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第10章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第12回	対面	日本銀行の基本的な業務と金融政策について学びます。	【予習】：テキスト第11章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第11章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第13回	対面	政府の役割と財政の基礎について学びます。	【予習】：テキスト第12章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第12章と授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第14回	対面	輸出・輸入の役割と為替相場について学びます。	【予習】：テキスト第13章を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。	4時間

			【復習】：テキスト第 13 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	
第 15 回	オンデマンド	講義内容のまとめ	【予習】：これまでのテキストおよび配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。 【復習】：授業で示されたポイントを中心に，定期試験に備えて総復習を行ってください。	4 時間

科目名	戦後法制史	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	12
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例を通じて見る戦後日本法制史		
授業の目的及び概要	実定法科目にて判例を取り扱う場合、抽象的な法解釈論の部分に重点が置かれることが多い。その半面、判例のうち、事実関係（いわゆる立法事実を含む。以下同じ）それ自体について立ち入った検討をすることは、授業時間の制約上、容易ではない。 しかし、判例のなかには、その時代の社会・政治・経済について、重要な判示をしているものも少なくない。特に憲法判例は、学生運動・労働組合活動などの社会的事象、自衛隊や安全保障をめぐる政治的事象、独占的企業の成長と地域経済の衰退などの経済的事象などに関して、重要な判示を含むことが少なくない。 そこで本科目では、戦後日本の憲法判例のうち、その時代の社会・政治・経済を色濃く反映し、これらに関する重要な判示を含むものを取り上げ、その分析を通じて、戦後日本法制史を読み解く。 本科目では、講義形式と双方向・多方向型授業とを併用する。 本科目では、毎回、受講生が判例を予習していることを前提として、担当教員が受講生に対し、判例の内容（特に、その時代の社会・政治・経済に関する部分）について質問する。		
履修条件・留意点	「憲法 I <憲法概論>」の授業と教科書の内容を十分に理解し、「憲法 I <憲法概論>」の単位を取得済みであることを前提とする。 また、できるかぎり、「憲法 II (人権) <憲法学 I>」を履修するか、授業外での自修等により、「憲法 II (人権) <憲法学 I>」の内容を理解していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	戦後日本の憲法判例にあらわれた、社会・政治・経済等に関する時代的背景を理解している。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向型・多方向型のやりとりにより、受講生の理解と考察を深める。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	指定しない。
参考書	①「戦後憲法学」の群像、鈴木敦ほか編、弘文堂、2021 年 ②日本国憲法のお誕生、江橋崇、有斐閣、2020 年 ③概説日本法制史（第 2 版）、出口雄一ほか編著、弘文堂、2023 年 ④日本法史から何がみえるか、高谷知佳ほか編著、有斐閣、2018 年 ⑤戦後法制改革と占領管理体制、出口雄一、慶應義塾大学出版会、2017 年 ①は、戦後日本における憲法学説の展開を、東大学派・京大学派・保守派憲法学などの潮流ごとに論ずるものである。 ②は、日本国憲法の制定過程だけでなく、それが日本社会においてどのように受けとめられたかを、豊富な史料とともに紹介するものである。	ISBN	①9784335358180 ②9784641227965 ③9784335359545 ④9784641125971 ⑤9784766424331

	③・④は、戦後法制史に限らず、日本法制史全体を概観する概説書である。 ⑤は、戦後初期の日本法制史を取り扱う研究書である。専門性が高いが、特に発展的な学修を志望する学生は挑戦していただきたい。		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目では、毎回、受講生が判例を予習していることを前提として、担当教員が受講生に対し、判例の内容（特に、その時代の社会・政治・経済に関する部分）について質問する。そのため、受講生は毎回、十分な予習が必要である。 受講人数・受講生の学修状況等に応じて、中間試験・中間レポートなどを実施する場合がある。 実施した場合、成績評価に反映する。詳細は授業中に説明する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	宗教とテロリズムの戦後日本法制史 最一小決平成8年（1996年）1月30日民集50巻1号199頁 （オウム真理教解散命令事件） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=55883	左記判例の予習	4時間
第2回	対面	戦前の軍国主義に向き合う戦後日本法制史 最三小判平成19年（2007年）2月27日民集61巻1号291頁 （君が代ピアノ伴奏事件） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=34185	左記判例の予習	4時間
第3回	対面	貧困と福祉国家の戦後日本法制史 最大判昭和42年（1967年）5月24日民集21巻5号1043頁 （朝日訴訟） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=54970	左記判例の予習	4時間
第4回	対面	学問上の論争と社会との関係をめぐる戦後日本法制史 最大判令和3年（2021年）2月24日民集75巻2号29頁 （孔子廟訴訟） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=90039	左記判例の予習	4時間
第5回	対面	公害・環境問題をめぐる戦後日本法制史 最大判昭和56年（1981年）12月16日民集35巻10号1369頁 （大阪空港訴訟） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=54427	左記判例の予習	4時間

第6回	対面	戦後憲法（学）の闇 最大判令和6年（2024年）7月3日民集7 8巻3号382頁 （優生保護法訴訟） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=93159	左記判例の予習	4時間
第7回	対面	教育と政治の戦後日本法制史1 最大判昭和51年（1976年）5月21日刑集 30巻5号615頁 （旭川学テ事件） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=57016	左記判例の予習	4時間
第8回	対面	教育と政治の戦後日本法制史2 最三小判平成5年（1993年）3月16日民 集47巻5号3483頁 （教科書裁判〔第1次〕） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=56358	左記判例の予習	4時間
第9回	対面	企業と政治の戦後日本法制史 最大判昭和48年（1973年）12月12日民 集27巻11号1536頁 （三菱樹脂事件） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=51931	左記判例の予習	4時間
第10回	対面	権力分立と権力集中をめぐる戦後日本法 制史 最大判平成7年（1995年）2月22日刑集 49巻2号1頁 （ロッキード事件〔丸紅ルート〕） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=50335	左記判例の予習	4時間
第11回	対面	安全保障をめぐる戦後日本法制史1 最大判昭和34年（1959年）12月16日刑 集13巻13号3225頁 （砂川事件） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=55816	左記判例の予習	4時間
第12回	対面	安全保障をめぐる戦後日本法制史2 最大判昭和27年（1952年）10月8日民集 6巻9号783頁 （警察予備隊違憲訴訟） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=57366	左記判例の予習	4時間
第13回	対面	国際化・科学技術の発展をめぐる戦後日本 法制史 最大判平成17年（2005年）9月14日民集 59巻7号2087頁 （在外日本国民選挙権訴訟） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=52338	左記判例の予習	4時間
第14回	対面	裁判制度の戦後日本法制史 最大判平成23年（2011年）11月16日刑 集65巻8号1285頁 （裁判員制度合憲判決） https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/detail2?id=81769	左記判例の予習	4時間
第15回	オンデ	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に	4時間

2025/05/01

	マンド		向けた学修	

科目名	戦後法制史	開講年度	2025
担当者	謝 政徳	配当年次	12
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日本現代法体制の成立と展開		
授業の目的及び概要	本講義では、現代法体制の成立と展開について概観します。具体的には、重要と思われる現代の諸制度について、戦後改革期において現代法体制の出発点である戦前の法がどのように改正されたかを踏まえて、その成立と展開過程を考察します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本近現代法史に関する基礎的な知識を修得するとともに、現代社会と法との関係を多面的にとらえる思考を身につけることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを不定期に実施し、受講者の授業に対する疑問や意見を確認します。これに対して授業中で説明します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。授業中にレジュメ・資料を配布します。	ISBN	当該なし
参考書	①『日本現代法史論』山中永之佑編（法律文化社、2010 年） ②『日本近現代法史・資料年表〔第 2 版〕』藤田正・吉井蒼生夫他（信山社、2015 年）	ISBN	①9784589032393 ②9784797223460
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	現代法史体制の概観（授業ガイダンスを含む）	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間

第2回	対面	統治機構の再編と官僚制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第3回	対面	日本国憲法の制定について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第4回	対面	地方自治法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第5回	対面	学校・教育法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第6回	対面	刑法と治安法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第7回	対面	司法制度と司法改革について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第8回	対面	訴訟法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第9回	対面	土地法制について	授業前に、講義資料をよく読み、授業内容について確認・理解してから授業に参加して下さい。 授業後に、講義資料のなかで問われた問題について、授業内容を踏まえて復習して下さい。	4 時間
第10回	対面	家族法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第11回	対面	労働法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第12回	対面	環境法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第13回	対面	社会保障法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第14回	対面	日本人の法意識論について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体のまとめと定期試験に向けた勉強の仕方について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編 Windows10/Office 2019 対応 型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1 Windows について～STEP6 アプリを操作しよう、STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等) 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第3回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第4回	対面	1) 情報検索と図書館蔵書検索 2) プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第5回	対面	1) プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・前回の続き ・練習問題 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第6回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1 Wordについて～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第7回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題2と3 2) 情報モラル&情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題2と3を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題2と3を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1 Excelについて～STEP5 表を印刷しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第10回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6 グラフを作成しよう～STEP8 複数のシートを操作しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8の操作を復習しておきましょう	4 時間
第11回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1と2 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1と2を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1と2を完成させ提出して下さい。	4 時間
第12回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9 関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11の操作を復習しておきましょう	4 時間
第13回	対面	1) 総合演習1 ・総合演習課題(1) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第14回	対面	1) 総合演習2 ・総合演習課題(2) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習3 ・総合演習課題(3) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	川浪 隆之	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編 Windows10/Office 2019 対応 型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1 Windows について～STEP6 アプリを操作しよう、STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等) 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第3回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第4回	対面	1) 情報検索と図書館蔵書検索 2) プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第5回	対面	1) プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・前回の続き ・練習問題 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第6回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1 Wordについて～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第7回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題2と3 2) 情報モラル&情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題2と3を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題2と3を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1 Excelについて～STEP5 表を印刷しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第10回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6 グラフを作成しよう～STEP8 複数のシートを操作しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8の操作を復習しておきましょう	4 時間
第11回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1と2 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1と2を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1と2を完成させ提出して下さい。	4 時間
第12回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9 関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11の操作を復習しておきましょう	4 時間
第13回	対面	1) 総合演習1 ・総合演習課題(1) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第14回	対面	1) 総合演習2 ・総合演習課題(2) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習3 ・総合演習課題(3) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編 Windows10/Office 2019 対応 型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1 Windows について～STEP6 アプリを操作しよう、STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等) 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第3回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第4回	対面	1) 情報検索と図書館蔵書検索 2) プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第5回	対面	1) プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・前回の続き ・練習問題 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第6回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1 Wordについて～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第7回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題2と3 2) 情報モラル&情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題2と3を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題2と3を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1 Excelについて～STEP5 表を印刷しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第10回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6 グラフを作成しよう～STEP8 複数のシートを操作しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8の操作を復習しておきましょう	4 時間
第11回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1と2 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1と2を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1と2を完成させ提出して下さい。	4 時間
第12回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9 関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11の操作を復習しておきましょう	4 時間
第13回	対面	1) 総合演習1 ・総合演習課題(1) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第14回	対面	1) 総合演習2 ・総合演習課題(2) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習3 ・総合演習課題(3) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	川浪 隆之	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編 Windows10/Office 2019 対応 型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1 Windows について～STEP6 アプリを操作しよう、STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等) 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第3回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第4回	対面	1) 情報検索と図書館蔵書検索 2) プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第5回	対面	1) プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・前回の続き ・練習問題 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第6回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1 Wordについて～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第7回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題2と3 2) 情報モラル&情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題2と3を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題2と3を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1 Excelについて～STEP5 表を印刷しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第10回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6 グラフを作成しよう～STEP8 複数のシートを操作しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8の操作を復習しておきましょう	4 時間
第11回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1と2 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1と2を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1と2を完成させ提出して下さい。	4 時間
第12回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9 関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11の操作を復習しておきましょう	4 時間
第13回	対面	1) 総合演習1 ・総合演習課題(1) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第14回	対面	1) 総合演習2 ・総合演習課題(2) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習3 ・総合演習課題(3) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編 Windows10/Office 2019 対応 型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1 Windows について～STEP6 アプリを操作しよう、STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等) 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第3回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第4回	対面	1) 情報検索と図書館蔵書検索 2) プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第5回	対面	1) プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・前回の続き ・練習問題 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第6回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1 Wordについて～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第7回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題2と3 2) 情報モラル&情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題2と3を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題2と3を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1 Excelについて～STEP5 表を印刷しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第10回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6 グラフを作成しよう～STEP8 複数のシートを操作しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8の操作を復習しておきましょう	4 時間
第11回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1と2 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1と2を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1と2を完成させ提出して下さい。	4 時間
第12回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9 関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11の操作を復習しておきましょう	4 時間
第13回	対面	1) 総合演習1 ・総合演習課題(1) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第14回	対面	1) 総合演習2 ・総合演習課題(2) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習3 ・総合演習課題(3) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編 Windows10/Office 2019 対応 型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・ 本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・ Windows の操作(1) ・ 情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1 Windows について～STEP6 アプリを操作しよう, STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・ 全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・ 学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・ 以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・ 自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・ Windows の操作(2) ・ 本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等) 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・ 第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・ 自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第3回	対面	1) 教学システムの基本操作 ・ 本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・ Windows の基本操作 ・ 日本語入力・タイピングの基礎 ・ 作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・ テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・ 授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・ 以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第4回	対面	1) 情報検索と図書館蔵書検索 2) プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・ STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・ テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・ テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第5回	対面	1) プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・ 前回の続き ・ 練習問題 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・ テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・ 練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第6回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1 Wordについて～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第7回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	1) ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題2と3 2) 情報モラル&情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題2と3を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題2と3を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1 Excelについて～STEP5 表を印刷しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第10回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6 グラフを作成しよう～STEP8 複数のシートを操作しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8の操作を復習しておきましょう	4 時間
第11回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題1と2 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題1と2を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題1と2を完成させ提出して下さい。	4 時間
第12回	対面	1) 表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9 関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11の操作を復習しておきましょう	4 時間
第13回	対面	1) 総合演習1 ・総合演習課題(1) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第14回	対面	1) 総合演習2 ・総合演習課題(2) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習3 ・総合演習課題(3) 2) 情報モラル&情報セキュリティ 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	川浪 隆之	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは、Society 5.0の実現やSDGsを達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データやAIに関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AIに関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AIに関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（ITパスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AIに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域、データ・AI利活用の現場、データ・AI利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AIを扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PCを用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	川浪 隆之	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは、Society 5.0の実現やSDGsを達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データやAIに関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AIに関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AIに関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（ITパスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AIに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域、データ・AI利活用の現場、データ・AI利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AIを扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PCを用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは、Society 5.0の実現やSDGsを達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データやAIに関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AIに関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AIに関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（ITパスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AIに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域、データ・AI利活用の現場、データ・AI利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AIを扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PCを用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは、Society 5.0の実現やSDGsを達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データやAIに関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AIに関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AIに関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（ITパスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AIに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域、データ・AI利活用の現場、データ・AI利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AIを扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PCを用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	法思想史	開講年度	2025
担当者	竹村 和也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	様々な法思想を手掛かりにして、法のあり方について考えること		
授業の目的及び概要	この授業では、法についての思索を学びます。法について思索を行ってきた代表的な哲学者たちが、彼らが直面していた社会的・法的な課題を背景として「法とは何か」、「なぜ法に従わなければならないのか」などの問題について、どのような答えを見出してきたのか、について学ぶこととなります。なお、法についての思想を学ぶことは、現代の日本の法を理解するためにも必要です。なぜなら現代の日本の法は西洋の法に基盤を置いているのであって、さらに西洋の法を支える法理論は法思想が結晶したものだとも考えることもできるからです。		
履修条件・留意点	特に履修上の要件はありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	過去の思想家の思想には時代的な限界があるのは当然のことですが、我々が学ぶのは一定の普遍性を獲得した思想家の思想であり、これらの思想には現在我々が抱えている諸問題の解答への手がかりが含まれていると考えてよいでしょう。この授業の目的は、学生が、まずは法思想についての基礎的な知識を得たうえで、様々な法思想を手掛かりにして、今日の法のあり方について改めて思索し、各人なりの法のあるべき姿を見つけることです。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で課した小レポートについて授業で講評します。さらに、優秀なレポートについては、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。授業ではパワーポイントを利用し、そのスライドを Learning Portal に毎回配布します。印刷した文献を配布することもあります。	ISBN	なし
参考書	よくわかる法哲学・法思想, 深田三徳・濱真一郎, ネルヴァ書房, 2015 年 その他は、最初の授業で説明します。	ISBN	9784623073962
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	法思想史は、法哲学の歴史であり、法思想史・法哲学とも基礎法学の一分野です。基礎法学は、解釈学の内側から法を見るのではなく、その外側から法を見る学問であり、実定法に縛られない学問ですから、実定法解釈に飽き足りない学生（あるいは）実定法解釈にあまり関心がない学生）にも興味をそそられる学問ではないかと思えます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業の進め方、授業での約束、法思想史の概略の説明	復習：シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認すること 予習：Learning Portal に掲載する第2回授業資料を事前に読んでおくこと。	2時間
第2回	対面	ギリシャの法思想：ソフィスト・ソクラテス・プラトン・アリストテレスの法思想	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第3回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第3回	対面	ギリシャ後期の法思想：ストア派の法思想	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第4回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第4回	対面	大陸法の起源とローマ法：英米法との比較における大陸法の起源としてのローマ法	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第5回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第5回	対面	前の授業を映像で確認する。	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めると同時に、レポートを作成すること 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第6回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第6回	対面	中世キリスト教の法思想：アウグスティヌスとトマス・アクィナス 中世後期の法思想と近世への橋渡し：グロチウス・サラマンカ学派	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：次週に行われる中間段階でのテストに向け、これまでの授業内容を改めて確認しておくこと	4.5時間
第7回	対面	中間段階での試験	復習：中間段階での試験の内容について、資料などを参照し、理解を深めるとともに、レポートを作成すること 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第8回授業資料を事前に読んでおくこと	4.5時間
第8回	対面	近世・近代の法思想(イングランド啓蒙思想)：トマス・ホッブスとジョン・ロック	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第9回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第9回	対面	近世・近代の法思想(フランス啓蒙思想)：モンテスキューとルソー	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第10回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第10回	対面	近世・近代の法思想(ドイツ啓蒙思想)：カントとヘーゲル	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第11回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第11回	対面	歴史法学・スコットランド啓蒙思想：ドイツ・イングランド・スコットランドの歴史法学	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第12回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第12回	対面	イングランドの法実証主義：ベンサムとオースティン	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第13回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第13回	対面	ドイツの法実証主義と裁判官の役割：概念法学とその批判者たち	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第14回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間

第14回	対面	現代の法思想(法概念と裁判官の役割について)	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第15回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの授業時に実施した小テスト、中間段階での試験について復習し、定期試験に向けて授業内容を改めて確認しておくこと	5時間

科目名	日本法制史	開講年度	2025
担当者	謝 政徳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日本近代体制の成立と展開		
授業の目的及び概要	近代の日本は、西欧型近代法を継受することによって近代化を成し遂げたとともに、台湾、朝鮮、樺太などの地域を含めた帝国日本でした。 本講義では、このような立場で日本近代法制史について概観します。具体的には、近代的な諸法典が制定された明治期を中心に、日本近代法体制の成立と展開過程について考察します。また、植民地台湾と朝鮮で展開された法制度について、日本経由の西欧近代法がどのような影響を与えたかについても言及します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本近代法史に関する基礎的な知識を修得するとともに、近代日本と東アジア諸国との関係を考察する思考力を身につけることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを不定期に実施し、受講者の授業に対する疑問や意見を確認します。これに対して授業中で説明します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。授業中にレジュメ・資料を配布します。	ISBN	該当なし
参考書	①日本近代法史講義，伊藤孝夫，有斐閣，2023 年 ②新日本近代法論，山中永之佑編，法律文化社，2002 年 ③日本近現代法史・資料年表〔第 2 版〕，藤田正・吉田蒼生夫他，信山社，2015 年	ISBN	①9784641126398 ②9784589025852 ③9784797223460
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	日本近代法体制の概観(授業ガイダンスを含む)	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第2回	対面	明治国家機構の形成について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第3回	対面	司法制度の創設と確立について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第4回	対面	憲法史1ー立憲制への模索について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第5回	対面	憲法史2ー明治憲法の制定について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第6回	対面	憲法史3ー明治立憲制の確立について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第7回	対面	憲法史4ー立憲制の展開について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第8回	対面	刑法史1ー旧刑法・治罪法の制定について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第9回	対面	刑法史2ー明治40年刑法の制定について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第10回	対面	民法史1ー近代法秩序の形成について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第11回	対面	民法史2ー法典編纂・法典論争について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第12回	対面	民法史3ー明治民法の成立と展開について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第13回	対面	植民地法制1ー明治立憲制の確立と植民地について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第14回	対面	植民地法制2ー「外地」について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第15回	オンデ	全体のまとめと定期試験に向けた勉強の	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑	4 時間

2025/05/01

	マンド	仕方について	問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	

科目名	法哲学		開講年度	2025
担当者	竹村 和也		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	法哲学の重要問題について論じること			
授業の目的及び概要	この講義は、法哲学の重要問題について論じることが目的としています。法哲学は、法理学ないし法理論とも呼ばれていますが、今日の法が抱えている基本的問題について哲学的にアプローチする学問です。「哲学的にアプローチする」こととは、ここでは「様々な角度から掘り下げて議論すること」と理解しておきます。 さて、実定法学は、講学上、定まった順序で定まったテーマについて論じられますが、法哲学にもある程度定まったテーマがあります。具体的には、(1) 法とは何か、(2) 法の実現すべき価値は何か、および(3) 正しい法解釈は存在するか、といった問題です。 本講義ではこれらの問題を扱いますが、法哲学は法について議論することである以上、授業へのとても積極的な参加を求めます。議論に関心のある学生の参加を歓迎します。			
履修条件・留意点	本講義を履修する上で、履修を終えておくべき科目や、履修済みまたは平行して履修すべき科目はありません。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学生が、今日の法が抱えている基本的問題について掘り下げて思索し、より良き解答をみつけることができるようにすること。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	「授業の目的及び概要」で説明しているように、授業に積極的に参加し、議論する対話的な授業を試みます。 また、授業期間中の小テスト、レポート課題については、特に出来の良いものを例として、授業内で講評します。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし	ISBN	なし	
参考書	よくわかる法哲学・法思想、深田三徳・濱真一郎、ネルヴァ書房、2015 年 その他は、最初の授業で説明します。	ISBN	9784623073962	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	30		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	0		
	その他の内容	0		
この科目の受講にあたって	法哲学は基礎法学の一分野です。基礎法学は、法をその内側から見るのではなく、その外側から見る学問であり、実定法に縛られない学問です。ですから、実定法解釈に飽き足りない学生（あるいは）実定法解釈にあまり関心がない学生）にも興味をそそられる学問ではないかと思えます。ただし、授業への積極的な参加を求めます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	はじめに：授業の進め方、授業での約束、席順の決定、法哲学の概略の説明	復習：シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認すること 予習：Learning Portal に掲載する第2回授業資料を事前に読んでおくこと。	1時間
第2回	対面	正義について	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第3回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第3回	対面	功利主義（ベンサム功利主義）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第4回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第4回	対面	功利主義（功利主義の問題点）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第5回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第5回	対面	自由の問題（J・S・ミル）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第6回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第6回	対面	リバタリアニズム	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：次週に行われる中間段階でのテストに向け、これまでの授業内容を改めて確認しておくこと	5時間
第7回	対面	振り返りと小テスト	復習：小テストの内容について、資料などを参照し、改めてレポートを作成すること 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第8回授業資料を事前に読んでおくこと	5時間
第8回	対面	平等の問題	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第9回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第9回	対面	リベラリズム	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第10回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第10回	対面	コミュニタリアニズム	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第11回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第11回	対面	グローバル・ジャスティス	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第12回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第12回	対面	法とは何か（悪法も法か）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第13回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第13回	対面	法とは何か（H. L. A. ハートとR. ドゥオーキン）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する第14回授業資料を事前に読んでおくこと	4時間
第14回	対面	司法的裁量論（ハートとドゥオーキン）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深	5時間

2025/05/01

			めておくこと 予習：次週に行われるテストに向け、これまでの授業内容を改めて確認しておくこと	
第15回	オンデマンド	全体の理解の確認	復習：授業で行ったテストの内容について、資料などを参照し、改めてレポートを作成すること	4時間

科目名	西洋法制史	開講年度	2025
担当者	小宮山 直子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	ヨーロッパにおける「法」「裁判」の歴史		
授業の目的及び概要	西洋法制史では、中世から近代にいたる西洋社会の歴史過程を踏まえつつ、ヨーロッパにおける「法」「裁判」の展開を学びます。特に日本近代法の成立に大きな影響を与えたドイツ・フランス法の考察に焦点をあてます。フランス革命を歴史的転換として、その前と後の「法」「裁判」の変容・継続性およびフランス的な特徴も検討します。全体としてフランスを中心に扱いますが、後半は、ドイツにおける法と裁判について、フランスとの比較の視点からも検討します。これまで皆さんが習得してきた法の知識を歴史的視点から考察することができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得し、さらに歴史的視点から現代法を考察する基礎力を身につけることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 適宜配布資料を用います。	ISBN	なし
参考書	①概説西洋法制史, 山内進、他, ミネルヴァ書房, 2004 年 ②法制史入門, 岩村等・三成賢次・三成美保, ナカニシヤ出版, 2000 年 ③ローマ法とヨーロッパ, ピーター・スタイン, ミネルヴァ書房, 2003 年 その他の参考書については、授業の中で適宜紹介します。	ISBN	①9784623040643 ②9784888483155 ③9784623038053
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	15	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業は日本近・現代法史の学びにも役立ちます。ヨーロッパ史に関するの教養も深まります。 欧米の社会問題を扱った映画なども視聴しましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	はじめに： 講義のテーマと課題	【予習】参考書（『法制史入門』、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第2回	対面	ヨーロッパ中世の社会と法（1）： ローマ法の復活、ローマ法と教会法	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第3回	対面	ヨーロッパ中世の社会と法（2）： 伝統的裁判、新しい形式の裁判	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第4回	対面	フランス・アンシャンレジーム期の社会と法（1）： 王権の伸長、法統一の試み	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第5回	対面	フランス・アンシャンレジーム期の社会と法（2）： 近世の裁判、魔女裁判	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第6回	対面	イギリス法史（概説）： イギリスにおける陪審制度の展開	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第7回	対面	フランス革命と法（1）： フランス革命の概要、フランス人権宣言、刑法典、革命期の市民をめぐる議論	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第8回	対面	フランス革命と法（2） 革命期の裁判制度の改革、陪審制度の導入	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第9回	対面	フランス革命と法（3） フランス民法典の成立過程 中間復習テスト	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第10回	対面	フランス民法典： 1804年成立のフランス民法典の特徴、フランス民法典における家族像、妻の法的地位	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第11回	対面	ドイツ法典論争： 19世紀はじめ、ドイツ法典論争及び歴史法学派	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項	4時間

			(キーワード)を各自で確認・整理する。	
第12回	対面	近代市民社会と法(1):19世紀フランスの社会と法 フランスにおける都市問題及び労働者問題から19世紀の社会問題を考える	【予習】参考書(『法制史入門』)、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項(キーワード)を各自で確認・整理する。	4時間
第13回	対面	近代市民社会と法(2)ドイツ民法典: 19世紀ドイツの変遷、ドイツ民法典の成立過程・特徴	今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項(キーワード)を各自で確認・整理する。 参考書(『法制史入門』)、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。	4時間
第14回	対面	20世紀: ドイツ・フランス20世紀前半の社会と法、及び戦後の家族法改革	【予習】参考書(『法制史入門』)、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項(キーワード)を各自で確認・整理する。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、全体のまとめと復習を行う。	【復習】これまでのレジュメ・資料・年表などを見直して、全体の流れを把握した上で、重要事項をもう一度確認し、さらに各回の重要テーマを自分の言葉で論じられるよう整理する。	5時間

科目名	法社会学	開講年度	2025
担当者	竹村 和也	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法専門職による法の運用と日本の法運用の特徴		
授業の目的及び概要	法曹を含む法の専門家＝法専門職にはそれぞれ異なった職務や役割があります。法専門職はいかにしてその職務を担っているのか、法の運用にあたっていかなる影響を与えているのか、さらに日本の紛争解決の仕組みにはどのような特徴があるのか、などについて講義します。 憲法や民法、刑法など、いわゆる実定法学では法の解釈を学ぶことになりますが、実際に解釈学説が選択される場合には、学説の優劣だけでなく、例えば法の担い手のイデオロギーが反映される場合もあるでしょう。本授業によって、学説にとどまらない、実際の紛争解決のあり方をまなぶことになるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	実際の紛争解決について、法専門職が果たす役割や影響を概ね説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で課した小レポートについて授業で講評します。さらに、優秀なレポートについては、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。授業ではパワーポイントを利用し、そのスライドを Learning Portal に毎回配布します。印刷した文献を配布することもあります。	ISBN	なし
参考書	何冊か挙げておきますが、残りは授業で説明します。 ①日本司法の逆説—最高裁事務総局の「裁判しない裁判官」たち、西川伸一、五月書房、2005 年 ②日本の最高裁を解剖する、ディヴィッド・S・ロー、現代人文社、2013 年 ③名もない顔もない司法—日本の裁判は変わるのか、ダニエル・H・フット、NTT 出版、2007 年 ④司法官僚、新藤宗幸、岩波新書、2009 年 ⑤憲法学から見る最高裁判所裁判官：70 年の軌跡、渡辺康彦・木下智史・尾形健、日本評論社、2017 年 ⑥日本の最高裁判所—判決と人・制度の考察、市川・大久保・斎藤・渡辺、日本評論社、2016 年 ⑦現代日本の司法 「司法制度改革」以降の人と制度、市川・大久保・斎藤・渡辺、日本評論社、2020 年	ISBN	①9784772704298 ②9784877985516 ③9784757141698 ④9784004312000 ⑤9784535522633 ⑥9784535520929 ⑦9784535524743
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	法社会学は、解釈学の内側から法を見るのではなく、その外側から法を見る学問であり、実定法に縛られない学問ですから、実定法解釈に飽き足りない学生には興味をそえられる学問ではないかと思います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の説明、授業についての約束の確認、法社会学の概略についての説明	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第2回	対面	刑事事件を解決するプロセス①（捜査）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第3回	対面	刑事事件を解決するプロセス②（刑事裁判）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第4回	対面	刑事事件を解決するプロセス③（刑の執行）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成（2時間程度）	4時間
第5回	対面	民事事件を解決するプロセス①（裁判外の紛争解決手続き）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第6回	対面	民事事件を解決するプロセス②（民事裁判）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成（2時間程度）	4時間
第7回	対面	裁判所・裁判官について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第8回	対面	裁判所の仕組み・裁判官の職務	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第9回	対面	裁判官のキャリア・司法官僚	復習：授業で指示された小レポートの作成（2時間程度） 予習：次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第10回	対面	司法官僚と司法統制について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予	4時間

			め調べておくこと（2 時間程度）	
第 1 1 回	対面	前回の講義内容について映像で補う（「揺れる評決」）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第 1 2 回	対面	最高裁判所の司法哲学	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第 1 3 回	対面	検察庁の仕組みと検察官について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第 1 4 回	対面	リーガル・プロフェッションとしての弁護士とその職務、法律隣接専門職種について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	授業のまとめ	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業全体の内容について改めて確認し、不十分もしくは不確かな個所についてはすること（2 時間程度）	4 時間

科目名	法社会学	開講年度	2025
担当者	竹村 和也	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法専門職による法の運用と日本の法運用の特徴		
授業の目的及び概要	法曹を含む法の専門家＝法専門職にはそれぞれ異なった職務や役割があります。法専門職はいかにしてその職務を担っているのか、法の運用にあたっていかなる影響を与えているのか、さらに日本の紛争解決の仕組みにはどのような特徴があるのか、などについて講義します。 憲法や民法、刑法など、いわゆる実定法学では法の解釈を学ぶことになりますが、実際に解釈学説が選択される場合には、学説の優劣だけでなく、例えば法の担い手のイデオロギーが反映される場合もあるでしょう。本授業によって、学説にとどまらない、実際の紛争解決のあり方をまなぶことになるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	実際の紛争解決について、法専門職が果たす役割や影響を概ね説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で課した小レポートについて授業で講評します。さらに、優秀なレポートについては、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。授業ではパワーポイントを利用し、そのスライドを Learning Portal に毎回配布します。印刷した文献を配布することもあります。	ISBN	なし
参考書	何冊か挙げておきますが、残りは授業で説明します。 ①日本司法の逆説—最高裁事務総局の「裁判しない裁判官」たち、西川伸一、五月書房、2005 年 ②日本の最高裁を解剖する、ディヴィッド・S・ロー、現代人文社、2013 年 ③名もない顔もない司法—日本の裁判は変わるのか、ダニエル・H・フット、NTT 出版、2007 年 ④司法官僚、新藤宗幸、岩波新書、2009 年 ⑤憲法学から見る最高裁判所裁判官：70 年の軌跡、渡辺康彦・木下智史・尾形健、日本評論社、2017 年 ⑥日本の最高裁判所—判決と人・制度の考察、市川・大久保・斎藤・渡辺、日本評論社、2016 年 ⑦現代日本の司法 「司法制度改革」以降の人と制度、市川・大久保・斎藤・渡辺、日本評論社、2020 年	ISBN	①9784772704298 ②9784877985516 ③9784757141698 ④9784004312000 ⑤9784535522633 ⑥9784535520929 ⑦9784535524743
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	法社会学は、解釈学の内側から法を見るのではなく、その外側から法を見る学問であり、実定法に縛られない学問ですから、実定法解釈に飽き足りない学生には興味をそえられる学問ではないかと思います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の説明、授業についての約束の確認、法社会学の概略についての説明	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第2回	対面	刑事事件を解決するプロセス①（捜査）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第3回	対面	刑事事件を解決するプロセス②（刑事裁判）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第4回	対面	刑事事件を解決するプロセス③（刑の執行）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成（2時間程度）	4時間
第5回	対面	民事事件を解決するプロセス①（裁判外の紛争解決手続き）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第6回	対面	民事事件を解決するプロセス②（民事裁判）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成（2時間程度）	4時間
第7回	対面	裁判所・裁判官について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第8回	対面	裁判所の仕組み・裁判官の職務	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第9回	対面	裁判官のキャリア・司法官僚	復習：授業で指示された小レポートの作成（2時間程度） 予習：次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2時間程度）	4時間
第10回	対面	司法官僚と司法統制について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予	4時間

			め調べておくこと（2 時間程度）	
第 1 1 回	対面	前回の講義内容について映像で補う（「揺れる評決」）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第 1 2 回	対面	最高裁判所の司法哲学	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第 1 3 回	対面	検察庁の仕組みと検察官について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第 1 4 回	対面	リーガル・プロフェッションとしての弁護士とその職務、法律隣接専門職種について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	授業のまとめ	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業全体の内容について改めて確認し、不十分もしくは不確かな個所についてはすること（2 時間程度）	4 時間

科目名	憲法 I	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法の基礎		
授業の目的及び概要	憲法学の全体を概観する。 講義形式と双方向型・多方向型授業とを併用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法学の基本的な知識（特に、憲法の代表的な判例・学説の知識）が身についている。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「憲法」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	双方向型・多方向型授業により、受講生の理解を確認する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①憲法（第8版），芦部信喜（高橋和之補訂），岩波書店，2023 年 ②2025 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年 授業時まで新しい版が公刊された場合、最新の版を使用する。 上記①については、本科目受講生全員に対して、テキストに指定する。 上記②については、（オンライン学習ツールである）2025 年度 TKC 法学検定試験学習ツールの ID を保有している場合には、必ずしも準備する必要はない。 本シラバス執筆時点では、2025 年度、法学部 1 年生に対して上記ツールの ID が提供されるかどうか、未定である。	ISBN	①9784000616072 ②9784785731489
参考書	①憲法判例百選 1・2（第7版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2019 年 ②憲法（第3版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ③日本国憲法論（第2版），佐藤幸治，成文堂，2020 年 ④憲法 1・2（第2版），新井誠ほか，日本評論社，2021 年 上記①は、代表的な判例教材なので、手元に用意することを勧める。 より進んだ学修を希望する受講生には、テキストと並行して、上記②から④のうちいずれか 1 つを学修することを勧める。	ISBN	①9784641115453 ， 9784641115460 ②9784641227231 ③9784792306724 ④9784535806887 ， 9784535806894
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	10
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	80
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業時には、『デイレシー六法』（三省堂）・『ポケット六法』（有斐閣）など、適宜の六法を持参すること。 中間試験は、第7回授業時に対面で行うことを予定している。ただし、授業の進行状況等により、変更が生ずる場合がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	憲法総論1 憲法の基本原理（立憲主義・民主主義・国民主権など）	テキスト① 第1章・第3章の予習	4時間
第2回	対面	基本的人権1 基本的人権の原理、表現の自由1	テキスト① 第5章・第6章・第9章の予習	4時間
第3回	対面	基本的人権2 表現の自由2	テキスト① 第9章の予習	4時間
第4回	対面	基本的人権3 信教の自由・政教分離、精神的自由権	テキスト① 第8章の予習	4時間
第5回	対面	基本的人権4 法の下での平等	テキスト① 第7章の予習	4時間
第6回	対面	基本的人権5 包括的基本権（プライバシー権・自己決定権など）	テキスト① 第7章の予習	4時間
第7回	対面	基本的人権6 経済的自由権、社会権 ※中間試験も予定	テキスト① 第10章・第13章の予習 ※中間試験に向けた学修	4時間
第8回	対面	基本的人権7 その他の人権	テキスト① 第11章・第12章の予習	4時間
第9回	対面	憲法総論2 平和主義、憲法の歴史	テキスト① 第2章・第4章の予習	4時間
第10回	対面	基本的人権8、統治機構1 参政権、国会1	テキスト① 第12章・第14章の予習	4時間
第11回	対面	統治機構2 国会2、内閣1	テキスト① 第14章・第15章の予習	4時間
第12回	対面	統治機構3 内閣2、地方自治	テキスト① 第15章・第17章の予習	4時間
第13回	対面	統治機構4 裁判所1	テキスト① 第16章の予習	4時間
第14回	対面	統治機構5 裁判所2、憲法訴訟	テキスト① 第16章・第18章の予習	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	4時間

科目名	憲法 I	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法の基礎		
授業の目的及び概要	憲法学の全体を概観する。 講義形式と双方向型・多方向型授業とを併用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法学の基本的な知識（特に、憲法の代表的な判例・学説の知識）が身についている。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「憲法」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	双方向型・多方向型授業により、受講生の理解を確認する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①憲法（第8版），芦部信喜（高橋和之補訂），岩波書店，2023 年 ②2025 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年 授業時まで新しい版が公刊された場合、最新の版を使用する。 上記①については、本科目受講生全員に対して、テキストに指定する。 上記②については、（オンライン学習ツールである）2025 年度 TKC 法学検定試験学習ツールの ID を保有している場合には、必ずしも準備する必要はない。 本シラバス執筆時点では、2025 年度、法学部 1 年生に対して上記ツールの ID が提供されるかどうか、未定である。	ISBN	①9784000616072 ②9784785731489
参考書	①憲法判例百選 1・2（第7版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2019 年 ②憲法（第3版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ③日本国憲法論（第2版），佐藤幸治，成文堂，2020 年 ④憲法 1・2（第2版），新井誠ほか，日本評論社，2021 年 上記①は、代表的な判例教材なので、手元に用意することを勧める。 より進んだ学修を希望する受講生には、テキストと並行して、上記②から④のうちいずれか 1 つを学修することを勧める。	ISBN	①9784641115453 ， 9784641115460 ②9784641227231 ③9784792306724 ④9784535806887 ， 9784535806894
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	10
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	80
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業時には、『デイレシー六法』（三省堂）・『ポケット六法』（有斐閣）など、適宜の六法を持参すること。 中間試験は、第7回授業時に対面で行うことを予定している。ただし、授業の進行状況等により、変更が生ずる場合がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	憲法総論1 憲法の基本原理（立憲主義・民主主義・国民主権など）	テキスト① 第1章・第3章の予習	4時間
第2回	対面	基本的人権1 基本的人権の原理、表現の自由1	テキスト① 第5章・第6章・第9章の予習	4時間
第3回	対面	基本的人権2 表現の自由2	テキスト① 第9章の予習	4時間
第4回	対面	基本的人権3 信教の自由・政教分離、精神的自由権	テキスト① 第8章の予習	4時間
第5回	対面	基本的人権4 法の下での平等	テキスト① 第7章の予習	4時間
第6回	対面	基本的人権5 包括的基本権（プライバシー権・自己決定権など）	テキスト① 第7章の予習	4時間
第7回	対面	基本的人権6 経済的自由権、社会権 ※中間試験も予定	テキスト① 第10章・第13章の予習 ※中間試験に向けた学修	4時間
第8回	対面	基本的人権7 その他の人権	テキスト① 第11章・第12章の予習	4時間
第9回	対面	憲法総論2 平和主義、憲法の歴史	テキスト① 第2章・第4章の予習	4時間
第10回	対面	基本的人権8、統治機構1 参政権、国会1	テキスト① 第12章・第14章の予習	4時間
第11回	対面	統治機構2 国会2、内閣1	テキスト① 第14章・第15章の予習	4時間
第12回	対面	統治機構3 内閣2、地方自治	テキスト① 第15章・第17章の予習	4時間
第13回	対面	統治機構4 裁判所1	テキスト① 第16章の予習	4時間
第14回	対面	統治機構5 裁判所2、憲法訴訟	テキスト① 第16章・第18章の予習	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	4時間

科目名	憲法 I	開講年度	2025
担当者	渡邊 康行	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法の基礎		
授業の目的及び概要	憲法学の全体を概観する。 講義形式と双方向型・多方向型授業を併用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法学の基本的な知識（特に、憲法の代表的な判例・学説の知識）が身についている。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「憲法」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	双方向型・多方向型授業により、受講生の理解と考察を深める。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員によ る授業科目			
テキスト	①憲法（第8版），芦部信喜（高橋和之補訂），岩波書店，2023 年 ②2025 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年 授業時まで新しい版が公開された場合、最新の版を使用する。 上記①については、本科目受講生全員に対して、テキストに指定する。 上記②は、（オンライン学習ツールである）2024 年度 TKC 法学検定試験学習ツールの ID を保有していない受講生（たとえば法学部の2年生以上など）についてのみ、テキストとして指定する。 法学部1年生については全員、本学から（オンライン学習ツールである）2024 年度 TKC 法学検定試験学習ツールの ID が提供される見込みであるため、必ずしも上記②を準備する必要はない。	ISBN	①9784000616072 ②9784785731045
参考書	①憲法判例百選1・2（第7版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2019 年 ②憲法1・2（第2版），新井誠ほか，日本評論社，2021 年 ③憲法1 基本権（第2版），渡辺康行ほか，日本評論社，2023 年 ④憲法2 総論・統治，渡辺康行ほか，日本評論社，2020 年 上記①は、代表的な判例教材なので、手元に用意することを強く勧める。 より進んだ学修を希望する受講生には、テキストと並行して、上記②から④のうちいずれか1冊を学修することを勧める。	ISBN	①9784641115453 ， 9784641115460 ②9784535806887 ， 9784535806894 ③9784535527119 ④9784535524798
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業時には、『デイレックス六法』（三省堂）・『ポケット六法』（有斐閣）など、適宜の六法を持参すること。 中間試験は、第8回授業時に対面で行うことを予定している。ただし、授業の進行状況等により、変更が生ずる場合がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	導入、憲法総論1 憲法の基本原理（立憲主義・民主主義・国民主権など）	テキスト第1章・第3章の予習	4時間
第2回	対面	憲法総論2 平和主義、憲法の歴史	テキスト第2章・第4章の予習	4時間
第3回	対面	基本的人権1 基本的人権の原理、表現の自由1	テキスト第5章・第6章・第9章の予習	4時間
第4回	対面	基本的人権2 表現の自由2	テキスト第9章の予習	4時間
第5回	対面	基本的人権3 信教の自由・政教分離、精神的自由権	テキスト第8章の予習	4時間
第6回	対面	基本的人権4 法の下での平等	テキスト第7章の予習	4時間
第7回	対面	基本的人権5 包括的基本権（プライバシー権・自己決定権など）	テキスト第7章の予習	4時間
第8回	対面	基本的人権6 経済的自由権、社会権	テキスト第10章・第13章の予習	4時間
第9回	対面	基本的人権7 これまでに取り扱った以外の人権（国務請求権など）	テキスト第11章・第12章の予習	4時間
第10回	対面	基本的人権8、統治機構1 参政権、国会1	テキスト第12章・第14章の予習	4時間
第11回	対面	統治機構2 国会2、内閣1	テキスト第14章・第15章の予習	4時間
第12回	対面	統治機構3 内閣2、地方自治	テキスト第15章・第17章の予習	4時間
第13回	対面	統治機構4 裁判所1	テキスト第16章の予習	4時間
第14回	対面	統治機構5 裁判所2、憲法訴訟	テキスト第16章・第18章の予習	4時間
第15回	オンデマンド	期末試験に向けての総括	これまでの授業内容の復習、期末試験に向けた学修	4時間

科目名	憲法Ⅱ（人権）	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	基本的人権の発展的学修		
授業の目的及び概要	憲法について憲法学のうち基本的人権について、発展的な学説・判例を学修する。基本的人権のうち、学説ないし判例の蓄積の多いものを重点的に取り上げる。講義形式と双方向・多方向型授業を併用する。受講生の学修状況等によっては、各回の授業計画の順序など、授業計画に変更が生ずる場合がある。		
履修条件・留意点	本科目は、「憲法Ⅰ＜憲法概論＞」の内容全体を十分に修得したうえで、憲法の発展的な学修を希望する学生向けのものである。本科目は、「憲法Ⅰ＜憲法概論＞」の続かないし延長という性質の科目ではない。 本科目では、双方向・多方向型のやりとりにて、教員がしばしば受講生を指名して問いを発する。「憲法Ⅰ＜憲法概論＞」の内容全体を十分に修得するには至っておらず、「憲法Ⅰ＜憲法概論＞」で取り扱った内容について教員から質問された際に、うまく答えられない（ないしその不安がある）学生には、本科目の受講は勧められない。 そのような学生には、憲法の基本知識の修得を主目的とする他の科目（共通教育科目を含む）を、本科目より先に受講することを強く勧める。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法学のうち基本的人権の内容について、発展的な学説・判例を含め、十分に理解している。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型授業により、受講生の理解と考察を深める。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。 参考書②から⑤のうちいずれか 1 つを教科書として用意し、予習・復習に活用すること。	ISBN	指定しない。
参考書	①憲法判例百選 1・2（第 7 版）、長谷部恭男ほか編、有斐閣、2019 年 ②憲法（第 3 版）、渋谷秀樹、有斐閣、2017 年 ③憲法 2（第 2 版）、新井誠ほか、日本評論社、2021 年 ④憲法 1 基本権（第 2 版）、渡辺康行ほか、日本評論社、2023 年 ⑤日本国憲法論（第 2 版）、佐藤幸治、成文堂、2020 年	ISBN	①9784641115453 , 9784641115460 ②9784641227231 ③9784535806894 ④9784535527119 ⑤9784792306724
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	

	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	受講生の学修状況等に応じて、授業期間中に、中間試験・中間レポートを実施する場合がある。これらを実施した場合、成績評価に反映する。詳細は授業中に説明する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	表現の自由1	参考書②から⑤のうちいずれかにて、表現の自由の箇所（全体）を予習する。	4時間
第2回	対面	表現の自由2	参考書②から⑤のうちいずれかにて、表現の自由の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。	4時間
第3回	対面	表現の自由3	参考書②から⑤のうちいずれかにて、表現の自由の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。	4時間
第4回	対面	表現の自由4	参考書②から⑤のうちいずれかにて、表現の自由の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。	4時間
第5回	対面	法の下の平等1	参考書②から⑤のうちいずれかにて、法の下の平等の箇所（全体）を予習する。	4時間
第6回	対面	法の下の平等2	参考書②から⑤のうちいずれかにて、法の下の平等の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。	4時間
第7回	対面	法の下の平等3	参考書②から⑤のうちいずれかにて、法の下の平等の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。	4時間
第8回	対面	信教の自由・政教分離	参考書②から⑤のうちいずれかにて、信教の自由・政教分離の箇所を予習する。	4時間
第9回	対面	経済的自由権	参考書②から⑤のうちいずれかにて、経済的自由権の箇所を予習する。	4時間
第10回	対面	プライバシー権	参考書②から⑤のうちいずれかにて、幸福追求権・プライバシー権の箇所を予習する。	4時間
第11回	対面	自己決定権・幸福追求権	参考書②から⑤のうちいずれかにて、幸福追求権・自己決定権の箇所を予習する。	4時間
第12回	対面	人権享有主体性	参考書②から⑤のうちいずれかにて、人権享有主体性の箇所を予習する。	4時間
第13回	対面	人権の私人間効力	参考書②から⑤のうちいずれかにて、人権の私人間効力の箇所を予習する。	4時間
第14回	対面	その他の人権	これまで予習に用いてきた参考書における、残りの箇所を予習する。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	4時間

科目名	憲法Ⅱ（人権）	開講年度	2025
担当者	森 征樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	人権問題について考える		
授業の目的及び概要	本講義では憲法学の人権分野につき、現代の様々な人権問題に触れながら、「人権の主張と公益の主張をどのように調整するのか」、また「それを誰がどのような手続きで判断するのか」について学修する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 現代社会で生じている様々な人権問題について解決策を見出せるようになること。 2. 自分自身の問題として人権問題を受け止め、自分の考えを持てるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、こちらが提示する質問に答える形のコメントカードを提出してもらう。コメントカードでは任意の質問も毎回受けつける。コメントカードに書いてもらったことについては、翌週の講義時に取り上げ、質問への回答や補足説明を行う。 レジュメや資料は、Web（Learning Portal 等）でも配布する予定である。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	穴戸常寿編『18 歳から考える人権〔第2版〕』法律文化社、2020 年。	ISBN	978-4-589-04117-3
参考書	長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第7版〕』有斐閣、2019 年。 その他、テキストの巻末に記載されている「参考文献案内」を参照のこと。	ISBN	978-4-641-11545-3 978-4-641-11546-0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）		
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	新聞記事やニュースを通じて、日々生じている人権問題・裁判についてアンテナをはり、関心を持つようにしてほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス／授業の進め方など	テキスト「プロローグ」（2～7頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点に	4 時間

			ついて復習しておくこと。	
第2回	対面	人権とは何か／人権を考えるための基礎知識	テキスト「第1章」（8～13頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	人権享有主体／外国人の人権	テキスト「第2章」（14～19頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	幸福追求権／髪型の自由	テキスト「第3章」（20～25頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	法の下での平等／平等侵害の審査方法	テキスト「第4章」（26～31頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	思想・良心の自由	テキスト「第5章」（32～37頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	信教の自由／政教分離	テキスト「第6章」（38～43頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	任意レポート課題の説明 表現の自由／ヘイトスピーチ	テキスト「第7章」（44～49頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	職業選択の自由／規制目的二分論	テキスト「第8章」（50～55頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	学問の自由／大学の自治	テキスト「第9章」（56～61頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	生存権	テキスト「第10章」（62～67頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	教育を受ける権利	テキスト「第11章」（68～73頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	勤労の権利／労働基本権	テキスト「第12章」（74～79頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	財産権	テキスト「第13章」（80～85頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	まとめ	講義で扱ったテキストの箇所を、今一度読み返し、理解できていないところを事前に洗い出しておくこと。	4時間

科目名	憲法Ⅱ（人権）	開講年度	2025
担当者	上本 翔大	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法上の権利（人権論）		
授業の目的及び概要	日本国憲法は、国の最高法規（98 条 1 項）であって、国家権力を拘束するためのルールブックです。憲法Ⅱ（人権）では、憲法学のうち、「憲法上の権利（人権論）」について扱います。憲法上の権利とは何か、日本国憲法はどのような権利を保障しているのか、異なる人権が衝突した場合にどのように調整するのかといった論点について、学説や判例に言及しながら、学修することがこの講義の目的です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①憲法上の権利（人権論）についての基本的な考え方や基礎的な知識を習得している。 ②それらを基にして、具体的な紛争の解決を構想できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時、電子メールで質問を受け付けます。また、授業終了後に教室で質問を受け付けます。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に解答を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。担当者作成のレジюмеを用いて授業を行います。	ISBN	なし。
参考書	※参考書は購入必須ではありません。講義内容について分からないことがあれば、適宜参照するようにしてください。 ※※シラバス作成後、版が改まっている可能性もあります。その場合には、最新のものを参考書としてください。 ①憲法Ⅱ・人権（第2版）、新井誠ほか、日本評論社、2021 年 ②憲法Ⅰ・基本権（第2版）、渡辺康行ほか、日本評論社、2023 年 ③憲法Ⅱ・人権（第3版）、毛利透ほか、有斐閣、2022 年 ④憲法判例百選Ⅰ（第7版）、長谷部恭男ほか編、有斐閣、2019 年 ⑤判例プラクティス憲法（第3版）、穴戸常寿＝曾我部真裕編著、信山社、2022 年 ⑥精読憲法判例・人権編、木下昌彦ほか編、弘文堂、2018 年	ISBN	①9784535806894 ②9784535527119 ③9784641179516 ④9784641115453 ⑤9784797226744 ⑥9784335357251
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	80
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	予習では事前に配布するレジュメに目を通し、復習では前掲の参考書を活用しながら講義の内容を振り返ってください。	4 時間
第2回	対面	司法審査制と「憲法訴訟」の基礎	同上。	4 時間
第3回	対面	思想・良心の自由	同上。	4 時間
第4回	対面	信教の自由・政教分離	同上。	4 時間
第5回	対面	表現の自由・集会の自由①	同上。	4 時間
第6回	対面	表現の自由・集会の自由②	同上。	4 時間
第7回	対面	職業の自由	同上。	4 時間
第8回	対面	法の下での平等	同上。	4 時間
第9回	対面	生存権	同上。	4 時間
第10回	対面	参政権	同上。	4 時間
第11回	対面	適正手続	同上。	4 時間
第12回	対面	教育を受ける権利	同上。	4 時間
第13回	対面	包括的基本権（幸福追求権）	同上。	4 時間
第14回	対面	憲法上の権利の享有主体	同上。	4 時間
第15回	オンデマンド	期末試験に向けての総括	期末試験に向けて講義内容を復習してください。	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（人権）	開講年度	2025
担当者	上本 翔大	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法上の権利（人権論）		
授業の目的及び概要	日本国憲法は、国の最高法規（98 条 1 項）であって、国家権力を拘束するためのルールブックです。憲法Ⅱ（人権）では、憲法学のうち、「憲法上の権利（人権論）」について扱います。憲法上の権利とは何か、日本国憲法はどのような権利を保障しているのか、異なる人権が衝突した場合にどのように調整するのかといった論点について、学説や判例に言及しながら、学修することがこの講義の目的です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①憲法上の権利（人権論）についての基本的な考え方や基礎的な知識を習得している。 ②それらを基にして、具体的な紛争の解決を構想できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時、電子メールで質問を受け付けます。また、授業終了後に教室で質問を受け付けます。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に解答を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。担当者作成のレジюмеを用いて授業を行います。	ISBN	なし。
参考書	※参考書は購入必須ではありません。講義内容について分からないことがあれば、適宜参照するようにしてください。 ※※シラバス作成後、版が改まっている可能性もあります。その場合には、最新のものを参考書としてください。 ①憲法Ⅱ・人権（第2版）、新井誠ほか、日本評論社、2021 年 ②憲法Ⅰ・基本権（第2版）、渡辺康行ほか、日本評論社、2023 年 ③憲法Ⅱ・人権（第3版）、毛利透ほか、有斐閣、2022 年 ④憲法判例百選Ⅰ（第7版）、長谷部恭男ほか編、有斐閣、2019 年 ⑤判例プラクティス憲法（第3版）、穴戸常寿＝曾我部真裕編著、信山社、2022 年 ⑥精読憲法判例・人権編、木下昌彦ほか編、弘文堂、2018 年	ISBN	①9784535806894 ②9784535527119 ③9784641179516 ④9784641115453 ⑤9784797226744 ⑥9784335357251
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	80
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	予習では事前に配布するレジュメに目を通し、復習では前掲の参考書を活用しながら講義の内容を振り返ってください。	4 時間
第2回	対面	司法審査制と「憲法訴訟」の基礎	同上。	4 時間
第3回	対面	思想・良心の自由	同上。	4 時間
第4回	対面	信教の自由・政教分離	同上。	4 時間
第5回	対面	表現の自由・集会の自由①	同上。	4 時間
第6回	対面	表現の自由・集会の自由②	同上。	4 時間
第7回	対面	職業の自由	同上。	4 時間
第8回	対面	法の下での平等	同上。	4 時間
第9回	対面	生存権	同上。	4 時間
第10回	対面	参政権	同上。	4 時間
第11回	対面	適正手続	同上。	4 時間
第12回	対面	教育を受ける権利	同上。	4 時間
第13回	対面	包括的基本権（幸福追求権）	同上。	4 時間
第14回	対面	憲法上の権利の享有主体	同上。	4 時間
第15回	オンデマンド	期末試験に向けての総括	期末試験に向けて講義内容を復習してください。	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（統治）	開講年度	2025
担当者	渡邊 康行	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	統治機構に関する基本問題と現代的課題		
授業の目的及び概要	憲法総論および日本国憲法が規定している統治制度について、現在いかなる問題があるかを判例・学説などを素材として検討する。		
履修条件・留意点	憲法Ⅰの単位を取得済であること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本国憲法が規定している統治制度に関して、現在いかなる問題があり、いかに解決すべきかを考える素養を身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験、期末試験については、必要な解説と成績分布などを公表したい。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①憲法〔第8版〕, 芦部信喜（高橋和之補訂）, 岩波書店, 2024 年	ISBN	①9784000616072
参考書	①憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕, 長谷部恭男ほか編, 有斐閣, 2019 年 ②憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕, 長谷部恭男ほか編, 有斐閣, 2019 年 ③憲法Ⅱ 統治, 渡辺・穴戸・松本・工藤, 日本評論社, 2020 年（第2版が2025年3月に公刊予定）	ISBN	①9784641115453 ②9784641115460 ③9784535524798
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	憲法Ⅰを履修していることを前提とする。憲法Ⅱ（人権）についても履修済みか、少なくとも並行して履修していることを求める。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要の説明と、日本国憲法の制定過程、基本原理について解説する。	芦部テキスト第2章、第3章Ⅰを事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第2回	対面	国民主権と天皇制	芦部テキスト第3章Ⅱ、Ⅲを事前に読んでおくこと。	4 時間

			授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	
第3回	対面	平和主義	芦部テキスト第4章を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第4回	対面	代表民主制と選挙制度（1）	芦部テキスト第14章三を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第5回	対面	代表民主制と選挙制度（2）	芦部テキスト第14章三を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第6回	対面	国会（1）	芦部テキスト第14章を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第7回	対面	国会（2）	芦部テキスト第14章を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第8回	対面	内閣	芦部テキスト第15章を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第9回	対面	司法権（1）	芦部テキスト第16章を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第10回	対面	司法権（2）	芦部テキスト第16章を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第11回	対面	司法権（3）	芦部テキスト第16章を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第12回	対面	違憲審査制（1）	芦部テキスト第18章二を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第13回	対面	違憲審査制（2）	芦部テキスト第18章二を事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第14回	対面	違憲審査制（3）	芦部テキスト第18章にを事前に読んでおくこと。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4時間
第15回	オンデマンド	全体のまとめ	これまでの授業内容を復習する。	4時間

科目名	憲法Ⅱ（統治）	開講年度	2025
担当者	森 征樹	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日本国憲法に規定された統治機構の問題について考える。		
授業の目的及び概要	本講義では憲法学の統治機構分野につき、現代の様々な事象に触れながら、日本国憲法に規定された統治の基本的な仕組みについて学修するとともに、その問題点について考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本国憲法に規定された統治機構の仕組みについて理解すること。 2. 現代の統治機構の問題点を探り、解決策を見いだせるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回でコメントシートへのリプライを行う。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	新井誠、曾我部真裕、佐々木くみ、横大道聡『憲法Ⅰ総論・統治〔第2版〕』日本評論社、2021年。	ISBN	9784535806887
参考書	長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第7版〕』有斐閣、2019年。	ISBN	9784641115453 9784641115460
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国会や内閣、裁判所でいま何が行われているか、日頃から新聞記事・ニュースに目を通して関心を持つようにすること。 すでに受講した他の憲法科目（憲法概論、憲法学Ⅰなど）のおさらいをしておくこと。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス／授業の進め方など	テキスト「第1章 憲法の基礎理論」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第2回	対面	日本憲法史／日本国憲法の制定過程	テキスト「第2章 日本憲法史」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	平和主義／憲法9条と自衛隊	テキスト「第3章 平和主義」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について	4 時間

			復習しておくこと。	
第4回	対面	権力分立・法の支配／権力分立制の現代の変容	テキスト「第4章 権力分立・法の支配」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	国民主権・象徴天皇制／主権者は誰か	テキスト「第5章 国民主権・象徴天皇制」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	選挙制度と政党	テキスト「第6章 選挙制度と政党」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	国会の地位・組織／全国民の代表とは	テキスト「第7章 国会の地位・組織」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	国会の活動・権限／不逮捕特権・免責特権は必要か	テキスト「第8章 国会の活動・権限」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	内閣／行政権とは何か	テキスト「第9章 内閣」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	議院内閣制／内閣の責任・衆議院の解散	テキスト「第10章 議院内閣制」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	裁判所／法律上の争訟・民衆訴訟と機関訴訟	テキスト「第11章 裁判所」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	司法権の観念と限界／部分社会の法理・統治行為	テキスト「第12章 司法権の観念と限界」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	違憲審査制・憲法訴訟／付随的審査・抽象的審査	テキスト「第13章 違憲審査制・憲法訴訟」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	地方自治	テキスト「第14章 地方自治」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	憲法保障と憲法改正／憲法改正の限界	テキスト「第15章 憲法保障と憲法改正」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所理解できなかった点について復習しておくこと。	4時間

科目名	憲法Ⅱ（統治）	開講年度	2025
担当者	上本 翔大	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	統治機構		
授業の目的及び概要	日本国憲法は、国の最高法規（98 条 1 項）であって、国家権力を拘束するためのルールブックです。憲法Ⅱ（統治）では、憲法学のうち、「統治機構」について扱います。日本国憲法はどのような統治体制を予定しており、各国家機関にどのような権限を付与しているのかといった論点について、学説や判例を題材としながら、学修することがこの講義の目的です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①統治機構についての基本的な考え方や基礎的な知識を習得している。 ②それらを基にして、具体的な事例の解決を構想できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時、電子メールで質問を受け付けます。また、授業終了後に教室で質問を受け付けます。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に解答を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。担当者作成のレジюмеを用いて授業を行います。	ISBN	なし。
参考書	※参考書は購入必須ではありません。講義内容について分からないことがあれば、適宜参照するようにしてください。 ※※シラバス作成後、版が改まっている可能性もあります。その場合には、最新のものを参考書としてください。 ①憲法Ⅰ（総論・統治）〔第2版〕、新井誠ほか、日本評論社、2021 年 ②憲法Ⅱ（総論・統治）、渡辺康行ほか、日本評論社、2020 年 ③憲法Ⅰ（総論・統治）〔第3版〕、毛利透ほか、有斐閣、2022 年 ④憲法判例百選Ⅱ（第7版）、長谷部恭男ほか編、有斐閣、2019 年 ⑤判例プラクティス憲法（第3版）、宍戸常寿＝曾我部真裕編著、信山社、2022 年 ⑥精読憲法判例・統治編、木下昌彦ほか編、弘文堂、2021 年	ISBN	①9784535806887 ②9784535524798 ③9784641179509 ④9784641115460 ⑤9784797226744 ⑥9784335358074
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	80
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	予習では事前に配布するレジュメに目を通し、復習では前掲の参考書を活用しながら講義の内容を振り返ってください。	4 時間
第2回	対面	国家と憲法	同上。	4 時間
第3回	対面	国民主権・象徴天皇制	同上。	4 時間
第4回	対面	国会（立法権）①	同上。	4 時間
第5回	対面	国会（立法権）②	同上。	4 時間
第6回	対面	代表民主制・選挙制度	同上。	4 時間
第7回	対面	内閣（行政権）	同上。	4 時間
第8回	対面	内閣（行政権）②	同上。	4 時間
第9回	対面	裁判所（司法権）	同上。	4 時間
第10回	対面	裁判所（司法権）②	同上。	4 時間
第11回	対面	財政	同上。	4 時間
第12回	対面	地方自治	同上。	4 時間
第13回	対面	憲法改正	同上。	4 時間
第14回	対面	平和主義	同上。	4 時間
第15回	オンデマンド	期末試験に向けての総括	期末試験に向けて講義内容を復習してください。	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（統治）	開講年度	2025
担当者	上本 翔大	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	統治機構		
授業の目的及び概要	日本国憲法は、国の最高法規（98 条 1 項）であって、国家権力を拘束するためのルールブックです。憲法Ⅱ（統治）では、憲法学のうち、「統治機構」について扱います。日本国憲法はどのような統治体制を予定しており、各国家機関にどのような権限を付与しているのかといった論点について、学説や判例を題材としながら、学修することがこの講義の目的です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①統治機構についての基本的な考え方や基礎的な知識を習得している。 ②それらを基にして、具体的な事例の解決を構想できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時、電子メールで質問を受け付けます。また、授業終了後に教室で質問を受け付けます。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に解答を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。担当者作成のレジюмеを用いて授業を行います。	ISBN	なし。
参考書	※参考書は購入必須ではありません。講義内容について分からないことがあれば、適宜参照するようにしてください。 ※※シラバス作成後、版が改まっている可能性もあります。その場合には、最新のものを参考書としてください。 ①憲法Ⅰ（総論・統治）〔第2版〕、新井誠ほか、日本評論社、2021 年 ②憲法Ⅱ（総論・統治）、渡辺康行ほか、日本評論社、2020 年 ③憲法Ⅰ（総論・統治）〔第3版〕、毛利透ほか、有斐閣、2022 年 ④憲法判例百選Ⅱ（第7版）、長谷部恭男ほか編、有斐閣、2019 年 ⑤判例プラクティス憲法（第3版）、宍戸常寿＝曾我部真裕編著、信山社、2022 年 ⑥精読憲法判例・統治編、木下昌彦ほか編、弘文堂、2021 年	ISBN	①9784535806887 ②9784535524798 ③9784641179509 ④9784641115460 ⑤9784797226744 ⑥9784335358074
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	80
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	予習では事前に配布するレジュメに目を通し、復習では前掲の参考書を活用しながら講義の内容を振り返ってください。	4 時間
第2回	対面	国家と憲法	同上。	4 時間
第3回	対面	国民主権・象徴天皇制	同上。	4 時間
第4回	対面	国会（立法権）①	同上。	4 時間
第5回	対面	国会（立法権）②	同上。	4 時間
第6回	対面	代表民主制・選挙制度	同上。	4 時間
第7回	対面	内閣（行政権）	同上。	4 時間
第8回	対面	内閣（行政権）②	同上。	4 時間
第9回	対面	裁判所（司法権）	同上。	4 時間
第10回	対面	裁判所（司法権）②	同上。	4 時間
第11回	対面	財政	同上。	4 時間
第12回	対面	地方自治	同上。	4 時間
第13回	対面	憲法改正	同上。	4 時間
第14回	対面	平和主義	同上。	4 時間
第15回	オンデマンド	期末試験に向けての総括	期末試験に向けて講義内容を復習してください。	4 時間

科目名	行政法総論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	吉川 貴代	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政法の基本原理と行政の仕組み・活動		
授業の目的及び概要	現代社会において行政の役割は増大し続けており、身の回りには様々な、そして膨大な数の行政法規が存在している。公務員などの行政法の知識を有することを必要として現実実践する立場の者だけでなく、市民であれ民間企業であれ、行政とかかわりながら社会の中で活動している。いずれの立場からも、行政法の基本的な考え方を理解し、行政がどのような行為形式を用いて活動しているのかを知ることは有益である。この講義では、行政の組織や行政がどのような活動をしているのかについて、具体例を参照しながら、その法的統制に留意しつつ学ぶ。		
履修条件・留意点	憲法関連科目を履修済が履修していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①行政法の基本的な考え方である「法律による行政の原理」について理解し、説明することができる。 ②行政法の基本原則、行政行為、行政基準について理解し、具体例をあげながら説明することができる。 ③行政組織についての概要を理解し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業冒頭で紹介し、質問への回答等補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。資料をラーニングポータル上に掲載する。	ISBN	なし
参考書	①『入門行政法』， 正木宏長・板垣勝彦・横田明美・海道俊明， 有斐閣， 2023 年 ②『現代行政法入門（第 5 版）』， 曾和俊文・山田洋・亘理格， 有斐閣， 2023 年 ③『行政法入門（第 2 版）』大橋洋一， 有斐閣， 2021 年	ISBN	① 978-4-641-22856-6 ② 978-4-641-22844-2 ③978-4-641-22820-7
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	行政法は、国や地方公共団体の活動が法律に則って行われているかチェックする法律の分野とされている。他の法律科目と違って行政法という法典はないが、行政手続法などの通則法と、私たちの身の回りに様々な行政活動や行政サービスが適えあ正に行われるための個別法がいろいろとある。行政法総論では抽象的な説明が多く出てくるが、日常生活の場面と個別法を適宜用いながら、行政法の基本を学習する。配布資料を読んで予習復習することを習慣づけ、行政		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	「ガイダンスと行政法への招待」 行政法は国や地方公共団体の活動（行政活動）が法律に則って行われているかをチェックする法律の分野と言われている。生まれてから亡くなるまでのライフサイクルに沿って様々な行政活動が密接に関係している事例から、行政法が身近なものだということを学習する。	【予習】身の回りの行政の活動について、どのようなものがあるかを簡単でよいので調べておくこと。（2時間） 【復習】初回講義の内容を踏まえ、行政法がどのような法であるかが理解できたかどうかを配布資料を参照しつつ、確認すること。（2時間）	4時間
第2回	対面	「行政法の存在理由」 行政法とは、行政の存在理由、行政を法的にコントロールする理由、成文法と不文法について学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第3回	対面	「行政の概念と行政活動のあり方」 行政の概念、行政活動（規制行政、給付行政、調達行政）、行政主体について学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第4回	対面	「法律による行政の原理」 法律の法規創造力、法律の優位、法律の留保について学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第5回	対面	「行政法の基本原則(1)」 比例原則、平等原則、権利濫用禁止の原則、行政法における信義則について学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第6回	対面	「行政法の基本原則(2)」 (1)の具体例として、生活保護制度を用いて、行政法の基本原則を学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第7回	対面	「行政組織の基礎(1)」 行政組織、国の行政の仕組み、地方の行政の仕組みを学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。また、自分が住んでいる都道府県・市町村いずれかのHPを参照して、どのような組織になっているのかを具体的にしておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第8回	対面	「行政組織の基礎(2)」 作用法的期間概念（行政主体と行政庁、様々な行政庁、行政庁以外の機関等）、事務配分的機関概念（府省へと配分された所掌事務等）を学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第9回	対面	「行政行為(1)」 行政手続法の意義、行政行為とは何か、行政行為と処分について学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第10回	対面	「行政行為(2)」 許可と認可、行政行為の取消について学習	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間）	4時間

		する。	【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。(2時間)	
第11回	対面	「行政基準(1)」 法律に基づく行政基準にはどのようなものがあり、どうやって定められているのかを学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。(2時間) 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。(2時間)	4時間
第12回	対面	「行政基準(2)」 (1)の事例として、市区町村における保育所入所を用いて、行政基準の実際の運用を学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。(2時間) 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。(2時間)	4時間
第13回	対面	「行政計画(1)」 行政計画とは何か、種類、法的統制などを学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。(2時間) 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。(2時間)	4時間
第14回	対面	「行政計画(2)」 (1)の事例として、都市計画をもとに実際の行政計画を学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。(2時間) 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。(2時間)	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信する。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4時間

科目名	行政法総論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	吉川 貴代	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政法の基本原理と行政の仕組み・活動		
授業の目的及び概要	現代社会において行政の役割は増大し続けており、身の回りには様々な、そして膨大な数の行政法規が存在している。公務員などの行政法の知識を有することを必要として現実に実践する立場の者だけでなく、市民であれ民間企業であれ、行政とかかわりながら社会の中で活動している。いずれの立場からも、行政法の基本的な考え方を理解し、行政がどのような行為形式を用いて活動しているのかを知ることは有益である。この講義では、行政の組織や行政がどのような活動をしているのかについて、具体例を参照しながら、その法的統制に留意しつつ学ぶ。		
履修条件・留意点	憲法関連科目を履修済か履修していることが望ましい。 行政法総論Ⅰを履修済であること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①行政契約を理解して説明することができる。 ②行政指導を理解して説明することができる。 ③行政における情報公開と個人情報の取り扱いを理解し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業冒頭で紹介し、質問への回答等補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。資料をラーニングポータル上に掲載する。	ISBN	なし
参考書	①『入門行政法』 正木宏長・板垣勝彦・横田明美・海道俊明, 有斐閣, 2023 年 ②『現代行政法入門（第 5 版）』, 曾和俊文・山田洋・亘理格, 有斐閣, 2023 年 ③『行政法入門（第 2 版）』大橋洋一, 有斐閣, 2021 年	ISBN	① 978-4-641-22856-6 ② 978-4-641-22844-2 ③978-4-641-22820-7
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	行政法は憲法の具体化法といわれる。憲法についてあらかじめ学んでいることが、行政法がどのような法であるかの理解の助けとなるため、憲法について復習しておいてほしい。また、日常生活の中で気をつけて周囲を見ていると、行政法の具体はそこかしこに存在する。日ごろからアンテナを張り巡らして日常生活の中の行政法を発見できるよう努めてほしい。行政法総論では抽象的な説明が多く出てくるため、配布資料を丹念に読んで予習復習することを習慣づけ		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	「ガイダンスと行政法への招待」 行政法は国や地方公共団体の活動（行政活動）が法律に則って行われているかをチェックする法律の分野と言われている。生まれてから亡くなるまでのライフサイクルに沿って様々な行政活動が密接に関係している事例から、行政法が身近なものだということを学習する。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第2回	対面	「行政契約(1)」 行政契約とは何か、種類、法的統制などを学習します。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第3回	対面	「行政契約(2)」 (1)のうち、業務停止命令と給付行政について、事例を用いて、行政の実務ではどのように運用されているかを学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第4回	対面	「行政指導(1)」 行政指導の意義、利点と問題点、行政指導の種類について学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第5回	対面	「行政指導(2)」 行政指導の法的統制を学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第6回	対面	「行政指導(3)」 行政指導への法的救済を学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第7回	対面	「行政上の義務履行強制」 行政的執行の種類、行政代執行法、強制徴収について学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第8回	対面	「行政制裁」 制裁の意義、行政罰、制裁手段、即時強制について学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第9回	対面	「行政調査」 行政調査の意義と種類、行政調査と法治主義、行政調査の手続きについて学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。（2時間）	4時間
第10回	対面	「行政上の義務の実効性確保」 感染症法等を事例に、人々に義務の履行を確保する方策について学習します。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。（2時間） 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分な	4時間

			りに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。(2 時間)	
第 1 1 回	対面	「情報公開と個人情報」 情報提供と情報開示請求、行政機関情報公開法、個人情報保護法について学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。(2 時間) 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。(2 時間)	4 時間
第 1 2 回	対面	「行政過程における私人、公法と私法」	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。(2 時間) 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。(2 時間)	4 時間
第 1 3 回	対面	「事実行為」 災害対策を事例に、法的効果をもたない事実行為には重要なものが含まれていることを学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。(2 時間) 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。(2 時間)	4 時間
第 1 4 回	対面	「新しい行政法原則」 住民参加の重要性、透明性原則、説明責任原則などについて学ぶ。	【予習】あらかじめ掲載する配布資料を一読し予習しておくこと。(2 時間) 【復習】講義の内容を理解できたかどうかを自分なりに確認しながら、予習で示した配布資料読み直すこと。(2 時間)	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	「定期試験に向けて」 これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信する。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4 時間

科目名	行政救済法Ⅰ	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政救済手続の流れと仕組みを学ぶ。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、行政救済手続の全体の流れと仕組みを学び、その基本構造について理解することにある。 主として、行政救済手続の流れに沿って、行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の基本的な制度や概念等の意味内容について説明する講義を行う。 行政救済手続の初歩を学びたい皆さんを受講対象とします。		
履修条件・留意点	憲法Ⅰ、行政法総論Ⅰを履修済みであることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の基本構造を正しく理解し、条文に則して説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 毎回実施する予定の小テスト及び定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータルに掲載するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	有斐閣ストウディア 行政法（第3版）、野呂充ほか、有斐閣、2024 年	ISBN	978-4-641-151109-3
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	行政救済手続を学ぶにあたり、行政法総論を履修し、その講義で学んだ行政行為やその他の行政の行為形式について復習しておくことが望ましい。 行政訴訟の実務経験談を織り交ぜながら、行政救済手続の概念等を出来る限り、正確に理解できるようかみ砕いて解説していきます。公務員への就職や企業法務に携わることを希望する受講生の皆さんにも役立つよう、近時の裁判例についても触れる予定です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	オンデマンド	ガイダンス 行政救済法とは	【予習】ランニングポータルに事前に掲示した資料を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を配布資料等を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	2 時間
第2回	オンデマンド	行政訴訟（1） 1 行政訴訟の態様 2 取消訴訟の訴訟要件 処分性 原告適格	【予習】テキスト（174頁から194頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	4 時間
第3回	オンデマンド	行政訴訟（2） 2 取消訴訟の訴訟要件 訴えの利益 審査請求前置、出訴期間、被告適格、管轄、審理と判決	【予習】テキスト（195頁から205頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	4 時間
第4回	オンデマンド	行政訴訟（3） 3 取消訴訟以外の抗告訴訟	【予習】テキスト（206頁から217頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	行政訴訟（4） 4 抗告訴訟以外の行政訴訟	【予習】テキスト（218頁から223頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	4 時間
第6回	オンデマンド	行政訴訟（5） 5 仮の救済 判決が確定するまでの間における権利利益の保護	【予習】テキスト（224頁から229頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	5 時間
第7回	オンデマンド	行政上の不服申立て（1） 1 不服申立ての概要 2 審査請求の適法要件	【予習】テキスト（230頁から236頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	4 時間
第8回	オンデマンド	行政上の不服申立て（2） 3 審査請求の手續 4 審査請求の裁決	【予習】テキスト（237頁から243頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	5 時間
第9回	オンデマンド	国家賠償（1） 1 国家賠償法の存在理由と守備範囲 2 国家賠償法1条による責任（前半）	【予習】テキスト（244頁から251頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	4 時間
第10回	オンデマンド	国家賠償（2） 2 国家賠償法1条による責任（後半） 3 国家賠償法2条による責任	【予習】テキスト（252頁から269頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。	4 時間

			【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	
第11回	オンデマンド	損失補償（１） １ 国家賠償との違いと共通性 ２ 補償規定がない法律に基づく財産権侵害に対する救済方法 ３ 損失補償の要否の基準	【予習】テキスト（２７０頁から２７５頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	４時間
第12回	オンデマンド	損失補償（２） ４ 損失補償の内容 ５ 国家補償の谷間	【予習】テキスト（２７６頁から２８０頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	４時間
第13回	オンデマンド	行政訴訟の復習	【予習】第１回から第６回までの範囲についてテキストを読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	４時間
第14回	オンデマンド	行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の各復習	【予習】第７回から第１２回までの範囲についてテキストを読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。	４時間
第15回	オンデマンド	第１回から第１４回までの講義内容のまとめ・総復習	【予習】テキストや第１回から第１４回までの講義資料を読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンド講義を視聴した上で、その中で復習のポイントとして示唆された内容を中心に、再度確認し、定期試験に向けて、理解に努める。	４時間

科目名	行政救済法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政救済手続に関する基礎知識を習得した上で、具体的な事例問題を解決する応用力（思考力）を養う。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、行政救済手続の基本構造について理解した上で、主要な裁判例を正しく理解し、実践的な事例問題を分析し、論証、答案作成に関する応用力（思考力）を養うことにある。 主として、行政救済手続の流れに沿って、行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の基本的な制度や概念等の意味内容を確認した上で、主要な裁判例に即した事例問題について説明する講義を行う。 行政救済法Ⅰで教示した内容は理解済であることを前提として、深く学びたい皆さんを受講対象とします。		
履修条件・留意点	憲法Ⅰ、行政法総論Ⅰ、行政救済法Ⅰを履修済みであることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の基本構造を正しく理解し、条文に則して、具体例を挙げながら説明できる。 主要な裁判例について正確に理解して、事例を挙げながら説明できる。 裁判例に即した事例問題を分析し、論証できる能力を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 適宜実施する予定の小テストや定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータルに掲載するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	有斐閣ストゥディア 行政法（第3版）、野呂充ほか、有斐閣、2024 年	ISBN	978-4-641-151109-3
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	行政法総論、行政救済法Ⅰを履修済であり、その内容を理解していることを前提とするので、これらの講義で学んだ内容について復習しておくことが望ましい。 行政訴訟の実務経験談を織り交ぜながら、行政救済手続に関する裁判例やこれに即した事例問題等を出来る限り、正確に理解し、自ら分析ができるよう、かみ砕いて解説していきます。 公務員への就職や企業法務に携わることを希望する受講生の皆さんにも役立つよう、近時の裁		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 行政救済法とは	【予習】ランニングポータルに事前に掲示した資料を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	2時間
第2回	対面	行政訴訟（1） 1 行政訴訟の態様 2 取消訴訟の訴訟要件 処分性 原告適格	【予習】テキスト（174頁から194頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第3回	対面	行政訴訟（2） 2 取消訴訟の訴訟要件 訴えの利益 審査請求前置、出訴期間、被告適格、管轄、審理と判決	【予習】テキスト（195頁から205頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第4回	対面	行政訴訟（3） 3 取消訴訟以外の抗告訴訟	【予習】テキスト（206頁から217頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第5回	対面	行政訴訟（4） 4 抗告訴訟以外の行政訴訟	【予習】テキスト（218頁から223頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第6回	対面	行政訴訟（5） 5 仮の救済 判決が確定するまでの間における権利利益の保護	【予習】テキスト（224頁から229頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	5時間
第7回	対面	行政上の不服申立て（1） 1 不服申立ての概要 2 審査請求の適法要件	【予習】テキスト（230頁から236頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第8回	対面	行政上の不服申立て（2） 3 審査請求の手続 4 審査請求の裁決	【予習】テキスト（237頁から243頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	5時間
第9回	対面	国家賠償（1） 1 国家賠償法の存在理由と守備範囲 2 国家賠償法1条による責任（前半）	【予習】テキスト（244頁から251頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第10回	対面	国家賠償（2） 2 国家賠償法1条による責任（後半） 3 国家賠償法2条による責任	【予習】テキスト（252頁から269頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第11回	対面	損失補償（1）	【予習】テキスト（270頁から275頁まで）を讀	4時間

		1 国家賠償との違いと共通性 2 補償規定がない法律に基づく財産権侵害に対する救済方法 3 損失補償の要否の基準	み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	
第12回	対面	損失補償（2） 4 損失補償の内容 5 国家補償の谷間	【予習】テキスト（276頁から280頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4 時間
第13回	対面	行政訴訟の復習	【予習】第1回から第6回までの範囲についてテキストを読み、理解できていない部分がないか、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、定期試験に向けて、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4 時間
第14回	対面	行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の各復習	【予習】第7回から第12回までの範囲についてテキストを読み、理解できていない部分がないか、確認する。 【復習】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、定期試験に向けて、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	第1回から第14回までの講義内容のまとめ・総復習	【予習】テキストや第1回から第14回までの講義資料を読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンド講義を視聴した上で、その中で復習のポイントとして示唆された内容を中心に、再度確認し、定期試験に向けて、理解に努める。	4 時間

科目名	地方自治法	開講年度	2025
担当者	壬生 裕子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地方自治法に関する基礎的な事項を理解する		
授業の目的及び概要	地方自治とは、国から独立した地方公共団体が、自らの地域に関することを自ら決めていくことをいいます。 この授業では、地方自治法を学ぶことで、地方公共団体とその住民が地方自治を展開していくためのルールやしぐみを理解することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地方自治法に関する基本的な専門知識を理解し、地域における多様な出来事と地方自治法との関係を自ら分析できるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートの提出結果は翌週以降の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。 その他寄せられた質問も、授業中に共有します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストはとくに指定しません。	ISBN	なし
参考書	①自治体職員のための ようこそ地方自治法[第 4 版]、板垣勝彦、第一法規、2024 年 ②地方自治法概説[第 10 版]、宇賀克也、有斐閣、2023 年	ISBN	①9784474095120 ②9784641228436
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	地方自治や地方公共団体、地方行政に関心のある方、ぜひ受講してみてください。 地方自治法を理解することで、地域のニュースや社会問題を深く考察することができるようになりますよ。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	「地方自治法」とはどのような法律か、この授業で学ぶことと到達目標、授業の進め方、成績評価の方法・基準などのガイダンスを行います。	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください。 【復習】ガイダンス資料および講義ノートを読み直し、今後の講義の内容を確認すること。	4 時間

第2回	対面	日本において、地方自治がどのように発展してきたのかを学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方自治の歴史」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方自治の歴史」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第3回	対面	地方公共団体の構成要素と、普通地方公共団体について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の構成要素と普通地方公共団体」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の構成要素と普通地方公共団体」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第4回	対面	特別地方公共団体と、広域連携について学びます	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「特別地方公共団体と広域連携」に目を通しておくこと。 【復習】資料「特別地方公共団体と広域連携」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第5回	対面	地方公共団体の住民の権利と義務について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「住民の権利と義務」に目を通しておくこと。 【復習】資料「住民の権利と義務」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第6回	対面	地方公共団体の事務について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の事務」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の事務」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第7回	対面	地方公共団体の権能①（自主組織権、自主行政権）について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の権能①」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の権能①」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第8回	対面	地方公共団体の権能②（自主財政権、自主立法権）について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の権能②」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の権能②」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第9回	対面	地方公共団体の機関①（議会と長）について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の機関①」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の機関①」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第10回	対面	地方公共団体の機関②（委員会と委員）	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の機関②」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の機関②」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第11回	対面	地方公務員について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公務員」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公務員」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第12回	対面	公の施設の管理について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「公の施設」に目を通しておくこと。 【復習】資料「公の施設」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第13回	対面	市町村、都道府県、国の関係について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「市町村、都道府県、国の関係」に目を通しておくこと。 【復習】資料「市町村、都道府県、国の関係」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第14回	対面	地方自治法に関わる時事問題をとりあげ、原因や改善策を考えます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「時事問題」に目を通しておくこと。 【復習】資料「時事問題」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業の内容を総括し、地方自治法および地方自治のこれからを考えます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「まとめ」に目を通しておくこと。 【復習】資料「まとめ」および講義ノートを読み直し、	4 時間

2025/05/01

			講義の内容を確認すること。	

科目名	地方自治法	開講年度	2025
担当者	青田　テル子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地方自治の制度を理解する		
授業の目的及び概要	地方自治法に関する基礎的知識を習得するとともに、地方分権の時代の自治体法務について学ぶ		
履修条件・留意点	この科目は法学部の専門教育科目であり、公務員コースの基本科目（公法系）である。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地方自治の法制度に関する基礎知識を身につけることができる。そのうえで、自治体職員として、住民として、それぞれの立場から、地域の課題とその対応策を考える姿勢を身につけることの必要性を理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートの提出を求めたときは、翌週以降に紹介し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『地方自治法の基本』， 高橋明男・佐藤英世， 法律文化社 ， 2022 年	ISBN	ISBN978-4-589-04180-7
参考書	進み具合に応じて適宜講義内で紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	我々は皆、いずれかの市町村、都道府県の住民であり、地方自治の担い手でもある。まず、自らの生活に密接に関わる活動をしている地方公共団体とはどのような仕組みで、どのような活動をする存在であるかを住民としてぜひ知っておいてほしい。また、地方公務員を志す方も学生諸君の中にはいるであろう。地方公共団体に関わる法制度の基礎を理解し、どのような活動をしているのかをこの講義を通して知ること、なぜ地方公務員になりたいのか、地方公共団体のどのような仕事に携わりたいのかといったことを考える一助としてほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	地方自治とは	あらかじめ指定教科書の 2 頁から 4 頁を読むこと。 また、憲法等で地方自治についてすでに学んだことがある場合はその内容を復習しておかれない。	2 時間

			講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	
第2回	対面	地方自治の歴史 ～明治以降の地方制度を概観する～	あらかじめ指定教科書の 21 頁から 35 頁を読むこと。 余力があれば 12～20 頁も読んでおきたい。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	3 時間
第3回	対面	憲法と地方自治 憲法第8章	あらかじめ指定教科書の5頁から 11 頁を読むこと。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2 時間
第4回	対面	地方公共団体の種類	あらかじめ指定教科書の 66 頁から 74 頁を読むこと。 自分が住んでいる自治体のホームページを参照するなどして、地方公共団体が実際にどのような仕事をしているかをあらかじめ見ておいてほしい。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2 時間
第5回	対面	普通地方公共団体の住民(1) 住民の要件、住所	あらかじめ指定教科書の 234 頁から 242 頁を読むこと。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2 時間
第6回	対面	普通地方公共団体の住民(2) 住民の権利・義務	あらかじめ指定教科書の 241 頁から 255 頁を読むこと。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2 時間
第7回	対面	普通地方公共団体の議会	あらかじめ指定教科書の 98 頁から 107 頁を読むこと。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2 時間
第8回	対面	普通地方公共団体の執行機関	あらかじめ指定教科書の 108 頁から 122 頁を読むこと。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2 時間
第9回	対面	普通地方公共団体の事務 事務の分類、国の関与等	あらかじめ指定教科書の 134 頁から 143 頁を読むこと。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2 時間
第10回	対面	普通地方公共団体の自治立法権(1) 条例制定権、憲法と条例	あらかじめ指定教科書の 162 頁から 168 頁を読むこと。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2 時間
第11回	対面	普通地方公共団体の自治立法権(2) 法律と条例	あらかじめ指定教科書の 168 頁から 174 頁を読むこと。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2 時間
第12回	対面	地方公共団体の自治立法権(3) 規則その他	あらかじめ指定教科書の 175 頁から 181 頁を読むこと。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2 時間
第13回	対面	住民監査請求と住民訴訟	あらかじめ指定教科書の 258 頁から 281 頁を読むこと。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	2.5 時間
第14回	対面	自治体法務とは	配布資料をあらかじめ読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかど	2 時間

2025/05/01

			うかを確認すること。	
第15回	オンデマンド	まとめ	まとめと補足的に情報公開制度についても言及する。 指定教科書の284頁以下の情報公開のところを読んでおくこと。	2時間

科目名	情報法	開講年度	2025
担当者	尾崎 洋之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	高度情報化社会における情報法制度		
授業の目的及び概要	情報通信・デジタル技術の飛躍的な発達により、私たちは膨大な情報に囲まれて生活を送っています。 膨大な情報は、分析することにより新たな産業の創出、業務の効率化等が期待される一方で、情報の中にはパーソナルデータやフェイクニュース等が含まれており、差別や偏見を助長しているという問題も潜んでいます。 そして、誰もが情報の発信者に容易になることができる時代であるため、要配慮個人情報や誤った情報を発信し、多額の賠償が請求されるというトラブルも数多く発生しています。 そのため、これから社会に出て様々なジャンルで活躍していく学生たちにとって、今後さらに進展していくと思われる高度情報化社会を生き抜いていくためには、情報の取扱いに関する法の知識を得ることは不可欠です。 本講義では、情報に関する法制度の概要と社会人として必要なインターネット、SNS、動画共有サービス等を利用する際の倫理、マナー、権利侵害の事例等について学ぶとともに、公務員を目指す学生にとって必須の知識である情報公開法、個人情報保護法、マイナンバー法、公文書管理法、官民データ活用推進基本法等について学習します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①高度情報化社会において必要となる「情報」に関する法制度の概要を理解する。 ②高度情報化社会において順守すべき倫理、マナーを理解する。 ③社会人として「情報」を活用できる知識と応用力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 小テストの結果を踏まえ、理解が不十分であると思われる部分の復習を行います。 期末試験について、講評をラーニングポータル上に掲載することを予定しています。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、自治体における情報公開、個人情報保護、デジタル化及び法制執務に係る業務に従事し、情報法に関する例規の制定改廃及び運用に長年携わっていることから、地方行政や行政サービスにおける情報法の取扱いに関する実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料は適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①情報法概説[第2版]，曾我部真裕・林秀弥・栗田昌裕，弘文堂，2019年 ②新・情報公開法の逐条解説[第8版]，宇賀 克也，有斐閣，2018年 ③新・個人情報保護法の逐条解説，宇賀 克也，有斐閣，2021年 ④逐条解説 公文書等の管理に関する法律[第3版]，宇賀 克也，有斐閣，2015年	ISBN	①9784335357640 ②9784641227576 ③9784641228221 ④9784474039940
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	学生の皆さんは、スマートフォン等のデバイスを通じ、容易に情報を取得・発信していると思いますが、情報に関わる法制度や事件についても関心を持っておいてほしいと思います。高度情報化社会の進展に伴い、情報に関わる法制度を学ぶ価値は、年々増えています。本講義では、情報の収集、利用、管理等に関わる法制度について、実務経験を踏まえて最新の状況を説明しますので、官民間問わず社会人となる上で非常に有益なものになるでしょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、授業の進め方 高度情報化社会における情報の意義、性質	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 近年発生したインターネット上における事件（SNSによる名誉毀損、個人情報の漏えい等）について調査し、確認しておくこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	インターネットと表現の自由	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、授業で紹介した事例・判例等の内容について再確認しておくこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	インターネットと名誉棄損、プライバシー侵害、忘れられる権利	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、授業で紹介した事例・判例等の内容について再確認しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	情報公開法① （沿革、目的、公文書の定義等について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、授業で説明した情報公開法の沿革等について再確認しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	情報公開法② （非開示事由について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、授業で示した事実ではどの非開示事由に該当するか確認しておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	情報公開法③ （判例、裁判例及び審査請求事件について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、授業で紹介した事例・判例等の内容について再確認しておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	個人情報保護法① （沿革、目的、個人情報の定義等について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、授業で説明した個人情報保護法の沿革等について再確認しておくこと（2時間）。	4時間
第8回	対面	個人情報保護法② （主に民間事業者に適用される規定について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、授業で紹介した各規定について再確認しておくこと（2時間）。	4時間
第9回	対面	個人情報保護法③ （主に行政機関に適用される規定について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、授業で紹介した各規定について再確認しておくこと（2時間）。	4時間
第10回	対面	個人情報保護法④ （判例、裁判例及び審査請求事件について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、授業で紹介した事例・判例等の内容について再確認しておくこと（2時間）。	4時間

第11回	対面	マイナンバー法	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、自分のマイナンバーを「通知カード」や「マイナンバーカード」（所有者のみ）で確認し、マイナンバーを行政手続や日常生活で使う場面について、その注意点等を整理しておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	公文書管理法	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、授業で説明した公文書管理法の沿革等について再確認しておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	官民データ活用推進基本法・オープンデータ	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、オープンデータの活用事例について調査の上、RESAS等のデータ分析ツールを操作しておくこと（2時間）。	4時間
第14回	対面	デジタル社会形成基本法・サイバーセキュリティ基本法	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2時間）。 復習として、デジタル技術に係る法的問題やインターネット犯罪の現状について調べておくこと（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	今期の授業の総括	今学期の授業内容を改めて振り返り、事前に疑問点等がないか確認しておくこと（2時間）。 復習として、今期の授業で取り上げた事例・判例等の重要ポイントについて整理しておくこと（2時間）。	4時間

科目名	環境法	開講年度	2025
担当者	青田　テル子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	環境法を学ぶ上で必要な基礎知識と、環境保全のための法システムを学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業では、単に「環境保全は大切だ」と意識しているというだけにとどまらず、現に存在する環境保全に関わる問題を具体的に知り、そのための法制度としてどのようなものがあり、どのように運用されているのかを理解することで、環境保全に対する理解を深め、自分自身で環境保全の施策等について考えることのできる力を涵養する。 明治以降の公害・環境問題の歴史、典型的七公害、地球環境問題などの環境法を学ぶ前提として必要な事項について最初に学び、それらを履修者が共通の知識として習得した後、環境保全のための法システムの個別の領域を学ぶ。そののち、環境訴訟についても概観する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1)履修者は、環境問題に関する基礎的な考え方を理解することができる。 (2)履修者は、環境保全のための法制度について知り、実際にどのような施策が実施されているのか、どのような環境紛争が実際にあるのかを知ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては終了後すぐに解答解説を行い、後日全体の結果に関するフィードバックを行う。 コメントシートの提出を求めた場合は、翌週以降の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	北村喜宣（著）『環境法（第3版）』 有斐閣、2024 年 指定教科書として講義、予習復習に用いる。講義時は必携である。	ISBN	ISBN: 978-4641151246
参考書	(1)北村　喜宣，『環境法(第5版)』，弘文堂　，2020 (2)上智大学環境法教授団／編，『　ビジュアルテキスト環境法(第2版)』，有斐閣，2020 年 進み具合に応じて適宜紹介する。	ISBN	(1)ISBN　978-4-335-35836-4 (2)ISBN　978-4-641-22787-3
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	廃棄物問題、自然環境保全、景観保護、環境影響評価、公害規制、興味を感じる環境に関わる問題は人それぞれ違うとは思いますが、この講義ではあまり範囲を限定せずに環境問題を概観し、		

あたって	その対策がどのような法にもとづき、どのように行われているのかを理解することで、将来的には履修者各自が自分自身の頭で解決策を考えられるようになること、環境をめぐる紛争の代表的な事例を知ることを目指す。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	環境法とは ・講義概要と評価方法などの説明 ・環境法とはどのような法分野か	指定教科書(以下教科書)第1章 1頁～15頁。 事前には教科書該当箇所を読み、用語を調べるなどすることが望ましい（次回以降も同様である）。 事後は講義内容をもとに指定教科書を再度読み、法制度等に特に着目しつつ理解するよう努めること。	1.5時間
第2回	対面	環境法の歴史(1)公害法から環境法へ	指定教科書(以下教科書)第1章 16頁～40頁を読んでくること。 講義後は不明な点がないかを確認し、再度教科書や配布資料を熟読しておくこと。	3時間
第3回	対面	環境法の歴史(2) 環境にかかわる紛争の事例を知る	教科書第2章の環境法物語 16頁～40頁を予め読んでくること。 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	2時間
第4回	対面	環境法の基礎知識 環境法の目標、環境法の基本的な考え方	教科書第3章 41頁～63頁を予め読んでくること 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	2時間
第5回	対面	水質汚濁規制の法制度	教科書第7章 133頁以下「水環境管理を考える」を予め読んでくること。 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。 必要に応じて憲法の教科書等も参照されたい。	2時間
第6回	対面	景観管理	教科書第5章、「都市景観管理で考える」87頁～109頁を予め読んでくること。 講義後は不明な点がないかを確認し、再度教科書や配布資料を熟読しておくこと。	2.5時間
第7回	対面	自然環境管理 自然公園法と関係法令	教科書第6章 「自然環境管理で考える」110頁以下を予め読んでくること 講義後は不明な点がないかを確認し、再度教科書や配布資料を熟読しておくこと。	3時間
第8回	対面	化学物質管理	指定教科書にこの内容に該当する章がないため、参照資料を配布する予定である。 各自が環境法の教科書等で予め内容を調べるための一例として、『レクチャー環境法(第2版)』富井利安編 法律文化社 第10章のうち、202頁～214頁をあげておく。環境省のホームページも有用な資料が掲載されているためおすすめである。	2時間
第9回	対面	廃棄物処理法制	教科書第8章 「廃棄物処理で考える」160頁以下を予め読んでくること 講義後は不明な点がないかを確認し、再度教科書や配布資料を熟読しておくこと。	3時間
第10回	対面	環境影響評価	教科書第9章 「環境アセスメントで考える」185頁～206頁を予め読んでくること 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	2時間
第11回	対面	環境民事訴訟(1) 損害賠償請求訴訟	指定教科書第12章「環境紛争を考える」240～246頁をあらかじめ読んでくること。 あわせて再度第2章の環境法物語のところの、熊本	2時間

			水俣病訴訟のところも読んでおくこと。 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	
第12回	対面	環境民事訴訟(2) 差止請求訴訟	指定教科書第12章「環境紛争を考える」247～249頁をあらかじめ読んでおくこと。 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	2時間
第13回	対面	環境行政訴訟 抗告訴訟を中心に	教科書第12章「環境紛争を考える」249～253頁をあらかじめ読んでおくこと。の行政訴訟のところをあらかじめ読んでおくこと。 行政法を履修中あるいは履修済みの者は、行政事件訴訟について少し予習（あるいは復習）しておくこと。 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	2時間
第14回	対面	国家賠償請求訴訟	教科書第2章の関西水俣病訴訟のところ 30～32頁を予め読んでおくこと。 行政法を履修中あるいは履修済みの者は、国家賠償について少し予習（あるいは復習）しておくこと。 講義後は不明な点がないかを確認し、再度教科書や配布資料を熟読しておくこと。	2時間
第15回	オンデマンド	まとめ これまでの内容を踏まえ、全体の復習とまとめを行う。	教科書第2章 16頁～40頁と第12章を読んでおくこと。 可能な範囲でそこに出てくる判例について見直しておきたい。 講義後は不明な点がないか確認しつつ再度熟読しておくこと	3時間

科目名	税法Ⅰ	開講年度	2025
担当者	桐元 久佳	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	税法（主に個人課税）の基礎理論 1. 税法の基礎理論 2. 所得税 3. 判例研究		
授業の目的及び概要	本授業では、租税法全般の基礎理論を学びます。 国家が、その賦課・徴収できる権限は何か根拠なのかという基礎理論をまず学びます。 租税手続法として、申告納税義務や税務調査、納税者の権利救済としての不服審判と租税訴訟について学びます。 更に、具体的な租税法として、所得税を学びます。 いくつかの判例研究も実施し、所得の判断基準なども学びます。		
履修条件・留意点	特にないです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 租税の基礎理論について説明できる。 国家が、なぜ国民に租税を賦課・徴収できるのか？ 租税法律主義とは何か？ 2. 租税手続法について 申告納税義務、税務調査について概要を説明できる。 3. 個人課税としての所得税の概要を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。 また優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、税理士と行政書士の資格を有しており、税理士事務所と行政書士事務所の所長として業務に従事している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①基本テキスト租税法、池上健・大野雅人ほか、同文館出版、2022 年	ISBN	①9784495176235
参考書	①リーガルマインド租税法 第 5 版、増田英敏、成文堂、2019 年 ②租税法演習ノート-租税法を楽しむ 21 問 第 4 版、佐藤英明・岡村忠生ほか、弘文堂、2021 年	ISBN	①9784792306496 ②9784335358500
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	28	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	22	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	アルバイトであれ、会社員として就職後に給料を受け取ると所得税・住民税を負担することに		

あたって	なります。 また、既に消費税や酒税など我々が生活していくうえで様々な税金を負担しております。 社会人として、その税金の基礎知識を学んでほしいです。 またなぜ国や地方公共団体は、租税を徴収することができるのか？ この根本的なことについても理解を深めて頂けるようにします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ・租税とは何か？ ・国民の三大義務とは？	【事前学習】テキスト1～8ページの内容を予習する。 【事後学習】授業で紹介したHPで税金のあらましを確認する。	3時間
第2回	対面	租税法の基本原則 ・租税法律主義とは何か？ 罪刑法定主義との関係性について ・租税公平主義とは？ 租税における公平とは、どんな公平なのか？ またどのように実現するのがよいのか？	【事前学習】憲法および刑法の「罪刑法定主義」について確認する 【事後学習】テキスト8～11ページを復習する	3時間
第3回	対面	租税法の解釈と適用について ・租税法の法源	【事前学習】テキスト12～22ページの予習 【事後学習】配布資料の復習	4時間
第4回	対面	租税法の解釈と適用について ・文理解釈と目的解釈について	【事前学習】テキスト12～18ページの予習 【事後学習】配布資料の復習	4時間
第5回	対面	わが国の租税法の概観 脱税と租税回避	【事前学習】テキスト19～22ページの予習 【事後学習】テキスト19～22ページの復習、脱税と租税回避の違いを特に事例も交えて復習してください。	3時間
第6回	対面	租税手続法 1. 総論 2. 納税義務の確定 3. 国税の納付と徴収	【事前学習】テキスト223～234ページの予習 【事後学習】テキスト223～234ページの復習、納税義務と納付・徴収について特に復習してください。	3時間
第7回	対面	1. 税務調査について 質問検査権の効力は？ 2. 納税者の権利救済～不服審査と租税訴訟について	【事前学習】テキスト235～242ページの予習 【事後学習】テキスト235～242ページの復習 税務調査と租税訴訟を中心に復習してください。	4時間
第8回	対面	所得税 1. 所得税の特徴と所得概念 2. 課税単位と所得税計算の基本的な仕組み	【事前学習】テキスト23～31ページの予習 【事後学習】テキスト23～31ページの復習 所得の特徴と所得概念を中心に	3時間
第9回	対面	各種所得の所得金額の計算 所得分類の基準について、判例も紹介します。 その際、所得分類の判断基準について、受講生の方々にも議論して頂き 判断基準について、理解を深めるようにします。	【事前学習】10種類の所得について暗記しておく 【事後学習】テキスト32～47ページの復習 各所得の計算方法も復習	4時間
第10回	対面	収入金額と必要経費について	【事前学習】テキスト48～52ページの予習 【事後学習】テキスト48～52ページの復習 必要経費の範囲について特に復習	4時間
第11回	対面	判例研究 ・原告・被告双方の立場にたって その論拠と自分なりの主張を報告しあうことを実施します。	【事前学習】判例の事案の概要を整理する 【事後学習】判例についてレポート作成して、復習する	6時間
第12回	対面	所得の人的帰属 損失の取扱い	【事前学習】レポート作成 【事後学習】テキスト53～56ページの復習	6時間
第13回	対面	所得控除 税額の計算	【事前学習】テキスト57～70ページの予習 【事後学習】配布資料の復習	4時間

2025/05/01

		申告と納付		
第14回	対面	定期試験に備えて、全体の復習を実施する	【事前学習】第1回～14回までの内容の復習 【事後学習】所得税の所得分類の判断基準について 復習	5時間
第15回	オンデマンド	全体のおさらい 特に判例及び所得の違いについて	紹介された判例の復習 所得分類の判断基準について	6時間

科目名	税法 I	開講年度	2025
担当者	中西 博明	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	租税の本質と法的仕組みを理解し、社会における税の役割を学修する。		
授業の目的及び概要	本講義では、税法の基本概念や制度の仕組みを理解するとともに、租税の社会的役割について考察できる能力を身に付けることを目的とし、具体的には、次の点を重視して学修する。 1. 租税の基本原則と目的を理解する。 2. 日本の税体系と主要税目の特徴を把握する。 3. 税務行政の仕組みと国税通則法の基本的な内容を学ぶ。 4. 租税の公平性や適正手続といった法的視点を持つ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 租税の意義や正当性について説明できる。 2. 日本の租税体系を概観し、各税の基本的な仕組みを理解する。 3. 税務行政の役割や手続きを理解し、納税者の権利義務を把握する。 4. 租税制度の社会的意義を考察し、現実の問題と関連付けて議論できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	リアクションペーパーなどは、添削した上で返却し、優秀なものは、授業中に紹介・講評する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、約 40 年の間税務官として税務行政を執行するほか、退官後は税理士として税法実務に携わるなど、税制や税法に深く精通している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①税務大学校『税法入門』（令和 6 年度） ②税務大学校『国税通則法（基礎編）』（令和 6 年度） 国税庁所管税務大学校の教科書（税大講本）として下記の URL より無償提供 https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm	ISBN	—
参考書	①中里実ほか『租税法概説』第 4 版、有斐閣、2023 年 ②中里実ほか『租税法判例六法』第 6 版、有斐閣、2023 年 ③佐藤英明ほか『租税法演習ノート-租税法を楽しむ 21 問』第 4 版、弘文堂、2021 年	ISBN	①9784641228191 ②9784641001602 ③9784335358500
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		

	その他の内容	
この科目の受講 にあたって	租税は私たちの生活や経済活動に深く関わるものです。日常生活の中で税がどのように作用しているのかを意識し、「自分ならこの制度をどう考えるか。」といった視点を持つことでより実践的な理解につながります。 この講義を通じて、税法の基礎知識を身に付けるだけでなく、社会や経済、法制度を広い視野で捉える力を養ってほしいです。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ・講義概要、講義の進め方 ・人の一生と税との関わり	【事前学習】テキスト①「租税法の学習に当たって」、 ②「学習上の留意事項」の内容を読んで予習する。 【事後学習】授業で配付した資料を読み直しノート を整理する。	4 時間
第2回	対面	租税の意義、租税の根拠と配分	【事前学習】テキスト①第1章第1～3節を予習する 【事後学習】テキスト①第1章第1～3節の内容、お よび配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第3回	対面	租税の目的、財政に占める租税の位置付け	【事前学習】テキスト①第1章第4～6節を予習する 【事後学習】テキスト①第1章第4～6節の内容、お よび配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第4回	対面	租税の分類、国民の租税負担	【事前学習】テキスト①第1章第7～9節を予習する 【事後学習】テキスト①第1章第7～9節の内容、お よび配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第5回	対面	租税体系	【事前学習】テキスト①第2章第1～2節を予習する 【事後学習】テキスト①第2章第1～2節の内容、お よび配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第6回	対面	第1回から第5回までの内容のおさらい レポート作成	【事前学習】これまでの不明点を整理しておく 【事後学習】配布資料を読み直してノートを整理する	2 時間
第7回	対面	税法の法体系	【事前学習】テキスト①第3章第1～6節を予習する 【事後学習】テキスト①第3章第1～6節の内容、お よび配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第8回	対面	各税の概要	【事前学習】テキスト①第4章第1～7節を予習する 【事後学習】テキスト①第4章第1～7節の内容、お よび配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第9回	対面	税務行政の概要、地方税の概要 税制の仕組みと役割	【事前学習】テキスト①第6章第1～7節、補章第1 ～4節を予習する 【事後学習】テキスト①第6章第1～7節、補章第1 ～4節の内容、および配付した資料を読み直してノ ートを整理する	4 時間
第10回	対面	国税通則法の概要	【事前学習】テキスト②第1～2章を予習する 【事後学習】テキスト②第1～2章の内容、および配 付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第11回	対面	国税の納付及び徴収、更正・決定等の期間 制限	【事前学習】テキスト②第3～6章を予習する 【事後学習】テキスト②第3～6章の内容、および配 付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第12回	対面	国税の調査、行政手続法との関係	【事前学習】テキスト②第7～8章を予習する 【事後学習】テキスト②第7～8章の内容、および配 付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第13回	対面	国税の不服審査と訴訟、罰則	【事前学習】テキスト②第9章第1～3節、第10章	4 時間

			を予習する 【事後学習】テキスト②第9章第1～3節、第10章の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	
第14回	対面	国税犯則調査手続	【事前学習】テキスト②第11章第1～3節を予習する 【事後学習】テキスト②第11章第1～3節の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に備えて、全体の復習を実施する	【事前学習】第1回～14回までの内容の復習 【事後学習】定期試験に備え、講義した内容を復習する ※講義の進捗状況や学生の理解度を把握しながら、上記の授業計画を微調整する可能性がある。	6時間

科目名	税法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	桐元 久佳	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	税法の基礎理論 1. 法人税 2. 消費税 3. 判例研究		
授業の目的及び概要	本授業では、企業が負担する法人税・消費税の基礎理論を習得することを目的とします。租税理論の理解を深めるために、租税判例の検討も多めに実施することで、会計と法人税の関係性にも理解深められるように実施します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	法人税・消費税について概要を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。 また優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、税理士と行政書士の資格を有しており、税理士事務所と行政書士事務所の所長として業務に従事している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①基本テキスト租税法, 池上健・大野雅人ほか, 同文館出版, 2022 年	ISBN	①9784495176235
参考書	①リーガルマインド租税法 第 5 版, 増田英敏, 成文堂, 2019 年 ②租税法演習ノート-租税法を楽しむ 21 問 第 4 版, 佐藤英明・岡村忠生ほか, 弘文堂, 2021 年	ISBN	①9784792306496 ②9784335358500
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	28	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	22	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	株式会社等の企業を取り巻く税金の中心である法人税・消費税の基礎理論を学んでほしいです。特に法人税は、租税法本来の立法趣旨や考え方と会計との関係性が重要になります。それぞれの考え方を理解したうえで、様々な判例に当たることで理解を深められるようにしていきます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	法人税の原則	【事前学習】テキスト 71～76 ページの予習 【事後学習】テキスト 71～76 ページの復習、配布プリントの復習	3 時間
第2回	対面	法人税の課税標準 内国法人の課税標準の計算	【事前学習】テキスト 76～79 ページの予習 【事後学習】テキスト 76～79 ページの復習、配布プリントの復習	3 時間
第3回	対面	収益と費用・損失の計上基準	【事前学習】テキスト 80～83 ページの予習 【事後学習】テキスト 80～83 ページの復習、配布プリントの復習	3 時間
第4回	対面	益金の額の計算	【事前学習】テキスト 83～89 ページの予習 【事後学習】テキスト 83～89 ページの復習 配布プリントの復習	4 時間
第5回	対面	原価に係る損金の額の計算 費用に係る損金の額の計算	【事前学習】テキスト 89～90 ページの予習 【事後学習】テキスト 89～99 ページの復習	4 時間
第6回	対面	費用に係る損金の額の計算 ・役員給与 ・寄付金 ・交際費等 ●租税判例研究	【事前学習】テキスト 100～110 ページの予習 【事後学習】テキスト 100～110 ページの復習 配布プリントの復習	3 時間
第7回	対面	費用に係る損金の額の計算 ・租税公課 ・不正行為等に係る費用等 ●租税判例研究	【事前学習】テキスト 111 ページの予習 【事後学習】配布プリントの復習	4 時間
第8回	対面	損失 その他の損金の額の計算 ●租税判例研究	【事前学習】テキスト 112～114 ページの予習 【事後学習】テキスト 112～126 ページの復習	4 時間
第9回	対面	●租税判例研究	【事前学習】レポート作成 【事後学習】レポート作成 ・判例研究では、レポートに基づいて、原告・被告双方の立場にたって その論拠と自分なりの主張を報告しあうことを実施します。	6 時間
第10回	対面	消費税とは 課税の対象	【事前学習】テキスト 157～165 ページの予習 【事後学習】テキスト 157～165 ページの復習 配布プリントの復習	4 時間
第11回	対面	納税義務者 課税標準 仕入税額控除 申告と納付 消費税のおさらい 納税義務者 課税標準 仕入税額控除 申告と納付 消費税のおさらい	【事前学習】テキスト 166～184 ページの予習 【事後学習】テキスト 166～184 ページの復習	4 時間
第12回	対面	●租税判例研究	配布済みの租税判例について復習	5 時間
第13回	対面	●判例研究 法人税の復習全般 ・判例研究では、原告・被告双方の立場にたって その論拠と自分なりの主張を報告しあうことを実施します。	法人税の復習全般 1. 益金と損金について 2. 企業会計の収益と費用との違いについて	6 時間
第14回	対面	●判例研究 ・判例研究では、原告・被告双方の立場にたって その論拠と自分なりの主張を報告しあうことを実施します。	【事前学習】課題判例の整理 【事後学習】レポートの作成	6 時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	法人税のおさらい 判例研究	【事前学習】 不明点、定義の洗い出し 【事後学習】 配布プリントの復習と判例研究	6 時間

科目名	税法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	中西 博明	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	主要税法である所得税法、法人税法、相続税法、消費税法の概要を学修する。		
授業の目的及び概要	本講義では、所得税法、法人税法をはじめ主要税目について制度の背景や仕組みを体系的に理解し、実務において応用できる知識を習得することを目的とする。 特に、税法Ⅰよりも踏み込んだ内容を扱い、条文の趣旨や実務上の課題についても検討する。		
履修条件・留意点	税法Ⅰを履修済みであることが望ましい。 また、基礎的な会計知識があると理解しやすい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 各税法の基本構造を理解し、税の仕組みを説明できる。 2. 所得税、法人税、消費税などの課税要件や計算方法を理解し、基本的な事例に対応できる。 3. 実務や政策における税制の意義を考察し、自らの意見を持つことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	リアクションペーパーなどは、添削した上で返却し、優秀なものは、授業中に紹介・講評する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、約 40 年の間税務官として税務行政を執行するほか、退官後は税理士として税法実務に携わるなど、税制や税法に深く精通している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①税務大学校『税法入門』（令和6年度） ②税務大学校『国税通則法（基礎編）』（令和6年度） 国税庁所管税務大学校の教科書（税大講本）として下記の URL より無償提供 https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm	ISBN	――
参考書	①中里実ほか『租税法概説』第4版、有斐閣、2023年 ②中里実ほか『租税法判例六法』第6版、有斐閣、2023年 ③佐藤英明ほか『租税法演習ノート-租税法を楽しむ21問』第4版、弘文堂、2021年	ISBN	①9784641228191 ②9784641001602 ③9784335358500
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講	本講義では、税法Ⅰで学んだ基礎を踏まえ、各税法の詳しい仕組みや実務上の課題をより深く掘り下げて学びます。		

に あたって	単なる条文の暗記ではなく、制度の趣旨や背景を理解し税法がどのように適用されるのかを考えてほしいです。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	所得税（その1）：所得税の概要と納税義務者	【事前学習】テキスト①第4章第1節と参考書①の指定箇所（p. 101-109）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第4章第1節と参考書①の指定箇所（p. 101-109）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第2回	対面	所得税（その2）：課税標準と所得税額の計算	【事前学習】テキスト①第4章第1節と参考書①の指定箇所（p. 110-133）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第4章第1節と参考書①の指定箇所（p. 110-133）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第3回	対面	所得税（その3）：課税の特例制度と申告納付	【事前学習】テキスト①第4章第1節と参考書①の指定箇所（p. 134-146, 149-154）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第4章第1節と参考書①の指定箇所（p. 134-146, 149-154）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第4回	対面	法人税（その1）・法人税の概要と納税義務者	【事前学習】テキスト①第4章第2節と参考書①の指定箇所（p. 155-165）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第4章第2節と参考書①の指定箇所（p. 155-165）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第5回	対面	法人税（その2）：課税標準と税額の計算	【事前学習】テキスト①第4章第1節と参考書①の指定箇所（p. 166-202）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第4章第1節と参考書①の指定箇所（p. 166-202）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第6回	対面	法人税（その3）：出資者との関係および組織再編税制	【事前学習】参考書①の指定箇所（p. 203-219）を読み予習する 【事後学習】参考書①の指定箇所（p. 203-219）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第7回	対面	第1回から第6回までの内容のおさらいレポート作成	【事前学習】これまでの不明点を整理しておく 【事後学習】配付資料を読み直してノートを整理する	2時間
第8回	対面	相続税と贈与税（その1）：相続税の概要と納税義務者、課税財産の範囲と税額の計算	【事前学習】テキスト①第4章第3節の指定箇所（p. 33-34）と参考書①の指定箇所（p. 265-270）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第4章第3節の指定箇所（p. 33-34）と参考書①の指定箇所（p. 265-270）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第9回	対面	相続税と贈与税（その2）：相続税の申告納付と贈与税の概要	【事前学習】テキスト①第4章第3節の指定箇所（p. 34-36）と参考書①の指定箇所（p. 271-277）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第4章第3節の指定箇所（p. 34-36）と参考書①の指定箇所（p. 271-277）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第10回	対面	消費税（その1）：消費税の概要、非課税と免税	【事前学習】テキスト①第4章第4節の指定箇所（p. 36）と参考書①の指定箇所（p. 227-233）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第4章第4節の指定箇所（p. 36）と参考書①の指定箇所（p. 227-233）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間

第11回	対面	消費税（その2）：納税義務者、軽減税率制度とインボイス制度	【事前学習】テキスト①第4章第4節の指定箇所（p. 36-37）と参考書①の指定箇所（p. 252-256）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第4章第4節の指定箇所（p. 36-37）と参考書①の指定箇所（p. 252-256）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第12回	対面	消費税（その3）：税額の計算、申告と納付	【事前学習】テキスト①第4章第4節の指定箇所（p. 36-38）と参考書①の指定箇所（p. 234-251）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第4章第4節の指定箇所（p. 36-38）と参考書①の指定箇所（p. 234-251）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第13回	対面	国際課税；国際課税の概要、移転価格税制とCFC税制	【事前学習】テキスト①第5章第1～8節と参考書①の指定箇所（p. 289-371）を読み予習する 【事後学習】テキスト①第5章第1～8節と参考書①の指定箇所（p. 289-371）、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第14回	対面	税務行政：税務行政の組織と権限	【事前学習】テキスト①第6～7章を読み予習する 【事後学習】テキスト①第6～7章、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて第1回から第14回の総復習	【事前学習】不明点、定義の洗い出し 【事後学習】配付プリントの復習 ※講義の進捗状況や学生の理解度を把握しながら、上記の授業計画を微調整する可能性がある。	6時間

科目名	教育法	開講年度	2025
担当者	森 征樹	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代の教育問題を法的に読み解く		
授業の目的及び概要	日本国憲法下において「教育」は、学習権の保障を軸として、知的・肉体的な人間形成を促す営みである。そのような「教育」を受ける権利は「人権中の人権である」として憲法にも明記されているわけだが、「教育を受ける権利」を保障するためには教育基本法や学校教育法だけでなく様々な法、すなわち「教育法（教育関連法規）」が運用されている。それらを概観し、現代の教育問題を解くための法的なアプローチの仕方を学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①日本における教育関連法規の内容を理解すること。 ②教育が持つ高度な専門性についての理解を深める。 ③実際の教育現場における問題を取り上げ、解決のための法的思考力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートへの回答などで対応する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	植野妙実子・宮盛邦友（編著）『現代教育法』日本評論社、2023 年。	ISBN	9784535526709
参考書	① 戸波浩二ほか編『ガイドブック教育法〔新訂版〕』三省堂、2015 年。 ② 中川律『教育法』三省堂、2023 年。 ③ 窪田眞二・澤田千秋（著）『学校の法律がこれ 1 冊でわかる教育法規便覧 令和 7 年版』学陽書房、2025 年。	ISBN	① 9784385323138 ② 9784385323091 ④ 9784313644007
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	教員免許取得を目指す学生だけでなく、これまで学校教育を受け、そして今まさに大学において高等教育を受けている諸君にとって、教育関連法規はこれまでの／これからの教育に関する問題を解くためのカギとなります。コロナ禍で発生した新たな「教育問題」なども一緒に考えていければ、と思います。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス／中間試験・定期試験の位置付け及び形式内容について（その他、単位取得のために重要な事項を説明するので、必ず出席すること。どうしても出席できない理由がある場合は、事前に担当者（森）まで連絡すること）	「日本国憲法」や「憲法Ⅰ」、「憲法Ⅱ（人権）」などで学んだ「教育を受ける権利」について復習しておくこと。	2 時間
第2回	対面	憲法、教育基本法／学習権（＝学習する自由）を保障するためには？	テキスト第1章・第2章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第3回	対面	学校教育法と日本の教育制度／学校は何のためにあるのか？	テキスト第7章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第4回	対面	「教育の機会均等」／本当の平等とは？	テキスト第13章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第5回	対面	教育行政①／教育の内容は誰が決めるのか？	テキスト第9章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第6回	対面	教育行政②／教育委員会とはどのような・何のための組織か？	テキスト第4章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第7回	対面	教員のブラック労働／現代の学校教員の労働環境・賃金体系について	テキスト第10章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第8回	オンデマンド	校則問題／生徒・児童は校則を無条件に守らなければならないのか？	テキスト第3章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第9回	対面	校則に関する裁判例／大阪府立高校「黒染め訴訟」を題材に	事前に配布するレジュメ及びテキスト第3章・第4章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第10回	対面	体罰問題／ときには許される体罰もある？	テキスト第6章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第11回	対面	体罰に関する裁判例／大阪府立高校「バスケットボール部体罰自殺事件」を題材に	事前に配布するレジュメ及びテキスト第6章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第12回	対面	教育現場におけるセクシャルハラスメント（スクールハラスメント）	事前に配布するレジュメ等で予習・復習をしておくこと	4 時間
第13回	対面	「わいせつ教員」の処遇厳罰化問題／日本版 DBS の導入？	事前に配布するレジュメ等で予習・復習をしておくこと	4 時間
第14回	対面	大学教育の問題点／稼げる大学でいいのか？	テキスト第11章・第12章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第15回	対面	総復習授業	テキスト第14章・第15章の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間

科目名	刑法総論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	大場 史朗	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の全体像と基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	刑法とは犯罪と刑罰について規定した法であり、刑法総論とは刑法の解釈論のうち、すべての犯罪に共通する成立要件と刑罰の種類・適用等を論じる分野である。この授業は、主に刑法総論のなかでも犯罪論を概観することで、その全体像と基本概念を理解することを目的とする。この授業は必修科目であり、刑法総論Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱを学修する上での基礎科目に位置付けられる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 刑法の意義と体系を理解し、説明することができる。 2. 刑法総論に関する基本概念を理解し、説明することができる。 3. 刑法総論に関する基本的な法的問題を理解し、説明することができる。 4. 刑法総論の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「刑法」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による 授業科目			
テキスト	①刑法総論，内田幸隆・杉本一敏，有斐閣，2019 年『六法』（小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。 ②2025 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年	ISBN	①978-4641150652 ②●●●●●●●●●● （未出版のため後日追記）
参考書	①基本刑法Ⅰ 総論（第 3 版），大塚裕史ほか，日本評論社，2019 年 ②刑法判例百選Ⅰ 総論〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	ISBN	①978-4535523838 ②978-4641115507
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	刑法は、人間に対して刑罰を科すための法であるため、理論的に精緻な法です。刑法総論は、刑事法を学ぶ上でも基礎となるものですが、その反面、抽象的な議論になりがちです。学修にあたっては、なるべく具体的な場面を頭の中でイメージすることで、理解がしやすくなるとおもわれます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	○ガイダンス・刑法の意義 刑法の概念と意義、刑法の役割と機能等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（6-14 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第1回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第2回	対面	○刑法の基本原則と犯罪論の体系 罪刑法定主義の意義と派生原則、犯罪論の意義と体系等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（1-5 頁、14-25 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第2回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第3回	対面	○構成要件の意義 構成要件の意義と機能、構成要件要素等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（26-35 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第3回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第4回	対面	○因果関係 因果関係に関する条件説、相当因果関係説、危険の現実化説について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（35-52 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第4回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第5回	対面	○不作為犯 不作為犯の意義と種類、不作為犯の成立要件、作為義務の発生根拠について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（52-67 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第5回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第6回	対面	○故意と過失 故意の意義と種類、故意と過失の区別について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（68-73 頁、88-93 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第6回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第7回	対面	○錯誤 錯誤の意義と種類について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（73-87 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第7回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第8回	対面	○違法性阻却の意義、正当行為、被害者の同意 違法性の意義と違法性阻却事由について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（110-118 頁、150-164 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第8回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。	4 時間

			【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	
第9回	対面	○正当防衛 正当防衛の正当化根拠、正当防衛の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（118-138 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第9回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第10回	対面	○正当防衛・緊急避難 誤想防衛、緊急避難の正当化根拠、緊急避難の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（138-150 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第10回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第11回	対面	○責任阻却の意義、期待可能性、責任能力 責任の意義と責任阻却事由、責任能力、適法行為の期待可能性等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（165-190 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第11回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第12回	対面	○未遂犯 未遂犯の意義、不能犯と中止犯の基本事項について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（191-212 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第12回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第13回	対面	○共犯の意義、正犯と共犯の区別、共同正犯 正犯と共犯の意義、共同正犯の類型（実行共同正犯・共謀共同正犯）と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（213-226 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第13回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第14回	対面	○教唆犯・幫助犯 教唆犯と幫助犯の類型と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（226-232 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第14回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第15回	オンデマンド	○授業のまとめ 定期試験に向けて授業のまとめを行う。	【予習】 Learning Portal に掲載する第15回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 動画および配布された資料の内容を復習し、定期試験の準備をしておくこと。	4 時間

科目名	刑法総論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の全体像と基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	刑法とは犯罪と刑罰について規定した法であり、刑法総論とは刑法の解釈論のうち、すべての犯罪に共通する成立要件と刑罰の種類・適用等を論じる分野である。この授業は、主に刑法総論のなかでも犯罪論を概観することで、その全体像と基本概念を理解することを目的とする。この授業は必修科目であり、刑法総論Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱを学修する上での基礎科目に位置付けられる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 刑法の意義と体系を理解し、説明することができる。 2. 刑法総論に関する基本概念を理解し、説明することができる。 3. 刑法総論に関する基本的な法的問題を理解し、説明することができる。 4. 刑法総論の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「刑法」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①刑法総論，内田幸隆・杉本一敏，有斐閣，2019 年『六法』（小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。 ②2025 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年	ISBN	①978-4641150652 ②●●●-●●●●●●●● （未出版のため後日追記）
参考書	①基本刑法Ⅰ 総論（第 3 版），大塚裕史ほか，日本評論社，2019 年 ②刑法判例百選Ⅰ 総論〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	ISBN	①978-4535523838 ②978-4641115507
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	刑法は、人間に対して刑罰を科すための法であるため、理論的に精緻な法です。刑法総論は、刑事法を学ぶ上でも基礎となるものですが、その反面、抽象的な議論になりがちです。学修にあたっては、なるべく具体的な場面を頭の中でイメージすることで、理解がしやすくなるとおもわれます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	○ガイダンス・刑法の意義 刑法の概念と意義、刑法の役割と機能等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（6-14 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第1回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第2回	対面	○刑法の基本原則と犯罪論の体系 罪刑法定主義の意義と派生原則、犯罪論の意義と体系等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（1-5 頁、14-25 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第2回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第3回	対面	○構成要件の意義 構成要件の意義と機能、構成要件要素等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（26-35 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第3回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第4回	対面	○因果関係 因果関係に関する条件説、相当因果関係説、危険の現実化説について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（35-52 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第4回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第5回	対面	○不作為犯 不作為犯の意義と種類、不作為犯の成立要件、作為義務の発生根拠について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（52-67 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第5回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第6回	対面	○故意と過失 故意の意義と種類、故意と過失の区別について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（68-73 頁、88-93 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第6回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第7回	対面	○錯誤 錯誤の意義と種類について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（73-87 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第7回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第8回	対面	○違法性阻却の意義、正当行為、被害者の同意 違法性の意義と違法性阻却事由について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（110-118 頁、150-164 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第8回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。	4 時間

			【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	
第9回	対面	○正当防衛 正当防衛の正当化根拠、正当防衛の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（118-138 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第9回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第10回	対面	○正当防衛・緊急避難 誤想防衛、緊急避難の正当化根拠、緊急避難の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（138-150 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第10回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第11回	対面	○責任阻却の意義、期待可能性、責任能力 責任の意義と責任阻却事由、責任能力、適法行為の期待可能性等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（165-190 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第11回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第12回	対面	○未遂犯 未遂犯の意義、不能犯と中止犯の基本事項について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（191-212 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第12回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第13回	対面	○共犯の意義、正犯と共犯の区別、共同正犯 正犯と共犯の意義、共同正犯の類型（実行共同正犯・共謀共同正犯）と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（213-226 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第13回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第14回	対面	○教唆犯・幫助犯 教唆犯と幫助犯の類型と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（226-232 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第14回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第15回	オンデマンド	○授業のまとめ 定期試験に向けて授業のまとめを行う。	【予習】 Learning Portal に掲載する第15回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 動画および配布された資料の内容を復習し、定期試験の準備をしておくこと。	4 時間

科目名	刑法総論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	大場 史朗	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の全体像と基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	刑法とは犯罪と刑罰について規定した法であり、刑法総論とは刑法の解釈論のうち、すべての犯罪に共通する成立要件と刑罰の種類・適用等を論じる分野である。この授業は、主に刑法総論のなかでも犯罪論を概観することで、その全体像と基本概念を理解することを目的とする。この授業は必修科目であり、刑法総論Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱを学修する上での基礎科目に位置付けられる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 刑法の意義と体系を理解し、説明することができる。 2. 刑法総論に関する基本概念を理解し、説明することができる。 3. 刑法総論に関する基本的な法的問題を理解し、説明することができる。 4. 刑法総論の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による 授業科目			
テキスト	①刑法総論，内田幸隆・杉本一敏，有斐閣，2019 年『六法』（小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。 ②2025 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年	ISBN	①978-4641150652 ②●●-●●●●●●●● （未出版のため後日追記）
参考書	①基本刑法Ⅰ 総論（第3版），大塚裕史ほか，日本評論社，2019 年 ②刑法判例百選Ⅰ 総論〔第8版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	ISBN	①978-4535523838 ②978-4641115507
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	刑法は、人間に対して刑罰を科すための法であるため、理論的に精緻な法です。刑法総論は、刑事法を学ぶ上でも基礎となるものですが、その反面、抽象的な議論になりがちです。学修にあたっては、なるべく具体的な場面を頭の中でイメージすることで、理解がしやすくなるとおもわれます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	○ガイダンス・刑法の意義 刑法の概念と意義、刑法の役割と機能等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（6-14 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第1回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第2回	対面	○刑法の基本原則と犯罪論の体系 罪刑法定主義の意義と派生原則、犯罪論の意義と体系等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（1-5 頁、14-25 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第2回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第3回	対面	○構成要件の意義 構成要件の意義と機能、構成要件要素等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（26-35 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第3回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第4回	対面	○因果関係 因果関係に関する条件説、相当因果関係説、危険の現実化説について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（35-52 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第4回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第5回	対面	○不作為犯 不作為犯の意義と種類、不作為犯の成立要件、作為義務の発生根拠について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（52-67 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第5回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第6回	対面	○故意と過失 故意の意義と種類、故意と過失の区別について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（68-73 頁、88-93 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第6回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第7回	対面	○錯誤 錯誤の意義と種類について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（73-87 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第7回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第8回	対面	○違法性阻却の意義、正当行為、被害者の同意 違法性の意義と違法性阻却事由について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（110-118 頁、150-164 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第8回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。	4 時間

			【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	
第9回	対面	○正当防衛 正当防衛の正当化根拠、正当防衛の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（118-138 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第9回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第10回	対面	○正当防衛・緊急避難 誤想防衛、緊急避難の正当化根拠、緊急避難の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（138-150 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第10回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第11回	対面	○責任阻却の意義、期待可能性、責任能力 責任の意義と責任阻却事由、責任能力、適法行為の期待可能性等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（165-190 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第11回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第12回	対面	○未遂犯 未遂犯の意義、不能犯と中止犯の基本事項について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（191-212 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第12回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第13回	対面	○共犯の意義、正犯と共犯の区別、共同正犯 正犯と共犯の意義、共同正犯の類型（実行共同正犯・共謀共同正犯）と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（213-226 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第13回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第14回	対面	○教唆犯・幫助犯 教唆犯と幫助犯の類型と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（226-232 頁）を読んでおくこと。 Learning Portal に掲載する第14回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第15回	オンデマンド	○授業のまとめ 定期試験に向けて授業のまとめを行う。	【予習】 Learning Portal に掲載する第15回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 動画および配布された資料の内容を復習し、定期試験の準備をしておくこと。	4 時間

科目名	刑法各論 I	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の基本的な考え方を身につける。		
授業の目的及び概要	・刑法の「問題」は机の上でのみ存在するものではなく、実際に適用されると適用された人の人生を大きく左右することになるほど重大な影響を及ぼす「現実の問題」であるということを受講生が意識した上で、「なぜその結論になるのか」「どうしてそのように考えるのか」について、しっかりと理解し、自身の言葉で説明できるように、一緒に悩み、考えていくような講義を目指します。 ・「名誉毀損罪や業務妨害罪とか、名前だけは聞いたことがあるけど、どういうときに成立するのか、その犯罪は何のためにあるのかは知らない」、そんな人が多いと思います。この講義では、どのような行為がどのような犯罪になるのか、どうしてその犯罪が規定されているのかについて、具体的な事例を交えながら解説します。 ・この講義では、一部で受講生に問いかけ、答えてもらうという形態をとります。ただ、問いかけは答え合わせのように正解を求めるものではなく、みんなで考えていくための質問ですので、正解不正解を気にすることなく楽しく参加してくださいね（減点ありません）。		
履修条件・留意点	この授業科目は、「刑法総論 I」の単位を修得済みである学生を対象とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・具体的事案について、前提となる事実を分析することで該当する犯罪を指摘できるようになる。 ・指摘した犯罪の趣旨や保護法益について説明できるようになる。 ・指摘した犯罪の構成要件について説明できるようになる。 ・具体的事案における事実を、指摘した犯罪の構成要件に当てはめ、一定の結論を示すことができるようになる。 ・以上について、自身の理解を自身の言葉で表現し、他者に説得的に伝えることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	リアクションペーパーおよび小テストについては、適宜必要に応じて授業内または動画配信の形式でフィードバックを行います。 定期試験については、Learning Portal に簡単な解説と講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	基本刑法Ⅱ各論〔第4版〕, 大塚裕史・十河太郎・塩谷毅・豊田兼彦, 日本評論社, 2024 年 *『六法』（小型のもので可。紙媒体に限る）は毎回持参してください。	ISBN	9784535528185
参考書	①刑法判例百選Ⅱ各論〔第8版〕, 佐伯仁志・橋爪隆編, 有斐閣, 2020 年 ②入門刑法学各論〔第3版〕, 井田良, 有斐閣, 2024 年 *その他の参考書については、授業内で適宜紹介します。	ISBN	①9784641115514 ②9784641139749
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	【注意事項】 ・わからないところがあれば、気軽に質問にきてください。 ・毎回の講義で基本的な設問がついたリアクションペーパーを配布しますので、設問に解答の上で提出してください（評価の20%に相当します）。 【メッセージ】 刑法の授業は、ただ聞いているだけでは「わかる」ようにはなっても、「できる」ようにはならないと思います。「なんとなくわかるけど、いざ試験になると何を書けばいいのかわからない」、そんな経験はありませんか？ 「わかる」と「できる」の間にある壁は大きく、自分の頭で悩み考えてみないと、「できる」ようにはなりません。それが学習する上での難しさの一つだと思います。一方で、悩み考えた末に得たものは、刑法にとどまらず、人生の幹になりうると思います。 みんなで一緒に悩み、考えることで一人一人が「できる」ようになる、そんな授業を目指します。一緒に楽しんでいきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス・刑法総論の復習】 ・授業の進め方、成績評価の方法などについて説明します。 ・刑法総論に関する基本知識について復習します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料を読んでください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習してください。	4 時間
第2回	対面	【生命身体に対する罪①】 ・殺人の罪について、説明します。 ・傷害の罪について、説明します。 ・過失傷害の罪について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習してください。 ※シラバス執筆時点において、まだテキストが発売されていないため、テキストの具体的なページ数を指定していません。授業において指示します。	4 時間
第3回	対面	【生命身体に対する罪②】 ・堕胎の罪について、説明します。 ・遺棄の罪について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習してください。	4 時間
第4回	対面	【意思決定および場所的移動の自由に対する罪】 ・脅迫・強要の罪について、説明します。 ・逮捕・監禁の罪について、説明します。 ・略取・誘拐の罪について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習してください。	4 時間
第5回	対面	【性的自由に対する罪・住居侵入罪】 ・性的自由に対する罪について、説明します。 ・住居侵入罪について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習してください。	4 時間
第6回	対面	【名誉に対する罪等】 ・秘密に対する罪・名誉に対する罪について、説明します。 ・信用毀損罪・業務妨害罪について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習してください。	4 時間
第7回	対面	【財産に対する罪①】 ・財産犯の総論的な部分について、説明し	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでください。	4 時間

		ます。	【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	
第8回	対面	【財産に対する罪②】 ・窃盗罪について、説明します。 ・強盗罪の基本類型（1項強盗罪・2項強盗罪）について、説明します。 ・強盗罪の拡張類型（事後強盗罪・昏睡強盗罪・強盗予備罪）について、説明します。 ・強盗罪の加重類型（強盗致死傷罪等・強盗・強制性交等罪・同致死罪）について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する授業資料およびテキスト該当箇所を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4時間
第9回	対面	【財産に対する罪③】 ・詐欺の罪（1項詐欺罪・2項詐欺罪・準詐欺罪・電子計算機使用詐欺罪）について、説明します。 ・恐喝の罪について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4時間
第10回	対面	【財産に対する罪④】 ・横領の罪について、説明します。 ・背任の罪について、説明します。 ・盗品等に関する罪について、説明します。 ・毀棄・隠匿の罪について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4時間
第11回	対面	【放火に関する罪・善良な風俗に対する罪】 ・放火・失火の罪について、説明します。 ・賭博罪・猥褻罪について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4時間
第12回	対面	【偽造に関する罪】 ・文書偽造の罪について、説明します。 ・通貨偽造の罪について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4時間
第13回	対面	【刑事司法に対する罪など】 ・逃走罪・偽証罪について、説明します。 ・公務の執行を妨害する罪について、説明します。 ・犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪について、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4時間
第14回	対面	【汚職に対する罪】 ・賄賂罪について、説明します。 ・その他、国家的法益に対する罪等（国家の存立に対する罪・国交に関する罪・虚偽告訴の罪・職権濫用の罪）について、時間の限りで、説明します。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料およびテキスト該当箇所を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4時間
第15回	オンデマンド	【まとめ】 ・授業内容の総復習を行います。 ・定期試験に向けたまとめを行います。	【予習】Learning Portalに掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4時間

科目名	刑法各論 I	開講年度	2025
担当者	漆畑 貴久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の学修：刑法各論に関する基本的知識を修得する。		
授業の目的及び概要	この授業は、犯罪と刑罰に関する基本的な法律である刑法に規定されている個別具体的な犯罪について、それぞれの成立要件（犯罪構成要件）を概観することを通して、刑法が規定する犯罪の全体像を把握することを予定しています。刑法は、有罪とされた人物のその後の人生に大きな影響を与える可能性が極めて高い法律であり、その適用に際しては、慎重な態度が求められます。こうした法律が我々の社会に存在する意味について学修してもらうことを予定しています。 授業の具体的な予定は、授業計画に示したとおりですが、受講生の理解の程度あるいは授業の進度等の都合から変更（重複、割愛等）する場合がありますので、予めご了承下さい。		
履修条件・留意点	履修条件は特にありません。 この科目は刑法各論の基本的な事項について学修してもらうことを想定した科目ですので、この科目で刑法の基本的な考え方について修得・理解して、発展科目の学修につなげていって下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	刑法各論に関する以下の知識の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができるようになることを、この授業の到達目標とします。 ①具体的事例に該当する犯罪を刑法各論の条文内から指摘することができる。 ②指摘した犯罪について規定する条文の趣旨・意義等を説明することができる。 ③指摘した犯罪の構成要件を上記②で説明した条文から説明できる。 ④指摘した犯罪の構成要件から、刑法各論において重要とされる事項について指摘することができる。 ⑤上記①～④に記載されている到達目標を文章を用いて達成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生から質問があった場合、質問内容によって必要に応じてフィードバックを行います。 授業での学修内容に関して質問がある場合、担当にメール等で問い合わせして下さい（アドレスは、ラーニングポータル等でお知らせします）。質問への回答に際して、受講生全体へのフィードバックを希望しない場合は「受講生全体へのフィードバックを希望しない」旨を知らせて下さい。その旨のお知らせがない場合、原則として、受講生全体にフィードバックします。 授業内での課題（確認小テスト等）の結果についても必要に応じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	法学教室ライブラリ入門刑法学・各論（第3版）、井田良、有斐閣、2024年。 六法は必携です（電子版でも可、但し最新版のものに限る）。	ISBN	9784641139749
参考書	①信山社双書法学編法学刑法2各論、設楽裕文、信山社、2010年。 ②信山社双書法学編法学刑法4演習（各論）、設楽裕文編、信山社、2010年。	ISBN	①9784797212723 ②9784797212747
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業を聞いた内容で、重要・必要と自分で判断したことを、ノートや配布プリント等にメモ書きする等、能動的な授業への参加が重要になります。 毎回、授業後に「確認小テスト」に取組んでもらいます。この小テストは「授業期間中の小テスト・レポート課題」として実施します（成績評価の40%に相当）。この小テストは出席確認も兼ねていますので、授業を受講した場合は必ず取組んで下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	授業方法等の説明・オリエンテーション 我が国の刑事司法制度の概要について	事前学修：「Y は、自分が窃盗被害に遭ったと認識した」。このとき Y がどのような行動をとるかを予想し、その上で、犯罪に対して我が国ではどのような対応が制度として用意されているのかを考えてみる。（2時間） 事後学修：授業で説明した刑事司法の流れを再度確認し、自分に言葉で正確に説明できるように整理する（授業で触れる内容には、教科書・レジュメに記載されてない内容が含まれる場合があります）。確認小テストに取組む。（2時間）	4時間
第2回	オンデマンド	生命・身体に対する罪① ・殺人罪 ・自殺関与罪等	事前学修：教科書（1－19 頁）及び配布レジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2時間） 事後学修：殺人罪及び自殺関与罪等に関して、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2時間）	4時間
第3回	オンデマンド	生命・身体に対する罪② ・傷害罪 ・暴行罪 ・過失傷害罪等	事前学修：教科書（21－39 頁。なお、43－61 頁は傷害罪の発展的な問題なので参考にして下さい）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2時間） 事後学修：傷害罪、暴行罪、及び過失傷害罪等について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2時間）	4時間
第4回	オンデマンド	生命・身体に対する罪③ ・危険運転致死傷罪 ・凶器準備集合罪 ・遺棄の罪	事前学修：教科書（39－42 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2時間） 事後学修：危険運転致死傷罪、凶器準備集合罪、及び遺棄の罪について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2時間）	4時間
第5回	オンデマンド	人身の自由を侵す罪 ・逮捕監禁罪 ・略取誘拐罪 ・人身売買罪等	事前学修：教科書（68－72 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2時間） 事後学修：逮捕監禁罪、略取誘拐罪、及び人身売買罪等について、それぞれ検討した内容を再度確認して	4時間

			整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	
第 6 回	オンデマンド	精神的自由・生活の平穏を侵害する罪 ・脅迫罪 ・住居侵入罪 ・名誉毀損罪等	事前学修：教科書（63－68 頁、82－90 頁、及び 139－140 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：脅迫罪、住居侵入罪、及び名誉棄損罪について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 7 回	オンデマンド	財産犯① ・窃盗罪 ・強盗罪等	事前学修：教科書（91－134 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：窃盗罪、及び強盗罪について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 8 回	オンデマンド	財産犯② ・詐欺罪 ・恐喝罪 ・横領罪等	事前学修：教科書（91－134 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておくこと。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：詐欺罪、恐喝罪、及び横領罪について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 9 回	オンデマンド	公共の平穏を害する罪 ・放火罪等	事前学修：教科書（135－172 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：放火罪について、授業で検討した内容を確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 10 回	オンデマンド	国民の健康を害する罪 ・あへん煙に関する罪 ・飲料水に関する罪等	事前学修：レジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した国民の健康を害する諸犯罪の内容について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 11 回	オンデマンド	偽造犯罪 ・通貨偽造罪 ・文書偽造罪 ・有価証券偽造罪等	事前学修：教科書（173－194 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した偽造犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 12 回	オンデマンド	社会生活の感情を侵す罪 ・賭博罪等 公務員による犯罪① ・職権濫用罪	事前学修：教科書（206－210 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておくこと。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した賭博罪等の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 13 回	オンデマンド	公務員による犯罪② ・賄賂罪等	事前学修：教科書（232－238 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六	4 時間

			法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した公務員による犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	
第 14 回	オンデマンド	公務を害する罪 ・公務執行妨害罪 ・犯人蔵匿・証拠隠滅罪等	事前学修：教科書（219－225 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した公務を害する犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 15 回	オンデマンド	国家の存立を危うくする罪 ・内乱罪 ・外患誘致罪等 授業のまとめ	事前学修：教科書（217－219 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した国家の存立にかかわる犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間

科目名	刑法各論 I	開講年度	2025
担当者	漆畑 貴久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の学修：刑法各論に関する基本的知識を修得する。		
授業の目的及び概要	この授業は、犯罪と刑罰に関する基本的な法律である刑法に規定されている個別具体的な犯罪について、それぞれの成立要件（犯罪構成要件）を概観することを通して、刑法が規定する犯罪の全体像を把握することを予定しています。刑法は、有罪とされた人物のその後の人生に大きな影響を与える可能性が極めて高い法律であり、その適用に際しては、慎重な態度が求められます。こうした法律が我々の社会に存在する意味について学修してもらうことを予定しています。 授業の具体的な予定は、授業計画に示したとおりですが、受講生の理解の程度あるいは授業の進度等の都合から変更（重複、割愛等）する場合がありますので、予めご了承下さい。		
履修条件・留意点	履修条件は特にありません。 この科目は刑法各論の基本的な事項について学修してもらうことを想定した科目ですので、この科目で刑法の基本的な考え方について修得・理解して、発展科目の学修につなげていって下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	刑法各論に関する以下の知識の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができるようになることを、この授業の到達目標とします。 ①具体的事例に該当する犯罪を刑法各論の条文内から指摘することができる。 ②指摘した犯罪について規定する条文の趣旨・意義等を説明することができる。 ③指摘した犯罪の構成要件を上記②で説明した条文から説明できる。 ④指摘した犯罪の構成要件から、刑法各論において重要とされる事項について指摘することができる。 ⑤上記①～④に記載されている到達目標を文章を用いて達成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生から質問があった場合、質問内容によって必要に応じてフィードバックを行います。 授業での学修内容に関して質問がある場合、担当にメール等で問い合わせして下さい（アドレスは、ラーニングポータル等でお知らせします）。質問への回答に際して、受講生全体へのフィードバックを希望しない場合は「受講生全体へのフィードバックを希望しない」旨を知らせて下さい。その旨のお知らせがない場合、原則として、受講生全体にフィードバックします。 授業内での課題（確認小テスト等）の結果についても必要に応じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	法学教室ライブラリ入門刑法学・各論（第3版）、井田良、有斐閣、2024年。 六法は必携です（電子版でも可、但し最新版のものに限る）。	ISBN	9784641139749
参考書	①信山社双書法学編法学刑法2各論、設楽裕文、信山社、2010年。 ②信山社双書法学編法学刑法4演習（各論）、設楽裕文編、信山社、2010年。	ISBN	①9784797212723 ②9784797212747
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業を聞いた内容で、重要・必要と自分で判断したことを、ノートや配布プリント等にメモ書きする等、能動的な授業への参加が重要になります。 毎回、授業後に「確認小テスト」に取組んでもらいます。この小テストは「授業期間中の小テスト・レポート課題」として実施します（成績評価の40%に相当）。この小テストは出席確認も兼ねていますので、授業を受講した場合は必ず取組んで下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前後学修（予習・復習等）	事前後の学修時間
第1回	オンデマンド	授業方法等の説明・オリエンテーション 我が国の刑事司法制度の概要について	事前学修：「Y は、自分が窃盗被害に遭ったと認識した」。このとき Y がどのような行動をとるかを予想し、その上で、犯罪に対して我が国ではどのような対応が制度として用意されているのかを考えてみる。（2時間） 事後学修：授業で説明した刑事司法の流れを再度確認し、自分に言葉で正確に説明できるように整理する（授業で触れる内容には、教科書・レジュメに記載されてない内容が含まれる場合があります）。確認小テストに取組む。（2時間）	4 時間
第2回	オンデマンド	生命・身体に対する罪① ・殺人罪 ・自殺関与罪等	事前学修：教科書（1－19 頁）及び配布レジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：殺人罪及び自殺関与罪等に関して、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第3回	オンデマンド	生命・身体に対する罪② ・傷害罪 ・暴行罪 ・過失傷害罪等	事前学修：教科書（21－39 頁。なお、43－61 頁は傷害罪の発展的な問題なので参考にして下さい）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：傷害罪、暴行罪、及び過失傷害罪等について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第4回	オンデマンド	生命・身体に対する罪③ ・危険運転致死傷罪 ・凶器準備集合罪 ・遺棄の罪	事前学修：教科書（39－42 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：危険運転致死傷罪、凶器準備集合罪、及び遺棄の罪について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第5回	オンデマンド	人身の自由を侵す罪 ・逮捕監禁罪 ・略取誘拐罪 ・人身売買罪等	事前学修：教科書（68－72 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：逮捕監禁罪、略取誘拐罪、及び人身売買罪等について、それぞれ検討した内容を再度確認して	4 時間

			整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	
第 6 回	オンデマンド	精神的自由・生活の平穏を侵害する罪 ・脅迫罪 ・住居侵入罪 ・名誉毀損罪等	事前学修：教科書（63－68 頁、82－90 頁、及び 139－140 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：脅迫罪、住居侵入罪、及び名誉棄損罪について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 7 回	オンデマンド	財産犯① ・窃盗罪 ・強盗罪等	事前学修：教科書（91－134 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：窃盗罪、及び強盗罪について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 8 回	オンデマンド	財産犯② ・詐欺罪 ・恐喝罪 ・横領罪等	事前学修：教科書（91－134 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておくこと。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：詐欺罪、恐喝罪、及び横領罪について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 9 回	オンデマンド	公共の平穏を害する罪 ・放火罪等	事前学修：教科書（135－172 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：放火罪について、授業で検討した内容を確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 10 回	オンデマンド	国民の健康を害する罪 ・あへん煙に関する罪 ・飲料水に関する罪等	事前学修：レジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した国民の健康を害する諸犯罪の内容について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 11 回	オンデマンド	偽造犯罪 ・通貨偽造罪 ・文書偽造罪 ・有価証券偽造罪等	事前学修：教科書（173－194 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した偽造犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 12 回	オンデマンド	社会生活の感情を侵す罪 ・賭博罪等 公務員による犯罪① ・職権濫用罪	事前学修：教科書（206－210 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておくこと。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した賭博罪等の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 13 回	オンデマンド	公務員による犯罪② ・賄賂罪等	事前学修：教科書（232－238 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六	4 時間

			法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した公務員による犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	
第 1 4 回	オンデマンド	公務を害する罪 ・公務執行妨害罪 ・犯人蔵匿・証拠隠滅罪等	事前学修：教科書（219－225 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した公務を害する犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	国家の存立を危うくする罪 ・内乱罪 ・外患誘致罪等 授業のまとめ	事前学修：教科書（217－219 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した国家の存立にかかわる犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間

科目名	刑法総論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	漆畑 貴久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の発展的学修		
授業の目的及び概要	本講義は、刑法総論の発展科目として、受講生が刑法総論の重要論点について考察できるようになることを目的とします。授業では、これまでに履修してきた刑事法系科目（刑法総論Ⅰ、刑法各論Ⅰ等）を通して修得してきた専門知識をもとに、刑法総論に関する諸問題について、問題の所在を理解し、学説・判例の動向を把握し、そして刑事法学的な思考方法による解決を示すことができるようになることで、専門知識・能力の高度化を図るとともに、論理的思考能力を高めます。 授業の予定は授業計画の通りですが、内容の重要度、受講生の理解等の事情によって変更・割愛されることがありますので、予めご了承ください。		
履修条件・留意点	本科目は刑法総論の発展科目であり、刑法総論、並びに刑法各論に関する基本的な知識があることを前提に授業を進めますので、それらの科目の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の事項の修得を通して、刑事法学的な物事の見え方ができることを、本授業の目標とします。 ①刑法総論の重要論点について、刑法総論のどのような点に関わる問題であるのかを説明できる。 ②説明した問題に対する解釈学的解決方法を説明できる。 ③説明した問題に対する判例の立場を説明できる。 ④上記①～③について、「問題の所在、学説・判例の立場、及び自身の見解」という構成の文章で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で作成・提出してもらったりアクションペーパーの内容に基づいて、必要に応じて次回以降の授業内で行います。また、学生から質問があった場合にも適宜実施します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。各自が現在使用している基本書等を準備の上で授業に臨んで下さい。 授業に際してはレジュメ資料（プリント）を配布します。ラーニングポータルを通して配布しますので、各自入手して授業に臨んで下さい。 六法は必携です（電子版でも可。最新版のものに限ります）。	ISBN	なし
参考書	①判例刑法総論（第8版）、山口厚・佐伯仁志・橋爪隆、有斐閣、2023年 ②法律学講座双書刑法総論（第3版）、西田典之著・橋爪隆補訂、弘文堂、2019年	ISBN	①9784641139619 ②9784335315466
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この科目は、上述のように、刑事系科目の発展科目になります。単位修得は容易ではありませんので、それなりの覚悟をもって授業に臨んで下さい。 授業内で数回、リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。このペーパーの提出をもって「授業期間中の小テスト・レポート課題等」に代えます（評価の40%に相当します）。評価のためのペーパーの作成・提出ですので、その旨を認識して、リアクションペーパーを作成・提出するようにして下さい。 対面授業では、授業の際に担当が受講生に対して発問をすることがあります。発問に解答してくれた受講生には、能動的授業態度として加点します。 履修態度が劣悪と判断される受講者に対しては、退席、出席停止等の措置を取ります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス。本講義における学修の前提として、刑法総論における犯罪成立の要件の概要を復習・確認します。	事前学修：これまでの刑事系科目（刑法総論Ⅰ、あるいは刑法各論Ⅰ等）の学修内容を整理し確認しておくこと。（2時間） 事後学修：刑法における犯罪成立の一般的要件について確認し、刑法の全体像や刑事司法制度の概要について説明できるようになっておく。（2時間）	4時間
第2回	対面	構成要件該当性①実行行為：不作為犯 不真正不作為犯をめぐる議論、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第3回	対面	構成要件該当性②実行行為：間接正犯 間接正犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第4回	対面	構成要件該当性③実行行為：因果関係 因果関係をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第5回	対面	構成要件該当性④構成要件の故意：錯誤 特に具体的事実の錯誤をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等を中心に学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第6回	対面	構成要件該当性⑤構成要件の故意：錯誤（続き） 前回の授業に引続いて、錯誤をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認	4時間

		します。	する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	
第7回	対面	構成要件該当性⑥構成要件の過失 構成要件の過失をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第8回	対面	違法性①正当行為：被害者の承諾 正当行為、特に被害者の同意をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第9回	対面	違法性②正当防衛 正当防衛をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第10回	対面	違法性③緊急避難 緊急避難をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第11回	対面	有責性 責任能力 有責性判断をめぐる諸議論、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第12回	対面	未遂 未遂・予備等をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第13回	対面	共犯① 共犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第14回	対面	共犯② 前回授業に引き続き、共犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこで	4時間

			この判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2 時間)	
第 1 5 回	オンデマンド	授業のまとめ・振り返り これまでの授業での学修内容を改めて復習・確認し、定期試験に向けたまとめ・振り返りを行います。	事前学修：不要 事後学修：今回の授業で取り上げた事項について、それまでに学修してきた授業での内容と照らし合わせて確認する。特に授業で紹介した重要な論点・問題点については、①問題の所在、②学説・判例の立場、及び③自分の考えを示すことができるように整理すること。(4 時間)	4 時間

科目名	刑法総論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	漆畑 貴久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の発展的学修		
授業の目的及び概要	本講義は、刑法総論の発展科目として、受講生が刑法総論の重要論点について考察できるようになることを目的とします。授業では、これまでに履修してきた刑事法系科目（刑法総論Ⅰ、刑法各論Ⅰ等）を通して修得してきた専門知識をもとに、刑法総論に関する諸問題について、問題の所在を理解し、学説・判例の動向を把握し、そして刑事法学的な思考方法による解決を示すことができるようになることで、専門知識・能力の高度化を図るとともに、論理的思考能力を高めます。 授業の予定は授業計画の通りですが、内容の重要度、受講生の理解等の事情によって変更・割愛されることがありますので、予めご了承ください。		
履修条件・留意点	本科目は刑法総論の発展科目であり、刑法総論、並びに刑法各論に関する基本的な知識があることを前提に授業を進めますので、それらの科目の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の事項の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができることを、本授業の目標とします。 ①刑法総論の重要論点について、刑法総論のどのような点に関わる問題であるのかを説明できる。 ②説明した問題に対する解釈学的解決方法を説明できる。 ③説明した問題に対する判例の立場を説明できる。 ④上記①～③について、「問題の所在、学説・判例の立場、及び自身の見解」という構成の文章で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で作成・提出してもらったりアクションペーパーの内容に基づいて、必要に応じて次回以降の授業内で行います。また、学生から質問があった場合にも適宜実施します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。各自が現在使用している基本書等を準備の上で授業に臨んで下さい。 授業に際してはレジュメ資料（プリント）を配布します。ラーニングポータルを通して配布しますので、各自入手して授業に臨んで下さい。 六法は必携です（電子版でも可。最新版のものに限ります）。	ISBN	なし
参考書	①判例刑法総論（第8版）、山口厚・佐伯仁志・橋爪隆、有斐閣、2023年 ②法律学講座双書刑法総論（第3版）、西田典之著・橋爪隆補訂、弘文堂、2019年	ISBN	①9784641139619 ②9784335315466
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この科目は、上述のように、刑事系科目の発展科目になります。単位修得は容易ではありませんので、それなりの覚悟をもって授業に臨んで下さい。 授業内で数回、リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。このペーパーの提出をもって「授業期間中の小テスト・レポート課題等」に代えます（評価の40%に相当します）。評価のためのペーパーの作成・提出ですので、その旨を認識して、リアクションペーパーを作成・提出するようにして下さい。 対面授業では、授業の際に担当が受講生に対して発問をすることがあります。発問に解答してくれた受講生には、能動的授業態度として加点します。 履修態度が劣悪と判断される受講者に対しては、退席、出席停止等の措置を取ります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス。本講義における学修の前提として、刑法総論における犯罪成立の要件の概要を復習・確認します。	事前学修：これまでの刑事系科目（刑法総論Ⅰ、あるいは刑法各論Ⅰ等）の学修内容を整理し確認しておくこと。（2時間） 事後学修：刑法における犯罪成立の一般的要件について確認し、刑法の全体像や刑事司法制度の概要について説明できるようになっておく。（2時間）	4時間
第2回	対面	構成要件該当性①実行行為：不作為犯 不真正不作為犯をめぐる議論、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第3回	対面	構成要件該当性②実行行為：間接正犯 間接正犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第4回	対面	構成要件該当性③実行行為：因果関係 因果関係をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第5回	対面	構成要件該当性④構成要件の故意：錯誤 特に具体的事実の錯誤をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等を中心に学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第6回	対面	構成要件該当性⑤構成要件の故意：錯誤（続き） 前回の授業に引続いて、錯誤をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認	4時間

		します。	する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	
第7回	対面	構成要件該当性⑥構成要件の過失 構成要件の過失をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第8回	対面	違法性①正当行為：被害者の承諾 正当行為、特に被害者の同意をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第9回	対面	違法性②正当防衛 正当防衛をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第10回	対面	違法性③緊急避難 緊急避難をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第11回	対面	有責性 責任能力 有責性判断をめぐる諸議論、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第12回	対面	未遂 未遂・予備等をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第13回	対面	共犯① 共犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2時間)	4時間
第14回	対面	共犯② 前回授業に引き続き、共犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこで	4時間

			この判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2 時間)	
第 1 5 回	オンデマンド	授業のまとめ・振り返り これまでの授業での学修内容を改めて復習・確認し、定期試験に向けたまとめ・振り返りを行います。	事前学修：不要 事後学修：今回の授業で取り上げた事項について、それまでに学修してきた授業での内容と照らし合わせて確認する。特に授業で紹介した重要な論点・問題点については、①問題の所在、②学説・判例の立場、及び③自分の考えを示すことができるように整理すること。(4 時間)	4 時間

科目名	刑法総論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論を立体的に把握しよう		
授業の目的及び概要	・刑法の「問題」は机の上でのみ存在するのではなく、実際に適用されると、適用された人の人生を大きく左右することになるほど重大な影響を及ぼす「現実の問題」であるということを受講生が意識した上で、「なぜその結論になるのか」「どうしてそのように考えるのか」について、しっかりと理解し、自身の言葉で説明できるように、一緒に悩み、考えていくような講義を目指します。 ・この講義では、刑法総論の基本的な事項は知っているという前提で、少し発展的な内容を扱います。 ・犯罪論・刑罰論や刑法の歴史などについては割愛し、原則として構成要件該当性・違法性・責任の順に授業を進めていきます。 ・刑法総論の諸問題に関する判例・学説について、受講生がイメージして理解できるよう、裁判例や身近な設例等の具体的な事例を交えながら解説し、一つ一つの問題についてさまざまな角度（判例・学説）から見ることで、刑法総論を立体的に把握していきます。 ・この講義では、一部で受講生に問いかけ、答えてもらうという形態をとります。ただ、問いかけは答え合わせのように正解を求めるものではなく、みんなで考えていくための質問ですので、正解不正解を気にすることなく楽しく参加してくださいね。減点もありません。		
履修条件・留意点	この授業科目は「刑法総論Ⅰ」の単位を修得済みである学生を対象とします。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・具体的事案について、前提となる事実を分析することで刑法上の問題を指摘できるようになる。 ・指摘した問題に関する判例や学説の立場を説明できるようになる。 ・指摘した問題について、判例や学説を踏まえて検討し、自分のとる見解を明らかにすることができるようになる。 ・具体的事案について、以上を踏まえて一定の結論を示すことができるようになる。 ・以上について、自身の理解を自身の言葉で表現し、他者に説得的に伝えることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・学生が提出するリアクションペーパーについて、適宜必要に応じて授業時間内にフィードバックを行います。 ・定期試験については、簡単な解説・講評を Learning Portal 上に掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しませんが、各自が自分に合うと思う基本書及び判例集を持参してください。 『六法』（小型のもので可。紙媒体に限る）は毎回持参してください。 （参考書欄に決めかねた場合におすすめのものをあげます。①の講義刑法学は難易度が高めです）	ISBN	なし
参考書	【基本書】 ①講義刑法学・総論【第2版】井田良、有斐閣、2018年 ②基本刑法Ⅰ 総論【第3版】、大塚裕史・十河太郎・	ISBN	①9784641139329 ②9784535523838 ③9784641115507

	塩谷毅・豊田兼彦，日本評論社，2019 年 【判例集】 ③刑法判例百選Ⅰ〔第8版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	【注意事項】 ・発展的な内容を扱うため、基本事項は習得済みであることを前提として進みます。必要に応じて復習をして臨んでください。それでもわからないところがあれば、気軽に質問にきてください。 ・毎回の講義で基本的な設問がついたリアクションペーパーを配布しますので、設問に解答の上で提出してください。 【メッセージ】 刑法の授業は、ただ聞いているだけでは「わかる」ようにはなっても、「できる」ようにはならないと思います。「なんとなくわかるけど、いざ試験になると何を書けばいいのかわからない」、そんな経験はありませんか？ 「わかる」と「できる」の間にある壁は大きく、自分の頭で悩み考えてみないと、「できる」ようにはなりません。それが学習する上での難しさの一つだと思います。一方で、悩み考えた末に得たものは、刑法にとどまらず、人生の幹になりうると思います。 みんなで一緒に悩み、考えることで一人一人が「できる」ようになる、そんな授業を目指します。一緒に楽しんでいきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	【ガイダンス】 授業の進め方、成績評価の方法などを説明した上で、基本的な学習方法を紹介します。 刑法の事例問題の解き方について、実際の問題を素材に解説します。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問について自分なりの考えをまとめておいてください。（0.5 時間） 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。（1.5 時間）	4 時間
第 2 回	対面	【構成要件論①：因果関係】 構成要件論のうち、因果関係の意義と条件関係、法的因果関係について扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。（1.5 時間） 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。（2.5 時間）	4 時間
第 3 回	対面	【構成要件論②：不作為犯／故意】 構成要件論のうち、不作為犯と故意について扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。（1.5 時間） 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。（2.5 時間）	4 時間

			い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。 (2.5 時間)	
第4回	対面	【構成要件論③：錯誤論】 構成要件論のうち、錯誤論（特に具体的事実の錯誤）について扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。 (2.5 時間)	4 時間
第5回	対面	【構成要件論④：過失犯／結果的加重犯】 構成要件論のうち、過失犯（特に結果の予見可能性と結果回避義務違反、過失の標準）と結果的加重犯について扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。 (2.5 時間)	4 時間
第6回	対面	【違法性論①：違法性阻却事由総論／正当行為／被害者の承諾】 違法性論のうち、違法性阻却事由の総論的部分について解説した後、正当行為（主に法令行為と正当業務行為）と被害者の承諾（同意、治療行為等）について扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。 (2.5 時間)	4 時間
第7回	対面	【違法性論②：正当防衛】 違法性論のうち、正当防衛に関して、その要件（急迫性等）、過剰防衛、並びに誤想防衛及び誤想過剰防衛について扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。 (2.5 時間)	4 時間
第8回	対面	【違法性論③：緊急避難／違法性阻却事由の錯誤】 違法性論のうち、緊急避難（その要件と諸問題、並びに、過剰避難及び誤想過剰避難）と違法性阻却事由の錯誤について扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。 (2.5 時間)	4 時間
第9回	対面	【中間復習】 これまでの復習と、事例問題の検討を実施します。	【予習】 指示に従い出題された課題の解答を作成してください。(2.5 時間) 【復習】 授業内容をよく思い返した上で、もう一度課題を手書きで解き直してください。(1.5 時間)	4 時間
第10回	対面	【責任論】 責任の本質について概説した上で、主に責任能力、違法性の意識の可能性、適法行為	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめ	4 時間

		の期待可能性について扱います。	ておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。(2.5 時間)	
第 1 1 回	対面	【未遂犯論】 未遂犯と実行の着手、不能犯、中止犯について扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。(2.5 時間)	4 時間
第 1 2 回	対面	【共犯論①：正犯と共犯】 共犯論（正犯論）のうち、正犯概念と間接正犯、原因において自由な行為について扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。(2.5 時間)	4 時間
第 1 3 回	対面	【共犯論②：共同正犯】 共犯論のうち、共同正犯（共同正犯の理論的根拠、共同正犯の要件、共謀共同正犯や承継的共同正犯等）について扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。(2.5 時間)	4 時間
第 1 4 回	対面	【共犯論③：教唆犯と幫助犯／共犯の諸問題】 【罪数論】 共犯論のうち、教唆犯と幫助犯（理論的根拠や要件等）や共犯に関する諸問題（共犯と錯誤、共犯の中止、共犯と身分等）について扱います。また、罪数論についてもこの回（及び第 1 5 回）で扱います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。(2.5 時間)	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	【まとめと総括】 全体の総まとめを行います。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問についてレジュメや基本書等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。(1.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。(2.5 時間)	4 時間

科目名	刑法各論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	漆畑 貴久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の発展的学修		
授業の目的及び概要	本講義は、刑法各論の発展科目であり、受講生が刑法各論の重要論点について考察できるようになることを目的とします。授業では、これまでに履修してきた刑事法系科目（刑法総論Ⅰ、刑法各論Ⅰ、刑法総論Ⅱ等）を通して修得してきた専門知識をもとに、刑法各論の諸問題のうち、特に財産犯を中心に検討・考察することを通して、問題の所在を明らかにし、学説・判例の動向を把握して、そして刑事法学的な思考方法による解決を示すことができるようになることで、専門知識・能力の高度化を図るとともに、論理的思考能力を高めます。授業の予定は授業計画の通りですが、内容の重要度、受講生の理解等の事情によって変更・割愛されることがありますので、予めご了承ください。		
履修条件・留意点	本科目は刑法各論の発展科目であり、刑法総論、並びに刑法各論の基本的な知識があることを前提として授業を進めますので、刑法総論Ⅰ、刑法各論Ⅰ等の科目の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の事項の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができることを、本授業の目標とします。 ①刑法各論の重要論点について、刑法各論のどのような点に関わる問題であるのかを説明できる。 ②説明した問題に対する解釈学的解決方法を説明できる。 ③説明した問題に対する判例の立場を説明できる。 ④上記①～③について、「問題の所在、学説・判例の立場、及び自身の見解」という構成の文章で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で作成・提出してもらったリアクションペーパーの内容に基づいて、必要に応じて次回以降の授業内で行います。また、学生から質問があった場合にも適宜実施します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。各自が現在使用している基本書等を準備の上で授業に臨んで下さい。 授業に際してはレジュメ資料（プリント）を配布します。ラーニングポータルを通して配布しますので、各自入手して授業に臨んで下さい。 六法は必携です（電子版でも可。最新版のものに限ります）。	ISBN	なし
参考書	①判例刑法各論（第8版）、山口厚・佐伯仁志・橋爪隆、有斐閣、2023年 ②法律学講座双書刑法各論（第7版）、西田典之著・橋爪隆補訂、弘文堂、2018年	ISBN	①9784641139626 ②9784335304798
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この科目は、上述のように、刑事系科目の発展科目になります。単位修得は容易ではありませんので、それなりの覚悟をもって授業に臨んで下さい。 授業内で数回、リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。このペーパーの提出をもって「授業期間中の小テスト・レポート課題等」に代えます（評価の40%に相当します）。評価のためのペーパーの作成・提出ですので、その旨を認識して、リアクションペーパーを作成・提出するようにして下さい。 対面授業では、授業の際に担当が受講生に対して発問をすることがあります。発問に解答してくれた受講生には、能動的授業態度として加点します。 履修態度が劣悪と判断される受講者に対しては、退席、出席停止等の措置を取ります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス。刑法各論の意義・構造等について概説します。	事前学修：刑法総論Ⅰ、及び刑法各論Ⅰの学習内容を整理し確認しておくこと。（2時間） 事後学修：刑法各論の全体像や刑事司法制度の概要について説明できるように、授業で言及した内容等を整理・確認する。（2時間）	4時間
第2回	対面	財産犯総説1：財産犯について総論的に概観します。財産犯について学修・理解するために必要な基本的な知識を修得して、各財産犯について学修する準備を行います。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第3回	対面	財産犯総説2：財産犯の保護法益や「不法領得の意思」等、財産犯について発展的に学修するために必要な知識の修得を目指します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第4回	対面	窃盗罪1：窃盗罪の基本的構成要件とそれに関連する諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第5回	対面	窃盗罪2：窃盗罪をめぐる諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。（2時間）	4時間
第6回	対面	強盗罪1：強盗罪の基本的構成要件とそれに関連する諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。（2時間） 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこで	4時間

			この判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2 時間)	
第 7 回	対面	強盗罪 2：強盗罪をめぐる諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2 時間)	4 時間
第 8 回	対面	強盗罪 3：強盗罪の諸類型（準強盗罪、強盗致死傷罪等）について検討します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2 時間)	4 時間
第 9 回	対面	詐欺罪 1：詐欺罪の基本的構成要件とそれに関連する諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2 時間)	4 時間
第 10 回	対面	詐欺罪 2：詐欺罪をめぐる諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2 時間)	4 時間
第 11 回	対面	詐欺罪 3：詐欺罪の諸類型（訴訟詐欺、クレジットカード詐欺等）について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2 時間)	4 時間
第 12 回	対面	恐喝罪：恐喝罪の基本的構成要件及び構成要件をめぐる問題点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2 時間)	4 時間
第 13 回	対面	横領罪・背任罪：横領罪、並びに背任罪の基本的構成要件とそれをめぐる諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。 (2 時間)	4 時間
第 14 回	対面	性的自己決定に対する犯罪（不同意性交等罪）：近時の性犯罪に対する法的対応の状況（法改正等）を概観・整理したうえで、各犯罪の成立要件を把握・検討します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。各犯罪の構成要件を把握して、どのような場合に犯罪となるのかについて説明できるようになるこ	4 時間

			と。(2時間)	
第15回	オンデマンド	授業のまとめ・振り返り 今回の授業では、これまでの授業を通して学修してきた内容を振り返り、定期試験に向けての最終的な準備を行います。	事前学修：不要 事後学修：授業での学習内容を、これまでに使用した資料（レジюме）や基本書を用いて確認する。具体的事例において、①問題の所在、②学説・判例の立場、及び③自身の見解を示すことができるように確認して準備を進める。(4時間)	4時間

科目名	刑法各論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の発展学修		
授業の目的及び概要	・刑法の「問題」は机の上でのみ存在するものではなく、実際に適用されると適用された人の人生を大きく左右することになるほど重大な影響を及ぼす「現実の問題」であるということを受講生が意識した上で、「なぜその結論になるのか」「どうしてそのように考えるのか」について、しっかりと理解し、自身の言葉で説明できるように、一緒に悩み、考えていくような講義を目指します。 ・この講義では、刑法総論及び刑法各論の基本的な事項は知っているという前提で、刑法各論の少し発展的な内容を扱います。 ・刑法各論の諸問題に関する判例・学説について、受講生がイメージして理解できるよう、裁判例や身近な設例等の具体的な事例を交えながら解説します。 ・この講義では、一部で受講生に問いかけ、答えてもらうという形態をとります。ただ、問いかけは答え合わせのように正解を求めるものではなく、みんなで考えていくための質問ですので、正解不正解を気にすることなく楽しく参加してくださいね（減点もありません）。		
履修条件・留意点	この授業科目は刑法総論Ⅰ・刑法各論Ⅰの上位科目であり、これらを履修済みの学生を対象とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・具体的事案について、前提となる事実を分析することで該当する犯罪を指摘できるようになる。 ・指摘した犯罪の趣旨や保護法益について説明できるようになる。 ・指摘した犯罪の構成要件について説明できるようになる。 ・具体的事案における事実を指摘した犯罪の構成要件に当てはめる際に生じる問題について指摘し、一定の結論を示すことができるようになる。 ・以上について、自身の理解を自身の言葉で表現し、他者に説得的に伝えることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・学生が提出するリアクションペーパーについて、適宜必要に応じて授業時間内にフィードバックを行います。 ・定期試験については、簡単な解説・講評を Learning Portal 上に掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	基本刑法Ⅱ〔第4版〕, 大塚裕史・十河太郎・塩谷毅・豊田兼彦, 日本評論社, 2024 年 『六法』（小型のもので可。紙媒体に限る）は毎回持参してください。	ISBN	978-4-535-52818-5
参考書	【できれば全員に入手して欲しい】 ①刑法判例百選Ⅱ〔第8版〕, 佐伯仁志・橋爪隆編, 有斐閣, 2020 年 【2023 年改正に対応していますが、全体的に難しいので、意欲のある人に】 ②講義刑法学・各論〔第3版〕, 井田良, 有斐閣, 2023 年 ※その他の参考書については、必要に応じて授業中に	ISBN	①978-4-641-11551-4 ②978-4-641-13967-1

	指示します	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	【注意事項】 ・発展的な内容を扱うため、基本事項は習得済みであることを前提として進みます。必要に応じて復習をして臨んでください。それでもわからないところがあれば、気軽に質問にきてください。 ・毎回の講義で基本的な設問がついたりアクションペーパーを配布しますので、設問に解答の上で提出してください 【メッセージ】 刑法の授業は、ただ聞いているだけでは「わかる」ようにはなっても、「できる」ようにはならないと思います。「なんとなくわかるけど、いざ試験になると何を書けばいいのかかわからない」、そんな経験はありませんか？ 「わかる」と「できる」の間にある壁は大きく、自分の頭で悩み考えてみないと、「できる」ようにはなりません。それが学習する上での難しさの一つだと思います。一方で、悩み考えた末に得たものは、刑法にとどまらず、人生の幹になりうると思います。 みんなで一緒に悩み、考えることで一人一人が「できる」ようになる、そんな授業を目指します。一緒に楽しんでいきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前後学修（予習・復習等）	事前後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業の進め方などを確認した上で、基本的な学習方法を紹介します。 刑法の事例問題の解き方について、実際の問題を素材に解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載するレジュメを読み、事例と設問について自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4 時間
第2回	対面	【生命・身体に対する罪①】 殺人罪、傷害罪、暴行罪、傷害致死罪、過失致死罪、堕胎罪や遺棄罪といった生命・身体に対する犯罪のうち、主に殺人罪、遺棄罪の重要問題について扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでおいてください。Learning Portal に掲載するレジュメを読み、事例や設問についてレジュメやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。 ※シラバス執筆時点においてはテキストが発売されていないため、テキストの具体的なページ数は記載していません。授業において指示します。	4 時間
第3回	対面	【生命・身体に対する罪②】 殺人罪、傷害罪、暴行罪、傷害致死罪、過失致死罪、堕胎罪や遺棄罪といった生命・身体に対する犯罪のうち、暴行罪、傷害罪、同時傷害の特例の重要問題を扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでおいてください。Learning Portal に掲載するレジュメを読み、事例や設問についてレジュメやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】	4 時間

			レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	
第4回	対面	【自由・平穩に対する罪①】 逮捕・監禁罪、脅迫罪、強要罪、略取誘拐罪、不同意性交等罪、住居侵入罪、業務妨害罪といった自由・平穩に対する犯罪のうち、主に逮捕・監禁罪、略取誘拐罪、不同意性交等罪の重要問題について扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュメを読み、事例や設問についてレジュメやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4 時間
第5回	対面	【自由・平穩に対する罪②】 住居侵入罪の重要問題を扱います。 【名誉に対する罪等】 名誉毀損罪、侮辱罪、信用毀損罪、業務妨害罪といった犯罪の重要問題を扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュメを読み、事例や設問についてレジュメやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4 時間
第6回	対面	【財産に対する罪①】 窃盗罪の重要問題を扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュメを読み、事例や設問についてレジュメやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4 時間
第7回	対面	【財産に対する罪②】 1 項強盗罪・2 項強盗罪の重要問題について扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュメを読み、事例や設問についてレジュメやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4 時間
第8回	対面	【財産に対する罪③】 事後強盗罪・強盗致死傷罪等の重要問題について扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュメを読み、事例や設問についてレジュメやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4 時間
第9回	対面	【財産に対する罪④】 詐欺罪・恐喝罪の重要問題を扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュメを読み、事例や設問についてレジュメやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4 時間

第10回	対面	【財産に対する罪⑤】 横領罪の重要問題を扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュームを読み、事例や設問についてレジュームやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュームを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4時間
第11回	対面	【財産に対する罪⑥】 背任罪の重要問題について扱います。 盗品等関与罪の重要問題について扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュームを読み、事例や設問についてレジュームやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュームを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4時間
第12回	対面	【放火に関する罪】 放火に関する罪の重要問題を扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュームを読み、事例や設問についてレジュームやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュームを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4時間
第13回	対面	【偽造に関する罪】 文書偽造罪の重要問題を扱います。 【刑事司法に対する罪など】 犯人蔵匿等罪・証拠隠滅等罪の重要問題について検討します。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュームを読み、事例や設問についてレジュームやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュームを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4時間
第14回	対面	【汚職に関する罪など】 賄賂罪と公務執行妨害罪の重要問題を扱います。	【予習】 テキストの該当箇所を読んでください。Learning Portalに掲載するレジュームを読み、事例や設問についてレジュームやテキスト等を参考に自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュームを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4時間
第15回	オンデマンド	【まとめと総括】 授業内容の総復習と定期試験に向けたまとめを行います。	【予習】 Learning Portalに掲載するレジュームを読んでください。 【復習】 レジュームを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましよう。	4時間

科目名	刑事政策	開講年度	2025
担当者	漆畑 貴久	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事政策について学ぶ：犯罪の原因と対策について考える。		
授業の目的及び概要	刑事政策とは、犯罪の原因を探究し、これに基づき犯罪を防止するための国家、団体、個人の活動をいうと考えられています（事実としての刑事政策）。この授業では、この刑事政策を一定の理念から批判的に検証し、より合理的かつより効果的な諸原則の体系を探究する学問である刑事政策学（学問としての刑事政策）の基本的知識の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができるようになることを目指します。そのために、授業では、刑事政策についての基本的な考え方を概観し、我が国で生じている刑事政策上の諸問題についてどのように対処すべきかを検討していくことを通して、論理的思考力や社会事象に対する幅広い視野を修得していきます。 授業の内容は下記授業計画の通りですが、テーマの重要度や受講生の理解の状況等によって適宜変更する場合がありますので、予めご了承ください。		
履修条件・留意点	履修条件等は特にありません。刑法、刑事訴訟法についての基本的な知識があることを前提として授業を進めますので、それらの科目を履修していることが推奨されます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の諸点について説明できることを通して、刑事法学的な物事の考え方ができるようになることをこの授業の達成目標とします。 ①我が国における刑事司法制度の概要について説明できる。 ②我が国における犯罪現象の現状について資料に基づいて説明できる。 ③我が国における犯罪への対応の現状について、刑事司法制度の各場面ごとに説明できる。 ④個別の犯罪類型について、我が国の刑事政策上の問題点とその対策について自身の考えを述べることができる。 ⑤上記①～④について、文章で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で作成・提出してもらったりアクションペーパーの記載内容に応じて、適宜、次回以降の授業内で実施します。また、受講生から質問があった場合にも、必要に応じて実施します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。授業に際しては、レジュメ資料（プリント）を配布します。レジュメ資料は、ラーニングポータルを通して配布しますので、入手した上で、授業に出席するようにして下さい。 なお、六法は必携です（最新版のものに限る。なお、電子版でも可）。	ISBN	なし
参考書	授業内で適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	60	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	刑事事件に関するニュース・報道に関心を払うようにしてください。 授業では、レジュメを配布しますので、事前に入手するようにして下さい。授業内での説明等について、受講生自身が重要・必要と判断した内容を適示メモ書きする等、能動的な学修が重要となります。 対面授業の際には、教員が適宜発問して受講生に解答を求めることがあります。自発的に解答してくれた受講生については、能動的学修態度として最終評価に加点します。 受講態度が劣悪と判断された受講生に対しては、退席、あるいは出席停止等の措置をとります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション。我が国の刑事司法制度の概要、並びに刑事政策の意義について把握する。	事前学修：Yは、自身が「泥棒」の被害に遭ったと認識した。このYが「泥棒」の被害を警察等の捜査機関に通報し、犯人としてAが逮捕された。このAが、その後どのように扱われることになるのかについて、自分なりに考えておく。（2時間） 事後学修：「事前学修」で示した「A」に対する扱いがどのようなものであったのかについて再度確認する。刑事政策の意味等、授業内で接した専門用語その他初めて接した言葉等について改めて確認する。（2時間）	4時間
第2回	対面	我が国の犯罪の現状について、統計資料を参照しつつ、把握する。	事前学修：レジュメ・犯罪統計等を参照して、我が国の犯罪の現状についてどのようなことが指摘できるのかを自分なりに考えておく。（2時間） 事後学修：我が国の犯罪の現状についてどのようなことを指摘できるのかを改めて確認し、自分なりに説明できるように文章等を考えてみる。（2時間）	4時間
第3回	対面	犯罪の被害者について考える。	事前学修：レジュメを参照して、犯罪被害者に関する諸理論について内容を通読しておく。分からない言葉等をチェックしておく。（2時間） 事後学修：犯罪被害者の現状に対する理解から、どのような施策が展開されているのかを確認する。犯罪被害者に関する諸理論について整理し、どのような考え方であるのかを簡単に説明できるよう自分なりに言葉でまとめておく。分からなかった言葉等について確認する。（2時間）	4時間
第4回	対面	犯罪の原因について考える（犯罪原因論）。	事前学修：レジュメを参照して、犯罪原因に関する諸理論について内容を通読しておく。分からない言葉等をチェックしておく。（2時間） 事後学修：犯罪原因に関する諸理論について整理し、どのような考え方であるのかを簡単に説明できるよう自分なりに言葉でまとめておく。分からなかった言葉等について確認する。（2時間）	4時間
第5回	対面	刑罰制度について考える①刑罰の目的・意義について、並びに死刑制度について考える。	事前学修：レジュメを参照して、犯罪をした者に対して刑罰を科することがなぜ許されるのかを考えてみる。死刑とはどのような刑罰であり、現在どの程度用いられているのかを把握しておく。分からない言葉等をチェックしておく。（2時間） 事後学修：刑罰の目的・意義について確認し、死刑に関する諸問題を自分なりに検討する。言葉の意味等について確認する。（2時間）	4時間
第6回	対面	刑罰制度について考える②自由刑、及び不定期刑について考える。	事前学修：レジュメを参照して、自由刑及び不定期刑とはどのような刑罰であり、現在どの程度用いられ	4時間

			ているのかを把握しておく。分からない言葉等をチェックしておく。(2 時間) 事後学修：自由刑及び不定期刑について、授業内で学んだことを改めて整理し、言葉の意味等について確認する。(2 時間)	
第 7 回	対面	刑罰制度について考える③財産刑について考える。	事前学修：レジュメを参照して、財産刑とは何か、どのような問題があるのか等について考えてみる。分からない言葉等についてチェックしておく。(2 時間) 事後学修：財産刑について学んだことを改めて整理し、問題点とそれに対する改善のあり方等を自分なりに考えてみる。言葉の意味等について確認する。(2 時間)	4 時間
第 8 回	対面	猶予制度について考える。	事前学修：猶予制度とは何か、具体的にはどのような制度が存在しているのか等について自分なりに考えてみる。分からない言葉等についてチェックしておく。(2 時間) 事後学修：猶予制度が現代の社会においてどのような意味を持っているといえるのかを確認する。言葉の意味を確認する。(2 時間)	4 時間
第 9 回	対面	犯罪者処遇制度①施設内処遇について考える。	事前学修：レジュメを参照して、施設内処遇の現状について、自分なりに説明できるように検討してみる。分からない言葉等についてチェックしておく。(2 時間) 事後学修：施設内処遇にはどのような問題があるのか、そしてそれを改善するためにどのようなことが取組まれているのか等を改めて確認する。言葉の意味を確認する。(2 時間)	4 時間
第 10 回	対面	犯罪者処遇制度②社会内処遇について考える。	事前学修：レジュメを参照して、社会内処遇とは何か、どのようなことが行われているのか等について把握する。分からない言葉等についてチェックしておく。(2 時間) 事後学修：社会内処遇としてどのようなことが行われているのかを改めて確認する。言葉の意味を確認する。(2 時間)	4 時間
第 11 回	対面	犯罪予防のための諸施策：犯罪を予防するための考え方や施策等について検討する。	事前学修：レジュメを通読して、なぜ「自転車を駐輪する際に鍵が 2 つ（ツーロック）以上推奨」とされているのか、考えてみる。分からない言葉等についてチェックしておく。(2 時間) 事後学修：犯罪予防のための考え方とそれに基づいた具体的施策等について整理する。言葉の意味を確認する。(2 時間)	4 時間
第 12 回	対面	各種犯罪①少年非行について考える。	事前学修：レジュメを参照して、少年非行の現状並びに非行少年対策の現状等について把握しておく。分からない言葉等についてチェックしておく。(2 時間) 事後学修：授業での学修内容を改めて整理する。言葉の意味を確認する。(2 時間)	4 時間
第 13 回	対面	各種犯罪②ファミリーバイオレンスについて考える。	事前学修：レジュメを参照して、児童虐待、配偶者間暴力、ストーカー犯罪について考えてみる。分からない言葉等をチェックしておく。(2 時間) 事後学修：授業で学修した内容を整理しておく。言葉等の意味について確認する。(2 時間)	4 時間
第 14 回	対面	各種犯罪③薬物犯罪について考える。	事前学修：レジュメを参照して、薬物犯罪の現状等について把握しておく。分からない言葉等をチェックしておく。(2 時間) 事後学修：授業で学修した内容を整理しておく。言葉等の意味について確認する。(2 時間)	4 時間
第 15 回	オンデ	授業のまとめを行う。オンデマンド教材を	事後学修：オンデマンド教材による学修内容を確認	4 時間

2025/05/01

	マンド	参照・確認して、これまでの授業内容を整理し、復習する。	して、学期末試験の準備を行う。ラーニングポータル・テストのページの確認問題に取り組む（第15回授業の出席確認、並びにリアクションペーパーの提出を兼ねる）。(4時間)	

科目名	刑事訴訟法 I	開講年度	2025
担当者	大島 由美子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事手続の基本概念と流れについて理解する		
授業の目的及び概要	刑事訴訟法（手続法）は、これまで学修してきた刑法（実体法）を実現するための法律である。両者は車の両輪の関係にある。本講義は、わが国の刑事手続の全体像を理解し、刑事訴訟法の基本的知識を身につけることを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）刑事手続の流れを理解し、説明できる。 （２）刑事訴訟法の基本概念を正確に理解し、説明できる。 （３）刑事訴訟法の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、医師免許および弁護士資格を有しており、病院および弁護士事務所にて、それぞれの業務に従事した経験を持つ。これらの実務経験を活かし、具体的な事例を紹介しながら医療と法について実践的な指導を行う。		
テキスト	テキストの指定は行いません。(第1回ガイダンスを参考に) 各自必要に応じて購入する。レジュメ・資料を適宜ラーニングポータルに掲載・配布します。 ＊『六法』（小型のもので可）を毎回持参のこと。	ISBN	なし
参考書	参考書の指定は行いません。(第1回ガイダンスを参考に) 各自必要に応じて購入する。 刑事訴訟法判例百選第11版、大澤裕・川出敏裕編、有斐閣、2024年 省察 刑事訴訟法：歴史から学ぶ構造と本質、内田博文・春日勉・大場史朗編、法律文化社、2023年 入門刑事手続法第9版、三井誠・酒巻匡、有斐閣、2023年 リーガルクエスト刑事訴訟法第3版、宇藤崇・松田岳士・堀江慎司、有斐閣、2024年 他	ISBN	978-4641115675 978-4589042835 978-4641139657 978-4641179592
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	条文を丹念に引きながら刑事手続に関する基本概念を学ぶとともに、刑事手続の全体像とその特色を理解しましょう。		

あたって	刑事事件に関わるニュース等事件報道に興味をもち積極的に手続の流れや問題点を考えてみましょう。 憲法（人権）や刑法と深い関わりがありますので、これらの基礎知識についても確認しておきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 刑事訴訟の意義・目的 刑事手続の基本原則 刑事手続の関与者等	（予習）ラーニングポータルに掲載する第1回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第1回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第2回	対面	身柄の拘束（逮捕・勾留）	（予習）ラーニングポータルに掲載する第2回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第2回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第3回	対面	物的証拠の収集（搜索・差押え等）	（予習）ラーニングポータルに掲載する第3回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第3回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第4回	対面	任意捜査	（予習）ラーニングポータルに掲載する第4回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第4回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第5回	対面	供述証拠の収集（取調べ）	（予習）ラーニングポータルに掲載する第5回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第5回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第6回	対面	捜査の端緒（職務質問・所持品検査等）	（予習）ラーニングポータルに掲載する第6回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第6回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第7回	対面	被疑者の権利（接見交通権等）	（予習）ラーニングポータルに掲載する第7回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第7回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第8回	対面	公訴の提起と公訴権の運用	（予習）ラーニングポータルに掲載する第8回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第8回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第9回	対面	訴因の特定と変更	（予習）ラーニングポータルに掲載する第9回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第9回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第10回	対面	公訴準備と公判手続	（予習）ラーニングポータルに掲載する第10回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第10回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第11回	対面	証拠と証明、違法収集証拠排除法則	（予習）ラーニングポータルに掲載する第11回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第11回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第12回	対面	自白法則	（予習）ラーニングポータルに掲載する第12回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第12回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第13回	対面	伝聞法則	（予習）ラーニングポータルに掲載する第13回授業	4時間

			資料を事前に読んでおくこと (復習) 第 13 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	
第 14 回	対面	供述調書等の証拠能力	(予習) ラーニングポータルに掲載する第 14 回授業資料を事前に読んでおくこと (復習) 第 14 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 15 回	オンデマンド	裁判とその効力 まとめ	(予習) ラーニングポータルに掲載する第 15 回授業資料を事前に読んでおくこと (復習) 第 15 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	開講年度	2025
担当者	大場 史朗	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事手続の基本概念と流れについて理解する		
授業の目的及び概要	刑事訴訟法（手続法）は、これまで学修してきた刑法（実体法）を実現するための法律である。両者は車の両輪の関係にある。本講義は、わが国の刑事手続の全体像を理解し、刑事訴訟法の基本的知識を身につけることを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）刑事手続の流れを理解し、説明できる。 （２）刑事訴訟法の基本概念を正確に理解し、説明できる。 （３）刑事訴訟法の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	省察 刑事訴訟法：歴史から学ぶ構造と本質， 内田博文・春日勉・大場史朗編，法律文化社，2023 年 ＊秋学期の「刑事訴訟法Ⅱ＜刑事手続法＞」の講義も同じテキストを使う。 ＊『六法』（小型のもので可）を毎回持参のこと。	ISBN	978-4589042835
参考書	刑事訴訟法判例百選第 11 版，大澤裕・川出敏裕編，有斐閣，2024 年	ISBN	978-4641115675
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	条文を丹念に引きながら刑事手続に関する基本概念を学ぶとともに、刑事手続の全体像とその特色を理解しましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 刑事訴訟法の意義、刑事手続の流れ、刑事手続の歴史について概説する。	Learning Portal に掲載する第 1 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間

第2回	対面	刑事手続の担い手 裁判所、検察官、弁護士等について概説する。	Learning Portal に掲載する第2回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	捜査総論（1） 捜査の意義と原則、行政警察活動と司法警察活動、捜査の端緒について概説する。	Learning Portal に掲載する第3回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	捜査総論（2） 任意捜査と強制捜査の区別について概説する。	Learning Portal に掲載する第4回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	逮捕・勾留（1） 逮捕・勾留の流れと基本事項について概説する。	Learning Portal に掲載する第5回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	逮捕・勾留（2） 逮捕・勾留の流れと基本事項について概説する。	Learning Portal に掲載する第6回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	搜索・差押え・検証（1） 搜索・差押え・検証の基本事項について概説する。	Learning Portal に掲載する第7回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	搜索・差押え・検証（2） 搜索・差押え・検証の基本事項について概説する。	Learning Portal に掲載する第8回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	その他の捜査手段 その他の処分、特殊な捜査手法について概説する。	Learning Portal に掲載する第9回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	被疑者側の防御 弁護人選任権、黙秘権、接見交通権等について概説する。	Learning Portal に掲載する第10回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	公訴 公訴提起の手続について概説する。	Learning Portal に掲載する第11回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	公判 公判の意義、公判前整理手続、公判の流れ等について概説する。	Learning Portal に掲載する第12回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	証拠法（1） 証拠法の基本概念、伝聞法則・伝聞例外について概説する。	Learning Portal に掲載する第13回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	証拠法（2） 自白法則、補強法則、違法収集証拠排除法則について概説する。	Learning Portal に掲載する第14回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	裁判・上訴・再審／まとめ 裁判の意義、上訴・再審の流れについて概説する。 授業の簡単なまとめを行う。	Learning Portal に掲載する第15回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	大場 史朗	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事訴訟法の重要論点を学ぶ		
授業の目的及び概要	刑事訴訟法（手続法）は、これまで学修してきた刑法（実体法）を実現するための法律である。両者は車の両輪の関係にある。本講義は、春学期の「刑事訴訟法Ⅰ＜刑事裁判と法＞」を踏まえ、刑事訴訟法の重要論点を検討する。「刑事訴訟法Ⅰ＜刑事裁判と法＞」を履修済みであることを前提にやや発展的な内容を取り扱う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）刑事訴訟法の基本概念を正確に理解し、説明できる。 （２）刑事訴訟法の重要論点を理解し、条文・判例を参照して、一定の結論を導くことができる。 （３）刑事訴訟法の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間レポートについては、授業中に解説・講評する。 定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	省察 刑事訴訟法：歴史から学ぶ構造と本質， 内田博文・ 春日勉・ 大場史朗編，法律文化社，2023 年 ＊『六法』（小型のもので可）を毎回持参のこと。	ISBN	978-4589042835
参考書	刑事訴訟法判例百選第 11 版，大澤裕・川出敏裕編，有斐閣，2024 年	ISBN	978-4641115675
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	条文を丹念に引きながら、刑事訴訟法の重要論点を学びましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 刑事手続の流れについて確認したのち、講	Learning Portal に掲載する第 1 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。また、授業後に読ん	4 時間

		義で取り上げる重要論点の前提知識を復習する。	で復習しておくこと。	
第2回	対面	職務質問と所持品検査 判例をもとに、職務質問と所持品検査の論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第2回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	強制処分と任意処分の区別（1） 判例をもとに、両者の区別について検討する。	Learning Portal に掲載する第3回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	強制処分と任意処分の区別（2） 判例をもとに、両者の区別について検討する。	Learning Portal に掲載する第4回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	逮捕・勾留（1） 判例をもとに、逮捕・勾留の論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第5回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	逮捕・勾留（2） 判例をもとに、逮捕・勾留の論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第6回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	搜索・差押え・検証（1） 判例をもとに、令状による搜索・差押えの論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第7回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	搜索・差押え・検証（2） 判例をもとに、令状によらない搜索・差押え等の論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第8回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	訴因論（1） 判例をもとに、訴因の特定、訴因変更の要否等について検討する。	Learning Portal に掲載する第9回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	訴因論（2） 判例をもとに、訴因変更の可否、許可について検討する。 中間レポートの解説を行う。	Learning Portal に掲載する第10回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	証拠法（1） 伝聞法則の意義と伝聞・非伝聞の区別について検討する。	Learning Portal に掲載する第11回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	証拠法（2） 判例をもとに、伝聞法則の意義と伝聞・非伝聞の区別について検討する。	Learning Portal に掲載する第12回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	証拠法（3） 伝聞例外の重要論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第13回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	証拠法（4） 伝聞例外の重要論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第14回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	証拠法（5） 自白法則・補強法則・違法収集証拠排除法則の論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第15回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4時間

2025/05/01

			くこと。	

科目名	少年法	開講年度	2025
担当者	大場 史朗	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	少年法の見方・考え方		
授業の目的及び概要	少年法とは、非行をおかした少年に適用される法である。2021 年には少年法が大きく改正され、18 歳・19 歳の少年に対する特別な取扱いが規定された。本講義では、刑事法と福祉法が交錯する少年保護手続を概説することで、現代日本における少年・子どもの現状を分析しつつ、大きなターニングポイントを迎えた少年法のあり方について考察することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）少年保護手続の流れを理解し、説明できる。 （２）少年法の基本概念を正確に理解し、説明できる。 （３）少年法の学修を通じて社会科学的な思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験の内容については、授業中に解説・講評する。 定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは特に指定しないが、少年法の体系書又は概説書を 1 冊購入することが望ましい。2021 年少年法改正に対応した『六法』（小型のもので可）を手元に置き、動画を視聴すること。 最近の体系書又は概説書としては、以下のものがある。 ①少年法第 2 版，川出敏裕，有斐閣，2022 年 ②少年法講義第 4 版，丸山雅夫，成文堂，2022 年	ISBN	①978-4641139589 ②978-4792353551
参考書	①少年法判例百選第 2 版，川出敏裕編，有斐閣，2024 年 ②家裁の人（全 10 巻・コミック），毛利甚八・魚戸おさむ，小学館文庫，2014 年 ③少年法，廣瀬健二，成文堂，2021 年	ISBN	①978-4641213418 ②978-4091919632 ③978-4792353391
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	少年法の客観的なデータと基本概念の正確な理解を前提として、少年保護手続の大きな流れを理解するように努めてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 少年法の意義、少年法の概念、手続の基本的な流れなどについて概説する。	Learning Portal に掲載する第1回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	オンデマンド	少年法の方法と現状分析 少年保護事件の流れ、少年保護手続の関係機関などについて概説し、客観的なデータを用いて非行少年の現状を分析する。	Learning Portal に掲載する第2回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第3回	オンデマンド	少年法の歴史とその改正 旧少年法から現行少年法に至る少年法の歴史と、主に2000年以降の少年法改正の内容について概説する。	Learning Portal に掲載する第3回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第4回	オンデマンド	少年法の対象 「少年」の意義と、犯罪少年、触法少年、虞犯少年の意義について概説する。	Learning Portal に掲載する第4回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	オンデマンド	非行少年の捜査・発見と事件受理 非行少年の発見活動及び事件受理の流れ等について、主に少年警察活動を中核として概説する。	Learning Portal に掲載する第5回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第6回	オンデマンド	観護の措置 観護の意義と、主に少年鑑別所における観護措置について概説する。	Learning Portal に掲載する第6回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第7回	オンデマンド	調査 調査の意義と、調査の諸問題、調査後の手続について概説する。	Learning Portal に掲載する第7回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	審判（1） 少年審判の意義と、原理と原則、審判の手続などについて概説する。	Learning Portal に掲載する第8回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	審判（2） 試験観察、審判後の処分、処分の変更と取消などについて概説する。	Learning Portal に掲載する第9回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第10回	オンデマンド	中間試験	Learning Portal に掲載した第1回～第9回講義レジュメの内容を復習しておくこと。	6時間
第11回	オンデマンド	保護処分（1） 保護処分の意義とその内容について概説する。	Learning Portal に掲載する第11回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第12回	オンデマンド	保護処分（2） 保護処分の意義とその内容について概説する。	Learning Portal に掲載する第12回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第13回	オンデマンド	不服申立て 保護処分に対する不服申立ての意義と内容、保護事件の補償について概説する。	Learning Portal に掲載する第13回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	オンデマンド	刑事手続と刑事処分 検察官送致後の少年の刑事手続と刑事処分（刑罰）、家裁への再移送、刑の執行について概説する。	Learning Portal に掲載する第14回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	少年事件と報道 実際の新聞報道や週刊誌の報道、少年法61条にかかる裁判例などを素材として、少年事件の報道について考える。	Learning Portal に掲載する第15回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間

科目名	少年法	開講年度	2025
担当者	大場 史朗	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	少年法の見方・考え方		
授業の目的及び概要	少年法とは、非行をおかした少年に適用される法である。2021 年には少年法が大きく改正され、18 歳・19 歳の少年に対する特別な取扱いが規定された。本講義では、刑事法と福祉法が交錯する少年保護手続を概説することで、現代日本における少年・子どもの現状を分析しつつ、大きなターニングポイントを迎えた少年法のあり方について考察することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）少年保護手続の流れを理解し、説明できる。 （２）少年法の基本概念を正確に理解し、説明できる。 （３）少年法の学修を通じて社会科学的な思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験の内容については、授業中に解説・講評する。 定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは特に指定しないが、少年法の体系書又は概説書を 1 冊購入することが望ましい。2021 年少年法改正に対応した『六法』（小型のもので可）を手元に置き、動画を視聴すること。 最近の体系書又は概説書としては、以下のものがある。 ①少年法第 2 版，川出敏裕，有斐閣，2022 年 ②少年法講義第 4 版，丸山雅夫，成文堂，2022 年	ISBN	①978-4641139589 ②978-4792353551
参考書	①少年法判例百選第 2 版，川出敏裕編，有斐閣，2024 年 ②家裁の人（全 10 巻・コミック），毛利甚八・魚戸おさむ，小学館文庫，2014 年 ③少年法，廣瀬健二，成文堂，2021 年	ISBN	①978-4641213418 ②978-4091919632 ③978-4792353391
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	少年法の客観的なデータと基本概念の正確な理解を前提として、少年保護手続の大きな流れを理解するように努めてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 少年法の意義、少年法の概念、手続の基本的な流れなどについて概説する。	Learning Portal に掲載する第1回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	オンデマンド	少年法の方法と現状分析 少年保護事件の流れ、少年保護手続の関係機関などについて概説し、客観的なデータを用いて非行少年の現状を分析する。	Learning Portal に掲載する第2回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第3回	オンデマンド	少年法の歴史とその改正 旧少年法から現行少年法に至る少年法の歴史と、主に2000年以降の少年法改正の内容について概説する。	Learning Portal に掲載する第3回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第4回	オンデマンド	少年法の対象 「少年」の意義と、犯罪少年、触法少年、虞犯少年の意義について概説する。	Learning Portal に掲載する第4回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	オンデマンド	非行少年の捜査・発見と事件受理 非行少年の発見活動及び事件受理の流れ等について、主に少年警察活動を中核として概説する。	Learning Portal に掲載する第5回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第6回	オンデマンド	観護の措置 観護の意義と、主に少年鑑別所における観護措置について概説する。	Learning Portal に掲載する第6回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第7回	オンデマンド	調査 調査の意義と、調査の諸問題、調査後の手続について概説する。	Learning Portal に掲載する第7回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	審判（1） 少年審判の意義と、原理と原則、審判の手続などについて概説する。	Learning Portal に掲載する第8回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	審判（2） 試験観察、審判後の処分、処分の変更と取消などについて概説する。	Learning Portal に掲載する第9回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第10回	オンデマンド	中間試験	Learning Portal に掲載した第1回～第9回講義レジュメの内容を復習しておくこと。	6時間
第11回	オンデマンド	保護処分（1） 保護処分の意義とその内容について概説する。	Learning Portal に掲載する第11回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第12回	オンデマンド	保護処分（2） 保護処分の意義とその内容について概説する。	Learning Portal に掲載する第12回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第13回	オンデマンド	不服申立て 保護処分に対する不服申立ての意義と内容、保護事件の補償について概説する。	Learning Portal に掲載する第13回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	オンデマンド	刑事手続と刑事処分 検察官送致後の少年の刑事手続と刑事処分（刑罰）、家裁への再移送、刑の執行について概説する。	Learning Portal に掲載する第14回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	少年事件と報道 実際の新聞報道や週刊誌の報道、少年法61条にかかる裁判例などを素材として、少年事件の報道について考える。	Learning Portal に掲載する第15回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4時間

科目名	民法総則 I	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法総則に関する基礎知識を修得する		
授業の目的及び概要	民法とはどのような法律であるのか、民法典はどのような法律であるのかについて概観する。 民法総則の条文の意義・要件・効果について理解する。 民法総則は民法全体を通じた原則を定めると共に私法の一般法という側面も有し、日常生活、また就職後のビジネスにおいて経験することになる様々な法律問題に対する基礎的な法的知識として重要なものであることを理解する。		
履修条件・留意点	この科目は法学部生の必修科目です。授業で学修する内容をしっかりと理解し、今後の学修に役立ててください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 民法総則に関する基本的な法的概念を理解し、条文について理解することができる。 2. 民法総則に関する基本的な法的問題を正確に把握し、整理し、理解することができる。 3. 日常生活・企業取引における具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。 4. 法学検定等各種試験のための基礎的知識を身につける。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「民法」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 小テストが実施される場合は簡単な講評を行います。 期末試験について簡単な講評を Learning Portal に記載します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『民法1 総則（有斐閣ストゥディア）』、山本 敬三 監修、有斐閣、2021 年 ②『六法』（ポケット六法など小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。	ISBN	①978-4-641-15008-9 ③978-4785731045
参考書	①『民法判例百選 I（第9 版）』、潮見佳男ほか編、有斐閣、2023 年	ISBN	①978-4641115620
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義は対面で実施します(15 回目はオンデマンド)。 六法は持参し、条文はその都度必ず参照すること。講義で分からなかったことは、講義後に質問すること。 詳細は、Learning Portal に記載します。 この授業を履修後、物権法、債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望まし		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション——民法の基本原則について学ぶ	【予習】シラバスと教科書の「第1章 イントロダクション——民法の基本原則」を読んでください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第2回	対面	権利能力、意思能力・行為能力について学ぶ	【予習】教科書の「第2章 権利能力——人(1)」 「第3章 意思能力・行為能力——人(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第3回	対面	法人、物について学ぶ	【予習】教科書の「第4章 法人」「第5章 物」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第4回	対面	法律行為について学ぶ	【予習】教科書の「第6章 法律行為」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第5回	対面	心裡留保・虚偽表示について学ぶ	【予習】教科書の「第7章 心裡留保・虚偽表示」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第6回	対面	錯誤について学ぶ	【予習】教科書の「第8章 錯誤」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第7回	対面	詐欺・強迫について学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	【予習】教科書の「第9章 詐欺・強迫」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第8回	対面	法律行為の内容規制、無効・取消しについて学ぶ	【予習】教科書の「第10章 法律行為の内容規制」「第11章 無効・取消し」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第9回	対面	代理とは・代理の要件について学ぶ	【予習】教科書の「第12章 代理とは・代理の要件——代理(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第10回	対面	無権代理・表見代理について学ぶ	【予習】教科書の「第13章 無権代理・表見代理——代理(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第11回	対面	無権代理人の責任・代理権濫用等について	【予習】教科書の「第14章 無権代理人の責任・代	4時間

		学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	理権濫用等——代理(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	
第12回	対面	条件・期限・期間、時効とは・時効の完成と援用について学ぶ	【予習】教科書の「第15章 条件・期限・期間」「第16章 時効とは・時効の完成と援用——時効(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第13回	対面	時効の完成猶予と更新について学ぶ	【予習】教科書の「第17章 時効の完成猶予と更新——時効(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第14回	対面	取得時効・消滅時効について学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	【予習】教科書の「第18章 取得時効・消滅時効——時効(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	今までの講義のまとめ。 民法総則の内容全体を復習します。	【予習】授業全体（第1回から最後まで）について、総復習をしてください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した全範囲を復習してください。	4 時間

科目名	民法総則 I	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法総則に関する基礎知識を修得する		
授業の目的及び概要	民法とはどのような法律であるのか、民法典はどのような法律であるのかについて概観する。民法総則の条文の意義・要件・効果について理解する。 民法総則は民法全体を通じた原則を定めると共に私法の一般法という側面も有し、日常生活、また就職後のビジネスにおいて経験することになる様々な法律問題に対する基礎的な法的知識として重要なものであることを理解する。		
履修条件・留意点	この科目は法学部生の必修科目です。授業で学修する内容をしっかりと理解し、今後の学修に役立ててください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 民法総則に関する基本的な法的概念を理解し、条文について理解することができる。 2. 民法総則に関する基本的な法的問題を正確に把握し、整理し、理解することができる。 3. 日常生活・企業取引における具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。 4. 法学検定等各種試験のための基礎的知識を身につける。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「民法」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 小テストが実施される場合は簡単な講評を行います。 期末試験について簡単な講評を Learning Portal に記載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『民法1 総則（有斐閣ストゥディア）』、山本 敬三 監修、有斐閣、2021 年 ②『六法』（ポケット六法など小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。	ISBN	①978-4-641-15008-9 ③978-4785731045
参考書	①『民法判例百選 I（第9 版）』、潮見佳男ほか編、有斐閣、2023 年	ISBN	①978-4641115620
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義は対面で実施します(15 回目はオンデマンド)。 六法は持参し、条文はその都度必ず参照すること。講義で分からなかったことは、講義後に質問すること。 詳細は、Learning Portal に記載します。 この授業を履修後、物権法、債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望まし		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション——民法の基本原則について学ぶ	【予習】シラバスと教科書の「第1章 イントロダクション——民法の基本原則」を読んでください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第2回	対面	権利能力、意思能力・行為能力について学ぶ	【予習】教科書の「第2章 権利能力——人(1)」 「第3章 意思能力・行為能力——人(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第3回	対面	法人、物について学ぶ	【予習】教科書の「第4章 法人」「第5章 物」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第4回	対面	法律行為について学ぶ	【予習】教科書の「第6章 法律行為」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第5回	対面	心裡留保・虚偽表示について学ぶ	【予習】教科書の「第7章 心裡留保・虚偽表示」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第6回	対面	錯誤について学ぶ	【予習】教科書の「第8章 錯誤」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第7回	対面	詐欺・強迫について学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	【予習】教科書の「第9章 詐欺・強迫」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第8回	対面	法律行為の内容規制、無効・取消しについて学ぶ	【予習】教科書の「第10章 法律行為の内容規制」「第11章 無効・取消し」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第9回	対面	代理とは・代理の要件について学ぶ	【予習】教科書の「第12章 代理とは・代理の要件——代理(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第10回	対面	無権代理・表見代理について学ぶ	【予習】教科書の「第13章 無権代理・表見代理——代理(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第11回	対面	無権代理人の責任・代理権濫用等について	【予習】教科書の「第14章 無権代理人の責任・代	4時間

		学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	理権濫用等——代理(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	
第12回	対面	条件・期限・期間、時効とは・時効の完成と援用について学ぶ	【予習】教科書の「第15章 条件・期限・期間」「第16章 時効とは・時効の完成と援用——時効(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第13回	対面	時効の完成猶予と更新について学ぶ	【予習】教科書の「第17章 時効の完成猶予と更新——時効(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第14回	対面	取得時効・消滅時効について学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	【予習】教科書の「第18章 取得時効・消滅時効——時効(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	今までの講義のまとめ。 民法総則の内容全体を復習します。	【予習】授業全体（第1回から最後まで）について、総復習をしてください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した全範囲を復習してください。	4時間

科目名	民法総則 I	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法総則に関する基礎知識を修得する		
授業の目的及び概要	民法とはどのような法律であるのか、民法典はどのような法律であるのかについて概観する。 民法総則の条文の意義・要件・効果について理解する。 民法総則は民法全体を通じた原則を定めると共に私法の一般法という側面も有し、日常生活、また就職後のビジネスにおいて経験することになる様々な法律問題に対する基礎的な法的知識として重要なものであることを理解する。		
履修条件・留意点	この科目は法学部生の必修科目です。授業で学修する内容をしっかりと理解し、今後の学修に役立ててください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 民法総則に関する基本的な法的概念を理解し、条文について理解することができる。 2. 民法総則に関する基本的な法的問題を正確に把握し、整理し、理解することができる。 3. 日常生活・企業取引における具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。 4. 法学検定等各種試験のための基礎的知識を身につける。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「民法」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 小テストが実施される場合は簡単な講評を行います。 期末試験について簡単な講評を Learning Portal に記載します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『民法1 総則（有斐閣ストゥディア）』, 山本 敬三 監修, 有斐閣, 2021 年 ②『六法』（ポケット六法など小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。	ISBN	①978-4-641-15008-9 ③978-4785731045
参考書	①『民法判例百選 I（第9 版）』, 潮見佳男ほか編, 有斐閣, 2023 年	ISBN	①978-4641115620
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義は対面で実施します(15 回目はオンデマンド)。 六法は持参し、条文はその都度必ず参照すること。講義で分からなかったことは、講義後に質問すること。 詳細は、Learning Portal に記載します。 この授業を履修後、物権法、債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望まし		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション——民法の基本原則について学ぶ	【予習】シラバスと教科書の「第1章 イントロダクション——民法の基本原則」を読んでください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第2回	対面	権利能力、意思能力・行為能力について学ぶ	【予習】教科書の「第2章 権利能力——人(1)」 「第3章 意思能力・行為能力——人(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第3回	対面	法人、物について学ぶ	【予習】教科書の「第4章 法人」「第5章 物」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第4回	対面	法律行為について学ぶ	【予習】教科書の「第6章 法律行為」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第5回	対面	心裡留保・虚偽表示について学ぶ	【予習】教科書の「第7章 心裡留保・虚偽表示」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第6回	対面	錯誤について学ぶ	【予習】教科書の「第8章 錯誤」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第7回	対面	詐欺・強迫について学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	【予習】教科書の「第9章 詐欺・強迫」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第8回	対面	法律行為の内容規制、無効・取消しについて学ぶ	【予習】教科書の「第10章 法律行為の内容規制」「第11章 無効・取消し」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第9回	対面	代理とは・代理の要件について学ぶ	【予習】教科書の「第12章 代理とは・代理の要件——代理(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第10回	対面	無権代理・表見代理について学ぶ	【予習】教科書の「第13章 無権代理・表見代理——代理(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第11回	対面	無権代理人の責任・代理権濫用等について	【予習】教科書の「第14章 無権代理人の責任・代	4時間

		学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	理権濫用等——代理(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	
第12回	対面	条件・期限・期間、時効とは・時効の完成と援用について学ぶ	【予習】教科書の「第15章 条件・期限・期間」「第16章 時効とは・時効の完成と援用——時効(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第13回	対面	時効の完成猶予と更新について学ぶ	【予習】教科書の「第17章 時効の完成猶予と更新——時効(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第14回	対面	取得時効・消滅時効について学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	【予習】教科書の「第18章 取得時効・消滅時効——時効(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	今までの講義のまとめ。 民法総則の内容全体を復習します。	【予習】授業全体（第1回から最後まで）について、総復習をしてください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した全範囲を復習してください。	4時間

科目名	民法総則Ⅰ	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法総則に関する基礎知識を修得する		
授業の目的及び概要	民法とはどのような法律であるのか、民法典はどのような法律であるのかについて概観する。 民法総則の条文の意義・要件・効果について理解する。 民法総則は民法全体を通じた原則を定めると共に私法の一般法という側面も有し、日常生活、また就職後のビジネスにおいて経験することになる様々な法律問題に対する基礎的な法的知識として重要なものであることを理解する。		
履修条件・留意点	この科目は法学部生の必修科目です。授業で学修する内容をしっかりと理解し、今後の学修に役立ててください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 民法総則に関する基本的な法的概念を理解し、条文について理解することができる。 2. 民法総則に関する基本的な法的問題を正確に把握し、整理し、理解することができる。 3. 日常生活・企業取引における具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。 4. 法学検定等各種試験のための基礎的知識を身につける。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック（「民法」分野）：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 小テストが実施される場合は簡単な講評を行います。 期末試験について簡単な講評を Learning Portal に記載します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『民法1 総則（有斐閣ストゥディア）』、山本 敬三 監修、有斐閣、2021 年 ②『六法』（ポケット六法など小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。	ISBN	①978-4-641-15008-9 ③978-4785731045
参考書	①『民法判例百選Ⅰ（第9 版）』、潮見佳男ほか編、有斐閣、2023 年	ISBN	①978-4641115620
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義は対面で実施します(15 回目はオンデマンド)。 六法は持参し、条文はその都度必ず参照すること。講義で分からなかったことは、講義後に質問すること。 詳細は、Learning Portal に記載します。 この授業を履修後、物権法、債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望まし		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション——民法の基本原則について学ぶ	【予習】シラバスと教科書の「第1章 イントロダクション——民法の基本原則」を読んでください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第2回	対面	権利能力、意思能力・行為能力について学ぶ	【予習】教科書の「第2章 権利能力——人(1)」「第3章 意思能力・行為能力——人(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第3回	対面	法人、物について学ぶ	【予習】教科書の「第4章 法人」「第5章 物」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第4回	対面	法律行為について学ぶ	【予習】教科書の「第6章 法律行為」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第5回	対面	心裡留保・虚偽表示について学ぶ	【予習】教科書の「第7章 心裡留保・虚偽表示」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第6回	対面	錯誤について学ぶ	【予習】教科書の「第8章 錯誤」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第7回	対面	詐欺・強迫について学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	【予習】教科書の「第9章 詐欺・強迫」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第8回	対面	法律行為の内容規制、無効・取消しについて学ぶ	【予習】教科書の「第10章 法律行為の内容規制」「第11章 無効・取消し」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第9回	対面	代理とは・代理の要件について学ぶ	【予習】教科書の「第12章 代理とは・代理の要件——代理(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第10回	対面	無権代理・表見代理について学ぶ	【予習】教科書の「第13章 無権代理・表見代理——代理(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第11回	対面	無権代理人の責任・代理権濫用等について	【予習】教科書の「第14章 無権代理人の責任・代	4時間

		学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	理権濫用等——代理(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	
第12回	対面	条件・期限・期間、時効とは・時効の完成と援用について学ぶ	【予習】教科書の「第15章 条件・期限・期間」「第16章 時効とは・時効の完成と援用——時効(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第13回	対面	時効の完成猶予と更新について学ぶ	【予習】教科書の「第17章 時効の完成猶予と更新——時効(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第14回	対面	取得時効・消滅時効について学ぶ。 小テストを実施し、解説する。	【予習】教科書の「第18章 取得時効・消滅時効——時効(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	今までの講義のまとめ。 民法総則の内容全体を復習します。	【予習】授業全体（第1回から最後まで）について、総復習をしてください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した全範囲を復習してください。	4時間

科目名	民法総則Ⅱ	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法総則に関する応用知識を修得する		
授業の目的及び概要	民法とはどのような法律であるのか、民法典はどのような法律であるのかについて概観し、理解する。 民法総則の条文の意義・要件・効果を正確に理解する。		
履修条件・留意点	「民法総則Ⅰ」の履修を前提とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 民法総則に関する法的概念を理解し、条文について理解することができる。 2. 民法総則に関する法的問題を正確に把握し、整理し、理解することができる。 3. 日常生活・企業取引における具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 小テストが実施される場合は簡単な講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『民法1 総則（有斐閣ストウディア）』、山本 敬三 監修、有斐閣、2021 年 ②『六法』（ポケット六法など小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。	ISBN	①978-4-641-15008-9 ③978-4785731045
参考書	①『民法判例百選Ⅰ（第9版）』、潮見佳男ほか編、有斐閣、2023 年	ISBN	①978-4641115620
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	講義は対面で実施します(15 回目はオンデマンド)。 六法は持参し、条文はその都度必ず参照すること。講義で分からなかったことは、講義後に質問してください。 この授業を履修後、物権法、債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望ましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション——民法の基本原則	【予習】シラバスと教科書の「第1章 イントロダク	4 時間

		について理解する	ション——民法の基本原則」を読んでおいてください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	
第2回	対面	権利能力、意思能力・行為能力について理解する	【予習】教科書の「第2章 権利能力——人(1)」「第3章 意思能力・行為能力——人(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第3回	対面	法人、物について理解する	【予習】教科書の「第4章 法人」「第5章 物」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第4回	対面	法律行為について理解する	【予習】教科書の「第6章 法律行為」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第5回	対面	心裡留保・虚偽表示について理解する	【予習】教科書の「第7章 心裡留保・虚偽表示」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第6回	対面	錯誤について理解する	【予習】教科書の「第8章 錯誤」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第7回	対面	詐欺・強迫、法律行為の内容規制、無効・取消しについて理解する	【予習】教科書の「第9章 詐欺・強迫」「第10章 法律行為の内容規制」「第11章 無効・取消し」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第8回	対面	中間試験を実施する	【予習】第7回までの全範囲を復習しておいてください。 【復習】中間試験で出題された分野の復習をしてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第9回	対面	代理とは・代理の要件について理解する	【予習】教科書の「第12章 代理とは・代理の要件——代理(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第10回	対面	無権代理・表見代理について理解する	【予習】教科書の「第13章 無権代理・表見代理——代理(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第11回	対面	無権代理人の責任・代理権濫用等について理解する	【予習】教科書の「第14章 無権代理人の責任・代理権濫用等——代理(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第12回	対面	条件・期限・期間、時効とは・時効の完成	【予習】教科書の「第15章 条件・期限・期間」「第	4 時間

		と援用について理解する	16章 時効とは・時効の完成と援用——時効(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	
第13回	対面	時効の完成猶予と更新について理解する	【予習】教科書の「第17章 時効の完成猶予と更新——時効(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第14回	対面	取得時効・消滅時効について理解する	【予習】教科書の「第18章 取得時効・消滅時効——時効(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	今までの講義のまとめ。 民法総則の内容全体を復習します。	【予習】授業全体（第1回から最後まで）について、総復習をしてください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した全範囲を復習してください。	4時間

科目名	物権法Ⅰ	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	物権法の各制度の制度趣旨や意義・要件・効果を理解する		
授業の目的及び概要	民法の物権法部分に関する基礎的な知識の修得を目的とする。 授業では、制度趣旨や原則（意義・要件・効果）を理解することに重点を置いて講義を進める。 また、資格試験等で多く出題される分野については、試験対策も意識した内容となるようにしたい。 物権法は、法律専門職のほか、公務員や民間企業で活躍する社会人に必要な法的知識のなかでも重要な分野であり、それらの就業力の観点も踏まえた授業を行う。		
履修条件・留意点	民法総則Ⅰで学修した知識が必要になりますので、未修得の場合は並行して民法総則Ⅰを履修してください。		
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 物権法に関する主要な制度の制度趣旨を理解している。 2. 物権法に関する主要な制度の意義・要件・効果について説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験等については、授業中に解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	民法Ⅱ物権[第5版](有斐閣Sシリーズ), 淡路剛久ほか, 有斐閣, 2022 年	ISBN	978-4-641-15955-6
参考書	民法判例百選Ⅰ 総則・物権 第9版, 潮見 佳男、道垣内 弘人, 有斐閣, 2023 年	ISBN	978-4-641-11562-0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	六法は必ず持参してください。 物権法は、法学部の専門科目の中でも民事法系科目の中心となる重要な科目であり、法律専門職、公務員、民間企業のどの進路に進む場合にも必要となる科目です。本科目履修後は、「物権法Ⅱ」を履修して基礎知識の定着を図ってください。 また、日常生活とも大きく関わる分野ですので、頑張って修得するようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方、予習・復習の方法、成績評	予習：民法総則の全体に関する復習を行うこと。	4 時間

		価方法、民法の学習方法、参考書の紹介、民法の全体像と物権法の位置づけ、物権の種類・客体について学ぶ	復習：初回授業の復習を行うこと。特に、テキストと配布資料を使って、民法の全体像と物権法の位置づけ、物権の種類・客体についての確認を行うこと。	
第2回	対面	優先的効力、物権的請求権、物権変動の意義、物権変動の時期について学ぶ	予習：テキストの「優先的効力、物権的請求権、物権変動の意義、物権変動の時期」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「優先的効力、物権的請求権、物権変動の意義、物権変動の時期」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第3回	対面	不動産物権変動における公示について学ぶ	予習：テキストの「不動産物権変動における公示」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「不動産物権変動における公示」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第4回	対面	動産物権変動における公示について学ぶ	予習：テキストの「動産物権変動における公示」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「動産物権変動における公示」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第5回	対面	立木等の物権変動と明認方法、物権の消滅について学ぶ	予習：テキストの「立木等の物権変動と明認方法、物権の消滅」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「立木等の物権変動と明認方法、物権の消滅」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第6回	対面	占有権について学ぶ	予習：テキストの「占有権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「占有権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第7回	対面	所有権について学ぶ	予習：テキストの「所有権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「所有権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第8回	対面	地上権、永小作権、地役権、入会権について学ぶ	予習：テキストの「地上権、永小作権、地役権、入会権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「地上権、永小作権、地役権、入会権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第9回	対面	第8回までの授業で扱った部分に関する総括を行う。 中間試験を実施する。	予習：第8回目までの授業内容の総復習として、これまで学修したテキストの範囲を再読し、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：第8回目までの授業で学修したテキストの範囲を再読してください。	4 時間
第10回	対面	担保物権の意義・種類・効力・性質、留置権について学ぶ	予習：テキストの「担保物権の意義・種類・効力・性質、留置権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「担保物権の意義・種類・効力・性質、留置権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第11回	対面	先取特権、質権について学ぶ	予習：テキストの「先取特権、質権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「先取特権、質権」に関する部分と	4 時間

			配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	
第12回	対面	抵当権の意義、設定、効力について学ぶ	予習：テキストの「抵当権の意義、設定、効力」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「抵当権の意義、設定、効力」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第13回	対面	抵当権の処分、消滅、共同抵当、根抵当権について学ぶ	予習：テキストの「抵当権の処分、消滅、共同抵当、根抵当権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「抵当権の処分、消滅、共同抵当、根抵当権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第14回	対面	非典型担保について学ぶ	予習：テキストの「非典型担保」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「非典型担保」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けたこれまでの総復習を行う	予習：テキストとレジュメでこれまで学修した内容の総復習を行ってください。 復習：第15回の授業で学修した総復習の内容について確認してください。	4 時間

科目名	物権法Ⅰ	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	物権法の基礎		
授業の目的及び概要	民法物権法についての基礎的な学習。 民法財産法分野を概観した後、物権法規定の意味、法的概念の意味と解釈問題について、教科書に基づき学習していく。 物権法に関する基礎的知識を修得を目的とする。 物権法には総論規定の他に所有権規定、用益物権規定、担保物権規定が含まれるが、物権変動論のような議論の多い問題があると共に担保物権については債権法の知識も必要になるために難解であるために、必要な基礎的な力を身に着けることを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 物権法に関する基本的な概念、条文について理解することができる。 2. 物権法に関する基本的な問題を正確に把握し、整理し、理解することができる。 3. 具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。 4. 各種試験に必要な知識を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 レポート、期末試験についてのポイントをラーニングポータルに記載します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	物権〔第3版〕 エッセンシャル民法2（有斐閣ブックス 98） 2023/10/5	ISBN	ISBN-13 ： 978-4641184664
参考書	①民法判例百選Ⅰ 総則・物権 第9版，潮見 佳男、道垣内 弘人，有斐閣，2023年	ISBN	①978-4-641-11562-0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	六法は持参すること。 講義にあたって、教科書、事前に配布するレジュメはよく読んでおくこと。 講義で分からなかったことは、講義中、講義後に質問すること。 引き続き、物権法Ⅱを受講し、知識を定着させること。 債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望ましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	物権とは何かを概観し、民法財産法における総則意思表示規定等との関係、債権法との関係を概観する。 物権的請求権など物権の一般的効力について説明する。 レポート課題を出しますので、期限までに提出すること(レジュメに記載)。	教科書の第1編物権法、第1章序説、第2章物権の一般的効力、第7章物権の消滅の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	物権変動規定(176条、177条、178条)を概観し、不動産登記制度を学習する。また、二重に売買が行われた場合の問題を学習する。	教科書の第3章物権変動、第4章不動産物権変動における公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	不動産物権変動問題に関して、二重に売買が行われた場合の他にすべての変動原因で同様に二重の帰属が認められる場合に同様の問題が生じるのかを学習する。	教科書の第3章物権変動、第4章不動産物権変動における公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	177条の第三者の範囲の問題を学習する。その際に不動産所有権が二重に帰属する問題で第三者の主観的事情がどのように考えられているのかを学習する。	教科書の第3章物権変動、第4章不動産物権変動における公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	動産物権変動における対抗要件と物権変動問題を学習し、即時取得について学習する。	教科書の第5章動産物権変動における公示、第6章明認方法による公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	占有権とはどのような権利であり、どのような効力を有するのかを学習する。 所有権とはどのような権利であり、相隣関係上の制限はどのようなものであるのかを学習する。	教科書の第8章所有権、第10章占有権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	一つの物を複数人で所有する場合の運用に関する法制度を共有・合有・総有と言われるそれぞれの場合について学習する。	教科書の第8章所有権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	用益物権、すなわち地上権、永小作権、地役権に関する法制度を概観する。	教科書の第9章用益物権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	担保とは何か、保証と担保制度を概観し、担保物権、すなわち、約定担保物権である質権、抵当権、非典型担保、法定担保物権である留置権、先取特権について概観する。	教科書の第2編担保物権法第11章担保物権法総説の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	抵当権について概観し、物上代位の問題を学習する。	教科書の第12章抵当権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	抵当権と利用権、法定地上権制度について学習する。	教科書の第12章抵当権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	非典型担保物権として、譲渡担保について学習する。譲渡担保は目的物が多様であるので、それぞれについて学習する。	教科書の第14章譲渡担保箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	非典型担保物権として、所有権留保と仮登記担保について学習する。	教科書の第15章所有権留保、第16章仮登記担保の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	質権について概観する。	教科書の第13章質権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに	4時間

2025/05/01

			解決し、復習しておくこと。	
第15回	オンデマンド	法定担保物権として、留置権、先取特権について概観する。	教科書の第17章留置権、第18章先取特権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間

科目名	物権法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	物権法の意義・要件・効果を理解し発展的な知識を修得する		
授業の目的及び概要	民法の物権法部分に関する知識の修得を目的とする。 授業では、制度趣旨や原則（意義・要件・効果）を理解していることを前提に講義を進める。 また、資格試験等で多く出題される分野については、試験対策も意識した内容となるようにしたい。 物権法は、法律専門職のほか、公務員や民間企業で活躍する社会人に必要な法的知識のなかでも重要な分野であり、それらの就業力の観点も踏まえた授業を行う。		
履修条件・留意点	民法総則Ⅰ、物権法Ⅰで学修した知識が必要です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 物権法に関する主要な制度の制度趣旨を正確に理解している。 2. 物権法に関する主要な制度の意義・要件・効果について説明することができ、応用的な知識も修得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験等については、授業中に解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	民法Ⅱ物権[第5版](有斐閣Sシリーズ)，淡路剛久ほか，有斐閣，2022 年	ISBN	978-4-641-15955-6
参考書	①民法判例百選Ⅰ 総則・物権 第9版，潮見 佳男、道垣内 弘人，有斐閣，2023 年	ISBN	①978-4-641-11562-0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	六法は必ず持参してください。 物権法は、法学部の専門科目の中でも民事法系科目の中心となる重要な科目であり、法律専門職、公務員、民間企業のどの進路に進む場合にも必要となる科目です。本科目履修後は、他の民法科目を履修して理解を深めてください。 また、日常生活とも大きく関わる分野ですので、頑張って修得するようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	授業の進め方、予習・復習の方法、成績評価方法、民法の学習方法、参考書の紹介、民法の全体像と物権法の位置づけ、物権の種類・客体について理解する	予習：民法総則Ⅰ、物権法Ⅰに関する復習を行うこと。 復習：初回授業の復習を行うこと。特に、テキストと配布資料を使って、民法の全体像と物権法の位置づけ、物権の種類・客体についての確認を行うこと。	4時間
第2回	対面	優先的効力、物権的請求権、物権変動の意義、物権変動の時期について理解する	予習：テキストの「優先的効力、物権的請求権、物権変動の意義、物権変動の時期」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「優先的効力、物権的請求権、物権変動の意義、物権変動の時期」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4時間
第3回	対面	不動産物権変動における公示について理解する	予習：テキストの「不動産物権変動における公示」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「不動産物権変動における公示」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4時間
第4回	対面	動産物権変動における公示について理解する	予習：テキストの「動産物権変動における公示」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「動産物権変動における公示」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4時間
第5回	対面	立木等の物権変動と明認方法、物権の消滅について理解する	予習：テキストの「立木等の物権変動と明認方法、物権の消滅」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「立木等の物権変動と明認方法、物権の消滅」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4時間
第6回	対面	占有権について理解する	予習：テキストの「占有権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「占有権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4時間
第7回	対面	所有権について理解する	予習：テキストの「所有権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「所有権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4時間
第8回	対面	地上権、永小作権、地役権、入会権について理解する	予習：テキストの「地上権、永小作権、地役権、入会権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「地上権、永小作権、地役権、入会権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4時間
第9回	対面	第8回までの授業で扱った部分に関する総括を行う。 中間試験を実施する。	予習：第8回目までの授業内容の総復習として、これまで学修したテキストの範囲を再読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：第8回目までの授業で学修したテキストの範囲を再読みしてください。	4時間
第10回	対面	担保物権の意義・種類・効力・性質、留置権について理解する	予習：テキストの「担保物権の意義・種類・効力・性質、留置権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「担保物権の意義・種類・効力・性質、留置権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4時間
第11回	対面	先取特権、質権について理解する	予習：テキストの「先取特権、質権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。	4時間

			さい。 復習：テキストの「先取特権、質権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	
第12回	対面	抵当権の意義、設定、効力について理解する	予習：テキストの「抵当権の意義、設定、効力」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「抵当権の意義、設定、効力」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第13回	対面	抵当権の処分、消滅、共同抵当、根抵当権について理解する	予習：テキストの「抵当権の処分、消滅、共同抵当、根抵当権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「抵当権の処分、消滅、共同抵当、根抵当権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第14回	対面	非典型担保について理解する	予習：テキストの「非典型担保」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「非典型担保」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けたこれまでの総復習を行う	予習：テキストとレジュメでこれまで学修した内容の総復習を行ってください。 復習：第15回の授業で学修した総復習の内容について確認してください。	4 時間

科目名	債権総論 I	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	債権総論（民法第3編債権・第1章総則：399条～520条の27）に規定されている諸制度の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	・民法は、私たちの日常生活で生じる紛争を解決するための基本的なルールを定めたものであり、第1編総則・第2編物権・第3編債権・第4編親族・第5編相続の5つの編からなっている。講学上、総則・物権・債権を財産法、親族・相続を家族法（または親族法）と呼んでいる。債権総論と債権各論とに分類されている。 ・このうち債権とは、人（債権者）が人（債務者）に対して一定の行為をすること、またはしないことを請求できる権利を意味するが、この授業では、「債権総論」と呼ばれている「第3編債権・第1章総則」に規定されている諸制度の基礎知識の修得を目的とする。債権総論には、第3編債権の第2章契約・第3章事務管理・第4章不当利得・第5章不法行為（これらは債権の発生原因を定めたもので、「債権各論」と呼ばれている。）に共通して適用される規定が体系的にまとめられている。具体的には、発生した債権の効力、多数当事者の債権債務関係、債権譲渡・債務引受、債権の消滅という、いわば債権の一生が債権総論に規定されている。もっとも、債権総論の規定が一般的・抽象的であるため、初学者にとっては理解が難しい部分がある。 ・授業に際しては、具体的な事例を多く用いることによって受講生がイメージをつかみやすくするとともに、公務員採用試験や各種の資格試験の受験にも対応した内容とする予定である。		
履修条件・留意点	債権各論 I を並行して受講することをつよく推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・債権総論に規定されている諸制度の概要、条文の文言及び専門用語の意味、他の制度との関連について理解し、説明することができる。 ・債権総論に関わる諸問題について、授業で学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。 ・論理的思考及び法律文章の読み方・書き方を理解し、自ら活用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。 ・授業の内容に関する質問はいつでも受け付け、回答する。よい質問については、質問者本人の承諾を得たうえで、次の授業で紹介し、受講生全員の知識の定着を図る。 ・各回の授業の最後に行う小テストの解答は、次の授業の冒頭で解説を行い、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	有斐閣ストウディア民法4 債権総論〔第2版〕, 山本敬三監修, 有斐閣, 2024 年, 2420 円	ISBN	978-4-641-15131-4
参考書	窪田充見・森田宏樹編, 民法判例百選Ⅱ〔第9版〕, 有斐閣, 2023 年, 2420 円	ISBN	978-4-641-11563-7
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス／序論 ・授業の進め方・成績評価方法 ・民法における債権法及び債権総論の位置づけと特徴 ・債権総論の受講上の留意点 ・債権と物権の違い	・事前学修 レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第2回	対面	債権の目的 ・特定物債権の意味・効果 ・種類債権・制限種類債権の意味・効果 ・金銭債権の特殊性 ・選択債権	・事前学修 レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第3回	対面	債権の効力－債務者が契約を守らないときに債権者にできること(1) ・債権の効力：債務・責任の意味 ・債務不履行の種類	・事前学修 レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第4回	対面	債権の効力－債務者が契約を守らないときに債権者にできること(2) ・履行の強制 ・損害賠償 ・契約の解除 ・債権者が契約を守らない？ 受領遅滞の法的性質と効果	・事前学修 レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間

第5回	対面	責任財産の保全一債権を回収するための 債権者の防衛策(1) ・債権者代位権①	・事前学修 レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第6回	対面	責任財産の保全一債権を回収するための 債権者の防衛策(2) ・債権者代位権②	・事前学修 レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第7回	対面	責任財産の保全一債権を回収するための 債権者の防衛策(3) ・詐害行為取消権①	・事前学修 レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第8回	対面	責任財産の保全一債権を回収するための 債権者の防衛策(4) ・詐害行為取消権②	・事前学修 レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第9回	対面	債権の消滅(1) ・弁済 ・代物弁済 ・供託	・事前学修 レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第10回	対面	債権の消滅(2) ・相殺	・事前学修 レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば	4時間

		・その他の債権の消滅原因：更改・免除・混同	ば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジユメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジユメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	
第 1 1 回	対面	多数当事者の債権債務関係(1)―食事会の割り勘 ・分割（可分）債権・分割（可分）債務 ・連帯債権・連帯債務 ・不可分債権・不可分債務	・事前学修 レジユメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジユメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジユメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第 1 2 回	対面	多数当事者の債権債務関係(2)―保証人と連帯保証人の違い ・保証債務 ・連帯保証債務	・事前学修 レジユメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジユメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジユメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第 1 3 回	対面	債権譲渡／債務引受／契約上の地位の移転 ・債権譲渡 ・債務引受 ・契約上の地位の移転	・事前学修 レジユメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジユメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジユメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第 1 4 回	対面	有価証券 ・有価証券の種類 ・有価証券の権利行使方法	・事前学修 レジユメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジユメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修 授業で説明した内容をノート、レジユメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	これまでの学習の振り返り	・事前学修 これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには 2 時間を要する。 ・事後学修 これまでの授業内容を振り返り、定期試	4 時間

2025/05/01

			験の準備に取り組む。これには 2 時間を要する。	

科目名	債権総論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	手嶋 豊	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法典のうち、「債権総則」に該当する部分に関する基礎知識の習得。		
授業の目的及び概要	本授業では、民法典第3編「債権」の第1章「総則」（399条～520条の20）を概説し、その基本的理解を得ることを目的とする。債権総論は、債権に共通する要素を汲み上げたもので抽象性が高く難解な領域であるが、民法を理解する上で欠かせない。		
履修条件・留意点	この授業を受講した後は、債権総論Ⅱも受講することが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 債権総論に関する基礎的知識を習得すること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 授業内容に関する質問は、授業後、あるいはメールでも受け付ける。 ・ 定期試験については、実施後に簡単な講評を授業支援システム（Learning Portal）に掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	有斐閣ストウディア民法4 債権総論（第2版）、山本敬三監修・栗田昌裕・坂口甲・下村信江・吉永一行著、有斐閣、2024 年	ISBN	978-4-641-15131-4
参考書	民法判例 30！債権総論 [増補版]、田高寛貴・白石大・山城一真、有斐閣、2023 年	ISBN	978-4-641-23319-5
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはない。 ・ 最新版の六法を持参すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業全体のオリエンテーション、 債権総論概説：債権の意義、債権と物権の違い、債権の目的	事前学修：テキスト Chapter1 および Chapter2（1～41 頁）を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかった	4 時間

			ところがないかを確認する。3時間。	
第2回	対面	債務不履行①：債務不履行の意義・種類、履行の強制など	事前学修：テキスト Chapter3・4 (42～71 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3時間。	4時間
第3回	対面	債務不履行②：債務不履行による損害賠償、損害賠償の成立要件および免責事由	事前学修：テキスト Chapter5 (72～96 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。	4時間
第4回	対面	債務不履行③：損害賠償と損害の意味、損害賠償の確定と損害の金銭的評価・特則	事前学修：テキスト Chapter6 (97～121 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3時間。	4時間
第5回	対面	責任財産の保全①～責任財産保全の制度、債権者代位権の意義・要件・行使と転用	事前学修：テキスト Chapter7 (121～144 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3時間。	4時間
第6回	対面	責任財産の保全②～詐害行為取消権：詐害行為取消権の意義・要件・行使方法・効果	事前学修：テキスト Chapter8 (145～181 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3時間。	4時間
第7回	対面	債権の消滅①～弁済①：弁済の意義、弁済の当事者、弁済の充当など	事前学修：テキスト Chapter13 (276～307 頁のうち、弁済による代位の部分を除く) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3時間。	4時間
第8回	対面	債権の消滅②—弁済②、弁済以外の債権消滅事由①：弁済による代位、代物弁済、供託、相殺の意義など	事前学修：テキスト Chapter13・14 (286～294、308～319 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3時間。	4時間
第9回	対面	債権の消滅③—弁済以外の債権の消滅事由②：相殺の要件・方法・効果など、受領遅滞	事前学修：テキスト Chapter14 (319～343 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3時間。	4時間
第10回	対面	債権譲渡①：債権譲渡の意義・成立要件と対抗要件	事前学修：テキスト Chapter11 (238～255 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3時間。	4時間
第11回	対面	債権譲渡②：債権譲渡と第三者、債権譲渡の効果、債務引受など	事前学修：テキスト Chapter12 (256～275 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3時間。	4時間
第12回	対面	多数当事者の債権および債務、分割債権・分割債務、連帯債権・連帯債務、不可分債権・不可分債務	事前学修：テキスト Chapter9 (182～205 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかった	4時間

			ところが残っていないかを確認する。3 時間。	
第 1 3 回	対面	保証①：保証債務の意義・性質、保証債務の成立など	事前学修：テキスト Chapter10（206～223 頁）を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 1 4 回	対面	保証②：連帯保証、根保証	事前学修：テキスト Chapter10（223～237 頁）を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	これまでの学修の振り返り	事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理する。2 時間。 事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。2 時間。	4 時間

科目名	債権総論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	手嶋 豊	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	債権総論（民法典第3編債権第1章総則）に関する知識の定着とその運用力の涵養		
授業の目的及び概要	・この授業は、債権総論Ⅰで学修した基礎知識を確実にすることを出発点に、債権総論に関わる諸問題に対して、妥当な法的解決を導きだすことのできる運用力を身につけることを目的とする。 ・授業においては、債権総論に関する判例を多数紹介し、各種試験における事例問題への対処の準備にも役立つ内容とする。		
履修条件・留意点	この授業は、債権総論Ⅰの上位科目であり、債権総論Ⅰを履修した学生の履修を推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・債権総論に規定されている諸制度の概要を理解し、適切に説明することができる。 ・債権総論に関わる法律問題について、妥当な結論を説得的に導くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業の内容に関する質問は授業後に、あるいはメールでも受け付ける。 ・定期テストについて、実施後に授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	有斐閣ストゥディア民法4 債権総論、山本敬三監修・栗田昌裕・坂口甲・下村信江・吉永 一行、有斐閣、2018 年	ISBN	9784641150577
参考書	民法3 債権総論判例30！〔増補版〕、田高寛貴・白石大・山城一真、有斐閣、2023 年	ISBN	9784641233195
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはない。 ・債権総論の学修に際しては、民法総則や債権各論で学習する内容の理解が必要な場合もあるため、必要に応じて、関連する部分についても説明する。 ・授業には最新版の六法を持参すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス：授業の進め方・成績評価方法 債権総論Ⅰの振り返り	事前学修：第一回目は、全体に対するガイダンスが中心である。本科目の全体の内容を把握するとともに疑問点があればチェックし、配布資料に目を通して置く。これには1時間を要する。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。これには3時間を要する。	4時間
第2回	対面	債権の目的をめぐる諸問題	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第3回	対面	債務不履行の成立要件をめぐる諸問題①	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第4回	対面	債務不履行の成立要件をめぐる諸問題②	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第5回	対面	債務不履行による損害賠償をめぐる諸問題	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第6回	対面	債権者代位権・詐害行為取消権をめぐる諸問題①	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第7回	対面	債権者代位権・詐害行為取消権をめぐる諸問題②	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第8回	対面	多数当事者の債権債務関係①	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第9回	対面	多数当事者の債権債務をめぐる諸問題②	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第10回	対面	多数当事者の債権債務関係をめぐる諸問題	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所	4時間

		題③	を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	
第11回	対面	弁済をめぐる諸問題①	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第12回	対面	弁済をめぐる諸問題②	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第13回	対面	相殺をめぐる諸問題	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第14回	対面	債権譲渡をめぐる諸問題	事前学修：事前配布のレジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3時間。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの学修の振り返り	・事前学修 これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理する。2時間。 ・事後学修 これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。2時間。	4時間

科目名	債権各論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	手嶋 豊	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法典のうち、「債権各論」に該当する部分についての基礎知識の習得。		
授業の目的及び概要	本授業では、「債権各論」といわれる民法典第3編「債権」第2章～第5章（契約・事務管理・不当利得・不法行為）（521 条～724 条の 2）を概説し、その基本的理解を得ることを目的とする。規定の重要度に鑑み、契約・不法行為を中心として授業を行うが、債権各論全体を扱う。		
履修条件・留意点	本授業の履修者は、引続き債権各論Ⅱも受講することを推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 債権各論に関する基礎知識を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 授業内容に関する質問は、授業後、またメールでも受け付ける。 ・ 定期テストについては、定期テスト実施後に、出題意図と簡単な講評を、授業支援システム（Learning Portal）に掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①有斐閣ストウディア民法5 契約、山本敬三監修・大澤彩・三枝健治・田中洋，有斐閣，2022 年 ②有斐閣ストウディア民法6 事務管理・不当利得・不法行為、山本敬三監修・中原太郎・根本尚徳・山本周平，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784641150881 ②9784641150928
参考書	・ 民法判例 30！債権各論、中原太郎・幡野弘樹・丸山絵美子・吉永一行、有斐閣、2023 年	ISBN	9784641137290
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ 授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム(Learning Portal)に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはない。 ・ 授業には最新版の六法を持参すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業全体のオリエンテーション 契約法の概観と契約の成立：契約の意義、契約自由の原則、契約の成立と拘束力	事前学修：テキスト①Chapter1 および2（1～32頁）を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1時間。	4時間

			事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①Chapter1 および 2 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	
第 2 回	対面	契約の効力：同時履行の抗弁、危険負担、不安の抗弁、事情変更の法理	事前学修：テキスト①Chapter3 (33～58 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①Chapter3 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 3 回	対面	解除：解除の意義、解除の要件、解除の効果	事前学修：テキスト①Chapter4 (59～84 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①Chapter4 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 4 回	対面	財産移転型契約①～売買①：売買の意義・成立要件、売買の予約、手付	事前学修：テキスト①Chapter7 (110～124 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①Chapter7 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 5 回	対面	財産移転型契約②～売買②、交換・贈与：売買の効果、契約不適合責任、贈与など	事前学修：テキスト①Chapter7 (124～155 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①Chapter7 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 6 回	対面	貸借型契約①～消費貸借：消費貸借の意義・成立要件・効果、賃貸借①―賃貸借の意義・成立・効力など	事前学修：テキスト①Chapter9 および 10 (156～194 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①Chapter9 および 10 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 7 回	対面	貸借型契約②～賃貸借②：賃貸借の存続期間と終了、礼金・敷金、賃借権の譲渡・転貸、使用貸借	事前学修：テキスト①Chapter11 (195～226 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①Chapter11 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 8 回	対面	役務提供型契約①～請負の意義・仕事完成義務・契約不適合責任・完成物の所有権の帰属など	事前学修：テキスト①Chapter12 (227～250 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①Chapter12 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。	4.5 時間
第 9 回	対面	役務提供契約②～委任その他	事前学修：テキスト①Chapter13～15 (251～301 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①Chapter13～15 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 10 回	対面	不法行為の成立要件①：総論、故意・過失、権利・法益侵害	事前学修：テキスト②Chapter1～4 (1～54 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②Chapter1～4 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 11 回	対面	不法行為の要件②：損害・因果関係・責任阻却事由	事前学修：テキスト②Chapter5 および 6 (55～74 頁) を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②Chapter5 および 6 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 12 回	対面	不法行為の効果①：損害賠償の請求主体・	事前学修：テキスト②Chapter6～8 (75～129 頁) を	4 時間

		範囲、損害の算定と賠償額の減額、金銭によらない救済	読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②Chapter6～8 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	
第 1 3 回	対面	他人の行為についての責任、物の危険についての責任：監督義務者責任の意義・成立要件・効果、使用者責任の意義・要件・効果 土地工作物責任の意義・成立要件・効果、動物占有者責任の意義・成立要件・効果、製造物責任	事前学修：テキスト②Chapter9 および 10（130～170 頁）を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②Chapter9 および 10 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 1 4 回	対面	共同不法行為、事務管理、不当利得：共同不法行為の意義・要件・甲か、事務管理・不当利得の意義・要件・効果	事前学修：テキスト②Chapter11～15（171～260 頁）を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②Chapter11～15 を読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	これまでの学修の振り返り	事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理する。2 時間。 事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。2 時間。	4 時間

科目名	債権各論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	債権各論の基礎		
授業の目的及び概要	民法債権各論についての基礎的な学習。 民法財産法分野を概観した後、債権各論規定の意味、法概念の意味と解釈問題について、教科書に基づき学習していく。 債権各論に関する基礎的知識を修得を目的とします。 債権各論には契約法、不当利得法、不法行為法が含まれるが、売買、賃貸借のような議論の多い問題があると共に物権法、債権総論の知識も必要となります。また、不当利得法は特に難解であり、不法行為法も重要な事例がたくさんあります。本講義では必要な基礎的な力を身に付けることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 債権各論に関する基本的な概念、条文について説明することができる。 2. 債権各論に関する基本的な問題を正確に把握し、整理し、説明することができる。 3. 具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。 4. 各種試験に必要な知識を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 レポート、期末試験についてのポイントをラーニングポータルに記載します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①民法 5 契約，大澤彩＝三枝健治＝田中洋，有斐閣，2022 年 ②民法 6 事務管理・不当利得・不法行為，中原太郎＝根本尚徳＝山本周平，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784641150881 ②9784641150928
参考書	①民法判例百選Ⅱ 債権 第 9 版，潮見 佳男・道垣内弘人，有斐閣，2023 年	ISBN	①9784641115637
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	六法は持参すること。 講義にあたって、教科書、事前に配布するレジュメはよく読んでおくこと。 講義で分からなかったことは、講義中、講義後に質問すること。 引き続き、債権各論Ⅱを受講し、知識を定着させること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	民法財産法における総則意思表示規定等との関係、債権総論との関係を概観します。 契約の意義、私的自治の原則、契約自由の原則、契約締結上の過失、契約の成立。 レポート課題を出しますので、期限までに提出すること（レジュメに記載）。	テキスト①第1章第2章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①第1章第2章を読み返すこと。	4時間
第2回	対面	契約総論。契約の成立と効力。同時履行の抗弁、危険負担、不安の抗弁、事情変更の法理。	テキスト①第3章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①第2章を読み返すこと。	4時間
第3回	対面	解除：解除の意義、解除の要件、解除の効果。	テキスト①第4章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①第4章を読み返すこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	贈与、売買。売買の意義、売買の成立要件、売買の予約、手付。	テキスト①第7章（110-118頁）第8章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①第7章（110-118頁）第8章を読み返すこと。	4時間
第5回	対面	売買2：売主の効果、売主の義務、買主の義務、契約不適合責任。	テキスト①第7章（110-118頁）を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①第7章（110-118頁）を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	消費貸借：消費貸借の意義、諾成的消費貸借、消費貸借の成立要件、消費貸借の効果。	事前事後学習：事前学習として、テキスト①第9章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①第9章を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	賃貸借1：賃貸借の意義、転貸借、賃貸借の成立要件、賃貸人の義務、賃借人の義務。	事前事後学習：事前学習として、テキスト①第10章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①第10章を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	賃貸借2、使用貸借：賃貸借の終了、賃貸借と第三者、使用貸借の成立要件、使用貸借の効果。	事前事後学習：事前学習として、テキスト①第11章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①第11章を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	雇用、請負、委任、寄託。	テキスト①第12章第13章第14章第15章を読む。レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	不法行為法総論、不法行為の成立要件1：不法行為法の意義、故意・過失、権利・法益侵害（違法性）。 不法行為の成立要件2：損害、因果関係、責任阻却事由。	事前事後学習：事前学習として、テキスト②第1-5章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②第1-5章を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	不法行為の効果1：損害賠償の意味、損害賠償の主体、損害賠償の範囲。 不法行為の効果2：損害の算定、損害賠償額の減額。	事前事後学習：事前学習として、テキスト②第6章第7章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②第6章第7章を読み返すこと。 疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	他人の行為についての責任：監督義務者責任の意義、監督義務者責任の成立要件および効果、使用者責任の意義、使用者責任の要件および効果。	事前学習として、テキスト②第9章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②第9章を読み返す。レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決	4時間

			し、復習しておくこと。	
第13回	対面	事務管理、不当利得：事務管理の意義、不当利得の意義。	事前事後学習：事前学習として、テキスト②第12章および第13章を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②第12章および第13章を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	不当利得。不当利得の多様な局面。	教科書②の第13章、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ：定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。オンデマンド動画では、重要なポイントを改めて解説します。	オンデマンド動画を視聴した上で、当該箇所の「授業レジュメ」およびテキストを見返しておくこと。	4時間

科目名	債権各論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	手嶋 豊	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	債権各論（民法第三編債権第 2～5 章）に関する知識の定着とその運用力の涵養		
授業の目的及び概要	・ この授業は、債権各論Ⅰで学修した基礎知識を確実にすることを出発点に、債権各論に関わる諸問題に対して、妥当な法的解決を導き出すことのできる、債権各論の運用力を身につけることを目的とする。 ・ 授業では、契約法・不法行為法を中心として講義する。その際、債権各論に関する判例を多数紹介し、各種試験における事例問題への対処の準備にも役立つ内容とする予定である。		
履修条件・留意点	この授業は、債権各論Ⅰの上位科目であり、債権各論Ⅰの履修した学生の履修を推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 債権各論に規定されている諸制度の概要を理解し、適切に説明することができる。 ・ 債権各論に関わる法律問題について、妥当な結論を説得的に導くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 授業の内容に関する質問は授業後に、あるいはメールなどでも質問を受け付ける。 ・ 定期試験について、実施後に授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①有斐閣ストウディア民法 5 契約，山本敬三監修・大澤彩・三枝健治・田中洋，有斐閣，2022 年 ②有斐閣ストウディア民法 6 事務管理・不当利得・不法行為，山本敬三監修・中原太郎・根本尚徳・山本周平，有斐閣，2022 年	ISBN	① 9784641150881 ② 9784641150928
参考書	民法判例 30！債権各論、中原太郎・幡野弘樹・丸山絵美子・吉永一行、有斐閣、2023 年	ISBN	9784641137290
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ 授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム(Learning Portal)に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはない。 ・ 授業には最新版の六法を持参すること。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	授業全体のオリエンテーション 契約総論①～契約の成立・効力に関わる諸問題	事前学修：テキスト①Chapter1～chapter3を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第2回	対面	契約総論②～解除	事前学修：テキスト①Chapter4を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第3回	対面	財産移転型契約①～売買①	事前学修：テキスト①Chapter7を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第4回	対面	財産移転型契約②～売買②	事前学修：テキスト①Chapter7を再度、読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第5回	対面	貸借型契約①～消費貸借・賃貸借①	事前学修：テキスト①Chapter9・Chapter10を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第6回	対面	貸借型契約②～賃貸借②	事前学修：テキスト①Chapter11を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第7回	対面	役務提供型契約①～請負	事前学修：テキスト①Chapter12を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第8回	対面	役務提供契約②～委任	事前学修：テキスト①Chapter13を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト①該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第9回	対面	不法行為の成立要件①	事前学修：テキスト②Chapter1～Chapter4を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第10回	対面	不法行為の成立要件②	事前学修：テキスト①Chapter5・6を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第11回	対面	不法行為の効果	事前学修：テキスト②Chapter6～Chapter8を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第12回	対面	特殊不法行為	事前学修：テキスト②Chapter9～Chapter11を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第13回	対面	不当利得①	事前学修：テキスト②Chapter13を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第14回	対面	不当利得②	事前学修：テキスト①Chapter14・15を読む。1時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト②該当部分を読み返す。3時間。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの学修の振り返り	事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理する。2時間。 事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。2時間。	4時間

科目名	家族法 I	開講年度	2025
担当者	楊 歆可	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	親族法の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	本講義は、民法第 4 編「親族」に規定される法制度を学びながら、家族という基本的な社会単位と法律との関係についての理解を深めることを目的とする。夫婦や親子を中心とする親族関係に焦点を当て、民法第 4 編「親族」に定められた法制度および関連する法律（戸籍法、人事訴訟法、家事事件手続法など）の基本的な仕組みを具体的な事例を交えながら概説する。また、少子高齢化、晩婚化、生殖補助医療技術の進展といった現代的な課題が親族法にどのような影響を与えているのかを検討する。さらに、講義では最新の法改正や判例も取り上げ、現代社会における親族法の動向を学ぶ。		
履修条件・留意点	特になし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・親族法の諸制度の基礎的知識を習得し、重要な判例や学説の内容を理解して説明できる能力を養う。 ・親族法に関する理論や判例を踏まえ、問題点を特定する力を身につけ、自らの意見を論理的に述べる能力を育む。 ・親族法が抱える現代的課題について、多角的な視点から考察し、解決策を模索する姿勢を育てる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・講義では、確認テストやリアクションペーパーを通じて理解を深め、主体的な学習を促す。 ・配布資料やレジュメは、予習・復習に活用することを推奨する。 ・学期末試験後には講評と解説を提供する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『有斐閣アルマ 民法 7 親族・相続〔第 7 版〕』（有斐閣、2023）定価 2,750 円	ISBN	978-4-641-22221-2
参考書	1. 大村敦志・沖野眞己編『民法判例百選Ⅲ〔第 3 版〕』（有斐閣、2023）定価 2,420 円 2. 前田陽一・本山敦・浦野由紀子『民法 VI 親族・相続〔第 7 版〕』（有斐閣、2024）定価 3,080 円 3. 二宮周平『家族法〔第 6 版〕』（新世社、2024）定価 3,850 円	ISBN	1. 978-4-641-11564-4 2. 978-4-641-17957-8 3. 978-4-88384-394-7
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	・小型の六法（デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）など）の最新版を購入し、授業の際に持参すること。 ・授業で使用するレジュメは、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載する。各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ・講義の進め方・成績評価方法 ・家族法の概観	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第2回	対面	家族法総論 ・家族法の意義及び役割 ・氏名と戸籍	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第3回	対面	婚姻の成立 ・婚姻の要件 ・婚姻の無効・取消し	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第4回	対面	婚姻の効果 ・婚姻の効力 ・夫婦財産制	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第5回	対面	離婚の成立 ・離婚法の変遷 ・離婚の方法	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第6回	対面	離婚の効果 ・離婚給付 ・子への配慮	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第7回	対面	婚姻に準じた関係とその保護 ・婚約、内縁、事実婚 ・婚外関係の法的保護	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第8回	対面	実親子関係1 ・嫡出子	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第9回	対面	実親子関係2 ・嫡出でない子	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第10回	対面	生殖補助医療と親子関係	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第11回	対面	養親子関係1 ・普通養子縁組	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第12回	対面	養親子関係2 ・特別養子縁組	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第13回	対面	親権	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第14回	対面	後見・扶養	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	レジュメと教科書を用いて、親族法全体の総復習を行う。	4 時間

科目名	家族法 I	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	家族法（民法典第4編親族：725条～881条）に規定されている諸制度の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	・民法は、私たちの日常生活で生じる紛争を解決するための基本的なルールを定めたものであり、第1編総則・第2編物権・第3編債権・第4編親族・第5編相続の5つの編からなっている。講学上、総則・物権・債権を財産法、親族・相続を家族法（または親族法）と呼んでいる。 ・この授業では、家族法と呼ばれる第4編親族に規定されている諸制度の基礎知識の修得を目的とする。具体的には、第4編親族では、夫婦・親子を中心とした家族（親族）関係の成立・変動・消滅とその効果に関する基礎知識をを学修する。近年、家族法が頻繁に改正されているので、授業では改正法を取り上げる。 ・周知のように、同性婚の是非や選択的夫婦別氏制度導入の可否など、多様化している家族の形やニーズに家族法が追いついていない状況が生じている。講義では、私たちににとって最も身近な存在である家族を、民法がどのように規律しているかを学修するとともに、上記のような家族をめぐる新しい問題の状況とその解決策についても考えていく。これは、家族という存在を法という物差しから捉え直す作業でもある。 ・授業に際しては、具体的な事例を多く用いることによって受講生がイメージをつかみやすくするとともに、公務員採用試験や各種の法律資格試験の受験にも対応した内容とする予定である。		
履修条件・留意点	・民法総則 I、物権法 I、債権総論 I、債権各論 I を並行して履修することをつよく推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・家族法に規定されている諸制度の概要、条文の文言及び専門用語の意味、他の制度との関連について理解し、説明することができる。 ・家族法に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業の内容に関する質問はいつでも受け付ける。よい質問については、質問者本人の承諾を得たうえで、次回の授業で受講生と共有し、知識の定着を図る。 ・各回の授業の最後に行う小テストの解答は、次回の授業の冒頭で解説を行い、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。 ・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	山本敬三監修、有斐閣ストウディア民法7家族、有斐閣、2023、2530 円	ISBN	978-4-641-15115-4
参考書	大村敦志・沖野眞己編、民法判例百選Ⅲ〔第3版〕、有斐閣、2023 年、2420 円	ISBN	978-4-641-11564-4
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	55
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。 ・家族法の学修に際しては、民法の他の領域の知識が必要な場合がある。必要に応じて、関連する部分についても授業時に説明する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス：授業の進め方・成績評価方法 ・家族法序論：民法における家族法の位置づけと特徴、親族の範囲と親等の数え方	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第2回	対面	婚姻の成立 ・婚姻の前段階において生じる問題：婚約・結納 ・婚姻の成立要件と婚姻の無効・取消し	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第3回	対面	婚姻の効果	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第4回	対面	婚姻の解消 ・婚姻の解消原因 ・離婚の手続	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第5回	対面	婚姻の解消の効果	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。	4時間

			・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	
第6回	対面	内縁 ・内縁と法律婚の違い ・内縁の効果	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4 時間
第7回	対面	親子① ・実子:嫡出推定制度の概要と嫡外子(非嫡出子)	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4 時間
第8回	対面	中間テスト	・事前学修:第1回から第7回までの授業内容を復習し、中間テストに備える。これには4時間を要する。 ・事後学修:中間テスト問題に再度取り組み、理解を深める。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	6 時間
第9回	対面	親子② ・養子:普通養子・特別養子	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4 時間
第10回	対面	親子③ 生殖補助医療により生まれた子の親子関係	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4 時間
第11回	対面	親権 ・親権の内容 ・親権の制限 ・利益相反行為	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4 時間
第12回	対面	家族間の紛争の解決手続	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメ	4 時間

			の小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	
第13回	対面	後見・保佐・補助	・事前学修:レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4 時間
第14回	対面	扶養	・事前学修:レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4 時間
第15回	オンデマンド	第1回から第14回までの学修の振り返り	・事前学修:これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには2時間を要する。 ・事後学修:これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。これには2時間を要する。	4 時間

科目名	家族法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	楊 歆可	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	相続法の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	本講義は、民法第 5 編「相続」に規定される制度の基本的な仕組みを学び、相続法が家族および社会において果たす役割と意義を理解することを目的とする。相続人、相続財産、遺言、遺留分などの法制度を具体的に解説し、配偶者居住権や相続財産管理制度、遺産分割などの近年の法改正も取り上げる。これらの法改正が現代社会の課題にどう対応しているかを考察し、事例や時事トピックを通じて実践的な理解を深める。		
履修条件・留意点	「家族法Ⅰ」の履修を推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 民法相続編に規定される法制度や規範について正確に理解し、相続法における主要な学説や判例の意義を把握する。 ・ 具体的な事例を通じて相続に関する問題点を特定し、法的な解決策を示す力を養う。 ・ 相続法が直面する現代的課題について多角的に考察し、自らの意見を論理的に展開できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 講義では、確認テストやリアクションペーパーを通じて理解を深め、主体的な学習を促す。 ・ 配布資料やレジュメは、予習・復習に活用することを推奨する。 ・ 学期末試験後には講評と解説を提供する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『有斐閣アルマ 民法 7 親族・相続〔第 7 版〕』（有斐閣、2023）定価 2,750 円	ISBN	978-4-641-22221-2
参考書	1. 大村敦志・沖野眞己編『民法判例百選 III〔第 3 版〕』（有斐閣、2023）定価 2,420 円 2. 前田陽一・本山敦・浦野由紀子『民法 VI 親族・相続〔第 7 版〕』（有斐閣、2024）定価 3,080 円 3. 二宮周平『家族法〔第 6 版〕』（新世社、2024）定価 3,850 円	ISBN	1. 978-4-641-11564-4 2. 978-4-641-17957-8 3. 978-4-88384-394-7
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 小型の六法（デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）など）の最新版を購入し、授業の際に持参すること。 ・ 授業で使用するレジュメは、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載する。各自ダ		

ウンロードして予習の上、授業時に持参すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ・ 講義の進め方、成績評価方法 ・ 相続法の全体像	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第2回	対面	相続の開始	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第3回	対面	相続人1 ・ 相続人の範囲	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第4回	対面	相続人2 ・ 相続欠格 ・ 相続人の不存在	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第5回	対面	法定相続1 ・ 相続財産	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第6回	対面	法定相続2 ・ 相続分	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第7回	対面	法定相続3 ・ 特別受益 ・ 寄与分	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第8回	対面	法定相続4 ・ 相続の承認 ・ 相続の放棄	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第9回	対面	法定相続5 ・ 遺産分割の基礎	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第10回	対面	法定相続6 ・ 遺産分割と第三者	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第11回	対面	遺言1 ・ 遺言の方式 ・ 遺言の効力	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第12回	対面	遺言2 ・ 遺言による財産処分 ・ 遺言の執行	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第13回	対面	遺留分1 ・ 遺留分とは ・ 遺留分の確定	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第14回	対面	遺留分2 ・ 遺留分侵害額請求権	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間） および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	レジュメと教科書を用いて、相続法全体の総復習を行う。	4 時間

科目名	家族法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	相続法（民法典第5編相続：882条～1050条）に規定されている諸制度の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	・民法は、私たちの日常生活で生じる紛争を解決するための基本的なルールを定めたものであり、第1編総則・第2編物権・第3編債権・第4編親族・第5編相続の5つの編からなっている。講学上、総則・物権・債権を財産法、親族・相続を家族法（または親族法）と呼んでいる。 ・この授業は、相続法と呼ばれる民法典第5編相続に規定されている諸制度の基礎知識の修得を目的とする。具体的には、死亡した被相続人の権利義務の移転の仕組み（相続と遺贈）について学修する。 ・被相続人の死後における財産上の権利義務の承継は、相続人間の公平および相続について利害関係を有する第三者の利益を考慮しつつ、確実かつ安定的になされる必要があり、そこで緻密な解釈論が求められる。そのためには、相続法が用意している諸制度と制度相互の関係を正確に理解するとともに、判例の動向にも注意する必要がある。この講義を通じて、相続法にとどまらず、法律学の醍醐味である解釈論の楽しさに触れることを期待する。 ・授業に際しては、具体的な事例を多く用いることによって受講生がイメージをつかみやすくするとともに、公務員採用試験や各種の法律資格試験の受験にも対応した内容とする予定である。		
履修条件・留意点	・民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、債権各論Ⅰ、家族法Ⅰを履修していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・相続法に規定されている諸制度の概要、条文の文言及び専門用語の意味、他の制度との関連について理解し、説明することができる。 ・相続法に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業の内容に関する質問はいつでも受け付ける。よい質問については、質問者本人の承諾を得たうえで、次回の授業で受講生と共有し、知識の定着を図る。 ・各回の授業の最後に行う小テストの解答は、次回の授業の冒頭で解説を行い、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。 ・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	山本敬三監修，有斐閣ストゥディア民法7家族，有斐閣，2023，2530 円	ISBN	978-4-641-15115-4
参考書	大村敦志・沖野眞己編，民法判例百選Ⅲ〔第3版〕，有斐閣，2023 年，2420 円	ISBN	978-4-641-11564-4
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	55
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。 ・相続法の学修に際しては、民法の他の領域の知識が必要な場合がある。必要に応じて、関連する部分についても授業時に説明する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス：授業の進め方・成績評価方法 ・相続法序論：相続法の全体像・相続の仕組み	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第2回	対面	相続人の範囲	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第3回	対面	相続の承認（単純承認および限定承認）・放棄	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第4回	対面	相続財産の範囲	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第5回	対面	遺産共有（遺産分割が終了するまでの遺産をめぐる法律関係） 遺産分割	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。	4時間

			・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	
第6回	対面	相続分 ・指定相続分 ・具体的相続分(特別受益と寄与分がある場合の相続分の算定方法) ・相続分の譲渡	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第7回	対面	中間テスト	・事前学修:第1回から第6回までの授業内容を復習し、中間テストに備える。これには4時間を要する。 ・事後学修:中間テスト問題に再度取り組むとともに理解を深める。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	6時間
第8回	対面	相続による物権変動と登記	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第9回	対面	相続人が存在しない場合の処理 財産分離制度	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第10回	対面	遺言 ・遺言の種類と要件 ・遺言の解釈方法 ・遺言書保管法	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第11回	対面	遺贈 ・遺贈の種類(特定遺贈と包括遺贈)と効果 ・特定財産承継遺言の法的性質と効果	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第12回	対面	遺留分と遺留分侵害額支払請求権①	・事前学修:レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメ	4時間

			の小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	
第13回	対面	遺留分と遺留分侵害額支払請求権②	・事前学修:レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第14回	対面	配偶者居住権と配偶者短期居住権制度 特別の寄与制度	・事前学修:レジюмеと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジюмеの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修:授業で説明した内容をノート、レジюме、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには2時間を要する。	4時間
第15回	オンデマンド	相続法学修の振り返り	・事前学修:これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには2時間を要する。 ・事後学修:これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。これには2時間を要する。	4時間

科目名	民事訴訟法 I	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事訴訟手続の流れと仕組みを学ぶ。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、民事訴訟手続の全体の流れと仕組みを学び、その基本構造について理解することにある。 主として第一審の民事訴訟手続の流れに沿って、民事訴訟法の基本的な制度や概念等の意味内容について説明する講義を行う。 民事訴訟手続の初歩を学びたい皆さんを受講対象とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	民事訴訟手続全体の基本構造を正しく理解し、条文に則して説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 小テスト及び定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータルに掲載するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	コンパクト版 基礎からわかる民事訴訟法（第 2 版）， 和田吉弘，商事法務，2023 年 なお、対面授業出席の際には、近時民訴法の改正があったため、その改正後の記載がある 2023 年度（最新）版の六法を持参すること。	ISBN	978-4-7857-3019-2
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	民法総則、物権法、債権総論及び債権各論に関する科目を履修していることが望ましい。 民事裁判の実務経験談を織り交ぜながら、難解で複雑といわれる民事訴訟手続の仕組みや民事訴訟法の概念等を出来る限り、正確に理解できるようかみ砕いて解説していきます。公務員への就職や企業法務に携わることを希望する受講生の皆さんにも役立つよう、近時の民事訴訟法改正内容（IT 化）についても触れる予定です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1章 民事訴訟法全体の概観	【予習】テキスト（1頁から9頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（1頁から9頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（10頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	2時間
第2回	対面	第2章 裁判所 第3章 訴えの提起	【予習】テキスト（11頁から41頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（11頁から41頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（20頁、41頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第3回	対面	第4章 当事者	【予習】テキスト（42頁から50頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（42頁から50頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（49頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第4回	対面	第5章 訴訟要件 第6章 訴訟手続の進行	【予習】テキスト（51頁から63頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（51頁から63頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（56頁、62頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第5回	対面	第7章 口頭弁論とその準備	【予習】テキスト（64頁から77頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（64頁から77頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（76頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第6回	対面	第8章 弁論主義 最後に小テスト問題を配布する。	【予習】テキスト（78頁から86頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（78頁から86頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（85頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。配布された小テスト問題に取り組む。	5時間
第7回	対面	第9章 訴訟行為論	【予習】テキスト（87頁から95頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（87頁から95頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（94頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第8回	対面	第10章 訴訟法総説 冒頭、小テスト結果を返却し、その解説、講評を行う。	【予習】テキスト（96頁から111頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（96頁から111頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（110頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。返却を受けた小テスト内容について、再度、知識を確認する。	5時間
第9回	対面	第11章 証拠調べ	【予習】テキスト（112頁から120頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（112頁から120頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（119頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間

第10回	対面	第12章 裁判によらない訴訟の完結	【予習】テキスト（121頁から131頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（121頁から131頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（131頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第11回	対面	第13章 裁判	【予習】テキスト（132頁から152頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（132頁から152頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（151頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第12回	対面	第14章 請求の客観的複数	【予習】テキスト（153頁から164頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（153頁から164頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（163頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第13回	対面	第15章 請求の主観的複数	【予習】テキスト（165頁から184頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（165頁から184頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（184頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第14回	対面	第16章 上訴・再審 第17章 その他（少額訴訟、督促手続など）	【予習】テキスト（185頁から201頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（185頁から201頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（198頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第15回	オンデマンド	第1回から第14回までの対面授業内容のまとめ・総復習	【予習】テキストや第1回から第14回までの対面授業で配布されたレジュメを読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、その中で復習のポイントとして示唆された内容を中心に、再度確認し、定期試験に向けて、理解に努める。	4時間

科目名	民事訴訟法 I	開講年度	2025
担当者	池田 健人	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事訴訟手続の流れと仕組みを学ぶ。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、民事訴訟手続の全体の流れと仕組みを学び、その基本構造について理解することにある。 主として第一審の民事訴訟手続の流れに沿って、民事訴訟法の基本的な制度や概念等の意味内容について説明する講義を行う。 民事訴訟手続の初歩を学びたい皆さんを受講対象とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	民事訴訟手続全体の基本構造を正しく理解し、条文に則して説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 小テスト及び定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータルに掲載するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	コンパクト版 基礎からわかる民事訴訟法（第2版）， 和田吉弘，商事法務，2023 年 なお、対面授業出席の際には、近時民訴法の改正があったため、その改正後の記載がある 2023 年度（最新）版の六法を持参すること。	ISBN	978-4-7857-3019-2
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	民法総則、物権法、債権総論及び債権各論に関する科目を履修していることが望ましい。 民事裁判の実務経験談を織り交ぜながら、難解で複雑といわれる民事訴訟手続の仕組みや民事訴訟法の概念等を出来る限り、正確に理解できるようかみ砕いて解説していきます。公務員への就職や企業法務に携わることを希望する受講生の皆さんにも役立つよう、近時の民事訴訟法改正内容（IT 化）についても触れる予定です。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	第1章 民事訴訟法全体の概観	【予習】テキスト（1頁から9頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（1頁から9頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（10頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	2時間
第2回	対面	第2章 裁判所 第3章 訴えの提起	【予習】テキスト（11頁から41頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（11頁から41頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（20頁、41頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第3回	対面	第4章 当事者	【予習】テキスト（42頁から50頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（42頁から50頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（49頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第4回	対面	第5章 訴訟要件 第6章 訴訟手続の進行	【予習】テキスト（51頁から63頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（51頁から63頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（56頁、62頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第5回	対面	第7章 口頭弁論とその準備	【予習】テキスト（64頁から77頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（64頁から77頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（76頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第6回	対面	第8章 弁論主義 最後に小テスト問題を配布する。	【予習】テキスト（78頁から86頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（78頁から86頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（85頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。配布された小テスト問題に取り組む。	5時間
第7回	対面	第9章 訴訟行為論	【予習】テキスト（87頁から95頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（87頁から95頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（94頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第8回	対面	第10章 訴訟法総説 冒頭、小テスト結果を返却し、その解説、講評を行う。	【予習】テキスト（96頁から111頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（96頁から111頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（110頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。返却を受けた小テスト内容について、再度、知識を確認する。	5時間
第9回	対面	第11章 証拠調べ	【予習】テキスト（112頁から120頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（112頁から120頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（119頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間

第10回	対面	第12章 裁判によらない訴訟の完結	【予習】テキスト（121頁から131頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（121頁から131頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（131頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第11回	対面	第13章 裁判	【予習】テキスト（132頁から152頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（132頁から152頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（151頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第12回	対面	第14章 請求の客観的複数	【予習】テキスト（153頁から164頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（153頁から164頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（163頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第13回	対面	第15章 請求の主観的複数	【予習】テキスト（165頁から184頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（165頁から184頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（184頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第14回	対面	第16章 上訴・再審 第17章 その他（少額訴訟、督促手続など）	【予習】テキスト（185頁から201頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（185頁から201頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（198頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第15回	オンデマンド	第1回から第14回までの対面授業内容のまとめ・総復習	【予習】テキストや第1回から第14回までの対面授業で配布されたレジュメを読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、その中で復習のポイントとして示唆された内容を中心に、再度確認し、定期試験に向けて、理解に努める。	4時間

科目名	民事訴訟法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事訴訟法に関する基礎知識を習得した上で、具体的な事例問題を解決する応用力（思考力）を養う。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、民事訴訟手続の仕組みや基本構造について意味内容を理解した上で、民事訴訟法の基本的な論点や判例等について正しく理解し、その基礎知識を身につけた上で、実践的な事例問題を分析し、論証、答案作成に関する応用力（思考力）を養うことにある。 民事訴訟法Ⅰで履修済の内容である基本的な制度や概念等を復習、確認した上で、法科大学院や資格試験合格を目指す受講生の皆さんを念頭において、民事訴訟法の基本的な論点や判例等に即した事例問題について解説する講義を行う。 民事裁判と法＜民事訴訟法Ⅰ＞の授業内容は、理解済であることを前提として、主要な論点に関する裁判例や論証方法に関する説明を含め、論述問題の解説を行うなど、進行速度は速く、内容が濃いものになるので、しっかり予習・復習を心がけることが出来る皆さんを受講対象とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	民事訴訟手続全体の仕組みと基本構造を正しく理解し、条文に則して、具体例を挙げながら説明できる。 民事訴訟法の基本的な論点や判例等について正確に理解し、事例を挙げながら説明できる。 法科大学院・司法試験予備試験・司法書士試験などの受験に必要な基礎知識、具体的な事例問題を分析し、答案作成する能力を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 論述問題及び定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータルに掲載するなどの方法により開示する。 提出がされた論述問題の答案などについては、事後、添削などした上で、返却し、必要に応じて、説明補充（指導）を行う予定である。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	コンパクト版 基礎からわかる民事訴訟法（第 2 版）、和田吉弘，商事法務，2023 年 なお、民事訴訟法Ⅰを履修した際、別の教科書を購入、使用していた者は、担当教員の了解を得て、その教科書をそのまま使用可能とする。 なお、対面授業出席の際には、近時民訴法の改正があったため、その改正後の記載がある 2023 年度（最新）版の六法を持参すること。	ISBN	978-4-7857-3019-2
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	民事訴訟法Ⅰを履修し、単位取得済の者を対象とします。なお、民事訴訟法Ⅰの単位を取得していない者で、特に、履修を希望する場合には、事前に、担当教員宛（f-sakagami@s.keiho-u.ac.jp）メールで打診、許可を得た上で、履修選択してください。 また、民法総則、物権法、債権総論及び債権各論に関する科目を履修していることが望ましい。授業前半（第1回から第8回まで）においては、基礎知識（定義、制度趣旨を含む。）の確認、復習に重点を置き、授業後半（第9回から第14回まで）においては、法科大学院や資格試験合格を目指す受講生の皆さんを念頭にいた、重要で基本的な分野の論点や判例等を取り上げた具体的な事例問題の解説を行います。 民事裁判の実務経験談を織り交ぜながら、公務員への就職や企業法務の携わることを目標とする受講生の皆さんにも役立つよう、近時の民事訴訟法改正内容（IT化）についても触れる予定です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1章 民事訴訟法全体の概観 第2章 裁判所 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	【予習】テキスト（1頁から21頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（1頁から21頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（10、20頁）の確認問題や定義、制度趣旨などに関する設例問題を解いて、知識を確認する。	2時間
第2回	対面	第3章 訴えの提起 第4章 当事者 第5章 訴訟要件 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	【予習】テキスト（22頁から57頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（22頁から57頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（41、49、56頁）の確認問題や定義、制度趣旨などに関する設例問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第3回	対面	第6章 訴訟手続の進行 第7章 口頭弁論とその準備 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	【予習】テキスト（58頁から77頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（58頁から77頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（62、76頁）の確認問題や定義、制度趣旨などに関する設例問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第4回	対面	第8章 弁論主義 第9章 訴訟行為論 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	【予習】テキスト（78頁から95頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（78頁から95頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（86頁、94頁）の確認問題や定義、制度趣旨などに関する設例問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第5回	対面	第10章 証拠法総説 第11章 証拠調べ 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	【予習】テキスト（96頁から120頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（96頁から120頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（110、119頁）の確認問題や定義、制度趣旨などに関する設例問題を解いて、知識を確認する。	4時間

第6回	対面	第12章 裁判によらない訴訟の完結 第13章 裁判 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	【予習】テキスト（121頁から152頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（121頁から152頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（131、151頁）の確認問題や定義、制度趣旨などに関する設例問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第7回	対面	第14章 請求の客観的複数 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	【予習】テキスト（153頁から164頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（153頁から164頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（163頁）の確認問題や定義、制度趣旨などに関する設例問題を解いて、知識を確認する。	4時間
第8回	対面	第15章 請求の主観的複数 第16章 上訴・再審 第17章 その他（少額訴訟・督促手続など） 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	【予習】テキスト（165頁から201頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（165頁から201頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（184頁）の確認問題や定義、制度趣旨などに関する設例問題を解いて、知識を確認する。	5時間
第9回	対面	事例問題検討1 処分権主義（民事訴訟法246条）と一部請求	【予習】第8回の対面授業で指示した文献を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】配布された資料等を参照し、授業で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第10回	対面	事例問題検討2 弁論主義	【予習】第9回の対面授業で指示した文献を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】配布された資料等を参照し、授業で得た知識、論証内容を再度、確認する。	5時間
第11回	対面	事例問題検討3 既判力の客観的範囲と時的限界	【予習】第10回の対面授業で指示した文献を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】配布された資料等を参照し、授業で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第12回	対面	事例問題検討4 既判力の主観的範囲	【予習】第11回の対面授業で指示した文献を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】配布された資料等を参照し、授業で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第13回	対面	事例問題検討5 訴えの追加的変更・交換的変更	【予習】第12回の対面授業で指示した文献を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】配布された資料等を参照し、授業で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第14回	対面	事例問題検討6 必要的共同訴訟・補助参加・訴訟承継	【予習】第13回の対面授業で指示した文献を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】配布された資料等を参照し、授業で得た知識、論証内容を再度、確認する。	4時間
第15回	オンデマンド	総復習講義	【予習】第1回から第14回対面授業で配布されたレジュメ等を読み直し、理解できていない部分がないか確認しておく。 【復習】オンデマンド講義を聴講した上で、総復習のポイントとして示唆された内容を中心に、再度確認し、定期試験に向けて、理解に努める。	4時間

科目名	民事執行・保全法		開講年度	2025
担当者	坂上 文一		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	民事執行手続及び民事保全手続の流れと基本構造を学ぶ。			
授業の目的及び概要	この授業の目的は、民事執行手続と民事保全手続の仕組みを学び、その全体構造を理解して、社会に出た時に役立つ基礎知識を身につけることにある。 授業の前半（第1回から第9回まで）では、民事執行手続について、その全体を概観した上で、主に、金銭債権を回収するために債務者所有の財産を差し押さえる方法（不動産執行、動産執行、債権執行など）について、体系的にその仕組みを説明し、その他の執行手続やこれら手続に対する不服申立の方法などについても説明する。 授業の後半（第10回から第13回まで）では、民事保全手続について、その全体を概観した上で、その種類（仮差押、係争物に関する仮処分、仮の地位を定める仮処分）毎にその仕組みを説明する。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	民事訴訟で勝訴判決等（債務名義）を得ても、債務者（被告）が債務を任意に履行してくれない場合、債権者（原告）としては、どのような民事（強制）執行手続を採るべきか。また、民事（強制）執行手続を採るまでの間、暫定的に自己の権利を保全するためには、どのような民事保全手続を採るべきか。その選択が自分で出来る程度の基礎知識を習得する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	対面授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 小テスト及び定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータル等に掲載するなどの方法により開示する。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995年から2022年まで27年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	基礎からわかる民事執行法・民事保全法【第3版】，和田吉弘，弘文堂，2021年		ISBN	9784335356629
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		70	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	民事訴訟法Ⅰ（民事裁判と法）を履修し、単位を取得している者を対象とします。 履修、単位取得未了の者は、本科目と共に、民事訴訟法Ⅰも履修選択してください。 民事執行法や民事保全法の分野は、民事訴訟法と同様に、初学者にとって、基本書を読んだだけでは、実際のイメージが湧きにくく、理解しにくい分野であると思われます。しかしながら、			

	社会人となったときに、取引相手が任意に債務を履行してくれない場面や履行してくれないことが予想される場面に遭遇することは少なくなく、そのような場面においてどのような手続をとればよいのか、民事執行事件や民事保全事件を実際に担当した裁判官としての実務経験談も織り込みながら、説明していきます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1章 民事執行法の概観	【予習】テキスト（1頁から11頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	2時間
第2回	対面	第2章第1節から第6節まで 強制執行の意義、種類、債務名義、執行文、執行機関、執行開始要件	【予習】テキスト（12頁から62頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	4時間
第3回	対面	第3章第1節第1項、第2項1、2 金銭執行の序説、不動産執行（強制競売）	【予習】テキスト（86頁から132頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	4時間
第4回	対面	第3章第1節第2項3、第3項 不動産執行（強制管理）、船舶執行 最後に小テスト問題を配布する。	【予習】テキスト（133頁から137頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。 配布された小テスト問題に取り組む。	5時間
第5回	対面	第3章第3項、第4項 動産執行 冒頭、小テスト結果を返却し、その解説、講評を行う。	【予習】テキスト（138頁から146頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。 返却を受けた小テスト内容について、再度、知識を確認する。	5時間
第6回	対面	第3章第5項 債権執行（扶養義務等に係る金銭債権についての強制執行の特例）	【予習】テキスト（147頁から175頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	4時間
第7回	対面	第3章第2節 非金銭執行（不動産の引渡し等の強制執行、子の引渡しの強制執行など）	【予習】テキスト（176頁から189頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	4時間
第8回	対面	第4章 担保権の実行としての競売等 第5章 債務者の財産状況の調査	【予習】テキスト（190頁から216頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	4時間
第9回	対面	第2章第3節、第4節2、3、第7節から第10節、第3章第1節第2項1（4）ウ（ウ）、（5）ウ、エ、第4章2（2） 民事執行手続に対する不服申立て方法 請求異議の訴え、執行文の付与等に関する異議の申立て、執行文付与の訴え、執行文付与に対する異議の訴え、強制執行の停止、執行異議、執行抗告、第三者異議の訴え、違法執行と不当執行、配当異議など	【予習】テキスト（27頁から39頁、42頁から55頁、63頁から85頁、116頁から117頁、128頁から132頁、192頁から194頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	4時間
第10回	対面	第6章第1節 民事保全の序説	【予習】テキスト（217頁から228頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	4時間
第11回	対面	第6章第2節、第3節 保全命令手続、保	【予習】テキスト（229頁から249頁まで）を通	4時間

		全執行手続（１） 仮差押え（金銭債権の保全方法）	読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	
第１２回	対面	第６章第２節、第３節 保全命令手続、保全執行手続（２） 係争物に関する仮処分（特定物に対する給付請求権の保全方法）	【予習】テキスト（２５０頁から２５７頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	４時間
第１３回	対面	第６章第２節、第３節 保全命令手続、保全執行手続（３） 仮の地位を定める仮処分	【予習】テキスト（２５８頁から２６０頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストと授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。	４時間
第１４回	対面	総復習講義（対面授業編）	【予習】第１回から第１３回の対面授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】復習のポイントとして示唆された内容を中心として、再度確認し、定期試験に向けて、民事執行・保全手続の基本知識の理解に努める。	４時間
第１５回	オンデマンド	総復習講義（オンデマンド編）	【予習】第１回から第１３回の対面授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、復習のポイントとして示唆された内容を中心として、再度確認し、定期試験に向けて、民事執行・保全手続の基本知識の理解に努める。	４時間

科目名	倒産処理法	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	倒産処理（主に破産や民事再生）手続の流れと基本構造を学ぶ。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、債務超過となり支払不能となった場合における倒産処理手続、主に破産法及び民事再生法に基づく手続の全体像を学び、社会に出たときに役立つ基本知識を習得することにある。 まず、個人と法人とに分けて、倒産処理手続としてどのようなメニューが用意されているか、これらの長所、短所を説明した上で、民法、会社法をはじめとした平常時の取引ルール（民事実体法による規律）が、倒産処理時においてどのような変容が加えられ、これに基づき、どのように手続処理されるのかにつき解説する講義を行う。		
履修条件・留意点	民事訴訟法Ⅰを履修済み又は、併行して履修選択することが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	個人と法人を区別して、我が国で用意されている倒産処理手続の長所と短所を理解し、事案に応じた適切な方法を検討することができる。 民法、会社法をはじめとした平常時の取引ルール（民事実体法の規律）が倒産時にどのように変容された内容となるか理解し、説明することができる。 破産法及び民事再生法に基づく手続及び制度の仕組みを理解し、その違いを説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の冒頭で、前回授業内容の復習ポイントを確認する。 小テスト及び定期試験の出題趣旨、解説や講評等について、ポータルに掲示するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	有斐閣ストウディア 倒産法、倉部真由美ほか、有斐閣、2018 年	ISBN	9784641150539
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	物権法、債権総論及び債権各論に関する科目を履修していることが望ましい。 倒産手続の全体像の理解を促すことを重視しながら、民法や会社法との相違に留意した講義を行います。 破産事件や民事再生事件を実際に担当した裁判官としての実務経験談を織り交ぜながら、実務		

上問題となっている点についても触れる予定です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1編 CHAPTER 1 倒産法とは	【予習】テキスト（2頁から19頁まで）を通読し、記述されている用語の説明として、後掲頁が引用されている場合には、当該部分も確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	3時間
第2回	対面	第1編 CHAPTER 2及び3 裁判所で行われる倒産手続、私的整理等	【予習】テキスト（20頁から56頁まで）を通読し、記述されている用語の説明として、後掲頁が引用されている場合は、当該部分も確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	3時間
第3回	対面	第2編 CHAPTER 1及び2 破産手続の開始、破産管財人と破産財団	【予習】テキスト（57頁から73頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	4時間
第4回	対面	第2編 CHAPTER 3及び4 破産債権、破産と契約関係	【予習】テキスト（74頁から101頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	4時間
第5回	対面	第2編 CHAPTER 5及び6 担保権、相殺権	【予習】テキスト（102頁から125頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	4時間
第6回	対面	第2編 CHAPTER 7 否認権 最後に小テスト問題を配布する。	【予習】テキスト（126頁から144頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。配布された小テスト問題に取り組む。	5時間
第7回	対面	第2編 CHAPTER 8 破産財団の管理・換価・配当と手続の終了	【予習】テキスト（145頁から156頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	4時間
第8回	対面	第2編 CHAPTER 9 個人破産と免責 冒頭、小テスト結果を返却し、その解説、講評を行う。	【予習】テキスト（157頁から168頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。返却を受けた小テスト内容について、再度、確認し、その理解に努める。	4時間
第9回	対面	第3編 CHAPTER 1 民事再生手続の概要	【予習】テキスト（169頁から181頁まで）を通読し、記述されている用語の説明として、後掲頁が引用されている場合は、当該部分を確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	4時間
第10回	対面	第3編 CHAPTER 2 （民事再生手続における）機関	【予習】テキスト（182頁から194頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	4時間

第11回	対面	第3編 CHAPTER 3 再生債権	【予習】テキスト（195頁から206頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	4 時間
第12回	対面	第3編 CHAPTER 4 再生債務者財産の増減	【予習】テキスト（207頁から219頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	4 時間
第13回	対面	第3編 CHAPTER 5及び7 再生計画の作成から履行まで、会社更生との違い	【予習】テキスト（220頁から238頁まで、253頁から260頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	4 時間
第14回	対面	第3編 CHAPTER 6 個人再生手続（小規模個人再生、給与所得者再生）	【予習】テキスト（239頁から252頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておく。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努める。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ・総復習講義	【予習】テキストと授業で配布されたレジュメ等を読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンドの動画を視聴した上で、復習ポイントとして示唆された点を中心として、再度確認し、定期試験に向けて、その理解に努める。	4 時間

科目名	不動産法	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	不動産取引等不動産に関する様々な法規制に関する基礎知識の習得。		
授業の目的及び概要	不動産法規制に関する知識の習得を目的とします。 民法規定として、物権法規定、利用権規定、請負規定、抵当権規定等があり、特別法として借地借家法、農地法があります。 行政法規定として、国土利用計画法、都市計画法など多数の法律があります。 多数の法規制の中で所有利用に関する主たる法律の内容を理解することを目的とします。 不動産に関する資格の取得に利することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主要な不動産法規制の意義・目的・内容を説明することができる。 不動産取引・担保の意義を説明することができる。 不動産利用の意義を説明することができる。 不動産に関する公的規制の意義を説明することができる。 宅建士試験に対応する基本知識を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レジュメ、授業について、疑問点が生じた場合にはその場で質問する、あとで質問するなど、すぐに解決するように。 こちらも積極的に対応します。 レポート、期末試験についてのポイントをラーニングポータルに記載します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。レジュメを中心に進めます。 六法は必ず持参してください。不動産についての法律を総合的にみるためには例えば宅建の各種テキストが参考になります。	ISBN	テキストは指定しません。
参考書	各種民法の教科書(特に物権法)、各種宅建士に関する書籍。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	民法科目、特に物権法Ⅰ、Ⅱの授業を受けていることが望ましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	土地建物について。宅建業法と不動産取引制度。民法、行政法など不動産法制度概観。所有者不明土地に関する制度も見. ます。	事前に配布されたレジュメを中心に予習・復習してください。	4 時間
第2回	対面	不動産登記制度創設経緯と内容。	事前に配布された不動産登記についてのレジュメを中心に予習・復習をしてください。	4 時間
第3回	対面	不動産物権変動問題 1。変動原因の範囲の問題を中心に説明します。	事前に配布されたレジュメの物権変動の箇所を中心に予習・復習し、また、物権法の授業を復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	不動産物権変動問題 2。第三者の範囲の問題を中心に説明します。	事前に配布されたレジュメの物権変動の箇所を中心に予習・復習し、また、物権法の授業を復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	不動産取引と損害賠償額についての判例。不動産価格について説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産取引の箇所を中心に予習・復習し、債権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	不動産取引における担保責任の問題、特に土壤汚染問題について説明します。品確法も見ます。	事前に配布されたレジュメを不動産取引の箇所を中心に予習・復習し、債権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	区分所有法について説明します。	事前に配布されたレジュメの区分所有法の箇所を中心に予習・復習をしておくこと。	4 時間
第8回	対面	不動産担保制度、非典型担保について説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産担保法の箇所を中心に予習・復習し、物権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	抵当制度、担保法改正について説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産担保法の箇所を中心に予習・復習し、物権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	相隣関係、地上権と賃借権について説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産利用権の箇所を中心に予習・復習し、物権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	借地借家、農地制度について説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産利用権の箇所を中心に予習・復習し、物権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	建築請負契約について説明します。	事前に配布されたレジュメの建築請負契約の箇所を中心に予習・復習し、債権各論の授業も復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	行政規制概観する。国土利用計画法、都市計画法等を中心に説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産の行政規制の箇所を中心に予習・復習をしておくこと。	4 時間
第14回	対面	景観権、日照権の問題を説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産の行政規制の箇所を中心に予習・復習し、不法行為法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	土地制度史を説明する。期末試験について説明します。	事前に配布されたレジュメの土地制度史の箇所を中心に予習・復習をしておくこと。 説明に基づいて期末試験対策を行います。	4 時間

科目名	国際私法	開講年度	2025
担当者	魯 曉寒	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	国際私法入門		
授業の目的及び概要	国際私法とは、国際民事紛争、すなわち国境をまたがる私人間の法的関係をめぐって生じた紛争を規律する法のことです。例えば、ドイツ人男性とアメリカ人女性が、日本で出会って婚姻し、その後韓国で婚姻生活を開始したということであれば、このような婚姻に関して生じる民事紛争は、明らかに国際民事紛争に該当します。 このような国際民事紛争の解決にあたっては、何らかの基準によって適用すべき法を決定し、それを適用して紛争を解決するという手法は、日本を含む多くの国で採用されています。そして、国際民事紛争に適用される法は「準拠法」と呼ばれます。このような手法を採用する場合、国際私法の中心的な課題は、ある国際民事紛争について、いかなる国の法を準拠法として選択するか、という点にあります。 本講義では、国際私法に関する基礎知識を習得することを目的とし、具体的には以下の内容を扱います。 （１） 国際私法の意義と基本理念 （２） 準拠法選択の枠組み （３） 国際財産関係（契約・法定債権・物権・知的財産権） （４） 国際家族関係（婚姻・離婚・親子・相続）		
履修条件・留意点	「民法総則Ⅰ」と「民法総則Ⅱ」を履修済みか履修中であることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義を通じて、以下のようなスキルを習得することを目指します。 （１） 国際私法の基本理念と考え方を理解すること （２） 国際民事紛争解決の枠組みを理解すること （３） 具体的な涉外民事紛争事案の解決について基本的な対応ができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各種課題や小テストについては、原則次回の授業までに採点して返却し、解説を行います。講義及びその他についてコメントがあれば、小テストの解答とともに記載してください。当該コメントについても次回授業で解説します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①多田望＝長田真里＝村上愛＝申美穂『国際私法【第2版】』（有斐閣ストゥディア、2024年） ② 神前禎『プレップ国際私法』（弘文堂、2015年）	ISBN	① 9784641151208 ② 9784335313219
参考書	中西康＝北澤安紀＝横溝大＝林貴美『国際私法【第3版】』（有斐閣、2022年）	ISBN	①978-4-641-17949-3
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際私法は、その内容が抽象的であり、また、権利義務関係の紛争を直接的に、あるいは「実質的」に解決するものではありません。しかし、世界各地の人々が安心して交流できる国際社会の構築において重要な役割を担っています。内外国法を平等的に扱い、各民族・各国の文化を尊重することは、国際私法を学ぶ上で不可欠であり、グローバルな活動を行う上でも重要な前提の一つとなります。学生のみなさんにも、この点をぜひ意識していただければ幸いです。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	イントロダクション:「国際私法って何？」	【予習内容】シラバスと、教科書②の第Ⅰ章（2-17頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。（2時間） 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。（2時間）	4時間
第2回	オンデマンド	国際私法の特徴と基本理念： 「間接規範」、「暗黙への跳躍」、「内外国法の平等」、「国内法」	【予習内容】教科書②の第Ⅱ章（18-33頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。（2時間） 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。（2時間）	4時間
第3回	オンデマンド	準拠法選択の仕組み(1)： 法律関係からのアプローチと法規からのアプローチ	【予習内容】事前配布資料と、教科書①の第1章（6-15頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。（2時間） 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。（2時間）	4時間
第4回	オンデマンド	準拠法選択の仕組み(2)： 「本国法」、「不統一法国の法」、「反致」	【予習内容】教科書①の第2章1-3（17-27頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。（2時間） 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。（2時間）	4時間
第5回	オンデマンド	準拠法選択の仕組み(3)：「公序」	【予習内容】事前配布資料と、教科書①の第2章4（28-32頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。（2時間） 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。（2時間）	4時間
第6回	オンデマンド	国際家族関係(1)：婚姻・離婚	【予習内容】教科書①の第3章（33-54頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。（2時間） 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。（2時間）	4時間
第7回	オンデマンド	国際家族関係(2)：親子関係	【予習内容】教科書①の第4章（55-74頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。（2時間） 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。（2時間）	4時間
第8回	オンデマンド	国際家族関係(3)： 国境を越えた子の連れ去り	【予習内容】教科書①の第5章（75-82頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。（2時間） 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。（2時間）	4時間
第9回	オンデマンド	国際家族関係(4)：相続・遺言	【予習内容】教科書①の第6章（83-90頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。（2時間） 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。（2時間）	4時間
第10回	オンデマンド	国際財産関係(1)：契約	【予習内容】教科書①の第7章1-2（91-103頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。（2時間） 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、	4時間

			講義で得た知識を深めること。(2 時間)	
第 1 1 回	オンデマンド	国際財産関係(2)：経済的弱者保護	【予習内容】教科書①の第 7 章 3~4 (104-122 頁) を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(2 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(2 時間)	4 時間
第 1 2 回	オンデマンド	国際財産関係(3)：不法行為	【予習内容】教科書①の第 8 章 (123-142 頁) を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(2 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(2 時間)	4 時間
第 1 3 回	オンデマンド	国際財産関係(4)：物権・知的財産権	【予習内容】事前配布資料と、教科書①の第 9 章 (143-151 頁) および教科書②の 291 頁を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(2 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(2 時間)	4 時間
第 1 4 回	オンデマンド	人の能力と法人の従属法	【予習内容】教科書①の第 10 章、第 11 章 (152-184 頁) を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(2 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(2 時間)	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	練習：国際私法判例	【予習内容】事前配布資料を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(2 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(2 時間)	4 時間

科目名	知的財産法Ⅰ	開講年度	2025
担当者	土井 典子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	特許法、実用新案法に関する基本的な考え方・知識		
授業の目的及び概要	（目的）特許法、実用新案法の基本的な考え方、知識を身に付けることを目的とします。 （概要）特許法、実用新案法の概観、法体系の学習により、知的財産法に関する基本的指標としての特許法の理解を進めます。		
履修条件・留意点	知的財産法全体像の把握のためには、併せて知的財産法Ⅱで意匠法、商標法、著作権法、不正競争防止法を履修することを推奨しますが、必須ではありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	特許法と実用新案法の全体構造を、高度で多面的な視点から説明することができる。 知的財産技能管理検定等、知的財産に関する検定試験に必要な基礎知識の水準に到達する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題、疑問点については、授業中に解説及び講評を行い、レポート等提出物についても同様に、授業、ラーニングポータル等で、受講者の共通疑問点や誤解について共有します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	反転授業		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	知的財産法入門〈第16版〉、土肥 一史著、中央経済社、2019 年 上記テキスト以外に、テキストを補足するために必要な資料を適宜配布します。	ISBN	9784502293313
参考書	特許判例百選（第5版）、別冊ジュリスト 244 号、有斐閣、2019 年 知的財産関連の書籍は多く出版されているので、図書館等も活用し興味のあるものを選んでください。また、知的財産はインターネット、ニュース等でもしばしば取り上げられているので、アンテナを立てて情報を収集し、学習に役立てて下さい。	ISBN	9784641115446
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	知的財産は様々な方面と関連し話題に上ることが多いですが、内容を正確に把握している人は意外に少なく、実際に学習してみると誤解していた部分が多かったことに気付かされます。AI（人工知能）、UX（ユーザーエクスペリエンス）等、近時のトピックスには必ず知的財産が密接に関わってきます。是非、興味を持って学習してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	知的財産法入門及び特許法1 知的財産法の全体的な概観を、各法の共通点や相違点による分類により、点と線と面から具体的なイメージとして学習します。 特許法の目的及び知的財産における特許の位置付け等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 1～3 ページ及び 143～146 ページ）	（予習） 指定テキスト 1～3 ページ、及び 143～146 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2 時間程度） その他、自分が興味を持てる知的財産法の入門書を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキスト 1～3 ページ及び 143～146 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2 時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第2回	対面	特許法2 特許の保護対象である発明及び発明のカテゴリについて学習します。 （レジュメ、指定テキスト 146～153 ページ）	（予習） 指定テキスト 146～153 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2 時間程度） その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 146～153 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2 時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第3回	対面	特許法3 特許の登録要件（積極的登録要件、消極的登録要件）について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 186～192 ページ）	（予習） 指定テキスト 186～192 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2 時間程度） その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 186～192 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2 時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第4回	対面	特許法4 特許出願から登録までの流れにおける審査請求制度、出願の効果について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 166 ページ、及び 183～185 ページ）	（予習） 指定テキスト 166 ページ、及び 183～185 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2 時間程度） その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 166 ページ、及び 183～185 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2 時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第5回	対面	特許法5 特許出願から登録までの流れにおける補正、出願分割等、出願者の取り得る手続きについて学習します。 （レジュメ、指定テキスト 165～186 ページ）	（予習） 指定テキスト 165～186 ページ、及び 192～199 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2 時間程度）	4 時間

		ジ、及び 192～199 ページ)	その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの 165～186 ページ、及び 192～199 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	
第 6 回	対面	特許法 6 特許出願から登録までの流れにおける優先権主張を伴う出願、出願変更、新規性喪失の例外等の手続きについて学習します。 (レジュメ、指定テキスト 165～186 ページ、及び 192～199 ページ)	(予習) 指定テキスト 165～186 ページ、及び 192～199 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの 165～186 ページ、及び 192～199 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第 7 回	対面	特許法 7 特許出願から登録までの流れにおける特許査定、拒絶査定後の手続き、拒絶査定不服審判について学習します。 (レジュメ、指定テキスト 199～202 ページ、及び 237～242 ページ)	(予習) 指定テキスト 199～202 ページ、及び 237～242 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの 199～202 ページ、及び 237～242 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第 8 回	対面	特許法 8 職務発明制度と職務発明に関する判例について考察し反転学習をします。 (レジュメ、指定テキスト 155～160 ページ)	(予習) 指定テキスト 155～160 ページ、及び職務発明に関する判例(予め事件番号等告知)を事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(3 時間程度) その他、自分が興味を持てる職務発明に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの 155～160 ページ、及び職務発明に関する判例を読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	5 時間
第 9 回	対面	特許法 9 特許権の効力と権利の存続期間について学習します。 (レジュメ、指定テキスト 202～209 ページ)	(予習) 指定テキスト 202～209 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの 202～209 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度)	4 時間

			検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	
第10回	対面	特許法 10 特許権の譲渡と利用（ライセンス）について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 210～226 ページ）	（予習） 指定テキスト 210～226 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2 時間程度） その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 210～226 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2 時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第11回	対面	特許法 11 特許権の侵害と救済について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 226～237 ページ）	（予習） 指定テキスト 226～237 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2 時間程度） その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 226～237 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2 時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第12回	対面	特許法 12 特許法における審判制度について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 237～250 ページ）	（予習） 指定テキスト 237～250 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2 時間程度） その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 237～250 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2 時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第13回	対面	特許法 13 審決取り消し訴訟ならびに審決取り消し訴訟に関する判例について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 251～254 ページ）	（予習） 指定テキスト 251～254 ページ、及び審決取消訴訟に関する判例（予め事件番号等告知）を事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（3 時間程度） その他、自分が興味を持てる審決取り消し訴訟に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 251～254 ページ、及び審決取消訴訟に関する判例を読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2 時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	5 時間
第14回	対面	実用新案法ならびにトレードシークレット（営業秘密） 実用新案法入門、実用新案の概要等について学習します。 また、特許を補完する知的財産として、「オ	（予習） 指定テキスト 255～262 ページ、及び 18～22 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2 時間程度）	4 時間

		オープン＆クローズド戦略」に不可欠なトレードシークレット（営業秘密）について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 255～262 ページ、及び 18～22 ページ）	その他、自分が興味を持てる実用新案法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） レジュメ及び指定テキストの 255～262 ページ、及び 18～22 ページを読み直し、講義で得た知識を確認した上で、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2 時間程度）検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	
第 15 回	オンデマンド	知的財産法 I 総まとめ 第 1 回目～第 14 回目の授業の復習、各法の要点の整理ならびに定期試験についてのガイダンスを行います。 受講後、確認小テストをします。 （各回レジュメ、指定テキスト 143 ページ～262 ページ）	（予習） 指定テキスト 143～262 ページを事前に読み、これまでの授業内容を振り返りながら、各回でのキーワードのまとめ（修正済）を整理して下さい。（3 時間程度） 特許庁ホームページ等インターネットを活用して調べること有効です。 （復習） レジュメ及び指定テキストの 143～262 ページを読み直し、講義で得た知識を確認した上で、定期試験（論述試験）準備のための手書きノートを作成しましょう。（3 時間程度）	6 時間

科目名	知的財産法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	土井 典子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	商標法、意匠法、著作権法、不正競争防止法に関する基本的な考え方・知識		
授業の目的及び概要	（目的）商標法、意匠法、著作権法、不正競争防止法の基本的な考え方、知識を身に付けることを目的とします。 （概要）商標法、意匠法、著作権法、不正競争防止法の概観、法体系の比較学習により多面的理解を進めます。		
履修条件・留意点	知的財産法全体像の把握のためには、併せて知的財産法Ⅰで特許法、実用新案法を履修することを推奨しますが、必須ではありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	商標法、意匠法、著作権法及び不正競争防止法の全体構造を、高度で多面的な視点から説明することができる。 知的財産技能管理検定等、知的財産に関する検定試験に必要な基礎知識の水準に到達する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題、疑問点については、授業中に解説及び講評を行い、レポート等提出物についても同様に、授業、ラーニングポータル等で、受講者の共通疑問点や誤解について共有します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	反転授業		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	知的財産法入門〈第16版〉、土肥 一史著、中央経済社、2019 年 上記テキスト以外に、テキストを補足するために必要な資料を適宜配布します。	ISBN	9784502293313
参考書	①意匠・商標・不正競争判例百選（第2版）、別冊ジュリスト 248 号、有斐閣、2020 年 ②著作権判例百選（第6版）、別冊ジュリスト 242 号、有斐閣、2019 年 知的財産関連の書籍は多く出版されているので、図書館等も活用し興味のあるものを選んでください。また、知的財産はインターネット、ニュース等でもしばしば取り上げられているので、アンテナを立てて情報を収集し、学習に役立ててください。	ISBN	①9784641115484 ②9784641115422
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	知的財産は様々な方面と関連し話題に上ることが多いですが、内容を正確に把握している人は		

あたって	意外に少なく、実際に学習してみると誤解していた部分が多かったことに気付かされます。AI（人工知能）、UX（ユーザーエクスペリエンス）等、近時のトピックスには必ず知的財産が密接に関わってきます。是非、興味を持って学習してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	知的財産法入門及び商標法1 知的財産法の全体的な概観を、各法の共通点や相違点による分類により、点と線と面から具体的なイメージとして学習します。 商標法入門、商標の概要等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト1～3ページ及び53～67ページ）	（予習） 指定テキスト1～3ページ、及び53～67ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2時間程度） その他、自分が興味を持てる知的財産法の入門書を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキスト1～3ページ及び53～67ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4時間
第2回	対面	商標法2 商標の使用概念、商標の登録要件等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト64～79ページ）	（予習） 指定テキスト64～79ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2時間程度） その他、自分が興味を持てる商標法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの64～79ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4時間
第3回	対面	商標法3 様々な商標制度、団体商標、地域団体商標等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト79～86ページ）	（予習） 指定テキスト79～86ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2時間程度） その他、自分が興味を持てる商標法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの79～86ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4時間
第4回	対面	商標法4 商標権の効力、ライセンスを含む使用権等について学習します。（レジュメ、指定テキスト86～118ページ）	（予習） 指定テキスト86～118ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。（2時間程度） その他、自分が興味を持てる商標法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの86～118ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。（2時間程度） 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4時間
第5回	対面	意匠法1	（予習）	4時間

		意匠法入門、意匠の概要等について学習します。 (レジュメ、指定テキスト 121～127 ページ)	指定テキスト 121～127 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる意匠法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの 121～127 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	
第 6 回	対面	意匠法 2 意匠権、意匠の類比等について学習します。 (レジュメ、指定テキスト 127～131 ページ)	(予習) 指定テキスト 127～131 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる意匠法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの 127～131 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第 7 回	対面	意匠法 3 意匠法に特有な問題、制度等について学習します。 (レジュメ、指定テキスト 131～142 ページ)	(予習) 指定テキスト 131～142 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる意匠法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの 131～142 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第 8 回	対面	まとめ 1：商標法および意匠法 商標法および意匠法全体を通したまとめ、判例、現代的課題について考察と反転学習をします。 (レジュメ、指定テキスト 53～142 ページ)	(予習) 指定テキスト 53～142 ページを事前に読み、キーワードのまとめ(修正済)の内容を確認しましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる商標法、意匠法に関する判例を、判例百選、最高裁ホームページ、インターネットを活用して調べて下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの 53～142 ページ、及び学習した判例を読み直し、講義で得た知識を確認しながら商標法と意匠法の内容をまとめましょう。(3 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	5 時間
第 9 回	対面	著作権法 1 著作権法入門、著作権の概要等について学習します。 (レジュメ、指定テキスト 265～279 ページ)	(予習) 指定テキスト 265～279 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる著作権法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習)	4 時間

			配布レジュメ及び指定テキストの265～279ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	
第10回	対面	著作権法2 財産権と人格権からなる支分権、権利の制限規定等について学習します。 (レジュメ、指定テキスト280～305ページ)	(予習) 指定テキスト280～305ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2時間程度) その他、自分が興味を持てる著作権法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの280～305ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4時間
第11回	対面	著作権法3 著作隣接権、権利侵害等について学習します。 (レジュメ、指定テキスト311～331ページ)	(予習) 指定テキスト311～331ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2時間程度) その他、自分が興味を持てる著作権法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの311～331ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4時間
第12回	対面	不正競争防止法1 不正競争防止法入門、不正競争防止法の概要等について学習します。 (レジュメ、指定テキスト7～31ページ)	(予習) 指定テキスト7～31ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2時間程度) その他、自分が興味を持てる不正競争防止法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの7～31ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4時間
第13回	対面	不正競争防止法2 不正競争行為類型である営業秘密、不正競争防止法の適用除外等について学習します。 (レジュメ、指定テキスト18～21ページ及び31～52ページ)	(予習) 指定テキスト18～21ページ及び31～52ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2時間程度) その他、自分が興味を持てる不正競争防止法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) 配布レジュメ及び指定テキストの18～21ページ及び31～52ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4時間

第14回	対面	まとめ2：著作権法および不正競争防止法 著作権法および不正競争防止法全体を通してまとめ、判例、現代的課題について学習します。 (レジュメ、指定テキスト 7～52 ページ及び 265～331 ページ)	(予習) 指定テキスト 7～52 ページ及び 265～331 ページを事前に読み、キーワードのまとめ(修正済)の内容を確認しましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる著作権法、不正競争防止法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 (復習) レジュメ及び指定テキストの 7～52 ページ及び 265～331 ページ、学習した判例を読み直し、講義で得た知識を確認しながら著作権法と不正競争防止法の内容をまとめましょう。(3 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	5 時間
第15回	オンデマンド	知的財産法Ⅱ総まとめ 第1回目～第14回目の授業の復習、各法の要点の整理ならびに定期試験についてのガイダンスを行います。 受講後、確認小テストをします。 (各回レジュメ、指定テキスト 7～142 ページ及び 265～331 ページ)	(予習) 指定テキスト 7～142 ページ及び 265～331 ページを読み、これまでの授業内容を振り返りながら、各回でのキーワードのまとめ(修正済)を整理して下さい。 (3 時間程度) 特許庁ホームページ、文化庁ホームページ等インターネットを活用して調べることも有効です。 (復習) レジュメ及び指定テキストの 7～142 ページ及び 265～331 ページを読み直し、講義で得た知識を確認した上で、定期試験(論述試験)準備のための手書きノートを作成しましょう。(3 時間程度)	6 時間

科目名	ビジネス法務	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスにかかわる法律（民法、商法、会社法、経済法等）の横断的学習		
授業の目的及び概要	本講義は、企業等に就職した後に求められる基本的な法律知識を修得することを目的とする。近年、企業における不祥事が多発し、従業員はもとより取引先や株主に対して大きな影響を及ぼしており、これまで以上にコンプライアンス（法令等遵守）が強く求められている。このような状況において、法務部門に関わる者だけでなく、企業に関わる者すべてが基本的な法律知識を修得していることが重要となっている。そこで、ビジネス実務法務検定3級の範囲を順次学習することにより、ビジネスパーソンに必要な基礎的な法律知識の修得を目的に講義を進める。		
履修条件・留意点	この講義は、ビジネス実務法務検定試験との関連が強く、履修者には同試験の受験を強く推奨し、成績の評価に加える。 したがって、ビジネス実務法務検定試験に合わせるため、講義を週2回実施し、春学期の前半（8週で15回授業）に講義を集中させる「クォーター開講」となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて学生には、ビジネス実務法務についての基本的な法律知識を理解し、ビジネス実務法務検定3級の合格レベルに到達するようになることが期待される。また、ビジネスにかかわる法律の機能、役割、相互の関係について理解し、法知識を実務において活用できるようになることが求められる。		
資格・検定試験への対応	ビジネス実務法務検定3級：6月の合格を目指します。		
フィードバックの方法	小テストを実施した場合には、採点したうえで返却する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ビジネス実務法務検定試験3級公式テキスト（2025年度版），東京商工会議所編，中央経済社，2025年	ISBN	9784502535413
参考書	授業中に適宜指示する。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	法律の細かな知識より、全体像を理解することを目指す。一方、資格検定も意識することで、学んだ達成感を得ることを目指す。また、関連する民法・商法・会社法・労働法・独占禁止法・知的財産法なども積極的に履修することが望ましい。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	1. ガイダンス：講義の進行方法・評価方法の説明。ビジネスと法律の関わり、コンプライアンス。	予習：教科書の目次を概観しておくこと 復習：授業で配布したレジュメを見直すこと。	2.5 時間
第2回	対面	2. 企業活動に関わる法律の基礎知識：近代私法の基本原則、財産権	予習：教科書 p. 1～38 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第3回	対面	3. 企業取引の法務（1）－契約－：契約の成立	予習：教科書 p. 39～77 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第4回	対面	4. 企業取引の法務（2）－契約成立後の法律関係－：債務不履行責任・担保責任・危険負担	予習：教科書 p. 78～98 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第5回	対面	5. 企業取引の法務（3）－売買以外の契約－：賃貸借契約・消費貸借契約・請負契約・委任契約・寄託契約	予習：教科書 p. 99～123 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第6回	対面	6. ビジネス文章の保存・管理、契約によらない債権・債務の発生：ビジネス文書・契約書、不法行為・不当利得・事務管理	予習：教科書 p. 124～166 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第7回	対面	7. 企業財産の管理：固定資産・流動資産の管理と法律、知的財産権	予習：教科書 p. 167～206 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第8回	対面	8. 企業活動に関する法規制：独占禁止法・消費者保護法・特定商取引法・製造物責任法	予習：教科書 p. 208～247 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第9回	対面	9. 債権の管理と回収：債権の管理と取引の決済－手形・小切手等	予習：教科書 p. 250～294 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第10回	対面	10. 債権の担保：法定担保物権・約定担保物権・人的担保	予習：教科書 p. 295～322 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第11回	対面	11. 企業と会社のしくみ（1）：法人と企業、会社の種類	予習：教科書 p. 324～349 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第12回	対面	12. 企業と会社のしくみ（2）：株式会社	予習：教科書 p. 349～367 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第13回	対面	13. 企業と従業員の関係：従業員と労働関係、男女雇用機会均等法、労働者派遣事業	予習：教科書 p. 370～404 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第14回	対面	14. ビジネスに関連する家族法：夫婦間の法律関係、相続	予習：教科書 p. 406～429 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義のまとめ：全範囲の復習、定期試験に向けた対策	予習：これまでの講義内容に関する教科書・レジュメを見直しておくこと。 復習：これまで授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	5.5 時間

科目名	ビジネス法務	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスにかかわる法律（民法、商法、会社法、経済法等）の横断的学習		
授業の目的及び概要	本講義は、企業等に就職した後に求められる基本的な法律知識を修得することを目的とする。近年、企業における不祥事が多発し、従業員はもとより取引先や株主に対して大きな影響を及ぼしており、コンプライアンス（法令等遵守）が強く求められる。このような状況において、法務部門に関わる者だけでなく、企業に関わる者すべてが基本的な法律知識を修得していることが重要となる。そこで、ビジネス実務法務検定3級の範囲を順次学習することにより、ビジネスパーソンに必要な基礎的な法律知識の修得を目的に講義を進める。		
履修条件・留意点	この講義は、ビジネス実務法務検定試験との関連が強く、履修者には同試験の受験を推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて学生には、ビジネス実務法務についての基本的な法律知識を理解し、ビジネス実務法務検定3級の合格レベルに到達するようになることが期待される。また、ビジネスにかかわる法律の機能、役割、相互の関係について理解し、法知識を実務において活用できるようになることが求められる。		
資格・検定試験への対応	ビジネス実務法務検定3級：11月の合格を目指します。		
フィードバックの方法	小テストを実施した場合には、採点したうえで返却する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ビジネス実務法務検定試験3級公式テキスト〈2025年度版〉， 東京商工会議所編，中央経済社，2025年	ISBN	9784502535413
参考書	授業中に適宜指示する。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	法律の細かな知識より、全体像を理解することを目指す。一方、資格検定も意識することで、学んだ達成感を得ることを目指す。また、関連する民法・商法・会社法・労働法・独占禁止法・知的財産法なども積極的に履修することが求められる。本講義の受講者は、ビジネス実務法務検定を受験することがのぞましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	1. ガイダンス：講義の進行方法・評価方法の説明。ビジネスと法律の関わり、コンプライアンス。	予習：教科書の目次を概観しておくこと 復習：授業で配布したレジュメを見直すこと。	4 時間
第2回	対面	2. 企業活動に関わる法律の基礎知識：近代私法の基本原則、財産権	予習：教科書 p. 1～38 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第3回	対面	3. 企業取引の法務（1）－契約－：契約の成立	予習：教科書 p. 39～77 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第4回	対面	4. 企業取引の法務（2）－契約成立後の法律関係－：債務不履行責任・担保責任・危険負担	予習：教科書 p. 78～98 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第5回	対面	5. 企業取引の法務（3）－売買以外の契約－：賃貸借契約・消費貸借契約・請負契約・委任契約・寄託契約	予習：教科書 p. 99～123 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第6回	対面	6. ビジネス文章の保存・管理、契約によらない債権・債務の発生：ビジネス文書・契約書、不法行為・不当利得・事務管理	予習：教科書 p. 124～166 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第7回	対面	7. 企業財産の管理：固定資産・流動資産の管理と法律、知的財産権	予習：教科書 p. 167～207 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第8回	対面	8. 企業活動に関する法規制：独占禁止法・消費者保護法・特定商取引法・製造物責任法	予習：教科書 p. 208～247 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第9回	対面	9. 債権の管理と回収：債権の管理と取引の決済－手形・小切手等	予習：教科書 p. 250～294 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第10回	対面	10. 債権の担保：法定担保物権・約定担保物権・人的担保	予習：教科書 p. 295～322 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第11回	対面	11. 企業と会社のしくみ（1）：法人と企業、会社の種類	予習：教科書 p. 323～344 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第12回	対面	12. 企業と会社のしくみ（2）：株式会社	予習：教科書 p. 345～367 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第13回	対面	13. 企業と従業員の関係：従業員と労働関係、男女雇用機会均等法、労働者派遣事業	予習：教科書 p. 370～405 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第14回	対面	14. ビジネスに関連する家族法：夫婦間の法律関係、相続	予習：教科書 p. 406～429 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義のまとめ：全範囲の復習、定期試験に向けた対策	予習：これまでの講義内容に関する教科書・レジュメを見直しておくこと。 復習：これまで授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間

科目名	会社法Ⅰ	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	会社法の基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	経済活動の中心的役割を担う会社について、その基本的な仕組みや会社法に関する専門的知識を習得することを目的とする。会社法をはじめて学習する者でも十分に理解できるよう、具体的な例をまじえながら、指定教科書とレジュメを用いて講義をすすめる。受講にあたり、民法等の法律系科目を先行履修していることが望ましいが必須ではない。また、学習意欲のある者のために講義で参考書を紹介する。 会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験（法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など）の対策にもなる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて学生には、会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解し、とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解できるようになることが期待される。その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストを実施した場合には、採点したうえで返却する。また、レポート課題について、優秀なレポートについては、授業中に紹介する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	会社法の基礎（第2版），加藤徹・笹川敏彦編，法律文化社， 2021 年	ISBN	9784589041777
参考書	講義内で適宜示す。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	65	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	将来皆さんの多くは「会社」に就職すると思われます。その際に、実際に「会社」とはいったいどういうものかについて理解しておくことは、実際に実務を行う上で非常に重要であると思われます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1. イントロダクション、会社法総論 授業内容、授業の進め方、評価方法について	事前学習：教科書 p.1～p.20 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと	2.5 時間

		ての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、 会社法総則。	と。	
第2回	対面	2. 株式会社の設立 株式会社の設立総説、設立手続、設立の 無効。	事前学習：教科書 p. 21～p. 38 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第3回	対面	3. 株式（1） 株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	事前学習：教科書 p. 38～p. 48 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第4回	対面	4. 株式（2） 自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、 単元株式数、募集株式の発行、株券。	事前学習：教科書 p. 48～p. 61 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第5回	対面	5. 新株予約権 新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株 予約権の譲渡。	事前学習：教科書 p. 61～p. 67 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第6回	対面	6. 株式会社の機関（1） 株式会社の機関総説、株主総会、種類株主 総会。	事前学習：教科書 p. 67～p. 84 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第7回	対面	7. 株式会社の機関（2） 役員等の選任および終任、取締役、取締役 会、会計参与、監査役・監査役会、会計監 査人。	事前学習：教科書 p. 85～p. 118 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第8回	対面	8. 株式会社の機関（3） 指名委員会等設置会社、監査等委員会設置 会社。	事前学習：教科書 p. 118～p. 125 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第9回	対面	9. 役員等の責任、株主による役員等の責 任追及訴訟 役員等の責任、株主の差止請求権、株主代 表訴訟、多重代表訴訟。	事前学習：教科書 p. 125～p. 139 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第10回	対面	10. 計算、定款の変更、解散、清算 会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰 余金の配当、定款の変更、解散原因、解散 の効果、通常清算、特別清算。	事前学習：教科書 p. 139～p. 157 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第11回	対面	11. 持分会社 持分会社の設立、社員、計算等。	事前学習：教科書 p. 158～p. 176 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第12回	対面	12. 社債 社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、 社債権者集会。	事前学習：教科書 p. 177～p. 188 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第13回	対面	13. 組織再編（1） 組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、 合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社 分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手 続、会社分割無効の訴え。	事前学習：教科書 p. 189～p. 204 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第14回	対面	14. 組織再編（2） 株式交換の意義、手続、株式交換の無効の 訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の 無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組 織変更。	事前学習：教科書 p. 204～p. 213 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ と。	4 時間
第15回	オンデ マンド	15. 外国会社・雑則、会社法まとめ 外国会社、会社の解散命令、公告、会社法 の総括。 定期試験に向けた対策	事前学習：教科書 p. 214～p. 223 を読んでおくこと。 事後学習：会社法で学習したことを見直しておくこ と。	5.5 時間

科目名	会社法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	会社法の基礎をかため、事例問題に対応する。		
授業の目的及び概要	経済活動の中心的役割を担う会社について、その基本的な仕組みや会社法に関する専門的知識を習得することを目的とする。会社法をはじめて学習する者でも十分に理解できるよう、具体的な例をまじえながら、指定教科書とレジュメを用いて講義をすすめる。受講にあたり、会社法概論や民法系科目を先行履修していることが望ましいが必須ではない。また、学習意欲のある者のために講義で参考書を紹介する。 会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験（法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など）の対策にもなる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて学生には、会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解し、とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解できるようになることが期待される。その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストを実施した場合には、採点したうえで返却する。また、レポート課題について、優秀なレポートについては、授業中に紹介する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	会社法の基礎（第2版），加藤徹・笹川敏彦編，法律文化社， 2021 年	ISBN	9784589041777
参考書	神作ほか，会社法判例百選〔第4版〕，有斐閣，2021 年	ISBN	9784641115545
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	65	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	会社法は、誰の立場から制度を見るかによって、かなり見え方が変わる科目です。それぞれの立場から制度を分析・検討できることを目指しましょう。 また、将来皆さんの多くは「会社」に就職すると思われます。その際に、実際に「会社」とはいったいどういうものかについて理解しておくことは、実際に実務を行う上で非常に重要であると思われます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	1. イントロダクション、会社法総論 授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、会社法総論。	事前学習：教科書 p.1～p.20 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	2.5 時間
第2回	対面	2. 株式会社の設立 株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	事前学習：教科書 p.21～p.38 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第3回	対面	3. 株式（1） 株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	事前学習：教科書 p.38～p.48 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第4回	対面	4. 株式（2） 自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	事前学習：教科書 p.48～p.61 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第5回	対面	5. 新株予約権 新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	事前学習：教科書 p.61～p.67 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第6回	対面	6. 株式会社の機関（1） 株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	事前学習：教科書 p.67～p.84 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第7回	対面	7. 株式会社の機関（2） 役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	事前学習：教科書 p.85～p.118 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第8回	対面	8. 株式会社の機関（3） 指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	事前学習：教科書 p.118～p.125 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第9回	対面	9. 役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟 役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	事前学習：教科書 p.125～p.139 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第10回	対面	10. 計算、定款の変更、解散、清算 会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	事前学習：教科書 p.139～p.157 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第11回	対面	11. ①持分会社 持分会社の設立、社員、計算等。 ②社債 社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	事前学習：①教科書 p.158～p.176 を読んでおくこと。 ②教科書 p.177～p.188 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第12回	対面	12. 組織再編（1） 組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	事前学習：教科書 p.189～p.204 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第13回	対面	13. 組織再編（2） 株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	事前学習：教科書 p.204～p.213 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第14回	対面	14. 外国会社・雑則、会社法まとめ 外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。	事前学習：教科書 p.214～p.223 を読んでおくこと。 事後学習：会社法で学習したことを見直しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	15. これまでのまとめ オンデマンド授業とレポートまたは課題の提出	事前学習：これまでの授業資料等を確認すること。 事後学習：動画を視聴して、レポートまたは課題に取り組むこと。	5.5 時間

科目名	会社法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	会社法の基礎をかため、事例問題に対応する。		
授業の目的及び概要	経済活動の中心的役割を担う会社について、その基本的な仕組みや会社法に関する専門的知識を習得すると共に、判例に則した具体的な事例問題を分析し、論証、答案作成を行うことができるようにすることを目的とする。 事例問題の論証解説をまじえながら、指定教科書とレジュメを用いて講義をすすめる。 会社就職後に法務部で勤務するにあたり必要な知識を習得できるとともに、各種試験（司法試験、予備試験、法科大学院、公務員、公認会計士など）の論文対策も念頭においた授業を行う。		
履修条件・留意点	会社法Ⅰ（会社法概論）や民法系科目を先行履修していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて学生には、会社法における各種会社の概念やその構成員たる社員の責任について異同点、とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解することになること、その上で、判例に則した具体的な事例問題を分析し、論証、答案を作成する能力をつけることが期待される。 その際には、必ず条文や判例を確認して、理解するように努めること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の各回毎に、事例問題に関する答案作成の課題を提供して、その解説を行うと共に、解答を提出した場合には、添削したうえで返却する。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	会社法の基礎（第2版），加藤徹・笹川敏彦編，法律文化社， 2021 年	ISBN	9784589041777
参考書	神作ほか，会社法判例百選〔第4版〕，有斐閣，2021 年	ISBN	9784641115545
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	会社法は、誰の立場から制度を見るかによって、かなり見え方が変わる科目です。それぞれの立場から制度を分析・検討できることを目指しましょう。 その際に、実際に「会社」とはいったいどういうものかについて理解しておくことは、実際に、法曹として、公務員として、民間会社に就職して、いずれも実務を行う上で非常に重要であると思われます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1. イントロダクション、会社法総論 授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、会社法総則。	事前学習：教科書 p.1～p.20 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	2.5 時間
第2回	対面	2. 株式会社の設立 株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	事前学習：教科書 p.21～p.38 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第3回	対面	3. 株式（1） 株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	事前学習：教科書 p.38～p.48 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第4回	対面	4. 株式（2） 自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	事前学習：教科書 p.48～p.61 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第5回	対面	5. 新株予約権 新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	事前学習：教科書 p.61～p.67 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第6回	対面	6. 株式会社の機関（1） 株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	事前学習：教科書 p.67～p.84 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第7回	対面	7. 株式会社の機関（2） 役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	事前学習：教科書 p.85～p.118 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第8回	対面	8. 株式会社の機関（3） 指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	事前学習：教科書 p.118～p.125 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第9回	対面	9. 役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟 役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	事前学習：教科書 p.125～p.139 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第10回	対面	10. 計算、定款の変更、解散、清算 会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	事前学習：教科書 p.139～p.157 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第11回	対面	11. ①持分会社 持分会社の設立、社員、計算等。 ②社債 社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	事前学習：①教科書 p.158～p.176 を読んでおくこと。 ②教科書 p.177～p.188 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第12回	対面	12. 組織再編（1） 組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	事前学習：教科書 p.189～p.204 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第13回	対面	13. 組織再編（2） 株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	事前学習：教科書 p.204～p.213 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例・資料を見直すこと。	4 時間
第14回	対面	14. 外国会社・雑則、会社法まとめ 外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。	事前学習：教科書 p.214～p.223 を読んでおくこと。 事後学習：会社法で学習したこと（第1回から第14回の対面授業で実施した事例問題、論文課題の内容）	4 時間

2025/05/01

			を見直しておくこと。	
第15回	オンデマンド	15. 総復習（オンデマンド授業）と重点項目の確認	事前学習： これまでの授業資料等を確認すること。 事後学習：動画を視聴して、授業で提供した事例問題論文課題を含む会社法の重要ポイントの整理、復習に取り組むこと。	5.5 時間

科目名	商取引法 I	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	商法総則および商取引法の基礎を学習する。		
授業の目的及び概要	商人がかかわる取引に関するルールについて、商法総則、商行為法を中心に商法の全体像を学習する。商法総則に焦点をあてながら、商法の全体像を理解し、商法の特徴と傾向を学ぶ科目である。商法第 1 編（商法総則）は、企業の主体である商人の法律関係を対象とする規定が大部分を構成している。本講義では、企業の組織や各種取引に関する具体的事例をとりあげながら、私法における商法の役割を把握するとともに、商法総則が定める法制度の趣旨と内容を理解することを通じて、法的な思考能力を培うことを講義の目的としている。		
履修条件・留意点	民法および会社法を受講することがのぞましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	商取引法（総則・商行為）の到達目標は次の 3 つである。 ①商法の基礎的な用語および概念を理解し、他者に説明することができる。 ②商法総則を理解するうえで最低限必要とされる、基礎的概念を理解することができる。 ③商法の基本的な概念を理解し、自主的・主体的に学修を進めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	リアクションペーパーを用いて、講義内で、商法の授業について検討を行う。 リアクションペーパーに対しては、適宜応答の時間を設ける。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①商法総則・商行為法 第 9 版, 近藤光男, 有斐閣, 2023 年 02 月	ISBN	①978-4-641-23308-9
参考書	現代商法入門〔第 11 版〕（有斐閣アルマ）単行本 2021/3/25 近藤 光男（編）	ISBN	ISBN:978- 4641221772
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	5	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	民法、会社法等の科目を同時に履修することがのぞましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	1. 商法の意義と法源（商法とは、形式的商法と実質的商法、商事制定法、商事条約、商事慣習法、商事自治法）	【予習】 事前学修：テキスト第1編第1章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第2回	対面	商法の基本概念（商人の意義、固有の商人、擬制商人、小商人、商人資格の得喪）	【予習】 事前学修：テキスト第1編第2章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第3回	対面	商行為（商行為の種類、絶対的商行為、営業的商行為、付属的商行為）	【予習】 テキスト第1編第2章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第4回	対面	商業登記（商業登記の意義、商業登記事項、商業登記の手続き。）	【予習】 テキスト第1編第3章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第5回	対面	商業登記の効力（商業登記の消極的効力と積極的効力、不実登記の効力）	【予習】： テキスト第1編第3章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第6回	対面	商号の意義と必要性（商号の意義と必要性、商号選定自由の原則、商号自由の制限）	【予習】 テキスト第1編第4章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第7回	対面	名板貸の意義と適用範囲（名板貸の意義と適用範囲、名板貸人の責任、取引相手の過失）	【予習】 テキスト第1編第4章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第8回	対面	商号の譲渡・変更・廃止（商号の譲渡、商号の変更、商号の廃止）	【予習】 テキスト第1編第4章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第9回	対面	商業帳簿（商業帳簿の範囲と法規制、商業帳簿の作成と保存）	【予習】 テキスト第1編第5章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第10回	対面	商業使用人（商業使用人の意義、支配人の意義、支配人の選任と解任、支配人の代理権と表見支配人）	【予習】 テキスト第1編第6章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第11回	対面	その他の使用人と会社の使用人（委任を受けた使用人、物品販売店の使用人）	【予習】 テキスト第1編第6章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第12回	対面	代理商（代理商の意義と性格、代理商の権利と義務、代理商契約の終了、代理商と第三者との関係）	【予習】 テキスト第1編第7章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第13回	対面	営業（営業の意義と営業活動）	【予習】 テキスト第1編第8章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第14回	対面	営業組織（営業組織の意義、営業譲渡、事業譲渡、営業に関する強制執行）	【予習】 テキスト第1編第8章を読むこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括（まとめと復習）	【予習】 これまでの配布資料と教科書の該当箇所を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間

科目名	商取引法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	商法総則および商行為法の基礎を学習する。		
授業の目的及び概要	現代社会の経済活動に関する法的規律を知り、企業間取引を中心とした商取引にがどのように行われるかを学ぶ科目である。商法のなかで商行為法にかかわる規定をとりあげ、現代社会において商行為法にまつわる様々な問題をこれらの規定に即してどのように解決するのかという視点から、講義を進めてゆく。商行為に関連した法制度の趣旨と規制内容についての学習を通じて、法的な思考能力を培ってもらうことも、本講義の重要な目的である。特定商取引法、消費者法についても学習する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	商取引法Bの到達目標は次の3つである。 ①商行為に関する条文および関連判例の検討を通じて、商行為法の基礎的な概念を理解し、他者に説明することができる。 ②商行為を理解するうえで最低限必要とされる、基礎的な概念を習得すること。 ③商行為の基本的な概念を理解し、自主的・主体的に学修を進めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	リアクションペーパーを用いて、講義内で、商法の授業について検討を行う。 リアクションペーパーに対しては、適宜応答の時間を設ける。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	商法総則・商行為法 第9版, 近藤光男, 有斐閣, 2023年02月	ISBN	ISBN:978-4-641-23308-9
参考書	現代商法入門〔第11版〕（有斐閣アルマ）単行本 2021/3/25 近藤 光男（編）	ISBN	ISBN:978- 4641221772
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	5	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	民法、会社法等の科目を同時に履修することがのぞましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	1. 商行為法総則①(契約の成立に関する規定、債務の履行・債権の担保に関する規定)	事前学修: テキスト第2編第1章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第2回	対面	2. 商行為法総則②(代理および委任に関する規定、商行為の営利性が重視された規定)	事前学修: テキスト第2編第1章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第3回	対面	3. 商事売買(売主の供託と競売権、定期売買の解除、買主の検査通知義務、買主の保管供託義務)	事前学修: テキスト第2編第2章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第4回	対面	4. 消費者売買(割賦販売法、特定商取引法、消費者保護法)	事前学修: テキスト第2編第2章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第5回	対面	5. 交互計算(交互計算の意義と定義)	事前学修: テキスト第2編第3章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第6回	対面	6. 匿名組合(匿名組合の意義、匿名組合の義務と権利、営業者の義務)	事前学修: テキスト第2編第4章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第7回	対面	7. 仲介営業(仲立営業の意義、仲立契約、仲立人の義務と権利、給付受領代理権)	事前学修: テキスト第2編第5章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第8回	対面	8. 仲介営業(問屋の意義、問屋の内部関係と対外関係、問屋の義務と権利、問屋の有価証券取引)	事前学修: テキスト第2編第5章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第9回	対面	9. 運送営業(物品運送の意義、荷送人の義務と権利、荷受人の義務と権利、運送賃と留置権、相次運送)	事前学修: テキスト第2編第6章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第10回	対面	10. 運送営業(旅客運送契約、運送人の責任、手荷物に関する責任、運送人の債権消滅時効)	事前学修: テキスト第2編第7章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第11回	対面	11. 運送取扱営業(運送取扱人の義務と権利)	事前学修: テキスト第2編第7章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第12回	対面	12. 寄託(寄託一般、場屋営業者と寄託)	事前学修: テキスト第2編第8章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第13回	対面	13. 倉庫営業(倉庫営業の特色と意義、倉庫寄託契約の性質、倉庫営業者の義務と権利)	事前学修: テキスト第2編第9章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第14回	対面	14. 倉荷証券(倉荷証券の意義、帳簿記載義務、文言証券性と有因証券性、倉荷証券の物権的効力)	事前学修: テキスト第2編第9章を読むこと。 事後学修: 配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第15回	オンデマンド	15. まとめと復習	事前学修: テキスト第2編全体を読むこと。 事後学修: 定期試験に向けて学習内容を復習すること。	4時間

科目名	支払決済法	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	多様な支払手段の概要と関連する法令に関する基礎的な知識を学習する。		
授業の目的及び概要	この授業では、多様な支払手段についてその意義と機能について理解することを目的とする。支払決済システムは、近年急速に変化してきている。たとえば、現金、銀行振込、約束手形、小切手による支払方法に加えて、電子マネーやプリペイドカードなどの比較的新しい支払方法の仕組みを理解するとともに、それらに関してどのような法ルールが規定されているのかについて基礎的知識を修得することを目的とする。		
履修条件・留意点	会社法概論を履修済み、商取引法Ⅰ〈商法Ⅰ〉を履修済みまたは履修中であることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1．私たちが日常利用する様々な支払手段について、その意義・仕組み・法ルールを理解することができる。 2．企業が利用する特殊な支払システムについて、その意義・仕組み・法ルールを理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内において、リアクションペーパーを用いて、受講生の理解について、確認を行う。また、当該リアクションペーパーに対して、適宜応答の時間を設ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①支払決済法〔第3版〕, 小塚荘一郎・森田果, 商事法務, 2020 年	ISBN	①9784785726041
参考書	手形小切手判例百選 第7版〔No. 222〕	ISBN	9784641115224
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	5	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	民法の基礎科目（民法総則、債権総論、債権各論等）が履修済みであることが望ましい		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス：講義の進行方法・評価方法の説明。 支払手段法の役割：多様な支払手段、支払	予習：教科書の目次を概観し、p.1～11 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジюмеを見直すこと。	4 時間

		手段法の機能。		
第2回	オンデマンド	支払手段の特徴および決済システム：様々な支払手段、決済システムの機能。	予習：教科書 p. 11～19 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第3回	オンデマンド	電子マネーと仮想通貨：電子マネー、プリペイドカード、仮想通貨、擬似通貨	予習：教科書 p. 21～34 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第4回	オンデマンド	銀行振込・資金移動業等①：銀行振込の仕組み、預金取引、振込の取消し・撤回。	予習：教科書 p. 35～51 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第5回	オンデマンド	銀行振込・資金移動業等②：デビットカード、銀行間資金決済システム、資金移動業・収納代行・代引き。	予習：教科書 p. 51～63 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第6回	オンデマンド	小切手①：小切手の基本、小切手の振出し	予習：教科書 p. 65～81 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第7回	オンデマンド	小切手②、為替手形：無権限取引、線引小切手、為替手形の仕組み。	予習：教科書 p. 81～95 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第8回	オンデマンド	約束手形①：約束手形の基本、一括手形と一括支払システム。	予習：教科書 p. 97～107 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	約束手形②：振出、流通①（譲渡の手続、善意取得）	予習：教科書 p. 107～118 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第10回	オンデマンド	約束手形③：流通②（抗弁）	予習：教科書 p. 119～133 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第11回	オンデマンド	約束手形④：流通③（特殊な裏書、変造・白地手形）	予習：教科書 p. 134～141 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第12回	オンデマンド	約束手形⑤：支払い、遡求、手形上の権利の消滅、手形訴訟。	予習：教科書 p. 141～158 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第13回	オンデマンド	電子記録債権：電子記録債権の発生・譲渡・消滅・利用。	予習：教科書 p. 159～178 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	クレジットカード：クレジットカードの仕組み、抗弁の接続、不正利用。	予習：教科書 p. 179～191 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ等を見直すこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	有価証券理論および総復習：手形・小切手以外の有価証券、除権判決 授業全体のまとめ。	【予習】これまでの授業回の配布資料や教科書の該当箇所を事前に読むこと。 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を復習すること。	4 時間

科目名	金融商品取引法	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	金融商品取引法の基礎を学習する。		
授業の目的及び概要	株式会社が証券市場を通じて資金調達をするため株式を公開すれば金融商品取引法による規制の対象となる。金融商品取引法は、投資家が株式や社債など資産を運用する手段となっており、投資信託等の勧誘・販売等について規制している。また、金融商品取引法では、市場において、投資家の保護規制について規制がある。本講義では、このような金融商品取引法の基本を理解することを目的とする。		
履修条件・留意点	会社法概論および商取引法Ⅰ〈商法Ⅰ〉を履修することが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて学生には、金融商品取引法の基本を理解するにとどまらず、具体的な問題点も意識しつつ知識を習得することが期待される。また、裁判例や時事問題にも関心を持ち、講義で習得した知識に基づきどのように解決することができるのかを考えることも期待される。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内において、リアクションペーパーを用いて、受講生の理解について、確認を行う。 また、当該リアクションペーパーに対して、適宜応答の時間を設ける。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	基礎から学べる金融商品取引法（第5版）、近藤光男=志谷匡史=石田真得=釜田薫子、弘文堂、2022 年	ISBN	978-4335359064
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	5	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	商法、会社法等の科目を同時に履修することがのぞましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	金融商品取引法の全体像ー総論（1） 授業の概要や到達目標について、説明を行う。 金融商品取引法の基礎知識について学習	【予習】シラバスを事前に読んでおくこと。また、教科書1～14頁を事前に読むこと。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間

		する。		
第2回	対面	金融商品取引法の全体像—総論（2） 金融商品取引法の目的および適用範囲について学習する。	【予習】教科書 1 - 25 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と授業内容について、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第3回	対面	有価証券の取引方法 有価証券の上場、有価証券取引の仕組み、 金融商品取引所について学習する。	【予習】教科書 26-44 頁を事前に事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料を参考に、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第4回	対面	企業内容の開示規制（1） 開示規制の概要および発行開示制度について学習する。	【予習】教科書 45 - 67 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第5回	対面	企業内容の開示規制（2） 継続開示制度、財務情報の正確性を確保するための制度について学習する。	【予習】教科書 67 - 81 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第6回	対面	企業内容の開示規制（3） 虚偽の情報開示を行った者の責任について学習する。	【予習】教科書 81 - 95 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第7回	対面	金融商品取引業者の規制 金融商品取引業・外務員への規制・誠実公正義務・顧客に対する情報提供に関する規制について学習する。	【予習】教科書 96 - 122 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第8回	対面	企業支配の開示制度（1） 公開買付け（TOB）について学習する。	【予習】教科書 123 - 141 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第9回	対面	企業支配の開示制度（2） 株券等の大量保有報告制度について学習する。	【予習】教科書 141-156 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第10回	対面	企業支配に関する開示制度（3）、委任状 勧誘規制について学習する。	【予習】教科書 156 - 160 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第11回	対面	投資信託および集団投資スキーム 投資信託の仕組みと規制について学習する。	【予習】教科書 161 - 174 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第12回	対面	不公正な取引の規制（1） 詐欺的行為を禁止する 157 条・インサイダー取引（内部者取引）の規制について学習する。	【予習】教科書 175 - 195 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第13回	対面	不公正な取引の規制（2） 相場操縦の規制・金融商品取引業者による不公正取引・罰金・課徴金制度について学習する。	【予習】教科書 195 - 220 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第14回	対面	デリバティブ取引 先物取引・先渡取引・オプション取引・スワップ取引等について学習する。	【予習】教科書 221-228 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業全体のまとめ	【予習】これまでの授業回の配布資料や教科書の該当箇所を事前に読むこと。 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を復習すること。	4 時間

科目名	スポーツ・ビジネス法務	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	スポーツからビジネス法を学ぶ		
授業の目的及び概要	「企業法務コース」における、最も実践的な発展科目である。 スポーツビジネスは一見特殊な分野のようだが、プロスポーツなど身近であり、スポーツ用品メーカー、用品販売やフィットネスなどサービス、スタジアムなど施設経営まで広い裾野を有する。 したがって「スポーツ」に関心がある者は元より、「ビジネス法務」に関心がある者の受講を歓迎する。 この授業の選抜特別プログラムとして「スポーツ関連企業へのインターンシップ（夏季休暇期間）」を予定している。 4 月中に対象企業の講師の授業を踏まえて、希望者を募り、5 月グループワークの取り組みを評価して派遣学生を選考する。 6 月～7 月は事前研修を行い、夏のインターンシップ派遣につなげてゆく。 担当教員が積極的なサポートを行うため、ぜひ積極的に応募してほしい。		
履修条件・留意点	teams を活用し、グループワークでは whiteboard 機能での作業を行う。 授業アンケート、連絡は投稿、教材はファイル機能で共有する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. ビジネスにかかわる法律の知識をスポーツビジネスにおいて活用し、その意義を具体例を挙げながら説明できる。 2. ビジネスにかかわる法律の機能、役割、相互の関係についての理解を踏まえて、実践的な法務感覚を身につけることができる。 3. スポーツ関連企業へのインターンシップを目標に学ぶことで、就業力向上につながるキャリアビジョンを身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、forms アンケート、コメントを課し、講師に対する質問には次の講義で回答する。 また、理解度確認の小テストを実施し、直後に正解を公表して解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①『標準テキストスポーツ法学〔第 3 版〕』浦川道太郎、吉田勝光編著（2020 年、エイデル研究所） ②『Q&A スポーツの法律問題（第 4 版）』スポーツ問題研究会（2018 年、民事法研究会） ③『スポーツ法務の最前線—ビジネスと法の統合』エンターテインメントロイヤーズネットワーク（2015 年、民事法研究会）	ISBN	①9784871686501 ②9784865560213 ③9784865562231
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・この科目の受講にあたっては、「ビジネス法務」「スポーツ法概論」を既に履修しているか、同時に履修することを推奨する。 ・個別インターンなど、企業キャリアでの就職につながる科目である。積極的な受講者を歓迎する。 ・授業の順序は、ゲスト講師の都合により入れ替わる可能性がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方・ねらい、スポーツビジネス概論（担当者：高田）	予習（2 時間程度）：スポーツ基本法ではスポーツをどう定義しているか、TOTO スポーツ振興くじの制定の経緯について事前に調べておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第2回	対面	スポーツビジネスの現場から（1）～アスリートと価値創造～（担当者：芳中） 【インターンシップ受入企業ゲスト】	予習（2 時間程度）：自分の好きなスポーツジャンルの選手が youtube など SNS を活用して発信している例を調べておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第3回	対面	スポーツビジネスの現場から（2）（担当者：芳中） 【インターンシップ受入企業ゲスト】	予習（2 時間程度）：スポーツ興行について参考書等の関連箇所目を通し、疑問点をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第4回	対面	スポーツビジネスの現場から（3）～プロバレーボールと経営戦略～（担当者：芳中） 【インターンシップ受入企業ゲスト】	予習（2 時間程度）：ヴィクトリーナ姫路、またプロバレーボールリーグについて事前に調べておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第5回	対面	グループワーク（1）～女子プロ野球法務のトラブル～（担当者：芳中）	予習（2 時間程度）：事前に選手契約、スポンサーシップ、命名権、景品表示法など参考書等の関連箇所目を通し、疑問点をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第6回	対面	グループワーク（2）～女子プロ野球の広告法務～（担当者：芳中） 【中間レポート】	予習（2 時間程度）：事前に選手契約、スポンサーシップ、命名権、景品表示法など参考書等の関連箇所目を通し、疑問点をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第7回	対面	スポーツビジネスの現場から（4）～サッカーNTC と地域の活性化～（担当者：芳中）	予習（2 時間程度）：日本サッカー協会 JFA、また JG REEN 堺について事前に調べておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第8回	オンデマンド	ビジネス法概論（担当者：石上） ビジネス法務の観点からスポーツビジネスを整理する	予習（2 時間程度）：事前にガイダンスおよびグループワークでの法的課題について学修しておくこと。 復習（2 時間程度）：スポーツビジネスを実践するゲストの教材を振り返り、法的課題について把握する。	4 時間
第9回	対面	スポーツマインドとビジネス法務（担当者：芳中）	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所目を通し、疑問点をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間

第10回	対面	スポーツ用品業と法的問題（1）（担当者：芳中） 【スポーツ関連企業法務担当ゲスト】	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第11回	対面	スポーツ用品業と法的問題（2）（担当者：芳中） 【スポーツ関連企業法務担当ゲスト】	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第12回	対面	スポーツビジネスと知的財産（担当者：芳中） 【スポーツ関連企業法務担当ゲスト】	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第13回	対面	スポーツサービス業と法的問題（1）（担当者：芳中） 【インターンシップ受入企業ゲスト】	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第14回	対面	スポーツサービス業と法的問題（2）（担当者：芳中） 【スポーツ関連企業法務担当ゲスト】	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回質問できるよう用意しておくこと。	4 時間
第15回	対面	総括（担当者：芳中）	予習（2 時間程度）：事前に小テスト、オンデマンドの概論の設問に目を通し、疑問点をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、過去の小テストの解答解説を全て目を通しておくこと。	4 時間

科目名	労働基準法	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働法分野の基礎である労働基準法を中心に個別的労働関係法の内容を習得し、その背景にある理念や基本的な考え方を理解する。		
授業の目的及び概要	労働基準法は個別的労働関係法の中核をなす法律であり、労働条件の最低基準などを定めた重要な法律である。具体的には、労働時間・休日、賃金、有給休暇、就業規則などまた男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、労働安全衛生法、労災保険法などがある。本授業では、労働基準法の内容を中心としつつ、これらの関連法規等を紹介しながら講義する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・労働基準法をはじめ個別労働関係法に関する基本的な事項について理解し、説明することができる。 ・職場で出会う基本的な労働問題を理解し、法的に考えるための基礎知識を習得することができる。 ・具体的問題の解決方法を考える力を身につけることが期待できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・中間テストについては解説する。 ・授業内容に関する質問については適宜回答する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『労働法』, 川田智子、長谷川聡, 弘文堂, 2020 年 授業は配布するレジュメに沿って進行する。	ISBN	9784335358388
参考書	①『労働法 第5版』, 荒木尚志, 有斐閣, 2022 年 ②『労働基準法・労働契約法』, 西谷敏・奥田香子外多数, 日本評論社, 2020 年	ISBN	①9784641243576 ②9784535402805
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	授業のガイダンス（授業の進め方や成績評価の説明など） - 最低規程の法規整 - 労働者の人権と自由保障	・ 事前に必ずシラバスを読むこと（0.5時間程度）。 ・ 学習した内容について説明できるように、レジュメや参考書を用いて復習すること（3.5時間程度）。	4時間
第2回	対面	賃金(1) - 労基法上の賃金の定義 - 賃金保護	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第3回	対面	賃金(2) - 賞与 - 退職金	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第4回	対面	労働時間(1) - 法定労働時間 - 休憩 - 休日	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第5回	対面	労働時間(2) - 弾力的労働時間制度 - 労働時間の計算とみなし労働時間制	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第6回	対面	時間外労働時間 - 休日労働 - 適用除外	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第7回	対面	年次有給休暇 - 年次有給休暇 - 育児介護休業法	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第8回	対面	年少者と妊産婦 - 年少者の保護 - 妊産婦の保護	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第9回	対面	労働災害の補償（1） ・ 労基法上の責任 ・ 労働安全衛生 ・ 労災補償	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第10回	対面	労働者の人権 ・ 雇用における平等 ・ 均等待遇原則	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第11回	対面	男女雇用機会均等法 ・ 男女同一賃金 ・ 女性活躍推進法	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第12回	対面	障害者の雇用均等 ・ 雇用義務制度 ・ 障害者差別禁止	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第13回	対面	労働者の人格保障 ・ ハラスメント ・ プライバシー保護	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第14回	対面	非典型雇用 ・ パートタイム労働 ・ 有期労働	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間
第15回	オンデ	授業の総括：まとめ	・ 試験に向けて全体の復習をすること（4時間）	4時間

2025/05/01

	マンド			

科目名	労働基準法	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働法分野の基礎である労働基準法を中心に個別的労働関係法の内容を習得し、その背景にある理念や基本的な考え方を理解する。		
授業の目的及び概要	労働基準法は個別的労働関係法の中核をなす法律であり、労働条件の最低基準などを定めた重要な法律である。具体的には、労働時間・休日、賃金、有給休暇、就業規則などまた男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、労働安全衛生法、労災保険法などがある。本授業では、労働基準法の内容を中心としつつ、これらの関連法規等を紹介しながら講義する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・労働基準法をはじめ個別労働関係法に関する基本的な事項について理解し、説明することができる。 ・職場で出会う基本的な労働問題を理解し、法的に考えるための基礎知識を習得することができる。 ・具体的問題の解決方法を考える力を身につけることが期待できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・中間テストについては解説する。 ・授業内容に関する質問については適宜回答する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『労働法』, 川田智子、長谷川聡, 弘文堂, 2020 年 授業は配布するレジュメに沿って進行する。	ISBN	9784335358388
参考書	①『労働法 第5版』, 荒木尚志, 有斐閣, 2022 年 ②『労働基準法・労働契約法』, 西谷敏・奥田香子外多数, 日本評論社, 2020 年	ISBN	①9784641243576 ②9784535402805
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	授業のガイダンス（授業の進め方や成績評価の説明など） - 最低規程の法規整 - 労働者の人権と自由保障	・ 事前に必ずシラバスを読むこと（0.5 時間程度）。 ・ 学習した内容について説明できるように、レジュメや参考書を用いて復習すること（3.5 時間程度）。	4 時間
第2回	対面	賃金(1) - 労基法上の賃金の定義 - 賃金保護	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第3回	対面	賃金(2) - 賞与 - 退職金	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第4回	対面	労働時間(1) - 法定労働時間 - 休憩 - 休日	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第5回	対面	労働時間(2) - 弾力的労働時間制度 - 労働時間の計算とみなし労働時間制	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第6回	対面	時間外労働時間 - 休日労働 - 適用除外	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第7回	対面	年次有給休暇 - 年次有給休暇 - 育児介護休業法	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第8回	対面	年少者と妊産婦 - 年少者の保護 - 妊産婦の保護	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第9回	対面	労働災害の補償（1） ・ 労基法上の責任 ・ 労働安全衛生 ・ 労災補償	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第10回	対面	労働者の人権 ・ 雇用における平等 ・ 均等待遇原則	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第11回	対面	男女雇用機会均等法 ・ 男女同一賃金 ・ 女性活躍推進法	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第12回	対面	障害者の雇用均等 ・ 雇用義務制度 ・ 障害者差別禁止	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第13回	対面	労働者の人格保障 ・ ハラスメント ・ プライバシー保護	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第14回	対面	非典型雇用 ・ パートタイム労働 ・ 有期労働	・ 予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・ 復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第15回	オンデ	授業の総括：まとめ	・ 試験に向けて全体の復習をすること（4 時間）	4 時間

2025/05/01

	マンド			

科目名	労働契約法	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働契約法は、労働法制の概要と論点を理解しこの理解を用いて雇用の場で生起する諸問題の問題構造を自身で明らかにすることができる。		
授業の目的及び概要	個別的労働法に分類される後述のような諸問題について、使用者と労働者との間の契約関係の成立や内容、終了等に関する規定を適用する領域である。労働契約に関する判例等を参考にしながら検討する。法の趣旨目的やその背景にある理念や社会実態を理解することで、労働法の基本知識を学ぶことを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	労働法の基礎知識として労働契約法をはじめ個別労働関係法に関する基本的な事項について理解し、説明することができる。 職場で出会う基本的な労働問題を理解し、法的に考えるための基礎知識を習得することができる。 この理解を用いて雇用の場で生起する諸問題の問題構造を自身で明らかにできるとともに、自身の意見を構築することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストについては解説する。 さらに、課題や疑問点については、授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『労働法』、川田知子・長谷川聡、弘文堂、2020 年 授業の前に講義レジュメを配布する。	ISBN	9784335358388
参考書	①『労働法 第 6 版』、荒木尚志、有斐閣、2022 年 ②『労働判例百選 第 10 版』、村中孝史・荒木尚志編、有斐閣、2022 年	ISBN	①9784641243576 ②9784641115576
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・日ごろから、雇用問題に関するニュース等に接することや、各自のアルバイトの経験などで遭遇する法的問題について意識することが授業の理解に役立つ。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	授業のガイダンス ・講義の進め方を示し、労働法の学修方法 や成績評価について紹介する。	・予習：必ず、シラバスを読むこと（1時間） ・復習：学習した内容に対して説明可能出来るように レジュメやテキストを用いて復習すること（3時間）	4時間
第2回	対面	労働法の意義と基本構造（1） ・労働法の体系及び歴史 ・労働法の体系と憲法	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第3回	対面	労働法の意義と基本構造（2） - 労働法の当事者 - 労働者の概念および使用者の概念	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第4回	対面	労働条件及び労働紛争決定システム - 労使による履行確保 - 行政による履行確保	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第5回	対面	労働契約の法規整 - 労働契約の基本原則 - 労働契約上の権利義務	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第6回	対面	労働契約の成立（1） - 労働契約の締結 - 採用の事由とその制限	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第7回	対面	労働契約の成立（2） - 採用内定、内々定 - 試用期間	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第8回	対面	人事（1） - 配転 ・ 出向 ・ 転籍	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第9回	対面	人事（2） - 昇進 ・ 昇格 ・ 降格	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第10回	対面	- 退職 - 企業再編	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第11回	対面	労働条件の変更 - 当事者による変更 - 就業規則による労働条件の変更	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第12回	対面	服務規律 ・ 懲戒 - 内部告発	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第13回	対面	労働契約の終了（1） - 解雇規制 - 退職、合意解約	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第14回	対面	労働契約の終了（2） - 定年制 ・ 再雇用	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	総括 - 全体的に習得した内容を整理及び復習 - 定期試験対策	・予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間

科目名	労働契約法	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働契約法は、労働法制の概要と論点を理解しこの理解を用いて雇用の場で生起する諸問題の問題構造を自身で明らかにすることができる。		
授業の目的及び概要	個別的労働法に分類される後述のような諸問題について、使用者と労働者との間の契約関係の成立や内容、終了等に関する規定を適用する領域である。労働契約に関する判例等を参考にしながら検討する。法の趣旨目的やその背景にある理念や社会実態を理解することで、労働法の基本知識を学ぶことを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	労働法の基礎知識として労働契約法をはじめ個別労働関係法に関する基本的な事項について理解し、説明することができる。 職場で出会う基本的な労働問題を理解し、法的に考えるための基礎知識を習得することができる。 この理解を用いて雇用の場で生起する諸問題の問題構造を自身で明らかにできるとともに、自身の意見を構築することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストについては解説する。 さらに、課題や疑問点については、授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『労働法』、川田知子・長谷川聡、弘文堂、2020 年 授業の前に講義レジュメを配布する。	ISBN	9784335358388
参考書	①『労働法 第 6 版』、荒木尚志、有斐閣、2022 年 ②『労働判例百選 第 10 版』、村中孝史・荒木尚志編、有斐閣、2022 年	ISBN	①9784641243576 ②9784641115576
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・ 日ごろから、雇用問題に関するニュース等に接することや、各自のアルバイトの経験などで遭遇する法的問題について意識することが授業の理解に役立つ。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	授業のガイダンス ・講義の進め方を示し、労働法の学修方法 や成績評価について紹介する。	・予習：必ず、シラバスを読むこと（1時間） ・復習：学習した内容に対して説明可能出来るように レジュメやテキストを用いて復習すること（3時間）	4時間
第2回	対面	労働法の意義と基本構造（1） ・労働法の体系及び歴史 ・労働法の体系と憲法	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第3回	対面	労働法の意義と基本構造（2） - 労働法の当事者 - 労働者の概念および使用者の概念	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第4回	対面	労働条件及び労働紛争決定システム - 労使による履行確保 - 行政による履行確保	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第5回	対面	労働契約の法規整 - 労働契約の基本原則 - 労働契約上の権利義務	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第6回	対面	労働契約の成立（1） - 労働契約の締結 - 採用の事由とその制限	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第7回	対面	労働契約の成立（2） - 採用内定、内々定 - 試用期間	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第8回	対面	人事（1） - 配転 ・ 出向 ・ 転籍	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第9回	対面	人事（2） - 昇進 ・ 昇格 ・ 降格	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第10回	対面	- 退職 - 企業再編	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第11回	対面	労働条件の変更 - 当事者による変更 - 就業規則による労働条件の変更	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第12回	対面	服務規律 ・ 懲戒 - 内部告発	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第13回	対面	労働契約の終了（1） - 解雇規制 - 退職、合意解約	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間
第14回	対面	労働契約の終了（2） - 定年制 ・ 再雇用	・予習：ランニングポータルでアップロードされている 授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	総括 - 全体的に習得した内容を整理及び復習 - 定期試験対策	・予習：ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2時間）	4時間

科目名	労使関係法	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	集団的な労働関係として労働組合と使用者、労働組合と労働者の関係に関する法規について学修する。		
授業の目的及び概要	労働法は憲法第 28 条による労働基本権の保障を基礎に、労働組合の組織と活動を制度的に保障する（集団的労働関係法）ことを対象とする。労働契約法や労働基準法（個別的労働関係法）と区分されているが、とりわけ、その問題構造は社会的・経済的な関係ごとに、労使関係の歴史的・現実的構造と深く関連しており、それらの学修・理解は本講座において解明に努める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義を通して、『労働基本権』保障の意義を深く理解し、それを基礎に集団的な労働関係上の紛争処理に関し日々の労働生活の場において労働者の人権尊厳が十分に確保された状況を構築できるような方向での法理論を学修・構築出来るようにする。その内容は労働組合の結成・運営、団体交渉、労働協約、争議行為、不当労働行為の順である。本授業は、単なる条文暗記ではなく法の趣旨目的やその背景にある理念等を理解することにより、受講生が労使関係法の基本知識と思考枠組みを学ぶことを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストについては解説する。 さらに、課題や疑問点については、授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『労働法』、川田知子・長谷川聡、弘文堂、2020 年 授業の前に講義レジュメを配布する。	ISBN	9784335358388
参考書	①『労働法 第 3 版』、西谷敏、日本評論社、2020 年 ②『労働法 第 5 版』、荒木尚志、有斐閣、2022 年 ③『労働判例百選 第 10 版』、村中孝史・荒木尚志編、有斐閣、2022 年	ISBN	①9784535524217 ②9784641243576 ③9784641115576
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を十分にしなければならない。 ・ 日ごろから、雇用問題に関するニュース等に接することや、各自のアルバイトの経験などで遭遇する法的問題について意識することが授業の理解に役立つ。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	イントロダクション (授業のガイダンス) ・労働基本権の保障	・予習:必ず、シラバシをよむこと(1時間) ・復習:学習した内容について説明可能用にレジュメのを用いて復習すること(3時間)	4時間
第2回	対面	団結権と労働組合 ・労働組合法上の労働組合	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第3回	対面	労働組合の結成と内部運営 ・労働組合の機関 ・加入・脱退	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第4回	対面	労働組合の活動 ・企業施設の利用 ・就労時間中の組合活動	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第5回	対面	団体交渉(1) ・交渉の概説と当事者など	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第6回	対面	団体交渉(2) ・団体交渉の対象と交渉拒否の救済	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第7回	対面	労働協約(1) ・労働協約の効力	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第8回	対面	労働協約(2) ・労働協約の拡張適用	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第9回	対面	争議行為(1) ・争議行為の意義及び実態	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第10回	対面	争議行為(2) ・争議行為の正当性	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第11回	対面	争議行為(3) ・使用者の争議対抗行為	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第12回	対面	不当労働行為制度 ・不当労働行為制度の意義、目的	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第13回	対面	不当労働行為の成立要件 ・労働組合法第7条1号～5号	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間
第14回	対面	不当労働行為の救済制度 ・行政救済 ・司法救済	・予習:ランニングポータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジュメの確認問題を解けるようにする(2時間)	4時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	全体的な授業内容に対する評価及び復習	・予習：全体に関する復習 ・復習：定期試験対策	4時間

科目名	労使関係法	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	集団的な労働関係として労働組合と使用者、労働組合と労働者の関係に関する法規について学修する。		
授業の目的及び概要	労働法は憲法第 28 条による労働基本権の保障を基礎に、労働組合の組織と活動を制度的に保障する（集団的労働関係法）ことを対象とする。労働契約法や労働基準法（個別的労働関係法）と区分されているが、とりわけ、その問題構造は社会的・経済的な関係ごとに、労使関係の歴史的・現実的構造と深く関連しており、それらの学修・理解は本講座において解明に努める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義を通して、『労働基本権』保障の意義を深く理解し、それを基礎に集団的な労働関係上の紛争処理に関し日々の労働生活の場において労働者の人権尊厳が十全に確保された状況を構築できるような方向での法理論を学修・構築出来るようにする。その内容は労働組合の結成・運営、団体交渉、労働協約、争議行為、不当労働行為の順である。本授業は、単なる条文暗記ではなく法の趣旨目的やその背景にある理念等を理解することにより、受講生が労使関係法の基本知識と思考枠組みを学ぶことを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストについては解説する。 さらに、課題や疑問点については、授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『労働法』、川田知子・長谷川聡、弘文堂、2020 年 授業の前に講義レジュメを配布する。	ISBN	9784335358388
参考書	①『労働法 第 3 版』、西谷敏、日本評論社、2020 年 ②『労働法 第 5 版』、荒木尚志、有斐閣、2022 年 ③『労働判例百選 第 10 版』、村中孝史・荒木尚志編、有斐閣、2022 年	ISBN	①9784535524217 ②9784641243576 ③9784641115576
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を十分にしなければならない。 ・ 日ごろから、雇用問題に関するニュース等に接することや、各自のアルバイトの経験などで遭遇する法的問題について意識することが授業の理解に役立つ。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	イントロダクション (授業のガイダンス) ・労働基本権の保障	・予習:必ず、シラバシをよむこと(1時間) ・復習:学習した内容について説明可能用にレジメ のを用いて復習すること(3時間)	4時間
第2回	対面	団結権と労働組合 ・労働組合法上の労働組合	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第3回	対面	労働組合の結成と内部運営 ・労働組合の機関 ・加入・脱退	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第4回	対面	労働組合の活動 ・企業施設の利用 ・就労時間中の組合活動	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第5回	対面	団体交渉(1) ・交渉の概説と当事者など	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第6回	対面	団体交渉(2) ・団体交渉の対象と交渉拒否の救済	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第7回	対面	労働協約(1) ・労働協約の効力	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第8回	対面	労働協約(2) ・労働協約の拡張適用	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第9回	対面	争議行為(1) ・争議行為の意義及び実態	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第10回	対面	争議行為(2) ・争議行為の正当性	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第11回	対面	争議行為(3) ・使用者の争議対抗行為	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第12回	対面	不当労働行為制度 ・不当労働行為制度の意義、目的	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第13回	対面	不当労働行為の成立要件 ・労働組合法第7条1号～5号	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間
第14回	対面	不当労働行為の救済制度 ・行政救済 ・司法救済	・予習:ランニングポータルでアップロードされてい る授業レジメを十分に予習すること(2時間) ・復習:レジメの確認問題を解けるようにする(2 時間)	4時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	全体的な授業内容に対する評価及び復習	・予習：全体に関する復習 ・復習：定期試験対策	4時間

科目名	雇用政策法	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	働く意欲のある全ての人が自分の能力・適性に合った雇用を得ることを可能にするための政策やルールについて学習する。		
授業の目的及び概要	雇用政策法とは、労働法の一分野であり、企業（求人者）と労働者（求職者）が、労働力を取引する市場（労働市場）に関する法的ルールの総体である。具体的には、求職段階のルール（職業紹介・職業教育等）や、労働者の特定の属性に着目したルール（女性。高年齢者、障害者等）、近年急増している非正規雇用に関するルールが含まれる。これらのルールは、働こうとする全ての人が自分の能力・適性に合った雇用を得ることを可能にするために必要なものであり、社会の変化に応じたルールの変化が激しい分野です。本講義では、これまでの雇用政策の経緯や内容について解説していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・雇用政策法に関する基礎的な知識を修得している。 ・労働に関わる社会問題を正確に理解している。 ・現代社会における雇用政策の課題について法的な観点から考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容に関する質問には適宜答える。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。授業は配布するレジュメに沿って行う。	ISBN	なし
参考書	詳細は初回の授業で説明する ・『労働法 第5版』、荒木尚志、弘文堂、2022年 ・『労働判例百選 10版』、村中孝史、荒木尚志、有斐閣、2022年	ISBN	9784641243576 9784641115576
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・日ごろから雇用問題に関するニュース等に接しておくことや、各自のアルバイトの中で遭遇する法的問題について意識しておくことが授業の理解に役立つ。 ・労働基準法、労働契約法を履修することが望ましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・雇用政策法の目的	・事前に必ずシラバスを読むこと（0.5時間程度）。 ・学習した内容について説明できるように、レジюмеや参考書を用いて復習すること（3.5時間程度）。	4時間
第2回	対面	日本型雇用システムの特徴と変容	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第3回	対面	職業紹介・職業能力開発	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第4回	対面	失業者への生活保障	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第5回	対面	ワーク・ライフ・バランスと法政策	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第6回	対面	労働者の人格保護 ・ハラスメントと法政策 ・プライバシーと個人情報保護	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第7回	対面	非典型雇用(1) ・パートタイム労働 ・派遣労働	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第8回	対面	非典型雇用(2) ・有期雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第9回	対面	非典型雇用(3) ・正規・非正規の待遇格差	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第10回	対面	雇用政策の課題(1) ・雇用社会の変化	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第11回	対面	雇用政策の課題(2) ・高齢者の雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第12回	対面	雇用政策の課題(3)	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授	4時間

		・外国人労働者の雇用	業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	
第 1 3 回	対面	雇用政策の課題(4) ・ 障害者の雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第 1 4 回	対面	雇用政策の課題(5) ・ 若年者の雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	総まとめ ・ 試験に向けて全体の復習をすること	・ 試験に向けて全体の復習をすること（4 時間）	4 時間

科目名	雇用政策法	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	働く意欲のある全ての人が自分の能力・適性に合った雇用を得ることを可能にするための政策やルールについて学習する。		
授業の目的及び概要	雇用政策法とは、労働法の一分野であり、企業（求人者）と労働者（求職者）が、労働力を取引する市場（労働市場）に関する法的ルールの総体である。具体的には、求職段階のルール（職業紹介・職業教育等）や、労働者の特定の属性に着目したルール（女性。高年齢者、障害者等）、近年急増している非正規雇用に関するルールが含まれる。これらのルールは、働こうとする全ての人が自分の能力・適性に合った雇用を得ることを可能にするために必要なものであり、社会の変化に応じたルールの変化が激しい分野です。本講義では、これまでの雇用政策の経緯や内容について解説していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・雇用政策法に関する基礎的な知識を修得している。 ・労働に関わる社会問題を正確に理解している。 ・現代社会における雇用政策の課題について法的な観点から考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容に関する質問には適宜答える。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。授業は配布するレジュメに沿って行う。	ISBN	なし
参考書	詳細は初回の授業で説明する ・『労働法 第5版』、荒木尚志、弘文堂、2022年 ・『労働判例百選 10版』、村中孝史、荒木尚志、有斐閣、2022年	ISBN	9784641243576 9784641115576
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・日ごろから雇用問題に関するニュース等に接しておくことや、各自のアルバイトの中で遭遇する法的問題について意識しておくことが授業の理解に役立つ。 ・労働基準法、労働契約法を履修することが望ましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・雇用政策法の目的	・事前に必ずシラバスを読むこと（0.5時間程度）。 ・学習した内容について説明できるように、レジюмеや参考書を用いて復習すること（3.5時間程度）。	4時間
第2回	対面	日本型雇用システムの特徴と変容	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第3回	対面	職業紹介・職業能力開発	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第4回	対面	失業者への生活保障	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第5回	対面	ワーク・ライフ・バランスと法政策	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第6回	対面	労働者の人格保護 ・ハラスメントと法政策 ・プライバシーと個人情報保護	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第7回	対面	非典型雇用(1) ・パートタイム労働 ・派遣労働	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第8回	対面	非典型雇用(2) ・有期雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第9回	対面	非典型雇用(3) ・正規・非正規の待遇格差	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第10回	対面	雇用政策の課題(1) ・雇用社会の変化	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第11回	対面	雇用政策の課題(2) ・高齢者の雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2時間）。	4時間
第12回	対面	雇用政策の課題(3)	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授	4時間

		・外国人労働者の雇用	業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	
第 1 3 回	対面	雇用政策の課題(4) ・ 障害者の雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第 1 4 回	対面	雇用政策の課題(5) ・ 若年者の雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジюмеや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジюмеの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	総まとめ ・ 試験に向けて全体の復習をすること	・ 試験に向けて全体の復習をすること（4 時間）	4 時間

科目名	社会保険法	開講年度	2025
担当者	呉 紅敏	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	医療、年金、労災保険制度、介護保険とは何の制度なの？		
授業の目的及び概要	法学における社会保障制度の歴史、概念と範囲、機能、財政、制度の体系と概要およびそれらの問題について概観する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会保障法にかかわる基本的知識、いわば社会保障法の基礎的な常識をみにつけることを第一目標とし、少子高齢化社会の中で改革が急務といわれている社会保障制度の現状や改革議論について、身近な例を挙げながら具体的にわかりやすく説明し、その上で、社会保険制度の個別制度の基礎知識について解説し、社会保険制度の基礎知識を得ることを第二の目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義において、コメントカードに質問、意見、感想、提案などを書いてもらい、次の授業で回答する。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①新・初めての社会保障論』（第3版），古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	社会保障法全体の勉強のためには、秋学期の社会福祉法の履修もお勧めします。受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	何のために社会保障があるの？	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2時間程度）。 また、配布するレジュメを用いて予習してください（2時間程度）。	4 時間
第2回	対面	社会保険法の全体像について説明	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2時間程度）。	4 時間

			また、16～35 頁の医療保険を予習してください（2 時間程度）。	
第 3 回	対面	医療保険 ・ 医療保険とは一 ・ 医療保障を実現するしくみ	授業後に、教科書の 16 頁～20 頁の内容を読んで、講義内容について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 21 頁～35 頁を読んで予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 4 回	対面	医療保険 ・ 医療保険の仕組み ・ 医療保険制度の問題と課題	授業後に、教科書の 21 頁～35 頁を読んで復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 38 頁～41 頁を読んで「介護保険」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 5 回	対面	介護保険 介護保険制度とは ・ 介護保険制度の概要	授業後に、教科書 38 頁～41 頁を読んで「介護保険」について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 42 頁～54 頁を読んで「介護保険」の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 6 回	対面	介護保険制度 ・ 介護保険制度の概要 ・ 介護保険制度の課題	授業後に、教科書 42 頁～54 頁を読んで「介護保険」の概要と課題について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 58 頁～69 頁の「年金」制度について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 7 回	対面	年金制度 ・ 年金制度とは何か ・ 年金制度の仕組み	授業後に、教科書 58 頁～69 頁の「年金」制度の仕組みについて復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 70 頁～81 頁の「年金」制度の現状と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 8 回	対面	年金制度 ・ 年金制度の現状 ・ 公的年金制度の課題	授業後に、教科書の 70 頁～81 頁の「年金」制度の現状と課題について復習してください。	4 時間
第 9 回	対面	中間総括・まとめ ・ 医療・介護・年金制度の総括、まとめ	授業後に、医療、介護、年金制度について教科書やレジュメを用い、復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 86 頁～95 頁の「労働者災害補償保険制度」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 10 回	対面	労働保険 ・ 労働保険とは ・ 労働者災害補償保険制度について	授業後に、教科書の 86 頁～95 頁の「労働者災害補償保険制度」について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 96 頁～107 頁の「雇用保険制度」と今後の課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 11 回	対面	雇用保険制度 ・ 雇用保険制度とは ・ 今後の課題	授業後に、教科書の 96 頁～107 頁の「雇用保険制度」と今後の課題について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 108 頁～115 頁の「民間保険と社会保険」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 12 回	オンデマンド	民間保険と社会保険 ・ 保険とは ・ 民間保険の仕組み ・ 現状と今後の課題	授業後に、教科書の 108 頁～115 頁の「民間保険と社会保険」について復習してください（2 時間程度）。 配布するレジュメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 13 回	対面	社会保険制度における現状と課題	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 配布するレジュメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 14 回	対面	少子高齢化社会における社会保障制度の現状と課題	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（4 時間程度）。	4 時間
第 15 回	対面	講義全体内容のまとめと総括	授業後に、教科書やレジュメを用いて講義内容について復習してください。	4 時間

科目名	社会保険法	開講年度	2025
担当者	呉 紅敏	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	医療保険、年金、労災保険制度、介護保険制度ってどんな制度なの？		
授業の目的及び概要	法学における社会保障制度の歴史、概念と範囲、機能、財政、制度の体系と概要およびそれらの問題について概観する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会保障法にかかわる基本的知識、いわば社会保障法の基礎的な常識を身につけることを第一目標とし、少子高齢化社会の中で改革が急務といわれている社会保障制度の現状や改革議論について、身近な例を挙げながら具体的にわかりやすく説明し、その上で、社会保険制度の個別制度の基礎知識について解説し、社会保険制度の基礎知識を得ることを第二の目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義において、ディスカッションに質問、意見、感想、提案などを書いてもらい、次の授業で回答する。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①新・初めての社会保障論（第3版），古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	社会保障法全体の勉強のためには、秋学期の社会福祉法と経済学部の社会保障の科目の履修もお勧めします。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。 教科書を読まずに、また動画をご覧にならずに、適当に出席テストを受ける場合は、欠席にすることもあります。 毎回レジュメを配布しているので、教科書持たずに、勉強はできますが、レジュメ以外の勉強も必要なので、教科書は必須です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデ	何のために社会保障があるの？	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2時間程度）。	4 時間

	マンド		また、配布するレジュメを用い予習してください（2時間程度）。	
第2回	オンデマンド	社会保険法の全体像について説明	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2時間程度）。 また、16～35頁の医療保険を予習してください（2時間程度）。	4時間
第3回	オンデマンド	医療保険 ・医療保険とは ・医療保障を実現するしくみ	授業後に、教科書の16頁～20頁の内容を読んで、講義内容について復習してください（2時間程度）。 また、教科書の21頁～35頁を読んで予習してください（2時間程度）。	4時間
第4回	オンデマンド	医療保険 ・医療保険の仕組み ・医療保険制度の問題と課題	授業後に、教科書の21頁～35頁を読んで復習してください（2時間程度）。 また、教科書38頁～41頁を読んで「介護保険」について予習してください（2時間程度）。	4時間
第5回	オンデマンド	介護保険 介護保険制度とは ・介護保険制度の概要	授業後に、教科書38頁～41頁を読んで「介護保険」について復習してください（2時間程度）。 また、教科書42頁～54頁を読んで「介護保険」の概要と課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第6回	オンデマンド	介護保険制度 ・介護保険制度の概要 ・介護保険制度の課題	授業後に、教科書42頁～54頁を読んで「介護保険」の概要と課題について復習してください（2時間程度）。 また、教科書58頁～69頁の「年金」制度について予習してください（2時間程度）。	4時間
第7回	オンデマンド	年金制度 ・年金制度とは何か ・年金制度の仕組み	授業後に、教科書58頁～69頁の「年金」制度の仕組みについて復習してください（2時間程度）。 また、教科書の70頁～81頁の「年金」制度の現状と課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第8回	オンデマンド	年金制度 ・年金制度の現状 ・公的年金制度の課題	授業後に、教科書の70頁～81頁の「年金」制度の現状と課題について復習してください。	4時間
第9回	オンデマンド	中間総括・まとめ ・医療・介護・年金制度の総括、まとめ	授業後に、医療、介護、年金制度について教科書やレジュメを用い、復習してください（2時間程度）。 また、教科書の86頁～95頁の「労働者災害補償保険制度」について予習してください（2時間程度）。	4時間
第10回	オンデマンド	労働保険 ・労働保険とは ・労働者災害補償保険制度について	授業後に、教科書の86頁～95頁の「労働者災害補償保険制度」について復習してください（2時間程度）。 また、教科書の96頁～107頁の「雇用保険制度」と今後の課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第11回	オンデマンド	雇用保険制度 ・雇用保険制度とは ・今後の課題	授業後に、教科書の96頁～107頁の「雇用保険制度」と今後の課題について復習してください（2時間程度）。 また、教科書の108頁～115頁の「民間保険と社会保険」について予習してください（2時間程度）。	4時間
第12回	オンデマンド	民間保険と社会保険 ・保険とは ・民間保険の仕組み ・現状と今後の課題	授業後に、教科書の108頁～115頁の「民間保険と社会保険」について復習してください（2時間程度）。 配布するレジュメを用い予習してください（2時間程度）。	4時間
第13回	オンデマンド	社会保険制度における現状と課題	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2時間程度）。 配布するレジュメを用い予習してください（2時間程度）。	4時間
第14回	オンデマンド	少子高齢化社会における社会保障制度の現状と課題	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（4時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	講義全体内容のまとめと総括	授業後に、教科書やレジュメを用いて講義内容について復習してください。	4時間

科目名	社会福祉法	開講年度	2025
担当者	呉 紅敏	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、生活保護制度ってどんな制度なの？		
授業の目的及び概要	社会福祉を学修するために、社会福祉の基本となる理念や歴史、社会福祉の権利などを学ぶとともに、福祉制度の個別制度の基礎知識について概説する。 社会福祉制度は、皆様がこれから社会に出ていって、いざ何か困ったときに、利用できる制度なので、ぜひしっかり理解し覚えて頂きたいと思う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この講義では、社会福祉とはなにかという疑問を解き明かすため、福祉の歴史や体系など基本的・基礎的な内容を学ぶうえで、社会環境の変化と動向、そして社会福祉法制度の現状と課題についての認識を得ることを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義において、コメントカードに質問、意見、感想、提案などを書いてもらい、次の授業で回答する。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	社会保険法と同じ教科書 ①新・初めての社会保障論（第3版），古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	社会保険法全体の勉強のためには、春学期の社会保険法の履修もお勧めします。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。 毎回レジュメを配布しているので、教科書持たずに、勉強はできますが、レジュメ以外の勉強も必要なので、教科書は必須です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	何のために社会保障制度があるの？	授業後は、教科書 1～12 頁の第 1 章「社会保障とは」を復習してください（2 時間程度）。 また、118～127 頁の第 7 章社会福祉とはを予習して	4 時間

			ください（2 時間程度）。	
第 2 回	対面	社会福祉の法体系と目的 ・ 社会福祉とは	授業後に、118～127 頁の第 7 章社会福祉とはを復習してください（2 時間程度）。 また、128～137 頁の児童福祉を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 3 回	対面	児童福祉 ・ 児童福祉とは ・ 児童福祉の仕組みと現状 ・ 課題	授業後に、28～137 頁の児童福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、138～146 頁の障害者福祉を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 4 回	対面	障害者福祉とは ・ 障害がある人の福祉とは ・ 障害者福祉の仕組みと現状 ・ 今後の課題	授業後に、138～146 頁の障害者福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、147～158 頁の高齢者福祉を復習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 5 回	対面	高齢者福祉 ・ 高齢者福祉とは ・ 高齢者福祉の歴史の変遷 ・ 高齢者福祉に関する法律	授業後に、教科書 147～158 頁の高齢者福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 159～167 頁の社会手当を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 6 回	対面	社会手当 ・ 社会手当とは ・ 社会手当の種類と概要 ・ 今後の課題	授業後は、教科書 159～167 頁の社会手当を復習してください（2 時間程度）。 また、38～45 頁の介護保険について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 7 回	対面	介護保険 ・ 介護保険とは ・ 介護保険の概要	授業後は、38～45 頁の介護保険について復習してください（2 時間程度）。 また、46～57 頁の介護保険の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 8 回	対面	介護保険 ・ 介護保険の概要 ・ 今後の課題	授業後に、教科書の 46～57 頁の介護保険の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。 また、168～185 頁の生活保護について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 9 回	対面	生活保護 ・ 生活保護とは ・ 生活保護のしくみ 今後の課題	授業後に、教科書の 168～185 頁の生活保護について復習してください（2 時間程度）。 また、186～193 頁の権利擁護と成年後見制度を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 10 回	対面	権利擁護と成年後見制度 ・ 権利擁護とは ・ 成年後見制度とは ・ 今後の課題	授業後に、教科書の 186～193 頁の権利擁護と成年後見制度を復習してください（2 時間程度）。 また、くばるレジュメの社会福祉の展開と福祉人材を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 11 回	オンデマンド	社会福祉の展開と福祉人材 ・ 福祉人材難 ・ 今後の課題	授業後に、配布したレジュメの社会福祉の展開と福祉人材を用い復習してください（2 時間程度）。 また、配布する社会福祉と社会保険の違いのレジュメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 12 回	対面	社会福祉と社会保険の違いは？	授業後は配布したレジュメを用い復習してください（2 時間程度）。 配布する社会福祉制度の現状課題のレジュメを用い復習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 13 回	対面	社会福祉制度の現状と課題	授業後に、配布したレジュメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 教科書の 194 頁～200 頁の「少子高齢化社会における課題」の内容を読んで予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 14 回	対面	少子高齢化社会における課題 ・ 少子高齢化とは ・ 若年者における課題 ・ 子育て世代における課題 ・ 高齢者における課題	授業後に、教科書の 194 頁～200 頁の「少子高齢化社会における課題」の内容を読んで復習してください（4 時間程度）。	4 時間
第 15 回	対面	秋学期講義内容のまとめと総括	授業後に、レジュメや教科書を用いて講義内容について復習してください（4 時間程度）。	4 時間

科目名	社会福祉法	開講年度	2025
担当者	呉 紅敏	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、生活保護制度とはどんな制度なの？		
授業の目的及び概要	社会福祉を学修するために、社会福祉の基本となる理念や歴史、社会福祉の権利などを学ぶとともに、福祉制度の個別制度の基礎知識について概説する。 社会福祉制度は、皆様がこれから社会に出ていって、いざ何か困ったときに、利用できる制度なので、ぜひしっかり理解し覚えて頂きたいと思う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この講義では、社会福祉とはなにかという疑問を解き明かすため、福祉の歴史や体系など基本的・基礎的な内容を学ぶうえで、社会環境の変化と動向、そして社会福祉法制度の現状と課題についての認識を得ることを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義において、コメントカードに質問、意見、感想、提案などを書いてもらい、次の授業で回答する。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	社会保険法と同じ教科書 ①新・初めての社会保障論（第3版），古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	社会保険法全体の勉強のためには、春学期の社会保険法の履修もお勧めします。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。 教科書を読まずに、また動画をご覧にならずに、適当に出席テストを受ける場合は、欠席にすることもあります。 毎回レジュメを配布しているので、教科書持たずに、勉強はできますが、レジュメ以外の勉強も必要なので、教科書は必須です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	オンデマンド	何のために社会保障制度があるの？	授業後は、教科書 1～12 頁の第 1 章社会保障とはを復習してください（2 時間程度）。 また、118～127 頁の第 7 章社会福祉とはを予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第2回	オンデマンド	社会福祉の法体系と目的 ・社会福祉とは	授業後に、118～127 頁の第 7 章社会福祉とはを復習してください（2 時間程度）。 また、128～137 頁の児童福祉を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第3回	オンデマンド	児童福祉 ・児童福祉とは ・児童福祉の仕組みと現状 ・課題	授業後に、28～137 頁の児童福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、138～146 頁の障害者福祉を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第4回	オンデマンド	障害者福祉とは ・障害がある人の福祉とは ・障害者福祉の仕組みと現状 ・今後の課題	授業後に、138～146 頁の障害者福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、147～158 頁の高齢者福祉を復習してください（2 時間程度）。	4 時間
第5回	オンデマンド	高齢者福祉 ・高齢者福祉とは ・高齢者福祉の歴史の変遷 ・高齢者福祉に関する法律	授業後に、教科書 147～158 頁の高齢者福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 159～167 頁の社会手当を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第6回	オンデマンド	社会手当 ・社会手当とは ・社会手当の種類と概要 ・今後の課題	授業後は、教科書 159～167 頁の社会手当を復習してください（2 時間程度）。 また、38～45 頁の介護保険について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第7回	オンデマンド	介護保険 ・介護保険とは ・介護保険の概要	授業後は、38～45 頁の介護保険について復習してください（2 時間程度）。 また、46～57 頁の介護保険の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第8回	オンデマンド	介護保険 ・介護保険の概要 ・今後の課題	授業後に、教科書の 46～57 頁の介護保険の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。 また、168～185 頁の生活保護について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第9回	オンデマンド	生活保護 ・生活保護とは ・生活保護のしくみ 今後の課題	授業後に、教科書の 168～185 頁の生活保護について復習してください（2 時間程度）。 また、186～193 頁の権利擁護と成年後見制度を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第10回	オンデマンド	権利擁護と成年後見制度 ・権利擁護とは ・成年後見制度とは ・今後の課題	授業後に、教科書の 186～193 頁の権利擁護と成年後見制度を復習してください（2 時間程度）。 また、くばるレジメの社会福祉の展開と福祉人材を予習してください（2 時間程度）	4 時間
第11回	オンデマンド	社会福祉の展開と福祉人材 ・福祉人材難 ・今後の課題	授業後に、配布したレジメの社会福祉の展開と福祉人材を用い復習してください（2 時間程度）。 また、配布する社会福祉と社会保険の違いのレジメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第12回	オンデマンド	社会福祉と社会保険の違いは？	授業後は配布したレジメを用い復習してください（2 時間程度）。 配布する社会福祉制度の現状課題のレジメを用い復習してください（2 時間程度）。	4 時間
第13回	オンデマンド	社会福祉制度の現状と課題	授業後に、配布したレジメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 教科書の 194 頁～200 頁の「少子高齢化社会における課題」の内容を読んで予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第14回	オンデマンド	少子高齢化社会における課題 ・少子高齢化とは ・若年者における課題 ・子育て世代における課題	授業後に、教科書の 194 頁～200 頁の「少子高齢化社会における課題」の内容を読んで復習してください（4 時間程度）。	4 時間

2025/05/01

		・高齢者における課題		
第15回	オンデマンド	秋学期講義内容のまとめと総括	授業後に、レジюмеや教科書を用いて講義内容について復習してください（4時間程度）。	4時間

科目名	国際法 I	開講年度	2025
担当者	松山 沙織	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代国際社会を規律する国際法の基本的事項		
授業の目的及び概要	国際法（international law）は伝統的には国家間の関係を規律する法だが、その扱う内容は実に様々であり、今日では関与するアクターも多様となっている。そのため、本講義では国際法の基本構造を理解する上で必要となる論点に加えて、現代国際法上の問題を概説する。専門的知識を身につけるとともに、論理的な思考力を育むことを目的とする。基本的には講義スタイルを採るが、講義中の質問を奨励し、講義中の講師からの問いかけに積極的に回答する姿勢が求められる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	試験やレポート課題を通じて、以下の事項を会得することが目標となる。 ①国際法の基本的事項に関する体系的理解（学説の位置づけの理解、専門用語の使用法の適切さ） ②法的思考能力（適切な法源の特定、法規範の根拠や理由の理解、文献や資料の効果的使用、法規範の事実関係への当てはめ） ③分析能力・論理的思考（記述の内容の正確さ、背景説明・問題の抽出・法的分析・個人の意見が区別されている）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中や講義外でも質問は歓迎する。また、アンケートやリアクションペーパーの配布を適宜行い、講義中にフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①国際法 第5版、中谷和弘ほか、有斐閣、2024 年教科書の他に、条約集を用意する。できれば最新版（2025 年版）のものを入手すること（5 年以上前のものは不可）。推奨するのは下記のうちいずれか。最新版は 2025 年 3 月出版予定。 ②ベーシック条約集、薬師寺公夫ほか編、東信堂 ③国際条約集、岩沢雄司編、有斐閣	ISBN	① 978-4-641-22230-4 ②・③は 2025 年 3 月出版予定のため未記載。
参考書	扱うテーマに応じて適宜案内する。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	導入（国際法とはなにか）	（予習）テキストの目次を通覧する。また、シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）シラバス、レジюме、ノート等に基づいて講義内容を復習する（3 時間程度）	4 時間
第2回	対面	国際法の存在形式（法源）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、条約および慣習国際法、法の一般原則の意味とその成立要件について復習する（3 時間程度）。	4 時間
第3回	対面	国際法主体としての国家	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、いかなる実体が国家と呼ばれるのか理解する（3 時間程度）。	4 時間
第4回	対面	国家主権（国家の権利義務）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国家主権の基本的内容について復習する（3 時間程度）。	4 時間
第5回	対面	国家の管轄権	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国家が管轄権を行使することを根拠づける原則について理解する（3 時間程度）。	4 時間
第6回	対面	国家機関①（免除に関する国際法）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国際法の基本原則である国家平等原則と主権不可侵原則について理解する（3 時間程度）。	4 時間
第7回	対面	国家機関②（外交関係、領事関係）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料に目を通し、国家として行動する個人に与えられる特別な保護を理解する（3 時間程度）。	4 時間
第8回	対面	条約法（条約をどう読むか）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料に目を通し、条約の成立、留保、条約の解釈について復習する（3 時間程度）。	4 時間
第9回	対面	国際法と国内法の関係	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国	4 時間

			際法を国内法がいかに受容するか、あるいは抵触した場合の処理について復習する（3 時間程度）。	
第 10 回	対面	国家責任法①	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジュメおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジュメおよび資料を参照し、国家が国際法違反をした場合の法的責任について復習する（3 時間程度）。	4 時間
第 11 回	対面	国家責任法②	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジュメおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジュメおよび資料を参照し、国家責任の発生要件と履行方法について理解する（3 時間程度）。	4 時間
第 12 回	対面	紛争の平和的解決	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジュメおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジュメおよび資料に目を通し、国際紛争が発生した際にとられうる裁判手続・非裁判手続について復習する（3 時間程度）。	4 時間
第 13 回	対面	個人に関する国際法①（国籍、外国人の地位）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジュメおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジュメおよび資料を参照し、国家とその管轄下にある個人を紐づける概念を把握する（3 時間程度）。	4 時間
第 14 回	対面	個人と国際法に関する国際法②（国際的な人権保障）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジュメおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジュメおよび資料を参照し、いかにして国際法で人権が保障されるに至ったかその展開を理解する（3 時間程度）。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	今学期の講義総括 （定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信予定。授業前に授業内容に関する質問を募集する）	（予習）これまでの配布レジュメおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）オンデマンド動画を視聴した上で、今学期に学習した内容全体について、テキスト、レジュメ、資料を参照して復習する（3 時間程度）。	4 時間

科目名	国際法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	松山 沙織	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代国際社会を規律する法的枠組み		
授業の目的及び概要	国際法（international law）は伝統的には国家間の関係を規律する法だが、その扱う内容は実に様々であり、今日では関与するアクターも多様となっている。本講義では、現代国際法における課題を踏まえながら、国際法の基本構造を理解する上で必要となる論点を中心に扱う。専門的知識を身に着けると同時に、その知識を用いた論理的思考を習得することが目的である。基本的には講義スタイルを採るが、講義中の質問を奨励し、講義中の講師からの問いかけに積極的に回答する姿勢が求められる。		
履修条件・留意点	国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、未履修であっても理解できる講義内容とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	試験やレポート課題を通じて、以下の事項を会得することが目標となる。 ①国際法に関する体系的理解（学説の位置づけの理解、専門用語の使用法の適切さ、理論的課題の指摘） ②法的思考能力（適切な法源の特定、法規範の根拠や理由の理解、文献や資料の効果的使用、法規範の事実関係への当てはめ） ③分析能力・論理的思考（記述の内容の正確さ、既存の知識を踏まえた論理的・多角的な検討、背景説明・問題の抽出・法的分析・個人の意見が区別されている）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中や講義外でも質問は歓迎する。また、アンケートやリアクションペーパーの配布を適宜行い、講義中にフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①国際法 第5版、中谷和弘ほか、有斐閣、2024 年教科書の他に、条約集を用意する。できれば最新版（2025 年版）のものを入手すること（5 年以上前のものは不可）。推奨するのは下記のうちいずれか。最新版は 2025 年 3 月出版予定。 ②ベーシック条約集、薬師寺公夫ほか編、東信堂 ③国際条約集、岩沢雄司編、有斐閣	ISBN	①978-4-641-22230-4 ②・③は 2025 年 3 月出版予定のため未記載。
参考書	扱うテーマに応じて適宜案内する。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	導入（国際法とはなにか、国際法Ⅰの振り返り）	（予習）テキストの目次を通覧する。また、シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）シラバス、レジюме、ノート等に基づいて講義内容を復習する（3時間程度）	4時間
第2回	対面	国際法の存在形式（法源）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、条約および慣習国際法、法の一般原則の意味とその成立要件について復習する（3時間程度）。	4時間
第3回	対面	国際法主体としての国家・国家の構成要素	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、特に国家の要件について復習する（3時間程度）。	4時間
第4回	対面	新国家の独立と承認	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、新国家の成立の方法（いかにして国際社会の一員となるか）について復習する（3時間程度）。	4時間
第5回	対面	国家主権（国家の権利義務）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国家主権の具体的内容について理解する（3時間程度）。	4時間
第6回	対面	国家の管轄権①	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国家が管轄権を行使することを根拠づける原則について理解する（3時間程度）。	4時間
第7回	対面	国家の管轄権②（領域権限を中心に）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料に目を通し、国家がその領域において持つ権限の内容を理解する（3時間程度）。	4時間
第8回	対面	国家機関①（国家免除を中心に）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料に目を通し、国際法の基本原則である国家平等原則と主権不可侵原則について復習する（3時間程度）。	4時間
第9回	対面	国家機関②（外交関係、領事関係）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国家間関係を円滑に維持するために、国家として活動	4時間

			する個人に与えられる特別な保護について復習する（3 時間程度）。	
第 10 回	対面	条約法①（国際法をどう読むか・使うか）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、条約の成立、留保、条約の解釈について復習する（3 時間程度）。	4 時間
第 11 回	対面	条約法②（国際法をどう読むか・使うか）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、条約と第三国の関係、条約の無効・終了・運用停止について復習する（3 時間程度）。	4 時間
第 12 回	対面	国際法と国内法の関係	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料に目を通し、国際法を国内法がいかに受容するか、あるいは抵触した場合の処理について復習する（3 時間程度）。	4 時間
第 13 回	対面	国際法上の責任①（国家が果たす責任とは）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国家が国際法違反をした場合の法的責任についての考え方を把握する（3 時間程度）。	4 時間
第 14 回	対面	国際法上の責任②（国家の責任を国際的に追及する手段）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1 時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国家責任の発生要件と履行方法について把握する（3 時間程度）。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	今学期の講義総括 （定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信予定。授業前に授業内容に関する質問を募集する）	（予習）これまでの配布レジюме、資料に目を通し、教員が指定した期日までに分からない点について質問を送信する（1 時間程度）。 （復習）オンデマンド動画を視聴した上で、今学期に学習した内容全体について、テキスト、レジюме、資料を参照して復習する（3 時間程度）。	4 時間

科目名	国際法Ⅲ	開講年度	2025
担当者	松山 沙織	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代国際社会を規律する法的枠組み		
授業の目的及び概要	国際法（international law）は伝統的には国家間の関係を規律する法だが、その扱う内容は実に様々であり、今日では関与するアクターも多様となっている。本講義は国際法Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえつつ、国際法の基本構造および国際法違反が発生した場合にいかに関与するかを理解することを目的とする。専門的知識を身に着けると同時に、その知識を用いた論理的思考を習得することが狙いである。基本的には講義スタイルを採るが、講義中の質問を奨励し、講義中の講師からの問いかけに積極的に回答する姿勢が求められる。		
履修条件・留意点	国際法Ⅰや国際法Ⅱを履修済みであることが望ましいが、未履修であっても理解できる講義内容とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	試験やレポート課題を通じて、以下の事項を会得することが目標となる。 ①国際法に関する体系的理解（学説の位置づけの理解、専門用語の使用法の適切さ、理論的課題の指摘） ②法的思考能力（適切な法源の特定、法規範の根拠や理由の理解、文献や資料の効果的使用、法規範の事実関係への当てはめ） ③分析能力・論理的思考（記述の内容の正確さ、既存の知識を踏まえた論理的・多角的な検討、背景説明・問題の抽出・法的分析・個人の意見が区別されている）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中や講義外でも質問は歓迎する。また、アンケートやリアクションペーパーの配布を適宜行い、講義中にフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①国際法 第5版、中谷和弘ほか、有斐閣、2024年教科書の他に、条約集を用意する。できれば最新版（2025年版）のものを入手すること（5年以上前のものは不可）。推奨するのは下記のうちいずれか。最新版は2025年3月出版予定。 ②ベーシック条約集、薬師寺公夫ほか編、東信堂 ③国際条約集、岩沢雄司編、有斐閣	ISBN	①978-4-641-22230-4 ②・③は2025年3月出版予定のため未記載。
参考書	扱うテーマに応じて適宜案内する。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	

	その他の内容
この科目の受講にあたって	国際法Ⅰや国際法Ⅱの内容を踏まえた内容になっているため、これらの科目を履修済みであることが望ましいが、未履修であっても理解できるような講義内容とする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	導入、国際法Ⅰ/Ⅱのふりかえり	（予習）テキストの目次を通覧する。また、シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）シラバス、レジюме、ノート等に基づいて講義内容を復習する（3時間程度）	4時間
第2回	対面	個人に関する国際法①（国籍、外国人の地位）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国家とその管轄下にある個人を紐づける概念について理解する（3時間程度）。	4時間
第3回	対面	個人に関する国際法②（国際人権法）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、いかにして国際法上人権が保障されるに至ったかについて理解する（3時間程度）。	4時間
第4回	対面	個人に関する国際法（難民問題）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、難民の定義やその保護のための条約、制度について理解する（3時間程度）。	4時間
第5回	対面	武力紛争法①（武力紛争法の基本原則）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、武力紛争法の諸原則について理解する（3時間程度）。	4時間
第6回	対面	武力紛争法②（新たな形態の暴力と武力紛争法）	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、現代における武力紛争法の課題について理解する（3時間程度）。	4時間
第7回	対面	国際刑事法①	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料に目を通し、国際刑事法の歴史的展開とその特徴を理解する（3時間程度）。	4時間
第8回	対面	国際刑事法②	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。 （復習）テキスト、レジюмеおよび資料に目を通し、重大な国際犯罪（コア・クライム）を裁くために発展した国際刑事法を概観する（3時間程度）。	4時間
第9回	対面	武力行使に関する国際法	（予習）シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す（1時間程度）。	4時間

			(復習) テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、武力行使禁止原則成立に至るまでの歴史的展開について復習する (3 時間程度)。	
第 10 回	対面	軍備管理の国際法	(予習) シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す (1 時間程度)。 (復習) テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、軍備管理・軍縮交渉の道筋について復習する (3 時間程度)。	4 時間
第 11 回	対面	集団安全保障システム①	(予習) シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す (1 時間程度)。 (復習) テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国連を中心とした集団安全保障の枠組み (および集団的自衛権との違い) について復習する (3 時間程度)。	4 時間
第 12 回	対面	集団安全保障システム②	(予習) シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す (1 時間程度)。 (復習) テキスト、レジюмеおよび資料に目を通し、平和維持活動や地域機構の取り組みについて、復習する (3 時間程度)。	4 時間
第 13 回	対面	自衛権	(予習) シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す (1 時間程度)。 (復習) テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、個別的自衛権および集団的自衛権の概念や要件を理解する (3 時間程度)。	4 時間
第 14 回	対面	紛争の平和的解決	(予習) シラバス、Learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料に目を通す (1 時間程度)。 (復習) テキスト、レジюмеおよび資料を参照し、国際紛争が発生した際の裁判手続・非裁判手続について把握する (3 時間程度)。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	今学期の講義総括 (定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信予定。授業前に授業内容に関する質問を募集する)	(予習) これまでの配布レジюме、資料に目を通し、教員が指定した期日までに分からない点について質問を送信する (1 時間程度)。 (復習) オンデマンド動画を視聴した上で、今学期に学習した内容全体について、テキスト、レジюме、資料を参照して復習する (3 時間程度)。	4 時間

科目名	国際機構法	開講年度	2025
担当者	松山 沙織	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	国際社会における国際機構の活動		
授業の目的及び概要	「国際機構(International Organizations)」という名称は、ほかに「国際組織」または「国際機関」と呼ばれることがある。本科目では、今日、国際社会で活動している国連をはじめ多数の国際機構がどのように設立され、その活動がどのような法により規律されているのか、その機能と役割、これまでの発展の経緯等について学ぶ。本講義では専門的知識のみならず、幅広い観点からの柔軟な思考を育むことを目的とする。		
履修条件・留意点	国際法関係科目を履修済みあるいは同時履修すると相互理解が深まるが、それらの科目が未履修であっても理解できる授業内容とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際法の発展科目として、国際機構の形成と発展の歴史的な過程、国際機構の概念と種類について理解する。また、国家と国際機構の関係、国際機構相互の関係、国際機構の組織と活動を規律する法について理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中や講義外でも質問は歓迎する。また、アンケートやリアクションペーパーの配布を適宜行い、講義中にフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。各回のテーマに応じて参考となる書籍・資料を適宜配布あるいは紹介する。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	導入（現代国際社会におけるアクターの多様化、国際機構とは）	（予習） learning portal からダウンロードしたレジュメおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジュメ、資料およびノートを参照し、現代	4 時間

			国際社会における各アクターおよびその中における国際機構の位置づけについて復習する（3時間程度）。	
第2回	対面	国際機構による平和維持の試み①（国際機構という発想の萌芽～国際連盟の設立）	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、国際機構設立の歴史的背景について復習する（3時間程度）。	4時間
第3回	対面	国際機構による平和維持の試み②（国際連合の設立、その他の機構の役割）	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、国際連合の成立に至るまでの歴史的発展について把握する（3時間程度）。	4時間
第4回	対面	国際連合①（国連の組織構造）	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、国連憲章を概観しながら国連の目的や組織構造について把握する（3時間程度）。	4時間
第5回	対面	国際連合②（国連の機能と課題）	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、国連の機能と発展について復習する（3時間程度）。	4時間
第6回	対面	国際連合③（国連改革）	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、平和維持活動の再生を中心に国連改革の議論について理解する（3時間程度）。	4時間
第7回	対面	専門機関①（国際司法裁判所）	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、司法分野における国際機構の役割について復習する（3時間程度）。	4時間
第8回	対面	専門機関②（国際刑事裁判所）	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、司法分野における国際機構の役割、特に刑事裁判所の特殊性について復習する（3時間程度）。	4時間
第9回	対面	専門機関③（軍縮機関）	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、軍縮機関の目的や活動について、軍縮に関する国際法の規則を踏まえながら、その特徴を理解する（3時間程度）。	4時間
第10回	対面	地域的国際機構（国連との関係）	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、地域的国際機構と国連との関係や協力のあり方について復習する（3時間程度）。	4時間
第11回	対面	国際機構と加盟国	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、国際機構に加盟する国家にかかる主権の制限、代表権について復習する（3時間程度）。	4時間
第12回	対面	法主体としての国際機構	（予習）learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく（1時間程度）。 （復習）レジюме、資料およびノートを参照し、国際機構の国際・国内法的位置づけについて復習する（3時間程度）。	4時間

第13回	対面	国際機構の意思決定・運用	(予習) learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく (1 時間程度)。 (復習) レジюме、資料およびノートを参照し、国際機構における意思決定やその決議の法的効力、また国際機構の財政問題や運用上の諸問題について復習する (3 時間程度)。	4 時間
第14回	対面	国際公務員	(予習) learning portal からダウンロードしたレジюмеおよび資料を読んでおく (1 時間程度)。 (復習) レジюме、資料およびノートを参照し、国際公務員の特権免除、諸問題等について復習する (3 時間程度)。	4 時間
第15回	オンデマンド	今学期の講義総括 (定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信予定。授業前に授業内容に関する質問を募集する)	(予習) これまでの配布レジюме、資料に目を通し、教員が指定した期日までに分からない点について質問を送信する (1 時間程度)。 (復習) オンデマンド動画を視聴した上で、今学期に学習した内容全体について、テキスト、レジюме、資料を参照して復習する (3 時間程度)。	4 時間

科目名	政治過程論	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代政治の動態分析		
授業の目的及び概要	現実の政治が動いていくプロセス（政治過程）について、現代の日本が直面している政治諸課題を中心に多角的な視点から考えていくとともに、これからの社会人として必要な現代政治の基礎知識を深めていってほしいと思います。なおこの際、政治指導者（層）と大衆の力関係という視点から一貫性のある授業を行いたいと思います。		
履修条件・留意点	この授業科目は、比較政治学など他の政治系の科目と併せて履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代政治の諸課題を理解し、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時メールによる質問や意見を受付け、その都度メールにて回答や説明を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは特に使用しません。	ISBN	なし
参考書	矢部貞治『政治学入門』青空文庫（インターネット）	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業では従来の定説にとらわれない創造的な発想や意見を重視したいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・授業ガイダンス ・政治過程論とは	【予習】授業前に、本シラバスを熟読し、授業内容を確認・理解するとともに、参考書などを通じて政治に関する考え方を概観した上で、授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政治過程論とは」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間

第2回	オンデマンド	・政治的リーダーシップ	【予習】授業前に、青空文庫 HP にアクセスし、矢部貞治『政治学入門』の「三 政治と人間性」を読み、政治的リーダーシップについて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政治的リーダーシップ」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第3回	オンデマンド	・政党の定義	【予習】授業前に、青空文庫 HP にアクセスし、矢部貞治『政治学入門』の「四 政治闘争の要因及び手段と統合の態様」を読み、政党について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政党の定義」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	・日本及び各国の政党	【予習】授業前に、日本の政党のホームページにアクセスし、政党の綱領や選挙公約などを各自で調べ、その相違点などについて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「日本及び各国の政党」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	・官僚制	【予習】授業前に、人事院 HP にアクセスし、国家公務員の役割や制度の仕組みなどについて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「官僚制」に関する教材資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第6回	オンデマンド	・日本の官僚	【予習】授業前に、青空文庫 HP にアクセスし、末弘厳太郎『役人学三則』『役人の頭』を読み、官僚とは何かについて考えて下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「日本の官僚」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	・圧力団体の定義	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じ、圧力団体とは何かについて各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「圧力団体の定義」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	・メディア及び世論調査	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じてメディア及び世論とは何かについて各自で調べ、その概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「メディア、世論」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	・インターネットと政治	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じて情報社会とは何かについて各自で調べ、その概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「インターネットと政治」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	・政治意識、政治文化	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じて日本と米国の選挙活動について各自で調べ、その相違点について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政治意識、政治文化」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	・政治におけるイデオロギー	【予習】授業前に、青空文庫 HP にアクセスし、堺利彦訳『共産党宣言』を読み、イデオロギーとは何かについて考えて下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政治におけるイデオロギー」に関するレジュメを読んで復	4 時間

			習して下さい。	
第12回	オンデマンド	・政治変動（社会変動）	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じて「政治変動（社会変動）」という言葉の意味を各自で調べ、それが政治に及ぼす影響について考えてみて下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政治変動（社会変動）」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第13回	オンデマンド	・投票行動	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じて日本の投票制度を各自で調べ、その概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「投票行動」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第14回	オンデマンド	・対外政策決定過程	【予習】授業前に、高校の世界史の教科書やインターネットを通じて「キューバ危機」を各自で調べ、その概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「対外政策決定過程」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	・定期試験に向けたまとめ・復習	【予習】授業前に、これまで公開・配信された教材資料を読み、今までの授業の内容を振り返って下さい。 【復習】授業後に、上記の教材資料を参考に定期試験のテーマについて自分の考えをまとめて下さい。	4 時間

科目名	政治過程論	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代政治の動態分析		
授業の目的及び概要	現実の政治が動いていくプロセス（政治過程）について、現代の日本が直面している政治諸課題を中心に多角的な視点から考えていくとともに、これからの社会人として必要な現代政治の基礎知識を深めていってほしいと思います。なおこの際、政治指導者（層）と大衆の力関係という視点から一貫性のある授業を行いたいと思います。		
履修条件・留意点	この授業科目は、比較政治学など他の政治系の科目と併せて履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代政治の諸課題を理解し、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時メールによる質問や意見を受付け、その都度メールにて回答や説明を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは特に使用しません。	ISBN	なし
参考書	矢部貞治『政治学入門』青空文庫（インターネット）	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業では従来の定説にとらわれない創造的な発想や意見を重視したいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・授業ガイダンス ・政治過程論とは	【予習】授業前に、本シラバスを熟読し、授業内容を確認・理解するとともに、参考書などを通じて政治に関する考え方を概観した上で、授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政治過程論とは」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間

第2回	オンデマンド	・政治的リーダーシップ	【予習】授業前に、青空文庫 HP にアクセスし、矢部貞治『政治学入門』の「三 政治と人間性」を読み、政治的リーダーシップについて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政治的リーダーシップ」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第3回	オンデマンド	・政党の定義	【予習】授業前に、青空文庫 HP にアクセスし、矢部貞治『政治学入門』の「四 政治闘争の要因及び手段と統合の態様」を読み、政党について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政党の定義」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	・日本及び各国の政党	【予習】授業前に、日本の政党のホームページにアクセスし、政党の綱領や選挙公約などを各自で調べ、その相違点などについて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「日本及び各国の政党」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	・官僚制	【予習】授業前に、人事院 HP にアクセスし、国家公務員の役割や制度の仕組みなどについて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「官僚制」に関する教材資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第6回	オンデマンド	・日本の官僚	【予習】授業前に、青空文庫 HP にアクセスし、末弘厳太郎『役人学三則』『役人の頭』を読み、官僚とは何かについて考えて下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「日本の官僚」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	・圧力団体の定義	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じ、圧力団体とは何かについて各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「圧力団体の定義」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	・メディア及び世論調査	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じてメディア及び世論とは何かについて各自で調べ、その概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「メディア、世論」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	・インターネットと政治	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じて情報社会とは何かについて各自で調べ、その概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「インターネットと政治」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	・政治意識、政治文化	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じて日本と米国の選挙活動について各自で調べ、その相違点について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政治意識、政治文化」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	・政治におけるイデオロギー	【予習】授業前に、青空文庫 HP にアクセスし、堺利彦訳『共産党宣言』を読み、イデオロギーとは何かについて考えて下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政治におけるイデオロギー」に関するレジュメを読んで復	4 時間

			習して下さい。	
第12回	オンデマンド	・政治変動（社会変動）	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じて「政治変動（社会変動）」という言葉の意味を各自で調べ、それが政治に及ぼす影響について考えてみて下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「政治変動（社会変動）」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第13回	オンデマンド	・投票行動	【予習】授業前に、高校の政治経済の教科書やインターネットを通じて日本の投票制度を各自で調べ、その概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「投票行動」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第14回	オンデマンド	・対外政策決定過程	【予習】授業前に、高校の世界史の教科書やインターネットを通じて「キューバ危機」を各自で調べ、その概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「対外政策決定過程」に関するレジュメを読んで復習して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	・定期試験に向けたまとめ・復習	【予習】授業前に、これまで公開・配信された教材資料を読み、今までの授業の内容を振り返って下さい。 【復習】授業後に、上記の教材資料を参考に定期試験のテーマについて自分の考えをまとめて下さい。	4 時間

科目名	行政学	開講年度	2025
担当者	壬生 裕子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政の制度・組織・活動を理解する		
授業の目的及び概要	私たちの生活はもちろん、政治・経済・社会の分野で今日起こるさまざまな出来事は行政と密接に関係しています。 この授業では、行政国家の成立と行政学の発展について学んだのち、行政を制度・組織・活動の3つの要素でとらえて順に考察を加えながら、行政が政治・経済・社会に与える影響、政治・経済・社会が行政に与える影響を考えていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政の制度・組織・活動に関する基本的な専門知識を理解し、政治・経済・社会のさまざまな出来事と行政との関係を自ら分析できるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートの提出結果は翌週以降の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。 その他寄せられた質問も、授業中に共有します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストはとくに指定しません。	ISBN	なし
参考書	①新版 現代の行政[第2版]、森田朗、第一法規、2022年 ②行政学[新版]、真淵勝、有斐閣、2020年	ISBN	①9784474077003 ②9784641149359
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	国や地方の行政に関心のある方、ぜひ受講してみてください。 行政を理解することで、日々のニュースや社会問題を深く考察することができるようになりますよ。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	「行政学」とはどのような学問か、この授業で学ぶことと到達目標、授業の進め方、成績評価の方法・基準などのガイダンスを行います。	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください。 【復習】ガイダンス資料および講義ノートを読み直し、今後の講義の内容を確認すること。	4 時間

第2回	対面	行政国家の形成について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政国家」に目を通しておくこと。 【復習】資料「行政国家」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第3回	対面	行政学の学説がどのように展開してきたかを学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政学の発展」に目を通しておくこと。 【復習】資料「行政学の発展」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第4回	対面	行政に関する制度、とくに議院内閣制について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政制度」に目を通しておくこと。 【復習】資料「行政制度」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第5回	対面	日本における行政改革の取組について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政改革」に目を通しておくこと。 【復習】資料「行政改革」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第6回	対面	ウェーバーの官僚制や組織に関するさまざまな理論について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「官僚制と組織論」に目を通しておくこと。 【復習】資料「官僚制と組織論」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第7回	対面	日本の行政組織の特徴と、これまで取り組まれてきた改革について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「日本の行政組織」に目を通しておくこと。 【復習】資料「日本の行政組織」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第8回	対面	日本の公務員制度の現状と課題について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「日本の公務員制度」に目を通しておくこと。 【復習】資料「日本の公務員制度」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第9回	対面	日本の財政、予算・決算について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「日本の財政」に目を通しておくこと。 【復習】資料「日本の財政」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第10回	対面	政策の構造と政策過程を学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「政策の構造と政策過程」に目を通しておくこと。 【復習】資料「政策の構造と政策過程」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第11回	対面	政策過程のうち、政策立案と政策決定について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「政策立案と政策決定」に目を通しておくこと。 【復習】資料「政策立案と政策決定」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第12回	対面	政策過程のうち、政策実施と政策評価について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「政策実施と政策評価」に目を通しておくこと。 【復習】資料「政策実施と政策評価」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第13回	対面	行政をコントロールする方法について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政統制」に目を通しておくこと。 【復習】資料「行政統制」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第14回	対面	行政に関する時事問題をとりあげ、原因や改善策を考えます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「時事問題」に目を通しておくこと。 【復習】資料「時事問題」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業の内容を総括し、行政学の役割と可能性を考えます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「まとめ」に目を通しておくこと。 【復習】資料「まとめ」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間

科目名	行政学	開講年度	2025
担当者	吉川 貴代	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政の制度・組織・活動を理解する		
授業の目的及び概要	私たちの生活はもちろん、政治・経済・社会の分野で今日起こるさまざまな出来事は行政と密接に関係しています。 この授業では、行政国家の成立と行政学の発展について学んだのち、行政を制度・組織・活動の3つの要素でとらえて順に考察を加えながら、行政が政治・経済・社会に与える影響、政治・経済・社会が行政に与える影響を考えていきます。 この科目を履修することにより、日本の行政の活動の概要が理解でき、行政機関で働きたいと考えている学生には、将来自分が働く行政の仕組みを理解することができる。また、行政機関以外での就職を考えている場合も、行政が取引先になることもあるので、行政の仕組みを理解しておく、役立つ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政の制度・組織・活動に関する基本的な専門知識を理解し、政治・経済・社会のさまざまな出来事と行政との関係を自ら分析できるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートの提出結果は翌週以降の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。 その他寄せられた質問も、授業中に共有します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	①新版 現代の行政[第 2 版]、森田朗、第一法規、2022 年 ②行政学[新版]、真淵勝、有斐閣、2020 年	ISBN	①9784474077003 ②9784641149359
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	80	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国や地方の行政に関心のある方、公務員志望の方におすすめの授業です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス 「行政」とは何か。 現代国家における行政活動について学びます。	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください。(2時間) 【復習】資料および講義ノートを読み直し、今後の講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第2回	対面	行政国家の形成について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料を事前に読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第3回	対面	行政学の学説がどのように展開してきたかを学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政学の発展」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第4回	対面	日本の政府体系 中央と地方、議会と行政府などについて学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「日本の政府体系」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第5回	対面	日本の政府体系 内閣制度などについて学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「内閣と国地方関係」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第6回	対面	官僚制 ウェーバーの官僚理論などについて学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「官僚制と組織論」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第7回	対面	現代組織論を学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「現代組織論」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第8回	対面	日本の行政組織 特徴、決定の方式、行政組織の改革などを学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「日本の行政組織」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第9回	対面	人事管理と財務管理について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「日本の公務員制度」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第10回	対面	行政と情報技術について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「日本の財政」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第11回	対面	行政活動と政策について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政活動と政策」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第12回	対面	政策決定について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「政策決定」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第13回	対面	政策の執行について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「政策実施」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第14回	対面	政策評価について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「政策評価」に目を通しておくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第15回	オンデ	これまでの授業の内容を総括し、行政学の	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「まと	4時間

2025/05/01

	マンド	役割と可能性を考えます。	め」に目を通しておくこと。(2 時間) 【復習】資料トを読み直し、講義の内容を確認すること。(2 時間)	

科目名	政治思想史	開講年度	2025
担当者	川崎 修敬	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治における自由と民主主義。そのルーツおよび近代・現代にいたる変遷、それぞれの特徴的側面の歴史的検討。		
授業の目的及び概要	「政治思想史」では、市民社会と近代個人主義が台頭してきた時代の政治が中心になる。具体的には、マキャベリやホッブズ、ロック、ルソーにおける人間理解とその政治的側面が中心となる。その際、重視されるのは、政治の主体である自由で平等な個人像とその特徴、ならびに自然（本性）についての考え方である。何故ならば、それらの理論における政治や国家観に関する相違は、そこに起因するからである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	政治に対するさまざまな歴史的・思想的見方を学ぶことにより、対象についてより多面的かつ深化された政治的観察力と判断力を養う。さらにそれを踏まえたうえで、自ら考え、発言し、説明する政治的能力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生に各講義終了後に書いてもらうペーパーについて一般的講評と回答を次回講義の冒頭に行う。また希望者には個別的に解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。なお授業中に講義内容のレジュメ、プリント等を配布する。	ISBN	なし
参考書	①藤原保信著作集〈第3巻〉西洋政治理論史(上), 藤原保信, 新評論, 2005 年 ②藤原保信著作集〈第4巻〉西洋政治理論史(下), 藤原保信, 新評論, 2005 年 ③マキャヴェリアン・モーメントーフィレンツェの政治思想と大西洋圏の共和主義の伝統, J・G・A・ポーコック, 名古屋大学出版会, 2008 年 ④自我の源泉——近代的アイデンティティの形成, チャールズ・テイラー, 名古屋大学出版会, 2010 年 ⑤精神史としての政治思想史—近代的政治思想成立の認識論的基礎, 小野紀明, 行人社, 1988 年 ⑥近代政治思想の基礎——ルネッサンス、宗教改革の時代, クエンティン スキナー, 春風社, 2009 年 ⑦ハイデガーの政治哲学, 小野紀明, 岩波書店, 2010 年 ⑧野蠻と宗教 I——エドワード・ギボンの啓蒙, J・G・A・ポーコック, 名古屋大学出版会, 2021 年 ⑨野蠻と宗教 II——市民的統治の物語, J・G・A・ポーコック, 名古屋大学出版会, 2022 年 ⑩新装版ソフィーの世界(上), ヨースタイン・ゴルデル, NHK 出版, 2011 年 ⑪新装版ソフィーの世界(下), ヨースタイン・ゴルデル, NHK 出版, 2011 年	ISBN	①ISBN-13 : 978-4794806734 ②ISBN-13 : 978-4794806833 ③ISBN-13 : 978-4815805753 ④ISBN-13 : 978-4815806484 ⑤ISBN-13 : 978-4905978329 ⑥ISBN-13 : 978-4861101816 ⑦ISBN-13 : 978-4000244534 ⑧ISBN-13 : 978-4815810412 ⑨ISBN-13 : 978-4815810962 ⑩ISBN-13 : 978-414081

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	5
	成果発表（口頭・実技）	5
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	70
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	私語など講義中のマナーには、くれぐれも気をつけるように。うるさい場合には退室を命じる。なお授業を受ける前に、高校の教科書『世界史』のヨーロッパに関わる部分を復習しておくこと。具体的にいえば古代ギリシャから中世キリスト教世界、近代市民革命と産業革命までの歴史を忘れている場合、教科書の該当箇所をもう一度読んできて欲しい。また、分からない点に関しては授業終了後など質問してもらえれば、出来る限り丁寧に答えていく。学問上の質問は大歓迎である。また授業中に学生諸君の意見を求める場合には積極的に参加して欲しい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	「政治思想史」の概要、および政治思想史の一般的性質について。また授業全般についてのガイダンスと成績評価方法の詳細。	【予習】高校の教科書などで該当箇所について学んでおく（2時間程度）。 【復習】授業のガイダンスを踏まえ、さらに政治思想について問題点を再考しておく（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	ヨーロッパ近代の開始とルネッサンス期の一般的特徴	【予習】高校の教科書などで該当箇所について学んでおく（2時間程度）。 【復習】授業で言及した政治と宗教について問題点を再考しておく（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	マキャベリの政治思想(1)、権力について。『君主論』を中心に	【予習】高校の教科書などでルネッサンスについて学んでおく（1時間程度）。 【復習】『君主論』とマキャベリに関する誤解を正しく理解する（3時間程度）。	4時間
第4回	対面	マキャベリの政治思想(2)、ルネッサンスと市民的共和政の理論。『ディスコルシ、リヴィウス論』を中心に	【予習】前回の内容を踏まえつつ、授業で触れた古典古代の影響を整理しておく（2時間程度）。 【復習】権力政治と共和主義の関係を再確認する（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	絶対主義国家と市民革命、ボダンの「主権」概念と近代的秩序	【予習】高校の教科書などでフランス絶対主義国家とヨーロッパ国際秩序の成立をおさらいしておく（2時間程度）。 【復習】近代国家の成立と個人の自由について、授業のレジュメとノートで再確認する（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	社会契約論の確立(1)。ホッブズの自然状態と人間性について	【予習】高校の教科書などでホッブズとイギリス市民革命について調べておく（2時間程度）。 【復習】ホッブズの自然状態では何故必然的に争いは不可避なのか、レジュメとノートをよく見直して理解しておく（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	社会契約論の確立(2)。ホッブズの国家理論について	【予習】講義でふれた計算合理性について、レジュメやノート、もしくは参考書で調べておく（2時間程度）。 【復習】ホッブズの国家理論の近代性についてレジュメやノートをよく見直して理解する（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	社会契約論の進展(1)。ロックの国家と自然状態について	【予習】高校の教科書などで、ジョン・ロックの政治的立場を調べておく（2時間程度）。 【復習】自然状態についてロックとホッブズの共通点と相違点とレジュメやノートでしっかりおさえておく（2時間程度）。	4時間

第9回	対面	社会契約論の進展 (2)。ロックの人間理解について	【予習】ロックの自然状態において人間は、どのような性質を有するか、レジュメやノートで確認しておく (2 時間程度)。 【復習】ロックにおける人間の合理性が近代市民社会といかに適合的か、この点についてレジュメやノートでよく確認しておく (2 時間程度)。	4 時間
第10回	対面	社会契約論の進展 (3)。ロックの国家における議会と立憲政治について	【予習】高校世界史の教科書などで、名誉革命の経緯と目標を確認しておく (2 時間程度)。 【復習】ロックの国家が、ホブズとは違い議会主義的な特長を備えていく経緯をレジュメやノートなどで確認する (2 時間程度)。	4 時間
第11回	対面	社会契約論の発展 (1)。ルソーの自然状態について (補足) フランス啓蒙主義と政治性——モンテスキューを手掛かりに。	【予習】高校の教科書などでルソーや当時のフランス社会の様子を確認しておく (2 時間程度)。 【復習】ルソーの自然理解がたんなる野蛮で原始的なものではない点をレジュメやノートをよく見直して理解する (2 時間程度)。	4 時間
第12回	対面	社会契約論の発展 (2)。ルソーの人間理解について	【予習】ルソーの理解する自然状態では人間はどのように振る舞うかレジュメやノートで確認しておく (2 時間程度)。 【復習】ルソーにとって人間のあり方と合理性の関係について、レジュメとノートをよく見直して理解する (2 時間程度)。	4 時間
第13回	対面	社会契約論の発展 (3)。ルソーの国家理論と一般意志について	【予習】ルソーにおける意志についてレジュメやノートで確認しておく (1 時間程度)。 【復習】一般意志と全体意志、契約的国家と古代的都市国家、理性と計算合理性、これらの違いと問題点をレジュメやノートを見直してよく考えてみる (3 時間程度)。	4 時間
第14回	対面	社会契約論に対する史的批判と発展的解消。またイギリスの功利主義とマルクス主義の台頭	【予習】高校の教科書などでフランス革命から産業革命までを広くおさらいしておく (1 時間程度)。 【復習】社会契約論に対する批判のなかでとりわけ問題となった点をレジュメとノートを見直して確認する (3 時間程度)。	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業回 学期末の成績判定に向けて、今までの授業のおさらいと疑問点の解消。学生の個別学習に関する手引き。	【予習】今まで配布した資料をもう一度見直してみる (2 時間程度)。 【復習】授業内容のおさらいと特に強調したポイントをふまえて総復習する (2 時間程度)。	4 時間

科目名	政治思想史	開講年度	2025
担当者	川崎 修敬	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治における自由と民主主義。そのルーツおよび近代・現代にいたる変遷、それぞれの特徴的側面の歴史的検討。		
授業の目的及び概要	「政治思想史」では、市民社会と近代個人主義が台頭してきた時代の政治が中心になる。具体的には、マキャベリやホッブズ、ロック、ルソーにおける人間理解とその政治的側面が中心となる。その際、重視されるのは、政治の主体である自由で平等な個人像とその特徴、ならびに自然（本性）についての考え方である。何故ならば、それらの理論における政治や国家観に関する相違は、そこに起因するからである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	政治に対するさまざまな歴史的・思想的見方を学ぶことにより、対象についてより多面的かつ深化された政治的観察力と判断力を養う。さらにそれを踏まえたうえで、自ら考え、発言し、説明する政治的能力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生に各講義終了後に書いてもらうペーパーについて一般的講評と回答を次回講義の冒頭に行う。また希望者には個別的に解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。なお授業中に講義内容のレジュメ、プリント等を配布する。	ISBN	なし
参考書	①藤原保信著作集〈第3巻〉西洋政治理論史(上), 藤原保信, 新評論, 2005 年 ②藤原保信著作集〈第4巻〉西洋政治理論史(下), 藤原保信, 新評論, 2005 年 ③マキャヴェリアン・モーメントーフィレンツェの政治思想と大西洋圏の共和主義の伝統, J・G・A・ポーコック, 名古屋大学出版会, 2008 年 ④自我の源泉——近代的アイデンティティの形成, チャールズ・テイラー, 名古屋大学出版会, 2010 年 ⑤精神史としての政治思想史—近代的政治思想成立の認識論的基礎, 小野紀明, 行人社, 1988 年 ⑥近代政治思想の基礎——ルネッサンス、宗教改革の時代, クエンティン スキナー, 春風社, 2009 年 ⑦ハイデガーの政治哲学, 小野紀明, 岩波書店, 2010 年 ⑧野蠻と宗教Ⅰ——エドワード・ギボンの啓蒙, J・G・A・ポーコック, 名古屋大学出版会, 2021 年 ⑨野蠻と宗教Ⅱ——市民的統治の物語, J・G・A・ポーコック, 名古屋大学出版会, 2022 年 ⑩新装版ソフィーの世界(上), ヨースタイン・ゴルデル, NHK 出版, 2011 年 ⑪新装版ソフィーの世界(下), ヨースタイン・ゴルデル, NHK 出版, 2011 年	ISBN	①ISBN-13 : 978-4794806734 ②ISBN-13 : 978-4794806833 ③ISBN-13 : 978-4815805753 ④ISBN-13 : 978-4815806484 ⑤ISBN-13 : 978-4905978329 ⑥ISBN-13 : 978-4861101816 ⑦ISBN-13 : 978-4000244534 ⑧ISBN-13 : 978-4815810412 ⑨ISBN-13 : 978-4815810962 ⑩ISBN-13 : 978-414081

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	5
	成果発表（口頭・実技）	5
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	70
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	私語など講義中のマナーには、くれぐれも気をつけるように。うるさい場合には退室を命じる。なお授業を受ける前に、高校の教科書『世界史』のヨーロッパに関わる部分を復習しておくこと。具体的にいえば古代ギリシャから中世キリスト教世界、近代市民革命と産業革命までの歴史を忘れている場合、教科書の該当箇所をもう一度読んできて欲しい。また、分からない点に関しては授業終了後など質問してもらえれば、出来る限り丁寧に答えていく。学問上の質問は大歓迎である。また授業中に学生諸君の意見を求める場合には積極的に参加して欲しい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	「政治思想史」の概要、および政治思想史の一般的性質について。また授業全般についてのガイダンスと成績評価方法の詳細。	【予習】高校の教科書などで該当箇所について学んでおく（2時間程度）。 【復習】授業のガイダンスを踏まえ、さらに政治思想について問題点を再考しておく（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	ヨーロッパ近代の開始とルネッサンス期の一般的特徴	【予習】高校の教科書などで該当箇所について学んでおく（2時間程度）。 【復習】授業で言及した政治と宗教について問題点を再考しておく（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	マキャベリの政治思想(1)、権力について。『君主論』を中心に	【予習】高校の教科書などでルネッサンスについて学んでおく（1時間程度）。 【復習】『君主論』とマキャベリに関する誤解を正しく理解する（3時間程度）。	4時間
第4回	対面	マキャベリの政治思想(2)、ルネッサンスと市民的共和政の理論。『ディスコルシ、リヴィウス論』を中心に	【予習】前回の内容を踏まえつつ、授業で触れた古典古代の影響を整理しておく（2時間程度）。 【復習】権力政治と共和主義の関係を再確認する（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	絶対主義国家と市民革命、ボダンの「主権」概念と近代的秩序	【予習】高校の教科書などでフランス絶対主義国家とヨーロッパ国際秩序の成立をおさらいしておく（2時間程度）。 【復習】近代国家の成立と個人の自由について、授業のレジュメとノートで再確認する（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	社会契約論の確立(1)。ホッブズの自然状態と人間性について	【予習】高校の教科書などでホッブズとイギリス市民革命について調べておく（2時間程度）。 【復習】ホッブズの自然状態では何故必然的に争いは不可避なのか、レジュメとノートをよく見直して理解しておく（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	社会契約論の確立(2)。ホッブズの国家理論について	【予習】講義でふれた計算合理性について、レジュメやノート、もしくは参考書で調べておく（2時間程度）。 【復習】ホッブズの国家理論の近代性についてレジュメやノートをよく見直して理解する（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	社会契約論の進展(1)。ロックの国家と自然状態について	【予習】高校の教科書などで、ジョン・ロックの政治的立場を調べておく（2時間程度）。 【復習】自然状態についてロックとホッブズの共通点と相違点とレジュメやノートでしっかりおさえておく（2時間程度）。	4時間

第9回	対面	社会契約論の進展 (2)。ロックの人間理解について	【予習】ロックの自然状態において人間は、どのような性質を有するか、レジュメやノートで確認しておく (2 時間程度)。 【復習】ロックにおける人間の合理性が近代市民社会といかに適合的か、この点についてレジュメやノートでよく確認しておく (2 時間程度)。	4 時間
第10回	対面	社会契約論の進展 (3)。ロックの国家における議会と立憲政治について	【予習】高校世界史の教科書などで、名誉革命の経緯と目標を確認しておく (2 時間程度)。 【復習】ロックの国家が、ホブズとは違い議会主義的な特長を備えていく経緯をレジュメやノートなどで確認する (2 時間程度)。	4 時間
第11回	対面	社会契約論の発展 (1)。ルソーの自然状態について (補足) フランス啓蒙主義と政治性——モンテスキューを手掛かりに。	【予習】高校の教科書などでルソーや当時のフランス社会の様子を確認しておく (2 時間程度)。 【復習】ルソーの自然理解がたんなる野蛮で原始的なものではない点をレジュメやノートをよく見直して理解する (2 時間程度)。	4 時間
第12回	対面	社会契約論の発展 (2)。ルソーの人間理解について	【予習】ルソーの理解する自然状態では人間はどのように振る舞うかレジュメやノートで確認しておく (2 時間程度)。 【復習】ルソーにとって人間のあり方と合理性の関係について、レジュメとノートをよく見直して理解する (2 時間程度)。	4 時間
第13回	対面	社会契約論の発展 (3)。ルソーの国家理論と一般意志について	【予習】ルソーにおける意志についてレジュメやノートで確認しておく (1 時間程度)。 【復習】一般意志と全体意志、契約的国家と古代的都市国家、理性と計算合理性、これらの違いと問題点をレジュメやノートを見直してよく考えてみる (3 時間程度)。	4 時間
第14回	対面	社会契約論に対する史的批判と発展的解消。またイギリスの功利主義とマルクス主義の台頭	【予習】高校の教科書などでフランス革命から産業革命までを広くおさらいしておく (1 時間程度)。 【復習】社会契約論に対する批判のなかでとりわけ問題となった点をレジュメとノートを見直して確認する (3 時間程度)。	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業回 学期末の成績判定に向けて、今までの授業のおさらいと疑問点の解消。学生の個別学習に関する手引き。	【予習】今まで配布した資料をもう一度見直してみる (2 時間程度)。 【復習】授業内容のおさらいと特に強調したポイントをふまえて総復習する (2 時間程度)。	4 時間

科目名	政治学原論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	山口 治男	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治の意味と国家の役割を知る		
授業の目的及び概要	「政治とは何か」という問いは昔から繰り返されていますが、現代はその重要性が痛感される時代となってしまっています。この政治学原論では、政治の役割を改めて問い直し、そこから私たちが直面する社会の課題に向き合える知識と知性を獲得することを目指します。何か難しそうに聞こえるかもしれませんが、初めて学ぶ学生の皆さんにも、具体的な事例と政治学理論を通して、「今政治に何が起きているか分かる」ようになる講義をしていきます。		
履修条件・留意点	政治学原論Ⅰ（春学期）と政治学原論Ⅱ（秋学期）は連続した講義になりますが、それぞれどちらかだけでも受講できるように構成します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 政治学の基礎的な知識と枠組みを修得するとともに、現実の社会や政治についての基礎知識を身につける。 2. 日本や世界で今起きている事柄についての知識を広げ、自分自身の意見を持ち、論述できるようにする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付けることで、講義内容への理解を深めるとともに、関心に合わせて議論を広げられるようにしていく。また、それらを教室全体と共有・フィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない。予復習のための参考文献は、講義内容に応じて毎回の講義で指示する。	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。全体としての基礎的な参考文献としては以下を指定する。 『はじめての政治学』、佐藤史郎編、法律文化社、2021 年	ISBN	9784589041425
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	普通に暮らしている間はあまり「国家」や「政治」について考える必要はありませんが、近年の日本社会や世界は、そこまで平穏で順調なものではなくなってきています。知り、考え、発信する力を身につけ、皆さんがこれから出ていく社会で発揮できる力を身につけてもらいたいと思っています。		

興味を持ったテーマについては、その日のテーマと関連していないように思えても、積極的に質問してみてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義の概要と導入	授業後に、政治概念の一般的な定義とこの講義で扱う内容について整理し、まとめられるようにする	4時間
第2回	対面	政治における正統性と権力	権力とは何かを学術的に説明し、その実例について調べ考察を加える	4時間
第3回	対面	政策と利益	政策立案の一般的な性質についてを理解し、記述できるようにする。	4時間
第4回	対面	政治と経済	政治と経済の関連性を前回までの権力との関連で理解し、まとめられるようにする	4時間
第5回	対面	自由と自由主義	自由主義の基本的な性質について整理し考察する。	4時間
第6回	対面	社会と福祉国家	自由主義と福祉の関係について学術的・客観的に区分できるようにする	4時間
第7回	対面	国家と権力	自由権と社会権の区分を踏まえ、改めて政治・国家・権力の関係性について理解しまとめられるようにする	4時間
第8回	対面	市民社会と国家	これまでの国家権力の性質を踏まえ、市民社会の役割について知り、考察できるようにする	4時間
第9回	対面	国内政治と国際政治	国内政治と国際政治の根本的な違いについて理解し、弁別できるようにする	4時間
第10回	対面	国際関係と国家の役割	国際関係における国家にとっての最優先課題は何だとされているかを理解し、それについて考察を加えられるようにする	4時間
第11回	対面	国家の安全と政治	安全保障政策の現状と課題についての知識を深め、現代の具体的な事例で考えられるようにする	4時間
第12回	対面	国際経済と国家	国家の経済政策が国際関係においてどのように構成されるかを理解し、考察できるようにする	4時間
第13回	対面	論点の補足と発展	これまでの講義内容で自身が疑問に思った点や深めたい点について議論し、考察を深められるようにする	4時間
第14回	対面	これからの政治に向けて	これまでの講義内容全体を踏まえ、改めて政治における国家と正統性に関する理解を深め、日本の実例を通じて論理的に考察しレポートにまとめられるようにする	4時間
第15回	オンデマンド	レポートに向けた、まとめと補足	これまでの具体的事例のポイントについてまとめた上で、基礎的な政治の仕組みについての基礎を固めておく。	4時間

科目名	政治学原論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	山口 治男	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	国家による統治のプロセスを理解し、より良い政治について構想する		
授業の目的及び概要	「政治とは何か」という問いは昔から繰り返されていますが、現代はその重要性が痛感される時代となってしまっています。この政治学原論では、政治の役割を改めて問い直し、そこから私たちが直面する社会の課題に向き合える知識と知性を獲得することを目指します。何か難しそうに聞こえるかもしれませんが、初めて学ぶ学生の皆さんにも、具体的な事例と政治学理論を通して、「今政治に何が起きているか分かる」ようになる講義をしていきます。		
履修条件・留意点	政治学原論Ⅰ（春学期）と政治学原論Ⅱ（秋学期）は連続した講義になりますが、それぞれどちらかだけでも受講できるように構成します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 政治学の基礎的な知識と枠組みを修得するとともに、現実の社会や政治についての基礎知識を身につける。 2. 日本や世界で今起きている事柄についての知識を広げ、自分自身の意見を持ち、論述できるようにする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付けることで、講義内容への理解を深めるとともに、関心に合わせて議論を広げられるようにしていく。また、それらを教室全体と共有・フィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない。予復習のための参考文献は、講義内容に応じて毎回の講義で指示する。	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。全体としての基礎的な参考文献としては以下を指定する。 『はじめての政治学』、佐藤史郎編、法律文化社、2021年	ISBN	9784589041425
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	普通に暮らしている間はあまり「国家」や「政治」について考える必要はありませんが、近年の日本社会や世界は、そこまで平穏で順調なものではなくなってきています。知り、考え、発信する力を身につけ、皆さんがこれから出ていく社会で発揮できる力を身につけてもらいたいと思っています。		

興味を持ったテーマについては、その日のテーマと関連していないように思えても、積極的に質問してみてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義の概要と導入	統治プロセスと代表機能について整理し、まとめられるようにする	4時間
第2回	対面	議会の仕組み	代理の基本となる議会の仕組みについて理解し、整理できるようにする	4時間
第3回	対面	執政部の役割	議院内閣制の基本的な性質とその問題について整理し、考察を加えられるようにする	4時間
第4回	対面	官僚制と日本の政治	官僚制の必要性和意義を具体的な事例から理解し、考察を加えられるようにする	4時間
第5回	対面	国家の代表と交渉	対内的な中央地方関係、対外的な国際関係における統治の性質について整理し、まとめられるようにする	4時間
第6回	対面	統治のプロセスと政治過程	政策形成のプロセスについて理解し、考察を加えられるようにする	4時間
第7回	対面	制度と政策	統治プロセスについて事例を通して理解を深め、考察できるようにする	4時間
第8回	対面	デモクラシーとは何か	これまでの国家権力の性質を踏まえ、改めて民主主義について考察できるようにする	4時間
第9回	対面	投票と代表	具体的な事例を通して投票行動と政治の関係について整理し、考察を加えられるようにする	4時間
第10回	対面	投票行動と心理	投票行動について社会的・文化的な側面から客観的に理解し、それについて考察を加えられるようにする	4時間
第11回	対面	メディアと世論	メディアと政治の関係性について、現代の具体的な事例で考えられるようにする	4時間
第12回	対面	利益団体と政治	政治における利益団体の役割について理解し、考察できるようにする	4時間
第13回	対面	論点の補足と発展	これまでの講義内容で自身が疑問に思った点や深めたい点について議論し、考察を深められるようにする	4時間
第14回	対面	これからの政治に向けて	これまでの講義内容全体を踏まえ、改めて政治について考え直し、日本の事例を通じて論理的に考察しレポートにまとめられるようにする	4時間
第15回	オンデマンド	レポートに向けた、まとめと補足	これまでの具体的な事例のポイントについてまとめた上で、基礎的な政治の仕組みについての基礎を固めておく。	4時間

科目名	日本政治史	開講年度	2025
担当者	田中 慎吾	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日本外交史の流れを理解する		
授業の目的及び概要	本授業は日本外交の歴史的を包括的に振り返ることを目的とするものである。そのため扱う時代は広く、日本外交の発進した古代から、敗戦を経て国際社会への復帰を果たす 1950 年代までとする。		
履修条件・留意点	・ 特になし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の履修者には以下の 2 点の習得を期待したい。 1. 日本外交がどのような歴史的経緯を有するのかについて知識を獲得する。 2. 1 を踏まえて、日本外交の課題や方向性について、自らの意見を持てる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 毎回の授業についてはコメントシートを配布するので、質問や意見等を自由に記入してもらい、翌授業回に講師からのコメントを付して返却する。 ・ 中間試験については、全問解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし。必要な資料は全て配布する。	ISBN	教科書指定なし。
参考書	授業内で適宜紹介する	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ 日本史や世界史についての予備知識がある事が望ましい。 ただ、高校時代に歴史系統の未履修者でも理解出来る内容になっているので、少しでも日本の対外関係史に興味がある学生は積極的に受講をお願いしたい。 ・ また本授業は、高校時代の暗記型の歴史の授業とは大きく異なり、「なぜ」を問い、その理解を目的とする授業であるので暗記・歴史が苦手な学生も歓迎である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション	事前学習：シラバスを熟読し、授業の概要を理解した	5 時間

		・教員と受講生の自己紹介 ・授業概要の説明と目的意識のすり合わせ ・成績評価の方法と注意事項の説明	上で初回の授業に臨む。 事後学習：配布資料とシラバスを熟読し、本授業の履修の有無を真剣に検討する。	
第2回	対面	日本外交の発進；その目的と対象（古代～平安時代）	事前学習：当該授業回の日本史について、基礎的な用語や概念を高校時代の教科書やネットを利用して理解しておく。 事後学習：授業にて配布資料を改めて熟読し、分からなかった点をリスト化して次回のコメントシートに記入の準備をする。	4 時間
第3回	対面	中世幕府と日本の外交（鎌倉・室町時代）	事前学習：当該授業回の日本史について、基礎的な用語や概念を高校時代の教科書やネットを利用して理解しておく。 事後学習：授業にて配布資料を改めて熟読し、分からなかった点をリスト化して次回のコメントシートに記入の準備をする。	4 時間
第4回	対面	朝鮮征討がもたらしたもの（織豊時代）	事前学習：当該授業回の日本史について、基礎的な用語や概念を高校時代の教科書やネットを利用して理解しておく。 事後学習：授業にて配布資料を改めて熟読し、分からなかった点をリスト化して次回のコメントシートに記入の準備をする。	4 時間
第5回	対面	鎖国（江戸時代）	事前学習：当該授業回の日本史について、基礎的な用語や概念を高校時代の教科書やネットを利用して理解しておく。 事後学習：授業にて配布資料を改めて熟読し、分からなかった点をリスト化して次回のコメントシートに記入の準備をする。	4 時間
第6回	対面	鎖国と幕府の崩壊（江戸時代）	事前学習：当該授業回の日本史について、基礎的な用語や概念を高校時代の教科書やネットを利用して理解しておく。 事後学習：授業にて配布資料を改めて熟読し、翌週のテストに備える。	4 時間
第7回	対面	中間試験と解説	事前学習：配布資料を確認し、テストに備える。 事後学習：分からなかった点をリスト化して解説に備える。	4 時間
第8回	対面	明治政府の樹立と日清戦争	事前学習：解説にて聞き取るべき点を改めて確認する 事後学習：今回の解説を踏まえて、授業の前半の内容を理解する	4 時間
第9回	対面	日露戦争と朝鮮併合	事前学習：当該授業回の日本史について、基礎的な用語や概念を高校時代の教科書やネットを利用して理解しておく。 事後学習：授業にて配布資料を改めて熟読し、分からなかった点をリスト化して次回のコメントシートに記入の準備をする。	4 時間
第10回	対面	第1次世界大戦と日本	事前学習：当該授業回の日本史について、基礎的な用語や概念を高校時代の教科書やネットを利用して理解しておく。 事後学習：授業にて配布資料を改めて熟読し、分からなかった点をリスト化して次回のコメントシートに記入の準備をする。	4 時間
第11回	対面	戦間期の日本外交	事前学習：当該授業回の日本史について、基礎的な用語や概念を高校時代の教科書やネットを利用して理解しておく。 事後学習：授業にて配布資料を改めて熟読し、分からなかった点をリスト化して次回のコメントシートに	4 時間

			記入の準備をする。	
第12回	対面	満州事変と支那事変	事前学習：当該授業回の日本史について、基礎的な用語や概念を高校時代の教科書やネットを利用して理解しておく。 事後学習：授業にて配布資料を改めて熟読し、分からなかった点をリスト化して次回のコメントシートに記入の準備をする。	4 時間
第13回	対面	日米間の戦争原因とその帰結	事前学習：当該授業回の日本史について、基礎的な用語や概念を高校時代の教科書やネットを利用して理解しておく。 事後学習：授業にて配布資料を改めて熟読し、翌週のテストに備える。	4 時間
第14回	対面	敗戦と占領と講和	事前学習：ミニテストに備えこれまでの資料を読み直す。 事後学習：分からなかった点についてリスト化しておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けた授業全体の総括	事前学習：問題点を改めて予習しておく 事後学習：解説を踏まえて、定期試験において間違わないように授業の要点を理解する	5 時間

科目名	西洋政治史	開講年度	2025
担当者	山口 治男	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	世界との関わりの中でヨーロッパの政治史を理解する		
授業の目的及び概要	この講義では、現代の政治システムの基礎ともなっている西洋の政治を、歴史を辿りながら学んでいきます。絶対王政を打ち倒す市民革命はなぜ可能だったのか、そこから生まれた政治はどのようなものだったのか。そして、なぜ勝ち取られた民主主義が世界大戦へと繋がってしまったのか。世界史をあまり学んだことがない学生にも、世界史を学んできた学生にも、現代社会を理解する基礎となる知識と枠組みを提供していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	王が倒され、市民が政治を勝ち取る市民革命の歴史についての知識を固めつつ、それが逆説的に世界大戦へとつながってってしまう構造を理解する。さらにそこから、現代の世界につながる社会や政治の構造について理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付けることで、講義内容への理解を深めるとともに、関心に合わせて議論を広げられるようにしていく。また、必要・有益な情報に関しては教室全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない。	ISBN	なし
参考書	世界史の教科書や資料集は理解の前提として有用だが、より深く勉強したい学生のための参考資料を講義内で適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	歴史を学ぶことは過去を知るというだけではなく、現代をよく理解することにもつながります。特に、市民革命を学ぶことは、政治の本来の意味に立ち返るとともに、現代の社会・政治問題の理解にも結びついていきます。 知識を身につけるとともに、時事についての理解を深めていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	講義のイントロダクション	この講義の全体像について理解し、政治の変質についてまとめておくこと	4時間
第2回	対面	イギリスの発展	王政下のイギリスの発展と変化について理解し、まとめておく	4時間
第3回	対面	フランスの発展	王政下のフランスの発展と変化について理解し、まとめておく	4時間
第4回	対面	イギリスの立憲主義	イギリスで市民革命が起きた社会経済的な構造について理解し、まとめておく	4時間
第5回	対面	フランスの発展	イギリスと対比しつつ、フランスの王政下の発展について理解を深めておく	4時間
第6回	対面	フランス革命	ここまでの流れを踏まえ、なぜフランスで市民革命が起きたのかを理解しまとめておく	4時間
第7回	対面	ナポレオン時代	フランス革命の意義と、王政復古へと逆行する社会の状況を理解しまとめておく	4時間
第8回	対面	産業革命と政治	産業革命という社会経済的な大転換が政治にもたらした影響について理解しまとめておく	4時間
第9回	対面	アメリカ独立戦争	植民地の政治とその問題点について理解しまとめておく	4時間
第10回	対面	ウィーン体制の成立と崩壊	市民革命の大きな流れの中で成立したウィーン体制を市民の目線から考え理解しておく	4時間
第11回	対面	帝国主義の時代	帝国主義がなぜ勃興したのかを、市民社会の変化から考察しまとめておく	4時間
第12回	対面	「世界」分割へ	ヨーロッパの政治が世界全体へと拡散したことの功罪について考え整理しておく	4時間
第13回	対面	世界大戦とは何だったのか	市民革命の果てに起こった世界大戦を、講義全体の大きな文脈の中で理解しまとめておく	4時間
第14回	対面	西洋政治の変遷の振り返りとまとめ	レポートを作成するとともに、西洋の政治がいかに世界秩序に関わっているのかについて理解し、まとめておく	4時間
第15回	オンデマンド	レポート作成に向けたまとめと補足	ヨーロッパでの市民革命についての大きな流れを確認しつつポイントを押さえ、レポート作成への準備を進める	4時間

科目名	国際政治学	開講年度	2025
担当者	山口 治男	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	なぜ世界は平和にならないのか		
授業の目的及び概要	近年、悲惨な紛争のニュースを目にすることが増えていると感じませんか？また、日本を含む東アジアも「平和」とは言い難い状況になってきています。 「国際政治学」は世界大戦の大きな犠牲から学び、発達してきたはずですが、80 年を経た今もなぜ世界は平和にならないのでしょうか。この講義では、具体的で身近な事例から国際関係の基本を学びつつ、この世界がどうやって「平和」を目指してきたか、そしてそれがなぜ困難なのかを考察していきます。国際政治の理論はもちろんですが、現実はこの世界で起きていることへの知識も増やせるようにしていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	不可解にも見える国際関係のニュースについて、それがどのような構造の中で起きているかを理解する視点を持ち、それらに興味を持って触れられるようにする。 今現実世界で起きている重要な出来事についての知識を獲得し、それに対する自分の意見を持つ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付ける。それぞれの質問やコメントペーパー、レポート課題に対しては個別に应答や添削を行うが、必要な情報に関しては全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。 講義全体の参考文献としては次の文献を一読しておく と良いが、購読の必要はない。 『現代国際関係学：歴史・思想・理論』進藤榮一、有斐閣、2001年	ISBN	9784641059948
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日々触れる国際的なニュースは、「なんとなく大事」だと思っ ていても、実際にそれがどのような問題を持っているのか、自分にどう関係しているのかが分かりにくいものも多いです。 それらを自分の目で見、自分の頭で考えられるようにしていきましょう。関心を持ったテ		

	マについては、その日の講義のテーマと関連していないように思えても、遠慮なく積極的に質問してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	国際政治学とは何か	授業後に、国際政治学の基本的な性質について確認できるようにすること	4時間
第2回	対面	国家主権とは何か	国際政治における主権の意味について説明できるようにすること	4時間
第3回	対面	主権と領土問題	主権国家システムにおける国際問題の基本的な性質について説明できるようにすること	4時間
第4回	対面	領土問題と日本の外交	東アジアを事例に、日本を取り巻く領土問題に国際政治学からアプローチできるようにすること	4時間
第5回	対面	現実主義とは何か	国際政治学における現実主義の意味について理解を深めること	4時間
第6回	対面	現実主義と北朝鮮問題	現実主義の理論枠組みから具体的な事例について理解・考察できるようにすること	4時間
第7回	対面	理想主義とは何か	現実主義と理想主義の違いを整理し、その意義について説明できるようにすること	4時間
第8回	対面	理想主義と核拡散問題	軍縮における現実主義と理想主義の関係性を理解し、説明できるようにすること	4時間
第9回	対面	中東情勢（パレスチナ、イラン、イエメン、ISIL など）	現代の具体的な事例にこれまで学んだ枠組みを適用できるようにすること	4時間
第10回	対面	「世界平和」の外側で	現実主義的なアプローチが生み出す問題について理解し、説明できるようにすること	4時間
第11回	対面	周縁の不安定	現実主義と平和の関係について整理し、具体的な事例に適用できるようにすること	4時間
第12回	対面	テロと平和	日本の安全も脅かしているテロについて、理論的な枠組みから整理・考察できるようにすること	4時間
第13回	対面	テロとの戦い	これまでの理解を踏まえ、テロといかに戦うことができるかを自身の頭で考え述べられるようにすること	4時間
第14回	対面	現実主義を超えて	レポートへのレスポンスを踏まえ、その後も世界の中の自分たちの状況について考え続けること	4時間
第15回	オンデマンド	レポート作成に向けたまとめと補足	これまでの講義のポイントについて整理し、自身の関心があるテーマの考察に向けた準備をする	4時間

科目名	国際政治学	開講年度	2025
担当者	宮崎 寛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「世界」の政治を複眼的に読む		
授業の目的及び概要	当講義では、国際政治の舞台で繰り広げられる出来事だけでなく、その出来事の「読み方」が複数あるということを学んでいきます。つまり、この講義は「出来事」と「理論」の二つの側面からできています。 理論は眼鏡のレンズにも例えられます。色の付いたレンズをかけることは、「世界」をその色を通じて把握することになります。理論（レンズの色）の違いを知ること、国際政治の出来事がどう違って見えてくるのかを理解すること。これが本講義のねらいです。 また、こうした理論を応用しながら、普段目にする「世界のニュース」がどのように分析・解釈できるのかを自分なりに考える力を付けることも目標とします。できるだけわかりやすく説明していきますが、様々な理論を扱いますので、理解の努力が求められます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「世界」がどう見えるのか、「世界の政治の仕組み」をどう説明できるのかは視点/理論によって変わってくることを理解すること。 メディアを通じて届く情報は断片的な場合がほとんどです。その断片を組み合わせながら、また多角的に吟味しながら「読む」ことができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎週リアクションペーパーを書いてもらいますが、そのリアクションペーパーには毎回こちらからのコメントを書き込んで返却します。 期末試験については試験後に「模範解答」をラーニングポータルにアップします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定テキストは特にありません。教材はこちらで用意します。	ISBN	特にありません。
参考書	①国際関係論入門：思考の作法、初瀬龍平編著、法律文化社、2012 ②グローバル・コモンズのための国際関係論、森彰夫、彩流社、2020 ③新版 国際関係論へのファーストステップ、中村都、法律文化社、2017 ④批判的安全保障論：アプローチとイシューを理解する、南山淳・前田幸男編、2022	ISBN	①9784589034250 ②9784779126840 ③9784589038524 ④9784589041814
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（%）	0	

	その他の内容
この科目の受講にあたって	現在問題になっている国際政治・国際社会に関する事柄に、自分の生活に結び付けて強い関心を持つよう心掛けてください。 この授業では、「何を知る・知っている」かではなく、自分の頭で「どう考えるか」を大切にします。ニュースや政治的出来事について、マスメディアの情報を鵜呑みにするのではなく自分で批判的に分析する力をつけましょう。 「恥ずかしい質問」は存在しません。授業内容に関して分からないことや気になることがあれば、どんどん質問してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要の説明 「国際」と「世界」	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。清水耕介（2003）『テキスト国際政治経済学：多様な視点から「世界」を読む』京都：ミネルヴァ書房、第1章（特に pp2-8）。「多様な意見を認めることが重要：若者に新聞は向き合っているか」『朝日新聞』2016.8.23.	2 時間
第2回	対面	伝統的アプローチ1：リアリズム（現実主義）	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。 山田高敬・大矢根聡編（2011）『グローバル社会の国際関係論 新版』東京：有斐閣、第1章。 初瀬龍平編著（2012）『国際関係論入門：思考の作法』京都：法律文化社、第10章の「1 はじめに」と「2 パワー・ポリティクスの世界」。 授業で配布したレジュメおよびパワーポイント	4 時間
第3回	対面	国家とナショナリズム	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。塩川伸明（2008）『民族とネイション：ナリズムという難題』東京：岩波書店（岩波新書）、第1章。授業で配布したレジュメおよびパワーポイント	4 時間
第4回	対面	安全保障とは何か：伝統的アプローチとその課題	以下の資料を読む（復習する）こと。 遠藤乾（2014）「第1章 安全保障論の転回」遠藤誠治・遠藤乾編『安全保障とは何か』東京：岩波書店。 更に理解を深めるために： 初瀬龍平編著（2012）『国際関係論入門：思考の作法』京都：法律文化社、第10章。 森彰夫（2020）『グローバル・コモンズのための国際関係論』第2章。	4 時間
第5回	対面	核兵器、核不拡散レジームとその弱点	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。秋山信将（2015）『NPT：核のグローバル・ガバナンス』東京：岩波書店、第1章。 初瀬龍平編著（2012）『国際関係論入門：思考の作法』京都：法律文化社、第10章の「5 核戦略」。	4 時間
第6回	対面	伝統的なアプローチ2：リベラリズム	授業で配布したレジュメ、パワーポイント、補足資料を復習すること。	4 時間
第7回	対面	グローバル政治経済と経済格差	授業で配布したレジュメ、パワーポイント、補足資料を復習すること。 ※資料は Learning Portal にアップします。 小澤卓也（2010）『コーヒーのグローバル・ヒストリー：赤いダイヤか、黒い悪魔か』京都：ミネルヴァ書房、序章&第1章。 更に理解をふかめるために： 初瀬龍平編著（2012）『国際関係論入門：思考の作法』京都：法律文化社、第3章。	4 時間

第8回	対面	グローバル金融経済の問題、構造調整政策	授業で配布したレジュメ、パワーポイント、および以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。 戸田真紀子（2015）『5 グローバリゼーションとアフリカの人々の暮らし：構造調整政策の影響を中心に』初瀬・松田編『人間存在の国際関係論：グローバル化の中で考える』東京：法政大学出版局。 森彰夫（2020）『グローバル・コモンズのための国際関係論』第7章。	4 時間
第9回	対面	新しいアプローチ1：ポスト構造主義：支配されている本人がそう認識していない時こそ、支配は成功する	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。清水耕介（2003）『テキスト国際政治経済学：多様な視点から「世界」を読む』京都：ミネルヴァ書房、第3章。 授業で配布したレジュメおよびパワーポイント 更に理解を深めるために： 南山淳・前田幸男編（2022）『批判的安全保障論：アプローチとイシューを理解する』京都：法律文化社、第1章、2章。	4 時間
第10回	対面	セキュリティゼーション：統治としてのセキュリティ問題	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。伊勢崎賢治（2015）『本当の戦争の話をしよう：世界の「対立」を仕切る』東京：朝日出版社、第2章。 授業で配布したレジュメおよびパワーポイント。 更に理解を深めるために： 南山淳・前田幸男編（2022）『批判的安全保障論：アプローチとイシューを理解する』京都：法律文化社、第3章。	4 時間
第11回	対面	国際政治におけるジェンダー：Where are women? から Private is Political へ	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。池尾靖志編著（2009）『平和学をつくる』京都：晃洋書房。 授業で配布したレジュメおよびパワーポイント。	4 時間
第12回	対面	新しいアプローチ2：ポストコロニアリズム：「君はまだ未熟だから、僕が代わりに君のことを説明してあげるよ」	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。 森彰夫（2017）『インクルーシブ国際社会論』東京：彩流社、第5章（できれば6章も）。 更に理解を深めるために： 南山淳・前田幸男編（2022）『批判的安全保障論：アプローチとイシューを理解する』京都：法律文化社、第4章。	4 時間
第13回	対面	国際開発援助：エンパワーメントか？新たな植民地化か？	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。東海大学教養学部国際学科編（2013）『国際学のすすめ：グローバル時代を生きる人のために 第4版』東海大学出版会、第4章。授業で配布したレジュメおよびパワーポイント 更に理解を深めるために： 森彰夫（2020）『グローバル・コモンズのための国際関係論』第8章。	4 時間
第14回	対面	グローバル市民社会論：トランスナショナルな公共圏は可能か？	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。清水耕介（2003）『テキスト国際政治経済学：多様な視点から「世界」を読む』京都：ミネルヴァ書房、第12章。 授業で配布したレジュメおよびパワーポイント。 更に理解を深めるために： 初瀬龍平編著（2012）『国際関係論入門：思考の作法』京都：法律文化社、第19章。	4 時間
第15回	オンデ	これまでの総括：「世界」観を問い直す	期末試験に向けた学習：これまでのレジュメおよび	6 時間

2025/05/01

	マンド		パワーポイント、補足資料。	

科目名	国際関係史	開講年度	2025
担当者	伍 躍	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	これからの国際情勢を考える手掛かりとして		
授業の目的及び概要	ロシア・ウクライナ紛争、パレスチナ問題をはじめとする今日の国際社会が抱える諸問題は、いずれにおいても過去にその原因を求めることができます。つまり歴史とは現在と過去との対話と言われるように、私たちが直面する課題を解決する手掛かりとなります。このことを踏まえ、授業では今日の国際政治の枠組みが形成されたウェストファリア体制以降の国際関係の歴史を振り返り、それぞれの時代が現代といかに深く結びついているかということを理解するとともに、現代の国際問題を解決するための手掛かりを探っていきたいと思います。なおこの際、政治指導者（層）と大衆の力関係という視点から一貫性のある授業を行いたいと思います。		
履修条件・留意点	この授業科目は、政治系科目であり、国際政治学と併せて履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	自由、平等、民主主義などの価値原理を基礎とする、法学を中心とする高度な専門知識を体系的に理解している。そのほか、現代社会の諸課題を理解し、法的知識・技能をもとにして、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけるとともに、論理的な法的思考力と豊かな表現力とともに、情報、数理、英語等の汎用的技能を修得し、社会科学を中心とした幅広い教養を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントペーパーを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にテキストは使用しません。	ISBN	－
参考書	①『国際政治史・主権国家体系のあゆみ』、小川浩之ほか、有斐閣、2020 ②『国際関係史・16 世紀から 1945 年まで』、有賀貞、東京大学出版会、2024 ③『現代国際関係史・1945 年から 21 世紀初頭まで』、有賀貞、東京大学出版会、2019	ISBN	①978-4-641-15052-2 ②978-4-13-032213-3 ③978-4-13-032228-7
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業では従来の定説にとらわれない創造的な発想や意見を重視したいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス ・国際関係史（近代以降の諸外国の外交関係史）を学ぶ目的 ・国際関係史の学び方 ・概念確認：国家体系・国際社会・グローバリゼーション・ポピュリズム	【予習】授業前に、本シラバスをよく読んで、授業の内容を確認・理解するとともに、近代以降の世界史を概観した上で授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、参考書①序章（なぜ国際政治史を学ぶのか）と講義の配布資料を読んで、講義の要点を整理する。	4時間
第2回	対面	近代主権国家体系の生成：ウェストファリア条約の意義	【予習】授業前に、参考書①第1章（近代主権国家体系の生成）や高校の世界史教科書やインターネットを通じ、ウェストファリア体制について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第3回	対面	帝国主義の時代・ウィーン体制からビスマルク体制まで	【予習】授業前に、参考書①第2章（勢力均衡とナショナリズム）・第3章（帝国主義時代）やインターネットを通じ、産業革命について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第4回	対面	2度の世界大戦（1）：第一次世界大戦の衝撃	【予習】授業前に、参考書①第4章（第一次世界大戦の襲撃）やインターネットを通じ、帝国主義について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第5回	対面	2度の世界大戦（2）：第1次世界大戦後の国際秩序	【予習】授業前に、参考書①第5章（第一次世界大戦後の国際秩序）やインターネットを通じ、第1次世界大戦とロシア革命について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第6回	対面	2度の世界大戦（3）：国際秩序の崩壊	【予習】授業前に、参考書①第6章（国際秩序の崩壊）やインターネットを通じ、第二次世界大戦について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第7回	対面	冷戦時代（1）：冷戦の起源と分断体制の形成	【予習】授業前に、参考書第7章（冷戦の起源と分断体制の形成）・第8章（グローバル化する冷戦）やインターネットを通じ、冷戦および核兵器について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第8回	対面	冷戦時代（2）：冷戦体制の変容	【予習】授業前に、参考書①第9章（冷戦体制の変容）やインターネットを通じ、ベトナム戦争やデタントについて各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第9回	対面	冷戦時代（3）：冷戦終結への道	【予習】授業前に、参考書①第10章（冷戦終結への道）やインターネットを通じ、ヨーロッパ・東アジアの変化について各自で調べて予習して下さい。	4時間

			【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	
第10回	対面	主権国家体系を超えて（1）：湾岸戦争とソ連解体	【予習】授業前に、参考書①第11章（湾岸戦争とソ連解体）やインターネットを通じ、湾岸戦争やソ連解体について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第11回	対面	主権国家体系を超えて（2）：EUの誕生と深化・拡大	【予習】授業前に、参考書①第12章（EUの誕生と深化・拡大）やインターネットを通じ、欧州統合の課題について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第12回	対面	主権国家体系を超えて（3）：冷戦後の地域紛争・民族紛争	【予習】授業前に、参考書①第13章（冷戦後の地域紛争・民族紛争）やインターネットを通じ、ユーゴスラヴィアの解体・ルワンダの惨劇について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	主権国家体系を超えて（4）：新興国の台頭	【予習】授業前に、参考書①第14章（新興国の台頭）やインターネットを通じ、中国・インドなどの発展について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第14回	対面	主権国家体系を超えて（5）：21世紀の国際政治	【予習】授業前に、参考書①第15章（21世紀の国際政治）やインターネットを通じ、イラク戦争・アフガニスタン戦争・ウクライナ紛争について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けたまとめ・復習	【予習】授業前に、これまで配布された教材資料を読み、今までの授業の内容を振り返って下さい。 【復習】授業後に、上記の教材資料を参考に定期試験のテーマについて自分の考えをまとめて下さい。	4 時間

科目名	国際関係史	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	これからの国際情勢を考える手掛かりとして		
授業の目的及び概要	今日の国際社会が抱える諸問題は、いずれにおいても過去にその原因を求めることができます。つまり歴史とは現在と過去との対話と言われるように、私たちが直面する課題を解決する手掛かりとなります。このことを踏まえ、授業ではウェストファリア体制以降の国際関係の歴史及び幕末・明治以降の日本外交の歴史を振り返り、それぞれの時代が現代といかに深く結びついているかということを理解するとともに、現代の国際社会と日本が直面する諸問題を解決するための手掛かりを探っていきたいと思います。また、それらの歴史を踏まえて、皆さんが、これからの日本を含む国際関係の将来を見通すことができる力を身に付け、一人の国際人として国内外で活躍することを期待します。		
履修条件・留意点	この授業科目は、比較政治学など他の政治系の科目と併せて履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本と世界が直面している国際関係及び外交上の諸課題を、歴史という視点から自ら考察することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントペーパーを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にテキストは使用しません。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業では従来の定説にとらわれない創造的な発想や意見を重視したいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス ・国際関係史及び日本外交史を学ぶ目的 ・国際関係史及び日本外交史の学び方	【予習】授業前に、本シラバスをよく読んで、授業の内容を確認・理解するとともに、近代以降の世界史や日本史を概観した上で授業に参加して下さい。	4 時間

			【復習】授業後に、次回の授業テーマであるウェストファリア体制について、インターネット等を通じて予習して下さい。	
第2回	対面	国際関係史①－ウェストファリア体制と現代	【予習】授業前に、高校の世界史教科書やインターネットを通じ、ウェストファリア体制について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	国際関係史②－産業革命と現代	【予習】授業前に、高校の世界史教科書やインターネットを通じ、産業革命や共産主義思想について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	国際関係史③－帝国主義と現代	【予習】授業前に、高校の世界史教科書やインターネットを通じ、帝国主義について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	国際関係史④－二つの世界大戦と現代	【予習】授業前に、高校の世界史教科書やインターネットを通じ、第1次世界大戦とロシア革命、ファシズム・ナチズム・コミニズムについて各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	国際関係史⑤－米ソ冷戦と現代	【予習】授業前に、高校の世界史教科書やインターネットを通じ、冷戦やキューバ危機・朝鮮戦争・ベトナム戦争について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	国際関係史⑥－第二次大戦後の中東情勢と現代	【予習】授業前に、高校の世界史教科書やインターネットを通じ、中東戦争及びイラン革命について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	国際関係史⑦－冷戦後の世界と現代	【予習】授業前に、高校の世界史教科書やインターネットを通じ、情報革命、対テロ戦争、大国間競争の時代について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	日本外交史①－幕末・明治期の外交と現代	【予習】授業前に、高校の日本史教科書やインターネットを通じ、幕末・明治時代の政治・外交について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第10回	対面	日本外交史②－大正期の外交と現代	【予習】授業前に、高校の日本史教科書やインターネットを通じ、大正時代の政治・外交について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について	4 時間

			て各自で調べる等復習して下さい。	
第11回	対面	日本外交史③－昭和戦前・戦中期の外交と現代	【予習】授業前に、高校の日本史教科書やインターネットを通じ、昭和戦前・戦中期の政治・外交について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第12回	対面	日本外交史④－占領期及び独立後の外交と現代	【予習】授業前に、高校の日本史教科書やインターネットを通じ、占領期及び独立後の日本の政治・外交について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第13回	対面	日本外交史⑤－経済成長期の外交と現代	【予習】授業前に、高校の日本史教科書やインターネットを通じ、経済成長期の日本の政治・外交について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第14回	対面	日本外交史⑥－冷戦後の外交と現代	【予習】授業前に、高校の日本史教科書やインターネットを通じ、湾岸戦争・対テロ戦争以後の日本の政治・外交について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された教材資料を読み、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けたまとめ・復習	【予習】授業前に、これまで配布された教材資料を読み、今までの授業の内容を振り返って下さい。 【復習】授業後に、上記の教材資料を参考に定期試験のテーマについて自分の考えをまとめて下さい。	4時間

科目名	政治制度論	開講年度	2025
担当者	伍 躍	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治制度の変遷とその諸類型		
授業の目的及び概要	政治制度は人類の誕生、すなわち人類の集団生活の始まりから存在している。それは、人間の集団生活には秩序の設定と維持や、集団生活を営むための相互作用の実践が必要であることの帰結とすることができる。社会規範の設定に関する制度やその実践としての行為は広い意味で政治である。人類が経験したさまざまな政治制度の特徴を理解することで現代日本の政治制度の特徴も理解できるようになる。本講義では、政治学の基礎概念に基づいて、執政制度・選挙制度・政党制度・行政制度など変遷（たとえば、君主制から現代の議会制民主主義への進化）と構成要素（たとえば、政党の成立要件）について分かり易く説明していく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①政治学の基礎概念を再確認したうえ、民主主義の諸相および自由民主主義体制の基本構造を把握することができる。 ②現代社会における政党制度、選挙制度、圧力団体、行政制度、地方自治制度の様態と活動実態を理解し、それらについて自分の見解を持てるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを適宜書いてもらい、授業改善に役立てる。小テストは採点し、返却時に解説する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しない。授業の前では用意したレジメをラーニングポータルにアップして配布し、授業の後では授業中使用したスライド資料をラーニングポータルにアップして配布する。	ISBN	なし
参考書	①砂原庸介ほか『政治学への第一歩』（新版）、有斐閣、2020 年 ②西山隆行ほか『図録政治学』、弘文堂、2023 年	ISBN	①9784641150782 ②9784335359415
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	制度論は一見退屈そうに見えるが、身近な事例に留意していれば、きっと面白くなるはずである。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義の概要・到達目標・講義方法についてのガイダンスを行う。この回の後半で、政治文化や政治意識についても概説する。	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。できればポイントを自分で整理しておくこと。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	6時間
第2回	対面	人類と政治：国家、政治と行政	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に人類文明の変遷と近代以前の各時代における国家の特質。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第3回	対面	政治学基礎概念の（再）確認：権力、主権、支配と服従、イデオロギー、体制、リーダーシップ	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に近代国家の本質と役割。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第4回	対面	民主主義制度の諸相：その原点と変遷、古代アテナイの民主制、市民社会と大衆社会の民主主義	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第5回	対面	自由民主主義体制Ⅰ：「自由」と「民主」の相克と調和	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に民主主義の起源とその変化を理解すること。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第6回	対面	自由民主主義体制Ⅱ：権力分立とその制度設計	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に「人民のための政治なのか」、それとも「政治家のための政治なのか」について理解すること。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第7回	対面	自由民主主義体制Ⅲ：権力分立とその制度設計、立法機関内部の権力分立、司法機関の独立性	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に自由民主主義の基本概念。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第8回	対面	選挙制度Ⅰ：政治的競争の対立軸、選挙制度、投票行動	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に各体制の特徴のところ。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第9回	対面	選挙制度Ⅱ：選挙に関する法制度、投票参加	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。とくに選挙制度の類型は完全にマスターしておくこと。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第10回	対面	政党制度Ⅰ：政党の定義、政党の役割と類型	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。日本の選挙の実態を踏まえながら投票行動を考えること。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第11回	対面	政党制度Ⅱ：政党のシステム、「オポジション」	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に政党の類型。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第12回	対面	圧力団体：圧力団体の定義とその類型、圧力団体の影響力と機能	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に主要国の政党と政党システム。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第13回	対面	行政・官僚制の理論と官僚制：行政・官僚制の理論とその展開、国家公務員	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に圧力団体の機能について。講義内容をレジュ	4時間

			メに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	
第14回	対面	連邦制と地方制度：単一制国家と連邦制国家、地方自治制度	授業後に今回配付のレジメを読み直しておくこと。特に平成以降の変化について。講義内容をレジメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第15回	オンデマンド	第1回から第14回までのポイントを整理・解説し、基礎知識が身についているか確認します。	総復習です。今まで習った概念を整理して、期末試験の復習をしましょう。 ※講義の進捗状況や学生の理解度を把握しながら、上記の授業計画を微調整する可能性がある。	6 時間

科目名	政治制度論	開講年度	2025
担当者	伍 躍	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治制度の変遷とその諸類型		
授業の目的及び概要	政治制度は人類の誕生、すなわち人類の集団生活の始まりから存在している。それは、人間の集団生活には秩序の設定と維持や、集団生活を営むための相互作用の実践が必要であることの帰結とすることができる。社会規範の設定に関する制度やその実践としての行為は広い意味で政治である。人類が経験したさまざまな政治制度の特徴を理解することで現代日本の政治制度の特徴も理解できるようになる。本講義では、政治学の基礎概念に基づいて、執政制度・選挙制度・政党制度・行政制度など変遷（たとえば、君主制から現代の議会制民主主義への進化）と構成要素（たとえば、政党の成立要件）について分かり易く説明していく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①政治学の基礎概念を再確認したうえ、民主主義の諸相および自由民主主義体制の基本構造を把握することができる。 ②現代社会における政党制度、選挙制度、圧力団体、行政制度、地方自治制度の様態と活動実態を理解し、それらについて自分の見解を持てるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを適宜書いてもらい、授業改善に役立てる。小テストは採点し、返却時に解説する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しない。授業の前では用意したレジメをラーニングポータルにアップして配布し、授業の後では授業中使用したスライド資料をラーニングポータルにアップして配布する。	ISBN	なし
参考書	①砂原庸介ほか『政治学への第一歩』（新版）、有斐閣、2020 年 ②西山隆行ほか『図録政治学』、弘文堂、2023 年	ISBN	①9784641150782 ②9784335359415
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	制度論は一見退屈そうに見えるが、身近な事例に留意していれば、きっと面白くなるはずである。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義の概要・到達目標・講義方法についてのガイダンスを行う。この回の後半で、政治文化や政治意識についても概説する。	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。できればポイントを自分で整理しておくこと。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	6時間
第2回	対面	人類と政治：国家、政治と行政	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に人類文明の変遷と近代以前の各時代における国家の特質。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第3回	対面	政治学基礎概念の（再）確認：権力、主権、支配と服従、イデオロギー、体制、リーダーシップ	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に近代国家の本質と役割。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第4回	対面	民主主義制度の諸相：その原点と変遷、古代アテナイの民主制、市民社会と大衆社会の民主主義	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第5回	対面	自由民主主義体制Ⅰ：「自由」と「民主」の相克と調和	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に民主主義の起源とその変化を理解すること。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第6回	対面	自由民主主義体制Ⅱ：権力分立とその制度設計	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に「人民のための政治なのか」、それとも「政治家のための政治なのか」について理解すること。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第7回	対面	自由民主主義体制Ⅲ：権力分立とその制度設計、立法機関内部の権力分立、司法機関の独立性	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に自由民主主義の基本概念。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第8回	対面	選挙制度Ⅰ：政治的競争の対立軸、選挙制度、投票行動	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に各体制の特徴のところ。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第9回	対面	選挙制度Ⅱ：選挙に関する法制度、投票参加	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。とくに選挙制度の類型は完全にマスターしておくこと。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第10回	対面	政党制度Ⅰ：政党の定義、政党の役割と類型	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。日本の選挙の実態を踏まえながら投票行動を考えること。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第11回	対面	政党制度Ⅱ：政党のシステム、「オポジション」	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に政党の類型。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第12回	対面	圧力団体：圧力団体の定義とその類型、圧力団体の影響力と機能	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に主要国の政党と政党システム。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4時間
第13回	対面	行政・官僚制の理論と官僚制：行政・官僚制の理論とその展開、国家公務員	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に圧力団体の機能について。講義内容をレジュ	4時間

			メに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	
第14回	対面	連邦制と地方制度：単一制国家と連邦制国家、地方自治制度	授業後に今回配付のレジメを読み直しておくこと。特に平成以降の変化について。講義内容をレジメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第15回	オンデマンド	第1回から第14回までのポイントを整理・解説し、基礎知識が身についているか確認します。	総復習です。今まで習った概念を整理して、期末試験の復習をしましょう。 ※講義の進捗状況や学生の理解度を把握しながら、上記の授業計画を微調整する可能性がある。	6 時間

科目名	比較政治学	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	これからの日本の政治と外交を考える手掛かりとして		
授業の目的及び概要	明治の日本は、今後の国の進むべき方向を探るため、欧米諸国に使節団を派遣し、その成果を後の政治や外交に活かしました。そして、今また世界は混沌としたポスト真実の時代に入り、日本も進むべき方向を模索しています。このような中で、世界の主な国々の政治や外交（大統領によるリーダーシップ重視型あるいは議会における合意重視型など）を学ぶことは、明日の日本を考える手掛かりとなることでしょう。そして、これから国際社会と関わっていくこととなる皆さんが、一人の国際人として成長し、国際社会と関わっていくための新たな視野を持つことでしょう。		
履修条件・留意点	この授業科目は、政治過程論など他の政治系の科目と併せて履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代の国際社会における諸課題に積極的に取り組む市民として、他者と協調・協働できる能力を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時メールによる質問や意見を受付け、その都度メールにて回答や説明を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にテキストはありません。	ISBN	—
参考書	国会図書館刊行物『レファレンス』『外国の立法』など（インターネットで検索して下さい。）	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業では従来の定説にとらわれない創造的な発想や意見を重視したいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・授業ガイダンス ・アメリカの歴史と風土 ・アメリカの政治と経済のしくみ	【予習】授業前に、本シラバスを熟読・理解するとともに、外務省や JETRO のホームページを通じて世界の国々の概況を理解した上で授業に参加して下さい。また、アメリカン・センターの HP にアクセスし、	4 時間

			「米国の歴史・政治・憲法」の概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、次回の授業のテーマ（アメリカの風土と歴史など）に関する予習を各自で行って下さい。また、授業で公開・配信された「アメリカの歴史と風土など」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	
第2回	オンデマンド	アメリカの外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～米国」及び防衛省 HP の『防衛白書～米国の国防政策』を読み、米国の外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「アメリカの外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第3回	オンデマンド	・ロシアの歴史と風土 ・ロシアの政治と経済のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～ロシア」にアクセスし、ロシアの政治・経済の概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「ロシアの歴史と風土など」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	ロシアの外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～ロシア」及び防衛省 HP の『防衛白書～ロシアの国防政策』を読み、ロシアの外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「ロシアの外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	・中国の歴史と風土 ・中国の政治と経済のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～中国」にアクセスし、中国の政治・経済の概要について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「中国の歴史と風土など」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第6回	オンデマンド	中国の外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～中国」及び防衛省 HP の『防衛白書～中国の国防政策』を読み、中国の外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「中国の外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	イギリスの政治・経済と外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～英国」を閲覧し、英国の政治・経済及び外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「イギリスの政治・経済と外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	フランスの政治・経済と外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～フランス」を閲覧し、フランスの政治・経済及び外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「フランスの政治・経済と外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	ドイツの政治・経済と外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～ドイツ」を閲覧し、ドイツの政治・経済及び外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「ドイツの政治・経済と外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第10回	オンデ	EU の政治・経済と外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～欧州連	4 時間

	マンド		合」及び防衛省 HP の『防衛白書～EU・NATO 関連部分』を読み、EU の政治・経済及び外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「EU の政治・経済と外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	
第 1 1 回	オンデマンド	中東・南アジア諸国の政治と外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～中東・南アジア諸国」及び防衛省 HP の『防衛白書～中東・南アジア地域』を読み、中東・南アジア諸国の政治・経済及び外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「中東・南アジア諸国の政治・経済と外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第 1 2 回	オンデマンド	アフリカ諸国の政治・経済と外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～アフリカ諸国」及び防衛省 HP の『版防衛白書～アフリカ関連部分』を読み、アフリカ諸国の政治・経済及び外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「アフリカ諸国の政治・経済と外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第 1 3 回	オンデマンド	アセアン諸国の政治・経済と外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～アセアン」及び防衛省 HP の『防衛白書～東南アジア関連部分』を読み、アセアン諸国の政治・経済及び外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「アセアン諸国の政治・経済と外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第 1 4 回	オンデマンド	オセアニア諸国の政治・経済と外交・防衛のしくみ	【予習】授業前に、外務省 HP の「国・地域～オセアニア」及び防衛省 HP の『防衛白書～豪州関連部分』を読み、アセアン諸国の政治・経済及び外交・安全保障について予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で公開・配信された「オセアニア諸国の政治・経済と外交・防衛のしくみ」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	定期試験に向けたまとめ・復習	【予習】授業前に、これまで公開・配信された教材資料を読み、今までの授業の内容を振り返って下さい。 【復習】授業後に、上記の教材資料を参考に定期試験のテーマについて自分の考えをまとめて下さい。	4 時間

科目名	地方自治論	開講年度	2025
担当者	伍 躍	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地方自治のあり方を主体的に考える		
授業の目的及び概要	この授業は公務員コースの推奨科目であり、地方自治体の役割、首長と地方議会の機能や、関連する税財制、入管行政について学修する。特に近年、新型コロナのパンデミック、各地で起こる地震、台風被害また、東京一極集中、少子高齢化と人口減少の波は、地方自治のあり方に大きな影響を与えている。 この授業を通じて、身近な地方自治体の抱える課題と解決策を検討することで、将来の行政系公務員を目指す学生のキャリア形成、市民の自治意識の向上に寄与する。ゲスト講師は、大阪府、大阪市、入管行政や地方議員の活動に精通した方々であり、行政系公務員として能力や地方自治を主体的に考える力を身につけることができる。		
履修条件・留意点	特にないが、公務員コースの学生が積極的に履修するように強く推薦します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1、本授業を通じ、住民自治の基本を学び、陳情、要望、住民参加、選挙など市民としての意思表示について理解することができる。 2、地方自治体を取り巻く課題について課題解決の小論文を書く力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1、アンケート機能での質問やコメントについてフィードバックを行う。 2、小テストについて、担当講師から毎回解説を行い知識の定着を図る。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない	ISBN	なし
参考書	①『地方自治論〔新版〕 2つの自律性のはざままで』北村 亘 有斐閣 2024 年 ②『大阪都構想の対案』西脇邦雄 晃洋書房 2019 年 ③『これからの地方自治の教科書』大森彌 大杉 覚 第一法規 2019 年 ④『地方自治講義』伊藤修一郎 東京大学出版会 2024 年	ISBN	①978-4-641-15121-5 ②978-4-771-03138-8 ③978-4-474-07699-0 ④978-4-13-032237-9
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「政治学入門」（日本の政治）、3～4 年次「地域共生論」、公務員特別演習と合わせて受講し、問題意識を発展させてほしい。 時事問題に注意を払い、様々な社会問題に対して興味関心を持ちながら、授業に臨んでもらい		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の趣旨説明 暮らしに身近な地方自治体の活動 担当：伍 躍	予習：シラバスを読むこと、また日本国憲法の国会、内閣、地方自治の各章を読むこと（2時間） 復習：住民になる意味、相談サービス、生活インフラ、防災などに関する資料を復習すること（2時間）	4 時間
第2回	対面	地方自治の仕組み：住民戸籍相談サービス 子育て保険年金防災 担当：伍 躍（[ゲストスピーカーによる講演：金谷一郎]）	予習：シラバスを読むこと、日本国憲法の国会、内閣、地方自治について読み、地方自治の本旨について、どのような見解があるか調べること（2時間）。 復習：住民になる意味、相談サービス、生活インフラ、防災について自身の居住する地方自治体の web サイトを見て調べること（2時間）。	4 時間
第3回	対面	八尾市及び八尾市議会の見学 担当：伍 躍	予習：八尾市の HP から八尾市の特性、総合計画について、市議会の仕組みや広報について調べて学習すること（2時間）。 復習：八尾市の概要説明を読みなおし、特に総合計画の項目で関心ある分野について復習すること（2時間）。	4 時間
第4回	対面	多様な住民と地方自治体：大阪市の多文化共生の取り組みを踏まえて実践的な授業 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：金谷一郎）	予習：総務省や大阪市の web から多文化共生社会の指針について調べる（2時間） 復習：教材から多様な住民の存在、コミュニティのあり方など多文化共生社会の課題を理解する（2時間）	4 時間
第5回	対面	地域防災の課題：自助助共助 ＊平成 29 年大阪市の防災計画についての小論文テスト 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：金谷一郎）	予習：大阪市地域防災計画＜共通編・対策編＞（令和 5 年 4 月）を読んで、その概要を把握すること（2時間）。 復習：ゲストの教材から大阪市の防災の課題について理解すること（2時間）。	4 時間
第6回	対面	税務行政について：日本の税制、地方税の仕組み 担当：伍 躍	予習：所得税、法人税、日本の税制について財務省 HP を見て調べること（2時間）。 復習：日本の税制、特に地方税の仕組みについての資料を読むこと（2時間）。	4 時間
第7回	対面	入国管理行政について：空港での入国審査、税関、検疫など入国管理行政の実際についてゲスト講師が授業を行う。 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：吉田秀治）	予習：法務省の入国管理行政の HP を見て基本的な制度を理解すること（2時間）。 復習：教材で3つの Q について復習し、入国管理行政の役割を理解すること（2時間）。	4 時間
第8回	対面	地方自治の仕組み：廃藩置県からの我が国の地方自治の歴史を概観し、府県の役割と市町村、広域自治体と基礎自治体の違い、特に広域行政の役割について 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：岩田教之）	予習：地方自治法第 11 章国と地方の関係、第 12 章大都市に関する特例の項目を読むこと（2時間）。 復習：地方自治の仕組みについて教材資料を読むこと（2時間）。	4 時間
第9回	対面	地方財政の仕組みと課題：地方交付税など地方自治体の財政制度について 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：岩田教之）	予習：地方自治法第 9 章財政章を読むこと（2時間）。 復習：地方財政の仕組みの資料を読むこと（2時間）。	4 時間
第10回	対面	人口減少社会と地方自治体の課題：人口減少社会の現状と地方創生や少子化対策の課題について 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：岩田教之）	予習：総務省 HP から第 33 次地方制度調査会の資料を読み課題について考えること（2時間）。 復習：人口減少社会の教材資料を読むこと（2時間）。	4 時間
第11回	対面	地方議員の実際の活動：議会と行政の関係、住民の声が反映される仕組みについて 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演）	予習：地方自治法第 6 章議会、第 7 章執行機関、第 2 章住民を調べること（2時間）。 復習：地方議員の苦労や実際の活動について理解し	4 時間

		演：堀口和弘)	住民の声を届ける仕組みについて資料を読むこと（2時間）。	
第12回	対面	地方自治の論点1：人口減少と再開発まちおこし、足による投票、シティリミッツ論 2024 年大学共通テスト「公共」第5 問関係人口 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：西脇邦雄）	予習：足による投票やシティリミッツ論の項目を検索し論点や歴史を調べること（2時間）。 復習：資料を読み地方自治の仕組みをめぐる論点について基本的な理解を得ること（2時間）。	4 時間
第13回	対面	地方自治の論点2：二元代表（首長と議会）、アメリカ独立と憲法制定の過程で導入された代議制、首長と議会が違う民意で選ばれる二元代表（2024 年兵庫県知事選挙を例に） 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：西脇邦雄）	予習：総務省 web から二元代表、地方分権改革の項目を検索し論点や歴史を調べること（2時間）。 復習：資料を読み地方自治の仕組みをめぐる論点について基本的な理解を得ること（2時間）。	4 時間
第14回	対面	地方自治の論点3：コモンズと自治、水道・道路・橋・学校など生活インフラの老朽化が問題となり将来も維持できるかの瀬戸ぎわにある。水道民営化と共有財産としての公共財のあり方を考える。 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：西脇邦雄）	予習：総務省 web から水道、下水道、ゴミ処理などの項目を検索し論点や歴史を調べること（2時間）。 復習：資料を読み地方自治の仕組みをめぐる論点について基本的な理解を得ること（2時間）。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの振り返りと定期試験の範囲 担当：伍 躍	復習：これまで配布した資料を読んで復習して定期試験に向けて準備すること（4時間程度）。 ＊以上の授業計画は受講生の理解度を配慮し必要に応じて、オンデマンド授業の実施時期を含めて微調整を行う可能性はある。	4 時間

科目名	英書講読Ⅰ	開講年度	2025
担当者	吉川 真理子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	アメリカやイギリスにおける興味深い判例を英語で学んでみよう		
授業の目的及び概要	この授業では、アメリカやイギリスにおける興味深い判例を大学生が理解できるような比較的、分かり易い英語で読み解いていきます。学生の皆さんはこれらの判例を知る事で、その国の司法判断の拠り所を学ぶ事が出来ます。また裁判について学ぶことを通して、実際にそこに暮らす人々の歴史や文化の積み重ねを理解していきます。今までに学んできた単語が法律英語として使用されると、その意味が大きく変わる事があります。既存の語彙知識も活用しながら司法英語の語彙や表現を学びましょう。また授業では、リーディングだけではなく、リスニングも行い、英語を聞き取る能力をつけることが出来ます。ペア/グループワークの活動も取り入れ、学修内容の理解度を上げていきます。		
履修条件・留意点	「英語の能力」よりも、「英語を学びたい」と思う気持ち強い人には是非受講して頂きたい科目です。時間をかけて丁寧に授業が進められますので、英語を忘れかけている学生さんでも、やる気があれば大丈夫です。一緒に勉強していきましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて、学生は以下の事が出来るようになります。 （１）法律に関する基礎的な語彙や表現を英語で理解できる。 （２）アメリカとイギリスの判例を英語で読み、その法体系や、その背景にある歴史や文化的側面を知る。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フィードバックは授業時間内で適宜行います。また、グループで行う様々なワークから、その理解の深さについて授業内で講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト：Legal Minds15 Journeys in Law, Author: Shinichiro Torikai, Masayuki Tamaruya, Bett Cumming, 2014, 金星堂	ISBN	9784764739840
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業には、間違いを恐れずに積極的に参加して下さい。イギリスやアメリカで実際に行われた裁判の本物の訴状や召喚状、上訴趣意書等から一部を抜粋したものを英語で読み解いていきます。授業では、様々な法律に関する語彙や表現を基礎的なものから体系立てじっくりと学んでいきます。学生の皆さんは、しっかりと予習をして授業に臨んでください。授業では、積極的		

にペア/グループワークを取り入れ、クラス全体で学修内容の理解度を上げていきます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業に関するガイダンス（教材、評価、授業の進め方について等） *注意：この科目では、受講生の理解度に応じて授業を進めるため、授業計画を変更することがあります。 テキスト Case 1 “Shouldn’ t be That Hot” 「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 Overview of the Complaint：グループワークで訴状を読み解き、原告・被告の主張を考え、また、自分が被害者であったらどうするか、またその理由を話し合う。 Reading: Plaintiff’s Storyでケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習 Case 1 “Shouldn’ t be That Hot” 「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」のSide B StoryとLet’s Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第2回	対面	Case 1 “Shouldn’ t be That Hot” 「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」のSide B StoryとLet’s Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習 テキスト Case 2 “Damage for a Five-Day Delay” 『「知らなかった」ではすみされない？！配達遅れで被った損害への支払い』の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第3回	対面	テキスト Case 2 “Damage for a Five-Day Delay” 『「知らなかった」ではすみされない？！配達遅れで被った損害への支払い』 Overview of the Complaint：グループワークで訴状を読み解き、原告・被告がどのような契約を結んだか、原告の訴えはどのようなものか、自分が陪審員だったらどう判断するか、またその理由を話し合う。 Reading: Plaintiff’s Storyでケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習 テキスト Case 2 “Damage for a Five-Day Delay” 『「知らなかった」ではすみされない？！配達遅れで被った損害への支払い』のSide B StoryとLet’s Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第4回	対面	Case 2 “Damage for a Five-Day Delay” 『「知らなかった」ではすみされない？！配達遅れで被った損害への支払い』のSide B StoryとLet’s Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習 テキスト Case 3 “A Brand New Car (Well, Almost)” 「高すぎる勉強代？顧客がBMWに求めた一罰百戒」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習 授業内容を振り返り、確認する。	4 時間
第5回	対面	Case 3 “A Brand New Car (Well, Almost)” 「高すぎる勉強代？顧客がBMWに求めた一罰百戒」 Overview of the Complaint：グループワークで訴状を読み解き、原告の訴えに対して被告がどのような様に反論しているか、塗	①予習 Case 3 “A Brand New Car (Well, Almost)” 「高すぎる勉強代？顧客がBMWに求めた一罰百戒」のSide B StoryとLet’s Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間

		装をしておいた車が新車と言えるか、またその理由を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。		
第6回	対面	Case 3 “A Brand New Car (Well, Almost)” の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習 中間レビュークイズ (Case 1- Case 3) に向けた学修を行う。 ②復習 授業内容を振り返り確認する	4 時間
第7回	対面	中間レビュークイズ	①予習 テキスト Case 5 “Dangerous Driving” 「スピード違反のドライバーと警察のカーチェイスが生んだ悲劇」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習 中間レビュークイズを振り返り理解度を確認する。	4 時間
第8回	対面	Case 5 “Dangerous Driving” 「スピード違反のドライバーと警察のカーチェイスが生んだ悲劇」 Overview of the Complaint: グループワークで原告の訴えを理解する。また警察の停止命令に従わなかった原告と、強制的に停止させた警察と、どちらが悪いと思うか、追跡している車を停止させるにはどのような方法が取られるべきか等について話し合う。 Reading: Plaintiff's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習 Case 5 “Dangerous Driving” 「スピード違反のドライバーと警察のカーチェイスが生んだ悲劇」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第9回	対面	Case 5 “Dangerous Driving” 「スピード違反のドライバーと警察のカーチェイスが生んだ悲劇」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習 Case 6 “I won't Tell You My Source” 「CIA 工作員の身元暴露事件—国家機密漏えいと報道の自由」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第10回	対面	Case 6 “I won't Tell You My Source” 「CIA 工作員の身元暴露事件—国家機密漏えいと報道の自由」 Overview of the Complaint : グループワークで、訴追されているのは誰なのか、召喚されているのはどのような人達なのか、またどのような情報を裁判所が提出を求めているか等を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習 Case 6 “I won't Tell You My Source” 「CIA 工作員の身元暴露事件—国家機密漏えいと報道の自由」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第11回	対面	Case 6 “I won't Tell You My Source” 「CIA 工作員の身元暴露事件—国家機密漏えいと報道の自由」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワ	①予習 Case 7 “A Fair Trail? Choosing the Jury” 「なぜこんなことに? 陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間

		ークを通じて申立人と被申立人のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。		
第12回	対面	Case 7 “A Fair Trail? Choosing the Jury” 「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 Overview of the Appellate Brief: 上诉人による書面を読み、裁判の内容、焦点となっているポイント、陪審員の性別が裁判当事者に影響があるか等を話し合う。 Reading: Defendant's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習 Case 7 “A Fair Trail? Choosing the Jury” 「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第13回	対面	Case 7 “A Fair Trail? Choosing the Jury” 「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて上诉人と被上诉人のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習 期末レビュークイズ (Case 5 - Case 7) に向けた学修を行う。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第14回	対面	期末レビュークイズ	① 予習 学期中に学修した内容を振り返り質問等を纏める。 ② 復習 期末レビュー試験を振り返り、理解度を確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめと授業の総括	①予授 授業全体を振り返り、疑問点などを整理する。 ②復習 全体について復習をする。	4 時間

科目名	英書講読Ⅱ	開講年度	2025
担当者	吉川 真理子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	アメリカやイギリスにおける興味深い判例を英語で学んでみよう		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期に引き続き、アメリカやイギリスにおける興味深い判例を大学生が理解できるような比較的、分かり易い英語で読み解いていきます。学生の皆さんはこれらの判例を知る事で、その国の司法判断の拠り所を学ぶ事が出来ます。また裁判について学ぶことを通して、実際にそこに暮らす人々の歴史や文化の積み重ねを理解していきます。今までに学んできた単語が法律英語として使用されると、その意味が大きく変わる事があります。既存の語彙知識も活用しながら司法英語の語彙や表現を学びましょう。また授業では、リーディングだけではなく、リスニングも行い、英語を聞き取る能力をつけることが出来ます。ペア/グループワークの活動も取り入れ、学修内容の理解度を上げていきます。		
履修条件・留意点	「英語の能力」よりも、「英語を学びたい」と思う気持ちが強い人に是非受講して頂きたい科目です。時間をかけて丁寧に授業が進められますので、英語を忘れかけている学生さんでも、やる気があれば大丈夫です。一緒に勉強していきましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて、学生は以下の事が出来るようになります。 （１）法律に関する基礎的な語彙や表現を英語で理解できる。 （２）アメリカとイギリスの判例を英語で読み、その法体系や、その背景にある歴史や文化的側面を知る。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フィードバックは授業時間内で適宜行います。また、グループで行う様々なワークから、その理解の深さについて授業内で講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト：Legal Minds15 Journeys in Law, Author: Shinichiro Torikai, Masayuki Tamaruya, Bett Cumming, 2014, 金星堂	ISBN	9784764739840
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業では、間違いを恐れずに積極的に参加して下さい。イギリスやアメリカで実際に行われた裁判の本物の訴状や召喚状、上訴趣意書等から一部を抜粋したものを英語で読み解いていきます。授業では、様々な法律に関する語彙や表現を基礎的なものから体系立てじっくりと学んでいきます。学生の皆さんは、しっかりと予習をして授業に臨んでください。授業では、積極的		

にペア/グループワークを取り入れ、クラス全体で学修内容の理解度を上げていきます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業に関するガイダンス（教材、評価、授業の進め方について等） *注意：この科目では、受講生の理解度に応じて授業を進めるため、授業計画を変更することがあります。 Case9 Made the U.S. My Home 「戦時中の強制収容所と闘った日系アメリカ人アルフレッド・コマツ」 Overview of the Complaint: グループワークで起訴状を読み解き、原告がどのような訴えをしているのか、被告の国の政府ならどのような主張をしようか、戦時中において、政府は両親が敵国出身の自国民をどう扱うべきか等を話しあう。 Reading: Defendant's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習 Case9 Made the U.S. My Home 「戦時中の強制収容所と闘った日系アメリカ人アルフレッド・コマツ」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第2回	対面	Case9 Made the U.S. My Home 「戦時中の強制収容と闘った日系アメリカ人アルフレッド・コマツ」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	① 予習 Case10 Separate and Not Equal 「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ② 復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第3回	対面	Case10 Separate and Not Equal 「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」 Overview of the Complaint: グループワークで起訴状を読み解き、原告が何を理由に訴えを起こしたのか、原告が人種差別を受けていると言えるのはなぜか、1951 年当時の米国の状況を考え、裁判所がどのような判断を下すべきか等を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習 Case10 Separate and Not Equal 「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第4回	対面	①予習 Case10 Separate and Not Equal 「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習 授業内容を振り返り確認する。	①予習 Case 11 Reversed Discrimination 「白人だから不合格！？ 人種是正措置と大学入学制度」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第5回	対面	Case11 Reversed Discrimination 「白人だから不合格！？ 人種是正措置と大学入学制度」 Overview of the Complaint: グループワークで起訴状を読み解き、原告がどのような訴えをしたのか、大学院の入試でマイノ	① 予習 Case11 Reversed Discrimination 「白人だから不合格！？ 人種是正措置と大学入学制度」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間

		リティを優遇する事についてどう思うか、どの様な基準で入学者を選抜すれば良いのか等を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。		
第6回	対面	Case11 Reversed Discrimination 「白人だから不合格!? 人種是正措置と大学入学制度」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	① 予習 中間レビュークイズ (Case 9- Case11) のための学修に取り組む。 ② 復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第7回	対面	中間レビュークイズ (Case 9- Case11)	①予習 Case12 Season's Greetings: Tradition or Violation? 「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習 中間レビュークイズの内容を振り返り理解度を確認する。	4 時間
第8回	対面	Case 12 Season's Greetings: Tradition or Violation? 「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」 Overview of the Complaint: グループワークで訴状を読み解き、原告がどのような訴えを起しているか、クリスマス飾りのどこが問題なのか、いわゆる「祭り」や伝統行事に、地方自治体はどう関われば良いのか、またその理由等を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story: ケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	① 予習 Case12 Season's Greetings: Tradition or Violation? 「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第9回	対面	Case 12 Season's Greetings: Tradition or Violation? 「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	① Case 13 Stop Copying Our Products! 「Apple 対 samsung一特許を侵害したのはどちらの企業か」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ② 復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第10回	対面	Case 13 Stop Copying Our Products! 「Apple 対 samsung一特許を侵害したのはどちらの企業か」 Overview of the Complaint: グループワークで訴状を読み解き、原告がどのような訴えを起しているのか、どちらの企業が何を訴えているのか、またその理由等を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story: ケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	Case 13 Stop Copying Our Products! 「Apple 対 samsung一特許を侵害したのはどちらの企業か」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第11回	対面	Case 13 Stop Copying Our Products! 「Apple 対 samsung一特許を侵害したのはどちらの企業か」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認	①予習 Case15 A Gift on Foreign Soil 「ナイジェリアでの丸紅の活動。なぜかアメリカ司法省に摘発される」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間

		し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。		
第12回	対面	Case15 A Gift on Foreign Soil 「ナイジェリアでの丸紅の活動。なぜかアメリカ司法省に摘発される」 Overview the Complaint: グループワークで訴状を読み解き、原告はどのような訴えを起こしているのか、丸紅の何が問題とされているのか話し合う。 Reading: Plaintiff's Story: ケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う	① 予習 Case15 A Gift on Foreign Soil 「ナイジェリアでの丸紅の活動。なぜかアメリカ司法省に摘発される」のSide B StoryとLet's Hear What happened の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第13回	対面	予習 Case15 A Gift on Foreign Soil 「ナイジェリアでの丸紅の活動。なぜかアメリカ司法省に摘発される」のSide B StoryとLet's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習 期末レビュークイズ (Case 12, 13, 15)の学修に取り組む。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第14回	対面	期末レビュークイズ (Case 12, 13, 15)	① 予習 学期中に学修した内容を振り返り質問等を纏める。 ②復習 期末レビュー試験を振り返り理解度を確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめと授業の総括	①予授 業全体を振り返り疑問点などを整理する。 ②復習 全体について復習をする。	4 時間

科目名	法律実務の基礎	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代社会における法律知識の活かし方		
授業の目的及び概要	法学部では、さまざまな法律知識を学修する。本科目では、現代社会において、それらの法律知識を活用する方法を学ぶ。 法曹志望者だけでなく、社会人となってから、法律の専門的知識を職業活動（企業法務など）に活かそうとする学生にとっても意義のある内容とする。 本科目は、法科大学院における実務系科目の内容に触れ、これを先取りする内容を含む。 担当教員は、2012 年 12 月から 2022 年 3 月まで弁護士を本業としてきた。そのため、本科目の内容は、主に弁護士の観点からのものとなるが、他の法律専門職等の観点にも適宜言及する。 授業の形式については、双方向・多方向型を基本としつつ、適宜、講義形式も併用する。 受講生の学修状況に応じて、各回の授業計画の順序・内容等を変更する場合がある。		
履修条件・留意点	債権各論（特に契約法・不法行為法）・家族法・刑事訴訟法について、ひと通りの法律知識を有していることを前提とする（現代社会における法的紛争を解決するためには、これらの法分野の知識が、ほとんど必要不可欠である）。 4 年生を含め、高学年生の受講も歓迎する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	法学部で修得した法律知識を、現代社会にて活用する方法を理解している。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向型・多方向型のやりとりにより、受講生の理解と考察を深める。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	指定しない。
参考書	①企業法務のための民事訴訟の実務解説（第3版），圓道至剛，第一法規，2022 年 ②実戦 民事訴訟の実務（第6版），升田純，民事法研究会，2023 年 ③刑事弁護ビギナーズ（ver. 2.1），季刊刑事弁護増刊，現代人文社，2019 年 ④弁護士倫理のチェックポイント，高中正彦ほか，弘文堂，2023 年 ⑤民事裁判実務の基礎・刑事裁判実務の基礎，渡辺弘ほか，有斐閣，2014 年	ISBN	①9784474078765 ②9784865565270 ③9784877987206 ④9784335313929 ⑤9784641125704
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	

	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	毎回、受講生が事前検討課題を予習していることを前提として、担当教員が事前検討課題について受講生に質問し、解答を求める。 事前検討課題に解答するためには、債権各論（特に契約法・不法行為法）・家族法・刑事訴訟法について、ひとつおりの法律知識を有している必要がある。 本科目は、法律知識の修得ではなく、その活用に重点を置く。そのため、法律知識を修得する目的には不向きである。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	事前検討課題（Learning Portalに掲載予定。以下同じ）の予習	4時間
第2回	対面	家事1 夫婦と離婚をめぐる法的紛争1	事前検討課題の予習	4時間
第3回	対面	家事2 夫婦と離婚をめぐる法的紛争2	事前検討課題の予習	4時間
第4回	対面	家事3 子どもをめぐる法的紛争	事前検討課題の予習	4時間
第5回	対面	家事4 高齢者・障害者をめぐる法的紛争1	事前検討課題の予習	4時間
第6回	対面	民事法・家事1 高齢者・障害者をめぐる法的紛争2	事前検討課題の予習	4時間
第7回	対面	民事法・家事2 不動産取引に関する法的紛争1	事前検討課題の予習	4時間
第8回	対面	民事法・家事3 不動産取引に関する法的紛争2	事前検討課題の予習	4時間
第9回	対面	民事法・家事4 債権債務をめぐる法的紛争	事前検討課題の予習	4時間
第10回	対面	刑事法1 被疑者段階の法律問題1	事前検討課題の予習	4時間
第11回	対面	刑事法2 被疑者段階の法律問題2	事前検討課題の予習	4時間
第12回	対面	刑事法3 被告人段階の法律問題1	事前検討課題の予習	4時間
第13回	対面	刑事法4 被告人段階の法律問題2	事前検討課題の予習	4時間
第14回	対面	公法 憲法に関する法律問題	事前検討課題の予習	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	4時間

科目名	子ども法	開講年度	2025
担当者	森 征樹	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	子どもをめぐる法と社会		
授業の目的及び概要	成人年齢の 18 歳への引き下げにともなって、成年と未成年との区別、そこでの取り扱いの違いなどが大きな関心をよんだことは記憶に新しい。子ども（未成年）は大人（成年）とどこが同じで、どこが違うのか。同じなのに違って扱っているのか、あるいは違っているのに同じように扱っているのか。子どもは発達途上といわれるが、その発達段階はどう考えたらいいのか。このような子どもの特性に合わせた制度はどうなっているのか。このことを法制度の面から、法は子どもとどのように向き合うべきなのかを考える。 一般的な法のあるべき形を検討した後、子どもが生活する空間をいくつかに分類しながら個別の法がどのようなになっているのかを見ていく。		
履修条件・留意点	「子ども」に関するニュースを、普段から新聞やウェブサイトなどで追いかける癖をつけておくこと。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	子どもを成長発達段階の中に位置づけ、子どもの保護と自立・自律という観点から現行の法制度を批判的に見ることができるところを目標にしている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義終了後には毎回コメントカードを提出してもらい、その中で質問等も受けつける。コメントカードを翌週の講義で紹介し、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	丹羽徹（編）『子どもと法』法律文化社、2016 年。	ISBN	9784589037862
参考書	テキストの各章末に記載されているものを参照。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	だれでもが通過してきた子ども期である。あらためて振り返るとともに「子ども」とは何であるかを今一度考え直してみしてほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	講義の進め方、最終試験及びレポート課題、単位認定について	レポートなどの詳細についてはこの時間に話すので、必ず出席すること。テキストを準備し、一通り目	4 時間

			を通しておくこと（2時間程度）。 授業後に、授業で配布したレジュメおよびテキストに目を通し、自分の関心のあるテーマを決めておくこと（2時間程度）。	
第2回	対面	『子どもと法』における「子ども」とは誰なのか	テキストの第1部 第2章を事前に読んでおくこと（2時間程度）。 授業後に、テキスト20頁の図を見て、各種法令における子ども・若者の年齢区分を頭に入れておくこと（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	子どもが犯罪をしたら手続きはどうなるのか	テキスト第4部 第12章を事前に読んでおくこと（2時間程度）。 授業後に、少年法の概要について復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	少年法はどうあるべきなのか	テキスト第4部 第13章を事前に読んでおくこと（2時間程度）。 授業後、少年法改正は「厳罰化」なのか「適正化」なのかを自分で調べてみる。また、少年法の対象年齢引き下げ問題について調べる（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	学校は何のためにあるのか	テキスト第3部 第8章を事前に読んでおくこと（2時間程度）。 授業後に、日本の学校教育制度が、どのような法に依っているのか、まとめておくこと（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	子どもにとって教育が権利であるとはどういう意味なのか	テキスト第3部 第9章を事前に読んでおくこと（2時間程度）。 授業後に、「教育を受ける権利」について復習すること（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	いじめや体罰に遭ったら学校は守ってくれるのか①	テキスト第3部 第11章の1～3を事前に読んでおくこと（2時間程度）。 授業後に、いじめをなくすためにどうしたらよいか自分の考えをまとめておくこと（2時間程度）。	4時間
第8回	オンデマンド	中間レポート課題の説明 いじめや体罰に遭ったら学校は守ってくれるのか②	テキスト第3部 第11章の4～7を事前に読んでおくこと（2時間程度）。 授業後に、「体罰」の概念と「体罰」の是非について、自分の意見をまとめておくこと（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	現代の日本でも「子どもの貧困」はあるのか	テキスト第4部 第14章を事前に読んでおくこと（2時間程度）。 授業後に、日本と世界の「子どもの貧困率」を調べ、まとめておくこと（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	子どもの人権と憲法のかかわりはどうなっているか①	テキスト第1部 第1章を事前に読んでおくこと（2時間程度）。 授業後に、配布したプリントの内容をしっかりと把握しておくこと（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	子どもの人権と憲法のかかわりはどうなっているか②	子ども保護論・子ども自律論について、事前に調べておくこと（2時間程度）。 子どもの自律を促すためには、どのような法や政策が必要か、自分の考えをまとめておくこと（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	子どもの人権と憲法のかかわりはどうなっているか③	子どもを保護する法令を、事前に調べてくること（2時間程度）。 授業後に、大阪府青少年健全育成条例の内容についての自分の意見をまとめておくこと（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	親権の範囲はどこまで及ぶのか	テキスト第2部 第6章を事前に読んでおくこと（2時間程度）。 授業後に、親権争いに関する訴訟について調べてみる（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	子どもを育てるためにどんな福祉制度が使えるのか	テキスト第2部 第7章を事前に読んでおくこと（2時間程度）。	4時間

			授業後に、配布したプリントの各制度を復習しておくこと（2時間程度）。	
第15回	対面	まとめ	事前に、講義で扱ったテキストの箇所を、今一度読み返し、理解できていないところなどを洗い出しておくこと（2時間程度）。 授業後に、これまでやった内容のうち、理解の浅い箇所を復習しておくこと（4時間程度）。	6時間

科目名	ジェンダー法	開講年度	2025
担当者	小宮山 直子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	ジェンダー法学の基礎		
授業の目的及び概要	ジェンダー法では、歴史的な視点を含めてジェンダー法学の基礎を学びます。授業前半の一部は、西洋社会における女性の地位・権利をめぐる歴史について、西洋法史・ジェンダー法学の視点から考察します。特にフランス革命以降の女性の法的地位をめぐる動向について取り上げます。また、注目すべき女性たちの生涯や女性にかかわる事件・事項について、具体的なイメージがわくようにパワーポイントも利用しながら講義します。次に、前半の西洋女性史からの学習を踏まえて、現代日本の家族・労働(雇用)・暴力、社会保障等にかかわる諸問題をジェンダー法学の視点から考察します。日本における女性の地位・権利が戦後日本国憲法の成立以降、どこまで進展してきたかを検討します。		
履修条件・留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ジェンダー法について基礎的な知識を習得し、さらに現代法に潜むジェンダーに関わる諸問題を考察する基礎力を身につけることを目標とします。 この授業を通して学生には、西洋の前近代から近代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できることが期待されます。さらに、ジェンダー法学の視点を通して学んだ知識を、現代日本における法的諸問題の考察に反映できるようになることも期待されます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 適宜配布資料を用います。	ISBN	なし
参考書	①はじめての西洋ジェンダー史、弓削尚子、山川出版社、2021 年 ②ジェンダー法学入門(第3版)、三成美保他編著、法律文化社、2019 年 ③レクチャージェンダー法(第2版)、犬伏由子他編著、法律文化社、2021 年 ④法制史入門、岩村等・三成堅次・三成美保編、ナカニシヤ出版、2000 年	ISBN	①9784634640955 ②9784589040152 ③9784589041524 ④9784888483155
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28	
	成果発表(口頭・実技)	0	
	中間試験	17	
	【定期試験】レポート試験	55	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス： ジェンダー法学とはなにか ジェンダーをめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第2回	対面	フランス革命と女性： 人権宣言とグージュの女権宣言	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第3回	対面	フランス民法典（1804年）と女性： フランス民法典の中の女性（特に妻の法的地位） 19世紀近代市民社会と女性（フランスを中心に）	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第4回	対面	20世紀・女性の法的地位向上を目指して： 20世紀前半：女性参政権獲得をめぐる動向（フランス）	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第5回	対面	女性差別撤廃条約とそのインパクト	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第6回	対面	家族をめぐる問題（1）： 戦前の民法・家族法の特徴、 戦後における家族法改革	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第7回	対面	家族をめぐる問題（2）： 婚姻・離婚をめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第8回	対面	家族をめぐる問題（3）： 親子をめぐる諸問題 中間復習問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第9回	対面	女性と暴力： 家庭内における暴力、他	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第10回	対面	労働をめぐる諸問題（1）： 戦後の労働法制改革から男女雇用機会均等法成立まで	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第11回	対面	労働をめぐる諸問題（2）： 均等法後の労働をめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第12回	対面	身体をめぐる諸問題： 20世紀後半における第2次フェミニズム運動	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間

第13回	対面	社会保障をめぐる諸問題：	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第14回	対面	男女共同参画社会：	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体のまとめと復習	これまでのレジュメ・資料・年表などを見直して、全体の流れを把握した上で、重要事項をもう一度確認する。さらに各回の重要テーマを自分の言葉で論じられるように整理する。	5 時間

科目名	ジェンダー法	開講年度	2025
担当者	小宮山 直子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	ジェンダー法学の基礎		
授業の目的及び概要	ジェンダー法では、歴史的な視点を含めてジェンダー法学の基礎を学びます。授業前半の一部は、西洋社会における女性の地位・権利をめぐる歴史について、西洋法史・ジェンダー法学の視点から考察します。特にフランス革命以降の女性の法的地位をめぐる動向について取り上げます。また、注目すべき女性たちの生涯や女性にかかわる事件・事項について、具体的なイメージがわくようにパワーポイントも利用しながら講義します。次に、前半の西洋女性史からの学習を踏まえて、現代日本の家族・労働(雇用)・暴力、社会保障等にかかわる諸問題をジェンダー法学の視点から考察します。日本における女性の地位・権利が戦後日本国憲法の成立以降、どこまで進展してきたかを検討します。		
履修条件・留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ジェンダー法について基礎的な知識を習得し、さらに現代法に潜むジェンダーに関わる諸問題を考察する基礎力を身につけることを目標とします。 この授業を通して学生には、西洋の前近代から近代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できることが期待されます。さらに、ジェンダー法学の視点を通して学んだ知識を、現代日本における法的諸問題の考察に反映できるようになることも期待されます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 適宜配布資料を用います。	ISBN	なし
参考書	①はじめての西洋ジェンダー史、弓削尚子、山川出版社、2021 年 ②ジェンダー法学入門(第3版)、三成美保他編著、法律文化社、2019 年 ③レクチャージェンダー法(第2版)、犬伏由子他編著、法律文化社、2021 年 ④法制史入門、岩村等・三成堅次・三成美保編、ナカニシヤ出版、2000 年	ISBN	①9784634640955 ②9784589040152 ③9784589041524 ④9784888483155
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28	
	成果発表(口頭・実技)	0	
	中間試験	17	
	【定期試験】レポート試験	55	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス： ジェンダー法学とはなにか ジェンダーをめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第2回	対面	フランス革命と女性： 人権宣言とグージュの女権宣言	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第3回	対面	フランス民法典（1804年）と女性： フランス民法典の中の女性（特に妻の法的地位） 19世紀近代市民社会と女性（フランスを中心に）	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第4回	対面	20世紀・女性の法的地位向上を目指して： 20世紀前半：女性参政権獲得をめぐる動向（フランス）	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第5回	対面	女性差別撤廃条約とそのインパクト	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第6回	対面	家族をめぐる問題（1）： 戦前の民法・家族法の特徴、 戦後における家族法改革	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第7回	対面	家族をめぐる問題（2）： 婚姻・離婚をめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第8回	対面	家族をめぐる問題（3）： 親子をめぐる諸問題 中間復習問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第9回	対面	女性と暴力： 家庭内における暴力、他	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第10回	対面	労働をめぐる諸問題（1）： 戦後の労働法制改革から男女雇用機会均等法成立まで	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第11回	対面	労働をめぐる諸問題（2）： 均等法後の労働をめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間
第12回	対面	身体をめぐる諸問題： 20世紀後半における第2次フェミニズム運動	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4時間

第13回	対面	社会保障をめぐる諸問題：	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第14回	対面	男女共同参画社会：	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体のまとめと復習	これまでのレジュメ・資料・年表などを見直して、全体の流れを把握した上で、重要事項をもう一度確認する。さらに各回の重要テーマを自分の言葉で論じられるように整理する。	5 時間

科目名	国際平和学	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	国際平和の理想と現実		
授業の目的及び概要	平和という概念が戦争の対極にあるものとして位置付けられていることを踏まえ、本授業では平和と戦争を国際社会における理想と現実ととらえて考えていきます。また平和と戦争を考えるにあたっては、それを従来の善悪二元論で評価する理想主義的な視点からではなく、疫学療法的な発想などを参考に現実主義的な視点から理解することの重要性について考えていきたいと思います。そして、皆さんが、国際平和の諸問題を客観的に理解できる力を身に付けた社会人として、これからの国際社会と関わっていくことを期待します。		
履修条件・留意点	この授業科目は、国際関係史・国際政治学など他の政治系の科目と併せて履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	論理的な法的思考力と豊かな表現力とともに、情報、数理、英語等の汎用的技能を修得し、社会科学を中心とした幅広い教養を身につけている。そのほか、現代社会の諸課題を理解し、法的知識・技能をもとにして、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にテキストは使用しません。	ISBN	—
参考書	授業で、その都度配布します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業では従来の定説にとらわれない創造的な発想や意見を重視したいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ 授業ガイダンス ・ 国際平和学を学ぶ目的について	【予習】授業前に、本シラバスを読み、授業内容について確認・理解するとともに、参考書などを通じて平	4 時間

			和について概観した上で授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布されたガイダンス資料を読み、授業内容を復習して下さい。	
第2回	対面	・国際平和と歴史	【予習】授業前に、インターネットで青空文庫 HP にアクセスし、坂口安吾『戦争論』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と歴史」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	・国際平和と学問	【予習】授業前に、インターネットで青空文庫 HP にアクセスし、丘浅次郎『動物界における善と悪』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と学問」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	・国際平和と戦争	【予習】授業前に、インターネットで青空文庫 HP にアクセスし、丘浅次郎『戦争と平和』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と戦争」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	・国際平和と法	【予習】授業前に、インターネットで青空文庫 HP にアクセスし、蜷川新『私の歩んだ道』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と法」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	・国際平和と信仰	【予習】授業前に、インターネットで青空文庫 HP にアクセスし、内村鑑三『デンマーク国の話－信仰と樹木とをもって国を救いし話』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と信仰」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	・国際平和と感情	【予習】授業前に、インターネットで青空文庫 HP にアクセスし、丘浅次郎『人道の正体』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と感情」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	・国際平和と文化	【予習】授業前に、インターネットで外務省 HP にアクセスし、「広報文化外交」のページを読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と文化」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	・国際平和と思想	【予習】授業前に、インターネットで青空文庫 HP にアクセスし、堺利彦訳『共産党宣言』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と思想」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第10回	対面	・国際平和と兵器	【予習】授業前に、インターネットで青空文庫 HP にアクセスし、芥川龍之介『侏儒の言葉』（武器など）を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と兵器」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間

			さい。	
第11回	対面	・国際平和と人間の安全保障	【予習】授業前に、インターネットで外務省 HP にアクセスし、「人間の安全保障」のページを読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と人間の安全保障」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第12回	対面	・国際平和と構造的暴力	【予習】授業前に、インターネットで青空文庫 HP にアクセスし、寺田寅彦『天災と国防』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と構造的暴力」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	・国際平和とグローバリゼーション	【予習】授業前に、インターネットで外務省 HP にアクセスし、「日本の安全保障と国際社会の平和と安定」のページを読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和とグローバリゼーション」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第14回	対面	・国際平和と未来	【予習】授業前に、インターネットで青空文庫 HP にアクセスし、丘浅次郎『人類の将来』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布された「国際平和と未来」に関する教材資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けたまとめ・復習	【予習】授業前に、これまで配布された教材資料を読み、今までの授業の内容を振り返って下さい。 【復習】授業後に、上記の教材資料を参考に定期試験のテーマについて自分の考えをまとめて下さい。	4 時間

科目名	NPO・NGO論	開講年度	2025
担当者	金森 康	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	世界や日本の NPO の動向、企業の社会責任（CSR）の事例などを通じて、関連分野の最新動向を学ぶ		
授業の目的及び概要	State（国家や地方政府）、Market（市場）、Third Sector（NPO/NGO）、Community という社会経済システムの4領域の相互関係をふまえて、NPO や社会的起業家の現状理解、地域政策における位置づけ、地域開発における役割について考えていく。 ・事例の解説を中心に行う。 ・講義ビデオを適宜使用し、最新の動向の紹介を中心に講義を行う。 ・ケーススタディを通じて NPO・NGO の基礎を理解する。		
履修条件・留意点	・定期試験は実施しません。講義中の小テスト・レポート・質疑応答等で総合的に評価します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・NPO（Not-for-Profit Organization）や社会起業家が果たす社会的役割について理解する。 ・最新事例のケーススタディを通じて、NPO の最新動向をつかむ ・専門用語や考え方を理解する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の内容、という様に、ひとつの講義テーマが終了する毎に小テストと解説・振り返り行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 講師作成講義資料にて行う。	ISBN	テキスト無し
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	サークルやゼミで学外活動、特に社会貢献・地域貢献系を希望する方に受講していただきたいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	世界の NPO の現状を解説し、日本の現状を	授業計画 1 では、講義全体を通じたキーワードを説	2 時間

		理解する。	明するので、キーワードの意味や重要度を復習する。	
第2回	対面	社会システム論, ウェルフェアミックス, 政策評価, 協働	授業計画2では、理論的背景を説明するので、NP0の社会的位置づけや理論的背景について整理し、復習する。	4時間
第3回	対面	社会政策論, 地域政策論, 地域経営, 地域マーケティング	授業計画3では、理論的背景を説明するので、NP0の社会的位置づけや理論的背景について整理し、復習する。	4時間
第4回	対面	社会保障, 政策評価, PPP (Public Private Partnership), 地方分権	授業計画4では、理論的背景を説明するので、NP0の社会的位置づけや理論的背景について整理し、復習する。	4時間
第5回	対面	社会保障, 政策評価, PPP (Public Private Partnership), 地方分権	授業計画5では、理論的背景を説明するので、NP0の社会的位置づけや理論的背景について整理し、復習する。 授業計画4-5で解説する英国の若者失業者対策の仕組みは特に重要なので、制度の主旨と運営面での効率性を理解すること。	4時間
第6回	対面	NP0・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画6では、ビデオ教材を使用して、先進事例のケーススタディを行うので、参考モデルとなる要素について整理し、復習する。 先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4時間
第7回	対面	NP0・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画7では、ビデオ教材を使用して、先進事例のケーススタディを行うので、参考モデルとなる要素について整理し、復習する。	4時間
第8回	対面	NP0・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画8では、ビデオ教材を使用して、先進事例のケーススタディを行うので、参考モデルとなる要素について整理し、復習する。先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4時間
第9回	対面	NP0・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画9では、ビデオ教材を使用して、先進事例のケーススタディを行うので、参考モデルとなる要素について整理し、復習する。	4時間
第10回	対面	NP0・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画10では、ビデオ教材を使用して、先進事例のケーススタディを行うので、参考モデルとなる要素について整理し、復習する。 先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4時間
第11回	対面	企業の社会的責任 (CSR), 社会的マーケティング, 社会的責任投資 (SRI)	授業計画11では、企業の社会的責任 (CSR) に関する理論的背景を説明するので、キーワードを整理し、復習する。	4時間
第12回	対面	企業の社会的責任 (CSR), 社会的マーケティング, 社会的責任投資 (SRI)	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4時間

第13回	対面	企業の社会的責任（CSR）、社会的マーケティング、社会的責任投資（SRI）	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4 時間
第14回	対面	テストまたはグループワーク	これまでの講義内容にもとづき、総括的な講義中テストを実施する。 これまでの講義内容の復習をおこない、受講すること。	5 時間
第15回	オンデマンド	総括テスト解説 講義の総括	これまでの講義内容について復習を行い、疑問点や質問事項をまとめたうえで受講すること。	5 時間

科目名	地域政策	開講年度	2025
担当者	金森 康	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	世界各地の地域政策に関連する最新の動向を把握する		
授業の目的及び概要	地方分権化が進行する中で、政策評価、地域再生、ウェルフェアミックス、協働、パートナーシップ、地域経営、地方創生などが地域政策のキーワードとなっている。 従来のような産業誘致やハードインフラ整備ではなく、地域のソフトを整備することで地域の魅力を高めるような地域政策が求められている。また、AI の進化により、人間の仕事そのものの在り方が問い直されている。10 年後に、人は何を生業にしているのか？ 雇用創出という地域政策の命題はどのように変化していくのか？ 本講義ではそのような地域政策の最新動向について理解することで、将来の職業選択や居住地域、政策へのコミットメントなどに関して、先進国における自己成長のための基礎知識を理解する。		
履修条件・留意点	・定期試験は実施しません。講義中の小テスト・レポート・質疑応答等で総合的に評価します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	世界の若者雇用・失業問題、日本の若者雇用・若者ホームレス問題、企業誘致は地域再生につながるのか？、世界で一番進んだ国は？EU と地域など、最新事例を解説しつつ、地域政策の動向を学ぶ。 最新動向のケーススタディを通じて、社会課題の深刻度の認識と先進各国の解決策を理解することで、様々な社会課題・経済課題・政策課題に対する理解力を学修する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の内容、という様に、ひとつの講義テーマが終了する毎に小テストと解説・振り返り行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 講師作成講義資料にて行う。	ISBN	テキスト無し
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	サークルやゼミで学外活動（特に社会貢献・地域貢献系）を行っている方、行政機関等への就職を希望する方に受講していただきたいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	地域政策の全体像の解説	授業計画1では、講義全体を通じたキーワードを説明するので、キーワードの意味や重要度を復習する。	4時間
第2回	対面	政策評価理論、地域政策理論、地域マーケティングほか ウェルフェアミックスと地域政策、英国の第3の道、ほか	授業計画2では、理論的背景を説明するので、特に近年の動向について、その理論背景を整理し復習すること。	4時間
第3回	対面	EUの雇用・職業訓練、貧困問題等に関するケーススタディ	授業計画3で解説する英国の若者失業者対策の仕組みは特に重要なので、制度の主旨と運営面での効率性を理解すること。	4時間
第4回	対面	ケーススタディ；フィンランドの職業訓練ほか	授業計画4で解説するフィンランドの雇用政策の仕組みは特に重要なので、制度の主旨と運営面での効率性を理解すること。	4時間
第5回	対面	日本の地域政策先進事例のケーススタディ	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4時間
第6回	対面	日本の地域政策先進事例のケーススタディ	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4時間
第7回	対面	日本の地域政策先進事例のケーススタディ	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4時間
第8回	対面	ケーススタディ；日本の地域再生事例ほか	授業計画8では、日本の地域政策に関するキーワードを説明するので、キーワードの意味や重要度を復習する。	4時間
第9回	対面	コンパクトシティ、高齢者介護と地域政策、高齢者にターゲットを絞ったまちづくり、公共交通、環境対策ほかケーススタディ	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4時間
第10回	対面	ケーススタディ：米国サンシティ	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4時間
第11回	対面	ケーススタディ：日本の農業その1	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4時間
第12回	対面	ケーススタディ：日本の農業その2	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講	4時間

			すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	
第13回	対面	ケーススタディ：日本の農業その3	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4 時間
第14回	対面	AI 進化により人間が失う仕事・雇用、地域の生き残りをかけた地域政策。 その両者が重なる領域に、これからの地域政策の優先課題がある。	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	3 時間
第15回	オンデマンド	全体総括	これまでの講義内容について復習を行い、疑問点や質問事項をまとめたうえで受講すること。	5 時間

科目名	地域共生論	開講年度	2025
担当者	吉川 貴代	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代日本における地域共生社会		
授業の目的及び概要	日本国憲法では、法の下での平等が規定されている。共生とは、さまざまな人たちが暮らしていて、互いに認め合うことだが、現実には、さまざまな差別や格差が生じている。厚生労働省では、地域共生社会を「制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」としています。この授業では、さまざまな分野からゲストスピーカーを招き、共生の実践、課題を聴き、共生社会の実現に必要な取り組みを考えます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代社会では、多様な人たちが共に生きており、2021 年の改正社会福祉法では地域共生社会が定義されている。今年度の授業では、外国人、女性、生活困窮者、高齢者、障がい者、子どもの問題を取り上げ、地域共生社会の実現に向けての課題を理解し、必要な取り組みを学修する。この授業では、各分野の実務家をお招きして、行政や NPO などにおける実践を直接聞くことにより教職や公務員に必要な地域共生の考え方を学び、深めることができる。教職や公務員以外の職業に就く学生も、地域共生社会についての理解は必要であり、これから社会人として働くうえで必要な知識を深めることができる。また、これからの人生において、生活が苦しいといった自分の危機に対して、セーフティネットの存在を理解しておくことで、生きる力を蓄えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業でのアンケート、小テストに対し、講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない	ISBN	なし
参考書	①『障害者差別解消ガイドブック』、日本弁護士連合会 人権擁護委員会編著、ぎょうせい、2024 年 ②『不登校・ひきこもり・発達障害・LGBTQ+ 生きづらさの生き方ガイドー本人・家族の本音と困りごと別相談先がわかる本』、大橋史信・岡本二美代、日本法令、2021 年 ③『塀の中のおばあさん 女性刑務所、刑罰とケアの狭間で』、猪熊律子著、角川新書、2023 年 ④『外国人労働者・移民・難民ってだれのこと？』内藤正典、集英社、2019 年 ⑤『体験格差』、今井悠介著、講談社現代新書、2024 年 ⑥『「今どきの若者」のリアル』山田昌弘編著、PHP 新書、2023 年	ISBN	①978-4-324-11370-7 ②978-4-539-72839-0 ③978-4-04-082470-3 ④978-4-08-781672-3 ⑤978-4-06-535363-9 ⑥978-4-569-85607-0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	教職の単位となる科目。 公務員や社会福祉関係をめざす学生にも役立つ社会福祉主事任用資格の説明も行う。 福祉介護医療の仕事に関心を持つ学生の参加も期待する。 八尾市との連携講座であり、八尾市の職員のお話を伺える大切な機会として積極的に参加してほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ・厚生労働省の地域共生社会の理念とは何か ・ゲスト講師の紹介と授業の進め方	【予習】厚生労働省のホームページ「地域共生社会ポータルサイト」にて地域共生社会がめざすものについて予習する。（2時間） 【復習】地域共生社会の課題について教材から復習する。（2時間）	4時間
第2回	対面	外国籍住民の人権 在日コリアンへのヘイトスピーチの実例、ヘイトスピーチ解消法などを学ぶ。 「ゲスト講師による授業」	【予習】八尾市や大阪市のホームページから外国籍住民、外国人住民について調べ、学修する（2時間） 【復習】ヘイトスピーチの現状とヘイトスピーチ解消法の課題を教材から理解する（2時間）	4時間
第3回	対面	外国籍住民の教育福祉の課題 在日コリアンの教育や社会保障の権利について学ぶ。 「ゲスト講師による授業」	【復習】配布資料を使って復習し、外国籍住民の教育福祉の現状を理解する（4時間）	4時間
第4回	対面	子どもの貧困と学力格差1 子どもの貧困の実態と大阪の学力実態調査の結果から問題解決の取り組みを学修する。 「ゲスト講師による授業」	【予習】こども家庭庁ホームページの「こどもの貧困対策」、大阪市や八尾市のホームページから「こども計画」を調べる。（2時間） 【復習】教材から学力と階層差についての理解を深める。（2時間）	4時間
第5回	対面	子どもの貧困と学力格差2 希望格差社会と言われる状況をどう変えるか（グループワーク） 「ゲスト講師による授業」	【予習】階層差の影響を減らす経済支援について、授業料支援、奨学金などの制度を調べる。（2時間） 【復習】階層差との相関を乗り越える教育とは、グループワークから理解する。（2時間）	4時間
第6回	対面	男女共同参画1 ・わが国の現状 ・高齢女性の生きづらさ	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。（2時間） 【復習】授業内容を復習すること。（2時間）	4時間
第7回	対面	男女共同参画2 ・防災と女性 「ゲスト講師による授業」	【復習】授業で使用了資料をもとに復習すること。（4時間）	4時間
第8回	対面	障がい者施策と人権 障がいの多様性、特徴などを入門的に理解する。 「ゲスト講師による授業」	【予習】障がい者差別解消法の条文について e-GOV から検索して事前に読む。（2時間） 【復習】発達障がいについての基本的な理解を得るとともに、障害者差別解消法の内容を教材から読みとる。（2時間）	4時間
第9回	対面	障がい者権利条約と日本の障がい者施策 国際的な条約が日本の施策に影響を与えてきた点、	【復習】国際条約を調べるとともに、障がいの医療モデルと社会モデルについて理解し、教材を読む。（4時間）	4時間

		障がいについての医療モデル、社会モデルの理解を深める。 「ゲスト講師による授業」		
第10回	対面	八尾市の教育課題について 教育委員会の仕組みと課題について 「ゲスト講師による授業」	【予習】 文部科学省や八尾市のホームページから教育委員会の仕組み、現場の課題について事前学習を行う。(2 時間) 【復習】 八尾市の教育課題と施策について教材を読み復習する。(2 時間)	4 時間
第11回	対面	八尾市のひとり親家庭支援の取り組みについて 「ゲスト講師による授業」	【予習】 こども家庭庁や八尾市のホームページから、ひとり親家庭支援の事前学習を行う。(2 時間) 【復習】 八尾市のひとり親家庭支援の施策について教材を読み復習する。(2 時間)	4 時間
第12回	対面	生活保護とセイフティーネット 生活困窮者支援法の枠組みを理解する 「ゲスト講師による授業」	【予習】 生活困窮者支援法を e-GOV から検索して条文を読む。(2 時間) 【復習】 生活困窮者自立支援法が対象とする生活困窮者の課題を理解し配布資料を読む。(2 時間)	4 時間
第13回	対面	八尾市の高齢者福祉 高齢者を取り巻く現状とさまざまな施策 「ゲスト講師による授業」	【予習】 厚生労働省ホームページの「介護・高齢者福祉」、八尾市ホームページで高齢者福祉の取り組みを調べる。(2 時間) 【復習】 配布教材を使って八尾市の高齢者福祉の取り組みを復習する。(2 時間)	4 時間
第14回	対面	八尾市の地域共生社会 断らない相談支援体制の整備 「ゲスト講師による授業」	【予習】 八尾市ホームページの「つなげる支援室」の取り組みを調べる。(2 時間) 【復習】 八尾市の重層的支援整備事業の取り組みを復習する。(2 時間)	4 時間
第15回	オンデマンド	授業の総括 地域共生の考え方についてそれぞれの分野の基本的な理解を確認する。	【復習】 ラーニングポータルの掲示した資料を使って復習する。(4 時間)	4 時間

科目名	地域防災論	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地域や組織における防災リーダーの育成		
授業の目的及び概要	本授業では、各種災害の対応に必要となる災害に対する基礎的な知識、災害への備え、災害発生時の対応などについて体系的に学び、地域で活躍できる人材を養成します。 本授業を履修し、所定の要件を満たすことで、「防災士資格取得試験」の受験資格を得ることができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 災害事象のメカニズムと被害・対策について説明できる。 2. 防災計画、災害情報、要配慮者、災害ボランティアについて説明できる。 3. 地域コミュニティにおける防災活動を計画・立案できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出されたレポートを添削して返却します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち吉川准教授は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	日本防災士機構『防災士教本』2025 年版	ISBN	
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	10	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ テキスト 4,000 円、受験料 3,000 円が必要です。防災士試験合格後に認証登録料 5,000 円が必要です。 ・ 講義を履修する者は、防災士試験にチャレンジする必要があります。 ・ 特定非営利活動法人日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」の受験資格を得るには、オンデマンド授業を除き 12 回以上の授業への出席と所定のレポートの提出が必要です。 ・ 開講日程を必ず確認し、間違いの内容に受講してください。 ・ 普通救命士講習を、防災士試験日までに受講しておいてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回				

第2回				
第3回				
第4回				
第5回				
第6回				
第7回				
第8回				
第9回				
第10回				
第11回				
第12回				
第13回				
第14回				
第15回				

科目名	医事法	開講年度	2025
担当者	手嶋 豊	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	医療と法に関わる諸課題を法律の立場から検討する。		
授業の目的及び概要	本授業は、医療をめぐる様々な法律問題を検討する領域である医事法を、問題群ごとに横断的に学ぶものであり、毎回、様々なトピックを取り上げて検討する。		
履修条件・留意点	事案を検討する前提として、少なくとも民法・刑法・憲法の知識を有していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	医療をめぐる諸問題を法的な観点から考察・分析できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを次回の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をする。 試験後、授業支援システム(Learning Portal)に出題の意図、及び講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	医事法入門（第6版）、手嶋豊、有斐閣、2022 年	ISBN	9784641222045
参考書	医事法判例百選（第三版）、甲斐克則・手嶋豊編、有斐閣、2022 年	ISBN	9784641115583
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム(Learning Portal)に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはない。 ・授業には、最新版の六法を持参すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要・成績評価方法・授業の方法の説明、参考書等の紹介、医事法全体についての概説	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第1回授業資料を事前に読み、不明確な点を把握しておくこと。1時間。 事後学修：第1回授業資料を授業後に読み直し、復習しておくこと。3時間。	4 時間
第2回	対面	医療事故（1）	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第2回授業資料を事前に読んでおくこと。1時間。 事後学修：第2回授業資料を授業後に読み直し、復習	4 時間

			しておくこと。3 時間。	
第 3 回	対面	医療事故 (2)	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 3 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 3 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 4 回	対面	人工妊娠中絶、生殖補助医療 (1)	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 4 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 4 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 5 回	対面	生殖補助医療 (2)、性分化疾患	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 5 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 5 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 6 回	対面	脳死・臓器移植	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 6 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 6 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 7 回	対面	終末期医療 (1)	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 7 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 7 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 8 回	対面	終末期医療 (2)	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 8 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 8 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 9 回	対面	診療情報とその保護	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 9 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 9 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 10 回	対面	医療関係者の身分法、医療施設をめぐる法	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 10 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 10 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 11 回	対面	医学研究	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 11 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 11 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 12 回	対面	医薬品をめぐる問題	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 12 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 12 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 13 回	対面	感染症対策、非感染症対策	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 13 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 13 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 14 回	対面	グローバル・ヘルス・ローについて	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第 14 回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第 14 回授業資料を授業後に再読み、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	これまでの学修の振り返り	事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理する。2 時間。 事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。2 時間。	4 時間

科目名	医事法	開講年度	2025
担当者	大島 由美子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	医療と法について学ぶ		
授業の目的及び概要	医療をめぐる諸問題を法的な観点をふまえつつ検討する。 具体的には、医事法や法医学等の基本的知識を習得するとともに、これまでに学修した憲法、民法、刑法などの法律や判例を生きた知識として使用できるような科目とする。 この授業を受講することで、将来、法律に携わる仕事に就くことを希望している学生の就業力を育成することも、目的のひとつとする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	医療をめぐる諸問題を法的な観点をふまえつつ考察することができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	いずれかの回（第8回を予定）の授業中に行う中間テストについては、中間テスト実施回以降の授業中（第15回を予定）に出題趣旨や間違いの多い問題についての解説をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、医師免許および弁護士資格を有しており、病院および弁護士事務所にて、それぞれの業務に従事した経験を持つ。これらの実務経験を活かし、具体的な事例を紹介しながら医療と法について実践的な指導を行う。		
テキスト	テキストの指定は行いません。必要な資料・レジュメを適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	参考書の指定は行いません。必要な資料は適宜授業内で指示します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	15	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	一つの法律を体系的に学んだ先には、複数の法律を横断的に考えることも必要となります。この授業では法医学や医事法に関わる複数の法律を扱いますので、問題点を考えると同時にどの法律が関わってくるのかも考えてみてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要、成績評価方法、授業の方法、参考書等の紹介	（予習）ラーニングポータルに掲載する第1回授業資料を事前に読んでおくこと （復習）第1回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

第2回	対面	法医学に関わる法律、死の判定と死因、解剖	(予習) ラーニングポータルに掲載する第2回授業資料を事前に読んでおくこと (復習) 第2回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと。授業資料掲載の設例を解くこと。	4 時間
第3回	対面	早期死体現象、晩期死体現象、死後経過時間の推定、診断書	(予習) ラーニングポータルに掲載する第3回授業資料を事前に読んでおくこと (復習) 第3回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと。法医学の損傷と刑事事件における殺意の認定がどのようにかわるか考察する	4 時間
第4回	対面	損傷	(予習) ラーニングポータルに掲載する第4回授業資料を事前に読んでおくこと (復習) 第4回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第5回	対面	窒息、溺死	(予習) ラーニングポータルに掲載する第5回授業資料を事前に読んでおくこと (復習) 第5回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第6回	対面	異常温度による死	(予習) ラーニングポータルに掲載する第6回授業資料を事前に読んでおくこと (復習) 第6回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第7回	対面	中毒総論・薬毒	(予習) ラーニングポータルに掲載する第7回授業資料を事前に読んでおくこと (復習) 第7回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと。薬物に関してどのような法的問題があるのかを検討する(例えば、憲法では包括的規制の問題や、刑事訴訟法はコントロールド・デリバリーなど)	4 時間
第8回	対面	中毒各論	(予習) ラーニングポータルに掲載する第8回授業資料を事前に読んでおくこと (復習) 第8回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと。授業資料掲載の設例を解く。	4 時間
第9回	対面	検査・個人識別	(予習) ラーニングポータルに掲載する第9回授業資料を事前に読んでおくこと (復習) 第9回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと。DNA 鑑定が問題となった冤罪事件について確認する	4 時間
第10回	対面	医療行為、診療契約	(予習) ラーニングポータルに掲載する第10回授業資料を事前に読んでおくこと。医師法及び医療法の条文を通覧する (復習) 第10回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第11回	対面	医療事故、医療過誤	(予習) ラーニングポータルに掲載する第11回授業資料を事前に読んでおくこと。民法の不法行為及び債務不履行の要件や両者の比較を確認する (復習) 第11回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第12回	対面	薬害問題、生殖補助医療	(予習) ラーニングポータルに掲載する第12回授業資料を事前に読んでおくこと。薬害訴訟に関わる国家賠償法や製造物責任法の条文を確認する (復習) 第12回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと。授業で扱った薬害問題以外の事例についてどのようなものがあるか調べる	4 時間
第13回	対面	患者の権利と自己決定権、インフォームド Consent	(予習) ラーニングポータルに掲載する第13回授業資料を事前に読んでおくこと。憲法分野の自己決定権や信教の自由について確認する (復習) 第13回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと。授業資料の最後に記載されている case	4 時間

			について検討する	
第14回	対面	終末期医療、脳死問題、臓器移植、医学研究	（予習）ラーニングポータルに掲載する第14回授業資料を事前に読んでおくこと。安楽死に関わる犯罪（殺人罪、自殺関与・同意殺人罪）や法的问题点を確認する （復習）第14回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	医療と法のまとめ	（予習）第1回ないし第14回授業資料を事前に読んだうえで、疑問点があれば書き出しておく （復習）第1回ないし第14回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間

科目名	警察行政概論	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察法制と治安維持の在り方		
授業の目的及び概要	我が国の治安維持を担う警察の組織や適正な権限行使などを学修し、治安維持の在り方について理解を深めることを目的としています。 本講義では、警察法制の変遷のほか、警察組織法である「警察法」、警察活動(権限)法である「警察官職務執行法」などの警察関係法令に基づいて、警察の組織、警察官の義務及び権利、国及び国民を守るための適正な権限行使などがどのように規定されているかを学修します。 本講義を受講することにより、国民に直結している治安維持のための警察法制の在り方について理解を深めることができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①現行の警察基本法である警察法や警察官職務執行法等の警察関係法令の概要を理解する。 ②警察関係法令の規定に基づき、警察の組織や権限の適正執行の在り方が、国及び国民にどのように作用して治安が維持されているかを理解する。 ③警察の組織と権限行使などの警察法制の現状を理解し、その在り方について自らの見解を持つことができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートでの質疑等については、原則として次回授業で回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 各回講義資料をラーニングポータルに掲載し、必要により補助資料等も掲載します。	ISBN	なし
参考書	①警察行政法解説 第三版, 田村正博, 東京法令出版, 2022 年 9 月 20 日 ②注釈警察官職務執行法 5 訂版, 古谷洋一, 立花書房, 2021 年 2 月 10 日 ③警察白書 令和5年版(警察庁ホームページ)	ISBN	①9784809014444 ②9784803722314 ③なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・治安情勢や警察組織に関するニュース・報道に関心を持ち、本講義内容と関連させて記事等の内容を見聞してください。 ・講義資料や補助資料については、ラーニングポータルに掲載(配布)するので、紙媒体が必要		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 公務員とは何か、警察官とは何かについて解説します。	【予習】シラバス、ガイダンス資料等を事前に読んでおくこと。六法の警察法、警察官職務執行法の目次を一読しておく。 【復習】授業内で示した授業方針、授業計画をよく理解しておく。講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	警察制度の変遷について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	警察組織法の総論について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	警察の責務について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	国の警察機関について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	都道府県警察について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	中間レポート作成（課題レポート） これまでの講義内容の理解度、各学生個人の見解による自己研鑽の度合いを確認します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	都道府県警察相互の関係、管轄区域と職権行使について解説します。	【予習】これまでの講義資料や補助資料、自己のメモやノート等に基づいてまとめをしておく。 【復習】自己のレポート作成の成果を検証し、以後の受講について検討しておく。	4 時間
第9回	対面	都道府県警察の職員について解説します。 (第1回目)	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間

第10回	対面	都道府県警察の職員について解説します。 (第2回目)	【予習】 ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】 配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	警察官の職務倫理について解説します。	【予習】 ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】 配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	警察官等のその他の規定や緊急事態の特則について解説します。	【予習】 ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】 配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	職務質問について解説します。	【予習】 ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】 配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	武器の使用について解説します。	【予習】 ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】 配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けたまとめ・復習	【予習】 ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について、自己研鑽しておく。 【復習】 配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間

科目名	警察法令概論	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	治安維持のための社会政策と警察実務		
授業の目的及び概要	日常発生する事件・事故等を取り上げ、これらに対峙する警察機関や現場警察官の活動、政府の諸対策等を通じて、治安を維持していくための社会政策と警察活動実務について理解することを目的としています。 本講義では、刑事警察の概略、組織犯罪対策や人身安全対策など多岐にわたる警察活動と犯罪対策などの政府の諸対策について学修します。 本講義を受講することにより、各種事案に対する警察活動の実情、政府の諸施策と警察及び他機関との連携等について理解を深めることができます。将来、住民の安全・安心に携わる職種を志望する学生はもとより、一市民としても社会政策とはいかにあるべきかを考察することができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①多岐にわたる警察活動の実情について理解する。 ②警察を含めた多くの組織の様々な活動による治安維持について理解する。 ③治安維持に対する社会政策について、自らが当事者意識をもって、いかにあるべきかを考察できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートでの質疑等については、原則として次回授業で回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 各回講義資料をラーニングポータルに掲載し、必要により補助資料等も掲載します。	ISBN	なし
参考書	①新版 警察行政概論, 金山泰介, 三恵社、2025 年 ②警察白書 令和5年版(警察庁ホームページ)	ISBN	①9784866939964 ②なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 日常発生する事件事故に関するニュース・報道に関心を持ち、本講義内容と関連させて記事等の内容を見聞してください。 ・ 講義資料、補助資料については、ラーニングポータルに掲載するので、紙媒体の必要な学生については、各自で印刷すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 犯罪に対峙する警察組織の仕組みについて解説します。	【予習】シラバス、ガイダンス資料等を事前に読んでおく。 【復習】授業内で示した授業方針、授業計画をよく理解しておく。配布した資料、講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	刑事手続の概略について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	法の適正執行と証拠価値について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	法の適正執行と証拠価値について解説します。（判例研究）	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	中間レポート作成（課題レポート）	【予習】これまでの授業の資料、自己のメモやノート等に基づいてまとめをしておく。 【復習】自己のレポートの成果を検証し、以後の受講について検討しておく。	4時間
第6回	対面	警察捜査及び他の捜査機関との関係について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	刑事警察における捜査実務について、窃盗犯捜査及び強行犯捜査を事例に解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	組織犯罪対策について、薬物犯罪捜査を事例に解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4時間
第9回	対面	取調べの録音・録画制度について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4時間
第10回	対面	ストーカー犯罪対策について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4時間
第11回	対面	児童虐待防止対策について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4時間

第12回	対面	災害対策について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	交通安全対策について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	犯罪被害者等支援について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けたまとめ・復習	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略について、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した資料や講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み理解を深めておく。	4 時間

科目名	消防行政概論	開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	消防行政の法と在り方		
授業の目的及び概要	行政の最前線において市民生活の危機に対応する消防の基礎的知識を修得することを目的とする。 危機管理行政で重要な位置を占める消防の組織や活動に関する法知識を修得するとともに消防行政の在り方について考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	消防組織やその活動に関する法令の概要を理解する。 関係法令の規定に基づき、消防の組織や活動の在り方や危機管理について理解する。 消防の組織や活動等に関する法制の現状を理解し、消防行政の在り方について自らの見解を持つことができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートでの質疑等については、原則として次回授業で回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日ごろから消防や防災に関するニュース等に関心を持ち、本講義の内容と関連させて見聞してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の目的、概要の説明等ガイダンスを行います。 公務員とは何か、消防官とは何かについて解説します。	【予習】シラバス、ガイダンス資料等を事前に読んでおくこと。六法の消防法、消防組織法の目次を一読しておく。 【復習】授業内で示した授業方針、授業計画をよく理	4 時間

			解しておく。講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	
第2回	対面	消防行政の沿革について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	消防関係の基本法令、目的、任務等について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	国の消防機関について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	地方公共団体の消防機関について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	市町村の消防の広域化について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	各機関相互の関係について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	消防関連法令（災害対策基本法、国民保護法等）について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	職団員の身分取扱い（地方公務員法等）について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	職団員の勤務条件等について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	災害の現状と課題①	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に	4 時間

			基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	
第12回	対面	災害の現状と課題②	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	体制の現状と課題①	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	体制の現状と課題②	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験（レポート試験）に向け、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴したうえで、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4 時間

科目名	消防行政概論	開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	消防行政の法と在り方		
授業の目的及び概要	行政の最前線において市民生活の危機に対応する消防の基礎的知識を修得することを目的とする。 危機管理行政で重要な位置を占める消防の組織や活動に関する法知識を修得するとともに消防行政の在り方について考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	消防組織やその活動に関する法令の概要を理解する。 関係法令の規定に基づき、消防の組織や活動の在り方や危機管理について理解する。 消防の組織や活動等に関する法制の現状を理解し、消防行政の在り方について自らの見解を持つことができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートでの質疑等については、原則として次回授業で回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日ごろから消防や防災に関するニュース等に関心を持ち、本講義の内容と関連させて見聞してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の目的、概要の説明等ガイダンスを行います。 公務員とは何か、消防官とは何かについて解説します。	【予習】シラバス、ガイダンス資料等を事前に読んでおくこと。六法の消防法、消防組織法の目次を一読しておく。 【復習】授業内で示した授業方針、授業計画をよく理	4 時間

			解しておく。講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	
第2回	対面	消防行政の沿革について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	消防関係の基本法令、目的、任務等について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	国の消防機関について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	地方公共団体の消防機関について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	市町村の消防の広域化について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	各機関相互の関係について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	消防関連法令（災害対策基本法、国民保護法等）について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	職団員の身分取扱い（地方公務員法等）について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	職団員の勤務条件等について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	災害の現状と課題①	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に	4 時間

			基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	
第12回	対面	災害の現状と課題②	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	体制の現状と課題①	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	体制の現状と課題②	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験（レポート試験）に向け、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴したうえで、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4 時間

科目名	スポーツ法	開講年度	2025
担当者	古結 誠	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	スポーツを素材に憲法・民法・刑法の各法律を学び直し、スポーツの場面で適用される法律や制度も理解する。		
授業の目的及び概要	ドイツの戦後復興を支えたゴールデンプラン、スポーツシュレ、地域クラブの制作に刺激を受け、わが国でも学校体育から地域総合型クラブへの転換、国民皆スポーツを理念とするスポーツ基本法が成立した。国、自治体の責務やスポーツ団体の努力が明記され、スポーツを心身の健康づくり、国際協調の重要な柱として発展させることが戦略となった。 このような時代の要請、また、近年話題の体罰と指導者の姿勢等も踏まえて、スポーツと人権に関する問題やスポーツの場面における紛争解決方法などを学ぶとともに、スポーツと事故についてもスポーツ法学の観点から基本的な理解を深める。また、スポーツにまつわる法律問題を題材として、憲法や民法、刑法などの基本的な法律科目について学び直し、その理解を深めることを目的とする。 また、「スポーツ・ビジネス法務」においてスポーツビジネス分野での法律の活用を学ぶ前提として、スポーツ法に関する基礎を習得することも目的とする。そのため、この授業と、「ビジネス法務」及び民事法・企業法科目を合わせて履修し、次年度の「スポーツビジネス法務」及びその特別プログラムとしてのスポーツ関連企業インターンにもチャレンジしてほしい。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・スポーツの歴史を学び、我が国のスポーツ基本法の理念を理解できる。 ・スポーツと人権、スポーツとインテグリティの問題（ドーピングや体罰等の不祥事）を学ぶことにより、スポーツのあるべき姿について考える力を身につける。 ・スポーツと人権、スポーツと契約、スポーツと事故等に関して学習することにより、憲法、民法（契約法、不法行為法）、刑法の基礎についての理解を深める。 ・また、近年話題の体罰と指導者の姿勢、スポーツ事故の対応についてもスポーツ法学の観点から考察し、防止のための対策や対処を実際の事例を通じて理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、授業の最後に小テストを実施して、授業内で解説を行う。 中間テストは授業の最終回までに講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しません。配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①平和学”としてのスポーツ法入門，辻口信良，民事法研究会，2016 年 ②スポーツ法へのファーストステップ，石堂典秀ほか編著，法律文化社，2018 年 ③標準テキストスポーツ法学，浦川道太郎・吉田勝光編著，エイデル研究所，2020 年 ④Q&A スポーツの法律問題―プロ選手から愛好者までの必修知識，スポーツ問題研究会，民事法研究会，2018 年	ISBN	①9784865561302 ②9784589039651 ③9784871686501 ④9784865562231
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	40
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	普段ニュースで触れることの多いスポーツ界の問題について、法的にはどのような問題になるのかということを学ぶことができ、かつ、これまで学修してきた憲法、民法、刑法などの法律も復習にもなります。また、オリンピックに関するホットな話題についても検討してもらう機会があるので、積極的に参加してもらいたい。 また、この授業と、「ビジネス法務」及び民事法・企業法科目を合わせて履修し、次年度の「スポーツビジネス法務」及びその特別プログラムとしてのスポーツ関連企業インターンにもチャレンジしてほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション、スポーツ法とは何か	予習：特になし 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	2 時間
第2回	対面	スポーツと契約・規則（1） ・スポーツ界で締結されるさまざまな契約 ・民法上の契約類型とスポーツ界の契約の種類の検討	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第3回	対面	スポーツと契約・規則（2） ・スポーツ界で締結されるさまざまな契約 ・民法上の契約類型とスポーツ界の契約の種類の検討	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第4回	対面	スポーツと契約・規則（3） ・労働者の保護とスポーツ選手の労働者性等	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第5回	対面	スポーツ事故（1） ・スポーツ事故の実例 ・民法上の不法行為責任、使用者責任、国家賠償法、製造物責任等 ・安全配慮義務等の契約上の責任 ・スポーツ事故に関する裁判例の紹介	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第6回	対面	スポーツ事故（2） ・スポーツ事故の実例 ・民法上の不法行為責任、使用者責任、国家賠償法、製造物責任等 ・安全配慮義務等の契約上の責任 ・スポーツ事故に関する裁判例の紹介	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第7回	対面	スポーツ事故（3） ・スポーツ事故の実例 ・民法上の不法行為責任、使用者責任、国家賠償法、製造物責任等 ・安全配慮義務等の契約上の責任 ・スポーツ事故に関する裁判例の紹介	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間

第8回	対面	スポーツと人権（１） ・日本国憲法における身体の自由、平等権（差別的禁止）等 ・私人間効力と間接適用説	予習（２時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（２時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	４時間
第9回	対面	スポーツと人権（２） ・子どもの保護、体罰、セクハラ、パワハラ、人種差別等と事例紹介	予習（２時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（２時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	４時間
第10回	対面	スポーツにおけるドーピングの禁止 ・ドーピングが禁止されている理由 ・アンチ・ドーピング制度の紹介	予習（２時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（２時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	４時間
第11回	対面	オリンピック・パラリンピックとスポーツ法 ・オリンピック・パラリンピックに関わる法的問題（スポンサー契約、代表選考等） ・延期に関連する諸問題	予習（２時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（２時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	４時間
第12回	対面	スポーツに関する不祥事処分 ・処分権者、処分の根拠等 ・不利益処分に関する適正手続の確保 ・第三者委員会の役割等	予習（２時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（２時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	４時間
第13回	対面	スポーツ紛争の解決手段 ・訴訟、日本スポーツ仲裁機構による仲裁等の解決手段の紹介 ・紛争解決における適正手続の確保	予習（２時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（２時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	４時間
第14回	対面	スポーツと犯罪 ・罪刑法定主義、正当業務行為、危険の引受け等	予習（２時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（２時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	５時間
第15回	オンデマンド	まとめ	予習（２時間程度）：事前に参考書等の関連箇所を目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（２時間程度）：レジュメ等を見直ししておくこと。	５時間

科目名	法学特別講義 A	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律系資格の種類・試験内容の理解及び法学検定試験ベーシックの準備		
授業の目的及び概要	・本授業では、1 年生を対象として、法律系資格の種類・試験内容について理解するとともに、1 1 月に行われる法学検定試験ベーシックの合格に必要な知識の修得を目的とします。併せて、資格取得の重要性や資格取得のための計画的な勉強方法などについても学びます。 ・最初は、法学検定試験、知的財産管理技能検定、宅地建物取引士（いわゆる「宅建」）、行政書士、司法書士などの法律系資格の内容について説明します。その後、1 1 月に行われる法学検定試験ベーシックに向けて、大学が導入している「法学検定試験学習ツール」を用いて、受験科目（法学の基礎・憲法・民法・刑法）の知識を学修します。 ・1 年次に法学検定試験ベーシックに合格すれば、2 年次以降の法律系科目が非常に理解しやすくなるとともに、皆さんの自信にもなるはずです。合格に向けて一緒に頑張りましょう。		
履修条件・留意点	・2025 年 11 月に実施される法学検定試験ベーシックコース試験を全員受験する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・法律系資格の種類・内容を理解し、卒業までに取得する資格を決める。 ・資格試験に向けての計画的な学修プランが立てられるようになる。 ・法学検定試験ベーシックの合格に必要な知識を修得する。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・質問等については、授業終了後に対応します。 ・授業時間外の質問等に対しては、対面・ラーニングポータル・オフィスアワーで対応します。また、いい質問については、その内容と回答は受講生と共有します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	法学検定試験委員会編，2025 年法学検定試験問題集ベーシックコース，商事法務	ISBN	2025 年 3 月刊行予定
参考書	特に指定しない。	ISBN	なし。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携です。法律の学修は「条文に始まり、条文で終わる」ということを忘れないでください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	第1回 ガイダンス ・授業の進め方、成績評価の方法、法学検定試験ベーシックコースの内容について説明する。 ・法学検定試験、知的財産管理技能検定、宅地建物取引士（いわゆる「宅建」）、行政書士、司法書士などの法律系資格の種類と将来の進路との関係について説明する。	【事前学修】事前に配布するレジュメに目を通し、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】法学検定試験ベーシックコースの試験内容を理解する。	4 時間
第2回	対面	第2回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第3回	対面	第3回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第4回	対面	第4回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第5回	対面	第5回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第6回	対面	第6回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第7回	対面	第7回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第8回	対面	第8回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第9回	対面	第9回 中間テスト マークシートによる中間テストを実施する。	【事前学修】第2回から第7回まで扱った問題を復習し、中間テストの準備をする。 【事後学修】中間テスト問題に2回以上取り組む。	4 時間
第10回	対面	第10回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第11回	対面	第11回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第12回	対面	第12回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第13回	対面	第13回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第14回	対面	第14回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間
第15回	オンデマンド	第15回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4 時間

科目名	法学特別講義 B	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律系資格の種類・試験内容の理解及び法学検定試験ベーシックの準備		
授業の目的及び概要	・本授業では、1 年生を対象として、法律系資格の種類・試験内容について理解するとともに、1 1 月に行われる法学検定試験ベーシックの合格に必要な知識の修得を目的とします。併せて、資格取得の重要性や資格取得のための計画的な勉強方法などについても学びます。 ・最初は、法学検定試験、知的財産管理技能検定、宅地建物取引士（いわゆる「宅建」）、行政書士、司法書士などの法律系資格の内容について説明します。その後、1 1 月に行われる法学検定試験ベーシックに向けて、大学が導入している「法学検定試験学習ツール」を用いて、受験科目（法学の基礎・憲法・民法・刑法）の知識を学修します。 ・1 年次に法学検定試験ベーシックに合格すれば、2 年次以降の法律系科目が非常に理解しやすくなるとともに、皆さんの自信にもなるはずです。合格に向けて一緒に頑張りましょう。		
履修条件・留意点	・2025 年 11 月に実施される法学検定試験ベーシックコース試験を全員受験する。 ・試験日まで週 2 回授業を実施する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・法律系資格の種類・内容を理解し、卒業までに取得する資格を決める。 ・資格試験に向けての計画的な学修プランが立てられるようになる。 ・法学検定試験ベーシックの合格に必要な知識を修得する。		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・質問等については、授業終了後に対応します。 ・授業時間外の質問等に対しては、対面・ラーニングポータル・オフィスアワーで対応します。また、いい質問については、その内容と回答は受講生と共有します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	法学検定試験委員会編，2025 年法学検定試験問題集ベーシックコース，商事法務	ISBN	2025 年 3 月刊行予定
参考書	特に指定しない。	ISBN	なし。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携です。法律の学修は「条文に始まり、条文で終わる」ということを忘れないでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第2回	対面	第2回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第3回	対面	第3回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第4回	対面	第4回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第5回	対面	第5回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第6回	対面	第6回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第7回	対面	第7回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第8回	対面	第8回 中間テスト ・マークシートによる中間テストを実施する。	【事前学修】第1回から第7回まで扱った問題を復習し、中間テストの準備をする。 【事後学修】中間テスト問題に2回以上取り組む。	4時間
第9回	対面	第9回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第10回	対面	第10回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第11回	対面	第11回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第12回	対面	第12回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第13回	対面	第13回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第14回	対面	第14回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間
第15回	オンデマンド	第15回 問題演習 ・事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に2回以上取り組む。	4時間

科目名	海外フィールドスタディ I	開講年度	2025
担当者	朴 永晔	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、同世代の韓国人学生と交流し「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	「韓国に興味がある」、「韓国に留学してみたい」と考えている人を対象に、異文化理解の基礎的な知識をベースに、法学や政治学についての関心を一層発展的に学ぶ短期集中プログラムとして、専門領域でも役立つ国際関係及び国際理解運用能力の向上をめざす。また、韓国政府の機関（検察庁、警察庁など）の見学を行い、両国の法制度の発展過程及び運用についてフィールドスタディを行う。 学生に事前学習として、韓国の歴史・文化、社会・政治に関わる課題を設定させ、その情報収集や調査等を事前に取り組むとともに、現地において想定した課題についての調査や検討を行い、その相違点について考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）事前学習を通じて、研修先の政治・文化及び、社会、政治、言語学びなどの理解を深める。 （２）韓国の政府の機関（検察庁、警察庁など）について概説できるようになる。 （３）韓国の政府の機関（検察庁、警察庁など）を訪問することで、その歴史や発展過程への理解を深め、両国の法曹・公安の制度や意義について説明できるようになる。 （４）歴史・文化施設や世界遺産などを訪問することで、研修先の国の歴史と文化を肌で感じ、その国の特徴や多様性を探る手掛かりを得る。 （５）現地での韓国語研修並びに、提携先大学生・留学生との交流を通して、異なる人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並びに国際理解と国際性の涵養を図る。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や課題についてはディスカッションしていきます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	0	

この科目の受講にあたって	世界に対する興味・関心を広げ、自国の歴史・文化・社会について研修先国との歴史・文化・社会との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、学生はプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要です。 日本ではなく、全く異なった歴史や文化背景をもつ国に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみる。そうすることで文化とは何か、社会とは何かを、普段自分が当たり前と思っていた状況とは正反対の状況で考えることになります。危機管理や不慣れな状況を体験することで、国際感覚を研ぎ澄ますことが大切です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	”プログラムの概要説明と意義と意図について理解 渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（ビザ情報含む）、 ・グループ分けと取り組む課題について話し合い、テーマや取り組み方を決める”	事後学修：韓国現代文化の特徴について調べ、自分の関心をまとめておく	2時間
第2回	対面	現代韓国社会について理解を深め、その発展の過程を考える	事前学修：現代韓国社会の特徴と歴史的な変容について調べる 事後学修：世界的に流行する K カルチャーの強みや戦略について調べまとめておく	4時間
第3回	対面	Kカルチャーのビジネス戦略とその発展について学び、理解を深める	事前学修：日本での K カルチャーの人気の理由や戦略について考える 事後学修：文化とビジネスマーケティングの可能性について理解を深めるため、K カルチャーの事例について調べる	4時間
第4回	対面	韓国の歴史について理解を深める	事前学修：「身分制度（「兩班」（ヤンバン））からみた韓国社会」、「家族制度からみた韓国社会」について調べておく 事後学修：韓国の歴史の特徴について調べ学修したことを明確にしておく	4時間
第5回	対面	韓国の文化の特徴について理解を深める	事前学修：「徴兵制度・徴兵に関する若者の意識」、「南北分断の現実」について理解を深める 事後学修：韓国の文化の特徴について調べ学修したことを明確にしておく	4時間
第6回	対面	韓国の法制度について理解を深める	事前学修：「韓国の司法制度」、「韓国の大統領制と両党制度」について理解を深める 事後学修：韓国の法制度について調べ学修したことを明確にしておく	4時間
第7回	対面	韓国の社会について理解を深める	事前学修：「韓流ブームからみる韓国社会」、「血縁・地縁・学縁の社会関係」について理解を深める 事後学修：韓国の社会について調べ学修したことを明確にしておく	4時間
第8回	対面	現地での学修 フィールドワーク①（検察庁）	事前学修：訪問先の情報及び歴史的な変容について調べ、関連する日本の機関との違いを把握 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4時間
第9回	対面	現地での学修 フィールドワーク②（警察庁）	事前学修：訪問先の情報及び歴史的な変容について調べ、関連する日本の機関との違いを把握 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4時間
第10回	対面	現地での学修 フィールドワーク③（警察庁博物館）	事前学修：訪問先の機関情報及びビジネス戦略について調べ、関連する日本企業との違いを把握。 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4時間
第11回	対面	グループワーク① 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する	4時間

			事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	
第12回	対面	グループワーク② 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第13回	対面	グループワーク③ 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：これまで得られた情報と知識についてまとめ、グループでプレゼン内容についてディスカッション	4 時間
第14回	対面	帰国後のグループワーク 課題発表のまとめ作業	事前学修：政府機関訪問レポートとグループ課題についてまとめておく。 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン作成	6 時間
第15回	対面	成果発表 海外フィールドスタディについての成果発表のフィードバックと総括	事前学修：これまでのグループで議論し作成した プレゼン資料等について読み返し、成果と課題について 明らかにしておく 事後学修：グループ課題発表を今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディⅡ	開講年度	2025
担当者	朴 永晔	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、同世代の韓国人学生と交流し「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	「韓国に興味がある」、「韓国に留学してみたい」と考えている人を対象に、異文化理解の基礎的な知識をベースに、法学や政治学についての関心を一層発展的に学ぶ短期集中プログラムとして、専門領域でも役立つ国際関係及び国際理解運用能力の向上をめざす。また、韓国政府の機関（検察庁、警察庁など）の見学を行い、両国の法制度の発展過程及び運用についてフィールドスタディを行う。 学生に事前学習として、韓国の歴史・文化、社会・政治に関わる課題を設定させ、その情報収集や調査等を事前に取り組むとともに、現地において想定した課題についての調査や検討を行い、その相違点について考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）事前学習を通じて、研修先の政治・文化及び、社会、政治、言語学びなどの理解を深める。 （２）韓国の政府の機関（検察庁、警察庁など）について概説できるようになる。 （３）韓国の政府の機関（検察庁、警察庁など）を訪問することで、その歴史や発展過程への理解を深め、両国の法曹・公安の制度や意義について説明できるようになる。 （４）歴史・文化施設や世界遺産などを訪問することで、研修先の国の歴史と文化を肌で感じ、その国の特徴や多様性を探る手掛かりを得る。 （５）現地での韓国語研修並びに、提携先大学生・留学生との交流を通して、異なる人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並びに国際理解と国際性の涵養を図る。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や課題についてはディスカッションしていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	0	

この科目の受講にあたって	世界に対する興味・関心を広げ、自国の歴史・文化・社会について研修先国との歴史・文化・社会との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、学生はプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要です。 日本ではなく、全く異なった歴史や文化背景をもつ国に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみる。そうすることで文化とは何か、社会とは何かを、普段自分が当たり前と思っていた状況とは正反対の状況で考えることになります。危機管理や不慣れな状況を体験することで、国際感覚を研ぎ澄ますことが大切です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	”プログラムの概要説明と意義と意図について理解 渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（ビザ情報含む）、 ・グループ分けと取り組む課題について話し合い、テーマや取り組み方を決める”	事後学修：韓国現代社会の特徴について調べ、自分の関心をまとめておく	2 時間
第2回	対面	現代韓国社会について理解を深め、その発展の過程を考える	事前学修：現代韓国社会の特徴と歴史的な変容について調べる 事後学修：世界的に流行する K カルチャーの強みや戦略について調べまとめておく	4 時間
第3回	対面	K カルチャーのビジネス戦略とその発展について学び、理解を深める	事前学修：日本での K カルチャーの人気の理由や戦略について考える 事後学修：文化とビジネスマーケティングの可能性について理解を深めるため、K カルチャーの事例について調べる	4 時間
第4回	対面	韓国の歴史について理解を深める	事前学修：「身分制度（「兩班」（ヤンバン）からみた韓国社会」、「家族制度からみた韓国社会」について調べておく 事後学修：韓国の歴史の特徴について学修したことを明確にしておく	4 時間
第5回	対面	韓国の文化の特徴について理解を深める	事前学修：「徴兵制度・徴兵に関する若者の意識」、「南北分断の現実」について理解を深める 事後学修：韓国の文化の特徴について学修したことを明確にしておく	4 時間
第6回	対面	韓国の法制度について理解を深める	事前学修：「韓国の司法制度」、「韓国の大統領制と両党制度」について理解を深める 事後学修：韓国の法制度について学修したことを明確にしておく	4 時間
第7回	対面	韓国の社会について理解を深める	事前学修：「韓流ブームからみる韓国社会」、「血縁・地縁・学縁の社会関係」について理解を深める 事後学修：韓国の社会について学修したことを明確にしておく	4 時間
第8回	対面	現地での学修 フィールドワーク①（検察庁）	事前学修：訪問先の情報及び歴史的な変容について調べ、関連する日本の機関との違いを把握 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4 時間
第9回	対面	現地での学修 フィールドワーク②（警察庁）	事前学修：訪問先の情報及び歴史的な変容について調べ、関連する日本の機関との違いを把握 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4 時間
第10回	対面	現地での学修 フィールドワーク③（警察庁博物館）	事前学修：訪問先の機関情報及びビジネス戦略について調べ、関連する日本企業との違いを把握。 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4 時間
第11回	対面	グループワーク① 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する	4 時間

			事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	
第12回	対面	グループワーク② 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第13回	対面	グループワーク③ 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：これまで得られた情報と知識についてまとめ、グループでプレゼン内容についてディスカッション	4 時間
第14回	対面	帰国後のグループワーク 課題発表のまとめ作業	事前学修：政府機関訪問レポートとグループ課題についてまとめておく。 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン作成	6 時間
第15回	対面	成果発表 海外フィールドスタディについての成果発表のフィードバックと総括	事前学修：これまでのグループで議論し作成した プレゼン資料等について読み返し、成果と課題について 明らかにしておく 事後学修：グループ課題発表を今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第 3 版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第 3 版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第 4 版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	吉川 貴代	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	松山 沙織	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	柳 東汶	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	朴 永晃	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	吉川 真理子	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第 3 版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第 3 版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第 4 版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第2回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第3回	対面	キャリア講演会（1） 法曹・法律専門職 【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第4回	対面	キャリア講演会（2） 公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第5回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第6回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第7回	対面	キャリア講演会（3） 公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第8回	対面	キャリア講演会（4） 民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第9回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第10回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第11回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第12回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第13回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第14回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第 3 版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第 3 版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第 4 版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	吉川 貴代	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第 3 版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第 3 版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第 4 版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	松山 沙織	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	柳 東汶	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	朴 永晃	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	吉川 真理子	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利、『ポリティカル・サイエンス事始め[第3版]』、有斐閣、2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦、『アカデミックスキルズ 第3版』、慶応義塾大学出版会、2020 年 ③横田明美、『カフェパウゼで法学を』、弘文堂、2018 年 ④弥永真生、『法律学習マニュアル 第4版』、有斐閣、2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第2回	対面	グループ研究発表の準備（1）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第3回	対面	グループ研究発表の準備（2）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第4回	対面	グループ研究発表の準備（3）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第5回	対面	グループ研究発表の準備（4）	発表資料を作成する	6 時間
第6回	対面	グループ研究発表の準備（5）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第7回	対面	グループ研究発表の準備（6）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第9回	対面	グループ研究発表会（1）	発表の練習をする	4 時間
第10回	対面	グループ研究発表会（2）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第11回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第12回	対面	キャリア講演会（1）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第13回	対面	キャリア講演会（2）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第14回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習B	開講年度	2025
担当者	片岡 浩史	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得および経営学部で学ぶための予備知識の習得		
授業の目的及び概要	科目等履修生が日本で大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成を主な目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①大学での学修に必要な、基礎的な専門用語を理解することができる ②日本に留学した目的を明確にし、希望進路実現のための計画を作成することができる ③基本的なプレゼンテーションやレポートの作成ができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストはありません。プリントなどの教材を配布します。	ISBN	なし
参考書	①大学生 学びのハンドブック [6 訂版], 世界思想社編集部 編, 世界思想社, 2024 年	ISBN	①9784790717911
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	（3 クラス合同） ガイダンス はじめての大学生活 シラバス・授業計画説明 （片岡、張、朴担当）	ガイダンスの内容についての復習 秋学期の達成目標を設定する	4 時間

第2回	対面	(3クラス合同) 講義ノートの取り方とまとめ方について学ぶ (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	4時間
第3回	対面	(3クラス合同) テキストの読み方① 本を読んで情報を集める。疑問や法頭から問をたてみよう。 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	4時間
第4回	対面	(3クラス合同) テキストの読み方② 問の答えである主張を考える。その根拠をあつめて考えてみよう。 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	4時間
第5回	対面	(3クラス合同) レポートの書き方① アカデミックライティングの基本 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	4時間
第6回	対面	(3クラス合同) レポートの書き方② アカデミックライティングの基本 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	4時間
第7回	対面	(3クラス合同) 資料の探し方 研究と調査のはじめかた (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	4時間
第8回	対面	(3クラス合同) 大学図書館の使い方 図書館にいて実際に本を借りてみよう。 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 図書館にいて本を借りてみよう。借りた本について自分の関心をもとにレポートをまとめる。	4時間
第9回	対面	(3クラス合同) ゼミ発表の仕方① 効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ 発表の構成を考えよう。 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	4時間
第10回	対面	(3クラス合同) ゼミ発表の仕方② プレゼンテーションの準備、視覚資料の使い方、話し方のコツ レジューメをつくろう。 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	4時間
第11回	対面	(3クラス合同) 大学の試験と評価について知る (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	4時間
第12回	対面	法学部で何を学ぶのか① 法学編 (朴担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	6時間
第13回	対面	法学部で何を学ぶのか② 日本の司法制度 (朴担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	6時間
第14回	対面	法学部で何を学ぶのか③ 法律用語 (朴担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまと	6時間

2025/05/01

			めてみる。	
第15回	オンデマンド	(3クラス合同) 秋学期のふり返しとレポート作成 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 4月からの大学生活について、もういちど日本に来た目的と将来の希望する進路をふり返し、春休みにすべきことを明確にする。	6時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日常生活と民法		
授業の目的及び概要	私たちは、日常生活において、意識しなくても色々な分野で法律問題に関与している。この演習では、日常生活の中で関わる法律問題の中でも、特に民法に関する事例を検討する。授業では、具体的な事例を通して、問題発見能力を養うとともに、民法（特に民法総則・物権）の基礎的知識を修得する。 また、法科大学院進学、行政職公務員試験、司法書士・行政書士・宅建士など、民法が必要となる国家試験受験のための基礎力を養うことも目標のひとつとする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 民法総則・物権に関する基本的な事項について理解し、説明することができる。 2. 民法総則・物権に関する事例について、事案を正確に理解し、問題点を指摘して、解決方法を説明できる。 3. 他者と協力して共同調査・共同での報告・質疑応答へ参加できる。 1. については、日常生活における基本的な法律問題に対して、何が問題となっているのかを理解し、条文を使って問題解決を図る基礎的能力を養うことを目標とする。 2. については、民法総則・物権に関連する事例を通して、事案を正確に理解し、問題点を把握した上で、民法総則・物権の基礎的知識を修得することを目標とする。 3. については、共同での調査報告（各回の報告はグループ単位で行う）・質疑応答・討論を通して、楽しみながら自主的に学ぶ姿勢を身につけることを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	作成したレジュメについて、授業中や授業外の時間に講評やより良いレジュメにするためのアドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。各受講生が使っている民法に関するテキストを使用・持参してください（民法総則・物権法の授業で使用するものを予定していますが、手持ちのテキストがある場合には新たに購入する必要はありません）。	ISBN	該当なし
参考書	普段使っている民法に関するテキスト・参考書を使用してください。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	民法に興味があり、ゼミに積極的に参加する意欲のある者の履修を期待している。 特に、法科大学院進学、行政職公務員、司法書士・行政書士・宅建士などの国家資格取得などを 目指している者には、積極的に履修してもらいたい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介、テキスト・ゼミの運営方法・各回の報告グループの決定などを行う。	事前に民法総則・物権法の全体を予習しておく。 事後に各自の報告部分の予習をはじめるとともに、報告担当グループのメンバーでレジュメ作成等の報告準備の計画をたて、準備を進める。	4時間
第2回	対面	民法総則：民法の基本原則・権利濫用・信義則 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「民法の基本原則・権利濫用・信義則」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「民法の基本原則・権利濫用・信義則」に関するテキストを通読する。	4時間
第3回	対面	民法総則：人（権利能力・制限行為能力者・失踪宣告） 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「人（権利能力・制限行為能力者・失踪宣告）」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「人（権利能力・制限行為能力者・失踪宣告）」に関するテキストを通読する。	4時間
第4回	対面	民法総則：法人・中間法人・権利能力なき社団 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「法人・中間法人・権利能力なき社団」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「法人・中間法人・権利能力なき社団」に関するテキストを通読する。	4時間
第5回	対面	民法総則：法律行為 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「法律行為」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「法律行為」に関するテキストを通読する。	4時間
第6回	対面	民法総則：代理 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「代理」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「代理」に関するテキストを通読する。	4時間
第7回	対面	民法総則：時効 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「時効」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「時効」に関するテキストを通読する。	4時間
第8回	対面	物権：公示の原則・公信の原則・物権的請求権・物権変動の時期 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「公示の原則・公信の原則・物権的請求権・物権変動の時期」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「公示の原則・公信の原則・物権的請求権・物権変動の時期」に関するテキストを通読する。	4時間
第9回	対面	物権：物権変動 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「物権変動」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「物	4時間

			権変動」に関するテキストを通読する。	
第10回	オンデマンド	課題レポートを提出することで、第10回授業に振り替える。	レポート課題の内容や提出方法等については、ラーニングポータル等で案内するので、課題の内容を確認し、作成して提出すること。	4時間
第11回	対面	物権：占有権 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「占有権」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「占有権」に関するテキストを通読する。	4時間
第12回	対面	物権：所有権 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「所有権」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「所有権」に関するテキストを通読する。	4時間
第13回	対面	物権：通行地役権・入会権・質権 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「通行地役権・入会権・質権」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「通行地役権・入会権・質権」に関するテキストを通読する。	4時間
第14回	対面	物権：抵当権 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「抵当権」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「抵当権」に関するテキストを通読する。	4時間
第15回	対面	物権：非典型担保 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「非典型担保」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは報告レジュメを作成する 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「非典型担保」に関するテキストを通読する。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法に基づく警察活動 ～犯罪捜査に求められるもの～		
授業の目的及び概要	警察活動（主として犯罪捜査）に対する基本的な心構えや法的手続きなどについて理解することを目的としています。 犯罪捜査は、他人の悪事を摘発する仕事であり、それだけに、捜査官には常に公正、誠実な態度が求められるほか、刑事訴訟法等に規定されている権限や手続きを遵守することが求められます。そのため、実際の犯罪現場における捜査の現状や捜査に必要な基礎的知識を修得し、適正な犯罪捜査について研究します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①捜査の端緒（捜査機関が犯罪を疑うきっかけとなる情報等）となるものは何か、それを元に犯罪捜査はどのように行われているかを理解し、説明することができる。 ②捜査を進める上でその根拠となる各種法令（刑事訴訟法等）について研究・理解し、説明することができる。 ③捜査手続きに関する適法性・違法性の判断基準（過去の判例に基づく）について理解し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究課題のレポートには、授業中にコメント、補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配付します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義 第4版、津田隆好、東京法令出版、2019年4月 ②実例中心捜査法解説 第4版 ―捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門―、幕田英雄、東京法令出版、2019年4月 ③刑事訴訟法講義 第7版、池田修。前田雅英、東京大学出版会、2022年7月	ISBN	① 9784809013959 ② 9784809013973 ③ 9784130323963
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	社会のどこかで犯罪が起こって平穏が破られると、警察による捜査活動が開始されます。犯罪捜査は、警察官の任務のうちで、最も基本的なものの一つであり、ある犯罪が発生したとき、		

あたって	その被害者や関係者は勿論、広く国民からも捜査に対し、大きな期待が寄せられます。そのため警察官は誰もが捜査官としての自覚と誇りを持ち、どのような事件に直面しても、これを適切に処理し、解決していくだけの捜査能力を身につける必要があります。 本演習では、公安職を目指す学生がこうした捜査官に求められる職務倫理や心構え、捜査に求められる法的知識や実務能力などを身につけ、即戦力としての人材になれるよう、最大限のサポートを図っていきたいと考えています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 春学期の授業方針の説明を行い、各発表グループを編成し、以降の授業の進め方について意思統一を図ります。 各発表グループごとの研究テーマを選定します。	【予習】ガイダンスで示した授業概要や研究テーマの概略等について、関係する法令や判例等について勉強しておくこと。 【復習】授業内で示した授業方針、授業計画をよく理解しておくこと。配布した資料や講義内容に基づき、自分でノート等を熟読し、理解を深めておくこと。	4時間
第2回	対面	研究テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題について、検討を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第3回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第4回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第5回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第6回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第7回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第8回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担③」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。	4時間

			【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	
第9回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等などの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておくこと。	4 時間
第10回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等などの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておくこと。	4 時間
第11回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備①」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分、内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておくこと。	4 時間
第12回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分、内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておくこと。	4 時間
第13回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルをしておくこと。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておくこと。	4 時間
第14回	対面	「研究結果の発表と全体討議②」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルをしておくこと。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期の振り返りと総括を行います。	【予習】春学期の学修結果について、まとめをしておくこと。 【復習】春学期の自身の学修結果について総括し、ノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	大場 史朗	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	再審からはじめる刑事手続法入門（１）		
授業の目的及び概要	（目的） 2024 年 9 月 26 日、袴田巖さんに再審無罪判決が言い渡されました。戦後 5 例目の死刑確定者に対する再審無罪判決です。どうしてこのようなことが起こるのでしょうか、また、二度と起こさないようにするためにはどうすればよいのでしょうか。この演習では、「無辜（むこ）の不処罰」を体現する再審請求事件から学びつつ、わたしたちの社会を支えている刑事手続について考えていきます。関連して少年法についても学びます。 （概要） 受講生に刑事手続に関する論点につき報告してもらい、質疑応答・議論を行います。また、担当教員が適宜、議論の整理・解説を行います。グループで協力して発表してもらうこともあります。映画や動画教材等は刑事手続の流れ、論点などを理解する一助とし、刑事手続に関する理論的な検討を中心に授業を行います。刑事模擬裁判を実施することがあります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）刑事手続の基本的な概念および全体像を理解し、説明することができる。 （２）刑事手続に関する精確な現状分析をすることができる。 （３）他人の痛みを自分の痛みにすることができる（人権感覚の涵養）。 （４）相手の意見を尊重し、それに対して自分の意見を言うことができる。 （５）チームワークを身に付けることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	基本刑事訴訟法 1－手続理解編，吉開多一ほか著，日本評論社，2020 年 『六法』（小型のもので可）を毎回持参のこと。	ISBN	978-4535524194
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この演習では半期に必ず 1～2 回報告（発表）を担当し、別途レポート（刑事裁判傍聴レポートなど）も課すことがあるため、必ずしも「楽」な演習ではありません。また、報告準備には資料やテキスト等を熟読する必要があるため、一定の熱量と事前学習が必要です。もっとも教		

員ができる限りサポートしますので心配は不要です。対面での対話の重要性を大切にしながら、みなさんと一緒に刑事法に関わる諸問題について積極的に意見交換し、楽しい演習にしたいと思っています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介、授業の進め方などのレクチャー。 ＊授業計画は柔軟に変更することがあります	【予習】担当教員が指示したテキスト等を通読してきてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第2回	対面	受講生による報告と議論（1）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第3回	対面	受講生による報告と議論（2）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第4回	対面	受講生による報告と議論（3）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第5回	対面	受講生による報告と議論（4）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第6回	対面	受講生による報告と議論（5）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第7回	対面	受講生による報告と議論（6）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第8回	対面	受講生による報告と議論（7）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第9回	対面	受講生による報告と議論（8）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第10回	対面	受講生による報告と議論（9）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第11回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第12回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第13回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分	4時間

			を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第14回	対面	まとめ 半期のまとめと総括	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	刑事裁判傍聴 各自で裁判所に行き、刑事裁判を傍聴してレポートを提出	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読み、刑事裁判の流れを確認してください。 【復習】テキストを読み直し、刑事裁判傍聴で得た知識等を確認してください。	4 時間

科目名	演習ⅠA	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察と法～警察官としての判断基準と行動原理～		
授業の目的及び概要	国家存立の基盤の一つである治安維持を担う警察について、「警察官の身分、服務などはどうなっているのか」などについて学ぶことにより警察官として職務を執行する上において、法的根拠に基づく揺るぎない「判断基準」と「行動原理」を習得する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 公務員の仕事は社会全体への奉仕の道である。全体の奉仕者として社会に貢献し、治安に当たる職業が理解できる。 ・ 地方公務員法に規定されている公務員としての警察官の身分や服務等の基本的知識が習得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 次回授業でコメントシートを紹介し、質問への回答や補足説明を行い、理解を深めます。 ・ 授業で発表、討議した研究結果はその都度授業で担当教員から実学に直結する講評をコメントします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	・ 指定しません。 ・ 教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
参考書	・ 指定しません。 ・ 関連する規則、条例等についてはその都度紹介する。	ISBN	なし。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道である。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。 ・ しかし警察官として36年間勤務した私が確信しているのは、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援していることです。その人達のたった一		

	つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。 ・ 「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ 自己紹介、授業方針の説明を行い、発表グループを編成、受講生の意思統一を構築する。 ・ 授業計画は必要性、受講生の希望等により変更することがある。 ・ 担当教員が地方公務員法について概説する。 ・ 担当教員が地方公務員法に関する次の研究発表課題を提示する。	地方公務員法の概要について読了しておくこと。担当教員が地方公務員法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第2回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が地方公務員法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第3回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が地方公務員法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第4回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が地方公務員法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第5回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が地方公務員法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第6回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで討議した、地方公務員法に関する小テストを行うので、予習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として前半の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第8回	対面	前半の総括を実施し、後半の演習に反映する。	春学期前半の総括結果を復習しておくこと。当教員が地方公務員法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第9回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が地方公務員法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第10回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表	授業で研究、討議した課題についてノートに整理し	4 時間

		後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	て復習しておくこと。担当教員が地方公務員法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	
第11回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が地方公務員法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第12回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が地方公務員法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第13回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで研究、討議した、地方公務員法に関する小テストを行うので、予習しておくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として春学期の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第15回	対面	春学期の演習を振り返り総括を行う。	復習として春学期の自身の学修結果に関してノートにまとめ総括しておくこと。	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	企業（会社・個人事業）に関わる法的問題を考える。		
授業の目的及び概要	私たちは、生きていくために働く。自分一人でモノ作りなどして働く者もいれば、プロスポーツ選手もいるし、自ら起業して人を雇う者、会社を立ち上げて経営する者、会社に就職して働く者、さまざまである。ただ、その周りには、必ず誰かが存在し、トラブルや法的問題が生じることが少なくない。 大雑把に言えば、そのようなビジネスに関わる法的問題に関心を寄せ、それらを検討・分析・議論し、一定の結論に導き、それを報告することにより、今後の人生に活かすことができることを目的とする。 演習は、受け身ではなく、自分で考え、疑問があれば質問し、自由に見解を述べるのが最も重要であり、それこそが将来にも役立つ。 演習の進め方は（１）ビジネスシーンで起こりうる事件を題材に、個人またはグループで検討し、報告する。 （２）報告者以外のメンバーも同じ題材を学修し、質疑やディスカッションを積極的に行う。 演習の人数規模やメンバーの興味関心により、進め方は柔軟に変更する。		
履修条件・留意点	演習は、自分自身で学修することはもちろんのこと、他者の報告・発表を聞き、議論に参加することが重要である。 この点で、講義科目とは異なる。 したがって、欠席が多い場合、たとえ自分自身の報告等がきちんとされたとしても、演習科目の目標到達点に達しないものと判断される場合があることに留意する必要がある。 原則として全部の演習に参加することが求められる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・積極的に自分の意見を述べることができる。 ・企業に関する基礎的な法的知識を獲得することができる。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を獲得することができる。 ・論理的・発展的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表・報告内容については、レジュメ等を含めて授業内において、修正・アドバイスを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。	ISBN	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	ゼミは、仲間とともに楽しく有意義な時間を過ごす素晴らしい機会です。ただ、ダラダラと楽しむのではなく、ゼミ生の皆さんが「自分自身を鍛える」ため、毎週決まった時間に集まる楽しい勉強会としたい。 メリハリをつけて一緒に頑張りましょう。 積極的・意欲的に楽しく学修しようとする皆さんの参加をお待ちしています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介、授業の進め方・報告方法の説明、報告者の決定。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第2回	対面	判例の検索方法・レジュメの作成方法・報告方法の説明。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第3回	対面	受講生による報告と議論（1）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第4回	対面	受講生による報告と議論（2）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第5回	対面	受講生による報告と議論（3）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第6回	対面	受講生による報告と議論（4）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第7回	対面	受講生による報告と議論（5）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第8回	対面	受講生による報告と議論（6）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第9回	対面	受講生による報告と議論（7）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第10回	対面	受講生による報告と議論（8）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第11回	対面	受講生による報告と議論（9）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間

第12回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第13回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第14回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	吉川 貴代	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律と地方自治体の政策形成		
授業の目的及び概要	法律が自治体の政策を変えるか、自治体がどのように政策を形成するのかを学びます。地方自治体では法律や条例を適正に運用することが基本です。私たちが暮らす社会は日々変化するなかで、新たな課題が生じています。そこで、法律が制定あるいは改正されます。地方自治体では、それらに伴う対応として、条例制定・改廃、計画策定などを行い、地域の実情に応じた政策を展開しています。 授業では、日本社会で問題となっている「人口減少・少子高齢化」に関して、2023 年 4 月に施行された「こども基本法」等を題材に、法律の内容、制定された背景、地方自治体での政策形成の実際を学びます。また、その前提として、「少子高齢化・人口減少」の現状を統計資料から読み解きます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文献や資料を読み解き、レポートを書き、発表することができる。 ・発表等を聞いて質問でき、また、質問に答えることができる。 ・法律が、自治体の政策形成につながるということを学ぶ。 ・実務家の話を直接聞くことで、地方自治体における政策形成と実践を学ぶことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表等については授業中に講評します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定の教科書は使用せず、資料等は授業で紹介します。	ISBN	なし
参考書	①『改訂版 これからの地方自治の教科書』大森彌・大杉寛著、第一法規、2021 年 ②『公務員という仕事』村木厚子著、ちくまプリマー新書、2020 年 ③『地方消滅2 加速する少子化と新たな人口ビジョン』人口戦略会議編著、中公新書、2024 年 ④『＜共働き・共育＞世代の本音 新しいキャリア観が社会を変える』本道敦子・山谷真名・和田みゆき著、光文社新書、2024 年 ⑤『未婚と少子化 この国で子どもを産みにくい理由』筒井淳也著、PHP 新書、2023 年	ISBN	①978-4-474-07699-0 ②978-4-480-68376-2 ③978-4-12-102830-3 ④978-4-334-10249-4 ⑤978-4-569-85616-2
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・教員は基礎自治体で 36 年間の実務経験があります。 ・公務員の仕事、地方自治体の政策形成と実践に興味がある学生の履修を期待しています。教員の自治体での実務経験も交えて、授業を進めます。少子高齢化という身近な問題を通じて、法律と自治体の政策形成を学べます。 ・授業は原則出席です。ゼミに積極的に参加することを期待しています。 ・文献や資料を読み、発表やレポート作成は大変ですが、表現力や文章力の向上につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション 自己紹介 進め方 グループ分けなど。	【予習】シラバスを事前に読み、こども家庭庁ホームページで「こども基本法」を調べておいてください。(2 時間) 【復習】配布資料を使って、授業内容を復習してください。(2 時間)	4 時間
第 2 回	対面	少子高齢化の現状と推移（講義） 残りの時間で自己紹介プレゼンテーション 1	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料で復習し、住んでいる自治体の人口の推移を確認すること。(2 時間)	4 時間
第 3 回	対面	少子化対策(1) 子どもに関する様々な法律（講義） 残りの時間で、自己紹介プレゼンテーション 2	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料で復習すること。(2 時間)	4 時間
第 4 回	対面	少子化対策(2) 「こども基本法」ができるまで（講義） 残りの時間で、自己紹介プレゼンテーション 3	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料で復習すること。(2 時間)	4 時間
第 5 回	対面	輪読(1) 「令和 6 年度版こども白書」 発表担当のグループはレジメを事前にラーニング・ポータルに掲載すること。	【予習】第 1 部第 1 章をあらかじめ読んでおくこと。(2 時間) 【復習】発表者のレジメを使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第 6 回	対面	輪読(2) 「令和 6 年度版こども白書」 発表担当のグループはレジメを事前にラーニング・ポータルに掲載すること。	【予習】第 1 部第 2 章をあらかじめ読んでおくこと。(2 時間) 【復習】発表者のレジメを使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第 7 回	対面	輪読(3) 「令和 6 年度版こども白書」 発表担当のグループはレジメを事前にラーニング・ポータルに掲載すること。	【予習】第 1 部第 3 章をあらかじめ読んでおくこと。(2 時間) 【復習】発表者のレジメを使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第 8 回	対面	輪読(4) 「令和 6 年度版こども白書」 発表担当のグループはレジメを事前にラーニング・ポータルに掲載すること。	【予習】第 2 部第 1 章をあらかじめ読んでおくこと。(2 時間) 【復習】発表者のレジメを使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第 9 回	対面	輪読(5) 「令和 6 年度版こども白書」 発表担当のグループはレジメを事前にラーニング・ポータルに掲載すること。	【予習】第 2 部第 2 章をあらかじめ読んでおくこと。(2 時間) 【復習】発表者のレジメを使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第 10 回	対面	輪読(6) 「令和 6 年度版こども白書」 発表担当のグループはレジメを事前にラーニング・ポータルに掲載すること。	【予習】第 2 部第 3 章をあらかじめ読んでおくこと。(2 時間) 【復習】発表者のレジメを使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第 11 回	対面	自治体の政策形成・実施プロセス（講義）	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。(2 時間)	4 時間

			【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。 (2 時間)	
第 1 2 回	対面	自治体の政策形成と実践(1) ゲストスピーカーによる講義	【予習】事前に掲載する資料を一読しておき、ゲスト スピーカーへの質問を考えておくこと。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。 (2 時間)	4 時間
第 1 3 回	対面	自治体の政策形成と実践(2) ゲストスピーカーによる講義	【予習】事前に掲載する資料を一読しておき、ゲスト スピーカーへの質問を考えておくこと。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。 (2 時間)	4 時間
第 1 4 回	対面	自治体の政策形成と実践(3) ゲストスピーカーによる講義の振り返り 市町村こども計画について	【予習】事前に掲載する資料を一読しておくこと。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。 (2 時間)	4 時間
第 1 5 回	オンデ マンド	春学期のまとめ 秋学期に向けて	【予習】事前に掲載する資料を一読しておくこと。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。 (2 時間)	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	犯罪捜査と法 ～犯罪捜査における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	犯罪捜査の実情とその法手続きについて理解することを目的としています。犯罪捜査において、「犯罪とはどのようにして認知しているのか」「その捜査はどのように行われているのか」など、実際の現場における捜査の現状やそれに必要な基礎的知識を修得し、犯罪に対してとるべき適法な捜査手続きについて研究をします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①犯罪捜査がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②捜査手続きに関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件に対する犯罪捜査の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究課題のレポート等には、授業中にコメント、補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義 第4版, 津田隆好, 東京法令出版, 2019 年4月 ②実例中心捜査法解説 第4版 ―捜査手続・証拠法の詳説と公判手続入門―, 幕田英雄, 東京法令出版, 2019 年4月 ③刑事訴訟法講義 第7版, 池田修・前田雅英, 東京大学出版会, 2022 年7月	ISBN	①9784809013959 ②9784809013973 ③9784130323963
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「捜査」というと「刑事がやるもの」と認識している学生が多いかも知れませんが、警察官となり交番に配属された段階から、また刑事だけではなく生活安全、交通、警備の各部門に配属されても「捜査」は必要とされます。また、警察以外の海上保安官、入国警備官、自衛隊の警		

	務官などの公安職においても、刑事訴訟法に規定された特別司法警察職員として捜査に従事しなければなりません。公安職を目指す学生が即戦力となるためには、実際の犯罪捜査の基礎を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。本演習はそのような学生に非常に有益だと思います。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査の実務で要求される知識・技能などを伝えたいと考えています。 オンデマンド授業については、学年歴により実施回を変更する場合があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	自己紹介、授業方針の説明等のガイダンスを行います。 研究発表グループの編成を行います。 捜査手続きの流れについて学修します。	【予習】シラバスを事前に読んでおく。自己紹介内容（本演習選択の動機、自己の目標、演習に関する希望等）について、自分の意見をまとめておく。 【復習】担当教員が示した授業方針、授業計画を基に「警察捜査」に関する法令・制度等について自己研鑽する。	4 時間
第2回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第3回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第4回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第5回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第6回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第7回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第8回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第9回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間

第10回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第11回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第12回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第13回	オンデマンド	課題提出	【予習】担当教員が提示した課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめて期限までに提出しておく。 【復習】授業で示された教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第14回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の演習を振り返り、総括を行います。	【予習】春学期の自身の学習結果に関する総括をしておく。 【復習】春学期の自身の学習結果に関する総括に基づき、秋学期の目標をたてる。	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働問題や労働現場の実態について判例を検討する		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生、企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法であります。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要だと思います。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に、実際の労働現場でどのような利益対立があり、それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々、演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的な労働判例における利害関係、争点、具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導します。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要、争点、事実認定、判断根拠、判定理由順に検討および発表してもらい、その後、担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり、結論を出します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	荒木尚志・奥田香子外多数『ケースブック労働法第 4 版』有斐閣 2019 年 村中講史・荒木尚志『労働判例百選 第 10 版』有斐閣 2022 年	ISBN	9784641144743C1032 9784641115576C9432
参考書	村中孝史・荒木尚志『労働判例百選第 10 版』有斐閣、2022 年 ISBN 9784641115576 野田進外多数『判例労働法入門第 7 版』有斐閣、2021 年 ISBN 9784641243477	ISBN	9784641115576 9784641243477
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強します。雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になるだろうと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者を決めます。	【予習】シラバスを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4時間
第2回	対面	主題：大日本印刷事件 - 労働法の位置	【予習】大日本印刷事件に対して事件の概要を把握し、労働法の位置を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第3回	対面	主題：高知放送事件 - 基本構造	【予習】高知放送事件に対して事件の概要を把握し、労働法の基本構造を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第4回	対面	主題：横浜南労基署長事件 - 労働者性	【予習】横浜南労基署長事件に対して事件概要を把握し、労働者性を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第5回	対面	主題：朝日放送事件 - 使用者性	【予習】朝日放送事件に対して事件概要を把握し、使用者性を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第6回	対面	主題：三菱樹脂事件 - 採用の自由	【予習】三菱樹脂事件に対して、事件概要を把握し、採用の自由を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第7回	対面	主題：電電公社近畿電通局事件 - 採用内定	【予習】電電公社近畿電通局事件に対して、事件概要を把握し、採用内定を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第8回	対面	主題：B 金融公庫事件 - 採用過程とプライバシー	【予習】B 金融公庫事件に対して、事件概要を把握し、採用過程とプライバシーを理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第9回	対面	主題：神戸弘陵学園事件 - 労働契約期間	【予習】神戸弘陵学園事件に対して、事件概要を把握し、労働契約期間を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第10回	対面	主題：日立メディコ事件 - 雇止め法理	【予習】日立メディコ事件に対して、事件概要を把握し、雇止め法理を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第11回	対面	主題：茨石事件 - 労働義務	【予習】茨石事件に対して、事件概要を把握し、労働義務を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第12回	対面	主題：片山組事件 - 賃金支払い義務	【予習】片山組事件に対して、事件概要を把握し、賃金支払い義務を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第13回	対面	主題：秋北バス事件 - 就業規則の法的性質	【予習】秋北バス事件に対して、事件概要を把握し、就業規則の法的性質を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第14回	対面	主題：スカンジナビア航空事件 - 労働契約の変更	【予習】スカンジナビア航空事件に対して、事件概要を把握し、労働契約の変更を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間

2025/05/01

第 1 5 回	オンデ マンド	総括まとめ	総合的に整理する。	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	松山 沙織	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	いろんなメディアで国際法を学ぶ		
授業の目的及び概要	国際社会における諸問題についての法的アプローチについて、ニュースや映画、SNS 等のメディアを通じて立体的に学ぶ。同時に、参考文献の調べ方（図書館リソースやインターネット検索ツールの使い方）、資料の扱い方（読み方や出典表記の方法）、報告や議論の技術（建設的な議論のための批判的思考）等、社会人として不可欠な技術を習得することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際紛争処理に関する基本的知識の取得はもちろんのこと、国際法関連文献の読解および分析の作業に慣れてもらう。また、報告や模擬裁判を通じて、国際的な問題を「自分事」のように感じて、（国際）法的感覚を養ってもらいたい。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り上げるテーマや報告については、授業中に解説および講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	<基本書・体系書> 自分に合う基本書等がすでにある場合それを使ってもよい（下記は教員のおすすめ） ①国際法 第5版，中谷和弘ほか，有斐閣，2024 年 <判例集> これも基本書と同様、自分に合うものがすでにある場合それを使ってもよい（下記は教員のおすすめ） ②薬師寺公夫他（編），判例国際法（第3版），東信堂，2019 年 ③森川幸一他（編），国際法判例百選（第3版），有斐閣，2021 年 上記テキストに加えて、条約集を毎回持参してください（毎年出版されるので最新版を用意）。下記のうち、いずれか1冊を選ぶ。 ④国際条約集 2025 年版，有斐閣，2025 年3月出版予定 ⑤ベーシック条約集 2025，東信堂，2025 年3月出版予定	ISBN	①9784641222304 ②9784798915586 ③9784641115552 ④・⑤2025 年3月に出版予定のため未記載
参考書	その他参考となる書籍・資料については適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	90	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	10
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション（自己紹介、今後の進行の相談）、本演習における Teams の使い方 ＊春学期は SDGs の各ゴールを題材とした報告を実施することを検討中	（予習）指定のテキストや条約集を通覧し（最低限の準備としてテキストの目次に目を通すこと）、関心のあるテーマ/判例をできるだけ複数ピックアップする（1時間）。 （復習）担当となったテーマ/判例について、何が「法的」論点となっているのか理解する。またグループ報告を希望する場合、グループの内部で連絡手段・相談のスケジュールを相談する。（3時間）。	4時間
第2回	対面	演習の題材となったテーマ/判例の基本的論点の解説、春学期に取り組む課題詳細説明	（予習）担当となったテーマ/判例について、法的論点や関連する事項についてさらに掘り下げて調べる（1時間）。 （復習）解説を踏まえて、報告に向けて準備する（3時間）。	4時間
第3回	対面	資料の探し方①	（予習）事前課題として図書館やインターネットのリソースを使用する練習をする（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第4回	対面	資料の探し方②（提出された資料の妥当性についてレビュー）	（予習）使用する資料を探し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第5回	対面	資料の探し方③（提出された資料の妥当性についてレビュー）	（予習）使用する資料を探し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第6回	対面	資料の読み方①	（予習）事前に配布された資料を通読する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第7回	対面	資料の読み方②（各自が作成した資料まとめについてレビュー）	（予習）資料まとめを作成し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第8回	対面	資料の読み方③（各自が作成した資料まとめについてレビュー）	（予習）資料まとめを作成し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第9回	対面	発表・報告のための技術、質疑応答のための技術	（予習）事前に共有された資料を確認する（1時間）。 （復習）報告に向けて準備する（3時間）。	4時間
第10回	オンデマンド	オンデマンド回（発表に向けた資料のブラッシュアップのための課題に取り組む）	動画を確認し、報告準備を行う。	4時間
第11回	対面	報告会①	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。 （復習）担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第12回	対面	報告会②	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。 （復習）担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第13回	対面	報告会③	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。	4時間

			(復習) 担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する (3 時間)。	
第 14 回	対面	報告会④	(予習) 報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく (1 時間)。 (復習) 担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する (3 時間)。	4 時間
第 15 回	対面	学期の総括、秋学期に向けた準備説明	(予習) 今学期の内容について、各自で振り返りを行い、教員への要望、反省点をまとめる (1 時間)。 (復習) 担当あるいは担当以外のテーマや判例について、各自の関心に応じて関連事項を調べる (3 時間)。	4 時間

科目名	演習ⅠA	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	会社法に関する基本的研究および判例研究		
授業の目的及び概要	本演習では、商事法分野、特に会社法を中心に、主要な論点を通じて、その専門性を高めることを目的とする。あわせて、ゼミ生が、テーマに応じ、順番にプレゼンテーションを行い、議論することで、法律知識を修得し、社会に生起するさまざまなケースについて、問題点を法律的に把握し、整理し、対処するための能力を養成する。また、学生の進路希望に応じ、小論文等の指導を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1)商法および会社法全体の構造を理解できる (2)社会人となるための最低限必要な基礎概念を習得する (3)商法および会社法の主要な論点について、判例・通説を中心に理解する (4)商法および会社法の条文の意味を理解する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	ディスカッション、ディベート、討議 グループワーク、ペアワーク、プレゼンテーション、発表を通じて、学習の確認を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	適宜、指定する。	ISBN	なし
参考書	会社法 、宮島司 著。	ISBN	978-4-335-35945-3
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	本授業のガイダンス、演習運営の説明、報告者・報告判例の決定。	事前学修：自分の発表する内容を検討する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4 時間

第2回	対面	会社の意義と性質… 会社の意義、会社の性質、会社の種類 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第1章を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第3回	対面	会社法の意義と法源 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第2章第1節～第3節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第4回	対面	会社法総則…商号、会社の使用人、代理商、事業譲渡の禁止事項 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第2章第4節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第5回	対面	持分会社…持分会社の種類（合名会社、合資会社、合同会社、社員の責任、誤認行為、定款変更） 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第3章第1節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第6回	対面	株式会社の意義と性質…組織性と団体としての特質、法人性に関する特質 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第3章第2節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第7回	対面	会社の設立…持分会社の設立と株式会社の設立。 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第4章第1節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第8回	対面	会社の設立手続き…定款の作成、発起人の署名、公証人の認証、検査役の選任、定款の備置および閲覧。 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第4章第2節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第9回	対面	会社設立の責任…発起人、設立時取締役、監査役の責任。 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第4章第2節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第10回	対面	会社設立の無効…設立無効の原因と効果。 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第4章第2節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第11回	対面	持分会社の意義と構造…持分の譲渡と質入、社員の加入と退社。 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第5章第1節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第12回	対面	株式の意義…株式制度、単元株制度、株式併合と株式分割。 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第5章第2節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第13回	対面	株式の内容と種類…株式の内容および株式の種類。 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第5章第2節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第14回	対面	株式の譲渡と質入…株式譲渡と株式の質入。 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第5章第2節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4時間
第15回	オンデ	本演習における会社法に関する具体的事	事前学修：報告者は、報告内容をまとめ、報告レジュ	4時間

2025/05/01

	マンド	件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。 春学期の演習全体の総括。	メを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する（2 時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2 時間）	

科目名	演習ⅠA	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法不法行為法の基礎		
授業の目的及び概要	民法の法律問題の中で基礎的な問題を学ぶ。分野は不法行為法を中心とする。不法行為分野における重要な判例を取り上げ、事実関係を分析し、問題点を明らかにし、裁判所の判断を検討する。 授業において各担当者が個々の判決について検討・報告し、その後、全員で議論する。集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々な部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 不法行為法に関する基本的な事項について理解し、判断することができる。 2. 不法行為法に関する事例において、事案を正確に把握し、問題点を整理し、裁判所の判断を的確に説明できる。 3. 報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 4. 報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べるることができる。 5. 各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについての事前に質疑を受け、事後に意見を述べ。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①民法判例百選Ⅱ 債権 第9版, 窪田 充見、森田 宏樹, 有斐閣, 2023 年	ISBN	①978-4-641-11563-7
参考書	事前に指示した判例について検討するために、各種判例集(民集、判例時報、判例タイムズ)、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	民法に関心があり、積極的に参加することを希望します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介から始めます。 その後、ゼミの方法を説明し、取り上げる判決を紹介し、各人の担当を決定する。	取り上げる判決については、民法判例百選Ⅱの中の過失の意義——1. 大阪アルカリ事件、2. 医療機関に要求される医療水準の判断——姫路日赤未熟児網膜症事、3. 建物の設計・施工者の責任、4. 通常有すべき安全性——イレッサ薬害訴訟、5. 因果関係の立証——東大病院リンパ腫事件、6. 生存の相当程度の可能性、7. 景観利益——国立マンション事件、8. 意見ないし論評の表明と名誉毀損、9. 未成年者と監督義務者の責任、10. 取引先の外観信頼、11. 使用者から被用者への求償権の制限、12. 共同不法行為の要件、13. 共同不法行為と使用者責任の競合と求償、14. 民法416条と不法行為、15. 企業損害（間接損害）、16. 年少女子の逸失利益と家事労働分の加算、17. 過失相殺と身体的特徴の斟酌、18. 共同不法行為と過失相殺、民法判例百選Ⅰの中の19. 権利濫用、20. 北方ジャーナル事件、その他、21. 国賠事件等の中から当日に選ぶ。	4 時間
第2回	対面	2回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。テーマは前回示したものの中の余ったものの中の一つになる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第3回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第4回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第5回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第6回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第7回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第8回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第9回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第10回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第11回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマ	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の	4 時間

		の順番となる。	議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	
第12回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第13回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第14回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第15回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地域の子ども・若者・教育政策について考える		
授業の目的及び概要	教育は学校だけで行われているわけではありません。子どものよりよい育ちのためには、コミュニティ全体で総合的に子どもやその家庭を支えていくことが必要であるという立場から、主に子ども、青少年を中心とした教育政策、地域政策、子ども政策について考えていきます。問題のよりよい解決方法を考える際に、諸外国の事例を参考にすることもあります。 授業では、まず、「問題だ」と思われていることは、本当に問題なのか、どのような点が問題なのかについて、文献や資料を通して考えていきます。 これらの学びを通して、社会や地域の課題について分析、理解し、解決策を模索する力を高めることを目的としています。そして、社会における諸課題から、法律の意義について考えます。授業で扱うテーマについては、オリエンテーションで受講生の興味や関心について聞き取り、検討していきます。 授業では、まずは導入として文献購読から始め、関心の幅を広げるとともに、課題に取り組むための基礎力を身につけます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 課題を多角的にとらえ、理解し、よりよい解決策を導こうとすることができる。 ・ テーマに沿った適切な資料を収集でき、また資料の善し悪しを判断できる。 ・ 資料を適切にまとめ、発表することができる。 ・ テーマに沿って適切な質問をすること、質問に適切に対応することができる。 ・ 教育、子ども、若者等の現状から、その問題に関係する法律について考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
参考書	教育法規スタートアップ・ネクスト ver.2.0 , 高見 茂 開沼 太郎 宮村 裕子 編, 昭和堂, 2023	ISBN	9784812222256
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ 授業業は出席が原則です。欠席する場合は事前に連絡をしてください。特に発表担当回の無断欠席は大幅な減点とします。 ・ 授業では発表や議論、レポートに積極的に取り組んでもらいたいと考えています。		

・ 法律に直接向き合う演習ではありませんが、子どもや教育に関する問題を中心に引き上げ、その背景にある社会の状況、制度についてじっくりと考えることを通して、法学の学びにつなげてもらえればと考えています

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介、授業の進め方について 扱うテーマについて	【予習】近年の教育、若者、子どもの問題、課題について考える。 【復習】自らが関心のある教育、若者、子どもの課題について調べてみる。	4 時間
第2回	対面	文献の読み方	【復習】配布された資料をよく読んで理解し、問いを立てる。	4 時間
第3回	対面	文献の探し方、図書館の活用	【復習】必要な文献を検索する。	4 時間
第4回	対面	発表の方法、レジュメの作成	【復習】配布された資料をよく理解し、レジュメを作成する。	4 時間
第5回	対面	受講生による報告と議論（1）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第6回	対面	受講生による報告と議論（2）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第7回	対面	受講生による報告と議論（3）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第8回	対面	受講生による報告と議論（4）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第9回	対面	受講生による報告と議論（5）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第10回	対面	受講生による報告と議論（6）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第11回	対面	受講生による報告と議論（7）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第12回	対面	受講生による報告と議論（8）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第13回	対面	受講生による報告と議論（9）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第14回	対面	まとめ	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間

2025/05/01

第 1 5 回	オンデマンド	春学期のまとめのレポートの作成	【復習】春学期のまとめレポートを作成する。	4 時間

科目名	演習ⅠA	開講年度	2025
担当者	手嶋 豊	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法・財産法分野の最高裁判例の検討		
授業の目的及び概要	民法総則・物権法に関する最高裁判決のうち、当該領域を学ぶ者にとって重要かつ基本的知識としてもっていることが必要と思われるものを選んで検討し、民法・財産法の理解を確かなものにするを目的とする。授業では、判例の学習を通じて、民法総則・物権法の基礎知識を確かなものとする。		
履修条件・留意点	民法・財産法は、全体を俯瞰することで理解が進む側面がある。可能な限り早く、民法全体を学ぶことをお勧めするが、本演習はその助けとなりうるものである。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法総則・物権法に関する基礎知識を確かなものとする。 ・民法総則・物権法領域について、典型的な、あるいは特有の紛争事例を知り、それらの知識を通じて、新たな問題への解決の指針を示すことができるようになること。 ・演習を通じて、共同報告や質疑応答を実施できる、実践的な経験を得ること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・報告・レジュメに対する講評・アドバイスを演習中に行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	該当しない
参考書	指定しない。	ISBN	該当しない。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	各種試験合格など、目標をもって、積極的に民法を学ぼうという意欲のある皆さんの参加を期待している。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	演習全体のオリエンテーション。演習の進め方、自己紹介、担当判決の割当て、到達目標等についてのガイダンス。	事前学修：民法総則・物権法について、総復習をしておく。3時間。 事後学修：報告を担当する判決について調査を始める。1時間。	4 時間

		者全員で議論して当該判決への理解を深める。	しておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	
第 1 4 回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	これまで取り上げられた判決を振り返り、判例に関する知識を確かなものとする。	事前学修：演習で取り上げた判決の事実関係・判旨を再度読み返す。1 時間。 事後学修：演習で取り上げられた判決の民法上の位置づけについて確認する。3 時間。	4 時間

科目名	演習ⅠA	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	これからの世界と日本の安全保障について考える（１）		
授業の目的及び概要	【授業の目的】 これからの世界と日本の安全保障上の諸問題について、『防衛白書』を参考に自らの視点で考察する力を修得するのが目的です。 【授業の概要】 授業については、2022 年のロシアによるウクライナ軍事侵攻などを取り上げ、リアルタイムで世界の動きを実感できる内容を心掛けるとともに、防衛省・自衛隊で勤務してきた実務経験を積極的に紹介していきたいと思います。併せて研究テーマの決定を行っていきます。 また法学部研究発表大会への参加を推奨するとともに、参加者については成績評価に反映したいと考えています。		
履修条件・留意点	この授業科目は、演習Ⅱと連続・一貫性を有する科目である点に留意して履修して下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代社会の諸課題を理解し、法的知識・技能をもとにして、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけている。そのほか、自由、平等、民主主義などの価値原理を基礎とする、法学を中心とする高度な専門知識を体系的に理解するとともに、現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民として、他者と協調・協働できる能力を身につけている。あわせて、論理的な法的思考力と豊かな表現力とともに、情報、数理、英語等の汎用的技能を修得し、社会科学を中心とした幅広い教養を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	口頭発表及び質疑応答の内容について、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	防衛省『令和 6 年版防衛白書』（防衛省ホームページ）	ISBN	－
参考書	授業で、その都度紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本の防衛や世界の軍事情勢に少しでも興味がある方であれば、この演習の履修を歓迎します。また授業を履修するにあたっては、日ごろから防衛問題に関するニュースに関心を持つように心掛けて下さい。 そして授業における評価では、定説にとらわれない独創的な発想や意見を重視します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業ガイダンスなど ・授業ガイダンス ・インターネットによる調査研究の方法 ・各種コミュニケーションの方法（言語技術）	【予習】授業前に、シラバスを熟読し、その内容を確認・理解した上で授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、自分が興味のある安全保障・防衛問題に関するテーマについて考えて下さい。	4時間
第2回	対面	研究テーマの決定－参考：わが国を取り巻く安全保障環境	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第1章』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第3回	対面	研究テーマの決定－参考：ロシアによるウクライナ侵略	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第2章』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第4回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（米国）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第3章第1節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第5回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（中国）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第3章第2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第6回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（米国と中国の関係）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第3章第3節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第7回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（朝鮮半島）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第3章第4節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第8回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（ロシア）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第3章第5節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第9回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（大洋州）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第3章第6節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第10回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（東南アジア）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第3章第7節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第11回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（南アジア）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第3章第8節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第12回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（欧州・カナダ）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第3章第9節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第13回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（中東・アフリカ）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第Ⅰ部第3章第10節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間

第14回	対面	研究テーマの決定－参考:宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域①	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第I部第4章第1～2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	研究テーマの決定－参考:宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域②	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第I部第4章第3～7節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法テーマ演習・判例研究		
授業の目的及び概要	憲法に関するテーマ演習・判例研究を行う。 春学期は、受講生による発表形式をとる。 題材については、基本的に受講生の希望を尊重する。 「同性婚は憲法上保障されるか」「監視社会とプライバシー権」など、テーマを題材にしてもかまわないし、具体的な憲法判例について判例研究をしてもかまわない。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法に関するテーマ・判例について、関連する文献・判例等を調査したうえで、文章・口頭で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表担当者による発表、及び、他の受講生との質疑応答等について、担当教員が適宜コメントする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①憲法判例百選 1・2（第7版）、長谷部恭男ほか編、有斐閣、2019 年 ②憲法（第3版）、渋谷秀樹、有斐閣、2017 年 ③トピックから考える日本国憲法、山元一編、北大路書房、2023 年 ④憲法研究 第1号以下、辻村みよ子責任編集、信山社、2017 年以降続刊中 ⑤講座 立憲主義と憲法学 全6巻、信山社、2022 年以降続刊中 ③から⑤は、発表テーマを検討するのに有益である。	ISBN	①9784641115453 , 9784641115460 ②9784641227231 ③9784762832178 ④9784797265217 , 9784797265224 , 9784797265231 , 9784797265248 , 9784797265255 , 9784797265262 , 9784797265279 , 9784797265286 , 9784797265293 , 9784797279009 , 9784797279016 , 9784797279023 , 9784797279030 , 9784797279047
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	自分自身の発表担当回はもちろん、他の受講生の発表担当回であっても、質疑応答等への積極的参加を期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	各受講生が取り扱うテーマないし判例を議論・決定する。	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、第2回授業については、特別の取扱いをするので、第1回にて詳細を説明する。また、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4時間
第2回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4時間
第3回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4時間
第4回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4時間
第5回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただ	4時間

			し、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	
第6回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第7回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第8回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第9回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第10回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間

			に行う必要がある。	
第11回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第12回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第13回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第14回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括と課題の指摘 これまでの授業内容を振り返り、今後の学修に向けた課題を指摘する。	これまでの各発表内容を復習する。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日常生活と民法		
授業の目的及び概要	私たちは、日常生活において、意識しなくても色々な分野で法律問題に関与している。この演習では、日常生活の中で関わる法律問題の中でも、特に民法に関する事例を検討する。 授業では、具体的な事例を通して、問題発見能力を養うとともに、民法（特に債権総論・債権各論）の基礎的知識を修得する。 また、法科大学院進学、行政職公務員試験、司法書士・行政書士・宅建士など、民法が必要となる国家試験受験のための基礎力を養うことも目標のひとつとする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 債権総論・債権各論に関する基本的な事項について理解し、説明することができる。 2. 債権総論・債権各論に関する事例について、事案を正確に理解し、問題点を指摘して、解決方法を説明できる。 3. 他者と協力して共同調査・共同での報告・質疑応答へ参加できる。 1. については、日常生活における基本的な法律問題に対して、何が問題となっているのかを理解し、条文を使って問題解決を図る基礎的能力を養うことを目標とする。 2. については、債権総論・債権各論に関連する事例を通して、事案を正確に理解し、問題点を把握した上で、債権総論・債権各論の基礎的知識を修得することを目標とする。 3. については、共同での調査報告（各回の報告はグループ単位で行う）・質疑応答・討論を通して、楽しみながら自主的に学ぶ姿勢を身につけることを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	作成したレジュメについて、授業中や授業外の時間に講評やより良いレジュメにするためのアドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。各受講生が使っている民法に関するテキストを使用・持参してください（主に債権法の授業で使用するものを予定していますが、手持ちのテキストがある場合には新たに購入する必要はありません）。	ISBN	なし
参考書	普段使っている民法に関するテキスト・参考書を使用してください。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	民法に興味があり、ゼミに積極的に参加する意欲のある者の履修を期待している。 特に、法科大学院進学、行政職公務員、司法書士・行政書士・宅建士などの国家資格取得を目指している者には、積極的に履修してもらいたい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介、テキスト・ゼミの運営方法・各回の報告グループの決定などを行う。	事前に債権法と家族法の全体を予習しておく。 事後に各自の報告部分の予習をはじめるとともに、報告担当グループのメンバーで資料作成等の報告準備の計画をたて、準備を進める。	4時間
第2回	対面	債権総論：債権の目的と効力 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「債権の目的と効力」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「債権の目的と効力」に関するテキストを通読する。	4時間
第3回	対面	債権総論：多数当事者の債権関係 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「多数当事者の債権関係」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「多数当事者の債権関係」に関するテキストを通読する。	4時間
第4回	対面	債権総論：債権譲渡と債務引受 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「債権譲渡と債務引受」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「債権譲渡と債務引受」に関するテキストを通読する。	4時間
第5回	対面	債権総論：債権の消滅 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「債権の消滅」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「債権の消滅」に関するテキストを通読する。	4時間
第6回	対面	契約総論：契約の成立と解除 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「契約の成立と解除」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「契約の成立と解除」に関するテキストを通読する。	4時間
第7回	対面	契約各論：売買・贈与 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「売買・贈与」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「売買・贈与」に関するテキストを通読する。	4時間
第8回	対面	契約各論：賃貸借・使用貸借 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「賃貸借・使用貸借」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「賃貸借・使用貸借」に関するテキストを通読する。	4時間
第9回	対面	債権法：不当利得 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「不当利得」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「不当利得」に関するテキストを通読する。	4時間
第10回	オンデマンド	研究発表大会へ参加することで、第10回授業に振り替える。発表者として参加しない者は、発表を参観し、レポートを作成して提出する。	研究発表大会への参加によるため、参加後、レポートを提出する。提出するレポートの形式等については、ラーニングポータル等で案内する。	4時間
第11回	対面	債権法：不法行為 報告グループによる報告の後、全員で質疑	事前に「不法行為」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジュ	4時間

		応答及び討論を行う。	メを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「不法行為」に関するテキストを通読する。	
第12回	対面	債権法：特殊の不法行為 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「特殊の不法行為」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「特殊の不法行為」に関するテキストを通読する。	4 時間
第13回	対面	親族法：婚姻・親子 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「婚姻・親子」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「婚姻・親子」に関するテキストを通読する。	4 時間
第14回	対面	親族法：親権・後見・保佐及び補助・扶養 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「親権・後見・保佐及び補助・扶養」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「親権・後見・保佐及び補助・扶養」に関するテキストを通読する。	4 時間
第15回	対面	相続法：相続・遺言 報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「相続・遺言」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループはレジメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「相続・遺言」に関するテキストを通読する。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法に基づく警察活動 ～犯罪捜査に求められるもの～		
授業の目的及び概要	警察活動（主として犯罪捜査）に対する基本的な心構えや法的手続きなどについて理解することを目的としています。 犯罪捜査は、他人の悪事を摘発する仕事であり、それだけに、捜査官には常に公正、誠実な態度が求められるほか、刑事訴訟法等に規定されている権限や手続きを遵守することが求められます。そのため、実際の犯罪現場における捜査の現状や捜査に必要な基礎的知識を修得し、適正な犯罪捜査について研究します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①捜査の端緒（捜査機関が犯罪を疑うきっかけとなる情報等）となるものは何か、それを元に犯罪捜査はどのように行われているかを理解し、説明することができる。 ②捜査を進める上でその根拠となる各種法令（刑事訴訟法等）について研究・理解し、説明することができる。 ③捜査手続きに関する適法性・違法性の判断基準（過去の判例に基づく）について理解し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究課題のレポートには、授業中にコメント、補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきました。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配付します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義 第4版、津田隆好、東京法令出版、2019 年4月 ②実例中心捜査法解説 第4版 ―捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門―、幕田英雄、東京法令出版、2019 年4月 ③刑事訴訟法講義 第7版、池田修。前田雅英、東京大学出版会、2022 年7月	ISBN	① 9784809013959 ② 9784809013973 ③ 9784130323963
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	社会のどこかで犯罪が起こって平穏が破られると、警察による捜査活動が開始されます。犯罪捜査は、警察官の任務のうちで、最も基本的なものの一つであり、ある犯罪が発生したとき、		

あたって	その被害者や関係者は勿論、広く国民からも捜査に対し、大きな期待が寄せられます。そのため警察官は誰もが捜査官としての自覚と誇りを持ち、どのような事件に直面しても、これを適切に処理し、解決していくだけの捜査能力を身につける必要があります。 本演習では、公安職を目指す学生がこうした捜査官に求められる職務倫理や心構え、捜査に求められる法的知識や実務能力などを身につけ、即戦力としての人材になれるよう、最大限のサポートを図っていきたいと考えています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 秋学期の授業方針の説明を行い、各発表グループを再編成し、以降の授業の進め方について意思統一を図ります。 各発表グループごとの研究テーマを選定します。	【予習】春学期の総括を元に秋学期の取り組みについてまとめておくこと。関心のある過去の事件や判例について勉強しておくこと。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておくこと。	4時間
第2回	対面	研究テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題について、検討を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第3回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第4回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第5回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第6回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第7回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	4時間
第8回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担③」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等のどの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。	4時間

			【復習】研究テーマや特に掘り下げて研究したい部分についてよく確認しておくこと。	
第9回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等などの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておくこと。	4 時間
第10回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例についてよく調べておくこと。犯罪捜査の手続き等などの部分を掘り下げて研究したいか検討しておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておくこと。	4 時間
第11回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備①」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分、内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておくこと。	4 時間
第12回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分、内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておくこと。	4 時間
第13回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルをしておくこと。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておくこと。	4 時間
第14回	対面	「研究結果の発表と全体討議②」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルをしておくこと。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期の振り返りと総括を行います。	【予習】秋学期の学修結果について、まとめをしておくこと。 【復習】秋学期の自身の学修結果について総括し、ノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	大場 史朗	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	再審からはじめる刑事手続法入門（2）		
授業の目的及び概要	（目的） 2024 年 9 月 26 日、袴田巖さんに再審無罪判決が言い渡されました。戦後 5 例目の死刑確定者に対する再審無罪判決です。どうしてこのようなことが起こるのでしょうか、また、二度と起こさないようにするためにはどうすればよいのでしょうか。この演習では、「無辜（むこ）の不処罰」を体現する再審請求事件から学びつつ、わたしたちの社会を支えている刑事手続について考えていきます。関連して少年法についても学びます。 （概要） 受講生に刑事手続に関する論点につき報告してもらい、質疑応答・議論を行います。また、担当教員が適宜、議論の整理・解説を行います。グループで協力して発表してもらうこともあります。映画や動画教材等は刑事手続の流れ、論点などを理解する一助とし、刑事手続に関する理論的な検討を中心に授業を行います。刑事模擬裁判を実施することがあります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（1）刑事手続の基本的な概念および全体像を理解し、説明することができる。 （2）刑事手続に関する精確な現状分析をすることができる。 （3）他人の痛みを自分の痛みにすることができる（人権感覚の涵養）。 （4）相手の意見を尊重し、それに対して自分の意見を言うことができる。 （5）チームワークを身に付けることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	基本刑事訴訟法 1－手続理解編，吉開多一ほか著，日本評論社，2020 年 『六法』（小型のもので可）を毎回持参のこと。	ISBN	978-4535524194
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この演習では半期に必ず 1～2 回報告（発表）を担当し、別途レポート（刑事裁判傍聴レポートなど）も課すことがあるため、必ずしも「楽」な演習ではありません。また、報告準備には映画を視聴しテキスト等を熟読する必要があるため、一定の熱量と事前学習が必要です。もっ		

とも教員ができる限りサポートしますので心配は不要です。対面での対話の重要性を大切にしながら、みなさんと一緒に刑事法に関わる諸問題について積極的に意見交換し、楽しい演習にしたいと思っています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介、授業の進め方などのレクチャー。 ＊授業計画は柔軟に変更することがあります	【予習】担当教員が指示したテキスト等を通読してきてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第2回	対面	受講生による報告と議論（1）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第3回	対面	受講生による報告と議論（2）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第4回	対面	受講生による報告と議論（3）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第5回	対面	受講生による報告と議論（4）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第6回	対面	受講生による報告と議論（5）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第7回	対面	受講生による報告と議論（6）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第8回	対面	受講生による報告と議論（7）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第9回	対面	受講生による報告と議論（8）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第10回	対面	受講生による報告と議論（9）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第11回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第12回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第13回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分	4時間

			を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第14回	対面	まとめ 半期のまとめと総括	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	刑事裁判傍聴 各自で裁判所に行き、刑事裁判を傍聴してレポートを提出	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読み、刑事裁判の流れを確認してください。 【復習】テキストを読み直し、刑事裁判傍聴で得た知識等を確認してください。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察と法～警察官としての判断基準と行動原理～		
授業の目的及び概要	国家存立の基盤の一つである治安維持を担う警察について「警察の組織や責務、職務権限の及び範囲はどのようなものか」などを学ぶことにより警察官として職務を執行する上において、法的根拠に基づく揺るぎない「判断基準」と「行動原理」を習得する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 公務員の仕事は社会全体への奉仕の道である。全体の奉仕者として社会に貢献し、治安に当たる職業が理解できる。 ・ 警察の民主的運営の保障、警察組織の効率的運営、政治的中立性の確保、政府の治安責任等を基本理念とする警察法を学び警察の組織、責務、職務権限の範囲等警察官として必要な基本的知識を習得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 次回授業でコメントシートを紹介し、質問への回答や補足説明を行い、理解を深めます。 ・ 授業で発表、討議した研究結果はその都度授業で担当教員から実学に直結する講評をコメントします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	・ 指定しません。 ・ 教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
参考書	・ 指定しません。 ・ 関連する通達、規則、条例等についてはその都度紹介します。	ISBN	なし。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道である。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。 ・ しかし警察官として36年間勤務した私が確信しているのは、多くの国民が「声の小さい		

	多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援していることです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。 ・ 「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ 秋学期の授業方針の説明を行い、発表グループを再編成、受講生の意思統一を構築する。 ・ 授業計画は必要性、受講生の希望等により変更することがある。 ・ 担当教員が警察法について概説する。 ・ 担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示する。	警察法を読了して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第2回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第3回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第4回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第5回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第6回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで研究、討議した、警察法に関する小テストを実施を行うので、復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として前半の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第8回	対面	前半の総括を実施し、後半の演習に反映する。	授業の総括結果をノートに整理し、復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第9回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第10回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次	4 時間

		加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	回の研究発表課題を提示するので予習し理解を深めておくこと。	
第11回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第12回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第13回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で発表、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで研究、討議した、警察法に関する小テストを行うので、復習しておくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として秋学期の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第15回	対面	秋学期を振り返り総括を行う。	復習として秋学期の自身の学修結果に関して総括し、ノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	企業（会社・個人事業）に関わる法的問題を考える。		
授業の目的及び概要	私たちは、生きていくために働く。自分一人でモノ作りなどして働く者もいれば、プロスポーツ選手もいるし、自ら起業して人を雇う者、会社を立ち上げて経営する者、会社に就職して働く者、さまざまである。ただ、その周りには、必ず誰かが存在し、トラブルや法的問題が生じることが少なくない。 大雑把に言えば、そのようなビジネスに関わる法的問題に関心を寄せ、それらを検討・分析・議論し、一定の結論に導き、それを報告することにより、今後の人生に活かすことができることを目的とする。 演習は、受け身ではなく、自分で考え、疑問があれば質問し、自由に見解を述べるのが最も重要であり、それこそが将来にも役立つ。 演習の進め方は（１）ビジネスシーンで起こりうる事件を題材に、個人またはグループで検討し、報告する。 （２）報告者以外のメンバーも同じ題材を学修し、質疑やディスカッションを積極的に行う。 演習の人数規模やメンバーの興味関心により、進め方は柔軟に変更する。		
履修条件・留意点	演習は、自分自身で学修することはもちろんのこと、他者の報告・発表を聞き、議論に参加することが重要である。 この点で、講義科目とは異なる。 したがって、欠席が多い場合、たとえ自分自身の報告等がきちんとされたとしても、演習科目の目標到達点に達しないものと判断される場合があることに留意する必要がある。 原則として全部の演習に参加することが求められる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・積極的に自分の意見を述べることができる。 ・企業に関する基礎的な法的知識を獲得することができる。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を獲得することができる。 ・論理的・発展的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表・報告内容については、レジュメ等を含めて授業内において、修正・アドバイスを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。	ISBN	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	ゼミは、仲間とともに楽しく有意義な時間を過ごす素晴らしい機会です。ただ、ダラダラと楽しむのではなく、ゼミ生の皆さんが「自分自身を鍛える」ため、毎週決まった時間に集まる楽しい勉強会としたい。 メリハリをつけて一緒に頑張りましょう。 積極的・意欲的に楽しく学修しようとする皆さんの参加をお待ちしています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、春学期の総括、授業の進め方・報告方法の説明、報告者の決定。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第2回	対面	判例の検索方法・レジュメの作成方法・報告方法の再確認。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第3回	対面	受講生による報告と議論（1）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第4回	対面	受講生による報告と議論（2）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第5回	対面	受講生による報告と議論（3）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第6回	対面	受講生による報告と議論（4）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第7回	対面	受講生による報告と議論（5）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第8回	対面	受講生による報告と議論（6）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第9回	対面	受講生による報告と議論（7）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第10回	対面	受講生による報告と議論（8）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第11回	対面	受講生による報告と議論（9）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間

第12回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第13回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第14回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	今年度の総括。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	吉川 貴代	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律と地方自治体の政策形成		
授業の目的及び概要	法律が自治体の政策を変えるか、自治体がどのように政策を形成するのかを学びます。地方自治体では法律や条例を適正に運用することが基本です。私たちが暮らす社会は日々変化するなかで、新たな課題が生じています。そこで、法律が制定あるいは改正されます。地方自治体では、それらに伴う対応として、条例制定・改廃、計画策定などを行い、地域の実情に応じた政策を展開しています。 授業では、日本社会で問題となっている「人口減少・少子高齢化」に関して、2023 年 4 月に施行された「こども基本法」等を題材に、法律の内容、制定された背景、地方自治体での政策形成の実際を学びます。また、その前提として、「少子高齢化・人口減少」の現状を統計資料から読み解きます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文献や資料を読み解き、レポートを書き、発表することができる。 ・発表等を聞いて質問でき、また、質問に答えることができる。 ・法律が、自治体の政策形成につながるということを学ぶ。 ・実務家の話を直接聞くことで、地方自治体における政策形成と実践を学ぶことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表等については授業中に講評します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定の教科書は使用せず、資料等は授業で紹介します。	ISBN	なし
参考書	①『改訂版 これからの地方自治の教科書』大森彌・大杉寛著、第一法規、2021 年 ②『公務員という仕事』村木厚子著、ちくまプリマー新書、2020 年 ③『地方消滅2 加速する少子化と新たな人口ビジョン』人口戦略会議編著、中公新書、2024 年 ④『＜共働き・共育＞世代の本音 新しいキャリア観が社会を変える』本道敦子・山谷真名・和田みゆき著、光文社新書、2024 年 ⑤『未婚と少子化 この国で子どもを産みにくい理由』筒井淳也著、PHP 新書、2023 年	ISBN	①978-4-474-07699-0 ②978-4-480-68376-2 ③978-4-12-102830-3 ④978-4-334-10249-4 ⑤978-4-569-85616-2
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・教員は基礎自治体の行政職の実務経験があります。 ・公務員の仕事、地方自治体の政策形成と実践に興味がある学生の履修を期待しています。教員の自治体での実務経験も交えて、授業を進めます。少子高齢化という身近な問題を通じて、法律と自治体の政策形成を学べます。 ・授業は原則出席です。ゼミに積極的に参加することを期待しています。 ・文献や資料を読み、発表やレポート作成は大変ですが、表現力や文章力の向上につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 秋学期の進め方、発表順の決定など	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用了資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第2回	対面	グループ発表(1) 市町村こども計画 発表グループはラーニング・ポータルに事前に発表資料を掲載すること。	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用了資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第3回	対面	グループ発表(2) 市町村こども計画 発表グループはラーニング・ポータルに事前に発表資料を掲載すること。	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用了資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第4回	対面	グループ発表(3) 市町村こども計画 発表グループはラーニング・ポータルに事前に発表資料を掲載すること。	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用了資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第5回	対面	グループ発表(4) 市町村こども計画 発表グループはラーニング・ポータルに事前に発表資料を掲載すること。	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用了資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第6回	対面	グループ発表(5) 市町村こども計画 発表グループはラーニング・ポータルに事前に発表資料を掲載すること。	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用了資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第7回	対面	グループ発表(6) 市町村こども計画 発表グループはラーニング・ポータルに事前に発表資料を掲載すること。	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用了資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第8回	対面	グループ発表まとめ	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用了資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第9回	対面	自治体の政策形成と実践(4) フィールドワーク準備	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用了資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第10回	対面	フィールドワーク 子ども関係の公共施設を予定しています。	【予習】訪問先についてホームページで確認し、聞きたいことをまとめておくこと。(2時間) 【復習】使用した資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第11回	対面	自治体の政策形成と実践(5) 国と基礎自治体の関係など ゲストスピーカーを予定しています。	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用了資料を使って復習すること。	4時間

			(2 時間)	
第 1 2 回	対面	自治体の政策形成と実践(6) 広域自治体と基礎自治体の関係など ゲストスピーカーによる講義	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。 (2 時間)	4 時間
第 1 3 回	対面	自治体の政策形成と実践(7) 議会の役割など ゲストスピーカーによる講義	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。 (2 時間)	4 時間
第 1 4 回	対面	自治体の政策形成と実践(8) ゲストスピーカーによる講義の振り返り	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。 (2 時間)	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	秋学期のまとめ	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。 (2 時間)	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	犯罪捜査と法 ～犯罪捜査における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	犯罪捜査の実情とその法手続きについて理解することを目的としています。 各グループにおいて、犯罪捜査に関するテーマを決め、実際の現場における捜査の現状やそれに必要な基礎的知識、適法判例や違法判例を調査・研究し、犯罪に対してとるべき適法な捜査手続きについて研究発表を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①犯罪捜査がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②捜査手続きに関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件に対する警察捜査の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究課題のレポートには、授業中にコメント、補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義 第4版, 津田隆好, 東京法令出版, 2019 年4月 ②実例中心捜査法解説 第4版 - 捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門-, 幕田英雄, 東京法令出版, 2019 年4月 ③刑事訴訟法講義 第7版, 池田修・前田雅英, 東京大学出版会, 2022 年7月	ISBN	① 9784809013959 ② 9784809013973 ③9784130323963
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「捜査」というと「刑事がやるもの」と認識している学生が多いかも知れませんが、警察官となり交番に配属された段階から、また刑事だけではなく生活安全、交通、警備などの部門に配属されても「捜査」は必要とされます。また、警察以外の海上保安官、入国警備官、自衛隊の		

	警務官などの公安職においても、刑事訴訟法に規定された特別司法警察職員として捜査に従事しなければなりません。公安職を目指す学生が即戦力としての人材になるためには、実際の犯罪捜査の基礎を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。本演習は、そのような学生に非常に有益だと思います。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査の実務で要求される知識・技能などを伝えたいと考えています。 オンデマンド授業については、学年歴等により実施回を変更する場合があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期の授業方針の説明を行い、発表グループの再編成を行います。 各グループごとの研究テーマについて討議と選定を行います。	【予習】春学期の総括を元に秋学期の取組みについてまとめておく。関心のある過去の事件・判例について調べておく。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておく。	4時間
第2回	対面	「テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題」を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第3回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第4回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第5回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第6回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4時間
第7回	対面	「研究課題の中間発表と全体討議」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4時間
第8回	対面	「研究課題の集約とプレゼン準備①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4時間
第9回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4時間
第10回	オンデマンド	「学生研究発表大会」出場・傍聴	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討し	4時間

			ておく。	
第11回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備③」を行います。 次年度の演習募集に関する説明等を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4時間
第12回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備④」を行います。 次年度の演習募集に関する説明等を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4時間
第13回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。 次年度の演習募集に関する登録等を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4時間
第14回	対面	「研究結果の発表と全体討議②」を行います。 期末試験対策を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4時間
第15回	対面	秋学期の振り返りと総括を行います。	【予習】秋学期の自身の学修結果について、発表できるようにまとめておく。 【復習】秋学期の自身の学修結果に関して総括をしておく。	4時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働問題や労働現場の実態について判例を検討する。		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生、企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法であります。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要だと思います。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に、実際の労働現場でどのような利益対立があり、それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々、演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的な労働判例における利害関係、争点、具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導します。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要、争点、事実認定、判断根拠、判定理由順に発表してもらい、その後、担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり結論を出します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	荒木尚志・奥田香子『ケースブック労働法第 4 版』有斐閣 2019 年 村中孝史・荒木尚志『労働判例百選 第 10 版』有斐閣 2022 年	ISBN	9784641144743 9784641115576C9432
参考書	野田進外多数『判例労働法入門第 7 版』有斐閣 2021 年	ISBN	9784641243477
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強します。雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になるだろうと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者を決める。	【予習】シラバシを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4 時間
第2回	対面	主題：山梨県民信用組合事件 - 労働契約の変更	【予習】山梨県民信用組合事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第3回	対面	主題：秋田バス事件 - 労働契約の変更	【予習】秋田バス事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第4回	対面	主題：スナック事件 - 人事考課	【予習】山スナック事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第5回	対面	主題：東亜ペイント事件 - 配転	【予習】東亜ペイント事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第6回	対面	主題：新日本製鐵事件 - 出向命令権	【予習】新日本製鐵事件に対して確認する。シラバシを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第7回	対面	主題：三和機材事件 - 転籍	【予習】三和機材事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第8回	対面	主題：コナミデジタルエンタテインメント事件 - 育児介護休業	【予習】山コナミデジタルエンタテインメント事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第9回	対面	主題：日本ヒューレット・パッカード事件 - 病気休職	【予習】山日本ヒューレット・パッカード事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第10回	対面	主題：全日本空輸事件 - 懲戒権	【予習】山全日本空輸事件に対して確認する。シラバシを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第11回	対面	主題：オリエンタルモーター事件 - 組合活動の正当性	【予習】山オリエンタルモーター事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第12回	対面	主題：日産自動車事件 - 複数組合の中立性	【予習】日産自動車事件シ山梨県民信用組合事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第13回	対面	主題：ノースウエスト航空事件 - 争議行為と賃金	【予習】山梨県民信用組合事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第14回	対面	主題：平尾事件 - 労働協約の効力	【予習】平尾事件山梨県民信用組合事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	松山 沙織	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	いろんなメディアで国際法を学ぶ		
授業の目的及び概要	国際社会における諸問題についての法的アプローチについて、ニュースや映画、SNS 等のメディアを通じて立体的に学ぶ。同時に、参考文献の調べ方（図書館リソースやインターネット検索ツールの使い方）、資料の扱い方（読み方や出典表記の方法）、報告や議論の技術（建設的な議論のための批判的思考）といった社会人として不可欠な技術を習得することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際紛争処理に関する基本的知識の取得はもちろんのこと、国際法関連文献の読解および分析の作業に慣れてもらう。また、報告や模擬裁判を通じて、国際的な問題を「自分事」のように感じて、（国際）法的感覚を養ってもらいたい。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り上げるテーマや報告については、授業中に解説および講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	<基本書・体系書> 自分に合う基本書等がすでにある場合それを使ってもよい（下記は教員のおすすめ） ①国際法 第5版，中谷和弘ほか，有斐閣，2024 年 <判例集> これも基本書と同様、自分に合うものがすでにある場合それを使ってもよい（下記は教員のおすすめ） ②薬師寺公夫他（編），判例国際法（第3版），東信堂，2019 年 ③森川幸一他（編），国際法判例百選（第3版），有斐閣，2021 年 上記テキストに加えて、条約集を毎回持参してください（毎年出版されるので最新版を用意）。下記のうち、いずれか1冊を選ぶ。 ④国際条約集 2025 年版，有斐閣，2025 年3月出版予定 ⑤ベーシック条約集 2025，東信堂，2025 年3月出版予定	ISBN	①9784641222304 ②9784798915586 ③9784641115552 ④・⑤2025 年3月に出版予定のため未記載
参考書	その他参考となる書籍・資料については適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	90	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	10
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション（今後の進行の相談、相談の結果、シラバス記載の内容が変更されることもありうる）	（予習）指定のテキストや条約集を通覧し（最低限の準備としてテキストの目次に目を通すこと）、関心のあるテーマ/判例をできるだけ複数ピックアップする（1時間）。 （復習）担当となったテーマ/判例について、何が「法的」論点となっているのか理解する。またグループ報告を希望する場合、グループの内部で連絡手段・相談のスケジュールを相談する。（3時間）。	4時間
第2回	対面	演習の題材となったテーマ/判例の基本的論点の解説、秋学期に取り組む課題詳細説明	（予習）担当となったテーマ/判例について、法的論点や関連する事項についてさらに掘り下げて調べる（1時間）。 （復習）解説を踏まえて、報告に向けて準備する（3時間）。	4時間
第3回	対面	資料の探し方①	（予習）事前課題として図書館やインターネットのリソースを使用する練習をする（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第4回	対面	資料の探し方②（提出された資料の妥当性についてレビュー）	（予習）使用する資料を探し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第5回	対面	資料の探し方③（提出された資料の妥当性についてレビュー）	（予習）使用する資料を探し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第6回	対面	資料の読み方①	（予習）事前に配布された資料を通読する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第7回	対面	資料の読み方②（各自が作成した資料まとめについてレビュー）	（予習）資料まとめを作成し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第8回	対面	資料の読み方③（各自が作成した資料まとめについてレビュー）	（予習）資料まとめを作成し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第9回	対面	発表・報告のための技術、質疑応答のための技術	（予習）事前に共有された資料を確認する（1時間）。 （復習）報告に向けて準備する（3時間）。	4時間
第10回	オンデマンド	オンデマンド回（発表に向けた資料のブラッシュアップのための課題に取り組む）	動画を確認し、報告準備を行う。	4時間
第11回	対面	報告会①	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。 （復習）担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第12回	対面	報告会②	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。 （復習）担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第13回	対面	報告会③	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。	4時間

			(復習) 担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する (3 時間)。	
第 1 4 回	対面	報告会④	(予習) 報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく (1 時間)。 (復習) 担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する (3 時間)。	4 時間
第 1 5 回	対面	学期の総括	(予習) 今学期の内容について、各自で振り返りを行い、教員への要望、反省点をまとめる (1 時間)。 (復習) 担当あるいは担当以外のテーマや判例について、各自の関心に応じて関連事項を調べる (3 時間)。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	会社法に関する基本的研究および判例研究		
授業の目的及び概要	本演習では、商事法分野、特に会社法を中心に、主要な論点を通じて、その専門性を高めることを目的とする。あわせて、ゼミ生が、テーマに応じ、順番にプレゼンテーションを行い、議論することで、法律知識を修得し、社会に生起するさまざまなケースについて、問題点を法律的に把握し、整理し、対処するための能力を養成する。また、学生の進路希望に応じ、小論文等の指導を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1)商法および会社法全体の構造を理解できる (2)社会人となるための最低限必要な基礎概念を習得する (3)商法および会社法の主要な論点について、判例・通説を中心に理解する (4)商法および会社法の条文の意味を理解する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	ディスカッション、ディベート、討議 グループワーク、ペアワーク、プレゼンテーション、発表を通じて、学習の確認を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	適宜、指定する。	ISBN	なし
参考書	会社法 、宮島司 著	ISBN	978-4-335-35945-3
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	本授業のガイダンス、演習運営の説明、報告者・報告判例の決定。	事前学修：自分の発表する内容を検討する（2時間） 事後学修：学習した内容を分析し、復習する（2時間）	4 時間

第2回	対面	機関…持分会社の機関と株式会社の機関。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第6章第1節～第2 節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成 し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する (2時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する(2時間)	4時間
第3回	対面	株主総会…株主総会の意義と権限、議事と 決議、議決権、決議の瑕疵など。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第6章第3節を読み、 報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する (2時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する(2時間)	4時間
第4回	対面	取締役と監査役…取締役、代表取締役、取 締役会、監査役、監査等委員会設置会社、 指名委員会等設置会社。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第6章第3節を読み、 報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する (2時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する(2時間)	4時間
第5回	対面	社債…社債の意義と役割、社債の募集と流 通、利払と償還、社債管理者。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第7章第1節～第2節 を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、 提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する (2時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する(2時間)	4時間
第6回	対面	募集株式の発行…募集株式の申込・割当・ 引受・払込・給付。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第7章第3節を読み、 報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する (2時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する(2時間)	4時間
第7回	対面	新株予約権の発行…新株予約権の申込・引 受・払込・譲渡・行使。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第7章第4節を読み、 報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する (2時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する(2時間)	4時間
第8回	対面	持分会社の計算…利益配当と出資の払戻。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第8章第1節～第2節 を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、 提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する (2時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する(2時間)	4時間
第9回	対面	株式会社の計算…会計帳簿と計算書類、資 本金と準備金、剰余金の配当。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第8章第3節を読み、 報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する (2時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する(2時間)	4時間
第10回	対面	会社の解散と清算…持分会社の解散と清 算。通常清算と特別清算。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第9章第1節～第2節 を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、 提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する (2時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する(2時間)	4時間
第11回	対面	親子会社の意義と株式相互保有…親会社 と子会社、株式交換と株式移転、株式保有 の規制。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第10章第1節～第2 節を読み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成 し、提出する 報告者以外は、報告レジュメを通読する (2時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する(2時間)	4時間
第12回	対面	会社の合併…合併の意義、合併の手続、合 併の効果、合併の無効。	事前学修：報告者は、テキスト第10章第3節を読 み、報告内容をまとめ、報告レジュメを作成し、提出	4時間

		報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	する 報告者以外は、報告レジюмеを通読する (2 時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する (2 時間)	
第 13 回	対面	事業譲渡と会社分割…事業譲渡の意義と 手続き、詐欺的事業譲渡と債権者保護、会 社分割の意義と手続き。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第 10 章第 3 節を読 み、報告内容をまとめ、報告レジюмеを作成し、提出 する 報告者以外は、報告レジюмеを通読する (2 時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する (2 時間)	4 時間
第 14 回	対面	組織変更…株式会社から持分会社、持分会 社から株式会社。 報告グループによる報告の後、全員で質疑 応答及び討論を行う。	事前学修：報告者は、テキスト第 10 章第 4 節を読 み、報告内容をまとめ、報告レジюмеを作成し、提出 する 報告者以外は、報告レジюмеを通読する (2 時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する (2 時間)	4 時間
第 15 回	オンデ マンド	本演習における会社法に関する具体的事 件に関連する知識・論点の確認、報告者に よる報告、全員による議論・質疑応答。 秋学期の演習全体の総括。	事前学修：報告者は、報告内容をまとめ、報告レジ юмеを作成し、提出する 報告者以外は、報告レジюмеを通読する (2 時間) 事後学修：学習した内容を分析し、復習する (2 時間)	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法家族法の基礎		
授業の目的及び概要	民法の法律問題の中で基礎的な問題を学ぶ。分野は家族法を中心とする。 家族法分野における重要な判例を取り上げ、事実関係を分析し、問題点を明らかにし、裁判所の判断を検討する。 授業において各担当者が個々の判決について検討・報告し、その後、全員で議論する。 集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々な部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 家族法に関する基本的な事項について理解し、判断することができる。 2. 家族法に関する事例において、事案を正確に把握し、問題点を整理し、裁判所の判断を的確に説明できる。 3. 報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 4. 報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べるることができる。 5. 各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについての事前に質疑を受け、事後に意見を述べ。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①民法判例百選 III 親族・相続〔第 3 版〕, 大村 敦志、沖野 真己 編, 有斐閣, 2023 年	ISBN	①978-4641115644
参考書	事前に指示した判例について検討するために、各種判例集(民集、判例時報、判例タイムズ)、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	民法に関心があり、積極的に参加することを希望します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介から始めます。 その後、ゼミの方法を説明し、判例百選の中から1回目の予習復習に係れている判決を紹介し(別のテーマを選んでよい)、各人の担当を決定する。 1回目のゼミでその後の内容が決定される。	嫡出性を付与婚姻の効力、夫婦日常家事代理権、夫と通じた者への慰謝料請求権、離婚原因・精神病、有責配偶者の離婚請求、財産分与と詐害行為取消範囲、婚約の成立、婚姻外男女関係の解消と不法行為、遺族給付の重婚的内縁配偶者への帰属、推定の及ばない嫡出子、親子関係不存在確認請求、虚偽の嫡出子出生届等と認知の効力、認知無効と養子縁組の成否、嫡出子として届出した者の代諾養子縁組の効力、特別養子の要件、子の引渡請求と拘束の顕著な違法性、遺産分割と利益相反行為、児童相談所長の親権喪失の宣告、相続放棄と後見人の利益相反行為、父母の養育費支払合意と子の扶養料請求、寄与分と遺留分の関係、共同相続人間の相続回復請求、遺産分割協議と詐害行為取消権、遺産分割後の負担不履行解除、相続と登記、限定承認相続人の死因贈与取得、受遺者選定委託遺言の効力、相続債務の際の遺留分侵害額算定方法、1034条の目的の価額、減殺の順序等	4時間
第2回	対面	2回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。テーマは前回示したものの中の余ったものの中の一つになる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第3回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第4回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第5回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第6回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第7回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第8回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第9回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第10回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間

第11回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第12回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第13回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第14回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第15回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地域の子ども・若者・教育政策について考える（2）		
授業の目的及び概要	教育は学校だけで行われているわけではありません。子どものよりよい育ちのためには、コミュニティ全体で総合的に子どもやその家庭を支えていくことが必要であるという立場から、主に子ども、青少年を中心とした教育政策、地域政策、子ども政策について考えていきます。問題のよりよい解決方法を考える際に、諸外国の事例を参考にすることもあります。これらの学びを通して、社会や地域の課題について分析、理解し、解決策を模索する力を高めることを目的としています。そして、社会における諸課題から、法律の意義について考えます。授業では、グループで課題を見つけ、調査し、発表を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 課題を多角的にとらえ、理解し、よりよい解決策を導こうとすることができる。 ・ テーマに沿った適切な資料を収集でき、また資料の善し悪しを判断できる。 ・ 資料を適切にまとめ、発表することができる。 ・ テーマに沿って適切な質問をすること、質問に適切に対応することができる。 ・ 教育、子ども、若者等の現状から、その問題に関係する法律について考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
参考書	教育法規スタートアップ・ネクスト ver.2.0，高見茂 開沼 太郎 宮村 裕子 編，昭和堂，2023	ISBN	9784812222256
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ 授業は出席が原則です。欠席する場合は事前に連絡をしてください。授業では発表や議論、レポートに積極的に取り組んでもらいたいと考えています。 ・ 法律に直接向き合う演習ではありませんが、子どもや教育に関する問題を中心に上げ、その背景にある社会の状況、制度についてじっくりと考えることを通して、法学の学びにつなげてもらえればと考えています		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	オリエンテーション	【予習】近年の教育、若者、子どもの問題、課題について考える。 【復習】自らが関心のある教育、若者、子どもの課題について調べてみる。	4 時間
第2回	対面	発表の方法、レジュメの作成について	【復習】配布された資料をよく読んで理解する。	4 時間
第3回	対面	資料の収集について	【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。自らの発表に必要な資料を収集する。	4 時間
第4回	対面	資料の引用について	【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。適切に書誌情報が書けるように練習する。	4 時間
第5回	対面	発表資料の作成	【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。発表資料を作成する。	4 時間
第6回	対面	受講生による報告と議論（1）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第7回	対面	受講生による報告と議論（2）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第8回	対面	受講生による報告と議論（3）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第9回	対面	受講生による報告と議論（4）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第10回	対面	受講生による報告と議論（5）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第11回	対面	受講生による報告と議論（6）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第12回	対面	受講生による報告と議論（7）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第13回	対面	レポートの作成	レポートを作成する。	4 時間
第14回	対面	まとめ	【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。レポートをよりよいものにする。	4 時間
第15回	オンデマンド	研究発表大会への参加	研究発表大会に参加・出席し、レポートを作成する。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	手嶋 豊	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法・財産法分野の最高裁判例の検討		
授業の目的及び概要	債権総論・債権各論に関する最高裁判決のうち、当該領域を学ぶ者にとって重要かつ基本的知識としてもっていることが必要と思われるものを選んで検討し、民法・財産法の理解を確かなものにするを目的とする。授業では、判例の学習を通じて、債権総論・債権各論の基礎知識を確かなものとする。		
履修条件・留意点	民法・財産法は、全体を俯瞰することで理解が進む側面がある。可能な限り早く、民法全体を学ぶことをお勧めするが、本演習はその助けとなりうるものである。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 債権総論・債権各論に関する基礎知識を確かなものとする。 ・ 債権総論・債権各論の領域について、典型的な、あるいは特有の紛争事例を知り、それらの知識を通じて、新たな問題への解決の指針を示すことができるようになること。 ・ 演習を通じて、共同報告や質疑応答を実施できる、実践的な経験を得ること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 報告・レジュメに対する講評・アドバイスを演習中に行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	該当しない
参考書	指定しない。	ISBN	該当しない。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	各種試験合格など、目標をもって、積極的に民法を学ぼうという意欲のある皆さんの参加を期待している。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	演習全体のオリエンテーション。演習の進め方、自己紹介、担当判決の割当て、到達目標等についてのガイダンス。	事前学修：債権総論・債権各論について、総復習しておく。3時間。 事後学修：報告を担当する判決について調査を始める。1時間。	4 時間

		者全員で議論して当該判決への理解を深める。	しておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	
第 1 4 回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	これまで取り上げられた判決を振り返り、判例に関する知識を確かなものとする。	事前学修：演習で取り上げた判決の事実関係・判旨を再度読み返す。1 時間。 事後学修：演習で取り上げられた判決の民法上の位置づけについて確認する。3 時間。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	これからの世界と日本の安全保障について考える（2）		
授業の目的及び概要	【授業の目的】 これからの世界と日本の安全保障上の諸問題について、『防衛白書』を参考に自らの視点で考察する力を修得するのが目的です。 【授業の概要】 授業については、2022 年のロシアによるウクライナ軍事侵攻などを取り上げ、リアルタイムで世界の動きを実感できる内容を心掛けるとともに、防衛省・自衛隊で勤務してきた実務経験を積極的に紹介していきたいと思います。併せてテーマに基づく調査研究を行っていきます。また法学部研究発表大会への参加を推奨するとともに、参加者については成績評価に反映したいと考えています。		
履修条件・留意点	この授業科目は、演習Ⅱと連続・一貫性を有する科目である点に留意して履修して下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代社会の諸課題を理解し、法的知識・技能をもとにして、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけている。そのほか、自由、平等、民主主義などの価値原理を基礎とする、法学を中心とする高度な専門知識を体系的に理解するとともに、現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民として、他者と協調・協働できる能力を身につけている。あわせて、論理的な法的思考力と豊かな表現力とともに、情報、数理、英語等の汎用的技能を修得し、社会科学を中心とした幅広い教養を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	口頭発表及び質疑応答の内容について、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	外務省『令和 6 年版外交青書』（外務省ホームページ）	ISBN	－
参考書	授業で、その都度紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本の防衛や世界の軍事情勢に少しでも興味がある方であれば、この演習の履修を歓迎します。また授業を履修するにあたっては、日ごろから防衛問題に関するニュースに関心を持つように心掛けて下さい。 そして授業における評価では、定説にとらわれない独創的な発想や意見を重視します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業ガイダンスなど ・授業ガイダンス ・インターネットによる調査研究の方法 ・各種コミュニケーションの方法（言語技術）	【予習】授業前に、シラバスを熟読し、その内容を確認・理解した上で授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、自分が興味のある安全保障・防衛問題に関するテーマについて考えて下さい。	4時間
第2回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：世界と日本の主な出来事	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－巻頭特集』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第3回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：国際認識と日本外交の展望	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第1章』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第4回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：「自由で開かれたインド太平洋」の推進	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第1節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第5回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：アジア・大洋州	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第6回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：北米	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第3節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第7回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：中南米	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第4節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第8回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：欧州	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第5節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第9回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：ロシア・中央アジアとコーカサス	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第6節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第10回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：中東と北アフリカ	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第7節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第11回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：アフリカ	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第8節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第12回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：日本と国際社会の平和と安定に向けた取組	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第1節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第13回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：日本の国際協力	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第14回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：経済外交	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第3節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間

			書－第3章第3節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	
第15回	オンデマンド	テーマに基づく調査研究－参考：日本への理解と信頼の促進に向けた取組	【予習】授業前に、外務省HPで『令和6年版外交青書－第3章第4節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例研究		
授業の目的及び概要	秋学期は、双方向・多方向型にて、憲法に関する判例研究を行う。 毎回、担当教員が事前に判例を指定し、受講生全員があらかじめその判例について予習してきたうえで、授業時には、担当教員が受講生を指名して、判例の内容等について質問する（双方向・多方向型）。 これにより、判例の理解を深める。		
履修条件・留意点	秋学期に開催される予定の法学部学生研究発表大会に自ら出場するか、あるいは、他の学生による発表を傍聴したうえで、その感想を提出する必要がある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主要な憲法判例の要点を理解している。当該要点を口頭で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型のやりとりにより、憲法判例に関する受講生の理解を確認する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①憲法判例百選 1・2（第7版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2019 年 ②憲法（第3版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年	ISBN	①9784641115453 ， 9784641115460 ②9784641227231
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	95	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	5	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	毎回、担当教員が事前に指定した判例を、十分に予習する必要がある。 判例の予習にあたっては、①事案の概要、②憲法解釈上の争点、③当該争点に関する裁判所の判断、を意識することが重要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第2回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間

第3回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第4回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第5回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第6回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第7回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第8回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第9回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第10回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第11回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第12回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第13回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第14回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括と課題の指摘 これまでの授業内容を振り返り、今後の学習に向けた課題を指摘する。	これまでの内容を復習する。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A		開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行		配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	会社法の研究および判例研究			
授業の目的及び概要	経済活動の中心を担う会社法に関する規定および会社法の判例を研究することは、卒業後に社会人として活躍する者にとって重要である。 会社法の基本的事項についての知識を確認し、会社法の重要判例の検討を通じて、会社法全体の構造の理解を深めることを本演習の目的とする。 本演習で培った問題解決能力、課題解決能力を活かして、法学部での学修能力を向上させるような演習教育を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1．会社法に関する重要判例の検討を通して、会社法の基本的な考え方を習得するとともに裁判例の読み方を身につける。 2．会社法を学修し、会社の組織や意思決定、合併や資金調達手段など会社を取り巻く様々な知識を習得する 3．他の学生と協力し、判例の調査・分析・報告を行い、質疑応答・討論を行うことにより、学問的探究に取り組む。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	・ 報告方法および報告内容の作成については、初回に決定する。 ・ 報告するに内容の調査については、適宜指導を行う。 ・ 学生が作成した報告については、教員が改善点などを指摘する。 ・ 報告者の報告内容や報告者以外のゼミ生からの質問内容については、必要に応じて授業中に講評・解説を行う。			
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	演習内で適宜指示する。		ISBN	なし
参考書	会社法 第 26 版（法律学講座双書）、神田秀樹（著）。		ISBN	978-4-335-31561-9
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	本演習は、ゼミ形式で、基本的な内容について、商法（会社法）の主要な論点を議論します。 本演習では、会社法の各主要論点について、各学生が、通説、反対説、および、その判定の各役割を担い、相互に議論する形でゼミを進行します。 本演習の到達目標として、①会社法全体の構造の理解、②社会人となるための最低限必要な基礎概念を習得、③会社法の主要な論点に			

	ついて、判例・通説を中心の理解、④自己の進路の実現を目標とします。 授業方法として、ディスカッション、ディベート、討議、グループワーク、ペアワーク、プレゼンテーション、発表を行い、学生の皆様の能力を向上させたいと考えております。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、自己紹介、演習運営方法の説明、報告者・報告判例の決定。	事前学習：自己紹介内容を考えておく（1時間）。 事後学習：報告判例の検索方法・調査方法について確認しておく（3時間）。	4時間
第2回	対面	会社法総論（組合、匿名組合、信託、会社、営利社団法人）に関する判例報告	事前学習：報告者は、テキスト第1章第1節～第2節を読み、報告内容をまとめ、報告判例の具体的事件について確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第3回	対面	会社の類型と種類に関する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第1章第3節～第4節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第4回	対面	会社法総則に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第2章第1節～第2節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第5回	対面	株式会社にに関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第1節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第6回	対面	会社の設立 に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第2節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第7回	対面	設立の登記 に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第2節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第8回	対面	株式の意義に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第3節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第9回	対面	株式の内容と種類に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第3節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第10回	対面	株券・株式の譲渡に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第3節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第11回	対面	自己株式 に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全	事前学習：報告者は、テキスト第3章第3節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認	4時間

		員による議論・質疑応答。	認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	
第12回	対面	株式の消却・株式併合・株式分割に関する 具体的事件に関連する知識・論点の確認、 報告者による報告、全員による議論・質疑 応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第3節を読み、 報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認 しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する （2時間）。	4時間
第13回	対面	単元株制度に関連する知識・論点の確認、 報告者による報告、全員による議論・質疑 応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第3節を読み、 報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認 しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する （2時間）。	4時間
第14回	対面	株式の発行 に関する具体的事件に関連する 知識・論点の確認、報告者による報告、 全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第4節を読み、 報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認 しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する （2時間）。	4時間
第15回	オンデ マンド	会社法に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員 による議論・質疑応答。 春学期の演習全体の総括。	事前学習：報告判例の具体的事件について関連知識・ 論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する （2時間）。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	松山 沙織	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	いろんなメディアで国際法を学ぶ		
授業の目的及び概要	国際社会における諸問題についての法的アプローチについて、ニュースや映画、SNS 等のメディアを通じて立体的に学ぶ。同時に、参考文献の調べ方（図書館リソースやインターネット検索ツールの使い方）、資料の扱い方（読み方や出典表記の方法）、報告や議論の技術（建設的な議論のための批判的思考）等、社会人として不可欠な技術を習得することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際紛争処理に関する基本的知識の取得はもちろんのこと、国際法関連文献の読解および分析の作業に慣れてもらう。また、報告や模擬裁判を通じて、国際的な問題を「自分事」のように感じて、（国際）法的感覚を養ってもらいたい。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り上げるテーマや報告については、授業中に解説および講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	<基本書・体系書> 自分に合う基本書等がすでにある場合それを使ってもよい（下記は教員のおすすめ） ①国際法 第5版，中谷和弘ほか，有斐閣，2024 年<判例集> これも基本書と同様、自分に合うものがすでにある場合それを使ってもよい（下記は教員のおすすめ） ②判例国際法（第3版），薬師寺公夫他（編），東信堂，2019 年 ③国際法判例百選（第3版），森川幸一他（編），有斐閣，2021 年 上記テキストに加えて、条約集を毎回持参してください（毎年出版されるので最新版を用意）。下記のうち、いずれか1冊を選ぶ。 ④国際条約集 2025 年版，有斐閣，2025 年3月出版予定 ⑤ベーシック条約集 2025，東信堂，2025 年3月出版予定	ISBN	①9784641222304 ②9784798915586 ③9784641115552 ④・⑤2025 年3月に出版予定のため未記載
参考書	その他参考となる書籍・資料については適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	90	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	10
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション（自己紹介、今後の進行の相談）、本演習における Teams の使い方 ＊春学期は SDGs の各ゴールを題材とした報告を実施することを検討中	（予習）指定のテキストや条約集を通覧し（最低限の準備としてテキストの目次に目を通すこと）、関心のあるテーマ/判例をできるだけ複数ピックアップする（1時間）。 （復習）担当となったテーマ/判例について、何が「法的」論点となっているのか理解する。またグループ報告を希望する場合、グループの内部で連絡手段・相談のスケジュールを相談する。（3時間）。	4時間
第2回	対面	演習の題材となったテーマ/判例の基本的論点の解説、春学期に取り組む課題詳細説明	（予習）担当となったテーマ/判例について、法的論点や関連する事項についてさらに掘り下げて調べる（1時間）。 （復習）解説を踏まえて、報告に向けて準備する（3時間）。	4時間
第3回	対面	資料の探し方①	（予習）事前課題として図書館やインターネットのリソースを使用する練習をする（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第4回	対面	資料の探し方②（提出された資料の妥当性についてレビュー）	（予習）使用する資料を探し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第5回	対面	資料の探し方③（提出された資料の妥当性についてレビュー）	（予習）使用する資料を探し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第6回	対面	資料の読み方①	（予習）事前に配布された資料を通読する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第7回	対面	資料の読み方②（各自が作成した資料まとめについてレビュー）	（予習）資料まとめを作成し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第8回	対面	資料の読み方③（各自が作成した資料まとめについてレビュー）	（予習）資料まとめを作成し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第9回	対面	発表・報告のための技術、質疑応答のための技術	（予習）事前に共有された資料を確認する（1時間）。 （復習）報告に向けて準備する（3時間）。	4時間
第10回	オンデマンド	オンデマンド回（発表に向けた資料のブラッシュアップのための課題に取り組む）	動画を確認し、報告準備を行う。	4時間
第11回	対面	報告会①	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。 （復習）担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第12回	対面	報告会②	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。 （復習）担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第13回	対面	報告会③	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。	4時間

			(復習) 担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する (3 時間)。	
第 14 回	対面	報告会④	(予習) 報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく (1 時間)。 (復習) 担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する (3 時間)。	4 時間
第 15 回	対面	学期の総括、秋学期に向けた準備説明	(予習) 今学期の内容について、各自で振り返りを行い、教員への要望、反省点をまとめる (1 時間)。 (復習) 担当あるいは担当以外のテーマや判例について、各自の関心に応じて関連事項を調べる (3 時間)。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法テーマ演習・判例研究		
授業の目的及び概要	憲法に関するテーマ演習・判例研究を行う。 春学期は、受講生による発表形式をとる。 題材については、基本的に受講生の希望を尊重する。 「同性婚は憲法上保障されるか」「監視社会とプライバシー権」など、テーマを題材にしてもかまわないし、具体的な憲法判例について判例研究をしてもかまわない。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法に関するテーマ・判例について、関連する文献・判例等を調査したうえで、文章・口頭で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表担当者による発表、及び、他の受講生との質疑応答等について、担当教員が適宜コメントする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①憲法判例百選 1・2（第7版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2019 年 ②憲法（第3版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ③トピックから考える日本国憲法，山元一編，北大路書房，2023 年 ④憲法研究 第1号以下，辻村みよ子責任編集，信山社，2017 年以降続刊中 ⑤講座 立憲主義と憲法学 全6巻，信山社，2022 年以降続刊中 ③から⑤は、発表テーマを検討するのに有益である。	ISBN	①9784641115453 , 9784641115460 ②9784641227231 ③9784762832178 ④9784797265217 , 9784797265224 , 9784797265231 , 9784797265248 , 9784797265255 , 9784797265262 , 9784797265279 , 9784797265286 , 9784797265293 , 9784797279009 , 9784797279016 , 9784797279023 , 9784797279030 , 9784797279047
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	自分自身の発表担当回はもちろん、他の受講生の発表担当回であっても、質疑応答等への積極的参加を期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	各受講生が取り扱うテーマないし判例を議論・決定する。	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、第2回授業については、特別の取扱いをするので、第1回にて詳細を説明する。また、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4時間
第2回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4時間
第3回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4時間
第4回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4時間
第5回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただ	4時間

			し、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	
第6回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第7回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第8回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第9回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第10回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間

			に行う必要がある。	
第11回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第12回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第13回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第14回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の1週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括と課題の指摘 これまでの授業内容を振り返り、今後の学修に向けた課題を指摘する。	これまでの各発表内容を復習する。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	判例・事例を通して刑事法を学ぼう		
授業の目的及び概要	【目的】 なんとなくダラダラ過ごしても、一生懸命に打ち込んでも、大学生活なんてあっという間に過ぎていきます。大学生活ってチュートリアルみたいなものだと思います。教員が補助して導いてくれるし、本気で挑戦して失敗しても怒られない。ただ、チュートリアルで獲得した能力は本編（社会人）に引き継がれるし、人生はオートセーブでリセットも不可なので、ダラダラと過ごしてスキップしちゃうのは後々を考えると怖いな、とも思います。大学生活が、人生で一番能力を伸ばすことができる期間です。 なので、この演習では刑法・刑事訴訟法に本気で取り組むことを通して、基礎的な能力を向上させたいと思います。具体的には、刑事法の体系的理解の獲得に加え、論理的思考力、調査能力、読解能力、報告・伝達能力（いわゆるコミュニケーション能力）、突破力といった今後の人生で必要となる基本的な能力を涵養することを目的とします。とりわけ、「判例を読む能力」を涵養することを目指します。 【概要】 刑事法は、手続法である刑事訴訟法と実定法である刑法からなります。本演習では、刑事訴訟法の重要判例と刑法の重要判例の両方を2年かけて学ぶことで、刑事法全体の理解をめざします。 刑事訴訟法については、3年生になった段階では刑事訴訟法の履修が終わっていないことが想定されるため、刑事訴訟法については基本的な考え方を適宜レクチャーしながら進めていきます。そのため、担当者には次回の演習において前回の演習内容をまとめたものを共有することを求めます。つまり、復習が重要となります。 刑法については、近年の重要判例解説（重判）に掲載されている判例についての報告をしてもらいます。 4年生における演習Ⅲにおいては、卒業論文の執筆してもらいます。 【その他】 楽しくて良い雰囲気ゼミにしたいと思います。		
履修条件・留意点	・適宜皆さんの希望に沿って変更を加えることがあります。 ・刑法総論、刑法各論の知識が必要となります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑事法の体系的理解を獲得する ・刑事法を学問として探求するための基礎力を身につける ・事案を分析し、判例の射程を検討する能力を身につける ・調査・報告・討論といった、研究のための基礎的な能力を獲得する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に口頭でのフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは特に指定しませんが、刑法と刑事訴訟法の基本書を各自準備してください。 最新版の六法は毎回必ず持参してください	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	50
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・4年次に卒業論文の執筆があるものとして考えておいてください（ただし、法科大学院等進学希望者は、受験後に書き始めることになります） ・報告者ではない人も、事前にレジュメや判例等の資料を熟読して臨んでください ・毎週の楽しみになるようなゼミにしていきたいと思います！ ・本気で取り組むと少ししんどいかもしれませんが、その分突破したときのやりがいと成長がありますので、がんばりましょう。大切なのは意地と根性です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 自己紹介、今後の進め方の相談・確認 各回の報告の担当者の決定	刑法を一通り復習しておいてください。	4時間
第2回	対面	【次回以降の報告の準備】 今後の授業進行のための基本的な事項の確認・個別対応など	授業時間中に確認・相談したことをもとに、各自でも準備を進めておいてください。	4時間
第3回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第4回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第5回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第6回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第7回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間

第8回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第9回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第10回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第11回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第12回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第13回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第14回	オンデマンド	【振り返り】 内容面についての振り返りを行い、適宜解説を加えます	【予習】 テキストの中で、苦戦した部分について読み返しておいてください。 【復習】 授業内容を復習し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第15回	対面	【まとめと総括】 演習・報告を振り返り、修得した内容について議論します。	【復習】 テキスト及び報告レジュメを見返し、知識の定着を図ってください。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察と法～警察官としての判断基準と行動原理～		
授業の目的及び概要	・ 警察官として職務を執行する上において、法的根拠に基づく揺るぎない「判断基準」と「行動原理」を習得する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 警察の民主的運営の保障、警察組織の効率的運営、政治的中立性の確保、政府の治安責任等を基本理念とする警察法を学び警察の組織、責務、職務権限の範囲等警察官として必要な基本的知識を習得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 次回授業でコメントシートを紹介し、質問への回答や補足説明を行い、理解を深めます ・ 授業で発表、討議した研究結果はその都度授業で担当教員から実学に直結する講評をコメントします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	・ 指定はしません。 ・ 教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
参考書	・ 指定はしません。 ・ 教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道である。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。 ・ しかし警察官として36年間勤務した私が確信しているのは、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援していることです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。		

	・ 「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ 自己紹介、授業方針の説明を行い、発表グループを編成、受講生の意思統一を構築する。 ・ 授業計画は必要性、受講生の希望等により変更することがある。 ・ 担当教員が警察法の概要を説明する。 ・ 担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示する。	警察法の概要について読了し理解しておくこと。 担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、提示された課題について関係条文、判例を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第2回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第3回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第4回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第5回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第6回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで討議した、警察法に関する小テストを行うので、予習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として前半の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第8回	対面	前半の総括を実施し、後半の演習に反映する。	授業の総括結果を復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第9回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第10回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第11回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表	授業で研究、討議した課題についてノートに整理し	4 時間

		後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	て復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	
第12回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第13回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで研究、討議した、警察法に関する小テストを行うので、復習しておくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として春学期の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第15回	対面	春学期の演習を振り返り総括を行う。	復習として春学期の自身の学修結果に関して総括し、ノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	これからの世界と日本の安全保障について考える（１）		
授業の目的及び概要	【授業の目的】 これからの世界と日本の安全保障上の諸問題について、『防衛白書』を参考に自らの視点で考察する力を修得するのが目的です。 【授業の概要】 授業については、2022 年のロシアによるウクライナ軍事侵攻などを取り上げ、リアルタイムで世界の動きを実感できる内容を心掛けるとともに、防衛省・自衛隊で勤務してきた実務経験を積極的に紹介していきたいと思います。併せて4年次の卒業研究（卒業論文の作成）に向けたテーマの決定を行っていきます。 また法学部研究発表大会への参加を推奨するとともに、参加者については成績評価に反映したいと考えています。		
履修条件・留意点	この授業科目は、演習Ⅲと連続・一貫性を有する科目である点に留意して履修して下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代社会の諸課題を理解し、法的知識・技能をもとにして、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけている。そのほか、自由、平等、民主主義などの価値原理を基礎とする、法学を中心とする高度な専門知識を体系的に理解するとともに、現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民として、他者と協調・協働できる能力を身につけている。あわせて、論理的な法的思考力と豊かな表現力とともに、情報、数理、英語等の汎用的技能を修得し、社会科学を中心とした幅広い教養を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	口頭発表及び質疑応答の内容について、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	防衛省『令和6年版防衛白書』（防衛省ホームページ）	ISBN	－
参考書	授業で、その都度紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	日本の防衛や世界の軍事情勢に少しでも興味がある方であれば、この演習の履修を歓迎します。また授業を履修するにあたっては、日ごろから防衛問題に関するニュースに関心を持つように心掛けて下さい。 そして授業における評価では、定説にとらわれない独創的な発想や意見を重視します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業ガイダンスなど ・授業ガイダンス ・インターネットによる調査研究の方法 ・各種コミュニケーションの方法	【予習】授業前に、シラバスを熟読し、その内容を確認・理解した上で授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、自分が興味のある安全保障・防衛問題に関するテーマについて考えて下さい。	4 時間
第2回	対面	研究テーマの決定－参考：わが国を取り巻く安全保障環境	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第1章』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	研究テーマの決定－参考：ロシアによるウクライナ侵略	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第2章』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（米国）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第1節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（中国）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（米国と中国の関係）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第3節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（朝鮮半島）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第4節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（ロシア）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第5節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（大洋州）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第6節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第10回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（東南アジア）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第7節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第11回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（南アジア）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第8節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第12回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（欧州・カナダ）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第9節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	研究テーマの決定－参考：諸外国の防衛政策（中東・アフリカ）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第10節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間

第14回	対面	研究テーマの決定－参考:宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域①	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第I部第4章第1～2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	研究テーマの決定－参考:宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域②	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第I部第4章第3～7節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、視聴した講義ガイダンス及びテキスト・参考資料を読んで復習して下さい。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事及び行政の裁判に関する研究 裁判実務の視点から		
授業の目的及び概要	(目的) 本演習は、民事及び行政に関する主要な最高裁判例などを題材として、担当教員の約27年間における裁判官としての実務経験を踏まえた事実認定の手法(方法)、法律上の問題点(争点)に対する検討のあり方を教示、指導し、本演習を履修することにより、社会に出て、民事紛争に関わった際、その問題の本質を理解し、具体的な事案に即した妥当な解決を図る能力を身に付けることを目指します。 4年生の演習Ⅲとあわせて2年間の演習の成果として、各自が調査、研究、報告した成果をまとめたゼミ報告レポート集(卒業研究に相当するもの)を完成させることを目標とします。 (概要) 初回の授業時にガイダンスを行い、2回目以降の授業内容(報告担当者、報告対象とする判例等)を決定します。 演習の運営としては、基本的には、受講生の方々に分担して行ってもらいます。 担当教員は、適宜、受講生の質疑応答・議論の補足説明(フォロー)を行います。		
履修条件・留意点	民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、債権各論Ⅰ、家族法Ⅰの各授業を履修済または履修中であることが望ましい。 民事訴訟法Ⅰ及び行政救済法Ⅰの各講義は、3年次春学期に履修選択して下さい。 本演習では、出席及び積極的な発言・発表を重視します。正当な理由のない欠席は原則として認めません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	判例の具体的な事案を理解した上で、当該具体的な事案に即した妥当な解決策を検討、発表することができる。 民事、行政紛争に関する裁判のあり方を理解し、適切に利用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等につき、演習中において、適宜、解説や講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992年に司法試験(旧司法試験)に合格した後、1995年から2022年まで27年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判(執行、保全、破産事件を含む。)を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
参考書	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表(口頭・実技)	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)	0	

	その他の内容
この科目の受講にあたって	司法書士、行政書士、宅地建物取引士を目指す者や裁判所職員採用試験の他、司法・行政系の公務員試験合格を目指す者には、経験を有する担当教員が、いずれも、個別に経験に基づく指導（アドバイス）をします。 演習の内容については、受講生の希望に応じて柔軟に検討します。希望があれば、裁判所、法務局などの見学、弁護士、司法書士などのゲストスピーカーの招致、セミ宿泊研修、懇親会、学園祭への出店なども実施可能です。 受講生は、初回までに本演習で実施を希望する内容について、よく検討し、積極的に発表して下さい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・担当テーマを考える。 なお、授業計画・内容は、受講者の皆さんと共に、協議し、その希望に応じて、柔軟に変更することがあります。	【予習】自分が希望する演習内容・担当テーマ（出来れば複数）を検討し、演習で発表できるよう準備する。 【復習】自分が担当することになったテーマに関する文献、裁判例を探し、報告のための準備を行う。	4時間
第2回	対面	担当者による報告と討論（1）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第3回	対面	担当者による報告と討論（2）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第4回	対面	担当者による報告と討論（3）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第5回	対面	担当者による報告と討論（4）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第6回	対面	担当者による報告と討論（5）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第7回	対面	担当者による報告と討論（6）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第8回	対面	担当者による報告と討論（7）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第9回	対面	担当者による報告と討論（8）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容	4時間

			を再度、確認する。	
第10回	対面	担当者による報告と討論（9）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間
第11回	対面	担当者による報告と討論（10）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間
第12回	対面	担当者による報告と討論（11）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間
第13回	対面	担当者による報告と討論（12）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間
第14回	対面	担当者による報告と議論（13）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ	【予習】事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】オンデマンド動画を視聴して、配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働問題や労働現場の実態について判例を検討する		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生、企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法であります。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要だと思います。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に、実際の労働現場でどのような利益対立があり、それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々、演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的な労働判例における利害関係、争点、具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことができます		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導します。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要、争点、事実認定、判断根拠、判定理由順に発表してもらい、その後、担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり結論を出します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	書名：『ケースブック労働法第 4 版』、著者名：荒木尚志・奥田香子、有斐閣 2019 年 書名：『労働判例百選 第 10 版』、著者名：村中孝史・荒木尚志、有斐閣 2022 年	ISBN	9784641144743
参考書	書名：『判例労働法入門第 7 版』、著者名：野田進外多数、有斐閣 2021 年	ISBN	9784641243477
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強します。雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になるだろうと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者の決める。	【予習】シラバシを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4時間
第2回	対面	主題：国鉄札幌駅事件 - 懲戒権	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第3回	対面	主題：ネスレ日本懲戒解雇事件 - 懲戒権の行使濫用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第4回	対面	主題：小田急電鉄事件 - 私生活の非行	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第5回	対面	主題：敬愛学園事件 - 解雇の合理性	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第6回	対面	主題：日本航空事件 - 整理解雇	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第7回	対面	主題：フォセコ・ジャパン・リミテッド事件 - 競業禁止義務	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第8回	対面	主題：津田電機計器事件 - 定年と継続雇用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第9回	対面	主題：川崎市水道局事件 - 職場のいじめ	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第10回	対面	主題：時事通信社事件 - 年次有給休暇	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第11回	対面	主題：札幌中央労基署長事件 - 通勤災害	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第12回	対面	主題：名古屋グイツ労組事件 - 組合の分裂	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第13回	対面	主題：国鉄団交拒否事件 - 団体交渉対象	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第14回	対面	主題：大阪運輸振興事件 - 契約期間の途中解約	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第15回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法財産法の判例学習		
授業の目的及び概要	民法の法律問題の中で基礎的な問題を学ぶ。分野は財産法を中心とする。財産法分野における重要な判例を取り上げ、事実関係を分析し、問題点を明らかにし、裁判所の判断を検討する。 授業において各担当者が個々の判決について検討・報告し、その後、全員で議論する。集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々に部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 財産法に関する基本的な事項、発展的な事項について理解し、判断することができる。 2. 財産法に関する事例において、事案を正確に把握し、問題点を整理し、裁判所の判断を的確に説明できる。 3. 報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 4. 報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べることができる。 5. 各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについて事前に質疑を受け、事後に意見を述べる。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①民法判例百選Ⅰ 総則・物権 第9版，見佳男・道垣内 弘人編，有斐閣，2023 年 ②民法判例百選Ⅱ 債権(第9版)，窪田充見・森田宏樹編，有斐閣，2023 年	ISBN	①9784641115620 ②9784641115637
参考書	事前に指示した判例について検討するために、各種判例集(民集、判例時報、判例タイムズ)、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	取り上げる判決については、民法判例百選の中で、法人の目的と団体の性質、権利能力なき社		

あたって	団の取引上の債務、公序良俗ホステス保証、94条2項の類推適用、94条2項・110条の類推適用、動機の錯誤、代理権濫用、白紙委任状と代理権授与表示、外形信頼と民法109条等の法理、民法110条の正当理由の判断、代表理事の代表権の制限と民法110条、177条の変動原因の範囲、177条の第三者の範囲、即時取得、共有者の権利主張方法、共同所有類型における固有権、制限種類債権の特定、公務員に対する国の安全配慮義務、契約交渉破棄における責任、契約締結説明義務違反に基づく損害賠償、履行補助者の過失、契約解除した場合の損害額算定期限、履行不能の場合の損害額算定期限等から選択

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介から始めます。 その後、ゼミの方法を説明し、取り上げる判決を紹介し、各人の担当を決定する。 1回目のゼミで今後の内容を決定する。	予定判例について一通り目を通しておいください。	4時間
第2回	対面	2回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。テーマは前回示したものの中の余ったものの中の一つになる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第3回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第4回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第5回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第6回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第7回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第8回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第9回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第10回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第11回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第12回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマ	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の	4時間

		の順番となる。	議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	
第13回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第14回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第15回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	渡邊 康行	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	家族と憲法		
授業の目的及び概要	家族と憲法というテーマに関連する判例・学説を検討します。例えば、最近の重要な最高裁大法廷の判決・決定である、夫婦同氏制合憲判決、性同一性障害者特例法3条1項4号違憲決定、下級審で相次いで違憲判決がでている同性婚訴訟などを主たる素材としながら、それに関連する重要判例や判例評釈を読むことによって、当該テーマを掘り下げて理解することを目指しています。 特定のテーマを扱うことにより、当該問題についての深い理解を得ることを目的としています。一定の問題領域について詳しい理解を得ることは、その他の憲法問題への関心を深めることにつながるはずで、卒業論文を執筆することを希望している学生は、授業で取り上げたテーマを題材として選択すれば、比較的容易に作業を進めることができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主たる判例に関連する判例・学説を調査することができる能力、それらを精読する能力、それを基に自分の意見を作り、他人に対して説明する能力、報告者の見解を的確に理解し、それとは異なった観点を提示する能力などを養う。それらを通じて、法科大学院既修者入試試験を突破できる程度の学力を身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業のなかで解説・講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストとしては、判決文や論文などを配布します。	ISBN	なし。
参考書	本演習担当者の体系書として、渡辺・穴戸・松本・工藤『憲法Ⅰ〔第2版〕』（2023年）、『憲法Ⅱ 総論・統治』（2020年）（いずれも日本評論社、後者は2025年3月に第2版が公刊予定）があります。これらは現在、司法試験や国家公務員総合職試験などの受験生にとって定番の基本書となっているものです。	ISBN	978-4-535-52711-9 978-4-535-52479-8
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	1・2年次に配当されている憲法関係科目の単位を取得済み（又は取得見込み）であることを要件とします。法曹・行政職公務員・教員・研究者など、将来法律に関係する職業を志望してい		

あたって	る、意欲の高い学生が履修することを想定しています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方などのガイダンス。報告の担当の決定など。	自分が報告したいテーマについて、予めいくつか候補を考えておく。	1 時間
第2回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第3回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第4回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第5回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第6回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第7回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第8回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第9回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第10回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第11回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第12回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第13回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第14回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業のまとめ	これまでの授業内容を復習する。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	手嶋 豊	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法・財産法分野の重要論点の検討		
授業の目的及び概要	民法の財産法分野のうち、当該領域の重要論点を抽出して検討し、民法・財産法の理解を確かなものにするとともに、各種試験対策の準備も併せて進めることを内容とする。		
履修条件・留意点	民法・財産法の全分野について一応の知識を有していることを前提とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法・財産法に関する基礎知識を確かなものとする。 ・民法・財産法について、起こり得る紛争事例を知り、それらの知識を通じて、社会における様々な課題に妥当な解決策を提案できるようになること。 ・演習を通じて、共同報告や質疑応答を実施できる、実践的な経験と知識を得ること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・報告・レジュメに対する講評・アドバイスを演習中に行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	指定しない。
参考書	指定しない。	ISBN	指定しない。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	各種試験合格など、目標をもって、積極的に民法を学ぼうという意欲のある皆さんの参加を期待している。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	演習全体のオリエンテーション、演習の進め方、自己紹介、担当論点の割当て、到達目標等についてのガイダンス。	事前学修：民法・財産法全体について、総復習をしておく。3時間。 事後学修：報告を担当する論点について、調査を始める。1時間。	4 時間
第2回	対面	割り当てられた論点について、担当報告者が報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該論点についての理解を深める。	事前学修：当日取り上げられる予定の論点について調べ、自説の内容と根拠を検討しておく。2時間。 事後学修：当日の報告を振り返り、当該論点について	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	判例で学ぶ民法		
授業の目的及び概要	民法に関する主要な最高裁判例を用いて、事実を正確に把握し、問題点を発見し、問題を解決する能力を養う。 また、法科大学院進学、行政職公務員試験、司法書士・行政書士・宅建士など、民法が必要となる国家試験受験のための能力を養うことも目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1．民法総則・物権に関する基本事項を理解し、条文を使って説明することができる。 2．民法総則・物権に関する事例に対し、事案・問題点を正確に把握し、具体的な解決方法を示すことができる。 3．他者と協力して共同調査・研究・報告・質疑応答をすることができる。 1．については、民法に関連する法律問題に対して、問題点を把握し、条文を使って問題解決を図る能力を養うことを目標とする。 2．については、民法総則・物権に関連する判例を通して、事案を正確に把握する能力、問題発見能力を養うとともに、条文を使って問題を解決する能力を身につけることを目標とする。 3．については、共同での調査報告（各回の報告はグループ単位で行う）・質疑応答・討論を通して、他者と協力しながら学び、問題解決を図る能力を身につけることを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	作成したレジュメについて、授業中や授業外の時間に講評やより良いレジュメにするためのアドバイスを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『民法判例百選Ⅰ[第 9 版]』，潮見佳男ほか編，有斐閣，2023 年	ISBN	ISBN ： 978-4641115620
参考書	授業中に適宜アドバイスする。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	民法に興味があり、ゼミに積極的に参加する意欲のある者の履修を期待している。 特に、法科大学院進学、行政職公務員、司法書士・行政書士・宅建士などの国家資格取得を目指している者には、積極的に履修してもらいたい。 判例の事案を正確に分析し、問題点を把握して検討するには、民法に関する幅広い知識が必要となるため、民法の基礎的知識を修得していることが望ましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介、テキスト・ゼミの運営方法・各回の報告者の決定などを行う。	事前に民法総則・物権法の全体を予習しておく。 事後に各自の報告部分の予習をはじめるとともに、報告担当グループのメンバーで資料作成等の報告準備の計画をたて、準備を進める。	4時間
第2回	対面	民法総則：民法の基本原則・権利濫用・信義則 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「民法の基本原則・権利濫用・信義則」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「民法の基本原則・権利濫用・信義則」に関するテキストを通読する。	4時間
第3回	対面	民法総則：人（権利能力・制限行為能力者など） 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「人（権利能力・制限行為能力者など）」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「人（権利能力・制限行為能力者など）」に関するテキストを通読する。	4時間
第4回	対面	民法総則：法人・権利能力なき社団 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「法人・権利能力なき社団」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「法人・権利能力なき社団」に関するテキストを通読する。	4時間
第5回	対面	民法総則：法律行為 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「法律行為」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「法律行為」に関するテキストを通読する。	4時間
第6回	対面	民法総則：代理 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「代理」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「代理」に関するテキストを通読する。	4時間
第7回	対面	民法総則：時効 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「時効」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「時効」に関するテキストを通読する。	4時間
第8回	対面	物権：公示の原則・公信の原則・物権的請求権・物権変動の時期 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「公示の原則・公信の原則・物権的請求権・物権変動の時期」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「公示の原則・公信の原則・物権的請求権・物権変動の時期」に関するテキストを通読する。	4時間
第9回	対面	物権：物権変動 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「物権変動」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。 報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「物権変動」に関するテキストを通読する。	4時間
第10回	オンデ	課題レポートを提出することで、第10回	レポート課題の内容や提出方法等については、ラー	4時間

	マンド	授業に振り替える。	ニングポータル等で案内するので、課題の内容を確認し、作成して提出すること。	
第11回	対面	物権：占有権 具体的な事案(重要とされている最高裁判例)について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「占有権」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「占有権」に関するテキストを通読する。	4時間
第12回	対面	物権：所有権 具体的な事案(重要とされている最高裁判例)について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「所有権」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「所有権」に関するテキストを通読する。	4時間
第13回	対面	物権：通行地役権・入会権・質権 具体的な事案(重要とされている最高裁判例)について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「通行地役権・入会権・質権」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「通行地役権・入会権・質権」に関するテキストを通読する。	4時間
第14回	対面	物権：抵当権 具体的な事案(重要とされている最高裁判例)について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「抵当権」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「抵当権」に関するテキストを通読する。	4時間
第15回	対面	物権：非典型担保 具体的な事案(重要とされている最高裁判例)について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「非典型担保」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「非典型担保」に関するテキストを通読する。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	犯罪捜査と法 ～犯罪捜査における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	犯罪捜査の実情とその法手続きについて理解することを目的としています。捜査機関における犯罪の認知、捜査の実行、送致、事件処理などの一連の流れに関し、各グループにおいて研究テーマを設定し、犯罪捜査の現状やそれに必要な基礎的知識、適法判例・違法判例等を調査研究し、犯罪に対してとるべき各種の捜査手続きや捜査手法についての限界や適法等についての研究発表を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①犯罪捜査がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②捜査手続きに関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件に対する警察捜査の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究課題のレポートには、授業中にコメント、補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義 第4版, 津田隆好, 東京法令出版, 2019 年4月 ②実例中心捜査法解説 第4版 ―捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門―, 幕田英雄, 東京法令出版, 2019 年4月 ③刑事訴訟法講義 第7版, 池田修・前田雅英, 東京大学出版会, 2022 年7月	ISBN	① 9784809013959 ② 9784809013973 ③9784130323963
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	「捜査」というと「刑事がやるもの」と認識している学生が多いかも知れませんが、警察官となり交番に配属された段階から、また刑事だけではなく生活安全、交通、警備などの部門に配		

あたって	属されても「捜査」は必要とされます。また、警察以外の海上保安官、入国警備官、自衛隊の警務官などの公安職においても、刑事訴訟法に規定された特別司法警察職員として捜査に従事しなければなりません。公安職を目指す学生が即戦力としての人材になるためには、実際の犯罪捜査の基礎を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。本演習は、そのような学生に非常に有益だと思います。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査の実務で要求される知識・技能などを伝えたいと考えています。 オンデマンド授業については、学年歴等にゆり実施回を変更する場合があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業方針等の説明を行い、発表グループの編成を行います。 各グループごとの研究テーマについて討議と選定を行います。	【予習】シラバスを確認し、春学期の取組みについてまとめておく。関心のある過去の事件・判例について調べておく。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておく。	4 時間
第2回	対面	「テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題」を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第3回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第4回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第5回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第6回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4 時間
第7回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4 時間
第8回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4 時間
第9回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4 時間
第10回	対面	「研究課題の集約とプレゼン準備②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。	4 時間

			【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	
第11回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備③」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4時間
第12回	オンデマンド	課題提出	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4時間
第13回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4時間
第14回	対面	「研究結果の発表と全体討議②」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4時間
第15回	対面	春学期の振り返りと総括を行います。	【予習】春学期の自身の学修結果について、発表できるようにまとめておく。 【復習】春学期の自身の学修結果に関して総括しておく。	4時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	牛丸 弘行	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	会社法に関する基本的研究および判例研究		
授業の目的及び概要	経済活動の中心を担う会社法に関する規定および会社法の判例を研究することは、卒業後に社会人として活躍する者にとって重要である。 会社法の基本的事項についての知識を確認し、会社法の重要判例の検討を通じて、会社法全体の構造の理解を深めることを本演習の目的とする。 本演習で培った問題解決能力、課題解決能力を活かして、法学部での学修能力を向上させるような演習教育を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 会社法に関する重要判例の検討を通して、会社法の基本的な考え方を習得するとともに裁判例の読み方を身につけることができるようになる。 2. 会社法を学修することにより、就職後の配属部署にかかわらず必要な会社の組織や意思決定方法、さらに合併や資金調達手段など会社を取り巻く様々な知識を習得できる。 3. 他のゼミ生と協力して、判例の調査・分析・報告を行い、質疑応答・討論を行うことにより、より深い学問的探究に取り組むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・報告方法および報告内容の作成については、初回に決定する。 ・報告するに内容の調査については、適宜指導を行う。 ・学生が作成した報告については、教員が改善点などを指摘する。 ・報告者の報告内容や報告者以外のゼミ生からの質問内容については、必要に応じて授業中に講評・解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	演習内で適宜指示する。	ISBN	なし
参考書	会社法 第 26 版（法律学講座双書）、神田秀樹（著）。	ISBN	978-4-335-31561-9
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	0	
この科目の受講に			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、演習運営方法の説明、報告者・報告判例の決定。	事前学習：報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第2回	対面	会社の機関の具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第6節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第3回	対面	株主総会の具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第6節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第4回	対面	役員および会計監査人の選任と解任の具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第6節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第5回	対面	取締役・取締役会・代表取締役に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第6節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第6回	対面	取締役の義務と報酬に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第6節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第7回	対面	会計参与・監査役および監査役会・会計監査人に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第6節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第8回	対面	監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社・非取締役会設置会社に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第6節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第9回	対面	役員等の会社に対する損害賠償責任・株主代表訴訟に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第6節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第10回	対面	会社の計算に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第3章第7節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第11回	対面	剰余金の分配・定款の変更・会社の解散と清算に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員	事前学習：報告者は、テキスト第3章第8節・第9節を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。	4時間

		による議論・質疑応答。	事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	
第12回	対面	持分会社に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第4章を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第13回	対面	社債に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第5章を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第14回	対面	組織再編行為に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。	事前学習：報告者は、テキスト第6章を読み、報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	会社法に関する具体的事件に関連する知識・論点の確認、報告者による報告、全員による議論・質疑応答。 秋学期の演習全体を振り返る。	事前学習：報告判例の具体的事件について関連知識・論点を確認しておく（2時間）。 事後学習：報告判例について資料等を見て、復習する（2時間）。	4時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	松山 沙織	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	いろんなメディアで国際法を学ぶ		
授業の目的及び概要	国際社会における諸問題についての法的アプローチについて、ニュースや映画、SNS 等のメディアを通じて立体的に学ぶ。同時に、参考文献の調べ方（図書館リソースやインターネット検索ツールの使い方）、資料の扱い方（読み方や出典表記の方法）、報告や議論の技術（建設的な議論のための批判的思考）といった社会人として不可欠な技術を習得することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際紛争処理に関する基本的知識の取得はもちろんのこと、国際法関連文献の読解および分析の作業に慣れてもらう。また、報告や模擬裁判を通じて、国際的な問題を「自分事」のように感じて、（国際）法的感覚を養ってもらいたい。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り上げるテーマや報告については、授業中に解説および講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	<基本書・体系書> 自分に合う基本書等がすでにある場合それを使ってもよい（下記は教員のおすすめ） ①国際法 第5版，中谷和弘ほか，有斐閣，2024 年 <判例集> これも基本書と同様、自分に合うものがすでにある場合それを使ってもよい（下記は教員のおすすめ） ②薬師寺公夫他（編），判例国際法（第3版），東信堂，2019 年 ③森川幸一他（編），国際法判例百選（第3版），有斐閣，2021 年 上記テキストに加えて、条約集を毎回持参してください（毎年出版されるので最新版を用意）。下記のうち、いずれか1冊を選ぶ。 ④国際条約集 2025 年版，有斐閣，2025 年3月出版予定 ⑤ベーシック条約集 2025，東信堂，2025 年3月出版予定	ISBN	①9784641222304 ②9784798915586 ③9784641115552 ④・⑤2025 年3月に出版予定のため未記載
参考書	その他参考となる書籍・資料については適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	90	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	10
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション（今後の進行の相談、相談の結果、シラバス記載の内容が変更されることもありうる）	（予習）指定のテキストや条約集を通覧し（最低限の準備としてテキストの目次に目を通すこと）、関心のあるテーマ/判例をできるだけ複数ピックアップする（1時間）。 （復習）担当となったテーマ/判例について、何が「法的」論点となっているのか理解する。またグループ報告を希望する場合、グループの内部で連絡手段・相談のスケジュールを相談する。（3時間）。	4時間
第2回	対面	演習の題材となったテーマ/判例の基本的論点の解説、秋学期に取り組む課題詳細説明	（予習）担当となったテーマ/判例について、法的論点や関連する事項についてさらに掘り下げて調べる（1時間）。 （復習）解説を踏まえて、報告に向けて準備する（3時間）。	4時間
第3回	対面	資料の探し方①	（予習）事前課題として図書館やインターネットのリソースを使用する練習をする（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第4回	対面	資料の探し方②（提出された資料の妥当性についてレビュー）	（予習）使用する資料を探し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第5回	対面	資料の探し方③（提出された資料の妥当性についてレビュー）	（予習）使用する資料を探し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第6回	対面	資料の読み方①	（予習）事前に配布された資料を通読する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第7回	対面	資料の読み方②（各自が作成した資料まとめについてレビュー）	（予習）資料まとめを作成し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第8回	対面	資料の読み方③（各自が作成した資料まとめについてレビュー）	（予習）資料まとめを作成し、事前に Teams フォルダで共有する（1時間）。 （復習）報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第9回	対面	発表・報告のための技術、質疑応答のための技術	（予習）事前に共有された資料を確認する（1時間）。 （復習）報告に向けて準備する（3時間）。	4時間
第10回	オンデマンド	オンデマンド回（発表に向けた資料のブラッシュアップのための課題に取り組む）	動画を確認し、報告準備を行う。	4時間
第11回	対面	報告会①	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。 （復習）担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第12回	対面	報告会②	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。 （復習）担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する（3時間）。	4時間
第13回	対面	報告会③	（予習）報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく（1時間）。	4時間

			(復習) 担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する (3 時間)。	
第 14 回	対面	報告会④	(予習) 報告担当者は事前に Teams に報告資料をアップロードする。報告者以外はその資料を確認し、論点を把握しておく (1 時間)。 (復習) 担当者は振り返りを行う。担当者以外は報告に向けて、準備する (3 時間)。	4 時間
第 15 回	対面	学期の総括	(予習) 今学期の内容について、各自で振り返りを行い、教員への要望、反省点をまとめる (1 時間)。 (復習) 担当あるいは担当以外のテーマや判例について、各自の関心に応じて関連事項を調べる (3 時間)。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例研究		
授業の目的及び概要	秋学期は、双方向・多方向型にて、憲法に関する判例研究を行う。 毎回、担当教員が事前に判例を指定し、受講生全員があらかじめその判例について予習してきたうえで、授業時には、担当教員が受講生を指名して、判例の内容等について質問する（双方向・多方向型）。 これにより、判例の理解を深める。		
履修条件・留意点	秋学期に開催される予定の法学部学生研究発表大会に自ら出場するか、あるいは、他の学生による発表を傍聴したうえで、その感想を提出する必要がある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主要な憲法判例の要点を理解している。当該要点を口頭で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型のやりとりにより、憲法判例に関する受講生の理解を確認する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①憲法判例百選 1・2（第7版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2019 年 ②憲法（第3版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年	ISBN	①9784641115453 ， 9784641115460 ②9784641227231
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	95	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	5	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	毎回、担当教員が事前に指定した判例を、十分に予習する必要がある。 判例の予習にあたっては、①事案の概要、②憲法解釈上の争点、③当該争点に関する裁判所の判断、を意識することが重要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第2回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間

第3回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第4回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第5回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第6回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第7回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第8回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第9回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第10回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第11回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第12回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第13回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第14回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括と課題の指摘 これまでの授業内容を振り返り、今後の学習に向けた課題を指摘する。	これまでの内容を復習する。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	判例・事例を通して刑事法を学ぼう		
授業の目的及び概要	【目的】 なんとなくダラダラ過ごしても、一生懸命に打ち込んでも、大学生活なんてあっという間に過ぎていきます。大学生活ってチュートリアルみたいなものだと思います。教員が補助して導いてくれるし、本気で挑戦して失敗しても怒られない。ただ、チュートリアルで獲得した能力は本編（社会人）に引き継がれるし、人生はオートセーブでリセットも不可なので、ダラダラと過ごしてスキップしちゃうのは後々を考えると怖いな、とも思います。大学生活が、人生で一番能力を伸ばすことができる期間です。 なので、この演習では刑法・刑事訴訟法に本気で取り組むことを通して、基礎的な能力を向上させたいと思います。具体的には、刑事法の体系的理解の獲得に加え、論理的思考力、調査能力、読解能力、報告・伝達能力（いわゆるコミュニケーション能力）、突破力といった今後の人生で必要となる基本的な能力を涵養することを目的とします。とりわけ、「判例を読む能力」を涵養することを目指します。 【概要】 刑事法は、手続法である刑事訴訟法と実定法である刑法からなります。本演習では、刑事訴訟法の重要判例と刑法の重要判例の両方を2年かけて学ぶことで、刑事法全体の理解をめざします。 刑事訴訟法については、3年生になった段階では刑事訴訟法の履修が終わっていないことが想定されるため、刑事訴訟法については基本的な考え方を適宜レクチャーしながら進めていきます。そのため、担当者には次回の演習において前回の演習内容をまとめたものを共有することを求めます。つまり、復習が重要となります。 刑法については、近年の重要判例解説（重判）に掲載されている判例についての報告をしてもらいます。 4年生における演習Ⅲにおいては、卒業論文の執筆してもらいます。 【その他】 楽しくて良い雰囲気ゼミにしたいと思います。		
履修条件・留意点	・適宜皆さんの希望に沿って変更を加えることがあります。 ・刑法総論、刑法各論の知識が必要となります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑事法の体系的理解を獲得する ・刑事法を学問として探求するための基礎力を身につける ・事案を分析し、判例の射程を検討する能力を身につける ・調査・報告・討論といった、研究のための基礎的な能力を獲得する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に口頭でのフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは特に指定しませんが、刑法と刑事訴訟法の基本書を各自準備してください。 最新版の六法は毎回必ず持参してください	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	50
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・4年次に卒業論文の執筆があるものとして考えておいてください（ただし、法科大学院等進学希望者は、受験後に書き始めることになります） ・報告者ではない人も、事前にレジュメや判例等の資料を熟読して臨んでください ・毎週の楽しみになるようなゼミにしていきましょう！ ・本気で取り組むと少ししんどいかもしれませんが、その分突破したときのやりがいと成長がありますので、がんばりましょう。大切なのは意地と根性です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 自己紹介、今後の進め方の相談・確認 各回の報告の担当者の決定	刑法を一通り復習しておいてください。	4時間
第2回	対面	【次回以降の報告の準備】 今後の授業進行のための基本的な事項の確認・個別対応など	授業時間中に確認・相談したことをもとに、各自でも準備を進めておいてください。	4時間
第3回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第4回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第5回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第6回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第7回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間

第8回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第9回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第10回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第11回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第12回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第13回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第14回	オンデマンド	【振り返り】 内容面についての振り返りを行い、適宜解説を加えます	【予習】 テキストの中で、苦戦した部分について読み返しておいてください。 【復習】 授業内容を復習し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第15回	対面	【まとめと総括】 演習・報告を振り返り、修得した内容について議論します。	【復習】 テキスト及び報告レジュメを見返し、知識の定着を図ってください。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察と法～警察官の判断基準と行動原理～		
授業の目的及び概要	・ 警察官として職務を執行する上において、法的根拠に基づく揺るぎない「判断基準」と「行動原理」を習得する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 警察の民主的運営の保障、警察組織の効率的運営、政治的中立性の確保、政府の治安責任等を基本理念とする警察法を学び警察の組織、責務、職務権限の範囲等警察官として必要な基本的知識を習得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 次回授業でコメントシートを紹介し、質問への回答や補足説明を行い、理解を深めます。 ・ 授業で発表、討議した研究結果はその都度授業で担当教員から実学に直結する講評をコメントします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	・ 指定しません。 ・ 教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
参考書	・ 指定はしません。 ・ 教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道である。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。 ・ しかし警察官として36年間勤務した私が確信しているのは、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援していることです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。		

	・ 「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ 秋学期の授業方針の説明を行い、発表グループを再編成、受講生の意思統一を構築する。 ・ 授業計画は必要性、受講生の希望等により変更することがある。 ・ 担当教員が警察法の概要を再説明する。 ・ 担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示する。	警察法の概要について再度復習しておくこと。 担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので、提示された課題について関係条文、判例を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第2回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第3回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第4回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第5回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第6回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで研究、討議した、警察法に関する小テストを行うので、復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として前半の自身の学習結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第8回	対面	前半の総括を実施し、後半の演習に反映する。	授業の総括結果を復習しておくこと。 担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第9回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第10回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間

		出。		
第11回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第12回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察法に関する次の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第13回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで討議した、警察法に関する小テストを行うので、予習しておくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として秋学期の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第15回	対面	秋学期の演習を振り返り総括を行う。	復習として秋学期の自身の学修結果に関して総括し、ノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	これからの世界と日本の安全保障について考える（2）		
授業の目的及び概要	【授業の目的】 これからの世界と日本の安全保障上の諸問題について、『外交青書』を参考に自らの視点で考察する力を修得するのが目的です。 【授業の概要】 授業については、2022 年のロシアによるウクライナ軍事侵攻などを取り上げ、リアルタイムで世界の動きを実感できる内容を心掛けるとともに、防衛省・自衛隊で勤務してきた実務経験を積極的に紹介していきたいと思います。併せて4年次の卒業研究（卒業論文の作成）に向けたテーマに基づく調査研究を行っていきます。 また法学部研究発表大会への参加を推奨するとともに、参加者については成績評価に反映したいと考えています。		
履修条件・留意点	この授業科目は、演習Ⅲと連続・一貫性を有する科目である点に留意して履修して下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代社会の諸課題を理解し、法的知識・技能をもとにして、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけている。そのほか、自由、平等、民主主義などの価値原理を基礎とする、法学を中心とする高度な専門知識を体系的に理解するとともに、現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民として、他者と協調・協働できる能力を身につけている。あわせて、論理的な法的思考力と豊かな表現力とともに、情報、数理、英語等の汎用的技能を修得し、社会科学を中心とした幅広い教養を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	口頭発表及び質疑応答の内容について、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	外務省『令和6年版外交青書』（外務省ホームページ）	ISBN	－
参考書	授業で、その都度配布します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	日本の防衛や世界の軍事情勢に少しでも興味がある方であれば、この演習の履修を歓迎します。また授業を履修するにあたっては、日ごろから防衛問題に関するニュースに関心を持つように心掛けて下さい。 そして授業における評価では、定説にとらわれない独創的な発想や意見を重視します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業ガイダンスなど ・ 授業ガイダンス ・ インターネットによる調査研究の方法 ・ 各種コミュニケーションの技法	【予習】授業前に、本シラバスを熟読し、その内容を確認・理解した上で授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、自分が興味のある安全保障・防衛問題に関するテーマについて考えて下さい。	4 時間
第2回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：世界と日本の主な出来事	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－巻頭特集』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：国際認識と日本外交の展望	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第1章』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：「自由で開かれたインド太平洋」の推進	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第1節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：アジア・大洋州	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：北米	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第3節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：中南米	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第4節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：欧州	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第5節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：ロシア、中央アジアとコーカサス	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第6節』を読み、授業内容を予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読み、授業内容を復習して下さい。	4 時間
第10回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：中東と北アフリカ	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第7節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第11回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：アフリカ	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第8節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第12回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：日本と国際社会の平和と安定に向けた取組	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第1節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：日本の国際協力	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間

第14回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：経済外交	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第3節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	テーマに基づく調査研究－参考：日本への理解と信頼の促進に向けた取組	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第4節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、視聴した講義ガイダンス及びテキスト・参考資料を復習して下さい。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事及び行政の裁判に関する研究 裁判実務の視点から		
授業の目的及び概要	(目的) 本演習は、民事及び行政に関する主要な最高裁判例などを題材として、担当教員の約27年間における裁判官としての実務経験を踏まえた事実認定の手法(方法)、法律上の問題点(争点)に対する検討のあり方を教示、指導し、本演習を履修することにより、社会に出て、民事紛争に関わった際、その問題の本質を理解し、具体的な事案に即した妥当な解決を図る能力を身に付けることを目指します。 4年生の演習Ⅲとあわせて2年間の演習の成果として、各自が調査、研究、報告した成果をまとめたゼミ報告レポート集(卒業研究に相当するもの)を完成させることを目標とします。 (概要) 初回の授業時にガイダンスを行い、2回目以降の授業内容(報告担当者、報告対象とする判例等)を決定します。 演習の運営としては、基本的には、受講生の方々に分担して行ってもらいます。 担当教員は、適宜、受講生の質疑応答・議論の補足説明(フォロー)を行います。		
履修条件・留意点	民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、債権各論Ⅰ、家族法Ⅰの各授業を履修済または履修中であることが望ましい。 民事訴訟法及び行政救済法の各講義を履修選択して下さい。 本演習では、出席及び積極的な発言・発表を重視します。正当な理由のない欠席は原則として認めません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	判例の具体的な事案を理解した上で、当該具体的な事案に即した妥当な解決策を検討、発表することができる。 民事・行政紛争に関する裁判のあり方を理解し、適切に利用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等につき、演習中において、適宜、解説や講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992年に司法試験(旧司法試験)に合格した後、1995年から2022年まで27年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判(執行、保全、破産事件を含む。)を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
参考書	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表(口頭・実技)	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)	0	

	その他の内容
この科目の受講にあたって	司法書士、行政書士、宅地建物取引士を目指す者や裁判所職員採用試験の他、司法・行政系の公務員試験合格を目指す者には、経験を有する担当教員が、いずれも、個別に経験に基づく指導（アドバイス）をします。 演習の内容については、受講生の希望に応じて柔軟に検討します。希望があれば、裁判所、法務局などの見学、弁護士、司法書士などのゲストスピーカーの招致、セミ宿泊研修、懇親会、学園祭への出店なども実施可能です。 受講生は、初回までに本演習で実施を希望する内容について、よく検討し、積極的に発表して下さい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・担当テーマを考える。 なお、演習計画・内容は、受講者の皆さんと共に、協議し、その希望に応じて、柔軟に変更することがあります。	【予習】自分が希望する授業内容・担当テーマ（出来れば複数）を検討し、演習で発表できるよう準備する。 【復習】自分が担当することになったテーマに関する文献、裁判例を探し、報告のための準備を行う。	4時間
第2回	対面	担当者による報告と討論（1）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第3回	対面	担当者による報告と討論（2）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第4回	対面	担当者による報告と討論（3）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第5回	対面	担当者による報告と討論（4）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第6回	対面	担当者による報告と討論（5）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第7回	対面	担当者による報告と討論（6）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第8回	対面	担当者による報告と討論（7）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間
第9回	対面	担当者による報告と討論（8）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4時間

			を再度、確認する。	
第10回	対面	担当者による報告と討論（9）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間
第11回	対面	担当者による報告と討論（10）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間
第12回	対面	担当者による報告と討論（11）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間
第13回	対面	担当者による報告と討論（12）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間
第14回	対面	担当者による報告と議論（13）	【予習】担当者等が作成し、事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	秋学期のまとめ	【予習】事前に配布された資料を読み、自らも当該テーマに関して、質問、議論したい内容を検討、準備する。 【復習】オンデマンド動画を視聴して、配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働問題や労働現場の実態について判例を検討する		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生、企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法であります。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要だと思います。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に、実際の労働現場でどのような利益対立があり、それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々、演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的な労働判例における利害関係、争点、具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導します。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要、争点、事実認定、判断根拠、判定理由順に発表してもらい、その後、担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり結論を出します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『ケースブック労働法第 4 版』，荒木尚志・奥田香子，有斐閣，2019 年 ②『労働判例百選 第 10 版』，村中孝史・荒木尚志，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784641144743 ②9784641115576
参考書	書名：『判例労働法入門第 7 版』、著者名：野田進外多数、有斐閣 2021 年	ISBN	9784641243477
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強します。雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になるだろうと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者の決まる。	【予習】シラバスを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4時間
第2回	対面	主題：みちのく銀行事件 - 労働契約の変更	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第3回	対面	主題：山口観光事件 - 懲戒権行使の濫用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第4回	対面	主題：下関商業高校事件 - 勧誘退職	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第5回	対面	主題：関西電力（ロッカー撮影）事件 - 労働者の人権	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第6回	対面	主題：トナミ運輸事件 - 内部告発	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第7回	対面	主題：エッソ石油事件 - チック・オフ	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第8回	対面	主題：平尾事件 - 労働協約の効力	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第9回	対面	主題：朝日災海上保険（高田）事件 - 労働協約の拡張適用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第10回	対面	主題：御国ハイヤー事件 - ピケットিং	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第11回	対面	主題：丸島水門製作所事件 - ロックアウトの正当性	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第12回	対面	主題：済生会中央病院事件 - 支配介入	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第13回	対面	主題：第二鳩タクシー事件 - 不当労働行為の救済命令	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第14回	対面	主題：中労委（西神テトラパック）事件 - 不利益取り扱い	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第15回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する	4時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法財産法の判例研究		
授業の目的及び概要	民法の法律問題の中で基礎的な問題、発展的な問題を学ぶ。分野は財産法を中心とする。財産法分野における重要な判例を取り上げ、事実関係を分析し、問題点を明らかにし、裁判所の判断を検討する。 授業において各担当者が個々の判決について検討・報告し、その後、全員で議論する。集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々に部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 財産法に関する基本的な事項、発展的な事項について理解し、判断することができる。 2. 財産法に関する事例において、事案を正確に把握し、問題点を整理し、裁判所の判断を的確に説明できる。 3. 報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 4. 報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べるることができる。 5. 各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについての事前に質疑を受け、事後に意見を述べ。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ（第9版）』（有斐閣、2023年）	ISBN	ISBN-13 : 978-4641115637
参考書	事前に指示した判例について検討するために、各種判例集（民集、判例時報、判例タイムズ）、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	取り上げる判決については、民法判例百選Ⅱの中の特定物債権と詐害行為取消権、第三者の債権侵害と不法行為、買主の引取義務、債権譲渡の対抗要件の構造、詐称代理人と債権の準占有者、指名債権の二重譲渡と民法478条、弁済による代位、差押えと相殺、付随的債務の不履		

	行と解除、民法561条による解除と買主の使用利益の返還義務、売買後に規制された土壌汚染と瑕疵、不特定物の売買と瑕疵担保、売買契約の無効と立替払契約の効力、制限超過利息を任意に支払った場合と貸金業法43条、正当事由と建物賃借人の事情、信頼関係破壊の法理、サブリースと賃料減額請求、誤振込金の返還請求と預金債権、転用物訴権、騙取金銭による弁済と不当利得、第三者に交付された貸付金の返還不動産譲渡担保の実行、集合動産の譲渡担保、集合債権の譲渡担保、抵当権の物上代位一債権譲渡との優劣、法定地上権―1番抵当権設定時に土地と建物の所有者が異なっていた場合等

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介から始めます。 その後、ゼミの方法を説明し、取り上げる判決を紹介し、各人の担当を決定する。	民法判例百選で取り上げる判例について一通り見ておいてください。	4時間
第2回	対面	2回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。テーマは前回示したものの中の余ったものの中の一つになる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第3回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第4回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第5回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第6回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第7回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第8回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第9回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第10回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第11回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4時間
第12回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見	4時間

			をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	
第13回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第14回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第15回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	渡邊 康行	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	家族と憲法		
授業の目的及び概要	家族と憲法というテーマに関連する判例・学説を検討します。例えば、最近の重要な最高裁大法廷の判決・決定である、夫婦同氏制合憲判決、性同一性障害者特例法3条1項4号違憲決定、下級審で相次いで違憲判決がでている同性婚訴訟などを主たる素材としながら、それに関連する重要判例や判例評釈を読むことによって、当該テーマを掘り下げて理解することを目指しています。 特定のテーマを扱うことにより、当該問題についての深い理解を得ることを目的としています。一定の問題領域について詳しい理解を得ることは、その他の憲法問題への関心を深めることにつながるはずで。卒業論文を執筆することを希望している学生は、授業で取り上げたテーマを題材として選択すれば、比較的容易に作業を進めることができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主たる判例に関連する判例・学説を調査することができる能力、それらを精読する能力、それを基に自分の意見を作り、他人に対して説明する能力、報告者の見解を的確に理解し、それとは異なった観点を提示する能力などを養う。それらを通じて、法科大学院既修者入試試験を突破できる程度の学力を身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業のなかで解説・講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストとしては、判決文や論文などを配布します。	ISBN	なし。
参考書	本演習担当者の体系書として、渡辺・穴戸・松本・工藤『憲法Ⅰ〔第2版〕』（2023年）、『憲法Ⅱ 総論・統治』（2020年）（いずれも日本評論社、後者は2025年3月に第2版が公刊予定）があります。これらは現在、司法試験や国家公務員総合職試験などの受験生にとって定番の基本書となっているものです。	ISBN	978-4-535-52711-9 978-4-535-52479-8
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	1・2年次に配当されている憲法関係科目の単位を取得済み（又は取得見込み）であることを要件とします。法曹・行政職公務員・教員・研究者など、将来法律に関係する職業を志望してい		

あたって	る、意欲の高い学生が履修することを想定しています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方などのガイダンス。報告の担当の決定など。	自分が報告したいテーマについて、予めいくつか候補を考えておく。	1 時間
第2回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第3回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第4回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第5回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第6回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第7回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第8回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第9回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第10回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第11回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第12回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第13回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第14回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業のまとめ	これまでの授業内容を復習する。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	手嶋 豊	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法・財産法分野の重要論点の検討		
授業の目的及び概要	民法の財産法分野のうち、当該領域の重要論点を抽出して検討し、民法・財産法の理解を確かなものにするとともに、各種試験対策の準備も併せて進めることを内容とする。		
履修条件・留意点	民法・財産法の全分野について一応の知識を有していることを前提とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 民法・財産法に関する基礎知識を確かなものとする。 ・ 民法・財産法について、起こり得る紛争事例を知り、それらの知識を通じて、社会における様々な課題に妥当な解決策を提案できるようになること。 ・ 演習を通じて、共同報告や質疑応答を実施できる、実践的な経験と知識を得ること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 報告・レジュメに対する講評・アドバイスを演習中に行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	指定しない。
参考書	指定しない。	ISBN	指定しない。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	各種試験合格など、目標をもって、積極的に民法を学ぼうという意欲のある皆さんの参加を期待している。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	演習全体のオリエンテーション、演習の進め方、自己紹介、担当論点の割当て、到達目標等についてのガイダンス。	事前学修：民法・財産法全体について、総復習をしておく。3時間。 事後学修：報告を担当する論点について、調査を始める。1時間。	4 時間
第2回	対面	割り当てられた論点について、担当報告者が報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該論点についての理解を深める。	事前学修：当日取り上げられる予定の論点について調べ、自説の内容と根拠を検討しておく。2時間。 事後学修：当日の報告を振り返り、当該論点について	4 時間

科目名	演習ⅡB		開講年度	2025
担当者	大島 一悟		配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	判例で学ぶ民法			
授業の目的及び概要	民法に関する主要な最高裁判例を用いて、事実を正確に把握し、問題点を発見し、問題を解決する能力を養う。 また、法科大学院進学、行政職公務員試験、司法書士・行政書士・宅建士など、民法が必要となる国家試験受験のための能力を養うことも目標とする。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. 債権総論・債権各論に関する基本事項を理解し、条文を使って説明できる。 2. 債権総論・債権各論に関する事例に対し、事案・問題点を正確に把握し、具体的な解決方法を示すことができる。 3. 他者と協力して共同調査・研究・報告・質疑応答をすることができる。 1. については、民法に関連する法律問題に対して、問題点を把握し、条文を使って問題解決を図る能力を養うことを目標とする。 2. については、債権総論・債権各論に関連する判例を通して、事案を正確に把握する能力、問題発見能力を養うとともに、条文を使って問題を解決する能力を身につけることを目標とする。 3. については、共同での調査報告（各回の報告はグループ単位で行う）・質疑応答・討論を通して、他者と協力しながら学び、問題解決を図る能力を身につけることを目標とする。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	作成したレジュメについて、授業中や授業外の時間に講評やより良いレジュメにするためのアドバイスを行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	民法判例百選Ⅱ[第9版]，窪田充見ほか編，有斐閣，2023 年		ISBN	ISBN : 978-4641115637
参考書	授業中に適宜アドバイスする。		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		50	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	民法に興味があり、ゼミに積極的に参加する意欲のある者の履修を期待している。 特に、法科大学院進学、行政職公務員、司法書士・行政書士・宅建士などの国家資格取得を目指している者には、積極的に履修してもらいたい。 判例の事案を正確に分析し、問題点を把握して検討するには、民法に関する幅広い知識が必要			

となるため、民法の基礎的知識を修得していることが望ましい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 自己紹介、テキスト・ゼミの運営方法・各回の報告者の決定などを行う。	事前に民法総則・物権法・債権法の全体を予習しておく。 事後に各自の報告部分の予習をはじめるとともに、報告担当グループのメンバーで資料作成等の報告準備の計画をたて、準備を進める。	4時間
第2回	対面	債権総論：債権の目的と効力 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「債権の目的と効力」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「債権の目的と効力」に関するテキストを通読する。	4時間
第3回	対面	債権総論：多数当事者の債権関係 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「多数当事者の債権関係」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「多数当事者の債権関係」に関するテキストを通読する。	4時間
第4回	対面	債権総論：債権譲渡と債務引受 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「債権譲渡と債務引受」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「債権譲渡と債務引受」に関するテキストを通読する。	4時間
第5回	対面	債権総論：債権の消滅 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「債権の消滅」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「債権の消滅」に関するテキストを通読する。	4時間
第6回	対面	契約総論：契約の成立と解除 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「契約の成立と解除」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「契約の成立と解除」に関するテキストを通読する。	4時間
第7回	対面	契約各論：売買・贈与 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「売買・贈与」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「売買・贈与」に関するテキストを通読する。	4時間
第8回	対面	契約各論：賃貸借・使用貸借 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「賃貸借・使用貸借」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「賃貸借・使用貸借」に関するテキストを通読する。	4時間
第9回	対面	債権法：不当利得 具体的な事案（重要とされている最高裁判例）について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「不当利得」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジュメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「不当利得」に関するテキストを通読する。	4時間
第10回	オンデマンド	研究発表大会へ参加することで、第10回授業に振り替える。発表者として参加しない者は、発表を参観し、レポートを作成して提出する。	研究発表大会への参加によるため、参加後、レポートを提出する。提出するレポートの形式等については、ラーニングポータル等で案内する。	4時間
第11回	対面	債権法：不法行為 具体的な事案（重要とされている最高裁判	事前に「不法行為」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメ	4時間

		例) について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	ンバーと協力してレジユメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「不法行為」に関するテキストを通読する。	
第12回	対面	債権法：特殊の不法行為 具体的な事案(重要とされている最高裁判例) について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「特殊の不法行為」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジユメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「特殊の不法行為」に関するテキストを通読する。	4 時間
第13回	対面	親族法：婚姻・親子 具体的な事案(重要とされている最高裁判例) について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「婚姻・親子」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジユメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「婚姻・親子」に関するテキストを通読する。	4 時間
第14回	対面	親族法：親権・後見・保佐・補助・扶養 具体的な事案(重要とされている最高裁判例) について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「親権・後見・保佐・補助・扶養」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジユメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「親権・後見・保佐・補助・扶養」に関するテキストを通読する。	4 時間
第15回	対面	相続法：相続・遺言 具体的な事案(重要とされている最高裁判例) について、報告グループによる報告の後、全員で質疑応答及び討論を行う。	事前に「相続・遺言」に関するテキストの該当部分を読み、内容を予習しておく。報告担当グループは他のメンバーと協力してレジユメを作成する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、「相続・遺言」に関するテキストを通読する。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	犯罪捜査と法 ～犯罪捜査における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	犯罪捜査の実情とその法手続きについて理解することを目的としています。捜査機関における犯罪の認知、捜査の実行、送致、事件処理などの一連の流れに関し、各グループにおいて研究テーマを設定し、犯罪捜査の現状やそれに必要な基礎的知識、適法判例・違法判例等を調査研究し、犯罪に対してとるべき各種の捜査手続きや捜査手法についての限界や適法性等についての研究発表を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①犯罪捜査がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②捜査手続きに関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件に対する警察捜査の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究課題のレポートには、授業中にコメント、補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義 第4版, 津田隆好, 東京法令出版, 2019 年4月 ②実例中心捜査法解説 第4版 ―捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門―, 幕田英雄, 東京法令出版, 2019 年4月 ③刑事訴訟法講義 第7版, 池田修・前田雅英, 東京大学出版会, 2022 年7月	ISBN	① 9784809013959 ② 9784809013973 ③9784130323963
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	「捜査」というと「刑事がやるもの」と認識している学生が多いかも知れませんが、警察官となり交番に配属された段階から、また刑事だけではなく生活安全、交通、警備などの部門に配		

あたって	属されても「捜査」は必要とされます。また、警察以外の海上保安官、入国警備官、自衛隊の警務官などの公安職においても、刑事訴訟法に規定された特別司法警察職員として捜査に従事しなければなりません。公安職を目指す学生が即戦力としての人材になるためには、実際の犯罪捜査の基礎を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。本演習は、そのような学生に非常に有益だと思います。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査の実務で要求される知識・技能などを伝えたいと考えています。 オンデマンド授業については、学年歴等にゆり実施回を変更する場合があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業方針等の説明を行い、発表グループの編成を行います。 各グループごとの研究テーマについて討議と選定を行います。	【予習】シラバスを確認し、春学期の取組みについてまとめておく。関心のある過去の事件・判例について調べておく。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておく。	4時間
第2回	対面	「テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題」を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第3回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第4回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第5回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第6回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4時間
第7回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4時間
第8回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4時間
第9回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4時間
第10回	対面	「研究課題の集約とプレゼン準備②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。	4時間

			【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	
第11回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備③」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4時間
第12回	オンデマンド	課題提出	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4時間
第13回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4時間
第14回	対面	「研究結果の発表と全体討議②」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4時間
第15回	対面	秋学期の振り返りと総括を行います。	【予習】秋学期の自身の学修結果について、発表できるようにまとめをしておく。 【復習】秋学期の自身の学修結果に関して総括をしておく。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	渡邊 康行	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例と学説を読む		
授業の目的及び概要	特定のテーマを設定して、それに関連する判例・学説を検討します。例えば、最近の重要な最高裁大法廷の判決・決定である、性同一性障害者特例法3条1項4号違憲決定や、在外日本人国民審査権判決などを主たる素材としながら、それに関連する重要判例や判例評釈を読むことによって、当該テーマを掘り下げて理解することを目指しています。 年間で4～5件程度の統一テーマを設定する予定です、報告者が周到な準備が必要であることはもちろんですが、それ以外の学生も十分に予習してくることを求めます。教員が一方的に説明するのではなく、演習参加者同士が活発な意見交換ができるようにしたいと思っています。 特定のテーマを扱うことにより、当該問題についての深い理解を得ることを目的としています。一定の問題領域について詳しい理解を得ることは、その他の憲法問題への関心を深めることにつながるはずでです。卒業論文を執筆することを希望している学生は、授業で取り上げたテーマを題材として選択すれば、比較的容易に作業を進めることができると思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主たる判例に関連する判例・学説を調査することができる能力、それらを精読する能力、それを基に自分の意見を作り、他人に対して説明する能力、報告者の見解を的確に理解し、それとは異なった観点を提示する能力などを養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業のなかで解説・講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	判決文や判例評釈などを配布します。	ISBN	なし。
参考書	授業のなかで紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	憲法Ⅰ、憲法Ⅱ（人権）、憲法Ⅱ（統治）を履修することを求めます。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	授業の進め方などのガイダンス。報告の担当の決定など。	自分が報告したいテーマについて、予めいくつか候補を考えておく。	4 時間
第2回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第3回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第4回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第5回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第6回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第7回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第8回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第9回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第10回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第11回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第12回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第13回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第14回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業のまとめ	これまでの授業を復習する。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	大場 史朗	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事訴訟法演習（１） 卒業論文作成の準備		
授業の目的及び概要	本演習は、現代刑事法、とくに刑事手続の諸課題につき批判的かつ自由に研究することを目的としています。刑事手続では、一般に、社会の治安維持の要請と被疑者・被告人の人権擁護の要請が問題となります。前者が強すぎれば後者が脅かされ、後者が強すぎれば前者が全うされないこともおこります。どのようにバランスを図っていくかが問題となります。その運用に当たっては一定の「物差し」が必要となりますが、１つの「物差し」となるのが歴史的に形成されてきた価値です。この演習では歴史的な視点から刑事手続の諸問題を考えていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）刑事訴訟法の基本的な概念と流れについて理解し、説明することができる。 （２）刑事訴訟法の論点を把握・理解し、説明することができる。 （３）他人の痛みを自分の痛みにすることができる（人権感覚の涵養）。 （４）相手の意見を尊重し、それに対して自分の意見を言うことができる。 （５）チームワークを身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	授業内で適宜指示します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この演習では受講生の自主性が重要となります。3年次までの学修を基礎として、卒業論文等の作成を１つの大きな目標として、学修を進めることを予定しています。情報検索・文献収集の方法、論文の書き方、判例の読み方等もあわせて学習します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、授業の進め方などのレクチャー	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んでください。	4 時間

		*授業計画は柔軟に変更することがあります	【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第2回	対面	受講生による報告と議論（1）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第3回	対面	受講生による報告と議論（2）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第4回	対面	受講生による報告と議論（3）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第5回	対面	受講生による報告と議論（4）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第6回	対面	受講生による報告と議論（5）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第7回	対面	受講生による報告と議論（6）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第8回	対面	受講生による報告と議論（7）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第9回	対面	受講生による報告と議論（8）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第10回	対面	受講生による報告と議論（9）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第11回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第12回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第13回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第14回	対面	受講生による報告と議論（13）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	卒業論文のアウトラインの作成	演習内での議論・指摘を踏まえて、卒業論文のアウトラインを提出してください。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察と法～警察官の判断基準と行動原理～		
授業の目的及び概要	・ 第一線で単独執行を求められることのある警察官の法的根拠に基づく判断基準と行動原理を修得する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 警察官職務執行法を学び警察官を主体とする職務権限の範囲と限界等第一線で単独執行を求められることのある警察官として必要な基本的知識等を習得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 次回授業でコメントシートを紹介し、質問への回答や補足説明を行い、理解を深めます。 ・ 授業で発表、討議した研究結果はその都度授業で担当教員から実学に直結する講評をコメントします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	・ 指定しません。 ・ 教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
参考書	・ 指定しません。 ・ 教員から研究課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道である。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。 ・ しかし警察官として36年間勤務した私が確信しているのは、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援していることです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。 ・ 「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦し		

み困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ 春学期の授業方針の説明を行い、発表グループを編成、受講生の意思統一を構築する。 ・ 授業計画は必要性、受講生の希望等により変更することがある。 ・ 担当教員が警察官職務執行法の概要を説明する。 ・ 担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示する。	警察官職務執行法についてあらかじめ概要について読了し理解しておくこと。 担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、提示された課題について関係条文、判例を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第2回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第3回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第4回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第5回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第6回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で発表、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで研究、討議した、警察官職務執行法に関する小テストを行うので、復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として前半の自身の学修結果に関する総括しておくこと。	4 時間
第8回	対面	前半の総括を実施し、後半の演習に反映する。	授業の総括結果を復習しておくこと。 担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第9回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第10回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間

第11回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第12回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第13回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで討議した、警察官職務執行法に関する小テストを行うので、予習しておくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として春学期の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第15回	対面	春学期の演習を振り返り総括を行う。	復習として春学期の自身の学修結果に関して総括し、ノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	裁判例を通じて、民法を基礎とした私人間の法律関係を理解し、その紛争解決方法などについて考察する。		
授業の目的及び概要	民法や民事問題などに関心のある学生を対象にします。本演習では、各自で関心のあるテーマを決め、そのテーマに関する法制度や判例等を調べ報告・検討することにより民法や近時の民事問題などの理解を深めることを目的とします。 毎週1つのテーマについて担当者（原則として個人）が報告した後、全員で質疑応答及び議論をしていきます。 担当者（原則として個人）が報告した後、全員で質疑応答及び議論を行うため、担当者以外の皆さんにも積極的な参加・発言を求めます。 初回の授業で報告の順番や担当テーマを決定します。 各担当者が報告した内容は、原則として、卒業研究の形式で提出してもらいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 自ら関心のあるテーマに関する法制度・改正の具体的な内容について調べ、解説することができる。 2. 関連する裁判例や学説を調査・分析することができる。 3. 民法に関する基本問題を含む、民事紛争の解決手段・方法についても理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメの作成方法については適宜、演習中において、助言、指導します。 報告内容等につき、授業中において、適宜、解説や講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
参考書	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	民法、商法（会社法）に関する科目を履修していることが望ましい。 また、民事紛争の解決手段について理解を深めたい者は、民事裁判と法＜民事訴訟法Ⅰ＞、民事訴訟法概説＜民事訴訟法Ⅱ＞、民事執行・保全法、倒産処理法の講義の履修を推奨する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・担当テーマを考える。 報告担当の決定。	【予習】自分が希望する担当テーマ（出来れば、複数）を検討、抽出する。 【復習】自分が担当することになったテーマに関する文献、裁判例を探し、事後の報告のための準備を行う。	4時間
第2回	対面	今後の報告・議論の方法に関する指導	【予習】事前に配付された資料を読んでおく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4時間
第3回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4時間
第4回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4時間
第5回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4時間
第6回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4時間
第7回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4時間
第8回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4時間
第9回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4時間
第10回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4時間
第11回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4時間
第12回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自	4時間

			らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	
第13回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第14回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ	【予習】事前配布された資料を読んでおく。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	これからの世界と日本の安全保障について考える（１）		
授業の目的及び概要	【授業の目的】 これからの世界と日本の安全保障上の諸問題について、『防衛白書』を参考に自らの視点で考察する力を修得していきます。 【授業の概要】 授業については、2022 年のロシアによるウクライナ軍事侵攻などを取り上げ、リアルタイムで世界の動きを実感できる内容を心掛けるとともに、防衛省・自衛隊で勤務してきた実務経験を積極的に紹介していきたいと思います。 また法学部研究発表大会への参加を推奨するとともに、参加者については成績評価に反映したいと考えています。		
履修条件・留意点	この授業科目は、演習Ⅱと連続・一貫性を有する科目である点に留意して履修して下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代社会の諸課題を理解し、法的知識・技能をもとにして、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけている。そのほか、自由、平等、民主主義などの価値原理を基礎とする、法学を中心とする高度な専門知識を体系的に理解するとともに、現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民として、他者と協調・協働できる能力を身につけている。あわせて、論理的な法的思考力と豊かな表現力とともに、情報、数理、英語等の汎用的技能を修得し、社会科学を中心とした幅広い教養を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	口頭発表及び質疑応答の内容について、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	防衛省『令和 6 年版防衛白書』（防衛省ホームページ）	ISBN	－
参考書	授業で、その都度紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	70	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	日本の防衛や世界の軍事情勢に少しでも興味がある方であれば、この演習の履修を歓迎します。また授業を履修するにあたっては、日ごろから防衛問題に関するニュースに関心を持つように心掛けて下さい。 そして授業における評価では、定説にとらわれない独創的な発想や意見を重視します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業ガイダンスなど ・授業ガイダンス ・インターネットによる調査研究の方法 ・各種コミュニケーションの方法	【予習】授業前に、本シラバスを熟読し、その内容を確認・理解した上で授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、自分が興味のある安全保障・防衛問題に関するテーマについて考えて下さい。	4 時間
第2回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：わが国を取り巻く安全保障環境（概観）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第1章』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：ロシアによるウクライナ侵略	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第2章』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：諸外国の防衛政策（米国）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第1節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：諸外国の防衛政策（中国）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：諸外国の防衛政策（米国と中国の関係など）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第3節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：諸外国の防衛政策（朝鮮半島）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第4節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：諸外国の防衛政策（ロシア）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第5節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：諸外国の防衛政策（大洋州）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第6節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第10回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：諸外国の防衛政策（東南アジア）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第7節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第11回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：諸外国の防衛政策（南アジア）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第8節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第12回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：諸外国の防衛政策（欧州・カナダ）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第9節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：諸外国の防衛政策（中東・アフリカ）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白書－第1部第3章第10節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4 時間
第14回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：宇宙・サ	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和6年版防衛白	4 時間

		イバー・電磁波といった新たな領域（１）	書－第Ⅰ部第４章第１～２節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	
第１５回	オンデマンド	テーマに基づく調査研究－参考：宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域（２）	【予習】授業前に、防衛省 HP で『令和６年版防衛白書－第Ⅰ部第４章第３～７節』を読み、授業内容を予習して下さい。 【復習】授業後に、視聴した講義ガイダンス及びテキスト・参考資料を復習して下さい。	４時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	#NAME?		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生、企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法であります。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要だと思います。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に、実際の労働現場でどのような利益対立があり、それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々、演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	- 基本的な労働判例における利害関係、争点、具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことにする。 - 進路指導を相談する。論文の書き方に対して指導する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導する。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要、争点、事実認定、判断根拠、判定理由順に発表してもらい、その後、担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり結論を出す。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	荒木尚志・奥田香子『ケースブック労働法第 4 版』有斐閣 2019 年 村中孝史・荒木尚志『労働判例百選 第 10 版』有斐閣 2022 年	ISBN	9784641144743 9784641115576C9432
参考書	野田進外多数『判例労働法入門第 7 版』有斐閣 2021 年	ISBN	9784641243477
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強します。雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になるだろうと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者の決める。	【予習】シラバシを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4時間
第2回	対面	主題：個別的労働関係における使用者 - 黒川建設事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第3回	対面	主題：ネスレ日本懲戒解雇事件 - 懲戒権の行使濫用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第4回	対面	主題：小田急電鉄事件 - 私生活の非行	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第5回	対面	主題：労働基本権の制限 - 全農林警職法事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第6回	対面	主題：日本航空事件 - 整理解雇	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第7回	対面	主題：フォセコ・ジャパン・リミテッド事件 - 競争避止義務	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第8回	対面	主題：津田電機計器事件 - 定年と継続雇用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第9回	対面	主題：川崎市水道局事件 - 職場のいじめ	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第10回	対面	主題：採用の内定 - 大日本印刷事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第11回	対面	主題：札幌中央労基署長事件 - 通勤災害	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第12回	対面	主題：人格権の尊重 - 関西電力事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第13回	対面	主題：国鉄団交拒否事件 - 団体交渉対象	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第14回	対面	主題：プライバシー保護 - 社会医療法人天神会事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4時間
第15回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例研究		
授業の目的及び概要	3 年時秋学期と同様に、双方向・多方向型にて、憲法に関する判例研究を行う。毎回、担当教員が事前に判例を指定し、受講生全員があらかじめその判例について予習してきたうえで、授業時には、担当教員が受講生を指名して、判例の内容等について質問する（双方向・多方向型）。これにより、判例の理解を深める。		
履修条件・留意点	この科目の単位を取得するためには、担当教員が事前に指定した判例を予習したうえで、授業に継続的に出席し、授業内容に取り組む必要がある。 授業に継続的に出席しない場合や、授業に出席しても判例の予習ができていない場合には、この科目の単位を取得することはできない。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主要な憲法判例の要点を理解している。当該要点を口頭で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型のやりとりにより、憲法判例に関する受講生の理解を確認する。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①憲法判例百選 1・2（第 7 版）、長谷部恭男ほか編，有斐閣，2019 年 ②憲法（第 3 版）、渋谷秀樹，有斐閣，2017 年	ISBN	①9784641115453 ， 9784641115460 ②9784641227231
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	95	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	5	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	毎回、担当教員が事前に指定した判例を、十分に予習する必要がある。 判例の予習にあたっては、①事案の概要、②憲法解釈上の争点、③当該争点に関する裁判所の判断、を意識することが重要である。 卒業論文の指導は、憲法に関する内容であれば可能である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第2回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第3回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第4回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第5回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第6回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第7回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第8回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第9回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第10回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第11回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第12回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第13回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第14回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括と課題の指摘 これまでの授業内容を振り返り、今後の学修に向けた課題を指摘する。	これまでの内容を復習する。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	卒論準備		
授業の目的及び概要	法律問題の中から自分が問題と思う問題を見つける。 その問題について扱った文献を調べる。判例があれば判例を調べる。 調べた結果、自らの意見を明確にして、報告する。 議論を実施し、その結果を結論に反映する。 卒論を完成させる。 集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々な部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 社会問題について問題点の基本的な事項について理解し、判断することができる。 2. 報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 3. 報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べるることができる。 4. 各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについての事前に質疑を受け、事後に意見を述べ。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	各種判例集(民集、判例時報、判例タイムズ)、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	80	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	積極的な姿勢を重視します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ゼミの方法を説明する。	皆さんからの意見を中心に進めます。	4 時間
第2回	対面	2回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。	事前に資料を読む。	4 時間
第3回	対面	担当の順番は学生が決定する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第4回	対面	担当の順番による報告となる。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第5回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第6回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第7回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第8回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第9回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第10回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第11回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第12回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第13回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第14回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第15回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見を	4 時間

2025/05/01

			まとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法と現代社会における問題		
授業の目的及び概要	【目的?】 なんとなくダラダラ過ごしても、一生懸命に打ち込んでも、大学生活なんてあっという間に過ぎていきます。大学生活ってチュートリアルみたいなものだと思います。教員が補助して導いてくれるし、本気で挑戦して失敗しても怒られない。ただ、チュートリアルで獲得した能力は本編（社会人）に引き継がれるし、人生はオートセーブでリセットも不可なので、ダラダラと過ごしてスキップしちゃうのは後々を考えると怖いな、とも思います。大学生活が、人生で一番能力を伸ばすことができる期間です。 なので、この演習では刑法に本気で取り組むことを通して、基礎的な能力を向上させたいと思います。具体的には、刑法の体系的理解の獲得（「大学生活はこれを専攻したよ!」と胸を張れるものを作る）、に加え、論理的思考力、調査能力、読解能力、報告・伝達能力（いわゆるコミュニケーション能力）、共同遂行能力、突破力といった今後の人生で必要となる基本的な能力を涵養することを目的とします。 【概要】 4 年生における演習Ⅲにおいて、卒業論文の執筆を一つの目標として学習を進めていきます。各自の研究テーマそれに沿って調査し、報告をしてもらいます。 担当者の報告をもとに、受講生同士の議論を中心にゼミを進めていき、ときに担当教員からの疑問に答えることで、刑法をより深く理解できるようにします。 【その他】 楽しくて良い雰囲気ゼミにしたいと思います。		
履修条件・留意点	・適宜皆さんの希望に沿って変更を加えることがあります。 ・刑法総論、刑法各論の知識が必要となります。それぞれの科目の履修を強く推奨します		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法の体系的理解を獲得する ・刑法を学問として探求するための基礎力を身につける ・調査・報告・討論といった、研究のための基礎的な能力を獲得する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に口頭でのフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	特に指定しませんが、刑法総論および刑法各論の基本書を一冊ずつ準備しておいてください。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・卒業論文の執筆があるものとして考えておいてください ・報告者ではない人も、事前にレジュメ等を熟読した上で臨んでください ・毎週の楽しみになるようなゼミにしていきたいと思います！ ・本気で取り組むと少ししんどいかもしれませんが、その分突破したときのやりがいと成長がありますので、がんばりましょう。大切なのは意地と根性です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 自己紹介、今後の進め方の相談・確認 各回の報告の担当者の決定	刑法を一通り復習しておいてください。	4 時間
第2回	対面	【次回以降の報告の準備】 今後の授業進行のための基本的な事項の確認・個別対応など	授業時間中に確認・相談したことをもとに、各自でも準備を進めておいてください。	4 時間
第3回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第4回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第5回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第6回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第7回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第8回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第9回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。	4 時間

			【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第10回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第11回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第12回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第13回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第14回	オンデマンド	【振り返り】 内容面についての振り返りを行い、適宜解説を加えます	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第15回	対面	【まとめと総括】 演習・報告を振り返り、修得した内容について議論します。	【復習】 報告レジュメを見返し、知識の定着を図ってください。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	企業（会社・個人事業）に関わる法的問題を考える。		
授業の目的及び概要	私たちは、生きていくために働く。自分一人でモノ作りなどして働く者もいれば、プロスポーツ選手もいるし、自ら起業して人を雇う者、会社を立ち上げて経営する者、会社に就職して働く者、さまざまである。ただ、その周りには、必ず誰かが存在し、トラブルや法的問題が生じることが少なくない。 大雑把に言えば、そのようなビジネスに関わる法的問題に関心を寄せ、それらを検討・分析・議論し、一定の結論に導き、それを報告することにより、今後の人生に活かすことができることを目的とする。 演習は、受け身ではなく、自分で考え、疑問があれば質問し、自由に見解を述べるのが最も重要であり、それこそが将来にも役立つ。 演習の進め方は（１）ビジネスシーンで起こりうる事件を題材に、個人またはグループで検討し、報告する。 （２）報告者以外のメンバーも同じ題材を学修し、質疑やディスカッションを積極的に行う。 演習の人数規模やメンバーの興味関心により、進め方は柔軟に変更する。 上記の報告を卒業研究として成果物とすることを目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・積極的に自分の意見を述べることができる。 ・企業に関する基礎的な法的知識を獲得することができる。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を獲得することができる。 ・論理的・発展的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表・報告内容については、レジュメ等を含めて授業内において、修正・アドバイスを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。	ISBN	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、授業の進め方・報告方法の説明、報告者の決定。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第2回	オンデマンド	判例の検索方法・レジюмеの作成方法・報告方法の再確認。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第3回	対面	受講生による報告と議論（1）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第4回	対面	受講生による報告と議論（2）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第5回	対面	受講生による報告と議論（3）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第6回	対面	受講生による報告と議論（4）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第7回	対面	受講生による報告と議論（5）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第8回	対面	受講生による報告と議論（6）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第9回	対面	受講生による報告と議論（7）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第10回	対面	受講生による報告と議論（8）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第11回	対面	受講生による報告と議論（9）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第12回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第13回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。	4時間

			【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	
第14回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第15回	対面	受講生による報告と議論（13）、春学期の総括。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法重要課題の研究		
授業の目的及び概要	民法の特定課題に関する卒業研究のため、研究対象とするテーマを選定し、関連する資料・文献を集め、基本的な研究を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 研究テーマとして、自身が関心のある民法の課題を選定できる。 2. 自身が選定したテーマについて基本的な研究を行い、レポートを作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	作成したレポートや授業中に発表した研究成果については、授業中や授業外の時間に講評やより良いレポートにするためのアドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	各自の研究テーマに応じて適宜アドバイスを行うため、テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜アドバイスを行うため、参考書は指定しません。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	作成する研究レポートは、秋学期の卒業研究に生かせるよう、充実したものの仕上げてもらいたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ゼミの運営方法の説明を行った後、各自の研究テーマを決定し、各回の報告担当者を決定する。	事前に3年次までに学修した民法上の課題や論点のうち、関心があるものについて学修し、卒業研究のテーマを考えておく。 事後に自身の報告日までの研究スケジュールをたて、報告日の報告に向けた資料収集などの準備を始める。	4 時間
第2回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作	4 時間

		研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	
第3回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第4回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第5回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第6回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第7回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第8回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第9回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第10回	オンデマンド	課題レポートを提出することで、第10回授業に振り替える。	レポート課題の内容や提出方法等については、ラーニングポータル等で案内するので、課題の内容を確認	4 時間

			認し、作成して提出すること。	
第11回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4時間
第12回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4時間
第13回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4時間
第14回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4時間
第15回	対面	全参加者が、春学期の研究成果を報告し、研究レポートを作成して提出する。	事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。 事後に報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・ 公務員採用試験（行政職）および法律資格試験（宅建士、行政書士など）の受験に必要な民法の知識を修得 ・ 民法の主要判例の論点と判例法理の理解、論述問題の書き方の修得 ・ 卒業研究の完成		
授業の目的及び概要	・ 本演習では、3 年次までに学修した民法科目の基礎知識を固めるとともに、公務員採用試験（行政職）および法律資格試験（宅建士、行政書士など）に出題される民法の問題の解き方を学修する。その過程で、民法の主要判例の論点および判例法理を理解するとともに、論述問題の書き方についても学修する。 ・ 本演習は、以下の方法で進める。 ①初回演習時に班分けを行う。 ②各班は、判例集を教材として（初回演習時に判例集を受講生に示した上で、学修に役立つものを受講生と相談して決める。）、判例の事実関係、判旨、学説、類似判例、私見をまとめたレジュメを作成して報告する。 ③取り上げた判例に対する公務員試験・資格試験の過去問を教員が提示し、事前に指定した担当者が解答を解説する。 ・ 他のゼミとの共同ゼミ、裁判傍聴、合宿（他のゼミとの合同合宿も実施する）、他大学との法律討論会参加など、課外活動を積極的に実施する。		
履修条件・留意点	物権法Ⅰ・Ⅱ、債権総論Ⅰ・Ⅱ、債権各論Ⅰ・Ⅱ、家族法Ⅰ・Ⅱを履修していること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 民法上の諸制度の趣旨・要件・効果、主要判例の内容を説明することができる。 ・ 与えられた法律問題について、学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。 ・ 法律文章の読み方、書き方、論理的思考法を理解して自ら運用するとともに、効果的にプレゼンテーションをすることができる。 ・ 各自が選んだ研究テーマに取り組み、その成果物を完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 受講生の作成したレジュメや資料に対しては、コメントを行う。 ・ 質問はいつでも受け付ける。授業時間外の質問等に対しては、対面、オンライン（メールやラーニングポータルなど）、オフィスアワーで対応する。また、全員で共有した方がよいと思われる質問については、質問者の承諾を得たうえで共有する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定の教科書は使用しない。必要に応じて演習時に指示する。	ISBN	なし
参考書	特定の参考書は使用しない。必要に応じて演習時に指示する。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・大学の授業は、教員と学生との共同作業によって成り立つものである。いい加減な気持ちで演習に応募しないこと。席を温めて帰れば単位が取れると思っている者は、本演習に向いてない。逆に、自分の夢を何が何でも実現するという強い意志を持っている者は大歓迎する。 ・本演習では課外活動を積極的に行う。大学時代にしかできないことがたくさんあるので、課外活動を通して大学生生活の醍醐味を味わってほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1回 ガイダンス ・演習の進め方・年間計画 ・自己紹介・班分け	・事前学修：事前に配布する資料に目を通し、自分の興味のある分野を選択する。これには2時間を要する。 ・事後学修：選択した問題の内容を確認する。これには2時間を要する。	4時間
第2回	対面	第2回 資料収集およびプレゼンテーションの方法 ・法律文献の検索方法 ・判例報告の方法 ・効果的なプレゼンテーション方法	・事前学修：事前に示された資料に目を通し、内容を確認する。疑問点があれば、整理して教員に質問する。これには2時間を要する。 ・事後学修：学修した内容を図書館で実践する。これには2時間を要する。	4時間
第3回	対面	第3回 判例報告 ・担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第4回	対面	第4回 判例報告 ・担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第5回	対面	第5回 判例報告 ・担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第6回	対面	第6回 判例報告 ・担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第7回	対面	第7回 判例報告 ・担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第8回	対面	第8回 判例報告 ・担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第9回	対面	第9回 判例報告 ・担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第10回	対面	第10回 判例報告 ・担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間

第11回	対面	第11回 判例報告 ・ 担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・ 事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・ 事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第12回	対面	第12回 判例報告 ・ 担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・ 事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・ 事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第13回	対面	第13回 判例報告 ・ 担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・ 事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・ 事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第14回	対面	第14回 判例報告 ・ 担当者が割り当てられた判例について報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・ 事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・ 事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第15回	オンデマンド	第15回 これまでの振り返り ・ 演習で取り上げた判例の内容を再確認する。 ・ 公務員採用試験および法律資格試験の過去問に再度取り組む。	・ 事前学修：演習で取り上げた判例の内容、関連条文などについて再確認する。これには3時間を要する。 ・ 事後学修：報告判例の知識および過去問を再確認する。これには3時間を要する。	6時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察活動と法 ～警察活動における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	警察活動の現状とその法手続きについて理解することを目的としています。 警察における各種の職務執行に関する現状や必要な基礎的知識を修得し、各種の職務執行手続きについての限界や適法性等について研究をします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①警察活動がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②警察活動に関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件・事故等に対する警察活動の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究課題に関する質疑やレポートには、授業中にコメントや補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義 第4版, 津田隆好, 東京法令出版, 2019 年 4 月 ②実例中心捜査法解説 第4版 ―捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門―, 幕田英雄, 東京法令出版, 2019 年 4 月 ③刑事訴訟法講義 第7版, 池田修・前田雅英, 東京大学出版会, 2022 年 7 月 ④注釈警察官職務執行法 5訂版, 古谷洋一, 立花書房, 2021 年 2 月 ⑤警察行政法解説 第3版, 田村正博, 東京法令出版, 2022 年 9 月	ISBN	①9784809013959 ②9784809013973 ③9784130323963 ④9784803722314 ⑤9784809014444
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	公安職を目指す学生が即戦力として活躍できる人材になるためには、現場活動の基礎や法的根拠を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査を始めとする警察活動で要求される知識や技能、その法的根拠や判例に基づく判断基準などを伝えたいと考えています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業方針の説明を行います。 研究テーマの検討と選定を行います。	【予習】学期のはじめにあたり、各自の取組みについてまとめておく。関心のある過去の事件・判例について調べておく。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておく。	4時間
第2回	対面	「テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題」を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第3回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第4回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第5回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究③」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第6回	対面	「研究結果の中間発表準備①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、警察活動の適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4時間
第7回	対面	「研究結果の中間発表準備②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、警察活動の適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4時間
第8回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4時間
第9回	対面	「研究課題の集約とプレゼン準備①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4時間
第10回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4時間
第11回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備③」を行	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく	4時間

		います。	理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	
第12回	オンデマンド	課題提出	【予習】発表内容等の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4時間
第13回	対面	「研究結果の発表と全体討議」を行います。	【予習】発表内容等の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4時間
第14回	対面	「研究発表のまとめ」を行います。	【予習】各発表結果の再確認をしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点等を再検討しておく。	4時間
第15回	対面	学期の振り返りと総括を行います。	【予習】自身の学修結果について、発表できるようにまとめをしておく。 【復習】自身の学修結果に関して総括をしておく。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	大関 龍一	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事事例演習・判例研究		
授業の目的及び概要	1. 主な目的・活動内容 本演習では、刑法に関する事例演習と最新判例研究を行います。事件や事故に関するニュースは日々接するものであり、その意味で刑法は身近な法分野といえるでしょう。中には、悲慘な事件もあり、気持ちを揺さぶられることがあるかもしれません。しかし、刑法学を専攻する者として、その適用を考えるにあたっては、感情に流されことなく、論理と事実に基づいた冷静な判断が求められます。本演習は、いわば法律家の視点から刑法に関する事例を解決し、説得的に表現する力を養うことを目的とします。 具体的には、ゼミ生各自の志望進路を踏まえつつ、以下のような活動を実施します。 (1) 刑事事例演習：事例問題を素材に答案作成とディスカッションを行います。 (2) 刑法判例研究：卒業論文のテーマに関連した判例の発表を行います。 2. 卒業論文 ゼミ生全員に、卒業論文を作成してもらいます。演習内で定期的に進捗報告をしてもらう予定です。なお、秋学期の演習ⅢB では、卒業論文（またはレポート）の提出を単位認定の要件とします。 3. 法科大学院進学希望者に対する学修サポート 本年度に法科大学院入試（および司法試験予備試験）を受験予定の学生には、日々の学修サポートを行うことが可能です。希望があれば、個別に申し出てください。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法の基本的知識を修得し、具体的な事例の解決を図ることができる。 ・自ら判例を調べ、読み解くことができる。 ・積極的に議論に参加し、自らの考えを説得的に伝えることができる。 ・他者の話に真摯に耳を傾け、適切なコミュニケーションをとることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業内で作成された答案について、添削して返却します。 ・発表について、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	・毎回必ず最新版の六法（法学部指定六法）を紙媒体で持参してください。 ・その他の必要な教材については、授業内で指示をします。資料の購入や図書館での収集を促すことがあります。	ISBN	-
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本演習を受講する場合には、「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」、「刑法各論Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであるか、本演習と並行して履修することが必要です。 本演習では毎回課題作成や発表等を実施しますので、授業中は常に頭を働かせることになります。出席率が低い場合や、課された発表を行わない場合のほか、授業に出席していても明らかに学習意欲に欠ける場合には、単位は出ないと思ってください。 また、受講生全員に卒業論文の執筆に取り組んでもらいます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス ・本演習の目的、進め方 ・卒業論文のテーマ決め	【事前学修】刑法について、これまでの学修内容を振り返ってきてください。卒業論文のテーマを考えてください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	2時間
第2回	対面	刑法事例演習 ・刑法の事例問題に取り組めます。 ・受講生全員で討論を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第3回	オンデマンド	判例研究 ・卒業論文執筆に向けて、関連判例の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第4回	オンデマンド	判例研究 ・卒業論文執筆に向けて、関連判例の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第5回	対面	刑法事例演習 ・刑法の事例問題に取り組めます。 ・受講生全員で討論を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第6回	オンデマンド	判例研究 ・卒業論文執筆に向けて、関連判例の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第7回	オンデマンド	判例研究 ・卒業論文執筆に向けて、関連判例の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第8回	対面	刑法事例演習 ・刑法の事例問題に取り組めます。 ・受講生全員で討論を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第9回	オンデマンド	卒業論文執筆に向けたテーマ別研究 ・卒業論文のテーマごとに、複数のグループに分かれて、判例・文献の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第10回	対面	テーマ別発表 ・グループごとに、判例・文献の調査・検討結果について発表します。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間

第11回	オンデマンド	卒業論文執筆に向けたテーマ別研究 ・卒業論文のテーマごとに、複数のグループに分かれて、判例・文献の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第12回	対面	テーマ別発表 ・グループごとに、判例・文献の調査・検討結果について発表します。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第13回	オンデマンド	卒業論文執筆に向けたテーマ別研究 ・卒業論文のテーマごとに、複数のグループに分かれて、判例・文献の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第14回	対面	テーマ別発表 ・グループごとに、判例・文献の調査・検討結果について発表します。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第15回	オンデマンド	総まとめ ・今学期の学修内容について、総復習します。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	渡邊 康行	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例と学説を読む		
授業の目的及び概要	特定のテーマを設定して、それに関連する判例・学説を検討します。例えば、最近の重要な最高裁大法廷の判決・決定である、性同一性障害者特例法3条1項4号違憲決定や、在外日本人国民審査権判決などを主たる素材としながら、それに関連する重要判例や判例評釈を読むことによって、当該テーマを掘り下げて理解することを目指しています。 年間で4～5件程度の統一テーマを設定する予定です、報告者が周到な準備が必要であることはもちろんですが、それ以外の学生も十分に予習してくることを求めます。教員が一方的に説明するのではなく、演習参加者同士が活発な意見交換ができるようにしたいと思っています。 特定のテーマを扱うことにより、当該問題についての深い理解を得ることを目的としています。一定の問題領域について詳しい理解を得ることは、その他の憲法問題への関心を深めることにつながるはずで、卒業論文を執筆することを希望している学生は、授業で取り上げたテーマを題材として選択すれば、比較的容易に作業を進めることができると思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主たる判例に関連する判例・学説を調査することができる能力、それらを精読する能力、それを基に自分の意見を作り、他人に対して説明する能力、報告者の見解を的確に理解し、それとは異なった観点を提示する能力などを養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業のなかで解説・講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	判決文や判例評釈などを配布します。	ISBN	なし。
参考書	授業のなかで紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	憲法Ⅰ、憲法Ⅱ（人権）、憲法Ⅱ（統治）を履修することを求めます。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	授業の進め方などのガイダンス。報告の担当の決定など。	自分が報告したいテーマについて、予めいくつか候補を考えておく。	4 時間
第2回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第3回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第4回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第5回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第6回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第7回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第8回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第9回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第10回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第11回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第12回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第13回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第14回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業のまとめ	これまでの授業を復習する。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	大場 史朗	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事訴訟法演習（２） 卒業論文の執筆と提出		
授業の目的及び概要	本演習は、現代刑事法、とくに刑事手続の諸課題につき批判的かつ自由に研究することを目的としています。刑事手続では、一般に、社会の治安維持の要請と被疑者・被告人の人権擁護の要請が問題となります。前者が強すぎれば後者が脅かされ、後者が強すぎれば前者が全うされないこともおこりえます。どのようにバランスを図っていくかが問題となります。その運用に当たっては一定の「物差し」が必要となりますが、１つの「物差し」となるのが歴史的に形成されてきた価値です。この演習では歴史的な視点から刑事手続の諸問題を考えていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）刑事訴訟法の基本的な概念と流れについて理解し、説明することができる。 （２）刑事訴訟法の論点を把握・理解し、説明することができる。 （３）他人の痛みを自分の痛みにすることができる（人権感覚の涵養）。 （４）相手の意見を尊重し、それに対して自分の意見を言うことができる。 （５）チームワークを身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	授業内で適宜指示します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この演習では受講生の自主性が重要となります。3年次までの学修を基礎として、卒業論文等の作成を１つの大きな目標として、学修を進めることを予定しています。情報検索・文献収集の方法、論文の書き方、判例の読み方等もあわせて学習します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、授業の進め方などのレクチャー	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。	4 時間

		*授業計画は柔軟に変更することがあります。	【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第2回	対面	受講生による報告と議論（1）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第3回	対面	受講生による報告と議論（2）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第4回	対面	受講生による報告と議論（3）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第5回	対面	受講生による報告と議論（4）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第6回	対面	受講生による報告と議論（5）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第7回	対面	受講生による報告と議論（6）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第8回	対面	受講生による報告と議論（7）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第9回	対面	受講生による報告と議論（8）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第10回	対面	受講生による報告と議論（9）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第11回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第12回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第13回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第14回	対面	受講生による報告と議論（13）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	卒業論文の提出	演習内での議論・指摘、添削指導等を踏まえて、卒業論文を期日までに提出してください。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察と法～警察官の判断基準と行動原理～		
授業の目的及び概要	・ 第一線で単独執行を求められることのある警察官の法的根拠に基づく判断基準と行動原理を修得する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 警察官職務執行法を学び警察官を主体とする職務権限の範囲と限界等第一線で単独執行を求められることのある警察官として必要な基本的知識等を習得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 次回授業でコメントシートを紹介し、質問への回答や補足説明を行い、理解を深めます。 ・ 授業で発表、討議した研究結果はその都度授業で担当教員から実学に直結する講評をコメントします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	・ 指定しません。 ・ 教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
参考書	・ 指定しません。 ・ 教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	・ 治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道である。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。 ・ しかし警察官として36年間勤務した私が確信しているのは、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援していることです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。 ・ 「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦し		

み困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ 秋学期の授業方針の説明を行い、発表グループを再編成、受講生の意思統一を構築する。 ・ 授業計画は必要性、受講生の希望等により変更することがある。 ・ 担当教員が警察官職務執行法の概要を再説明する。 ・ 担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、提示された課題について関係条文、判例を予習し理解を深めておくこと。	警察官職務執行法の概要について再度予習しておくこと。 担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、提示された課題について関係条文、判例を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第2回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第3回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第4回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第5回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第6回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで研究、討議した、警察官職務執行法に関する小テストを行うので、復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として前半の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第8回	対面	前半の総括を実施し、後半の演習に反映する。	授業の総括結果を復習しておくこと。 担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第9回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第10回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係	4 時間

		・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	
第11回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと	4 時間
第12回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第13回	対面	・ 発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・ 各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで討議した、警察官職務執行法に関する小テストを行うので、予習しておくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として秋学期の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第15回	対面	秋学期の演習を振り返り総括を行う。	復習として春、秋学期の自身の学修結果に関して総括し、ノートを再度整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	裁判例を通じて、民法を基礎とした私人間の法律関係を理解し、その紛争解決方法などについて考察する。		
授業の目的及び概要	民法や民事問題などに関心のある学生を対象にします。本演習では、各自で関心のあるテーマを決め、そのテーマに関する法制度や判例等を調べ報告・検討することにより労働法や近時の労働問題などの理解を深めることを目的とします。 毎週1つのテーマについて担当者（原則として個人）が報告した後、全員で質疑応答及び議論をしていきます。 担当者（原則として個人）が報告した後、全員で質疑応答及び議論を行うため、担当者以外の皆さんにも積極的な参加・発言を求めます。 初回の授業で報告の順番や担当テーマを決定します。 最終的には、各自報告した内容については、卒業研究の形式で提出してもらいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 自ら関心のあるテーマに関する法制度・改正の具体的な内容について調べ、解説することができる。 2. 関連する裁判例や学説を調査・分析することができる。 3. 民法に関する問題を含む、民事紛争の解決手段・方法についても理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等につき、演習中において、適宜、解説や講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	演習において、適宜、指示、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
参考書	演習において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	民法、商法（会社法）に関する科目を履修していることが望ましい。 また、民事紛争の解決手段について理解を深めたい者は、民事裁判と法＜民事訴訟法Ⅰ＞、民事訴訟法概説＜民事訴訟法Ⅱ＞、民事執行・保全法、倒産処理法の講義の履修を推奨する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・担当テーマを考える。 報告担当の決定。	【予習】自分が希望する担当テーマ（出来れば、複数）を検討、抽出する。 【復習】自分が担当することになったテーマに関する文献、裁判例を探し、事後の報告のための準備を行う。	4 時間
第2回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第3回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第4回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第5回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第6回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第7回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第8回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第9回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第10回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第11回	対面	担当者による報告・議論	【予習】担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】配付資料等を読み直し、演習で学んだことを	4 時間

			確認する。	
第12回	対面	担当者による報告・議論	【予習】 担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】 配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第13回	対面	担当者による報告・議論	【予習】 担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】 配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第14回	対面	担当者による報告・議論	【予習】 担当者が事前作成、配布した資料を読み、自らも当該テーマに関して質問、議論したい内容を検討しておく。 【復習】 配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	秋学期のまとめ	【予習】 これまでに配布された資料等を再度読み直し、理解できていない部分がないか確認しておく。 【復習】 授業で示唆された復習ポイントを中心に、知識の確認に努める。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	矢野 哲也	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	これからの世界と日本の安全保障について考える（2）		
授業の目的及び概要	【授業の目的】 これからの世界と日本の安全保障上の諸問題について、『外交青書』を参考に自らの視点で考察する力を修得していきます。 【授業の概要】 授業については、2022 年のロシアによるウクライナ軍事侵攻などを取り上げ、リアルタイムで世界の動きを実感できる内容を心掛けるとともに、防衛省・自衛隊で勤務してきた実務経験を積極的に紹介していきたいと思います。 また法学部研究発表大会への参加を推奨するとともに、参加者については成績評価に反映したいと考えています。		
履修条件・留意点	この授業科目は、演習Ⅱと連続・一貫性を有する科目である点に留意して履修して下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代社会の諸課題を理解し、法的知識・技能をもとにして、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけている。そのほか、自由、平等、民主主義などの価値原理を基礎とする、法学を中心とする高度な専門知識を体系的に理解するとともに、現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民として、他者と協調・協働できる能力を身につけている。あわせて、論理的な法的思考力と豊かな表現力とともに、情報、数理、英語等の汎用的技能を修得し、社会科学を中心とした幅広い教養を身につけている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	口頭発表及び質疑応答の内容について、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	外務省『令和 6 年版外交青書』（外務省ホームページ）	ISBN	－
参考書	授業で、その都度配布します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	70	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	日本の防衛や世界の軍事情勢に少しでも興味がある方であれば、この演習の履修を歓迎します。また授業を履修するにあたっては、日ごろから防衛問題に関するニュースに関心を持つように心掛けて下さい。 そして授業における評価では、定説にとらわれない独創的な発想や意見を重視します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業ガイダンスなど ・授業ガイダンス ・インターネットによる調査研究の方法 ・各種コミュニケーションの技法	【予習】授業前に、本シラバスを熟読し、その内容を確認・理解した上で授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、自分が興味のある安全保障・防衛問題に関するテーマについて考えて下さい。	4時間
第2回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：世界と日本の主な出来事	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－巻頭特集』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第3回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：国際認識と日本外交の展望	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第1章』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第4回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：「自由で開かれたインド太平洋」の推進	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第1節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第5回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：アジア・大洋州	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第6回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：北米	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第3節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第7回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：中南米	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第4節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第8回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：欧州	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第5節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第9回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：ロシア、中央アジアとコーカサス	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第6節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第10回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：中東と北アフリカ	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第7節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第11回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：アフリカ	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第2章第8節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第12回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：日本と国際社会の平和と安定に向けた取組	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第1節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第13回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：日本の国際協力	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第2節』を読んで予習して下さい。 【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	4時間
第14回	対面	テーマに基づく調査研究－参考：経済外交	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第3節』を読んで予習して下さい。	4時間

			【復習】授業後に、授業で配布したテキスト及び参考資料を読んで復習して下さい。	
第15回	オンデマンド	テーマに基づく調査研究－参考：日本への理解と信頼の促進に向けた取組	【予習】授業前に、外務省 HP で『令和6年版外交青書－第3章第4節』を読み、授業内容を予習して下さい。 【復習】授業後に、視聴した講義ガイダンス及びテキスト・参考資料を復習して下さい。	4時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	兪 珏根	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	- 労働問題や労働現場の実態について判例を検討する。 - 進路指導及び論文指導		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生、企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法である。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要である。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に、実際の労働現場でどのような利益対立があり、それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々、演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたい。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	- 基本的な労働判例における利害関係、争点、具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことができる。 - 論文の書き方を指導		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導する。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要、争点、事実認定、判断根拠、判定理由順に発表してもらい、その後、担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり結論を出す。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『ケースブック労働法第 4 版』，荒木尚志・奥田香子，有斐閣，2019 年 ②『労働判例百選 第 10 版』，村中孝史・荒木尚志，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784641144743 ②9784641115576
参考書	特定しない。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強します。雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になるだろうと思います。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者の決まる。	【予習】シラバスを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4 時間
第2回	対面	主題：セクシュアルハラスメント - 福岡セクシュアルハラスメント事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第3回	対面	主題：山口観光事件 - 懲戒権行使の濫用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第4回	対面	主題：就業規則の法的性質 - 秋北バス事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第5回	対面	主題：関西電力（ロッカー撮影）事件 - 労働者の人権	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第6回	対面	主題：就業規則の不利益変更の拘束力 - 第四銀行事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第7回	対面	主題：労働時間の概念 三菱重工長崎造船所事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第8回	対面	主題：平尾事件 - 労働協約の効力	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第9回	対面	主題：朝日災海上保険（高田）事件 - 労働協約の拡張適用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第10回	対面	主題：年次有給休暇権の法的性質 - 白石営林署事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第11回	対面	主題：丸島水門製作所事件 - ロックアウトの正当性	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第12回	対面	主題：済生会中央病院事件 - 支配介入	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第13回	対面	主題：第二鳩タクシー事件 - 不当労働行為の救済命令	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第14回	対面	主題：中労委（西神テトラパック）事件 - 不利益取り扱い	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する	4 時間

科目名	演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	吉原 裕樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例研究		
授業の目的及び概要	3年時秋学期と同様に、双方向・多方向型にて、憲法に関する判例研究を行う。毎回、担当教員が事前に判例を指定し、受講生全員があらかじめその判例について予習してきたうえで、授業時には、担当教員が受講生を指名して、判例の内容等について質問する（双方向・多方向型）。これにより、判例の理解を深める。		
履修条件・留意点	この科目の単位を取得するためには、担当教員が事前に指定した判例を予習したうえで、授業に継続的に出席し、授業内容に取り組む必要がある。 授業に継続的に出席しない場合や、授業に出席しても判例の予習ができていない場合には、この科目の単位を取得することはできない。 秋学期に開催される予定の法学部学生研究発表大会に自ら出場するか、あるいは、他の学生による発表を傍聴したうえで、その感想を提出する必要がある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主要な憲法判例の要点を理解している。当該要点を口頭で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型のやりとりにより、憲法判例に関する受講生の理解を確認する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①憲法判例百選 1・2（第7版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2019 年 ②憲法（第3版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年	ISBN	①9784641115453 ， 9784641115460 ②9784641227231
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	95	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	5	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	毎回、担当教員が事前に指定した判例を、十分に予習する必要がある。 判例の予習にあたっては、①事案の概要、②憲法解釈上の争点、③当該争点に関する裁判所の判断、を意識することが重要である。 卒業論文の指導は、憲法に関する内容であれば可能である。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第2回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第3回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第4回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第5回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第6回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第7回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第8回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第9回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第10回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第11回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第12回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第13回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第14回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4時間
第15回	オンデマンド	総括と課題の指摘 これまでの授業内容を振り返り、今後の学修に向けた課題を指摘する。	これまでの内容を復習する。	4時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	石尾 賢二	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	卒論準備		
授業の目的及び概要	春学期に考察した法律問題の考察を深める。 文献を調べる。判例があれば判例を調べる。 調べた結果、自らの意見を明確にして、報告する。 議論を実施し、その結果を結論に反映する。 卒論を完成させる。 集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々な部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。 ることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 社会問題について問題点の基本的な事項について理解し、判断することができる。 2. 報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 3. 報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べるすることができる。 4. 各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについての事前に質疑を受け、事後に意見を述べ。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	各種判例集(民集、判例時報、判例タイムズ)、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	80	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	積極的な姿勢が重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ゼミの方法を説明する。	皆さんからの意見を中心に進めます。	4 時間
第2回	対面	2回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。	事前に資料を読む。	4 時間
第3回	対面	担当の順番は学生が決定する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第4回	対面	担当の順番による報告となる。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第5回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第6回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第7回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第8回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第9回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第10回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第11回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第12回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第13回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第14回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第15回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見を	4 時間

2025/05/01

			まとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法と現代社会における問題		
授業の目的及び概要	【目的?】 なんとなくダラダラ過ごしても、一生懸命に打ち込んでも、大学生活なんてあっという間に過ぎていきます。大学生活ってチュートリアルみたいなものだと思います。教員が補助して導いてくれるし、本気で挑戦して失敗しても怒られない。ただ、チュートリアルで獲得した能力は本編（社会人）に引き継がれるし、人生はオートセーブでリセットも不可なので、ダラダラと過ごしてスキップしちゃうのは後々を考えると怖いな、とも思います。大学生活が、人生で一番能力を伸ばすことができる期間です。 なので、この演習では刑法に本気で取り組むことを通して、基礎的な能力を向上させたいと思います。具体的には、刑法の体系的理解の獲得（「大学生活はこれを専攻したよ!」と胸を張れるものを作る）、に加え、論理的思考力、調査能力、読解能力、報告・伝達能力（いわゆるコミュニケーション能力）、共同遂行能力、突破力といった今後の人生で必要となる基本的な能力を涵養することを目的とします。 【概要】 卒業論文の執筆を一つの目標として学習を進めていきます。各自の研究テーマそれに沿って調査し、報告をしてもらいます。 担当者の報告をもとに、受講生同士の議論を中心にゼミを進めていき、ときに担当教員からの疑問に答えることで、刑法をより深く理解できるようにします。 【その他】 楽しくて良い雰囲気ゼミにしたいと思います。		
履修条件・留意点	・適宜皆さんの希望に沿って変更を加えることがあります。 ・刑法総論、刑法各論の知識が必要となります。それぞれの科目の履修を強く推奨します		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法の体系的理解を獲得する ・刑法を学問として探求するための基礎力を身につける ・調査・報告・討論といった、研究のための基礎的な能力を獲得する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に口頭でのフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	特に指定しませんが、刑法総論および刑法各論の基本書を一冊ずつ準備しておいてください。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・卒業論文の執筆があるものとして考えておいてください ・報告者ではない人も、事前にレジュメ等を熟読した上で臨んでください ・毎週の楽しみになるようなゼミにしていきたいと思います！ ・本気で取り組むと少ししんどいかもしれませんが、その分突破したときのやりがいと成長がありますので、がんばりましょう。大切なのは意地と根性です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 自己紹介、今後の進め方の相談・確認 各回の報告の担当者の決定	刑法を一通り復習しておいてください。	4 時間
第2回	対面	【次回以降の報告の準備】 今後の授業進行のための基本的な事項の確認・個別対応など	授業時間中に確認・相談したことをもとに、各自でも準備を進めておいてください。	4 時間
第3回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第4回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第5回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第6回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第7回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第8回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第9回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。	4 時間

			【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第10回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第11回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第12回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第13回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第14回	オンデマンド	【振り返り】 内容面についての振り返りを行い、適宜解説を加えます	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第15回	対面	【まとめと総括】 演習・報告を振り返り、修得した内容について議論します。	【復習】 報告レジュメを見返し、知識の定着を図ってください。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	企業（会社・個人事業）に関わる法的問題を考える。		
授業の目的及び概要	私たちは、生きていくために働く。自分一人でモノ作りなどして働く者もいれば、プロスポーツ選手もいるし、自ら起業して人を雇う者、会社を立ち上げて経営する者、会社に就職して働く者、さまざまである。ただ、その周りには、必ず誰かが存在し、トラブルや法的問題が生じることが少なくない。 大雑把に言えば、そのようなビジネスに関わる法的問題に関心を寄せ、それらを検討・分析・議論し、一定の結論に導き、それを報告することにより、今後の人生に活かすことができることを目的とする。 演習は、受け身ではなく、自分で考え、疑問があれば質問し、自由に見解を述べるのが最も重要であり、それこそが将来にも役立つ。 演習の進め方は（１）ビジネスシーンで起こりうる事件を題材に、個人またはグループで検討し、報告する。 （２）報告者以外のメンバーも同じ題材を学修し、質疑やディスカッションを積極的に行う。 演習の人数規模やメンバーの興味関心により、進め方は柔軟に変更する。 上記の報告を卒業研究として成果物とすることを目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・積極的に自分の意見を述べることができる。 ・企業に関する基礎的な法的知識を獲得することができる。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を獲得することができる。 ・論理的・発展的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表・報告内容については、レジュメ等を含めて授業内において、修正・アドバイスを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。	ISBN	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、春学期の総括、授業の進め方・報告方法の説明、報告者の決定。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第2回	オンデマンド	判例の検索方法・レジュメの作成方法・報告方法の再確認。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第3回	対面	受講生による報告と議論（1）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第4回	対面	受講生による報告と議論（2）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第5回	対面	受講生による報告と議論（3）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第6回	対面	受講生による報告と議論（4）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第7回	対面	受講生による報告と議論（5）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第8回	対面	受講生による報告と議論（6）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第9回	対面	受講生による報告と議論（7）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第10回	対面	受講生による報告と議論（8）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第11回	対面	受講生による報告と議論（9）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第12回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4時間
第13回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。	4時間

			【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	
第14回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第15回	対面	受講生による報告と議論（13）、今年度の総括。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジюме・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間

科目名	演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法重要課題の研究		
授業の目的及び概要	春学期の演習ⅢA で作成した研究レポートを参考にしながら卒業研究を行い、論文を作成する。また、完成した論文をまとめたゼミ論文集の作成を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	自身が選定したテーマについて、問題設定をしたうえで、資料を集め、分析を行い、論文を作成する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	作成したレポートや授業中に発表した研究成果については、授業中や授業外の時間に講評やより良いレポートにするためのアドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	各自の研究テーマに応じて適宜アドバイスを行うため、テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜アドバイスを行うため、参考書は指定しません。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業時の報告の際に得られたヒントや参加者の質問から得た視点などを今後の研究に生かすように心がけ、より良い論文に仕上げてほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ゼミの運営方法の説明を行った後、各自の研究テーマを決定し、各回の報告担当者を決定する。	事前に春学期の作成した卒業研究レポートを修正し、卒業論文作成に向けた準備をしておく。 事後に自身の報告日までの研究スケジュールをたて、報告日の報告に向けた卒業研究（卒業論文）の準備を始める。	4 時間
第2回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者	4 時間

		全参加者で質疑応答・討論を行う。	以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	
第3回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第4回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第5回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第6回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第7回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第8回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第9回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第10回	オンデマンド	研究発表大会へ参加することで、第10回授業に振り替える。発表者として参加しない者は、発表を参観し、レポートを作成して提出する。	研究発表大会への参加によるため、参加後、レポートを提出する。提出するレポートの形式等については、ラーニングポータル等で案内する。	4 時間
第11回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第12回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を	4 時間

		研究成果をレジюмеで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	
第13回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジюмеで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第14回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジюмеで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第15回	対面	全参加者が、秋学期の研究成果を報告し、論文を作成して提出する。ゼミ論文集の作成についての打ち合わせも行う。	事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究を完成させる。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・ 公務員採用試験（行政職）および法律資格試験（宅建士、行政書士など）の受験に必要な民法の知識を修得 ・ 民法の主要判例の論点と判例法理の理解、論述問題の書き方の修得 ・ 卒業研究の完成		
授業の目的及び概要	・ 本演習では、3 年次までに学修した民法科目の基礎知識を固めるとともに、公務員採用試験（行政職）および法律資格試験（宅建士、行政書士など）に出題される民法の問題の解き方を学修する。その過程で、民法の主要判例の論点および判例法理を理解するとともに、論述問題の書き方についても学修する。 ・ 本演習は、以下の方法で進める。 ①初回演習時に班分けを行う。 ②各班は、判例集を教材として（初回演習時に判例集を受講生に示した上で、学修に役立つものを受講生と相談して決める。）、判例の事実関係、判旨、学説、類似判例、私見をまとめたレジュメを作成して報告する。 ③取り上げた判例に対する公務員試験・資格試験の過去問を教員が提示し、事前に指定した担当者が解答を解説する。 ・ 他のゼミとの共同ゼミ、裁判傍聴、合宿（他のゼミとの合同合宿も実施する）、他大学との法律討論会参加など、課外活動を積極的に実施する。		
履修条件・留意点	物権法Ⅰ・Ⅱ、債権総論Ⅰ・Ⅱ、債権各論Ⅰ・Ⅱ、家族法Ⅰ・Ⅱを履修していること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 民法上の諸制度の趣旨・要件・効果、主要判例の内容を説明することができる。 ・ 与えられた法律問題について、学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。 ・ 法律文章の読み方、書き方、論理的思考法を理解して自ら運用するとともに、効果的にプレゼンテーションをすることができる。 ・ 各自が選んだ研究テーマに取り組み、その成果物を完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 受講生の作成したレジュメや資料に対しては、コメントを行う。 ・ 質問はいつでも受け付ける。授業時間外の質問等に対しては、対面、オンライン（メールやラーニングポータルなど）、オフィスアワーで対応する。また、全員で共有した方がよいと思われる質問については、質問者の承諾を得たうえで共有する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定の教科書は使用しない。必要に応じて演習時に指示する。	ISBN	なし
参考書	特定の参考書は使用しない。必要に応じて演習時に指示する。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・大学の授業は、教員と学生との共同作業によって成り立つものである。いい加減な気持ちで演習に応募しないこと。席を温めて帰れば単位が取れると思っている者は、本演習に向いてない。逆に、自分の夢を何が何でも実現するという強い意志を持っている者は大歓迎する。 ・本演習では課外活動を積極的に行う。大学時代にしかできないことがたくさんあるので、課外活動を通して大学生生活の醍醐味を味わってほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1回 研究テーマの確認 ・各自が選択した研究テーマの内容について報告し、全員で検討する。	・事前学修：事前に配布する資料に目を通し、自分の興味のある分野を選択する。これには2時間を要する。 ・事後学修：選択した問題の内容を確認する。これには2時間を要する。	4時間
第2回	対面	第2回 卒業研究作成の準備作業 ・法律文献の検索方法 ・判例報告の方法 ・効果的なプレゼンテーション方法	・事前学修：事前に示された資料に目を通し、内容を確認する。疑問点があれば、整理して教員に質問する。これには2時間を要する。 ・事後学修：学修した内容を図書館で実践する。これには2時間を要する。	4時間
第3回	対面	第3回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第4回	対面	第4回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第5回	対面	第5回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第6回	対面	第6回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第7回	対面	第7回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第8回	対面	第8回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第9回	対面	第9回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第10回	対面	第10回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間

第11回	対面	第11回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第12回	対面	第12回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第13回	対面	第13回 研究テーマの報告 ・担当者が研究テーマについて報告し、それを踏まえて、全員で質疑応答および議論を行う。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第14回	対面	第14回 卒業研究の完成 ・各自の研究テーマの成果物を完成させる。	・事前学修：報告判例の内容などについて予習し、提示された問題に取り組む。これには2時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を確認し、再度取り組む。これには2時間を要する。	4時間
第15回	オンデマンド	第15回 卒業研究の完成 ・各自の研究テーマの成果物を完成させる。	・事前学修：演習で取り上げた判例の内容、関連条文などについて再確認する。これには3時間を要する。 ・事後学修：報告判例の知識および過去問を再確認する。これには3時間を要する。	6時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察活動と法 ～警察活動における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	警察活動の現状とその法手続きについて理解することを目的としています。 警察における各種の職務執行に関する現状や必要な基礎的知識を修得し、各種の職務執行手続きについての限界や適法性等について研究をします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①警察活動がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②警察活動に関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件・事故等に対する警察活動の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究課題に関する質疑やレポートには、授業中にコメントや補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義 第4版, 津田隆好, 東京法令出版, 2019 年 4 月 ②実例中心捜査法解説 第4版 ―捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門―, 幕田英雄, 東京法令出版, 2019 年 4 月 ③刑事訴訟法講義 第7版, 池田修・前田雅英, 東京大学出版会, 2022 年 7 月 ④注釈警察官職務執行法 5訂版, 古谷洋一, 立花書房, 2021 年 2 月 ⑤警察行政法解説 第3版, 田村正博, 東京法令出版, 2022 年 9 月	ISBN	①9784809013959 ②9784809013973 ③9784130323963 ④9784803722314 ⑤9784809014444
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	公安職を目指す学生が即戦力として活躍できる人材になるためには、現場活動の基礎や法的根拠を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査を始めとする警察活動で要求される知識や技能、その法的根拠や判例に基づく判断基準などを伝えたいと考えています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業方針の説明を行います。 研究テーマの検討と選定を行います。	【予習】学期のはじめにあたり、各自の取組みについてまとめておく。関心のある過去の事件・判例について調べておく。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておく。	4時間
第2回	対面	「テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題」を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第3回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第4回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第5回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究③」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4時間
第6回	対面	「研究結果の中間発表準備①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、警察活動の適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4時間
第7回	対面	「研究結果の中間発表準備②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、警察活動の適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4時間
第8回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4時間
第9回	対面	「研究課題の集約とプレゼン準備①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4時間
第10回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4時間
第11回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備③」を行	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく	4時間

		います。	理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	
第12回	オンデマンド	課題提出	【予習】発表内容等の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4時間
第13回	対面	「研究結果の発表と全体討議」を行います。	【予習】発表内容等の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4時間
第14回	対面	「研究発表のまとめ」を行います。	【予習】各発表結果の再確認をしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点等を再検討しておく。	4時間
第15回	対面	学期の振り返りと総括を行います。	【予習】自身の学修結果について、発表できるようにまとめをしておく。 【復習】自身の学修結果に関して総括をしておく。	4時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	大関 龍一	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事事例演習・判例研究		
授業の目的及び概要	1. 主な目的・活動内容 本演習では、刑法に関する事例演習と最新判例研究を行います。事件や事故に関するニュースは日々接するものであり、その意味で刑法は身近な法分野といえるでしょう。中には、悲慘な事件もあり、気持ちを揺さぶられることがあるかもしれません。しかし、刑法学を専攻する者として、その適用を考えるにあたっては、感情に流されことなく、論理と事実に基づいた冷静な判断が求められます。本演習は、いわば法律家の視点から刑法に関する事例を解決し、説得的に表現する力を養うことを目的とします。 具体的には、ゼミ生各自の志望進路を踏まえつつ、以下のような活動を実施します。 (1) 刑事事例演習：事例問題を素材に答案作成とディスカッションを行います。 (2) 刑法判例研究：卒業論文のテーマに関連した判例の発表を行います。 2. 卒業論文 ゼミ生全員に、卒業論文を作成してもらいます。演習内で定期的に進捗報告をしてもらう予定です。秋学期の演習ⅢBでは、卒業論文（またはレポート）の提出を単位認定の要件とします。 3. 法科大学院進学希望者に対する学修サポート 本年度に法科大学院入試（および司法試験予備試験）を受験予定の学生には、日々の学修サポートを行うことが可能です。希望があれば、個別に申し出てください。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法の基本的知識を修得し、具体的な事例の解決を図ることができる。 ・自ら判例を調べ、読み解くことができる。 ・積極的に議論に参加し、自らの考えを説得的に伝えることができる。 ・他者の話に真摯に耳を傾け、適切なコミュニケーションをとることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業内で作成された答案について、添削して返却します。 ・発表について、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	・毎回必ず最新版の六法（法学部指定六法）を紙媒体で持参してください。 ・その他の必要な教材については、授業内で指示をします。資料の購入や図書館での収集を促すことがあります。	ISBN	-
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本演習を受講する場合には、「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」、「刑法各論Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであるか、本演習と並行して履修することが必要です。 本演習では毎回課題作成や発表等を実施しますので、授業中は常に頭を働かせることになります。出席率が低い場合や、課された発表を行わない場合のほか、授業に出席していても明らかに学習意欲に欠ける場合には、単位は出ないと思ってください。 また、受講生全員に卒業論文の執筆に取り組んでもらいます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス ・本演習の目的、進め方 ・卒業論文の進捗報告	【事前学修】刑法について、これまでの学修内容を振り返ってきてください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	2時間
第2回	対面	刑法事例演習 ・刑法の事例問題に取り組めます。 ・受講生全員で討論を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第3回	オンデマンド	卒業論文執筆に向けたテーマ別研究 ・卒業論文のテーマについて、判例・文献の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第4回	対面	刑法事例演習 ・刑法の事例問題に取り組めます。 ・受講生全員で討論を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第5回	オンデマンド	卒業論文執筆に向けたテーマ別研究 ・卒業論文のテーマについて、判例・文献の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第6回	対面	刑法事例演習 ・刑法の事例問題に取り組めます。 ・受講生全員で討論を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第7回	オンデマンド	卒業論文執筆に向けたテーマ別研究 ・卒業論文のテーマについて、判例・文献の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第8回	対面	卒業論文の進捗報告 ・卒業論文の執筆状況について報告を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第9回	オンデマンド	卒業論文執筆に向けたテーマ別研究 ・卒業論文のテーマについて、判例・文献の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第10回	対面	卒業論文の進捗報告 ・卒業論文の執筆状況について報告を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第11回	オンデマンド	卒業論文執筆に向けたテーマ別研究 ・卒業論文のテーマについて、判例・文献の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間

			ください。	
第12回	オンデマンド	卒業論文執筆に向けたテーマ別研究 ・卒業論文のテーマについて、判例・文献の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第13回	対面	卒業論文の成果発表 ・卒業論文の内容について発表を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第14回	オンデマンド	卒業論文執筆に向けたテーマ別研究 ・卒業論文のテーマについて、判例・文献の調査・検討を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間
第15回	オンデマンド	総まとめ ・今学期の学修内容について、総復習します。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指定された課題に取り組んでください。	4時間

科目名	卒業研究		開講年度	2025
担当者	演習ⅢA・B 担当教員		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	4 単位
グレード	G4		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	卒業論文の作成			
授業の目的及び概要	3年次に選んだ自身の所属ゼミの専攻分野からテーマを設定し、講義科目で学修した知識や分析手法・思考法に基づき、演習をはじめとした各科目で身につけた情報収集力、文献理解力、文章力、分析力、課題解決能力、ICT スキル等を十全に発揮し、4年間にわたる法学に関する学びの集大成として卒業論文を作成します。 法学部の卒業論文は、①問い、②論証、③結論の形式を備えた法学・政治学に関する論文（を基本）とし、「判例研究・判例評釈」も含めるものとします。 卒業論文の執筆を通して、法学を中心とする専門知識を深め、社会で活躍するために必要な諸課題を洞察・解決する力が身につきます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	卒業論文に相応しい水準で、①問い、②論証、③結論の形式を備えた法学・政治学に関する論文を作成することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	論文の添削・指導を行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	—		ISBN	—
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		100	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	演習Ⅱ・Ⅲでの報告と教員の指導をもとに、卒業論文を完成させます。作成の方法、合格要件等については、「卒業論文執筆要領」を参照してください。 卒業研究に取り組む経験は、大学における学びに限らず、就業後にも役に立つものです、こうした取り組みを本格的に「学術的」な観点で行うことができる機会は人生の中でも稀少です。 この機会を十全に活用して、卒業論文を完成させることができれば、大学 4 年間の象徴的な成果として誇ることができる作品を残すことができるだけでなく、自身の飛躍的な成長にもつながります。 大学生生活の「総仕上げ」として、これまでに身に付けたあらゆるスキルを発揮して、素晴らしい卒業論文を執筆されることを期待します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	—	—	6時間
第2回	対面	—	—	6時間
第3回	対面	—	—	6時間
第4回	対面	—	—	6時間
第5回	対面	—	—	6時間
第6回	対面	—	—	6時間
第7回	対面	—	—	6時間
第8回	対面	—	—	6時間
第9回	対面	—	—	6時間
第10回	対面	—	—	6時間
第11回	対面	—	—	6時間
第12回	対面	—	—	6時間
第13回	対面	—	—	6時間
第14回	対面	—	—	6時間
第15回	対面	—	—	6時間

科目名	法曹特別入門演習	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法曹志望者のための事例演習への導入		
授業の目的及び概要	本演習は、主に、法科大学院進学・裁判所事務官（総合職）・法制局職員などの法律科目の論述式試験が課される進路を目指す受講生を対象とする演習科目です。 民法・憲法・刑法などの事例問題に直面したとき、どのように書けばいいのかわからないといった経験や、「法的三段で書けばいいとは聞くけど、具体的にどう書けばいいの?」、「具体的な事実を摘示して評価してあてはめるとか言われてもわからん」など、思うところは色々あると思います。 本演習では、具体的な事例問題を通じて法的三段論法や、規範の定立、あてはめなどを理解し、実際に使うことができる能力といった、法曹としての問題解決能力の基礎的部分の修得を目指します。		
履修条件・留意点	本演習では、受講生が事例問題に対する答案等の課題を毎回の講義までにこなし、講義後に書き直してこることが必須となりますので、通常の講義科目よりも負担が重いことは理解して履修するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事例問題に取り組むための基礎的な素養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生の答案に対してコメント（あるいは添削）をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない。	ISBN	テキストは指定しない。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	80	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	答案は、とりあえず書いてみないことには書けるようにはなりません。最初はできなくて当たり前なので、躊躇わずに挑戦していきましょう。 思うように書けないというもどかしさや苦しさを感じることもありますが、基本的にほとんどみんなが通る道です。授業中に間違えた分だけ成長がありますので、積極的に取り組んで発言していきましょう。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 ・自己紹介、ゼミの進行方法についての確認を行います。 ・各回において検討の叩き台とする答案の作成者を決定します。	【予習／復習】 前期の民法及び憲法の基本的な事柄について復習しておく。	4 時間
第2回	オンデマンド	【基本的事項についての確認】 ・法律学の試験を受ける上で意識すべき基本的事項（答案構成、配点、ナンバリング、いわゆる「特定答案」等）についての確認を行います。	【復習】 授業内容について、授業を聞いていない他人に説明できるようになる。	1 時間
第3回	対面	【法的三段論法を意識しよう】 ・具体的な事例問題を通じて、法的三段論法についての基礎的なことを確認します	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第4回	対面	【法的三段論法を使いこなそう】 ・具体的な事例問題を通じて、法的三段論法を用いた文章作成が可能となるよう訓練します。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第5回	対面	【問題を提起しよう】 ・具体的な事例問題を通じて、いわゆる「問題提起」とは何か、「問題提起」にどのようなつながるのかについて確認します。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第6回	対面	【規範を定立しよう】 ・具体的な事例問題を通じて、いわゆる「規範定立」とは何か、「規範定立」にどのようなつながるのかについて確認します。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第7回	対面	【あてはめをしよう】 ・具体的な事例問題を通じて、いわゆる「あてはめ」とは何か、具体的な事実をどのように処理すれば「あてはめ」をしたことになるのかについて確認します。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第8回	対面	【授業内容の振り返り】 ・今まで扱ってきた問題の答案を、実際に最後まで通して書いてみることで、この授業までの内容の定着を図ります。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第9回	対面	【民法の基礎】 ・具体的な事例問題を通じて、刑法の事案を解決する際に必要な基本的な知識等についての確認を行います。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討し、答案を書く。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った事案の答案を書く。	4 時間
第10回	対面	【刑法の基礎】 ・具体的な事例問題を通じて、憲法の事案を解決する際に必要な基本的な知識等についての確認を行います。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討し、答案を書く。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った事例の答案を書く。	4 時間
第11回	対面	【憲法の基礎】 ・具体的な事例問題を通じて、憲法の事案を解決する際に必要な基本的な知識等についての確認を行います。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討し、答案を書く。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った事例の答案を書く。	4 時間
第12回	対面	【事例演習・民法】 ・この回までに修得した知識等を駆使し、民法の事例問題に取り組みます。	【予習】 これまでのレジュメを読み直した上で、事例について検討し、答案を書く。 【復習】	5 時間

			授業内容を確認し、授業で扱った事例の答案を書く。	
第13回	対面	【事例演習・刑法】 ・この回までに修得した知識等を駆使し、 刑法の事例問題に取り組みます。	【予習】 これまでのレジュメを読み直した上で、事例について検討し、答案を書く。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った事例の答案を書く。	5 時間
第14回	対面	【事例演習・憲法】 ・この回までに修得した知識等を駆使し、 憲法の事例問題に取り組みます。	【予習】 これまでのレジュメを読み直した上で、事例について検討し、答案を書く。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った事例の答案を書く。	5 時間
第15回	対面	【事例演習・補論】 ・事例演習の書き直し等を経て生じた受講生の疑問等を全員で共有し、解決していきます。	【復習】 いままでの講義を振り返り、答案を書き直してみる。	4 時間

科目名	法曹特別演習 I A	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法曹志望者のための刑法事例演習（基礎編）		
授業の目的及び概要	主に法曹志望の学生を対象に、刑法の事例演習を通じて、法的思考力および文章作成力の養成を目指します。法科大学院進学のために必要な基本知識および答案作成技法の修得が目標です。授業では、刑法総論について一通り学修していることを前提に、事例問題を素材として、法律答案の作成、教員との質疑、受講生同士のディスカッション等を行います。小テストやレポート、発表が課される場合もあります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 刑法に関する基本知識を正しく理解し、事例に適用することができる。 ・ 法的思考を身に付け、具体的事例について一定の解決を示すことができる。 ・ 法的文章の基本的作法を身に付け、自らの考えを説得的に表現することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 授業内で作成された答案について、添削して返却します。 ・ 発表やレポートについて、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①基本刑法 I 総論〔第 3 版〕, 大塚裕史・十河太朗・塩谷毅・豊田兼彦, 日本評論社, 2019 年 ②徹底チェック刑法, 嶋矢貴之・小池信太郎・品田智史・遠藤聡太, 有斐閣, 2022 年 ※言うまでもなく、六法（紙媒体に限る）は、毎回持参してください。	ISBN	①9784535523838 ②9784641139541
参考書	【判例集】 ①刑法判例百選 I 総論〔第 8 版〕, 佐伯仁志・橋爪隆編, 有斐閣, 2020 年 ②刑法判例百選 II 各論〔第 8 版〕, 佐伯仁志・橋爪隆編, 有斐閣, 2020 年 【学習参考書】 ③応用刑法 I 総論, 大塚裕史, 日本評論社, 2023 年 ※その他の参考書については、授業内で適宜紹介します。	ISBN	①9784641115507 ②9784641115514 ③9784535523852
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	担当教員が、自身の経験・知識に基づき、法曹志望者の学修をサポートします。日々の学修や進路に関する悩みがあれば、相談してください。 法律の事例問題が解けるようになるためには、相当量の学修が必要です。本演習の予習・復習にも多くの時間を割く必要があることに留意してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ・自己紹介 ・本演習の目的、進め方 ・法曹への道のり	【事前学修】自己紹介の内容を考えてきてください。 事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第2回	対面	法律の学修方法（1） ・法律答案の作成技法（法的三段論法を含む） ・学修スケジュール ・テキスト読解	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第3回	対面	法律の学修方法（2） ・事案分析の方法 ・問題点の抽出・発見・言語化 ・定義・規範の重要性 ・事実の評価と当てはめ	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第4回	対面	刑法答案の作成技法 ・犯罪論体系 ・犯罪成立要件の検討方法 ・罪数論 ・刑法総論と刑法各論 ・主要な争点の抽出	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第5回	対面	刑法事例演習（1） ・因果関係 ・不作為犯	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第6回	対面	刑法事例演習（2） ・故意 ・錯誤	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第7回	対面	刑法事例演習（3） ・過失犯 ・被害者の同意	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第8回	対面	確認テスト（1） この回までの内容の定着度を確認します。	【事前学修】この回までの内容を復習してきてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第9回	対面	刑法事例演習（4） ・正当防衛 ・過剰防衛	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第10回	対面	刑法事例演習（5） ・未遂犯	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第11回	対面	刑法事例演習（6） ・間接正犯 ・共同正犯	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間

第12回	対面	刑事事例演習（7） ・共犯の諸問題	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第13回	対面	確認テスト（2） この回までの内容の定着度を確認します。	【事前学修】この回までの内容を復習してください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第14回	対面	刑事事例演習（8） ・総合問題	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第15回	オンデマンド	総まとめ ・今学期の学修内容について、総復習します。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間

科目名	法曹特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法の知識の運用力および答案作成力の修得・向上		
授業の目的及び概要	・本演習は、法科大学院進学を目指す学生を対象として、民法の知識を正確に運用して答案を作成する能力を修得することを目的とする。 ・演習では、事前に提示される論述問題について予習し、演習の時間中に答案を作成する。作成後、各自の答案を全員で検討することを通じて、論点の抽出方法(問題文の読み方)、要件と効果の正確な理解、事実へのあてはめ、表現方法などを学修するという形で進める。演習で扱う論述問題は、公開されている法科大学院入試問題の過去問や演習教材をベースに作成し、原則として 30 分～40 分程度で解答できる問題とする。受講生には、予習と復習をしっかり行うことが求められる。なお、演習は、正課授業の進捗状況に留意しながら進める予定である。		
履修条件・留意点	・原則として、奨励奨学生選抜試験を受験すること。 ・物権法Ⅰ・Ⅱ、債権総論Ⅰ・Ⅱ、債権各論Ⅰ・Ⅱ、家族法Ⅰ・Ⅱを並行して履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・与えられた事例問題から論点を発見し、根拠条文(要件・効果)と制度趣旨、根拠条文に関する判例法理を説明できる。 ・根拠条文の要件に対応する事実を発見し、それを要件に当てはめることができる。 ・法的三段論法に従って明確な結論が示された、正確な日本語を駆使した答案を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・受講生の作成した答案に対しては、コメントまたは添削を行う。 ・授業時間外の質問等に対しては、対面、オンライン(メールやラーニングポータルなど)、オフィスアワーで対応する。また、全員で共有した方がよいと思われる質問については、質問者の承諾を得たうえで共有する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定の教科書は使用しない。各自が使用している教科書を授業時に持参すること。必要に応じてレジュメと資料を配布する。	ISBN	なし
参考書	1. 潮見佳男ほか編『民法判例百選Ⅰ〔第9版〕』(有斐閣、2023年2月)2,420円 2. 窪田充見ほか編『民法判例百選Ⅱ〔第9版〕』(有斐閣、2023年2月)2,420円	ISBN	1. 978-4-641-11562-0 2. 978-4-641-11563-7
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表(口頭・実技)	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	・受講生全員とのミーティングを定期的実施し、学習の進捗状況を確認するとともに、受講生からの相談等にも応じる。 ・予習と復習をしっかりと行うこと。 ・学修の際には、常に条文を参照すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：授業の進め方と学習上の留意点について説明する。 答案作成 ・事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第2回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第3回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第4回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第5回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第6回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第7回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第8回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間

			3時間を要する。	
第9回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第10回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第11回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第12回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第13回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第14回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには3時間を要する。	5時間
第15回	オンデマンド	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。これまでの学修を振り返る。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには2時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。また、これまでの授業内容を振り返り、自分の弱いところを見つけて今後の学修計画を立てる。これには4時間を要する。	6時間

科目名	法曹特別演習 I C	開講年度	2025
担当者	渡邊 康行	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	実務法曹志望者のための憲法事例演習		
授業の目的及び概要	本演習は、法科大学院進学などを目指す2年生を対象とする演習科目です。憲法に関する事例問題について答案を作成し、また事例について全員で議論することを通じて、法的思考力および文章作成力を養うことを目的としています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	法科大学院既修者試験、または予備試験に合格するために必要な程度の、判例・学説の知識、事案検討能力、答案作成能力が身についている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生が作成した答案については、コメントないし添削などを行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定です。	ISBN	なし
参考書	①憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕, 長谷部恭男ほか編, 有斐閣, 2019 年 ②憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕, 長谷部恭男ほか編, 有斐閣, 2019 年 ③憲法Ⅰ 基本権〔第2版〕, 渡辺・穴戸・松本・工藤, 日本評論社, 2023 年 ④憲法Ⅱ 総論・統治, 渡辺・穴戸・松本・工藤, 日本評論社, 2020 年（第2版が2025 年3月に公刊予定）	ISBN	①978-5-641-11545-3 ②978-4-641-11546-0 ③978-4-535-52711-9 ④978-4-535-52479-8
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	憲法Ⅰ、憲法Ⅱ（人権）、憲法Ⅱ（統治）を履修済みであることを求めます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 事例問題演習	予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間

			復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	
第2回	対面	事例問題演習	予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。 復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第3回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第4回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第5回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第6回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第7回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第8回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第9回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第10回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第11回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第12回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第13回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第14回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第15回	オンデマンド	授業のまとめ	予習として、各自が書いた答案を読み直す。	6 時間

科目名	法曹特別演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	坂上 文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法曹志望者のための民法事例演習（発展編） 民法の知識の運用力および答案作成力の修得・向上		
授業の目的及び概要	本演習は、法科大学院既修者課程への進学を目指す学生（法曹志望の学生）を対象として、2年次までに学修した民法の知識を正確に運用して、事例演習を通じて、法的思考力および文章作成力の養成（答案を作成する能力を修得すること）を目的とする。 演習は、事前に提示される民法の論述問題（法科大学院入試過去問や演習教材から作成したもので、30分～40分程度で書ける問題とする。）の答案を演習中に作成する。 作成の後、各自が作成した答案を全員で検討することを通じて、論点の抽出方法、要件と効果の正確な理解と表現方法を学修するという形で進める。受講生は予習と復習をしっかりと行うことが求められる。 法科大学院を受験するうえで3年次は非常に大事な時期である。本演習を通じて、受講生が自信をもって答案が作成できるようになることを期待する。		
履修条件・留意点	本演習の履修申込みをし、許可された者を対象とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 与えられた事例問題から論点（法律問題）を発見し、根拠条文（要件・効果）と制度趣旨、根拠条文に関する判例法理を説明できる。 ② 与えられた事例問題から①の規範に対応する事実を発見し、当てはめることができる。 ③ 法的三段論法に従って明確な結論（効果）を示した、正確な日本語を駆使した答案を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	① 受講生の作成した答案に対しては、コメントまたは添削を行う。 ② 授業時間外の質問等に対しては、対面・オンライン（メールやラーニングポータルなど）・オフィスアワーで対応する。 また、質問の内容と回答は全員で共有する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995年から2022年まで27年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定の教科書は使用しない。 各自が使用している教科書・六法を授業時に持参すること。	ISBN	なし
参考書	①民法判例百選Ⅰ〔第9版〕、潮見佳男ほか編、有斐閣、2023年 ②民法判例百選Ⅱ〔第9版〕、窪田充見ほか編、有斐閣、2023年	ISBN	① 978-4-641-11562-0 ② 978-4-641-11563-7
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	① 適宜、受講生とのミーティングを実施し、学習の進捗状況を確認するとともに、受講生からの相談等にも応じる。 ② 予習も重要であるが、復習をしっかりと行うこと。 ③ 自習の際には、常に条文を参照すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（今後の本演習での学修計画について説明すると共に、本演習受講、法科大学院進学に向けた心構え、勉強方法、計画の立案方法、論文作成方法を指導・説明する。）	本演習開始までに、各自の現在の学修進度にあわせて、今後の学修計画を立案し、ガイダンスにおいて説明や質問が出来るように準備しておく。 本演習終了後、再度、今後の学修計画を再検討し、ガイダンスで得た内容を確認しておく。	3時間
第2回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）1	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3時間
第3回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）2	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3時間
第4回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）3	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3時間
第5回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）4	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3時間
第6回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）5	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3時間
第7回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）6	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。	3時間

			本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	
第8回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）7	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3 時間
第9回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）8	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3 時間
第10回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）9	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3 時間
第11回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）10	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3 時間
第12回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）11	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3 時間
第13回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）12	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3 時間
第14回	対面	民法論述問題（起案・採点后・解説講義・質疑応答）13	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	3 時間
第15回	オンデマンド	春学期の総復習	事前に配布された資料を事前に読み、わからない点がないか確認しておく。 オンデマンド動画視聴後、配布資料を読み直し、学修内容に関する知識の定着を図る。	3 時間

科目名	法曹特別演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法曹志望者のための刑法事例演習（発展編）		
授業の目的及び概要	法曹志望の学生を対象に、刑法の事例演習を通じて、法的思考力および文章作成力の養成を目指します。法科大学院進学のために必要な知識の補強および答案作成技術の強化が目標です。授業では、刑法総論・刑法各論について一通り学修していることを前提に、事例問題を素材として、法律答案の作成、教員との質疑、受講生同士のディスカッション等を行います。小テストやレポート、発表が課される場合もあります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法に関する重要事項を正しく理解し、事例に適用することができる。 ・法的思考を身に付け、具体的事例について一定の解決を示すことができる。 ・法的文章の基本的作法を身に付け、自らの考えを説得的に表現することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業内で作成された答案について、添削して返却します。 ・発表やレポートについて、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①基本刑法Ⅰ総論〔第3版〕, 大塚裕史・十河太郎・塩谷毅・豊田兼彦, 日本評論社, 2019 年 ②基本刑法Ⅱ各論〔第4版〕, 大塚裕史・十河太郎・塩谷毅・豊田兼彦, 日本評論社, 2024 年 ※言うまでもなく、六法（紙媒体に限る）は、毎回持参してください。	ISBN	①9784535523838 ②9784535528185
参考書	【判例集】 ①刑法判例百選Ⅰ総論〔第8版〕, 佐伯仁志・橋爪隆編, 有斐閣, 2020 年 ②刑法判例百選Ⅱ各論〔第8版〕, 佐伯仁志・橋爪隆編, 有斐閣, 2020 年 【演習書】 ③徹底チェック刑法, 嶋矢貴之・小池信太郎・品田智史・遠藤聡太, 有斐閣, 2022 年 【学習参考書】 ④応用刑法Ⅰ総論, 大塚裕史, 日本評論社, 2023 年 ※その他の参考書については、授業内で適宜紹介します。	ISBN	①9784641115507 ②9784641115514 ③9784641139541 ④9784535523852
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	担当教員が、自身の経験・知識に基づき、法曹志望者の学修をサポートします。日々の学修や進路に関する悩みがあれば、相談してください。 法律の事例問題が解けるようになるためには、相当量の学修が必要です。本演習の予習・復習にも多くの時間を割く必要があることに留意してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ・本演習の目的、進め方 ・法曹への道のり	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	2 時間
第2回	対面	法律の学修方法 ・刑法答案の作成技法 ・学修スケジュール ・テキスト読解	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第3回	対面	刑法事例演習（1） ・窃盗罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第4回	対面	刑法事例演習（2） ・強盗罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第5回	対面	刑法事例演習（3） ・詐欺罪 ・恐喝罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第6回	対面	刑法事例演習（4） ・横領罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第7回	対面	確認テスト（1） この回までの定着度を確認します。	【事前学修】この回までの内容を復習してください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第8回	対面	刑法事例演習（5） ・背任罪 ・盗品等関与罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第9回	対面	刑法事例演習（6） ・放火罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第10回	対面	刑法事例演習（7） ・文書偽造罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第11回	対面	確認テスト（2） この回までの内容の定着度を確認します。	【事前学修】この回までの内容を復習してください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間

第12回	対面	刑事事例演習（8） ・総合問題（1）	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第13回	対面	刑事事例演習（9） ・総合問題（2）	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間
第14回	対面	刑事事例演習（10） ・総合問題（3）	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	2時間
第15回	オンデマンド	総まとめ ・今学期の学修内容について、総復習します。	【事前学修】事前に配布する資料を読んでください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4時間

科目名	法曹特別演習Ⅱ C	開講年度	2025
担当者	渡邊 康行	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	実務法曹志望者のための憲法事例演習		
授業の目的及び概要	本演習は、法科大学院進学などをを目指す3年生を対象とする演習科目です。憲法に関する事例問題について答案を作成し、また事例について全員で議論することを通じて、法的思考力および文章作成力を養うことを目的としています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	法科大学院既修者試験、または予備試験に合格するために必要な程度の、判例・学説の知識、事案検討能力、答案作成能力が身についている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生が作成した答案については、コメントないし添削などを行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定です。	ISBN	なし
参考書	①憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕, 長谷部恭男ほか編, 有斐閣, 2019 年 ②憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕, 長谷部恭男ほか編, 有斐閣, 2019 年 ③憲法Ⅰ 基本権〔第2版〕, 渡辺・穴戸・松本・工藤, 日本評論社, 2023 年 ④憲法Ⅱ 総論・統治, 渡辺・穴戸・松本・工藤, 日本評論社, 2020 年（第2版が2025 年3月に公刊予定）	ISBN	①978-5-641-11545-3 ②978-4-641-11546-0 ③978-4-535-52711-9 ④978-4-535-52479-8
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	憲法Ⅰ、憲法Ⅱ（人権）、憲法Ⅱ（統治）を履修済みであることを求めます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 事例問題演習	予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間

			復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	
第2回	対面	事例問題演習	予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。 復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第3回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第4回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第5回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第6回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第7回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第8回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第9回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第10回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第11回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第12回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第13回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第14回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第15回	オンデマンド	授業のまとめ	予習として、各自が書いた答案を読み直す。	6 時間

科目名	法曹特別演習Ⅲ	開講年度	2025
担当者	杉本 拓海	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	事例演習を通じた問題解決能力の涵養		
授業の目的及び概要	本演習は、主に、法科大学院進学を目指す 4 年生を対象とする演習科目です。本演習では、3 年生までに培ってきた基礎的知識や応用力を、答案作成において十分に反映させることができるようになることを目標とします（したがって、各科目において基礎知識が身につけていることが前提となります。不安がある場合には各自補充してください）。本演習の進行としては、作成した自身の答案の記述について、どうしてその記述に至ったのか、口頭で説得的に説明することを求めます。その説明を通じて、自身の答案の記述に自覚的になり、過不足のない答案を作成する能力を向上させていくことが狙いです。		
履修条件・留意点	本演習では、受講生が事例問題に対する答案等の課題を毎回の講義までにこなし、講義後に書き直していただくことが必須となりますので、通常の講義科目よりも負担が重いことは理解して履修するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 法的問題点を発見することができる。 ② 問題を解決するために適切な条文をあげ、その制度趣旨・関連する判例法理について説明することができる。 ③ 問題文から上記②の規範に対応する事実を発見し、その事実を適切に評価することで規範に当てはめることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フィードバックの方法 受講生の答案に対してコメント（あるいは添削）をする。		
アクティブ・ラーニング の取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち坂上教授は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。 また、吉原准教授は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。	ISBN	テキストは指定しない。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	90	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	学習効果等の観点から、科目の順番が入れ替わることがあります。		

あたって	また、シラバスにおける授業内容は基本的な進行であり、科目の特性・担当教員によって最適な方法が異なりうるため、適宜変更を加えることがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 （担当教員 杉本拓海） ・自己紹介、ゼミの進行方法についての確認を行います。 ・各回において検討の叩き台とする答案の作成者を決定します。	【予習／復習】 答案作成にあたって前提となる基本的な事柄について、各自で補充しておいてください。	4 時間
第2回	オンデマンド	【基本的事項についての確認】（オンデマンド） （担当教員 杉本拓海） ・事例問題を解き、答案を作成する上で注意すべきポイントについて確認します。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。 授業内容について、授業を聞いていない他人に説明できるようになる。	4 時間
第3回	対面	【事例問題の検討（公法系）①】 （担当教員 吉原裕樹） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第4回	対面	【事例問題の検討（公法系）②】 （担当教員 吉原裕樹） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第5回	対面	【事例問題の検討（民事系）①】 （担当教員 金亮完） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第6回	対面	【事例問題の検討（民事系）②】 （担当教員 金亮完） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第7回	対面	【事例問題の検討（民事系）③】 （担当教員 金亮完） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間

		バックを行います。		
第8回	対面	【事例問題の検討（刑事系）①】 （担当教員 杉本拓海） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第9回	対面	【事例問題の検討（刑事系）②】 （担当教員 杉本拓海） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第10回	対面	【事例問題の検討（民事系）④】 （担当教員 坂上文一） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第11回	対面	【事例問題の検討（民事系）⑤】 （担当教員 坂上文一） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第12回	対面	【事例問題の検討（民事系）⑥】 （担当教員 坂上文一） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第13回	対面	【事例問題の検討（公法系）①】 （担当教員 渡邊康行） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第14回	対面	【事例問題の検討（公法系）②】 （担当教員 渡邊康行） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間

第15回	対面	【事例問題の検討（刑事系）③・総まとめ】 （担当教員 杉本拓海） ・報告担当者は、作成した答案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4時間

科目名	公務員特別演習 I A	開講年度	2025
担当者	漆畑 貴久	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代の公務労働の意義を考える		
授業の目的及び概要	公務労働の意義を認識し、行政職公務員に求められる基礎的な素養を身につける。 1 人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 2 求められる人物像、業務に必要な知識、能力について、職業研究及び企業研究の手法で自治体などの研究を行う。 3 近年重視されている SPI など職種を越えて要求される知的能力を身につける。 4 現職公務員やゲスト講師による合同授業を通じて、現場の課題について理解を深める。 5 公務就職支援室との連携により、SPI 基礎力の育成、インターンシップによる早期の就業体験、自主学習サークルへの参加促進に取り組む。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家一般、地方公務員など）として働く人物像を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、夏休みのインターンシップの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後公務員として活躍するために、公務労働の基本について学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、自身の意見を伝える力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方、小熊英二、講談社現代新書、2022 年 ②地方自治論、北村亘ほか、有斐閣ストウディア、2024 年 ③はじめての行政学〔新版〕、伊藤正次ほか、有斐閣ストウディア、2022 年 ④これからの地方自治の教科書 改訂版、大森彌・大杉寛、第一法規、2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕、大橋洋一、有斐閣、2021 年 ⑥東大の先生！！文系の私に超わかりやすく数学を教えてください、西成活裕、かんき出版、2019 年 ⑦公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784641150997 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784761273910
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	担当教員が、自身の知識・経験に基づき、公務員行政職を目指す皆さんとともに授業を構成する。 国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 憲法、民法、刑法、マクロ経済学、ミクロ経済学の履修とともに、 1～2 年次「政治学入門」（日本の政治） 3～4 年次公務員コース推奨科目「地方自治論」、 また「地域共生論」についても受講してほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業概略の説明	事前学習：自分の志望する自治体などについて調べる。自己紹介の準備をする。（2 時間） 事後学習：自分の長所短所、なぜ公務員を目指すのか、公務員になって何をしたいのかを考える。（2 時間）	4 時間
第2回	対面	春学期の文献の指定と発表の準備 アカデミックライティング入門1 メールの書き方、原稿用紙の使い方、日本語技法	事前学習：アカデミックライティングの入門書を読む。（2 時間） 事後学習：日本語技法の基礎について復習する。（2 時間）	4 時間
第3回	対面	アカデミックライティング入門2 文章の要約、小論文の書き方について学ぶ	事前学習：アカデミックライティング入門書を読む（2 時間） 事後学習：小論文の書き方について文献を復習する。（2 時間）	4 時間
第4回	対面	アカデミックライティング入門3 プレゼンテーションの方法について学ぶ 夏休みインターンシップ先の検討、公務就職支援室との連携	事前学習：アカデミックライティングの入門書を読む。（2 時間） 事後学習：プレゼンテーションの方法について復習する 公務就職支援室と連携しインターンシップ先を検討する。（2 時間）	4 時間
第5回	対面	報告・議論1 発表、ディスカッション、コメントペーパー作成。	事前学習：文献の該当箇所を読む。（2 時間） 事後学習：文献の該当箇所の内容をまとめる。語彙力を高めるため、新たに知った言葉を覚え、使えるようにする。（2 時間）	4 時間
第6回	対面	報告・議論2 発表、ディスカッション、コメントペーパー作成。	事前学習：文献の該当箇所を読む。（2 時間） 事後学習：文献の該当箇所の内容をまとめる。語彙力を高めるため、新たに知った言葉を覚え、使えるようにする。（2 時間）	4 時間
第7回	対面	報告・議論3 発表、ディスカッション、コメントペーパー作成。 言語、非言語、発表技術、課題研究、志望動機などのレベルをレーダーチャートで確認する。	事前学習：文献の該当箇所を読む。（2 時間） 事後学習：文献の該当箇所の内容をまとめる。語彙力を高めるため、新たに知った言葉を覚え、使えるようにする。（2 時間）	4 時間
第8回	対面	合同授業1 行政職員の方のお話を伺い、現場の課題と問題解決能力とについて理解する	事前学習：公務就職ナビブックから行政系の公務員の種類について調べてみる。（2 時間） 事後学習：自分が志望する自治体や地元の自治体のHPをみて、求められる職員像や行政課題を調べる。（2 時間）	4 時間
第9回	対面	合同授業2	事前学習：公務就職ナビブックから行政系の公務員	4 時間

		行政職員の方のお話を伺い、現場の課題と問題解決能力とについて理解する。 公務就職支援室の紹介、自主サークルの活動紹介	の種類について調べてみる。(2 時間) 事後学習：自分が志望する自治体や地元の自治体のHPをみて、求められる職員像や行政課題を調べる。(2 時間)	
第10回	対面	合同授業の振り返り 行政の危機管理の実際と公務員の仕事の意義について考える	事前学習：行政の危機管理の実際について答えのない現場での対応について振り返る。(2 時間) 事後学習：自分が志望する自治体などの実際の課題について調べ、課題解決にいかに関与できるか検討する。(2 時間)	4 時間
第11回	対面	SPIの基礎試験の実施—公務就職支援室との連携 数的処理の分野の欠点を早めに克服する	事前学習：SPIについての公務就職ナビブックでの解説や過去問を調べる。(2 時間) 事後学習：基礎からのSPIについて自らの課題を分析する(2 時間)	4 時間
第12回	対面	SPIの基礎試験の振り返り グループワーク1または行政系施設のフィールド調査1	事前学習：実際の行政課題についてグループワークまたはフィールド調査を行う。(2 時間) 事後学習：グループワークにおける役割、発言などについて振り返り、改善点を考える。 フィールド調査の際は報告書の作成を行う。(2 時間)	4 時間
第13回	対面	グループワーク2または行政系施設のフィールド調査2	事前学習：実際の行政課題についてグループワークまたはフィールド調査を行う。(2 時間) 事後学習：グループワークにおける役割、発言などについて振り返り、改善点を考える。 フィールド調査の際は報告書の作成を行う。(2 時間)	4 時間
第14回	オンデマンド	採用内定の先輩の動画を視聴し、仕事の理解や求められる人物像を理解する 行政職の採用試験内容について調べた結果を表にまとめ、エントリーシートを書くための準備をする	事前学習：公務就職ナビブックを使って、行政系の公務員の種類について調べてみる。(2 時間) 事後学習：自分の志望先の業務、求められる人物像、採用試験について調べ、エントリーシートを書く準備をする。(2 時間)	4 時間
第15回	対面	春学期のまとめ 行政系のインターンシップなど夏休みの計画を作成するとともに秋学期に向けてエントリーシートを準備する	事前学習：公務員の種類や仕事の課題についてのまとめを行う(2 時間) 事後学習：エントリーシートの作成に向けて、フィールド調査、行政訪問など夏休みにやるべきことを計画する。(2 時間)	4 時間

科目名	公務員特別演習 I A	開講年度	2025
担当者	吉川 貴代	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代の公務労働の意義を考える		
授業の目的及び概要	公務労働の意義を認識し、行政職公務員に求められる基礎的な素養を身につける。 1 人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 2 求められる人物像、業務に必要な知識、能力について、職業研究及び企業研究の手法で自治体などの研究を行う。 3 近年重視されている SPI など職種を越えて要求される知的能力を身につける。 4 現職公務員やゲスト講師による合同授業を通じて、現場の課題について理解を深める。 5 公務就職支援室との連携により、SPI 基礎力の育成、インターンシップによる早期の就業体験、自主学習サークルへの参加促進に取り組む。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家一般、地方公務員など）として働く人物像を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、夏休みのインターンシップの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後公務員として活躍するために、公務労働の基本について学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、自身の意見を伝える力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論，北村亘ほか，有斐閣ストウディア，2024 年 ③はじめての行政学〔新版〕，伊藤正次ほか，有斐閣ストウディア，2022 年 ④これからの地方自治の教科書 改訂版，大森彌・大杉寛，第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕，大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥東大の先生！！文系の私に超わかりやすく数学を教えてください，西成活裕，かんき出版，2019 年 ⑦公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784641150997 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784761273910
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	担当教員が、自身の知識・経験に基づき、公務員行政職を目指す皆さんとともに授業を構成する。 国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 憲法、民法、刑法、マクロ経済学、ミクロ経済学の履修とともに、 1～2 年次「政治学入門」（日本の政治） 3～4 年次公務員コース推奨科目「地方自治論」、 また「地域共生論」についても受講してほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業概略の説明	事前学習：自分の志望する自治体などについて調べる。自己紹介の準備をする。（2 時間） 事後学習：自分の長所短所、なぜ公務員を目指すのか、公務員になって何をしたいのかを考える。（2 時間）	4 時間
第2回	対面	春学期の文献の指定と発表の準備 アカデミックライティング入門1 メールの書き方、原稿用紙の使い方、日本語技法	事前学習：アカデミックライティングの入門書を読む。（2 時間） 事後学習：日本語技法の基礎について復習する。（2 時間）	4 時間
第3回	対面	アカデミックライティング入門2 文章の要約、小論文の書き方について学ぶ	事前学習：アカデミックライティング入門書を読む（2 時間） 事後学習：小論文の書き方について文献を復習する。（2 時間）	4 時間
第4回	対面	アカデミックライティング入門3 プレゼンテーションの方法について学ぶ 夏休みインターンシップ先の検討、公務就職支援室との連携	事前学習：アカデミックライティングの入門書を読む。（2 時間） 事後学習：プレゼンテーションの方法について復習する 公務就職支援室と連携しインターンシップ先を検討する。（2 時間）	4 時間
第5回	対面	報告・議論1 発表、ディスカッション、コメントペーパー作成。	事前学習：文献の該当箇所を読む。（2 時間） 事後学習：文献の該当箇所の内容をまとめる。語彙力を高めるため、新たに知った言葉を覚え、使えるようにする。（2 時間）	4 時間
第6回	対面	報告・議論2 発表、ディスカッション、コメントペーパー作成。	事前学習：文献の該当箇所を読む。（2 時間） 事後学習：文献の該当箇所の内容をまとめる。語彙力を高めるため、新たに知った言葉を覚え、使えるようにする。（2 時間）	4 時間
第7回	対面	報告・議論3 発表、ディスカッション、コメントペーパー作成。 言語、非言語、発表技術、課題研究、志望動機などのレベルをレーダーチャートで確認する。	事前学習：文献の該当箇所を読む。（2 時間） 事後学習：文献の該当箇所の内容をまとめる。語彙力を高めるため、新たに知った言葉を覚え、使えるようにする。（2 時間）	4 時間
第8回	対面	合同授業1 行政職員の方のお話を伺い、現場の課題と問題解決能力とについて理解する	事前学習：公務就職ナビブックから行政系の公務員の種類について調べてみる。（2 時間） 事後学習：自分が志望する自治体や地元の自治体のHPをみて、求められる職員像や行政課題を調べる。（2 時間）	4 時間
第9回	対面	合同授業2	事前学習：公務就職ナビブックから行政系の公務員	4 時間

		行政職員の方のお話を伺い、現場の課題と問題解決能力とについて理解する。 公務就職支援室の紹介、自主サークルの活動紹介	の種類について調べてみる。(2 時間) 事後学習：自分が志望する自治体や地元の自治体の H P をみて、求められる職員像や行政課題を調べる。(2 時間)	
第 1 0 回	対面	合同授業の振り返り 行政の危機管理の実際と公務員の仕事の意義について考える	事前学習：行政の危機管理の実際について答えのない現場での対応について振り返る。(2 時間) 事後学習：自分が志望する自治体などの実際の課題について調べ、課題解決にいかに関与できるか検討する。(2 時間)	4 時間
第 1 1 回	対面	SPI の基礎試験の実施—公務就職支援室との連携 数的処理の分野の欠点を早めに克服する	事前学習： SPI についての公務就職ナビブックでの解説や過去問を調べる。(2 時間) 事後学習：基礎からの SPI について自らの課題を分析する (2 時間)	4 時間
第 1 2 回	対面	SPI の基礎試験の振り返り グループワーク 1 または行政系施設のフィールド調査 1	事前学習：実際の行政課題についてグループワークまたはフィールド調査を行う。(2 時間) 事後学習：グループワークにおける役割、発言などについて振り返り、改善点を考える。 フィールド調査の際は報告書の作成を行う。(2 時間)	4 時間
第 1 3 回	対面	グループワーク 2 または行政系施設のフィールド調査 2	事前学習：実際の行政課題についてグループワークまたはフィールド調査を行う。(2 時間) 事後学習：グループワークにおける役割、発言などについて振り返り、改善点を考える。 フィールド調査の際は報告書の作成を行う。(2 時間)	4 時間
第 1 4 回	オンデマンド	採用内定の先輩の動画を視聴し、仕事の理解や求められる人物像を理解する 行政職の採用試験内容について調べた結果を表にまとめ、エントリーシートを書くための準備をする	事前学習：公務就職ナビブックを使って、行政系の公務員の種類について調べてみる。(2 時間) 事後学習：自分の志望先の業務、求められる人物像、採用試験について調べ、エントリーシートを書く準備をする。(2 時間)	4 時間
第 1 5 回	対面	春学期のまとめ 行政系のインターンシップなど夏休みの計画を作成するとともに秋学期に向けてエントリーシートを準備する	事前学習：公務員の種類や仕事の課題についてのまとめを行う (2 時間) 事後学習：エントリーシートの作成に向けて、フィールド調査、行政訪問など夏休みにやるべきことを計画する。(2 時間)	4 時間

科目名	公務員特別演習 I A	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代の公務労働の意義を考える		
授業の目的及び概要	公務労働の意義を認識し、行政職公務員に求められる基礎的な素養を身につける。 1 人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 2 求められる人物像、業務に必要な知識、能力について、職業研究及び企業研究の手法で自治体などの研究を行う。 3 近年重視されている SPI など職種を越えて要求される知的能力を身につける。 4 現職公務員やゲスト講師による合同授業を通じて、現場の課題について理解を深める。 5 公務就職支援室との連携により、SPI 基礎力の育成、インターンシップによる早期の就業体験、自主学習サークルへの参加促進に取り組む。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家一般、地方公務員など）として働く人物像を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、夏休みのインターンシップの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後公務員として活躍するために、公務労働の基本について学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、自身の意見を伝える力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方、小熊英二、講談社現代新書、2022 年 ②地方自治論、北村亘ほか、有斐閣ストウディア、2024 年 ③はじめての行政学〔新版〕、伊藤正次ほか、有斐閣ストウディア、2022 年 ④これからの地方自治の教科書 改訂版、大森彌・大杉寛、第一法規、2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕、大橋洋一、有斐閣、2021 年 ⑥東大の先生！！文系の私に超わかりやすく数学を教えてください、西成活裕、かんき出版、2019 年 ⑦公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784641150997 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784761273910
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	担当教員が、自身の知識・経験に基づき、公務員行政職を目指す皆さんとともに授業を構成する。 国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 憲法、民法、刑法、マクロ経済学、ミクロ経済学の履修とともに、 1～2 年次「政治学入門」（日本の政治） 3～4 年次公務員コース推奨科目「地方自治論」、 また「地域共生論」についても受講してほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業概略の説明	事前学習：自分の志望する自治体などについて調べる。自己紹介の準備をする。（2 時間） 事後学習：自分の長所短所、なぜ公務員を目指すのか、公務員になって何をしたいのかを考える。（2 時間）	4 時間
第2回	対面	春学期の文献の指定と発表の準備 アカデミックライティング入門1 メールの書き方、原稿用紙の使い方、日本語技法	事前学習：アカデミックライティングの入門書を読む。（2 時間） 事後学習：日本語技法の基礎について復習する。（2 時間）	4 時間
第3回	対面	アカデミックライティング入門2 文章の要約、小論文の書き方について学ぶ	事前学習：アカデミックライティング入門書を読む（2 時間） 事後学習：小論文の書き方について文献を復習する。（2 時間）	4 時間
第4回	対面	アカデミックライティング入門3 プレゼンテーションの方法について学ぶ 夏休みインターンシップ先の検討、公務就職支援室との連携	事前学習：アカデミックライティングの入門書を読む。（2 時間） 事後学習：プレゼンテーションの方法について復習する 公務就職支援室と連携しインターンシップ先を検討する。（2 時間）	4 時間
第5回	対面	報告・議論1 発表、ディスカッション、コメントペーパー作成。	事前学習：文献の該当箇所を読む。（2 時間） 事後学習：文献の該当箇所の内容をまとめる。語彙力を高めるため、新たに知った言葉を覚え、使えるようにする。（2 時間）	4 時間
第6回	対面	報告・議論2 発表、ディスカッション、コメントペーパー作成。	事前学習：文献の該当箇所を読む。（2 時間） 事後学習：文献の該当箇所の内容をまとめる。語彙力を高めるため、新たに知った言葉を覚え、使えるようにする。（2 時間）	4 時間
第7回	対面	報告・議論3 発表、ディスカッション、コメントペーパー作成。 言語、非言語、発表技術、課題研究、志望動機などのレベルをレーダーチャートで確認する。	事前学習：文献の該当箇所を読む。（2 時間） 事後学習：文献の該当箇所の内容をまとめる。語彙力を高めるため、新たに知った言葉を覚え、使えるようにする。（2 時間）	4 時間
第8回	対面	合同授業1 行政職員の方のお話を伺い、現場の課題と問題解決能力とについて理解する	事前学習：公務就職ナビブックから行政系の公務員の種類について調べてみる。（2 時間） 事後学習：自分が志望する自治体や地元の自治体のHPをみて、求められる職員像や行政課題を調べる。（2 時間）	4 時間
第9回	対面	合同授業2	事前学習：公務就職ナビブックから行政系の公務員	4 時間

		行政職員の方のお話を伺い、現場の課題と問題解決能力とについて理解する。 公務就職支援室の紹介、自主サークルの活動紹介	の種類について調べてみる。(2 時間) 事後学習：自分が志望する自治体や地元の自治体のHPをみて、求められる職員像や行政課題を調べる。(2 時間)	
第10回	対面	合同授業の振り返り 行政の危機管理の実際と公務員の仕事の意義について考える	事前学習：行政の危機管理の実際について答えのない現場での対応について振り返る。(2 時間) 事後学習：自分が志望する自治体などの実際の課題について調べ、課題解決にいかに関与できるか検討する。(2 時間)	4 時間
第11回	対面	SPIの基礎試験の実施—公務就職支援室との連携 数的処理の分野の欠点を早めに克服する	事前学習：SPI についての公務就職ナビブックでの解説や過去問を調べる。(2 時間) 事後学習：基礎からの SPI について自らの課題を分析する (2 時間)	4 時間
第12回	対面	SPI の基礎試験の振り返り グループワーク1 または行政系施設のフィールド調査1	事前学習：実際の行政課題についてグループワークまたはフィールド調査を行う。(2 時間) 事後学習：グループワークにおける役割、発言などについて振り返り、改善点を考える。 フィールド調査の際は報告書の作成を行う。(2 時間)	4 時間
第13回	対面	グループワーク2 または行政系施設のフィールド調査2	事前学習：実際の行政課題についてグループワークまたはフィールド調査を行う。(2 時間) 事後学習：グループワークにおける役割、発言などについて振り返り、改善点を考える。 フィールド調査の際は報告書の作成を行う。(2 時間)	4 時間
第14回	オンデマンド	採用内定の先輩の動画を視聴し、仕事の理解や求められる人物像を理解する 行政職の採用試験内容について調べた結果を表にまとめ、エントリーシートを書くための準備をする	事前学習：公務就職ナビブックを使って、行政系の公務員の種類について調べてみる。(2 時間) 事後学習：自分の志望先の業務、求められる人物像、採用試験について調べ、エントリーシートを書く準備をする。(2 時間)	4 時間
第15回	対面	春学期のまとめ 行政系のインターンシップなど夏休みの計画を作成するとともに秋学期に向けてエントリーシートを準備する	事前学習：公務員の種類や仕事の課題についてのまとめを行う (2 時間) 事後学習：エントリーシートの作成に向けて、フィールド調査、行政訪問など夏休みにやるべきことを計画する。(2 時間)	4 時間

科目名	公務員特別演習 I A	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞		

あたって	こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思ひます。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。	4 時間

			【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅠA	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の		

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I A	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタツ		

	くしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思ひます。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間

第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己 PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己 PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅠA		開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の			

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅠA	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の		

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養 1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養 2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員という仕事、求められる人物像)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員を目指す学生に必要なこと)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由① 職種別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	漆畑 貴久	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代の公務労働の意義を考える		
授業の目的及び概要	公務労働の意義を認識し、公務員に求められる基礎的な素養を身につける。 1 国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 2 求められる人物像、業務に必要な知識、能力について理解し、志望先のエントリーシートの作成を行う。 3 実際の行政課題や条例の検討を通じ、ゲスト講師による政策法務の入門的な学修を行う。 4 ようこそ先輩、内定者メンター、現職公務員による合同授業を実施し、学修方法、キャリア形成について交流を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家一般、地方公務員など）として働く人物像を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、夏休みのインターンシップの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後公務員として活躍するために、公務労働の基本について学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、自身の意見を伝える力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論，北村亘ほか，有斐閣ストウディア，2024 年 ③はじめての行政学〔新版〕，伊藤正次ほか，有斐閣ストウディア，2022 年 ④これからの地方自治の教科書 改訂版，大森彌，・大杉寛，第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕，大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥東大の先生！！文系の私に超わかりやすく数学を教えてください，西成活裕，かんき出版，2019 年 ⑦公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著)	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784641150997 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784761273910
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	担当教員が、自身の知識・経験に基づき、公務員行政職を目指す皆さんとともに授業を構成する。 国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 憲法、民法、刑法、マクロ経済学、ミクロ経済学の履修とともに、 1～2 年次「政治学入門」（日本の政治） 3～4 年次公務員コース推奨科目「地方自治論」、 また「地域共生論」についても受講してほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 秋学期概略の説明 ES 作成に向けた準備	事前学習：夏休みに訪問した志望先の情報をまとめる。（2 時間） 事後学習：志望する自治体などの研究を行い、秋学期に ES 発表の準備をする。（2 時間）	4 時間
第2回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 1 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする。（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成しプレゼンの準備を行う。（2 時間）	4 時間
第3回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 2 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成し、プレゼンの準備をする。（2 時間）	4 時間
第4回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 3 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成し、プレゼンの準備をする。（2 時間）	4 時間
第5回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 4 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成し、プレゼンの準備をする。（2 時間）	4 時間
第6回	対面	フィールド調査または行政施設訪問、公務員の仕事研究セミナーの振り返り 合同授業の紹介と準備	事前学習：公務研究、自治体研究に基づき指定の字数を参考に ES を作成し、進路を明確にする作業を行う（2 時間） 事後学習：合同授業に向けて行政資料や条例について事前に検討する（2 時間）	4 時間
第7回	対面	合同授業 行政実務を担当しているゲスト講師の講義を聞き 課題解決型グループワークを行う 自主研究サークルの紹介、公務就職支援室の紹介	事前学習：事前に合同授業の行政文書や条例を読み、課題解決の意見を考える。（2 時間） 事後学習：参加度、役割、発言などグループワークにより明らかになった課題を振り返る。（2 時間）	4 時間
第8回	対面	合同授業の振り返り 行政法を学ぶ意味や政策法務を理解する	事前学習：合同授業での発言を振り返り、総括する、ES 発表のデーターを集め作成する。（2 時間）	4 時間

		第1回 ES 発表	事後学習：ES 発表について、相互評価による振り返りを行う。(2 時間)	
第9回	対面	第2回 ES 発表	事前学習：ES 発表のデーターを集め作成する。(2 時間) 事後学習：ES 発表について、相互評価による振り返りを行う。(2 時間)	4 時間
第10回	対面	第3回 ES 発表及び総括	事前学習：ES の発表で指摘された点、相互参照での意見についてどう改善できるか検討する。(2 時間) 事後学習：ES 作成について、現地調査の重要性を再確認し、複数の志望先を検討する (2 時間)	4 時間
第11回	対面	合同授業 ようこそ先輩 実際の仕事や採用試験の経験を先輩の話を通じて理解する 先輩との交流会の開催、自主サークルの紹介、公務員特別演習Ⅱのガイダンス	事前学習：先輩への質問事項を準備し、講義資料を読む。(2 時間) 事後学習：先輩の話を踏まえ学習計画を再度練り直す。(2 時間)	4 時間
第12回	対面	合同授業振り返り SPI 模擬テストまたは課題作文 1 人口減少社会、防災、子育て支援、魅力発信など課題作文に取り組む	事前学習：課題作文の準備を行う (2 時間) 事後学習：作文のルーブリック審査を相互に行う (2 時間)	4 時間
第13回	対面	SPI 模擬テストまたは課題作文 2 人口減少社会、防災、子育て支援、魅力発信など課題作文に取り組む	事前学習：課題作文の準備を行う (2 時間) 事後学習：作文のルーブリック審査を相互に行う (2 時間)	4 時間
第14回	オンデマンド	ようこそ先輩授業の振り返り (録画視聴) 及び採用試験への学習計画の作成 SP I 模擬テストの解答例解説または課題作文の解説を行う 公務員特別演習Ⅱのガイダンス	事前学習：課題作文についての評価から取り組む課題を考える。(2 時間) 事後学習：動画を視聴し、今後の学習計画について検討する。(2 時間)	4 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ 秋学期エントリーシートの作成発表の内容、自己分析 SPI 模擬テストまたは課題作文を踏まえて学修計画を作成する。	事前学習：秋学期全体を通じて振り返り、自己評価を行う。(2 時間) 事後学習：年間を通じて学んだ課題を整理し、3 年生からの学修計画を作成する。(2 時間)	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代の公務労働の意義を考える		
授業の目的及び概要	公務労働の意義を認識し、公務員に求められる基礎的な素養を身につける。 1 国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 2 求められる人物像、業務に必要な知識、能力について理解し、志望先のエントリーシートの作成を行う。 3 実際の行政課題や条例の検討を通じ、ゲスト講師による政策法務の入門的な学修を行う。 4 ようこそ先輩、内定者メンター、現職公務員による合同授業を実施し、学修方法、キャリア形成について交流を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家一般、地方公務員など）として働く人物像を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、夏休みのインターンシップの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後公務員として活躍するために、公務労働の基本について学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、自身の意見を伝える力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論，北村亘ほか，有斐閣ストウディア，2024 年 ③はじめての行政学〔新版〕，伊藤正次ほか，有斐閣ストウディア，2022 年 ④これからの地方自治の教科書 改訂版，大森彌，・大杉寛，第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕，大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥東大の先生！！文系の私に超わかりやすく数学を教えてください，西成活裕，かんき出版，2019 年 ⑦公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著)	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784641150997 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784761273910
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	担当教員が、自身の知識・経験に基づき、公務員行政職を目指す皆さんとともに授業を構成する。 国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 憲法、民法、刑法、マクロ経済学、ミクロ経済学の履修とともに、 1～2 年次「政治学入門」（日本の政治） 3～4 年次公務員コース推奨科目「地方自治論」、 また「地域共生論」についても受講してほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 秋学期概略の説明 ES 作成に向けた準備	事前学習：夏休みに訪問した志望先の情報をまとめる。（2 時間） 事後学習：志望する自治体などの研究を行い、秋学期に ES 発表の準備をする。（2 時間）	4 時間
第2回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 1 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする。（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成しプレゼンの準備を行う。（2 時間）	4 時間
第3回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 2 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成し、プレゼンの準備をする。（2 時間）	4 時間
第4回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 3 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成し、プレゼンの準備をする。（2 時間）	4 時間
第5回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 4 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成し、プレゼンの準備をする。（2 時間）	4 時間
第6回	対面	フィールド調査または行政施設訪問、公務員の仕事研究セミナーの振り返り 合同授業の紹介と準備	事前学習：公務研究、自治体研究に基づき指定の字数を参考に ES を作成し、進路を明確にする作業を行う（2 時間） 事後学習：合同授業に向けて行政資料や条例について事前に検討する（2 時間）	4 時間
第7回	対面	合同授業 行政実務を担当しているゲスト講師の講義を聞き 課題解決型グループワークを行う 自主研究サークルの紹介、公務就職支援室の紹介	事前学習：事前に合同授業の行政文書や条例を読み、課題解決の意見を考える。（2 時間） 事後学習：参加度、役割、発言などグループワークにより明らかになった課題を振り返る。（2 時間）	4 時間
第8回	対面	合同授業の振り返り 行政法を学ぶ意味や政策法務を理解する	事前学習：合同授業での発言を振り返り、総括する、ES 発表のデーターを集め作成する。（2 時間）	4 時間

		第1回 ES 発表	事後学習：ES 発表について、相互評価による振り返りを行う。(2 時間)	
第9回	対面	第2回 ES 発表	事前学習：ES 発表のデーターを集め作成する。(2 時間) 事後学習：ES 発表について、相互評価による振り返りを行う。(2 時間)	4 時間
第10回	対面	第3回 ES 発表及び総括	事前学習：ES の発表で指摘された点、相互参照での意見についてどう改善できるか検討する。(2 時間) 事後学習：ES 作成について、現地調査の重要性を再確認し、複数の志望先を検討する (2 時間)	4 時間
第11回	対面	合同授業 ようこそ先輩 実際の仕事や採用試験の経験を先輩の話を通じて理解する 先輩との交流会の開催、自主サークルの紹介、公務員特別演習Ⅱのガイダンス	事前学習：先輩への質問事項を準備し、講義資料を読む。(2 時間) 事後学習：先輩の話を踏まえ学習計画を再度練り直す。(2 時間)	4 時間
第12回	対面	合同授業振り返り SPI 模擬テストまたは課題作文 1 人口減少社会、防災、子育て支援、魅力発信など課題作文に取り組む	事前学習：課題作文の準備を行う (2 時間) 事後学習：作文のルーブリック審査を相互に行う (2 時間)	4 時間
第13回	対面	SPI 模擬テストまたは課題作文 2 人口減少社会、防災、子育て支援、魅力発信など課題作文に取り組む	事前学習：課題作文の準備を行う (2 時間) 事後学習：作文のルーブリック審査を相互に行う (2 時間)	4 時間
第14回	オンデマンド	ようこそ先輩授業の振り返り (録画視聴) 及び採用試験への学習計画の作成 SP I 模擬テストの解答例解説または課題作文の解説を行う 公務員特別演習Ⅱのガイダンス	事前学習：課題作文についての評価から取り組む課題を考える。(2 時間) 事後学習：動画を視聴し、今後の学習計画について検討する。(2 時間)	4 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ 秋学期エントリーシートの作成発表の内容、自己分析 SPI 模擬テストまたは課題作文を踏まえて学修計画を作成する。	事前学習：秋学期全体を通じて振り返り、自己評価を行う。(2 時間) 事後学習：年間を通じて学んだ課題を整理し、3 年生からの学修計画を作成する。(2 時間)	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	吉川 貴代	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代の公務労働の意義を考える		
授業の目的及び概要	公務労働の意義を認識し、公務員に求められる基礎的な素養を身につける。 1 国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 2 求められる人物像、業務に必要な知識、能力について理解し、志望先のエントリーシートの作成を行う。 3 実際の行政課題や条例の検討を通じ、ゲスト講師による政策法務の入門的な学修を行う。 4 ようこそ先輩、内定者メンター、現職公務員による合同授業を実施し、学修方法、キャリア形成について交流を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家一般、地方公務員など）として働く人物像を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、夏休みのインターンシップの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後公務員として活躍するために、公務労働の基本について学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、自身の意見を伝える力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論，北村亘ほか，有斐閣ストウディア，2024 年 ③はじめての行政学〔新版〕，伊藤正次ほか，有斐閣ストウディア，2022 年 ④これからの地方自治の教科書 改訂版，大森彌，・大杉寛，第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕，大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥東大の先生！！文系の私に超わかりやすく数学を教えてください，西成活裕，かんき出版，2019 年 ⑦公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著)	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784641150997 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784761273910
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	担当教員が、自身の知識・経験に基づき、公務員行政職を目指す皆さんとともに授業を構成する。 国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 憲法、民法、刑法、マクロ経済学、ミクロ経済学の履修とともに、 1～2 年次「政治学入門」（日本の政治） 3～4 年次公務員コース推奨科目「地方自治論」、 また「地域共生論」についても受講してほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 秋学期概略の説明 ES 作成に向けた準備	事前学習：夏休みに訪問した志望先の情報をまとめる。（2 時間） 事後学習：志望する自治体などの研究を行い、秋学期に ES 発表の準備をする。（2 時間）	4 時間
第2回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 1 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする。（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成しプレゼンの準備を行う。（2 時間）	4 時間
第3回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 2 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成し、プレゼンの準備をする。（2 時間）	4 時間
第4回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 3 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成し、プレゼンの準備をする。（2 時間）	4 時間
第5回	対面	フィールド調査や行政施設訪問、仕事研究セミナー、公務研究セミナーなどへの参加による公務研究、自治体研究 4 求める人物像、組織構成、給与条件、昇進、試験内容、試験までの学修計画、スケジュールをまとめる。	事前学習：志望する自治体などの政策課題、求める人材、試験内容の調査を行い、ES 発表の準備をする（2 時間） 事後学習：ES 発表の内容を作成し、プレゼンの準備をする。（2 時間）	4 時間
第6回	対面	フィールド調査または行政施設訪問、公務員の仕事研究セミナーの振り返り 合同授業の紹介と準備	事前学習：公務研究、自治体研究に基づき指定の字数を参考に ES を作成し、進路を明確にする作業を行う（2 時間） 事後学習：合同授業に向けて行政資料や条例について事前に検討する（2 時間）	4 時間
第7回	対面	合同授業 行政実務を担当しているゲスト講師の講義を聞き 課題解決型グループワークを行う 自主研究サークルの紹介、公務就職支援室の紹介	事前学習：事前に合同授業の行政文書や条例を読み、課題解決の意見を考える。（2 時間） 事後学習：参加度、役割、発言などグループワークにより明らかになった課題を振り返る。（2 時間）	4 時間
第8回	対面	合同授業の振り返り 行政法を学ぶ意味や政策法務を理解する	事前学習：合同授業での発言を振り返り、総括する、ES 発表のデーターを集め作成する。（2 時間）	4 時間

		第1回 ES 発表	事後学習：ES 発表について、相互評価による振り返りを行う。(2 時間)	
第9回	対面	第2回 ES 発表	事前学習：ES 発表のデーターを集め作成する。(2 時間) 事後学習：ES 発表について、相互評価による振り返りを行う。(2 時間)	4 時間
第10回	対面	第3回 ES 発表及び総括	事前学習：ES の発表で指摘された点、相互参照での意見についてどう改善できるか検討する。(2 時間) 事後学習：ES 作成について、現地調査の重要性を再確認し、複数の志望先を検討する (2 時間)	4 時間
第11回	対面	合同授業 ようこそ先輩 実際の仕事や採用試験の経験を先輩の話を通じて理解する 先輩との交流会の開催、自主サークルの紹介、公務員特別演習Ⅱのガイダンス	事前学習：先輩への質問事項を準備し、講義資料を読む。(2 時間) 事後学習：先輩の話を踏まえ学習計画を再度練り直す。(2 時間)	4 時間
第12回	対面	合同授業振り返り SPI 模擬テストまたは課題作文 1 人口減少社会、防災、子育て支援、魅力発信など課題作文に取り組む	事前学習：課題作文の準備を行う (2 時間) 事後学習：作文のルーブリック審査を相互に行う (2 時間)	4 時間
第13回	対面	SPI 模擬テストまたは課題作文 2 人口減少社会、防災、子育て支援、魅力発信など課題作文に取り組む	事前学習：課題作文の準備を行う (2 時間) 事後学習：作文のルーブリック審査を相互に行う (2 時間)	4 時間
第14回	オンデマンド	ようこそ先輩授業の振り返り (録画視聴) 及び採用試験への学習計画の作成 SP I 模擬テストの解答例解説または課題作文の解説を行う 公務員特別演習Ⅱのガイダンス	事前学習：課題作文についての評価から取り組む課題を考える。(2 時間) 事後学習：動画を視聴し、今後の学習計画について検討する。(2 時間)	4 時間
第15回	対面	秋学期のまとめ 秋学期エントリーシートの作成発表の内容、自己分析 SPI 模擬テストまたは課題作文を踏まえて学修計画を作成する。	事前学習：秋学期全体を通じて振り返り、自己評価を行う。(2 時間) 事後学習：年間を通じて学んだ課題を整理し、3 年生からの学修計画を作成する。(2 時間)	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞		

あたって	こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思ひます。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析① マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。	4 時間

			【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタツ		

	クしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思ひます。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析① マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間

第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足をを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の		

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析① マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B		開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の			

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析① マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の		

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究①)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究②)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究③)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究④)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析① マインドマップ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。		

状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望動機）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由② 自治体別・組織別志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間

			めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員を目指すうえで必要となる職種理解、自治体行政を取り巻く環境理解を深めるとともに、人物評価試験（小論文・面接）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	公務員行政職についての理解を深め、未来へ向けてよりよい社会を作り上げる公務員を目指す実践的な演習である。各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、現代の社会・自治体が直面する諸課題に対して国家や地方自治体が果たすべき役割を考察する。 本授業を通して、公務員として求められる基礎的な素養や、思考力、表現力を身につける。各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<基本的なインプットおよびグループディスカッション> ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対する理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告に対する講評を行い、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料等を参照して、政策課題への理解を深めてください。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。 憲法、民法、刑法、ミクロ経済学、マクロ経済学の履修とともに、公務員コース推奨科目「地方自治論」（21 世紀日本の議会と行政）、「地域共生論」（地域生活と法）についても履修を推奨		

する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	公務就職の意義を理解する 公務員として働くことについての理解を深める ・なぜ公務員なのか？公務員として働くことについての理解を深める ・行政課題から求められる人材像について考える	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対する確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	採用試験の合格に向けて必要なことを理解する 公務員を取り巻く環境、採用試験動向を踏まえ、学内の支援体制や今後取り組むべき事項を理解し、学修計画をたてる。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対する確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	SPI模擬テスト（PC利用） 授業内でSPI模擬テストを実施し、自身の現在位置と目標値を確認する。	事前に、過去問等を利用して試験問題の形式を理解し対策を進めておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	行政課題理解1 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 ダイバーシティ・女性の活躍推進<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	行政課題理解2 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 防災・危機管理<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	行政課題理解3 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 スマートシティ構想<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	行政課題理解4 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 行政DXの推進・AI活用<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。 ※中間課題：今までの行政課題理解で取り上げた内容で、志望先の現状と課題点、解決案を考える（2時間）。	6時間
第8回	対面	行政課題理解5 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 子育て支援・児童虐待	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第9回	対面	行政課題理解6 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間

		ダイバーシティ・女性の活躍促進<2>		
第10回	対面	行政課題理解 7 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 防災・危機管理<2>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第11回	対面	行政課題理解 8 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 スマートシティ構想・行政のDX<2>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	行政課題理解 9 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 子育て支援・児童虐待<2>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	行政課題理解 10 総合演習・まとめ	事前に、これまで学習した政策課題について整理し、まとめておくこと（2時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第14回	対面	仕事理解 1 外部講師による講演	事前に、講演テーマについて調べて、疑問点などを考えておくこと（2時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。	事前に、春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 復習として、ゼミ仲間との意見交換した内容について整理確認し、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 ※期末課題：志望動機について（2時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する	6時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	金谷 一郎	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員を目指すうえで必要となる職種理解、自治体行政を取り巻く環境理解を深めるとともに、人物評価試験（小論文・面接）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	公務員行政職についての理解を深め、未来へ向けてよりよい社会を作り上げる公務員を目指す実践的な演習である。各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、現代の社会・自治体が直面する諸課題に対して国家や地方自治体が果たすべき役割を考察する。 本授業を通して、公務員として求められる基礎的な素養や、思考力、表現力を身につける。各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<基本的なインプットおよびグループディスカッション> ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対する理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告に対する講評を行い、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1999 年に行政書士試験に合格した後、個人事務所を開設し、20 年以上の実務経験を有している。また、2000 年からは資格試験予備校の講師として、憲法、民法、行政法、商法の講義に加え、面接対策、数的処理、文章理解等の授業を担当し、2015 年までは本学の S コース等でも法学系資格の合格実績に貢献している。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料等を参照して、政策課題への理解を深めてください。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。		

あたって	憲法、民法、刑法、ミクロ経済学、マクロ経済学の履修とともに、公務員コース推奨科目「地方自治論」（21 世紀日本の議会と行政）、「地域共生論」（地域生活と法）についても履修を推奨する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	公務就職の意義を理解する 公務員として働くことについての理解を深める ・なぜ公務員なのか？公務員として働くことについての理解を深める ・行政課題から求められる人材像について考える	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2 時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間
第2回	対面	採用試験の合格に向けて必要なことを理解する 公務員を取り巻く環境、採用試験動向を踏まえ、学内の支援体制や今後取り組むべき事項を理解し、学修計画をたてる。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2 時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間
第3回	対面	S P I 模擬テスト（PC 利用） 授業内で S P I 模擬テストを実施し、自身の現在位置と目標値を確認する。	事前に、過去問等を利用して試験問題の形式を理解し対策を進めておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第4回	対面	行政課題理解 1 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 ダイバーシティ・女性の活躍推進<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第5回	対面	行政課題理解 2 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 防災・危機管理<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第6回	対面	行政課題理解 3 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 スマートシティ構想<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第7回	対面	行政課題理解 4 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 行政 DX の推進・AI 活用<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。 ※中間課題：今までの行政課題理解で取り上げた内容で、志望先の現状と課題点、解決案を考える（2 時間）。	6 時間
第8回	対面	行政課題理解 5 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 子育て支援・児童虐待	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第9回	対面	行政課題理解 6 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容	4 時間

		した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 ダイバーシティ・女性の活躍促進<2>	を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	
第10回	対面	行政課題理解 7 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 防災・危機管理<2>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第11回	対面	行政課題理解 8 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 スマートシティ構想・行政のDX<2>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	行政課題理解 9 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 子育て支援・児童虐待<2>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	行政課題理解 10 総合演習・まとめ	事前に、これまで学習した政策課題について整理し、まとめておくこと（2時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第14回	対面	仕事理解 1 外部講師による講演	事前に、講演テーマについて調べて、疑問点などを考えておくこと（2時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後すべきことについて整理する。	事前に、春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後すべきことについて整理する（2時間）。 復習として、ゼミ仲間との意見交換した内容について整理確認し、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後すべきことについて整理する（2時間）。 ※期末課題：志望動機について（2時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する	6時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員を目指すうえで必要となる職種理解、自治体行政を取り巻く環境理解を深めるとともに、人物評価試験（小論文・面接）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	公務員行政職についての理解を深め、未来へ向けてよりよい社会を作り上げる公務員を目指す実践的な演習である。各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、現代の社会・自治体が直面する諸課題に対して国家や地方自治体が果たすべき役割を考察する。 本授業を通して、公務員として求められる基礎的な素養や、思考力、表現力を身につける。各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<基本的なインプットおよびグループディスカッション> ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対する理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告に対する講評を行い、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料等を参照して、政策課題への理解を深めてください。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。 憲法、民法、刑法、ミクロ経済学、マクロ経済学の履修とともに、公務員コース推奨科目「地方自治論」（21 世紀日本の議会と行政）、「地域共生論」（地域生活と法）についても履修を推奨		

する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	公務就職の意義を理解する 公務員として働くことについての理解を深める ・なぜ公務員なのか？公務員として働くことについての理解を深める ・行政課題から求められる人材像について考える	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対する確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	採用試験の合格に向けて必要なことを理解する 公務員を取り巻く環境、採用試験動向を踏まえ、学内の支援体制や今後取り組むべき事項を理解し、学修計画をたてる。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対する確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	SPI模擬テスト（PC利用） 授業内でSPI模擬テストを実施し、自身の現在位置と目標値を確認する。	事前に、過去問等を利用して試験問題の形式を理解し対策を進めておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	行政課題理解1 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 ダイバーシティ・女性の活躍推進<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	行政課題理解2 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 防災・危機管理<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	行政課題理解3 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 スマートシティ構想<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	行政課題理解4 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 行政DXの推進・AI活用<1>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。 ※中間課題：今までの行政課題理解で取り上げた内容で、志望先の現状と課題点、解決案を考える（2時間）。	6時間
第8回	対面	行政課題理解5 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 子育て支援・児童虐待	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第9回	対面	行政課題理解6 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間

		ダイバーシティ・女性の活躍促進<2>		
第10回	対面	行政課題理解 7 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 防災・危機管理<2>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第11回	対面	行政課題理解 8 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 スマートシティ構想・行政の DX<2>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第12回	対面	行政課題理解 9 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。 子育て支援・児童虐待<2>	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第13回	対面	行政課題理解 10 総合演習・まとめ	事前に、これまで学習した政策課題について整理し、まとめておくこと（2 時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第14回	対面	仕事理解 1 外部講師による講演	事前に、講演テーマについて調べて、疑問点などを考えておくこと（2 時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。	事前に、春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 復習として、ゼミ仲間との意見交換した内容について整理確認し、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 ※期末課題：志望動機について（2 時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する	6 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	教員として必要な資質・能力、学校を取り巻く諸課題について理解を深めるとともに、教員採用試験の人物評価試験対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	教職についての理解を深め、これからの時代に対応できる教員を目指す実践的な演習である。現在の学校、子どもが抱える困難な課題の現状や背景への理解を深め、中央教育審議会答申や通知、国家・各自が志望する自治体などの教育振興基本計画等をふまえて、教員の役割、あるべき対応について考察する。 教育実習や学校ボランティアなどを念頭に、学校現場で行かせる能力を培う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 志望先を決め、教員採用試験に向けて、教員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文章作成能力等の素養を身に付けている。 ② 学校、子どもを取り巻く諸課題について、基本データ等をふまえて理解し、それらに対する国や自治体の方針、対策について把握している。 ③ 学校現場での様々な場面に対して、教員としてどのようにふるまい、対応すべきか理解し、実践しようとしてすることができる。 ④ 教員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ⑤ 教育問題、子どもを取り巻く問題に関心を持つようになり、教養を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告に対する講評を行い、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料等を参照して、政策課題への理解を深めてください。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や社会の動き・課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。 教職課程科目の履修とともに、その復習を怠らないように。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 志望する自治体の採用試験内容に基づき、学習計画を作成する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対する確かな計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	採用試験の合格に向けて必要なことを理解する 教員を取り巻く環境、採用試験動向を踏まえ、校内の支援体制や今後取り組むべき事項を理解し、学修計画をたてる。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対する確かな計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	SPI模擬テスト 授業内でSPI模擬テストを実施し、自身の現在位置と目標値を確認する。	事前に、過去問等を利用して試験問題の形式を理解し対策を進めておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	課題理解1 令和の日本型教育 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	課題理解2 教員の働き方改革 教員の資質能力の向上 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	課題理解3 教育の情報化 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	課題理解4 いじめ、不登校 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。 ※中間課題：今までの課題理解で取り上げた内容で、志望先の現状と課題点、解決案を考える（2時間）。	6時間
第8回	対面	課題理解5 子育て支援・児童虐待 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第9回	対面	課題理解6 学校安全・危機管理 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第10回	対面	課題理解7 特別支援教育 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第11回	対面	課題理解8 人権教育等 与えられた課題に基づき、グループディス	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。	4時間

		カッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	
第12回	対面	課題理解9 学校と地域・保護者との連携 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	課題理解10 総合演習・まとめ	事前に、これまで学習した政策課題について整理し、まとめておくこと（2時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第14回	対面	仕事理解1 外部講師による講演	事前に、講演テーマについて調べて、疑問点などを考えておくこと（2時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。	事前に、春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 復習として、ゼミ仲間との意見交換した内容について整理確認し、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 ※期末課題：志望動機について（2時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する	6時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。		

あたって	日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望動機）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 志望理由② 自治体別・組織別 志望理由)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カード とは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデ マンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足をを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。		

課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。
状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望動機）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由② 自治体別・組織別志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から	4時間

			指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A		開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久		配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。			

状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望動機）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由② 自治体別・組織別志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間

			めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。		

状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望動機）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由② 自治体別・組織別志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深	4時間

			めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カード とは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 そのために、日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。		

状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：強み、長所）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：失敗への対応、挫折時の克服）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	オンデマンド	課題提出 （課題例 小論文等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：面接全般）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深	4 時間

			めておく。	
第10回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：服装・姿勢・態度)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：入室・着席・退室等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 採用試験準備について)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員を目指すうえで必要となる職種理解、自治体行政を取り巻く環境理解を深めるとともに、人物評価試験（小論文・面接）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	公務員行政職についての理解を深め、未来へ向けてよりよい社会を作り上げる公務員を目指す実践的な演習である。各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、現代の社会・自治体が直面する諸課題に対して国家や地方自治体が果たすべき役割を考察する。 各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<具体的な志望先を決めた上での、本番想定・実践中心> ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対する理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期の振り返り・秋学期学習計画の策定 春学期および夏休みの体験を振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき学習計画を立て、自身に必要な取り組む必要がある事項を整理する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し確かな計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	SPI 模擬テスト 授業内で SPI 模擬テストを実施し、自身の現在位置と目標値を確認する。	前期に実施した SPI 模擬試験等を復習すること（2時間）。 復習として、苦手分野を理解し、苦手克服のための対策をすること（2時間）。	4時間
第3回	対面	行政課題理解（防災危機管理） クロスロードゲームを用いた合同授業	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	行政課題理解 1 地方活性化・地方創生・DX<1>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	行政課題理解 2 地方活性化・地方創生・DX<2>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	行政課題理解 3 環境問題・カーボンニュートラル・GX<1>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	行政課題理解 4 環境問題・カーボンニュートラル・GX<2>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第8回	対面	総合演習 1 課題作文 これまでの復習と作文課題に取り組む	事前に、これまで学習した政策課題を整理しまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第9回	対面	総合演習 2 課題作文 作文課題の相互フィードバック	事前に、これまで学習した政策課題を整理しまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第10回	対面	総合演習 3 課題作文 政策課題の理解を深める、文章の推敲・修正の方法を身に着ける 課題：作文を完成させて提出する	事前に、これまで学習した政策課題を整理しまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	6時間
第11回	対面	自己PRを考える 自治体の面接時に使用される「面接カード」を作成し、自己PR作成のポイントについて理解する	事前に、面接カードを参照し、自己PRの構想をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	志望動機を考える 1 自治体の面接時に使用される「面接カード」を作成し、志望動機のポイントについて理解する	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	志望動機を考える 2 グループワークや口頭での練習を通じて、自身が作成した志望動機の課題に気づき、改善を行う。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正	4時間

			等を行っておくこと（2時間）。	
第14回	対面	実践トレーニング 集団面接 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。 ※期末レポート（面接カード作成）	事前に、秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 復習として、1年間の演習の内容を振り返り、採用試験までの期間で重点的に取り組むべき課題を明らかにし、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 ※期末課題：面接カード作成（2時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する。	6時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	金谷 一郎	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員を目指すうえで必要となる職種理解、自治体行政を取り巻く環境理解を深めるとともに、人物評価試験（小論文・面接）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	公務員行政職についての理解を深め、未来へ向けてよりよい社会を作り上げる公務員を目指す実践的な演習である。各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、現代の社会・自治体が直面する諸課題に対して国家や地方自治体が果たすべき役割を考察する。 各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<具体的な志望先を決めた上での、本番想定・実践中心> ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対する理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1999 年に行政書士試験に合格した後、個人事務所を開設し、20 年以上の実務経験を有している。また、2000 年からは資格試験予備校の講師として、憲法、民法、行政法、商法の講義に加え、面接対策、数的処理、文章理解等の授業を担当し、2015 年までは本学の S コース等でも法学系資格の合格実績に貢献している。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期の振り返り・秋学期学習計画の策定 春学期および夏休みの体験を振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき学習計画を立て、自身に必要な取り組む必要がある事項を整理する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対する確かな計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	SPI 模擬テスト 授業内で SPI 模擬テストを実施し、自身の現在位置と目標値を確認する。	前期に実施した SPI 模擬試験等を復習すること（2時間）。 復習として、苦手分野を理解し、苦手克服のための対策をすること（2時間）。	4時間
第3回	対面	行政課題理解（防災危機管理） クロスロードゲームを用いた合同授業	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	行政課題理解 1 地方活性化・地方創生・DX<1>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	行政課題理解 2 地方活性化・地方創生・DX<2>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	行政課題理解 3 環境問題・カーボンニュートラル・GX<1>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	行政課題理解 4 環境問題・カーボンニュートラル・GX<2>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第8回	対面	総合演習 1 課題作文 これまでの復習と作文課題に取り組む	事前に、これまで学習した政策課題を整理しまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第9回	対面	総合演習 2 課題作文 作文課題の相互フィードバック	事前に、これまで学習した政策課題を整理しまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第10回	対面	総合演習 3 課題作文 政策課題の理解を深める、文章の推敲・修正の方法を身に着ける 課題：作文を完成させて提出する	事前に、これまで学習した政策課題を整理しまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	6時間
第11回	対面	自己PRを考える 自治体の面接時に使用される「面接カード」を作成し、自己PR作成のポイントについて理解する	事前に、面接カードを参照し、自己PRの構想をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	志望動機を考える 1 自治体の面接時に使用される「面接カード」を作成し、志望動機のポイントについて理解する	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	志望動機を考える 2 グループワークや口頭での練習を通じて、	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。	4時間

		自身が作成した志望動機の課題に気づき、改善を行う。	復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	
第14回	対面	実践トレーニング 集団面接 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気になれるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後すべきことについて整理する。 ※期末レポート（面接カード作成）	事前に、秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後すべきことについて整理する（2時間）。 復習として、1年間の演習の内容を振り返り、採用試験までの期間で重点的に取り組むべき課題を明らかにし、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後すべきことについて整理する（2時間）。 ※期末課題：面接カード作成（2時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する。	6時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	大島 一悟	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員を目指すうえで必要となる職種理解、自治体行政を取り巻く環境理解を深めるとともに、人物評価試験（小論文・面接）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	公務員行政職についての理解を深め、未来へ向けてよりよい社会を作り上げる公務員を目指す実践的な演習である。各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、現代の社会・自治体が直面する諸課題に対して国家や地方自治体が果たすべき役割を考察する。 各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<具体的な志望先を決めた上での、本番想定・実践中心> ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対する理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期の振り返り・秋学期学習計画の策定 春学期および夏休みの体験を振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき学習計画を立て、自身に必要な取り組む必要がある事項を整理する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し確かな計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	SPI 模擬テスト 授業内で SPI 模擬テストを実施し、自身の現在位置と目標値を確認する。	前期に実施した SPI 模擬試験等を復習すること（2時間）。 復習として、苦手分野を理解し、苦手克服のための対策をすること（2時間）。	4時間
第3回	対面	行政課題理解（防災危機管理） クロスロードゲームを用いた合同授業	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	行政課題理解 1 地方活性化・地方創生・DX<1>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	行政課題理解 2 地方活性化・地方創生・DX<2>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	行政課題理解 3 環境問題・カーボンニュートラル・GX<1>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	行政課題理解 4 環境問題・カーボンニュートラル・GX<2>	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第8回	対面	総合演習 1 課題作文 これまでの復習と作文課題に取り組む	事前に、これまで学習した政策課題を整理しまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第9回	対面	総合演習 2 課題作文 作文課題の相互フィードバック	事前に、これまで学習した政策課題を整理しまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第10回	対面	総合演習 3 課題作文 政策課題の理解を深める、文章の推敲・修正の方法を身に着ける 課題：作文を完成させて提出する	事前に、これまで学習した政策課題を整理しまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	6時間
第11回	対面	自己PRを考える 自治体の面接時に使用される「面接カード」を作成し、自己PR作成のポイントについて理解する	事前に、面接カードを参照し、自己PRの構想をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	志望動機を考える 1 自治体の面接時に使用される「面接カード」を作成し、志望動機のポイントについて理解する	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	志望動機を考える 2 グループワークや口頭での練習を通じて、自身が作成した志望動機の課題に気づき、改善を行う。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正	4時間

			等を行っておくこと（2時間）。	
第14回	対面	実践トレーニング 集団面接 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。 ※期末レポート（面接カード作成）	事前に、秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 復習として、1年間の演習の内容を振り返り、採用試験までの期間で重点的に取り組むべき課題を明らかにし、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 ※期末課題：面接カード作成（2時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する。	6時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	教員として必要な資質・能力、学校を取り巻く諸課題について理解を深めるとともに、教員採用試験の人物評価試験対策に取り組む		
授業の目的及び概要	教職についての理解を深め、これからの時代に対応できる教員を目指す実践的な演習である。現在の学校、子どもが抱える困難な課題の現状や背景への理解を深め、中央教育審議会答申や通知、国家・各自が志望する自治体などの教育振興基本計画等をふまえて、教員の役割、あるべき対応について考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 志望先を決め、教員採用試験に向けて、教員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文章作成能力等の素養を身に付けている。 ② 学校、子どもを取り巻く諸課題について、基本データ等をふまえて理解し、それらに対する国や自治体の方針、対策について把握している。 ③ 学校現場での様々な場面に対して、教員としてどのようにふるまい、対応すべきか理解し、実践しようとする事ができる。 ④ 教員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進める事ができる。 ⑤ 教育問題、子どもを取り巻く問題に関心を持つようになり、教養を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	①秋学期授業における取り組みについて説明する。 ②個人面談を行う。 ③公務員として働くことについての理解を再確認する。 ④春学期および夏休みを振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で学習計画（試験日までの科目別の計画）を作成する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に對し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	教員を取り巻く環境、試験動向をふまえ、学内の支援体制や、今後取り組むべき事項を理解し、学習計画を立てる。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	教育改革について テーマに基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	志望動機を考える1（志望動機を作成する） 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募先を一つ選択し、志望動機を作成する。	事前に、応募先について調べ、各自志望動機を作成する準備をしておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2時間）。	4時間
第5回	対面	志望動機を考える2（志望動機を深める） 応募先の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	事前に、前回指摘をうけたアドバイスをもとに、各自志望動機を深める準備をしておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2時間）。	4時間
第6回	対面	実践トレーニング（集団面接①） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	実践トレーニング（個人面接①） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスを指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第8回	対面	実践トレーニング（個人面接②） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスを指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。 ※中間課題（2時間）	6時間
第9回	対面	社会情勢理解①（小論文・面接対策） 小論文・面接対策として、時事問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第10回	対面	社会情勢理解②（小論文・面接対策） 小論文・面接対策として、教育問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第11回	対面	実践トレーニング（グループディスカッション） 社会情勢理解を踏まえた教育課題について	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を	4時間

		て、グループディスカッションを行う。	を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	
第12回	対面	実践トレーニング（集団面接②） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	実践トレーニング（個人面接③） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第14回	対面	実践トレーニング（個人面接④） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。 ※期末レポート（面接カード作成）	事前に、秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 復習として、1年間の演習の内容を振り返り、採用試験までの期間で重点的に取り組むべき課題を明らかにし、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 ※期末課題：面接カード作成（2時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する。	6時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B		開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久		配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 そのために、日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。			

状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：強み、長所）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：失敗への対応、挫折時の克服）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	オンデマンド	課題提出 （課題例 小論文等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：面接全般）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深	4 時間

			めておく。	
第10回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：服装・姿勢・態度)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：入室・着席・退室等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 採用試験準備について)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 そのために、日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。		

状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：強み、長所）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：失敗への対応、挫折時の克服）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	オンデマンド	課題提出 （課題例 小論文等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4時間
第9回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：面接全般）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深	4時間

			めておく。	
第10回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：服装・姿勢・態度)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：入室・着席・退室等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 採用試験準備について)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足をを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。		

あたって	そのために、日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：強み、長所）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：失敗への対応、挫折時の克服）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	オンデマンド	課題提出 （課題例 小論文等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4時間
第9回	対面	公安職志望者としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4時間

		(課題例 人物評価：面接全般)	る研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：服装・姿勢・態度)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：入室・着席・退室等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 採用試験準備について)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 そのために、日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。		

課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。
状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：強み、長所）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：失敗への対応、挫折時の克服）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	オンデマンド	課題提出 （課題例 小論文等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：面接全般）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から	4 時間

			指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：服装・姿勢・態度)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：入室・着席・退室等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 採用試験準備について)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	目指す公務員になるために		
授業の目的及び概要	間近に迫った公務員採用試験に向けて、公務員になるための心構えについて確認するとともに、公務員特別演習Ⅱで学んだ知識等について整理確認し、採用試験の合格を目指す実践的な演習である。 各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、面接対策、小論文対策等を実施する。 各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本年の公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文書作成能力等の素養を身につけ、採用試験合格を目指す。 志望する国の組織・地方自治体に関する基礎的なデータを把握し、国・地方自治体が直面する諸課題に対して、その解決策を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、レポート・小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で自身の学習状況について確認する。 個人面談を行う。	志望先の試験科目を具体的に把握し、面談の結果に基づき、計画に沿った学修状況となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。 公務員制度の概略について把握しておくこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	グループディスカッション対策① 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	グループディスカッションにおいて、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について反省し（2時間）、次回に向けた改善点を整理しておくこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	グループディスカッション対策② 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について確認し（2時間）、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	集団面接対策① 5、6人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	各自が自身の発言内容や立ち振る舞いについて確認し（2時間）、次回に向けて反省点を整理しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	集団面接対策② 5、6人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、立ち振る舞い等について確認し（2時間）、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	小論文対策① 志望先別に与えられた課題について、1500字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4時間
第7回	対面	小論文対策①（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2時間）、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2時間）。	4時間
第8回	対面	小論文対策② 志望先別に与えられた課題について、1500字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4時間
第9回	対面	小論文対策②（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2時間）、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2時間）。	4時間
第10回	対面	個人面接対策① 1回15分程度の模擬面接を実施する。	事前に、自己紹介やPRなど、発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第11回	対面	個人面接対策② 1回15分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2時間）。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	個人面接対策③ 1回15分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2時間）。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	総合対策① 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	これまでの演習内容を振り返り、直前対策として必要な事項を把握しておくこと。	4時間
第14回	対面	総合対策② 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	総合対策③ 各自の試験日に合わせて、面接における発	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4時間

2025/05/01

		言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。		

科目名	公務員特別演習Ⅲ A		開講年度	2025
担当者	金谷 一郎		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	目指す公務員になるために			
授業の目的及び概要	間近に迫った公務員採用試験に向けて、公務員になるための心構えについて確認するとともに、公務員特別演習Ⅱで学んだ知識等について整理確認し、採用試験の合格を目指す実践的な演習である。 各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、面接対策、小論文対策等を実施する。 各自の進路についての個別相談を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本年の公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文書作成能力等の素養を身につけ、採用試験合格を目指す。 志望する国の組織・地方自治体に関する基礎的なデータを把握し、国・地方自治体が直面する諸課題に対して、その解決策を身につける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、レポート・小論文は添削後にコピーを返却する。			
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1999 年に行政書士試験に合格した後、個人事務所を開設し、20 年以上の実務経験を有している。また、2000 年からは資格試験予備校の講師として、憲法、民法、行政法、商法の講義に加え、面接対策、数的処理、文章理解等の授業を担当し、2015 年までは本学の S コース等でも法学系資格の合格実績に貢献している。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。		ISBN	なし
参考書			ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で自身の学習状況について確認する。 個人面談を行う。	志望先の試験科目を具体的に把握し、面談の結果に基づき、計画に沿った学修状況となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。 公務員制度の概略について把握しておくこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	グループディスカッション対策① 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	グループディスカッションにおいて、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について反省し（2時間）、次回に向けた改善点を整理しておくこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	グループディスカッション対策② 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について確認し（2時間）、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	集団面接対策① 5、6人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	各自が自身の発言内容や立ち振る舞いについて確認し（2時間）、次回に向けて反省点を整理しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	集団面接対策② 5、6人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、立ち振る舞い等について確認し（2時間）、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	小論文対策① 志望先別に与えられた課題について、1500字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4時間
第7回	対面	小論文対策①（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2時間）、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2時間）。	4時間
第8回	対面	小論文対策② 志望先別に与えられた課題について、1500字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4時間
第9回	対面	小論文対策②（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2時間）、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2時間）。	4時間
第10回	対面	個人面接対策① 1回15分程度の模擬面接を実施する。	事前に、自己紹介やPRなど、発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第11回	対面	個人面接対策② 1回15分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2時間）。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	個人面接対策③ 1回15分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2時間）。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	総合対策① 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	これまでの演習内容を振り返り、直前対策として必要な事項を把握しておくこと。	4時間
第14回	対面	総合対策② 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	総合対策③ 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	教員として必要な資質・能力、学校を取り巻く諸課題について理解を深めるとともに、教員採用試験の人物評価試験対策に取り組む		
授業の目的及び概要	教職についての理解を深め、これからの時代に対応できる教員を目指す実践的な演習である。教員採用試験に向けて、具体的な問題や事例に対して具体的に考え、行動できるようになる。現在の学校、子どもが抱える困難な課題の現状や背景への理解を深め、中央教育審議会答申や通知、国家・各自が志望する自治体などの教育振興基本計画等をふまえて、教員の役割、あるべき対応について考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 教員採用試験に向けて、計画的に取り組み、知識、論理的思考力、表現力、文章作成能力等の教員に必要な素養を身に付けている。 ② 学校、子どもを取り巻く諸課題について、現状を正しく理解し、それらに対する国や自治体の方針、対策について把握している。 ③ 学校現場での様々な場面に対して、教員として様々な協力関係を築き、対応する必要性を理解し、実践することができる。 ④ 教育問題、子どもを取り巻く問題に関心を持つようになり、教養を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書	授業中に紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、教育だけでなく、時事問題や行政の動き・社会的な課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	①春学期授業における取り組みについて説明する。 ②個人面談を行う。 ③公務員として働くことについての理解を再確認する。 ④これまでの学修を振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で学習計画（試験日までの科目別の計画）を作成する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対する確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	自分のこれまでの取り組みを振り返り、学習計画を立てる。教員を取り巻く環境、試験動向をふまえ、学内の支援体制や、今後取り組むべき事項を理解する。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	教育改革について これまでの学修の中から関連した内容を整理する。 テーマに基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	志望動機を考える1（志望動機を作成する） 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募先の一つ選択し、志望動機を作成する。 内容を簡単にまとめたり、詳細に説明できるように整理する。	事前に、応募先について調べ、各自志望動機を作成する準備をしておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2時間）。	4時間
第5回	対面	志望動機を考える2（志望動機を深める） 応募先の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。 たがいに問題点を指摘するだけでなく、より良いものに改善することをめざす。	事前に、前回指摘をうけたアドバイスをもとに、各自志望動機を深める準備をしておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2時間）。	4時間
第6回	対面	実践トレーニング（集団面接①） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	実践トレーニング（個人面接①） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第8回	対面	実践トレーニング（個人面接②） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。 ※中間課題（2時間）	6時間
第9回	対面	社会情勢理解①（小論文・面接対策） これまでの学修の中から関連した内容を整理する。 小論文・面接対策として、時事問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間

第10回	対面	社会情勢理解②（小論文・面接対策） これまでの学修の中から関連した内容を整理する。 小論文・面接対策として、教育問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第11回	対面	実践トレーニング（グループディスカッション） 社会情勢理解を踏まえた教育課題について、グループディスカッションを行う。 自分の長所・短所を整理して取り組むようにする。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	実践トレーニング（集団面接②） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。 自分の長所・短所を整理して取り組むようにする。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	実践トレーニング（個人面接③） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。 自分の長所・短所を整理して取り組むようにする。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第14回	対面	実践トレーニング（個人面接④） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。 自分の長所・短所を整理して取り組むようにする。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。 ※期末レポート（面接カード作成）	事前に、秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 復習として、1年間の演習の内容を振り返り、採用試験までの期間で重点的に取り組むべき課題を明らかにし、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 ※期末課題：面接カード作成（2時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する。	6時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③ 志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④ 志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見をまとめておいてください。 クラス（警察等、消防）によっては、採用試験日程等により授業の課題やオンデマンド授業の授業回を変更することがあります。 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、志望先アンケート等 人物評価対策：小論文1	【予習】事前にシラバスを確認し、授業概要を把握しておくこと。志望先組織の過去の問題等を確認し、自分の意見をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第2回	対面	人物評価対策：小論文2	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第3回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード1	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第4回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード2	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第5回	対面	人物評価対策：集団面接・個人面接（概要）	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第6回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領1）、小論文（再1） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第7回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領2）、小論文（再2） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第8回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領3）、小論文（再3） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第9回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領4）、小論文（再4） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間

第10回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領5）、小論文（再5） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第11回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領6）、小論文（再6） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第12回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領7）、小論文（再7） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第13回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領8）、小論文（再8） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第14回	対面	人物評価対策：時事問題等	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括と今後の課題（課題提出等）	【予習】これまでの成功や失敗など、自己の検証結果をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、今後の計画を立てること。	4時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	若林 淳	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③ 志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④ 志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見をまとめておいてください。 クラス（警察等、消防）によっては、採用試験日程等により授業の課題やオンデマンド授業の		

授業回を変更することがあります。
状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、志望先アンケート等 人物評価対策：小論文1	【予習】事前にシラバスを確認し、授業概要を把握しておくこと。志望先組織の過去の問題等を確認し、自分の意見をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第2回	対面	人物評価対策：小論文2	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第3回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード1	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第4回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード2	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第5回	対面	人物評価対策：集団面接・個人面接（概要）	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第6回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領1）、小論文（再1） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第7回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領2）、小論文（再2） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第8回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領3）、小論文（再3） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第9回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領4）、小論文（再4） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第10回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領5）、小論文（再5） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間

第11回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領6）、小論文（再6） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第12回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領7）、小論文（再7） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第13回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領8）、小論文（再8） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第14回	対面	人物評価対策：時事問題等	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括と今後の課題（課題提出等）	【予習】これまでの成功や失敗など、自己の検証結果をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、今後の計画を立てること。	4時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③ 志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④ 志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見をまとめておいてください。		

あたって	クラス（警察等、消防）によっては、採用試験日程等により授業の課題やオンデマンド授業の授業回を変更することがあります。 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、志望先アンケート等 人物評価対策：小論文1	【予習】事前にシラバスを確認し、授業概要を把握しておくこと。志望先組織の過去の問題等を確認し、自分の意見をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第2回	対面	人物評価対策：小論文2	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード1	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード2	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	人物評価対策：集団面接・個人面接（概要）	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領1）、小論文（再1） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領2）、小論文（再2） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領3）、小論文（再3） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領4）、小論文（再4） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第10回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領5）、小論文（再5） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深め	4 時間

			るとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	
第11回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領6）、小論文（再6） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第12回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領7）、小論文（再7） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第13回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領8）、小論文（再8） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第14回	対面	人物評価対策：時事問題等	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括と今後の課題（課題提出等）	【予習】これまでの成功や失敗など、自己の検証結果をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、今後の計画を立てること。	4時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ A		開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③ 志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④ 志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足説明を行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見をまとめておいてください。 クラス（警察等、消防）によっては、採用試験日程等により授業の課題やオンデマンド授業の			

授業回を変更することがあります。
状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、志望先アンケート等 人物評価対策：小論文1	【予習】事前にシラバスを確認し、授業概要を把握しておくこと。志望先組織の過去の問題等を確認し、自分の意見をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第2回	対面	人物評価対策：小論文2	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第3回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード1	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第4回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード2	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第5回	対面	人物評価対策：集団面接・個人面接（概要）	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第6回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領1）、小論文（再1） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第7回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領2）、小論文（再2） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第8回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領3）、小論文（再3） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第9回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領4）、小論文（再4） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第10回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領5）、小論文（再5） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間

第11回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領6）、小論文（再6） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第12回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領7）、小論文（再7） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第13回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領8）、小論文（再8） 1次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第14回	対面	人物評価対策：時事問題等	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括と今後の課題（課題提出等）	【予習】これまでの成功や失敗など、自己の検証結果をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、今後の計画を立てること。	4時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	高田 尚彦	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	目指す公務員になるために		
授業の目的及び概要	すでに始まっている、または間近に迫った公務員採用試験に向けて、公務員になるための心構えについて確認するとともに、公務員特別演習ⅢA で学んだ知識等について整理確認し、採用試験の合格を目指す実践的な演習である。 各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、面接対策、小論文対策等を実施する。 各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点	履修者の公務員試験の受験状況に応じて、適宜授業内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本年度後半の公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文書作成能力等の素養を身につけ、採用試験合格を目指す。 志望する国の組織・地方自治体に関する基礎的なデータを把握し、国・地方自治体が直面する諸課題に対して、その解決策を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、レポート・小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で自身の学習状況について確認する。 個人面談を行う。	志望先の試験科目を具体的に把握し、面談の結果に基づき、計画に沿った学修状況となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。 公務員制度の概略について把握しておくこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	グループディスカッション対策① 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	グループディスカッションにおいて、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について反省し（2時間）、次回に向けた改善点を整理しておくこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	グループディスカッション対策② 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について確認し（2時間）、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	集団面接対策① 5、6人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	各自が自身の発言内容や立ち振る舞いについて確認し（2時間）、次回に向けて反省点を整理しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	集団面接対策② 5、6人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、立ち振る舞い等について確認し（2時間）、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	小論文対策① 志望先別に与えられた課題について、1500字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4時間
第7回	対面	小論文対策①（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2時間）、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2時間）。	4時間
第8回	対面	小論文対策② 志望先別に与えられた課題について、1500字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4時間
第9回	対面	小論文対策②（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2時間）、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2時間）。	4時間
第10回	対面	個人面接対策① 1回15分程度の模擬面接を実施する。	事前に、自己紹介やPRなど、発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第11回	対面	個人面接対策② 1回15分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2時間）。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	個人面接対策③ 1回15分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2時間）。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	総合対策① 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	これまでの演習内容を振り返り、直前対策として必要な事項を把握しておくこと。	4時間
第14回	対面	総合対策② 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	総合対策③ 各自の試験日に合わせて、面接における発	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4時間

2025/05/01

		言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。		

科目名	公務員特別演習Ⅲ B		開講年度	2025
担当者	田中 曜次		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	教員として必要な資質・能力、学校を取り巻く諸課題について理解を深めるとともに、学校現場での実践や教員採用試験の人物評価試験対策に取り組む			
授業の目的及び概要	教職についての理解を深め、これからの時代に対応できる教員を目指す実践的な演習である。現在の学校、子どもが抱える困難な課題の現状や背景への理解を深め、中央教育審議会答申や通知、国家・各自が志望する自治体などの教育振興基本計画等をふまえて、教員の役割、あるべき対応について考察する。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 志望先を決め、教員採用試験に向けて、教員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文章作成能力等の素養を身に付けている。 ② 学校、子どもを取り巻く諸課題について、基本データ等をふまえて理解し、それらに対する国や自治体の方針、対策について把握している。 ③ 学校現場での様々な場面に対して、教員としてどのようにふるまい、対応すべきか理解し、実践しようとすることができる。 ④ 学校現場での実践、教員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ⑤ 教育問題、子どもを取り巻く問題に関心を持つようになり、教養を身に付けている。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。		ISBN	なし
参考書			ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		20	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	①秋学期授業における取り組みについて説明する。 ②個人面談を行う。 ③公務員として働くことについての理解を再確認する。 ④春学期および夏休みを振り返り、自分が志望した自治体の教育実践や、採用試験内容に基づき、各人で今後の学習計画を作成する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に對し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	教員を取り巻く環境、試験動向をふまえ、学内の支援体制や、今後取り組むべき事項を理解し、学習計画を立てる。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	教育改革について テーマに基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	志望動機を考える1（志望動機を作成する） 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募先を一つ選択し、志望動機を作成する。	事前に、応募先について調べ、各自志望動機を作成する準備をしておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2時間）。	4時間
第5回	対面	志望動機を考える2（志望動機を深める） 応募先の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	事前に、前回指摘をうけたアドバイスをもとに、各自志望動機を深める準備をしておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2時間）。	4時間
第6回	対面	実践トレーニング（集団面接①） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気になれるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	実践トレーニング（個人面接①） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスを指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第8回	対面	実践トレーニング（個人面接②） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスを指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。 ※中間課題（2時間）	6時間
第9回	対面	社会情勢理解①（小論文・面接対策） 小論文・面接対策として、時事問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第10回	対面	社会情勢理解②（小論文・面接対策） 小論文・面接対策として、教育問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第11回	対面	実践トレーニング（グループディスカッション） 社会情勢理解を踏まえた教育課題について	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を	4時間

		て、グループディスカッションを行う。	を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	
第12回	対面	実践トレーニング（集団面接②） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	実践トレーニング（個人面接③） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第14回	対面	実践トレーニング（個人面接④） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やPRなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。 ※期末レポート（面接カード作成）	事前に、秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 復習として、1年間の演習の内容を振り返り、採用試験までの期間で重点的に取り組むべき課題を明らかにし、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2時間）。 ※期末課題：面接カード作成（2時間） ※実施される予定の模試などを受験する。	6時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③ 志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④ 志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 採用試験の合格者割合や採用試験日程など諸般の事情により、各クラス（警察・消防別、担当教員別）で授業の課題等を変更することがあります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の進め方 受験結果、今後の試験日程と受験予定等の再確認	【予習】受験結果、今後の試験日程等に基づき、自身の今後の就活、受験予定について十分に検討しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、今後の方針を決定する。	4 時間
第2回	対面	就業力向上と人物評価対策1 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	就業力向上と人物評価対策2 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	就業力向上と人物評価対策3 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	就業力向上と人物評価対策4 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	就業力向上と人物評価対策5 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	就業力向上と人物評価対策6 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	就業力向上と人物評価対策7 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間

第9回	対面	即戦力としての人材への成長1 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業先組織に関連する基本的な法令」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	即戦力としての人材への成長2 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業先組織に関連する基本的な法令2」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	即戦力としての人材への成長3 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等1」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	即戦力としての人材への成長4 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等2」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	即戦力としての人材への成長5 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等3」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	即戦力としての人材への成長6 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 後輩に向けて(受験の成功と失敗、後輩に伝えたいこと等)」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	大学4年間の総括等 (課題提出等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を表明できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項等に基づいて振り返りを行い、社会人としての将来設計を立てる。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	若林 淳	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③ 志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④ 志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 採用試験の合格者割合や採用試験日程など諸般の事情により、各クラス（警察・消防別、担当		

教員別)で授業の課題等を変更することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の進め方 受験結果、今後の試験日程と受験予定等の再確認	【予習】受験結果、今後の試験日程等に基づき、自身の今後の就活、受験予定について十分に検討しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、今後の方針を決定する。	4 時間
第2回	対面	就業力向上と人物評価対策1 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	就業力向上と人物評価対策2 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	就業力向上と人物評価対策3 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	就業力向上と人物評価対策4 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	就業力向上と人物評価対策5 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	就業力向上と人物評価対策6 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	就業力向上と人物評価対策7 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	即戦力としての人材への成長1 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業先組織に関連する基本的	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から	4 時間

		な法令」	指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	
第10回	対面	即戦力としての人材への成長2 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業先組織に関連する基本的な法令2」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	即戦力としての人材への成長3 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等1」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	即戦力としての人材への成長4 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等2」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	即戦力としての人材への成長5 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等3」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	即戦力としての人材への成長6 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 後輩に向けて(受験の成功と失敗、後輩に伝えたいこと等)」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	大学4年間の総括等 (課題提出等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を表明できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項等に基づいて振り返りを行い、社会人としての将来設計を立てる。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③ 志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④ 志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。		

あたって	採用試験の合格者割合や採用試験日程など諸般の事情により、各クラス（警察・消防別、担当教員別）で授業の課題等を変更することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の進め方 受験結果、今後の試験日程と受験予定等の再確認	【予習】受験結果、今後の試験日程等に基づき、自身の今後の就活、受験予定について十分に検討しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、今後の方針を決定する。	4時間
第2回	対面	就業力向上と人物評価対策1 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	就業力向上と人物評価対策2 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	就業力向上と人物評価対策3 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	就業力向上と人物評価対策4 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	就業力向上と人物評価対策5 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	就業力向上と人物評価対策6 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	就業力向上と人物評価対策7 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4時間
第9回	対面	即戦力としての人材への成長1 講義・グループ討議・グループワークによる研究等	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。	4時間

		「課題例 就業先組織に関連する基本的な法令」	【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	
第10回	対面	即戦力としての人材への成長2 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業先組織に関連する基本的な法令2」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	即戦力としての人材への成長3 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等1」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	即戦力としての人材への成長4 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等2」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	即戦力としての人材への成長5 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等3」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	即戦力としての人材への成長6 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 後輩に向けて(受験の成功と失敗、後輩に伝えたいこと等)」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	大学4年間の総括等 (課題提出等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を表明できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項等に基づいて振り返りを行い、社会人としての将来設計を立てる。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③ 志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④ 志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	日ごろから新聞記事やニュースに注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 採用試験の合格者割合や採用試験日程など諸般の事情により、各クラス（警察・消防別、担当		

教員別)で授業の課題等を変更することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の進め方 受験結果、今後の試験日程と受験予定等の再確認	【予習】受験結果、今後の試験日程等に基づき、自身の今後の就活、受験予定について十分に検討しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、今後の方針を決定する。	4 時間
第2回	対面	就業力向上と人物評価対策1 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	就業力向上と人物評価対策2 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	就業力向上と人物評価対策3 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	就業力向上と人物評価対策4 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	就業力向上と人物評価対策5 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	就業力向上と人物評価対策6 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	就業力向上と人物評価対策7 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	即戦力としての人材への成長1 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業先組織に関連する基本的	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から	4 時間

		な法令」	指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	
第10回	対面	即戦力としての人材への成長2 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業先組織に関連する基本的な法令2」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	即戦力としての人材への成長3 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等1」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	即戦力としての人材への成長4 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等2」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	即戦力としての人材への成長5 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 就業に向けての決意・覚悟等3」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	即戦力としての人材への成長6 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例 後輩に向けて(受験の成功と失敗、後輩に伝えたいこと等)」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	大学4年間の総括等 (課題提出等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を表明できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項等に基づいて振り返りを行い、社会人としての将来設計を立てる。	4 時間

科目名	ICT特別演習 I A		開講年度	2025
担当者	岩田 順敬		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	ICT に関する実践的知識の修得という観点から IT パスポート、基本情報技術者の資格取得をめざす。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響(「実学としての経済学」の観点)や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。 ・ IT パスポートまたは基本情報技術者の資格取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。国家試験である、IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語である Python を基礎から学修し基本的なプログラミング技能を身につける。			
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して受験意志のある人に受講は限定する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	◆IT パスポートの資格取得を通して、ICT に関する幅広い知識を習得する。 ◆IT パスポートの資格をすでに取得している受講生については、基本情報技術者の資格取得を目指す。とくにプログラミングや、データベース(データサイエンス)について基礎からしっかりと理解する。自らプログラムを作成し、データ処理ができるようになることを目指す。 ◆基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生については、応用情報技術者の資格取得を目指す。IT パスポート、または基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生について、情報セキュリティマネジメントの資格取得に関する指導も行う。受講者は基本情報技術者と情報セキュリティマネジメントのいずれの資格を取得するかを選択してよい。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	【令和7年度】いちばんやさしい 基本情報技術者 絶対合格の教科書+出る順問題集 高橋 京介(著) SB クリエイティブ		ISBN	9784815629380
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		60	
	成果発表(口頭・実技)		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験(対面)		0	

	その他 (%)	10
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・1年目春 IA・IIA、秋 IB・IIB、2年目春 IIIA・IVA、秋 IIIB・IVB の順で履修可能 ・IA・IIA、IB・IIB、IIIA・IVA、IIIB・IVB はそれぞれ2コマ連続受講 ・各学期4単位、2年間で16単位の取得が可能である。 ・各学期において履修についての選考がある。なお、通常の演習（ゼミ）と曜限が重複する場合、履修ができない。また、他の特別演習と重複する場合、どちらかを選択する必要がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ・ガイダンス	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。	4時間
第2回	対面	第1章 情報技術の基礎 2進数、8進数	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第1章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第3回	対面	第2章 データ構造とアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第2章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第4回	対面	第3章 ハードウェア	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第3章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第5回	対面	第4章 ソフトウェア	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第4章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第6回	対面	第5章 ネットワーク	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第5章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第7回	対面	第6章 セキュリティ	【予習】Learning Portal でどのような内容について	4時間

			講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第6章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	
第8回	対面	第7章 データベース	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第11章と第12章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第9回	対面	第8章 ソフトウェア開発	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第8章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第10回	対面	第9章 マネジメント	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第9章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第11回	対面	第10章 ストラテジ	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第10章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第12回	対面	答練①テクノロジー分野	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくことよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第13回	対面	答練② マネジメント・ストラテジ分野	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくことよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第14回	対面	答練③ 総合分野	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくことよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第15回	オンデマンド	答練④（オンライン答練）	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくことよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間

科目名	ICT特別演習 I B		開講年度	2025
担当者	岩田 順敬		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位	
グレード	G2	授業方法	演習	
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	ICT に関する実践的知識の修得という観点から IT パスポート、基本情報技術者の資格取得をめざす。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響（「実学としての経済学」の観点）や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。 ・ IT パスポートまたは基本情報技術者の資格取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。国家試験である、IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語である Python を基礎から学修し基本的なプログラミング技能を身につける。			
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して受験意志のある人に受講は限定する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	◆IT パスポートの資格取得を通して、ICT に関する幅広い知識を習得する。 ◆IT パスポートの資格をすでに取得している受講生については、基本情報技術者の資格取得を目指す。とくにプログラミングや、データベース（データサイエンス）について基礎からしっかりと理解する。自らプログラムを作成し、データ処理ができるようになることを目指す。 ◆基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生については、応用情報技術者の資格取得を目指す。IT パスポート、または基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生について、情報セキュリティマネジメントの資格取得に関する指導も行う。受講者は基本情報技術者と情報セキュリティマネジメントのいずれの資格を取得するかを選択してよい。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Python ゼロからはじめるプログラミング， 三谷純，翔泳社	ISBN	9784798169460	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	10		

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・1年目春 I、秋 II、2年目春 III、秋 IV の順で履修可能 ・各学期2単位、2年間で8単位の取得が可能である。 ・各学期において履修についての選考がある。なお、通常の演習（ゼミ）と曜限が重複する場合、履修ができない。また、他の特別演習と重複する場合、どちらかを選択する必要がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ガイダンス 第1章 Python に触れる	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第2回	対面	第2章① Python の基本 型・演算・文字列	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第3回	対面	第2章② Python の基本 リスト	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第4回	対面	第2章③ Python の基本 モジュールの利用	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第5回	対面	第3章① 条件分岐	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第6回	対面	第3章② 論理演算子	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があれば	4時間

			ばアンダーラインを引くなどしてチェックしておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレ ンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	
第7回	対面	第3章③ 繰り返し	【予習】Learning Portal でどのような内容について 講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があれば アンダーラインを引くなどしてチェックしておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレ ンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第8回	対面	第4章① オブジェクト指向	【予習】Learning Portal でどのような内容について 講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があれば アンダーラインを引くなどしてチェックしておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレ ンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第9回	対面	第4章② リストとタプル	【予習】Learning Portal でどのような内容について 講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があれば アンダーラインを引くなどしてチェックしておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレ ンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第10回	対面	第5章① ユーザー定義関数	【予習】Learning Portal でどのような内容について 講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があれば アンダーラインを引くなどしてチェックしておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。	4 時間
第11回	対面	第5章② 高階関数	【予習】Learning Portal でどのような内容について 講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があれば アンダーラインを引くなどしてチェックしておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレ ンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第12回	対面	第6章① クラス	【予習】Learning Portal でどのような内容について 講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があれば アンダーラインを引くなどしてチェックしておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレ	4 時間

			ンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	
第13回	対面	第6章② メソッド、継承	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第14回	対面	第7章 テキストファイルの読み書きなど応用	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第15回	オンデマンド	プログラミング課題実習(自作プログラムの提出)	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を使って学んだ内容を総復習しておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間

科目名	I C T特別演習Ⅲ A		開講年度	2025
担当者	岩田 順敬		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	ICT に関する実践的知識の修得という観点から IT パスポート、基本情報技術者の資格取得をめざす。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響(「実学としての経済学」の観点)や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。 ・ IT パスポートまたは基本情報技術者の資格取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。国家試験である、IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語である Python を基礎から学修し基本的なプログラミング技能を身につける。			
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して受験意志のある人に受講は限定する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	◆IT パスポートの資格取得を通して、ICT に関する幅広い知識を習得する。 ◆IT パスポートの資格をすでに取得している受講生については、基本情報技術者の資格取得を目指す。とくにプログラミングや、データベース(データサイエンス)について基礎からしっかりと理解する。自らプログラムを作成し、データ処理ができるようになることを目指す。 ◆基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生については、応用情報技術者の資格取得を目指す。IT パスポート、または基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生について、情報セキュリティマネジメントの資格取得に関する指導も行う。受講者は基本情報技術者と情報セキュリティマネジメントのいずれの資格を取得するかを選択してよい。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	【令和 7 年度】いちばんやさしい 基本情報技術者 絶対合格の教科書+出る順問題集 高橋 京介(著) SB クリエイティブ		ISBN	9784815629397
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		60	
	成果発表(口頭・実技)		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験(対面)		0	

	その他 (%)	10
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・1年目春 I、秋 II、2年目春 III、秋 IV の順で履修可能 ・各学期2単位、2年間で8単位の取得が可能である。 ・各学期において履修についての選考がある。なお、通常の演習（ゼミ）と曜限が重複する場合、履修ができない。また、他の特別演習と重複する場合、どちらかを選択する必要がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ガイダンス テクノロジ 第1章 コンピュータ科学の基礎理論	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第1章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第2回	対面	テクノロジ 第2章 コンピュータの構成要素	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第2章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第3回	対面	テクノロジ 第3章 ソフトウェア	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第3章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第4回	対面	テクノロジ 第4章 コンピュータシステム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第4章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第5回	対面	テクノロジ 第5章 データベース	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第5章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第6回	対面	テクノロジ 第6章 ネットワーク	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第6章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。	4時間

			範囲を指定して 20 問解いてみることを望ましい。	
第 7 回	対面	テクノロジー 第 7 章 セキュリティ	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 7 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることを望ましい。	4 時間
第 8 回	対面	テクノロジー 第 8 章 システム開発技術	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 8 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることを望ましい。	4 時間
第 9 回	対面	テクノロジー 第 9 章 データベース、アルゴリズム、プログラミング	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 9 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることを望ましい。	4 時間
第 10 回	対面	テクノロジーのまとめ 演習問題の実習	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を使って、テクノロジー分野について総復習しておくこととよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることを望ましい。	4 時間
第 11 回	対面	マネジメント 第 1-2 章 プロジェクトマネジメント、IT サービスマネジメント	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 3 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることを望ましい。	4 時間
第 12 回	対面	マネジメント 第 3 章 システム監査	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 3 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることを望ましい。	4 時間
第 13 回	対面	ストラテジ 第 1 章 システム戦略、経営戦略	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 1 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることを望ましい。	4 時間

			しい。	
第14回	対面	ストラテジ 第2章 企業と法務	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第2章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみることを望ましい。	4時間
第15回	オンデマンド	答練（答案提出）総合演習 過去問道場より問題を出題	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくことよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定せずに20問解いてみることを望ましい。	4時間

科目名	I C T特別演習Ⅲ B		開講年度	2025
担当者	岩田 順敬		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	ICT に関する実践的知識の修得という観点から IT パスポート、基本情報技術者の資格取得をめざす。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響(「実学としての経済学」の観点)や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。 ・ IT パスポートまたは基本情報技術者の資格取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。国家試験である、IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語である Python を基礎から学修し基本的なプログラミング技能を身につける。			
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して受験意志のある人に受講は限定する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	◆IT パスポートの資格取得を通して、ICT に関する幅広い知識を習得する。 ◆IT パスポートの資格をすでに取得している受講生については、基本情報技術者の資格取得を目指す。とくにプログラミングや、データベース(データサイエンス)について基礎からしっかりと理解する。自らプログラムを作成し、データ処理ができるようになることを目指す。 ◆基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生については、応用情報技術者の資格取得を目指す。IT パスポート、または基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生について、情報セキュリティマネジメントの資格取得に関する指導も行う。受講者は基本情報技術者と情報セキュリティマネジメントのいずれの資格を取得するかを選択してよい。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	うかる! 基本情報技術者 [科目 B・アルゴリズム編] 2024 年版 福嶋先生の集中ゼミ, 福嶋宏訓(著), 日本経済新聞出版社 ※シラバス作成時で 2025 年版は未発刊		ISBN	9784296119554
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60		
	成果発表(口頭・実技)	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	10
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・1年目春Ⅰ、秋Ⅱ、2年目春Ⅲ、秋Ⅳの順で履修可能 ・各学期2単位、2年間で8単位の取得が可能である。 ・各学期において履修についての選考がある。なお、通常の演習（ゼミ）と曜限が重複する場合、履修ができない。また、他の特別演習と重複する場合、どちらかを選択する必要がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ガイダンス 第1章 Lesson 1 アルゴリズムとは何か？	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第2回	対面	第1章 Lesson 2-3 流れ図と記号	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第3回	対面	第1章 Lesson 4-5 合計計算のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第4回	対面	第1章 Lesson 6-7 最大・最小のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第5回	対面	第1章 Lesson 8-9 二次元配列	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間

第6回	対面	第1章 Lesson 10-11 Pythonを用いたアルゴリズム実習（練習問題）	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第7回	対面	第2章 Lesson 1-2 疑似言語	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第8回	対面	第2章 Lesson 3-4 同じ計算を行う複数のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第9回	対面	第2章 Lesson 5-6 より効率のよいアルゴリズムとは？	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第10回	対面	第2章 Lesson 7-8 通算日数計算のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第11回	対面	第2章 Lesson 9-10 金種計算のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第12回	対面	第2章 Lesson 11-12 Pythonを用いたアルゴリズム実習2（練習問題）	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があれば	4 時間

			ばアンダーラインを引くなどしてチェックしておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレ ンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	
第13回	対面	第3章 Lesson 1-2 最大値のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について 講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレ ンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第14回	対面	第3章 Lesson 3-4 選択ソート、バブルソートのアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について 講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレ ンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第15回	オンデマンド	プログラミング課題実習(自作プログラムの提出)	【予習】Learning Portal でどのような内容について 講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておく とよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジした プログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレ ンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間

科目名	日本史概説 I	開講年度	2025
担当者	久米 高史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史(前近代史)の概論（原始・古代から近世後期まで）		
授業の目的及び概要	日本列島が誕生する原始時代から江戸時代後期までの日本史の概説講義を行います。各時代の基礎的事項と日本史全体の流れを理解することを目的とし、社会科教員にとって必須である基本的知識とその運用法を学修します。		
履修条件・留意点	特にありませんが、社会科教員を目指すという強い意志を持って受講してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（D P）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 原始・古代から近世中期までの日本史の基本的な流れを完全に理解し、それぞれの時代の特徴について説明できるようになる。 ・ 必須となる歴史用語についても、きちんと説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 毎講授業終了後にラーニングポータルより小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・ コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜(編)『概論 日本歴史』(吉川弘文館) 2000 年	ISBN	ISBN 9784642077101
参考書	特にありません。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し学習する教科ですが、大学入試までの基礎事項の暗記を中心とした学習とは異なり、大学では各時代の様々な現象を総合し、時代と時代のつながりを論理的に捉えることが重視されます。また世界史の中の日本史という観点も踏まえて、歴史の理解を現代社会に対する洞察力、理解力にフィードバックするという意識も持ち合わせてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修 (予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	・ 授業の概要・成績評価などについての説明。	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 旧石器時代から縄文時代にかけての日本と東ア	3 時間

		・テキストⅠ＝古代：第1章 古代国家の成立 1 原始の日本列島について	ジアについて 2 弥生時代の日本と東アジアについて	
第2回	対面	テキストⅠ＝古代：第1章 古代国家の成立 2 倭王権の伸長について 3 古代国家への歩みについて①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 倭王権から大和政権への展開について 2 大王権力の伸長と東アジアの動向について 3 推古朝の政治と外交について	3 時間
第3回	対面	テキストⅠ＝古代：第1章 古代国家の成立 3 古代国家への歩みについて 古代：第2章 律令国家の形成と展開 1 律令国家の形成について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 大化の改新と改新政治について 2 天智朝に至る過程と対外関係について	3 時間
第4回	対面	テキストⅠ＝古代：第2章 律令国家の形成と展開 1 律令国家の形成について②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 壬申の乱について 2 天武・持統朝における中央集権化について 3 律令国家の成立と律令政治について	3 時間
第5回	対面	テキストⅠ＝古代：第2章 律令国家の形成と展開 1 律令国家の形成について③ 2 律令国家の成熟と展開について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 聖武朝の政治と社会について 2 奈良朝政争史について	3 時間
第6回	対面	テキストⅠ＝古代：第2章 律令国家の形成と展開 2 律令国家の成熟について② 古代：第3章 摂関政治と地方社会 1 摂関政治の展開と外交・文化について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 平安京遷都に至る過程について 2 桓武～嵯峨朝の政治と藤原北家の台頭について 3 延喜・天曆の治について	3 時間
第7回	対面	テキストⅠ＝古代：第3章 摂関政治と地方社会 1 摂関政治の展開と外交・文化について② 2 地方支配の転換について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 摂関政治確立に至る過程とその政治について 2 土地制度史の変遷について	3 時間
第8回	対面	テキストⅠ＝古代：第3章 摂関政治と地方社会 3 武士と荘園について Ⅱ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 1 院政の成立と平氏の台頭について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 武士の台頭と院政の展開について 2 保元・平治の乱と平氏政権の誕生について	3 時間
第9回	対面	テキストⅡ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 1 院政の成立と平氏の台頭について② 2 武家政権の確立について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 平氏政権の展開～滅亡について 2 鎌倉幕府の成立について	3 時間

第10回	対面	テキストⅡ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 2 武家政権の確立について② 3 鎌倉後期の政治と社会について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 執権政治の成立とその展開について 2 得宗権力の確立と元寇について 3 農村社会の変容と御家人の窮乏について 4 鎌倉幕府の滅亡について	3 時間
第11回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代 1 南北朝の内乱について 2 室町時代の政治と社会について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 室町幕府の成立と南北朝の争乱の展開について 2 足利義満による南北朝の合一と幕府権力の強化について 3 日明勘合貿易について	3 時間
第12回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代 2 室町時代の政治と社会について② 3 中世後期のアジアと日本について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 惣村の展開と土一揆・国一揆 2 中世の琉球・朝鮮・蝦夷地と倭寇について	3 時間
第13回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代 4 戦国大名の時代について Ⅲ＝近世：第1章 幕藩体制の確立 1 織豊政権について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 応仁の乱から室町幕府の崩壊過程について 2 戦国大名と家臣団、戦国大名の領国経営について 3 織田信長の登場から豊臣秀吉による天下統一について	3 時間
第14回	対面	テキストⅢ＝近世：第1章 幕藩体制の確立 2 江戸幕府の成立と鎖国について 3 幕藩体制の確立について 4 元禄・享保の文化と幕政について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 豊臣政権の崩壊から徳川家康による江戸幕府成立に至る過程について 2 家康から家光に至る武断政治期の政治と外交について 3 元禄期の政治・経済・社会について 4 8代将軍吉宗による享保の改革について	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業により、以下の2点を講義します。 ①テキスト第3部・近世の第2章「幕藩体制の動揺と解体」の中から、田沼時代・寛政の改革・天保の改革を解説します。 ②これまでの14回の講義を振り返るとともに、期末試験への対策について解説します。 以上で全15回の講義といたします。	動画をしっかりと視聴し、必要な事項はレジュメに書き込むなどして理解を深め、試験対策を万全なものとしてください。	4 時間

科目名	日本史概説 I	開講年度	2025
担当者	宮田 昌明	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史全般の概論（前近代）		
授業の目的及び概要	縄文時代から江戸時代末までの概説。前近代の日本史について、各時代の基礎的事項と特色、全体的流れを理解することを目的とし、社会科教員にとって必要な基本的知識や今後の学習のための基礎力を身につける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	縄文時代から江戸時代までの基本的な日本史の用語を理解する。 各時代を特徴づける現象について、説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の進度に応じて中間課題を課し、その結果に応じて授業の復習、再解説を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	特に指定しない
参考書	佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖（編集）『詳説日本史研究』山川出版社、2017 年	ISBN	978-4634010734
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	20	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し受講する教科であるが、大学までの基礎事項の暗記を中心とした歴史と、各時代の様々な現象を総合し、また、時代と時代のつながりを論理的にとらえていく歴史は大きく異なる。社会に対する洞察力、理解力を高めていきたいという意識をもって、受講していただきたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の概要・成績評価などの説明。縄文時代と弥生時代の比較史的概説。	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 縄文時代が始まる要因と縄文時代の特徴 2 弥生時代への変化の要因	3.5 時間
第 2 回	対面	3～5 世紀の古墳時代における大和朝廷の成立と大陸との関係について	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 近畿に古代政権が誕生した背景 2 氏姓制度について	3.5 時間

第3回	対面	5～6世紀の国内政治と大陸との関係について	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 大化の改新後の中央と地方の関係（特に評の設置について） 2 8～9世紀の税制について	3.5時間
第4回	対面	奈良時代の内外関係と律令制について	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 白村江の戦いのもたらした日本への影響について 2 奈良時代から平安時代への変化の特徴について	3.5時間
第5回	対面	中間まとめ1	第1回から第4回までの4テーマについて、特に「事前事後学習」に明記した点を中心に復習しておくこと。	6時間
第6回	対面	平安初中期の中央・地方の統治機構	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 平安時代の政務のあり方 2 国司、名の成立、初期荘園について	3.5時間
第7回	対面	摂関政治、院政、荘園の拡大と武士の誕生	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 摂関政治、院政と寄進地系荘園について 2 源氏や平氏の勢力拡大	3.5時間
第8回	対面	鎌倉幕府の成立と在地領主	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 地頭や荘園をめぐる朝廷と幕府の関係 2 惣領制をめぐる幕府と御家人の関係	3.5時間
第9回	対面	室町幕府、守護大名と国人、惣村	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 守護大名の形成 2 国人と惣村の関係	3.5時間
第10回	対面	中間まとめ2	第6回から第9回までの4テーマについて、特に「事前事後学習」に明記した点を中心に復習しておくこと。	6時間
第11回	対面	戦国大名の形成と領国経営	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 戦国時代への変化に伴う幕府と守護、守護と国人の関係 2 戦国大名の領国統治	3.5時間
第12回	対面	全国統一と江戸幕府の成立	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 全国統一に向かう戦国末期の大名統治の変化 2 幕藩制下の幕府と大名の関係	3.5時間
第13回	対面	幕藩制と家制度	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 江戸時代の、家を媒介とする幕府と大名ないし大名と家臣の関係 2 江戸時代の農村自治	3.5時間
第14回	対面	江戸中後期の政治、経済、外交と幕末政局	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 18世紀以降の江戸幕府の経済政策 2 ペリー来航から大政奉還・王政復古に至る幕末政局の流れ	3.5時間
第15回	オンデマンド	まとめ3	第11回から第14回までの4テーマについて、特に「事前事後学習」に明記した点を中心に復習しておくこと。	6時間

科目名	日本史概説Ⅱ	開講年度	2025
担当者	久米 高史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史(近現代史)の概論（近世末期から 1990 年代まで）		
授業の目的及び概要	幕末開港期から 1990 年代までの日本史の概説講義を行います。各時代の基礎的事項と日本史全体の流れを理解することを目的とし、社会科教員にとって必須である基本的知識とその運用法を学修します。		
履修条件・留意点	特にありませんが、社会科教員を目指すという強い意志を持って受講してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・幕末開港期から 1990 年代までの日本史の基本的な流れを完全に理解し、それぞれの時代の特徴について説明できるようになる。 ・必須となる歴史用語についても、きちんと説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎講授業終了後にラーニングポータルより小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜(編)『概論 日本歴史』(吉川弘文館) 2000 年	ISBN	ISBN 9784642077101
参考書	特にありませんが、必要の場合は授業の中で提示します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し学習する教科ですが、大学入試までの基礎事項の暗記を中心とした学習とは異なり、大学では各時代の様々な現象を総合し、時代と時代のつながりを論理的に捉えることが重視されます。また世界史の中の日本史という観点も踏まえて、歴史の理解を現代社会に対する洞察力、理解力にフィードバックするという意識も持ち合わせてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	・授業の全体像や成績評価の基準などに	以下の点について、特に理解を深めておくこと。	3 時間

		ついて。 ・テキストⅢ＝近世：第2章 幕藩体制の動揺と解体 3 開国と幕藩体崩壊崩壊について	1 なぜ日本は開国しなければならなかったのかについて 2 開国による貿易の開始は、日本の社会と政治にどのような影響を及ぼしたのかについて	
第2回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 1 明治政府の成立について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 版籍奉還や廃藩置県など明治初年度の政治改革の内容とその影響について 2 地租改正や新貨条例など明治初年度の経済改革の内容とその影響について	3 時間
第3回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 1 明治政府の成立について②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 岩倉遣外使節に始まる明治前期の初期外交について 2 学制、徴兵令などの欧米流の近代的制度の導入とその影響について	3 時間
第4回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 2 自由民権運動と政党について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 自由民権運動の展開から政党の結成に至るまでの過程について 2 大隈財政と明治十四年の政変について	3 時間
第5回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 2 自由民権運動と政党について②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 松方デフレと激化事件について 2 松方財政とその後の企業勃興、さらに 1890 年恐慌について	3 時間
第6回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 3 帝国憲法と初期議会について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 大日本帝国憲法成立に至るまでの過程について 2 初期議会の動向について	3 時間
第7回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 3 帝国憲法と初期議会について②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 明治初期の日清関係・日朝関係について 2 日清戦争開戦に至るまで経緯について	3 時間
第8回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の発展と社会運動 1 立憲政友会の成立と日清戦後の社会について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 初の植民地獲得と三国干渉について 2 日清戦後経営について 3 第一次大隈内閣の崩壊から立憲政友会の結成・旧自由党系の合流について	3 時間
第9回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の発展と社会運動 1 立憲政友会の成立と日清戦後の社会について② 2 大正政変前後について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 日清戦争後の社会運動について 2 桂園時代とはどのような時代であったかについて 2 韓国併合に至る過程について	3 時間
第10回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の発展と社会運動 2 大正政変前後について② 3 普選・治安維持法体制の成立について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 大正政変に至る過程について 2 シーメンス事件について 3 第一次世界大戦下の日本の政治・外交について 4 大戦景気とはどのようなものであったかについて 5 米騒動と社会運動の発展について 6 原敬内閣の誕生からワシントン体制に至る過程について	3 時間
第11回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の発展と社会運動 3 普選・治安維持法体制の成立につ	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 戦後恐慌と震災恐慌について 2 護憲三派内閣の誕生と普通選挙法・治安維持法の成立過程について	3 時間

		いて② 第3章 アジア太平洋戦争 1 恐慌の時代 と政党内閣制 2 協調外交から積極外交へについて①	3 憲政会内閣から立憲政友会の田中義一内閣への政治動向について 4 3の原因である対欧米・対中国の外交方針について	
第12回	対面	・テキストⅣ＝近代：第3章 アジア太平洋戦争 1 恐慌の時代 と政党内閣制 2 協調外交から積極外交へについて② 3 軍部の台頭について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 1920年代の一連の恐慌と金解禁について 2 世界恐慌・昭和恐慌と日本の農村について 3 憲政会内閣から立憲政友会の田中義一内閣への政治動向について 4 ロンドン海軍軍縮条約と協調外交の終わりについて 5 満州事変から満州国建国に至る過程について 6 高橋財政について	3時間
第13回	対面	・テキストⅣ＝近代：第3章 アジア太平洋戦争 4 二・二六事件 と近衛新体制運動 5 日中戦争からアジア太平洋戦争へについて V＝現代：第1章 戦後改革について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 二・二六事件から日中戦争に至る過程について 2 日本の南進と対米英蘭開戦について 3 戦局の悪化と敗戦について 4 敗戦直後の極度のインフレと金融緊急措置令について 5 GHQによる農地改革と財閥解体	3時間
第14回	対面	・テキストⅤ＝現代：第1章 戦後改革について② 第2章 復興と高度経済成長について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 敗戦後の政党政治の復活について 2 アメリカの占領政策の転換について 3 朝鮮戦争と講和に続く高度経済成長の開始について 4 高度経済成長の実態について	3時間
第15回	オンデマンド	☆オンデマンドで講義を行います。 ・テキストⅤ＝現代：第2章 復興と高度経済成長について② 第3章 現代の世界と日本について ・これまでの授業の振り返りを行うとともに、レポート試験についての雛形をオンデマンド形式で解説します。	動画の講義をレジュメを参照しながら視聴し、視聴後はポイントをレジュメに書き込むなどして、試験準備を行ってください。	3時間

科目名	日本史概説Ⅱ	開講年度	2025
担当者	宮田 昌明	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史の通史（近代史）		
授業の目的及び概要	明治維新から 1970 年代までの日本政治史および外交史を中心とした概説。近代日本の内外情勢の推移を相互に関連付けながら理解することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	明治時代から 1970 年代までの基本的な日本史の用語を理解する。 各時代の重大事件の原因やその後の影響などについて、説明できるようになる。また、現代につながる日本の法制度の形成過程について理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間課題を課し、その結果に応じて、授業の復習、再解説を行う予定。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	特に指定しない。
参考書	宮田昌明『満洲事変』PHP 研究所、2019 年	ISBN	978-4569842950
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	20	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し受講する教科であるが、大学までの基礎事項の暗記を中心とした歴史と、各時代の様々な現象を総合し、また、時代と時代のつながりを論理的にとらえていく歴史は大きく異なる。社会に対する洞察力、理解力を高めていきたいという意識をもって、受講していただきたい。 近現代史については、高校までの日本史では不十分なことが多い一方で、現代社会を理解するうえで必要な知識も多い。現代の政治、法律、社会に直接つながる歴史として、興味をもって講義に臨んでほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の全体像や成績評価の基準などについて／近代国家の形成（廃藩置県～明治憲法の制定） 1	江戸時代の統治システム（幕藩体制）について、理解を確認しておくこと。	4 時間

第2回	対面	近代国家の形成（廃藩置県～明治憲法の制定）2	廃藩置県の背景とその後の改革について、以下の点を踏まえて、理解を深めておくこと。 1 中央集権化の過程と中央の合議機関の形成 2 近代的な地方制度の形成	4 時間
第3回	対面	近代国家の形成（廃藩置県～明治憲法の制定）3	内閣制度の創設から憲法制定、初期議会の時期の政治史の流れについて、以下の点を踏まえて、理解を深めておくこと。 1 中央集権化の過程と中央の合議機関の形成 2 近代的な地方制度の形成	4 時間
第4回	対面	日清・日露戦争、韓国併合 1	近代外交のはじまりと明治初中期の日清・日朝関係、日清戦争開戦の原因について、理解を深めておくこと。	4 時間
第5回	対面	日清・日露戦争、韓国併合 2	日露戦争開戦の背景と韓国併合の経緯について、理解を深めておくこと。	4 時間
第6回	対面	20 世紀前半の政治、経済・社会政策 1	帝国憲法の下での政治のあり方と政党内閣の成立について、理解を深めておくこと。	4 時間
第7回	対面	20 世紀前半の政治、経済・社会政策 2	1920 年代の経済・社会政策および 1930 年代の政治・経済政策について、理解を深めておくこと。	4 時間
第8回	対面	日露戦後、1920 年代の日本外交と満州事変 1	日露戦後～1920 年代の日本外交について理解を深めておくこと。	4 時間
第9回	対面	日露戦後、1920 年代の日本外交と満州事変 2	戦前期の政軍関係と満州事変の背景について理解を深めておくこと。	4 時間
第10回	対面	日中戦争から太平洋戦争へ 1	日中戦争勃発の背景について理解を深めておくこと。	4 時間
第11回	対面	日中戦争から太平洋戦争へ 2	日中戦争の長期化から太平洋戦争の勃発までの流れについて理解を深めておくこと。	4 時間
第12回	対面	太平洋戦争の展開 1	太平洋戦争の全体経過について理解を深めておくこと。	4 時間
第13回	対面	太平洋戦争の展開 2	沖縄戦や特攻、太平洋戦争に終戦過程、東南アジア戦線の状況について理解を深めておくこと。	4 時間
第14回	対面	戦後世界秩序・アジア情勢と日本 1	終戦後、自由民主党が成立するまでの政治史の流れについて理解を深めておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	戦後世界秩序・アジア情勢と日本 2	1950 年代後半から 1970 年代はじめ頃までの世界情勢と日本情勢について理解を深めておくこと。	4 時間

科目名	外国史 I	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	近世イギリスの歴史的な展開を理解する。		
授業の目的及び概要	本講義は、近代への過渡期となる近世イギリスの歴史的展開を、研究史上の論争にも留意しつつ学ぶことで、一面的な歴史理解ではなく、物事を多面的に捉える歴史学の基本的な視座の養成に努めるものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、近世から近代へと至るイギリスの歴史的展開を学び、その基礎的な知識を得ることで、近代という時代の特徴や成り立ちを説明できるようになる。 第二に、一面的な歴史理解ではなく、近世・近代イギリス史に関する研究史上の論争にも留意することで、歴史的なものの見方や、バランスのとれた批判的精神を涵養する。 第三に、授業の内容を明瞭かつ論理的にまとめる能力、多様な史資料・図像を分析する能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後にレスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。	ISBN	なし
参考書	①論点・西洋史学、金澤周作監修、ミネルヴァ書房、2020 年 ②よくわかるイギリス近現代史、君塚直隆編、ミネルヴァ書房、2018 年	ISBN	①9784623087792 ②9784623083183
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は教職科目ともなっています。将来、中学校や高等学校などの教員として歴史教育にたずさわる可能性もあることを自覚して講義に臨んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	【ガイダンス、異文化としての近世イングランド】 どのように授業を進めていくかを説明するとともに、現在の私たちの世界観や価値観とは大きな隔たりがある近世社会の歴史を学ぶためのガイダンスを行う。	【予習】高校までの世界史の教科書などを振り返っておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、近世社会の歴史を学ぶ上で必要な世界観についての理解を深める。	4 時間
第2回	対面	【イングランドの宗教改革①】 イングランドの宗教改革の概説を理解する。	【予習】参考書②8-11 頁を事前に読んでおく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第3回	対面	【イングランドの宗教改革②】 イングランド宗教改革に関する研究の変遷と論争を理解する。これによって、複数の異なる歴史観が存在することを理解し、多角的な物事の見方を身につける。	【予習】前回のレジュメをよく読んで、イングランド宗教改革の概説を確認しておく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第4回	対面	【初期スチュアート朝の財政問題】 チューダー朝以来の財政構造が破綻していたこと、チャールズ1世期にはその改革が試みられるも頓挫し、内戦／革命へと至る問題が準備されたことを学ぶ。	【予習】参考書①148-149 頁、参考書②16-17 頁を事前に読んでおく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第5回	対面	【内戦、三王国戦争、革命？】 かつて「ピューリタン革命」と呼ばれることが一般的であった17世紀半ばの政治的な大変動をめぐる研究史を題材に、複数の異なる歴史観が存在することを理解し、多角的な物事の見方を身につける。	【予習】参考書①170-171 頁、参考書②17-21 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第6回	対面	【近世イングランドの貧困対策】 近世イングランドにおいて、貧困が社会問題として認識されるようになり、それへの対策が模索されたことを学ぶ。	【予習】貧困とは何か、自分なりに考えを整理してきてください。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第7回	対面	【ウィンスタンリと近世イングランドの入会地／権】 入会地（commons and wastes）を利用することで貧民の窮状を救おうとしたウィンスタンリについて学ぶ。	【予習】辞典や英語辞書などを用いて commons や wastes、入会地や入会権の意味を調べておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。第8回の授業時に行う中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけておくこと。	5 時間
第8回	対面	【中間テスト】 第1回～第7回の授業範囲で中間テストを行う。 【1665年のペスト大流行】 1665年のロンドンにおけるペスト大流行を題材として、前近代の社会と現代社会の相違について考えを深める。	【予習】新型コロナウイルスに翻弄され続けてきた2020年以降の現代世界の状況を振り返っておくこと。第7回の授業時に中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	5 時間
第9回	対面	【1666年のロンドン大火】 1666年のロンドン大火を事例に、災害後の都市復興や都市の水事情について理解を深める。	【予習】参考書②24-25 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第10回	対面	【王位継承排除危機と名誉革命】 「長い18世紀」のイギリスにおける統治体制を決定づけることとなる名誉革命に対する理解を深める。	【予習】参考書②28-33 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第11回	対面	【「投資社会」の拡大と南海泡沫事件】	【予習】参考書②44-45 頁を事前によく読んでおく	4 時間

		18 世紀におけるイギリスの金融市場の拡大について学ぶ。	こと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	
第12回	対面	【都市の消費文化】 18世紀イギリスにおける都市化の進展と、それにともなう消費文化の発展について学ぶ。	【予習】参考書①202－203 頁、参考書②58－59 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第13回	対面	【風刺画から見る 18 世紀のイギリス社会】 ウィリアム・ホーガースとジェームズ・ギルレイの風刺画から 18 世紀イギリス社会を学ぶ。	【予習】第 12 回のレジュメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第14回	対面	【民衆の政治文化】 民衆の政治文化、「モラル・エコノミー」という観点から 18 世紀イギリスにおける食糧暴動について理解する。	【予習】参考書①196－197 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第15回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括する動画教材をオンデマンドで配信する。	【予習】これまでのレジュメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	5 時間

科目名	外国史Ⅱ	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	イギリスを中心にして、16－20 世紀にいたるまでの世界の歴史的な展開を学ぶことで、現代社会の成り立ちについての理解を深める。		
授業の目的及び概要	本講義では、現在の私たちの生活や価値観にも大きな影響を及ぼしている近代イギリスの歴史的展開を概説する。その際に、イギリスが世界各地に植民地を有し、また自由貿易体制を世界規模で拡大しようとしたことに着目することで、現代世界の成り立ちについての理解を深めていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、世界各地に植民地を拡大し、やがて大英帝国を築き上げていったイギリスの歴史を通して、西洋近代の世界規模での影響を検討することで、現代社会の成り立ちについての理解を深める。第二に、一つの歴史的な事柄に対する多様な研究のあり方を紹介することで物事を多角的かつ批判的にとらえる歴史的な思考を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後にレスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。	ISBN	なし
参考書	①論点・西洋史学、金澤周作監修、ミネルヴァ書房、2020 年 ②よくわかるイギリス近現代史、君塚直隆編、ミネルヴァ書房、2018 年	ISBN	①9784623087792 ②9784623083183
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は教職科目ともなっています。将来、中学校や高等学校などの教員として歴史教育にたずさわる可能性もあることを自覚して講義に臨んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	【ガイダンス、近代の西洋について学ぶことの意味】 どのように授業を進めていくかを説明するとともに、近代西洋の歴史を学ぶことの意義について自分なりに考えていくためのガイダンスを行います。	【予習】参考書①の i－vi 頁を読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、近代西洋の歴史を学ぶ上で必要な準備をする。	4 時間
第2回	対面	【覇権をめぐる闘争①：ポルトガル、スペイン】 ポルトガルとスペインがヨーロッパの外へと拡張をはじめていく要因と過程を学びます。	【予習】参考書①の 126－131 頁、194－195 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第3回	対面	【覇権をめぐる闘争②：オランダ】 オランダが近代世界システムにおける覇権を掌握していく過程を学びます。	【予習】参考書①の 134－137、194－195 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第4回	対面	【覇権をめぐる闘争③：イギリス】 近代世界システムにおける覇権がオランダからイギリスへと移っていく過程を学びます。	【予習】参考書①の 178－179 頁と、参考書②48－51、56－57 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第5回	対面	【イギリスによる環大西洋経済圏の確立】 環大西洋世界における優位を築いたイギリスが、大西洋奴隷貿易を土台として環大西洋経済圏を確立していった過程を学びます。	【予習】事前に参考書①の 192－193 頁と、第4回のレジメをよく読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第6回	対面	【奴隷貿易および奴隷制の廃止】 イギリスが奴隷貿易および奴隷制を廃止していく過程を、人道主義的な観点と経済的な観点から学びます。	【予習】第5回のレジメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第7回	対面	【産業革命と生活水準論争】 イギリスにおける産業革命についての理解を深めるとともに、経済や社会の変動が人びとの生活にもたらした変化を学びます。	【予習】参考書①188－194 頁、参考書②52－53 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。第8回の授業時に行う中間テストに向けてポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけること。	5 時間
第8回	対面	【中間テスト】 第1回～第7回の授業範囲で中間テストを行う。 【清朝と大英帝国】 清朝に対して自由貿易を求め、アヘン戦争などの武力衝突に至った歴史事象から、イギリス帝国についての理解を深めます。	【予習】参考書②62－65 頁を事前によく読んでおくこと。第7回の授業時に中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけてくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	5 時間
第9回	対面	【奴隷制廃止と国際労働市場の変容】 前半で奴隷制が廃止された後の奴隷たちの処遇を、後半で奴隷にかわる労働力について、中国人移民労働者を事例に学びます。	【予習】第5－6回のレジメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第10回	対面	【帝国主義の時代】 イギリスを帝国主義的な政策を題材にし、帝国主義の時代についての理解を深めます。また、日本における帝国主義研究の変遷についても学びます。	【予習】参考書①230－231 頁、240－243 頁、参考書②84－85 頁、90－91 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第11回	対面	【イギリス帝国の危機：自由貿易か保護貿易か】	【予習】第8回、第10回のレジメを読んで、内容を整理しておくこと。	4 時間

		19 世紀末イギリスの経済的、軍事的な地位低下への危機感から生じた自由貿易政策の再検討について学ぶことで、イギリス帝国と近現代世界の歴史に関する理解を深めます。	【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	
第12回	対面	【ヘゲモニー国家が提供する国際公共財】 19世紀末以降のイギリスにおいて経済的・軍事的な地位低下への危機感が見られた一方で、世界経済のフレームワークやインフラの構築を通してイギリスが依然として世界規模で多大な影響力を維持し続けたことを学びます。	【予習】第8回、第10回、第11回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第13回	対面	【イギリス帝国内の移民】 駒形丸事件を中心に近現代イギリスにおける移民について学びます。	【予習】第8回、第10回、第11回、第12回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第14回	対面	【現代イギリスの多文化・多民族・多宗教】 世界の各地に植民地を有した帝国という歴史が、現代イギリスの多文化・多民族・多宗教的な状況を作りだしていることを学び、近現代の歴史と現代社会との結びつきについての理解を深めます。	【予習】第8回、第10回、第11回、第12回、第13回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第15回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括する動画教材をオンデマンドで配信します。	【予習】これまでのレジュメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	4 時間

科目名	人文地理学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	岡田 良平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	人文地理学の基本的な見方・考え方		
授業の目的及び概要	この授業は、中学校の社会科、高校の地理歴史科の科目である「地理」を教えるに際して不可欠な人文地理学の基本的な見方について、具体的なトピックの紹介を通じて学びます。現在、高校では「地理総合」が必修化されました。それをふまえてこの授業では高校地理の内容にも立ち返りながら進めます。春学期では、文化地理学、言語地理学、社会地理学、都市地理学、経済地理学、地理教育学について学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を受講することによって学生は、以下の能力を身につけることができます。 １．人文地理学の基本的な見方・考え方を身につけることができる。 ２．事象を通して地域に関する具体的なトピックを提示することによって、授業で取り上げられている内容が日常の社会生活に密着していることを認識することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E-mail やディスカッションで適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	成績については以下に沿って評価をします。 ①各回では小テストを実施しています。小テストは評価の 30％です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 10 回以上の回答がない場合（6 回以上回答していない）は、レポート提出やまとめの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第 15 回の学修後は学修のまとめテストを行います。このテストは評価の 40％です。テストを受験していない場合は、10 回以上の小テストの受験、レポート提出があっても単位取得ができません。		

	③レポート提出は所定の形式に従って期日内に提出します。レポートは評価の30%です。レポートを提出していない場合は、10回以上の小テスト、まとめテストの受験があっても単位取得ができません。 全15回授業のうち、10回以上の小テストの回答、まとめテストの受験とその点数、レポートの提出と内容の3点を満たした上で評価を行います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 人文地理学 人文地理学の基本的な見方・考え方について学修します。文化地理学、言語地理学、社会地理学、都市地理学、経済地理学、地理教育学について学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通じて見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第2回	オンデマンド	文化地理学：麺の文化地理と地誌 私たちの生活で麺類は切っても切り離せません。うどん、そば、パスタ、ラーメン、焼きそばなど調理方法まで含めれば、多種多様です。これらの麺文化の背景には小麦など穀物の生産が欠かせません。講義では、中国を中心に東アジア、東南アジアへと麺文化が波及していった麺文化の系統性や文化史を通して、東アジアや東南アジア全体における文化地理学的視点から麺と地域性について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第3回	オンデマンド	文化地理学：魚醤・発酵の分布圏—東南アジア・東アジアの食文化— 東南アジアから東アジア地域の発酵食品、とりわけ魚醤と地域性について考察します。日本の食生活では魚醤と言われてもピンとこないかもしれません。調味料として有名なのはナンプラーです。しかし、そのルーツ、製造過程を見ていくと東南アジアから東アジアにかけて広がる「魚醤文化圏」が見えてきます。麺の文化地理学は中国を中心とした広がりでしたが、東南アジアを中心とした東アジアにわたる河川や海洋圏での広がりとして考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第4回	オンデマンド	文化地理学：ご当地グルメの背景と味覚の境界線 現在ではメディアの影響、コンビニやECの発達によって気軽にご当地グルメを味わえるようになりました。特に「B級グルメ」は、複数の書籍・SNSでの情報もあり、観光資源となっている場合もあります。しかし、実際にはそれだけではなく、家庭料理での材料や味付けの違いといったものまであります。学修では、いくつかのご当地グルメを事例に、それらの地域の自然環境や歴史的な背景、地域差等について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んで復習すること。	4時間

第5回	オンデマンド	言語地理学：方言と地域性 一般的な感覚では、方言は国語の分野での研究となります。しかし、地理学や地誌学ではこうした他分野の領域も地域性を表すテーマとして取り上げることができます。明治時代以降、近代国家の建設において統一した教育政策は最重要課題のひとつでした。現代では、方言は地域の独自性やアイデンティティを示すものとして認識され、地域のまちおこしや観光資源の重要なコンテンツとして認識されています。学修では、方言圏論や方言の位置付けの変化、まちおこしの事例紹介、方言や言葉、地域そのものに対する人々のまなざしの変容について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第6回	オンデマンド	言語地理学：大阪の方言に見る地域差 私たちが日常的に使っている話し言葉には方言が含まれています。特に「関西弁」は全国的に有名です。学修では、大阪を事例にしながら大阪の各地で使われている方言の特徴や違いについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第7回	オンデマンド	農村地理学：農村社会の地理学 現代の日本の農村では人口減少・少子高齢化の傾向が著しいです。学修では、戦後の農村社会の変容や農業の変貌について概観し、現在の農村問題や農村政策について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第8回	オンデマンド	漁業地理学：漁業と地理学 日本は周辺を海に囲まれ、河川や湖も多数ある地理的環境から漁業が非常に盛んでした。しかし、第二次世界大戦以降、食文化の変化に伴って、水産物や水産加工物の消費量が激減しています。学修では、日本の漁業を取り巻く現状と大阪府の深日（ふけ）漁業協同組合の取り組みについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	社会地理学：環境循環社会：ラオスの農村社会を事例に ラオスは文化圏として世界で唯一のモチ米を主食とする文化圏です。また、昆虫食などが文化的に根付いた地域でもあります。ラオスの農村社会を事例に自然環境と人との環境循環型社会の在り方について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第10回	オンデマンド	地理教育学：地理的学習の重要性と地理総合に向けて 高校で「地理総合」が必修化されました。今後、地歴科の教員になるためには地理の指導が重要になってきます。残念ながら、現状では高校では地理の指導ができる教員は十分ではなく、地理総合必修化には大きな課題が残されています。学修では、小学校から高校までの地理的な学習を系統的に考察し、各段階における課題について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第11回	オンデマンド	経済地理学：教育問題と地理学 家計に占める一人当たりの教育費は年々、	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

		増加しています。少子化による学区の統廃合、無計画な開発による特定の地域や地区の学校のマンモス校化、幼少期からの有名な学校への「お受験」等、教育問題は単なる学校や教育委員会における問題ではなく、地域の社会経済的な課題として認識しなければなりません。学修では、いくつかの地域を事例に学校の統廃合や学区制度における課題について考察します。		
第12回	オンデマンド	経済地理学：地域資源とまちづくり 現在、多くの自治体が人口減少・少子高齢化という課題を抱え、地域資源を活用したまちづくりを実施しています。また、近年では地域活性化に関する関心も高く、大学生でも人気の学修や進路先として位置付けられています。学修では、いくつかの自治体の事例を考察し、地域資源の活用に関する成果と課題について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4時間
第13回	オンデマンド	都市地理学：日本の都市問題 日本は人口減少という課題に直面する一方で、東京・大阪・名古屋の三代都市圏では過密という課題があります。他方、地方の都市部では中心市街地の空洞化、ドーナツ化という課題があります。学修では、基本的な都市問題について事例を挙げながら考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4時間
第14回	オンデマンド	都市地理学：都市とプロ野球 日本では、三大都市圏を中心に都市部にプロ野球チームが本拠地を置いています。日本では明治時代以降、学校や企業がシンボルとして「野球」を位置付け、その後、職業野球（プロ野球）として人気を博してきました。いわば、プロ野球は都市文化のひとつとして位置付けることができます。プロ野球の球団史からみえる地域性や社会経済の発展について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	人文地理学とは：学修のまとめ・レポートについて 前期の学修についてふり振り返りながら、人文地理学における見方・考え方を総括します。また、まとめのテストやレポートについても解説を行います。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4時間

科目名	人文地理学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	岡田 良平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	人文地理学の基本的な見方・考え方		
授業の目的及び概要	この授業は、中学校の社会科、高校の地理歴史科の科目である「地理」を教えるに際して不可欠な人文地理学の基本的な見方について、具体的なトピックの紹介を通じて学びます。現在、高校では「地理総合」が必修化されました。それをふまえてこの授業では高校地理の内容にも立ち返りながら進めます。秋学期では、工業地理学、農業地理学、観光地理学、交通地理学、地図の活用、歴史地理学、地図学、風土と風景論、空間論、ライフヒストリーについて学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を受講することによって学生は、以下の能力を身につけることができます。 1. 人文地理学の基本的な見方・考え方を身につけることができる。 2. 事象を通して地域に関する具体的なトピックを提示することによって、授業で取り上げられている内容が日常の社会生活に密着していることを認識することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E-mail で適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	成績については以下に沿って評価をします。 ①各回では小テストを実施しています。小テストは評価の 30％です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 10 回以上の回答がない場合（6 回以上回答していない）は、レポート提出やまとめの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第 15 回の学修後は学修のまとめテストを行います。このテストは評価の 40％です。テストを受験していない場合は、10 回以上の小テストの受験、レポート提出があっても単位取得がで		

	きません。 ③レポート提出は所定の形式に従って期日内に提出します。レポートは評価の30%です。レポートを提出していない場合は、10回以上の小テスト、まとめテストの受験があっても単位取得ができません。 全15回授業のうち、10回以上の小テストの回答、まとめテストの受験とその点数、レポートの提出と内容の3点を満たした上で評価を行います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 人文地理学 人文地理学の基本的な見方・考え方について学修します。工業地理学、農業地理学、観光地理学、交通地理学、歴史地理学、地図学、風景論・空間論について学びます。 この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第2回	オンデマンド	工業地理学：日本・ヨーロッパ・アメリカの諸地域における工業地帯の変化 国家の近代化において「工業」は非常に重要です。工場が集積することで、そこに労働者が集まり、その労働者が飲食や居住するためのまちが形成されます。このように工業は都市化と密接に関係しています。学修では、日本・ヨーロッパ・アメリカの工業地帯の変遷について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第3回	オンデマンド	工業地理学：日本における工業の変化 日本の工業の特色と工業の変化に自動車産業を事例として考察しながら学修を深めます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第4回	オンデマンド	地図学：世界の地図の歴史 地図にはその時代の世界観が表現されます。学修では、いくつかの国の地図の歴史について概観し、時代とともにそれぞれの国の人々がどのように異文化の世界を見てきたのか、考えていたのかについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第5回	オンデマンド	地図学：ヨーロッパから見た異世界 地図にはその時代の世界観が表現されます。学修では、中世のヨーロッパの人たちが作成した地図を中心に、誤った情報、思い込み、そうあってほしいと思う願望などから作られた地図について考察をします。 言い換えれば、非科学的、うその地図ともいえるでしょうが、当時としてはそれが最新の情報でもありました。こうした時代を経て、近代地理学が誕生します。時代とともにそれぞれの国の人々がどのように異文化の世界を見てきたのか、考えていたのかについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第6回	オンデ	観光地理学：観光学の定義と観光地の課題	予習：不要	4時間

	マンド	観光は人がその地を訪れることによって成立する産業です。また、旅行者は訪問した土地ならではの楽しみ方を求めています。そのため他の産業とは違い、観光産業はその地域の第一次、第二次・第三次産業の全てに波及することから経済効果が高く、どの国や地域でも観光政策に力を入れています。学修では、観光学の基本的な考え方やその課題について学び、いくつかの事例を紹介しながら地理的なアプローチによる観光について考察します。	復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	
第7回	オンデマンド	観光地理学：沖縄を事例に 沖縄県はその立地的な特性から長年、日本本土から多くの観光客の「目的地」として観光産業が発展してきました。しかし、近年は、東アジアや東南アジアから「近くて安いリゾート地」として認識されています。また、「目的地」であった立場から、ハブ空港としての機能を強化し、中継地としての機能もあります。学修では沖縄の観光産業について考察します。	予習：不要 復習：スライドにも示すが、各自で「今昔 map on the web」「Google map」のサイトを使って、任意の場所の従前の土地利用についても調べておくとい。	4 時間
第8回	オンデマンド	環境地理学 地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会の実現について学修を深めます。近年、SDGs（持続可能な社会）の概念が広く一般に知られるようになり、環境問題への関心がとても高まっています。身近な環境問題を考えるだけでなく、世界規模、地球規模での環境問題について学修を深めることで、より環境に対する理解を深めます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	歴史地理学 アメリカの産業とメジャーリーグ スポーツ大国アメリカという側面からメジャーリーグを事例に、地理的な考察を行う。チーム名や本拠地とするスタジアム、フランチャイズにしている都市との関係など、アメリカの国技であるベースボールから都市の産業の盛衰・人口移動の歴史から地域性について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。また、スライドにも示すが、各自で「今昔 map on the web」「Google map」のサイトを使って、任意の場所の従前の土地利用についても調べておくとい。	4 時間
第10回	オンデマンド	歴史地理学：城郭と城下町 日本には複数の城下町が存在しています。こうした城下町では城郭を設計する段階で、城下町の都市計画も並行して考えられています。今昔マップも活用しながら複数の城下町の都市計画や特徴について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。また、スライドにも示すが、各自で「今昔 map on the web」「Google map」のサイトを使って、任意の場所の従前の土地利用についても調べておくとい。	4 時間
第11回	オンデマンド	歴史地理学 「風土をいかに読み解くか～なぜ秀吉は伏見に城を築いたのか～」 歴史地理学的な視点から風土に関する学修を深めます。なぜ豊臣秀吉が伏見に城を築いたのかという観点から、交通・産業について地理的特徴から考察を行います。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第12回	オンデマンド	歴史地理学：ならまち・岸和田市・貝塚市の歴史地理 事例としてならまち、岸和田市、貝塚市を取り上げます。特定の地域の地誌を事例と	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間

		して取り上げ、古代から現代まで考察します。学修を通して、地理的な見方・考え方の実践例として捉え、自身の興味・関心のある地域での調査等に役立てるようにしましょう。		
第13回	オンデマンド	交通地理学：交通機関の発達と時間利用の変化 交通機関の発達は地域の様相やつながりを大きく変化させます。学修では、道路、鉄道、空路、水上輸送に関する事例から交通機関の発展と衰退によって、産業がどのように変化していったのかについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第14回	オンデマンド	空間論・風景論 地理学は空間を扱う研究領域です。同じ家庭・地域に住んでいても個人によって空間認識は異なります。また、同一人物であっても生活環境や年齢の違いによって空間認識は変化していきます。学修では、住環境や生活空間の変化とその背景、日常生活における空間や風景の見方・考え方についても考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第15回	オンデマンド	人文地理学とは：学修のまとめ・レポートについて 前期の学修についてふり振り返りながら、人文地理学における見方・考え方を総括します。また、まとめのテストやレポートについても解説を行います。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間

科目名	自然地理学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	目代 邦康	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	気候・水文現象に関する基本的な科学的理解とそれらと人との関係		
授業の目的及び概要	気候現象や水文現象とは何か、どのような要素から成り立ち、どのような歴史的変化をたどってきたのか。そして、気候現象や水文現象が他の自然現象（地形や植生）や人間生活にどのように影響を与えているのか（生活・文化、災害）など、水圏・気圏に関わる自然地理学的内容の基礎から応用まで解説する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地球における気候・水文現象について、それらを地理学的に捉え、理解でき、説明することができる。また、気候・水文現象と人間生活との関係を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	質問があれば、メールで送ってください。それについて翌回あるいは翌々回の授業で回答します。授業後の課題レポートについて、翌回あるいは翌々回の授業で講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	地理学基礎シリーズ2 自然地理学概論，高橋日出男・小泉武栄，朝倉書店，2008 年	ISBN	9784254168174
参考書	学んでみると気候学は面白い，日下博幸，ベレ出版，2013 年	ISBN	978-4860643621
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス：授業の計画、進め方、留意事項などの説明	授業前に、自然地理学、気候学、水文学とはどのような学問なのかをテキストを読んで大枠を把握する。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	2.5 時間
第2回	オンデ	気候要素（気温・降水）	授業前に、テキスト2章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4 時間

	マンド			
第3回	オンデマンド	気候要素（気圧・湿度）	授業前に、テキスト3章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第4回	オンデマンド	熱収支と大気大循環	授業前に、テキスト4章1～4を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第5回	オンデマンド	気候区分	授業前に、テキスト3章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第6回	オンデマンド	モンスーン	授業前に、テキスト4章5を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第7回	オンデマンド	都市気候	授業前に、テキスト5章1を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第8回	オンデマンド	地域スケールの気候	授業前に、テキスト5章2, 3を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第9回	オンデマンド	日本の気候	授業前に、テキスト6章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第10回	オンデマンド	気候変動	授業前に、テキスト7章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第11回	オンデマンド	地球温暖化	授業前に、テキスト15章1を読んでおく。 授業後に、気候変動に関する課題レポートを行い、期日までに提出する。	4時間
第12回	オンデマンド	水の循環・水資源	授業前に、テキスト13章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第13回	オンデマンド	気象災害	授業前に、テキスト14章3を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第14回	オンデマンド	地球規模の環境問題	授業前に、テキスト15章2, 3を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第15回	オンデマンド	この授業のまとめ	授業前に、これまでのノートを見直し、分からなかったところをまとめておく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	5.5時間

科目名	自然地理学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	目代 邦康	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	地形や土壌・植生に関する基本的な科学的知識ならびにそれらと人との関係についての理解		
授業の目的及び概要	地形やそれを構成する土壌や地質，またその上に成立する植生とは何か，どのような要素から成り立ち，どのような歴史的変化をたどってきたのか．そして，地形や土壌，植生が人間生活にどのように影響を与えているのか（生活・文化，災害）など，地圏・生物圏に関わる自然地理学的内容の基礎から応用まで解説する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地球における地形・土壌・植生について，それらを物質収支と歴史的側面から捉え，説明することができる。また，地形・土壌・植生といった自然現象と人間生活との関係を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	質問があれば，メールで送ってください。それについて翌回あるいは翌々回の授業で回答します。授業後の課題レポートについては，翌回あるいは翌々回の授業で講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	地形のきほん，目代邦康・笹岡美穂，誠文堂新光社，2025 年	ISBN	9784416723715
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	ガイダンス：授業の計画，進め方，留意事項などの説明	授業前に，身の回りにある地形，土壌，植生について，中学，高校までの学習内容を思い出し，整理しておく。 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する。	2.5 時間

第2回	オンデマンド	世界と日本の大地形	授業前に、テキスト Chapter1 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第3回	オンデマンド	日本列島の地質と地形	授業前に、テキスト Chapter2, 4 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第4回	オンデマンド	第四紀と氷河時代	授業前に、テキスト Chapter 1「気候変化と地形」を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第5回	オンデマンド	斜面地形と斜面プロセス	授業前に、テキスト Chapter 2 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第6回	オンデマンド	変動地形	授業前に、Chapter 2「活断層がつくる地形」を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第7回	オンデマンド	山地の地形	授業前に、テキスト Chapter 2 を読んでおく。 授業後に授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第8回	オンデマンド	火山の地形	授業前に、テキスト Chapter 2 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第9回	オンデマンド	平野の地形	授業前に、テキスト Chapter 3 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第10回	オンデマンド	海岸の地形	授業前に、テキスト Chapter 3 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第11回	オンデマンド	土壌地理学	授業前に、事前に配布する資料を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第12回	オンデマンド	生物地理学	授業前に、事前に配布する資料を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第13回	オンデマンド	地震災害	授業前に、テキスト Chapter 5 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第14回	オンデマンド	山地災害	授業前に、テキスト Chapter 2 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第15回	オンデマンド	この授業のまとめ	授業前に、これまでのノートを見直し、分からなかったところをまとめておく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	5.5 時間

科目名	地誌Ⅰ	開講年度	2025
担当者	岡田 良平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	世界の地誌と地域性		
授業の目的及び概要	世界地誌を中心とし、東アジア、東南アジア、南アジア、アフリカ、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ・ロシア、オセアニアから数か国を事例として、自然・気候・歴史・文化・産業・人口等について、多角的な視点から地域の形成過程を学び、特徴ある国や地域を社会問題と関連させながら考察していきます。そのなかで、地域性とは何か、地誌とは何かを考察できるようになることを目指す。学修の前半は国や地域ごとの地誌を学修し、地誌学の基礎的な見方・考え方を学びます。後半では、俯瞰的な視点を取り入れ、テーマや比較という観点から地誌の学修を深めます。また、教職の履修科目でもあることからどのように地域を生徒にとらえさせるのかについても適宜、考察していき、社会科や地歴科教員の素地の育成にも対応する。		
履修条件・留意点	教職資格取得希望者を主な対象としますが、それ以外の学生も履修できます。教員免許状（中学校「社会」及び高等学校「地理歴史」）取得希望者は、「地誌Ⅰ」もあわせて履修してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域を多角的に捉えながら、自然・気候・産業・歴史・文化等から地域性を精緻に探求できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。e-mail 等にて質問を受け付けます。提出された課題に対しても Learning Portal を活用してコメントを付す。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。各回の講義で適宜、文献、参考書を紹介する。	ISBN	なし
参考書	①世界の国々を調べる, 矢ヶ崎典隆編, 古今書院, 2007 ②図説世界の地誌, 辰己勝・辰巳真知子, 古今書院, 2016	ISBN	①9784772241526 ②9784772241915
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	成績については以下に沿って評価をします。 ①各回では小テストを実施しています。小テストは評価の 30％です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 10 回以上の回答がない場合（6 回以上回答していない）は、レポート提出やまとめの試験の得点に関わらず単位取得がで		

	きません。 ②第 15 回の学修後は学修のまとめテストを行います。このテストは評価の 40%です。テストを受験していない場合は、10 回以上の小テストの受験、レポート提出があっても単位取得ができません。 ③レポート提出は所定の形式に従って期日内に提出します。レポートは評価の 30%です。レポートを提出していない場合は、10 回以上の小テスト、まとめテストの受験があっても単位取得ができません。 全 15 回授業のうち、10 回以上の小テストの回答、まとめテストの受験とその点数、レポートの提出と内容の 3 点を満たした上で評価を行います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 地理学と地誌学 地理学における地誌学の位置づけ、地誌学の見方・考え方について考察します。また、地誌学は特定の地域の自然・歴史・文化・産業・人口等から総合的に分析し、地域の特徴を明らかにする分野です。自然環境と人文環境のつながりが重要な要素になります。	Lerning Portal に掲載する第 1 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 2 回	オンデマンド	中国の地誌 中国は面積でも世界 4 位、人口は世界 2 位という大国です。農業でもコメや小麦の生産量も世界 1 位、「世界の工場」とに表されるように産業用ロボットの稼働台数、造船の竣工量も世界 1 位です。こうした急速な経済成長は 1990 年代以降に中国全土に広がっていきました。こうした経済成長のプロセスを地域別に紐解きながら、産業構造や地域差について学修します。	Lerning Portal に掲載する第 2 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 3 回	オンデマンド	朝鮮半島 韓国の地誌 朝鮮半島・韓国を事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。	Lerning Portal に掲載する第 3 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 4 回	オンデマンド	東南アジアの地誌 東アジア全体の気候や文化の多様性を考察し自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴について学修します。16 世紀以降、香辛料を求めて東南アジアに進出したヨーロッパ人は、19 世紀の産業革命以降、東南アジア諸国の植民地支配を強めます。東南アジア諸国はイギリス、フランス、オランダ、スペイン、ポルトガル、アメリカ、日本の植民地支配の影響を受けつつ、それぞれの国や地域で独自の文化を形成しています。また、長い歴史の中で、華僑、インド、イスラムの文化も影響する複合社会です。こうした背景を国ごとに考察することで東南アジアの全体像にも理解を深めていきます。	Lerning Portal に掲載する第 4 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 5 回	オンデマンド	タイの地誌 東南アジアの中で、タイを事例に取り上げ	Lerning Portal に掲載する第 5 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

		ます。日本でも人気の海外旅行先であるタイ。首都バンコクのあるタイ中央部、世界的観光地ブーケットのあるタイ南部、古都チェンマイがあるタイ北部などには多くの観光客が押し寄せます。しかし、タイ東北部は観光地も少なく、経済的にも貧しい地域とされてきました。講義では、タイ東北部のドンデーン村とその周辺の村を事例に、都市化に翻弄される都市近郊農村を考察します。		
第6回	オンデマンド	南アジアの地誌 南アジアでは、インドを中心に取り上げます。インドは北はヒマラヤ山脈に接し、国内は8つの気候区分に分けられます。そのため、歴史や文化も多様性に富んでいます。2023年にインドは中国を抜き、人口が14億2860万人となり世界1位となりました。2050年には16億7000万人になると予想されており、地球の総人口の2割を占めると言われています。また、英語をベースにした理数教育が急速な経済成長を支えていると言われています。しかし、インドではヒンドゥー教とカースト制度によって、差別などの社会問題が顕在化しています。また、経済成長による国内の「南北問題」、都市部と農村部における経済格差も顕著になっています。インドは移民の国としても知られています。世界に広がるインド人社会についても学修します。	Lerning Portalに掲載する第6回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第7回	オンデマンド	西アジア・中央アジアの地誌 西アジアと中央アジアの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。日常生活の中で日本とは縁がありませんと感じることもあります。石油などの多くの天然資源の大半を輸入しています。また、近年はドバイなどに観光客が訪れています。こうした著しい経済成長の背景についても学修を深めます。	Lerning Portalに掲載する第7回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第8回	オンデマンド	アフリカの地誌 アフリカでは南アフリカ共和国を中心に複数の国を取り上げます。日本人の多くがアフリカに対する一般的なイメージとして「豊かな自然」や「野生動物」を思い浮かべます。しかし、気候の特徴から広大な砂漠や熱帯と乾燥帯が併存する厳しい自然環境です。また、アフリカ各国では、歴史的背景からプランテーション依存型の経済、貧困、紛争の爪痕が色濃く残っています。「希望の大陸」と言われて久しいアフリカ大陸の各国に共通する社会問題とも関連させて考察します。	Lerning Portalに掲載する第8回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第9回	オンデマンド	ヨーロッパの地誌 ヨーロッパの地形と気候、民俗・宗教・言語を概観します。ヨーロッパには50の主権国家と6つ一部主権国家から成る大州です。この地域には主な言語は14、宗教や	Lerning Portalに掲載する第9回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間

		民族も複雑かつ多様性に富んでいる。第二次世界大戦以降の東西冷戦では西側と東側に分かれ、ソ連の崩壊以降は、現在ではEUを中心とした経済圏が存在している。自然・人文環境の多様性を知ること、地誌の魅力と学修を深めていきます。		
第10回	オンデマンド	オランダの地誌 オランダの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。オランダは低地という地理的な特徴があります。国土の多くを排水による干拓で切り開いてきた歴史的背景があります。そうした自然環境を克服してきた国民性、ヨーロッパにおける水運・海運の要衝として経済成長してきた歴史的背景を考察します。	Lerning Portalに掲載する第10回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第11回	オンデマンド	ロシアの地誌 ロシアは国内の20%が他民族であり、バルト3国や中央アジア5カ国などの周辺諸国との結びつきも強い。ヨーロッパ・ロシアの全体像を俯瞰的な視点で把握することで、自然・人文環境の多様性を知ること、地誌の魅力と学修を深めていきます。	Lerning Portalに掲載する第11回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第12回	オンデマンド	北アメリカ アメリカ合衆国 カナダの地誌 アメリカ合衆国・カナダを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。アメリカは世界一の経済大国です。広大な面積を背景に、徹底的に効率化された大規模農業や畜産業があり世界の食糧基地とまでいわれています。また豊富な地下資源による鉱工業に加え、ICTや航空宇宙産業などの工業でも世界をリードしています。また、ファッションやエンターテインメント等の文化でも多くの影響を与えています。カナダは豊かな自然に恵まれ、比較的治安も良く、観光や留学先としても人気の国です。両国に共通するのは、奴隷や移民による多文化が背景にあり、それによる差別や社会問題を内包していることでしょう。多角的な視点からアングロアメリカについて考察します。	Lerning Portalに掲載する第12回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第13回	オンデマンド	ラテンアメリカの地誌 ラテンアメリカの気候と地形、メキシコ合衆国、ブラジルを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。ラテンアメリカはインカやアステカ文明などに代表されるように古代から独自の社会を形成してきました。しかし、大航海時代の到来とともにヨーロッパ列強の植民地となり、スペインやポルトガルの言語や文化が色濃く残っています。政治的にも不安定な地域が多く、急速な経済成長が貧富の格差を広げ、無計画な開発によるアマゾンの原生林な	Lerning Portalに掲載する第13回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間

		どが深刻な自然環境の破壊にさらされている現状もあります。		
第14回	オンデマンド	オセアニア オーストラリア ニュージーランドの地誌 オーストラリア、ニュージーランドを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。オセアニア諸国、ハワイとも人気の観光地です。オーストラリアは「乾燥大陸」という別名を持ち、内陸部と西部のほとんどが砂漠と乾燥した気候になっています。また、豊富な地下資源を背景に、輸出産業が盛んです。ニュージーランドは牧畜業が盛んで、両国とも大陸の形成過程から独自の進化を遂げた生物が存在しています。オセアニア地域には数千を超える島々が散在しています。多くの国が現在は観光産業を中心にしていますが、植民地時代以降、砂糖産業や軍事基地としての側面もあります。	Lerning Portal に掲載する第 14 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第15回	オンデマンド	地誌学とは何か 学修の総括を行います。第1回目で提示した地誌学とは何かという問いに対し、学修した内容を中心に地誌的な視点による地域理解や考察をふり返ります。その中で、地域調査においてミクロ・マクロ（ズームの調整）による視点に切り替えの重要性について学修します。また、学修のふり返りに合わせて、フィードバックも行います。レポートに関する解説・諸注意も行います。	Lerning Portal に掲載する第 15 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

科目名	地誌Ⅱ	開講年度	2025
担当者	岡田 良平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	世界の地誌と地域性		
授業の目的及び概要	世界地誌を中心とし、東アジア、東南アジア、南アジア、アフリカ、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ・ロシア、オセアニアから数か国を事例として、自然・気候・歴史・文化・産業・人口等について、多角的な視点から地域の形成過程を学び、特徴ある国や地域を社会問題と関連させながら考察していきます。そのなかで、地域性とは何か、地誌とは何かを考察できるようになることを目指す。学修の前半は国や地域ごとの地誌を学修し、地誌学の基礎的な見方・考え方を学びます。後半では、俯瞰的な視点を取り入れ、テーマや比較という観点から地誌の学修を深めます。また、教職の履修科目でもあることからどのように地域を生徒にとらえさせるのかについても適宜、考察していき、社会科や地歴科教員の素地の育成にも対応する。		
履修条件・留意点	教職資格取得希望者を主な対象としますが、それ以外の学生も履修できます。教員免許状（中学校「社会」及び高等学校「地理歴史」）取得希望者は、「地誌Ⅰ」もあわせて履修してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域を多角的に捉えながら、自然・気候・産業・歴史・文化等から地域性を精緻に探求できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。e-mail 等にて質問を受け付けます。提出された課題に対しても Learning Portal を活用してコメントを付す。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。各回の講義で適宜、文献、参考書を紹介する。	ISBN	0
参考書	①世界の国々を調べる, 矢ヶ崎典隆編, 古今書院, 2007 ②図説世界の地誌, 辰己勝・辰巳真知子, 古今書院, 2016	ISBN	①9784772241526 ②9784772241915
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	成績については以下に沿って評価をします。 ①各回では小テストを実施しています。小テストは評価の 30％です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 10 回以上の回答がない場合（6 回以上回答していない）は、レポート提出やまとめの試験の得点に関わらず単位取得がで		

	きません。 ②第 15 回の学修後は学修のまとめテストを行います。このテストは評価の 40%です。テストを受験していない場合は、10 回以上の小テストの受験、レポート提出があっても単位取得ができません。 ③レポート提出は所定の形式に従って期日内に提出します。レポートは評価の 30%です。レポートを提出していない場合は、10 回以上の小テスト、まとめテストの受験があっても単位取得ができません。 全 15 回授業のうち、10 回以上の小テストの回答、まとめテストの受験とその点数、レポートの提出と内容の 3 点を満たした上で評価を行います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 地理学と地誌学 地理学における地誌学の位置づけ、地誌学の見方・考え方について考察します。また、地誌学は特定の地域の自然・歴史・文化・産業・人口等から総合的に分析し、地域の特徴を明らかにする分野です。自然環境と人文環境のつながりが重要な要素になります。	Lerning Portal に掲載する第 1 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 2 回	オンデマンド	中国の地誌 中国は面積でも世界 4 位、人口は世界 2 位という大国です。農業でもコメや小麦の生産量も世界 1 位、「世界の工場」とに表されるように産業用ロボットの稼働台数、造船の竣工量も世界 1 位です。こうした急速な経済成長は 1990 年代以降に中国全土に広がっていきました。こうした経済成長のプロセスを地域別に紐解きながら、産業構造や地域差について学修します。	Lerning Portal に掲載する第 2 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 3 回	オンデマンド	朝鮮半島 韓国の地誌 朝鮮半島・韓国を事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。	Lerning Portal に掲載する第 3 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 4 回	オンデマンド	東南アジアの地誌 東アジア全体の気候や文化の多様性を考察し自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴について学修します。16 世紀以降、香辛料を求めて東南アジアに進出したヨーロッパ人は、19 世紀の産業革命以降、東南アジア諸国の植民地支配を強めます。東南アジア諸国はイギリス、フランス、オランダ、スペイン、ポルトガル、アメリカ、日本の植民地支配の影響を受けつつ、それぞれの国や地域で独自の文化を形成しています。また、長い歴史の中で、華僑、インド、イスラムの文化も影響する複合社会です。こうした背景を国ごとに考察することで東南アジアの全体像にも理解を深めていきます。	Lerning Portal に掲載する第 4 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 5 回	オンデマンド	タイの地誌 東南アジアの中で、タイを事例に取り上げ	Lerning Portal に掲載する第 5 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

		ます。日本でも人気の海外旅行先であるタイ。首都バンコクのあるタイ中央部、世界的観光地ブーケットのあるタイ南部、古都チェンマイがあるタイ北部などには多くの観光客が押し寄せます。しかし、タイ東北部は観光地も少なく、経済的にも貧しい地域とされてきました。講義では、タイ東北部のドンデー村とその周辺の村を事例に、都市化に翻弄される都市近郊農村を考察します。		
第6回	オンデマンド	南アジアの地誌 南アジアでは、インドを中心に取り上げます。インドは北はヒマラヤ山脈に接し、国内は8つの気候区分に分けられます。そのため、歴史や文化も多様性に富んでいます。2023年にインドは中国を抜き、人口が14億2860万人となり世界1位となりました。2050年には16億7000万人になると予想されており、地球の総人口の2割を占めると言われています。また、英語をベースにした理数教育が急速な経済成長を支えていると言われています。しかし、インドではヒンドゥー教とカースト制度によって、差別などの社会問題が顕在化しています。また、経済成長による国内の「南北問題」、都市部と農村部における経済格差も顕著になっています。インドは移民の国としても知られています。世界に広がるインド人社会についても学修します。	Lerning Portalに掲載する第6回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第7回	オンデマンド	西アジア・中央アジアの地誌 西アジアと中央アジアの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。日常生活の中で日本とは縁がありませんが、石油などの多くの天然資源の大半を輸入しています。また、近年はドバイなどに観光客が訪れています。こうした著しい経済成長の背景についても学修を深めます。	Lerning Portalに掲載する第7回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第8回	オンデマンド	アフリカの地誌 アフリカでは南アフリカ共和国を中心に複数の国を取り上げます。日本人の多くがアフリカに対する一般的なイメージとして「豊かな自然」や「野生動物」を思い浮かべます。しかし、気候の特徴から広大な砂漠や熱帯と乾燥帯が併存する厳しい自然環境です。また、アフリカ各国では、歴史的背景からプランテーション依存型の経済、貧困、紛争の爪痕が色濃く残っています。「希望の大陸」と言われて久しいアフリカ大陸の各国に共通する社会問題とも関連させて考察します。	Lerning Portalに掲載する第8回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第9回	オンデマンド	ヨーロッパの地誌 ヨーロッパの地形と気候、民俗・宗教・言語を概観します。ヨーロッパには50の主権国家と6つ一部主権国家から成る大州です。この地域には主な言語は14、宗教や	Lerning Portalに掲載する第9回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間

		民族も複雑かつ多様性に富んでいる。第二次世界大戦以降の東西冷戦では西側と東側に分かれ、ソ連の崩壊以降は、現在ではEUを中心とした経済圏が存在している。自然・人文環境の多様性を知ること、地誌の魅力と学修を深めていきます。		
第10回	オンデマンド	オランダの地誌 オランダの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。オランダは低地という地理的な特徴があります。国土の多くを排水による干拓で切り開いてきた歴史的背景があります。そうした自然環境を克服してきた国民性、ヨーロッパにおける水運・海運の要衝として経済成長してきた歴史的背景を考察します。	Lerning Portalに掲載する第10回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第11回	オンデマンド	ロシアの地誌 ロシアは国内の20%が他民族であり、バルト3国や中央アジア5カ国などの周辺諸国との結びつきも強い。ヨーロッパ・ロシアの全体像を俯瞰的な視点で把握することで、自然・人文環境の多様性を知ること、地誌の魅力と学修を深めていきます。	Lerning Portalに掲載する第11回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第12回	オンデマンド	北アメリカ アメリカ合衆国 カナダの地誌 アメリカ合衆国・カナダを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。アメリカは世界一の経済大国です。広大な面積を背景に、徹底的に効率化された大規模農業や畜産業があり世界の食糧基地とまでいわれています。また豊富な地下資源による鉱工業に加え、ICTや航空宇宙産業などの工業でも世界をリードしています。また、ファッションやエンターテインメント等の文化でも多くの影響を与えています。カナダは豊かな自然に恵まれ、比較的治安も良く、観光や留学先としても人気の国です。両国に共通するのは、奴隷や移民による多文化が背景にあり、それによる差別や社会問題を内包していることでしょう。多角的な視点からアングロアメリカについて考察します。	Lerning Portalに掲載する第12回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第13回	オンデマンド	ラテンアメリカの地誌 ラテンアメリカの気候と地形、メキシコ合衆国、ブラジルを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。ラテンアメリカはインカやアステカ文明などに代表されるように古代から独自の社会を形成してきました。しかし、大航海時代の到来とともにヨーロッパ列強の植民地となり、スペインやポルトガルの言語や文化が色濃く残っています。政治的にも不安定な地域が多く、急速な経済成長が貧富の格差を広げ、無計画な開発によるアマゾンの原生林な	Lerning Portalに掲載する第13回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間

		どが深刻な自然環境の破壊にさらされている現状もあります。		
第14回	オンデマンド	オセアニア オーストラリア ニュージーランドの地誌 オーストラリア、ニュージーランドを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。オセアニア諸国、ハワイとも人気の観光地です。オーストラリアは「乾燥大陸」という別名を持ち、内陸部と西部のほとんどが砂漠と乾燥した気候になっています。また、豊富な地下資源を背景に、輸出産業が盛んです。ニュージーランドは牧畜業が盛んで、両国とも大陸の形成過程から独自の進化を遂げた生物が存在しています。オセアニア地域には数千を超える島々が散在しています。多くの国が現在は観光産業を中心にしていますが、植民地時代以降、砂糖産業や軍事基地としての側面もあります。	Lerning Portal に掲載する第 14 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第15回	オンデマンド	地誌学とは何か 学修の総括を行います。第1回目で提示した地誌学とは何かという問いに対し、学修した内容を中心に地誌的な視点による地域理解や考察をふり返ります。その中で、地域調査においてミクロ・マクロ（ズームの調整）による視点に切り替えの重要性について学修します。また、学修のふり返りに合わせて、フィードバックも行います。レポートに関する解説・諸注意も行います。	Lerning Portal に掲載する第 15 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

科目名	社会学概説	開講年度	2025
担当者	稲葉 渉太	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	社会学における基本的な考え方、理論、手法などについて学び、現代社会における諸課題について考える。		
授業の目的及び概要	・本講義は、社会学における入門講義として位置づけられるが、現代社会における様々なトピックや事象を取り上げ、社会学に関連する基本的な知識や研究スキルを幅広く学ぶことを目的とする。 ・具体的には、「人びとが人生で経験するできごとに沿って展開」（筒井・前田 2017: 9）される教科書に基づいて、どのように私たちの生活が社会とかかわっているのかを理解し、関連する時事問題についてグループディスカッションやグループワークで検討する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ここでは、以下の 3 点を主な到達目標とする。 ①社会学の基本的なものの見方、考え方、社会学の基礎理論を学ぶ。 ②授業で身に付けた社会学的な見方から、日常生活における様々な社会現象を読み解き、考えることができる。 ③関心をもっている社会問題について、社会学的な視座から読み解き、自らの考えや意見を表現(発表・記述)することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・講義時に振り返りシート(感想シート)への記入をしてもらい、それに対してコメントを付して返却を行う。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	社会学入門, 筒井淳也・前田泰樹, 有斐閣, 2017 年	ISBN	9784641150461
参考書	社会学の力, 友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留, 有斐閣, 2017 年	ISBN	9784641174306
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	◇社会学概説の授業ガイダンス ・本講義の進め方や受講するにあたっての留意点(授業の内容や評価方法など)についての確認を行う。	事前学習：シラパスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を読み、復習しておくこと。	4 時間
第2回	対面	◇「なぜ子供が生まれなくなっているのか」 ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	◇妊娠、出産という経験はどのように変わっているのか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	◇なぜ学ぶことが「義務」になっているのか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	◇学校という場所はどのような場所か ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	◇「働くこと」の社会的な位置付け ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	◇「社会」のなかで働くこと ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	◇近代化は家族をどう変えてきたのか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	◇家族であるとはどのようなことか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	◇統計学と医療はどうかかわってきたか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	◇病むこと・老いることは、どのような経験か	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。	4 時間

		・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	
第12回	対面	◇社会学は自殺をどう扱ってきたか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を読む。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	◇社会において「死」はどのようにみえるか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を読む。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	◇「社会」人とのかかわり方 ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を読む。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	◇社会学の総括：社会学における研究方法 ・これまで本講義で取り上げてきた内容を総括し、知識の定着を図る。 ・教科書を通して学んだ社会学で用いられる量的調査・質的調査などの主要な研究方法について改めて概観し、期末課題に向けた最終整理を行う。	事前学習：第1回～第14回までの講義内容について基本事項を確認してくること。 事後学習：本講義全体で学んだ社会学の基本理論・専門用語などについて補足事項を調べ、ノートやデータに整理しておくこと。	4 時間

科目名	哲学概説 I	開講年度	2025
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	哲学の歴史と課題—古代・近代・現代		
授業の目的及び概要	西洋哲学史上の代表的な哲学者について基本的知識を身に付け、彼らの問題を内側から理解すること。また、古代哲学と近代哲学の特徴を全体として感じ取り、そのうえで現代を生きるわれわれにとっての哲学的課題を自ら問い尋ねてゆくこと。それがこの授業の目的です。 授業はプラトン、アリストテレス、デカルト、カント等の原典翻訳に即して進められますが、受講生には、なじみのない固有名詞や難解な概念・論証を単に情報としてインプットすることにとどまらず、哲学者たちの思考を追体験することで自分自身の思考のなかに血肉化することが期待されます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）西洋哲学史上の代表的な哲学者について、固有名詞とその鍵概念を知り、その内容について説明できる 2）古代哲学と近代哲学について、それぞれの特徴と相互の差異を俯瞰的に把握し、それを論述できる 3）以上1）2）を踏まえつつ、現代の哲学的課題を自分なりに把握し、アプローチの仕方を提案できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物をコメントつきで返却する		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『シグマベスト 理解しやすい倫理』（藤田正勝著、文栄堂、2015 年）	ISBN	978-4-578-24209-3
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	哲学とは何か	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】 再度シラバスを読み、自身に履修に適した科目が確認すること。	4 時間
第2回	対面	ギリシア哲学	【予習】 教科書 pp. 40-44 を読んで、その内容に即した問い・疑問を3つ以上、用意してくること。 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	プラトンとイデア論	【予習】 教科書 pp. 44-51 を読み、プラトンに関する内容をまとめたうえで、そのイデア論に対する賛否を自分なりに述べること。 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	アリストテレスと哲学の体系	【予習】 教科書 pp. 51-56 を読んで、その内容を踏まえつつ、古代ギリシア人の自然観・宇宙像について自分なりに調べてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	アウグスティヌスとキリスト教	【予習】 教科書 pp. 57-70 を読んでキリスト教（思想）について大づかみに理解した上で、キリスト教徒が十字を切って祈ることの意味についてできるだけ詳しく調べてくること。 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	コペルニクスと科学革命	【予習】 教科書 pp. 198-201 を参考に、「科学革命」について調べてくること。 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	デカルト『方法序説』およびベーコン『ノヴム・オルガヌム』と学問の方法	【予習】 教科書 pp. 201-207 を読み、デカルトの演繹法とベーコンの帰納法についてまとめてくること。 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	スピノザ『エチカ』およびライプニッツ『人間知性新論』と大陸合理論	【予習】 教科書 p. 206 「物心二元論」および、pp. 209-210 「合理論」について読み、「物心二元論」にどのような難問があるか考えてくること。 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	ロック『人間知性論』およびヒューム『人間本性論』と英国経験論	【予習】 教科書 pp. 208-209 を参考に、ジョン・ロックについて調べてくること。 【復習】	4 時間

			返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第10回	対面	カント『純粋理性批判』と形而上学	【予習】 教科書 pp. 220-225 を参考に、カントの「第一アンチノミー」について調べてくること。 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第11回	対面	コント『実証哲学講義』とフランス革命	【予習】 教科書 pp. 248-249 を参考に、コントのフルネームと生涯について調べてくること。 【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第12回	対面	ウィリアム・ジェームズ『プラグマティズム』から考える	【予習】 アメリカ人とはどのような人々か？ その国民性について自分なりに調べてくること。 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第13回	対面	ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』から考える	【予習】 「世界」とは何か？ 自分なりに定義してみること。 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第14回	対面	サルトル『実存主義とは何か』から考える	【予習】 「ペーパーナイフ」について調べてくること。 【復習】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	哲学の歴史と課題――復習の講義動画を公開する（同時にレポート試験の課題を説明する）。	【復習】 これまでのワークシートと教科書の対応範囲について抜かりなく復習してくる。	4 時間

科目名	哲学概説Ⅱ	開講年度	2025
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	哲学の現代—社会理論・実存主義・分析哲学・構造主義・ヒューマニズム		
授業の目的及び概要	現代の哲学へ入門するため、この授業では社会理論・実存主義・分析哲学・構造主義・ヒューマニズムの思想を学びます。具体的には、マルクス、キェルケゴールやニーチェやハイデガー、ウィトゲンシュタイン、フーコー、シュヴァイツァーなどの思想を学びます。それぞれの哲学者がどのような問題関心のもと・何を・どのように論じているのか、じっくり腰を据えて考えてゆきましょう。。これによって自分たちの社会を作りあげている考え方を知ることができ、そこからこれからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）それぞれの思想について、その哲学史的文脈を理解し、他者に説明できる 2）それぞれの哲学者の問題意識と創意とを、テキストに内在的に理解し、他者に説明できる 3）以上1）2）を踏まえて、自身の解釈を提示できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物はコメントを付して返却します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『シグマベスト 理解しやすい倫理』（藤田正勝著、文栄堂、2015 年）	ISBN	978-4-578-24209-3
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	西洋哲学史概観	【予習】 シラバスを読んでくること。	4 時間

			【復習】 再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目か確認すること。	
第2回	対面	功利主義	【予習】 教科書 pp. 238-242 を読んで功利主義の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	マルクス	【予習】 教科書 pp. 242-248 を読んで、社会主義の思想について簡潔にまとめてくること。 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	キェルケゴール	【予習】 教科書 pp. 255-257 を読んで、キェルケゴールの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	ニーチェ	【予習】 教科書 pp. 257-259 を読んで、ニーチェの思想をまとめてくること 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	ハイデガー	【予習】 教科書 pp. 260-262 を読んでハイデガーの思想をまとめてくること 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	ヤスパースとサルトル	【予習】 教科書 pp. 259-264 を読んでヤスパースとサルトルの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	フロイトとユング	【予習】 教科書 pp. 264-267 を読んでフロイトとユングの考えをまとめてくること。 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	フランクフルト学派	【予習】 教科書 pp. 270-271 を読んでフランクフルト学派の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第10回	対面	アーレント	【予習】 教科書 p. 282 を読んでアーレントの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間

第11回	対面	構造主義	【予習】 教科書 pp. 272-274 を読んで構造主義の思想をまとめること。 【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第12回	対面	ウィトゲンシュタイン	【予習】 教科書 pp. 269-270 を読んでウィトゲンシュタインの思想をまとめること。 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第13回	対面	クーン	【予習】 教科書 p. 287 を読みクーンの思想をまとめること。 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第14回	対面	ポスト構造主義	【予習】 教科書を読みポスト構造主義の思想をまとめること。 【復習 p. 274】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	現代のヒューマニズムー復習の講義動画を公開する(同時にレポート試験の課題を説明する)。	【予習】 教科書 pp. 275-280 を読み現代のヒューマニズムの思想をまとめること。	4時間

科目名	倫理学概説 I	開講年度	2025
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	倫理思想の体得—中国思想と仏教から日本思想へ		
授業の目的及び概要	近代以前の日本の倫理思想はおもに中国思想と仏教を背景として展開してきました。本講義では、このふたつの伝統思想についての踏み込んだ理解のために、それぞれの思潮の思想家がどのような考えを提示したのかを確認します。そのうえで日本思想を学びます。これによって自分たちの社会を作りあげている考え方を知ることができ、そこからこれからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）中国思想および仏教の基本事項について理解し、他者に説明できる 2）古代から近世までの日本思想史の流れを理解し、他者に説明できる 3）古典が読まれてきた仕方を理解し、自らもその読解に参入できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物は原則として次の回の授業冒頭に返却します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①シグマベスト 理解しやすい倫理, 藤田正勝著, 文栄堂, 2015 年	ISBN	①9784578242093
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	1 「倫理」と「倫理学」の異同について 2 高校「倫理」と日本思想史について	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】 再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目か確認	4 時間

			認すること。	
第2回	対面	1 『論語』とはどのような書物か 2 『論語』はどのように読まれてきたか	【予習】 教科書を読み、自分なりに調べ、次の3点について考えてくること。 ①『論語』とはどのような書物か？ ②孔子とはどのような人物か？ ③『論語』を読むとはどういうことか？ 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	仏教の起源	【予習】 教科書を読み pp. 76-86 を読み、仏教の思想についてまとめてくること。 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	仏教の広がり	【予習】 教科書を読み pp. 76-86 を読み、仏教の思想についてまとめてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	朱子学と陽明学	【予習】 教科書 pp. 140-144 を読んで朱子学と陽明学についてまとめてくること。 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	神道	【予習】 教科書 pp. 112-117 を読んで神道についてまとめてくること 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	聖徳太子	【予習】 教科書 pp. 118-119 を読んで聖徳太子の思想についてまとめてくること 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	最澄と空海	【予習】 教科書 pp. 120-122 を読んで最澄と空海の思想についてまとめてくること 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	鎌倉新仏教（1）——法然・親鸞・一遍	【予習】 教科書 pp. 124-130 を読んで法然・親鸞・一遍の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第10回	対面	鎌倉新仏教（2）——栄西・道元・日蓮	【予習】 教科書 pp. 130-134 を読んで栄西・道元・日蓮の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を	4 時間

			行うこと。	
第11回	対面	林羅山・山崎闇斎・中江藤樹	【予習】 教科書 pp. 140-142 を読んで林羅山・山崎闇斎・中江藤樹の思想をまとめてくること 【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第12回	対面	伊藤仁斎・山鹿素行・荻生徂徠	【予習】 教科書 pp. 143-145 を読んで伊藤仁斎・山鹿素行・荻生徂徠について調べてくること。 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第13回	対面	明六社と福沢諭吉	【予習】 教科書 pp. 154-156 を読んで明六社と福沢諭吉についてまとめてくること 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第14回	対面	西田幾多郎	【予習】 教科書 pp. 163-164 を読んで西田幾多郎についてまとめてくること。 【復習】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	日本倫理思想史の振り返りー復習の講義動画を公開する(同時にレポート試験の課題を説明する)。	【復習】 ノート等に即してこれまでの授業内容について細密に確認してくる。	4 時間

科目名	倫理学概説Ⅱ	開講年度	2025
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	倫理学の歴史と課題—青年期の心理と現代の課題		
授業の目的及び概要	倫理学の主要な立場について基本的知識を身に付け、それぞれの立脚点や相互の対立点を理解すること。また、そのうえで現代の応用倫理学の諸問題に触れ、われわれが直面している諸問題について倫理的観点から考察を深めること。それがこの授業の目的です。これによって、これからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）青年期の心理をめぐる諸問題を理解し、それを説明できる 2）現代の応用倫理学の諸問題について、事例を具体的に知り、1）の諸原理・諸原則と関連付けて捉えられる 3）とくに関心のある現代の問題について、倫理的観点から論点を整理し、自身の立場を説得的に提示できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物はコメントをつけて返却します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①シグマベスト 理解しやすい倫理, 藤田正勝著, 文栄堂, 2015 年	ISBN	①9784578242093
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	青年期の倫理と現代の課題	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】	4 時間

			再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目が確認すること。	
第2回	対面	人間とは何か	【予習】 教科書 pp. 11-15 を読んで、人間とは何かをめぐる思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	欲求と防衛機制	【予習】 教科書第1章第2節を読んで欲求と防衛機制についてまとめてくること 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	エリクソンとライフサイクル	【予習】 教科書第1章第2節を読んでエリクソンのライフサイクル理論についてまとめてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	パーソナリティ	【予習】 教科書第1章第2節を読んでパーソナリティの心理学の要点をまとめてくること。 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	青年期の課題	【予習】 教科書第1章第2節を読んで「青年期」とは何かについて自分なりの理解を形成しておくこと。 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	生命の倫理（1）	【予習】 教科書 pp. 297-300 を読んで生命倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	生命の倫理（2）	【予習】 教科書 pp. 300-304 を読んで生命倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	環境の倫理（1）	【予習】 教科書 pp. 305-307 を読んで環境倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第10回	対面	環境の倫理（2）	【予習】 教科書 pp. 307-310 を読んで環境倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第11回	対面	家族をめぐる問題	【予習】	4 時間

			教科書 pp.311-315 を読んで家族をめぐる問題について調べてくること。 【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第12回	対面	地域社会をめぐる問題	【予習】 教科書 pp.316-317 を読んで地域社会をめぐる問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第13回	対面	情報の倫理	【予習】 教科書 pp.318-321 を読んで情報倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第14回	対面	文化と宗教の問題	【予習】 教科書 pp.322-324 を読んで情報倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	平和をめぐる問題ー復習の講義動画を公開する(同時にレポート試験の課題を説明する)。	【予習】 教科書 pp.325-327 を読んで平和をめぐる問題についてまとめてくること	4 時間

科目名	宗教学概説	開講年度	2025
担当者	本多 真	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	この講義では、宗教の歴史的な流れを理解しつつ、グローバルな状況の中で宗教がどのように需要されているかについて学びます。		
授業の目的及び概要	宗教文化、宗教対話、宗教慣習に関心を持ちつつ、宗教をめぐる現象を客観的に理解／分析することのできる力を身に着けることを目指します。また宗教が社会とどう関わり、宗教のどのような側面が社会と反発するのかを知ることとおして、身のまわりにある宗教や宗教的な風習との付き合い方に関心を向けることができるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	宗教がどのような歴史を経て、今日どのような形で現存し、社会とどのように共存しているのか、その概要について理解することができるようになります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フロアから寄せられた質問にその場で答えます。また講評についても授業時に対応します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回、資料を準備します。	ISBN	特になし。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：宗教について考える	・講義概要の説明。 ・あなたがイメージする宗教とはいったい何を指していますか。調べておいてください。 ・世界に宗教を信じる人はどのくらいいるのか、調べておいてください。	4 時間

第2回	対面	宗教のタイプ：一神教、多神教、無神論／ 民族宗教、世界宗教	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ どの宗教が「一神教」「多神教」「無神論」か、またそれらの宗教が「民族宗教」「世界宗教」のいずれに該当するか、調べておきましょう。	4 時間
第3回	対面	ユダヤ教について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ ユダヤ教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第4回	対面	キリスト教について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ キリスト教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第5回	対面	イスラム教について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ イスラム教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第6回	対面	ヒンドゥー教について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ ヒンドゥー教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第7回	対面	仏教について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ 仏教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第8回	対面	神道について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ 神道について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第9回	対面	日本人と宗教	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ 日本人の多くは「無宗教」でありながら、日本には無数の宗教施設があります。この謎に迫ります。 ・ 無数に存在する神社、寺院はどのように維持されているのか、インターネットなどで調べておきましょう。	4 時間
第10回	対面	発表：自由論題①	・ 宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第11回	対面	発表：自由論題②	・ 宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第12回	対面	発表：自由論題③	・ 宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第13回	対面	宗教と社会課題①	・ 宗教は命をどう捉えるか、生命操作の現場に迫ります。 ・ 人工妊娠中絶、胃ろうなどの医療行為にどの宗教が反対意見なのか、調べておきましょう。	4 時間
第14回	対面	宗教と社会課題②	・ 宗教と政治について考えます。 ・ イスラエルとはどのような国か、調べておきましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義総括	・ 前回講義の内容を復習してきてください。	4 時間

科目名	心理学概説	開講年度	2025
担当者	竹井 夏生	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	子どもたちの育ちと学びに携わりたいと考える学生向けの教職科目としての心理学		
授業の目的及び概要	いじめ、不登校、偏差値教育、学校不信、家族のきずなの弱まり、社会不安の高まり—子どもたちを含め、私たちが育ち、学び、そして生きる環境は、内的にも外的にも、大きく揺らいでいるように思います。この科目では、主に教職に関心を持つ学生に向けて、心理学の観点から、私たちがよりよく育ち、学び、生きるための手掛かりを共に考えていくことを目的としています。		
履修条件・留意点	教職に関心を持つ学生に広く開かれています。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・発達（育ち）の観点から、自己および他者理解を深め、教職に携わる上でのヒントを見出すことができる。 ・学習（学び）の観点から、人間を豊かにするための学びのあり方を考え、教職においてそれを実践するためのヒントを見出すことができる。 ・関係性（関わり）の観点から、他者の悩みや集団における困難を受け止め、洞察し、手立てを共に考えることのできる教師としての姿勢を育むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	個別の質問については授業の前後、またはメールにて受け付ける。各回のコメントシートについては、授業内でできる限り取り上げながら受講生と問題意識を共有できるようにする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない（こちらでレジюмеを準備する）。	ISBN	なし
参考書	・以下を代表的な文献として講義の準備をしてくるので、関心のある受講生は直接手に取ってみるとよい。 ① エリクソンの人間学，西平直（著），東京大学出版会，1993 ② いじめのある世界に生きる君たちへ，中井久夫（著），中央公論新社，2016	ISBN	① ISBN:9784130161015 ② ISBN:9784120049217
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	職業選択に自らの未解決の問題が反映されるとするならば、教職に関心を持つ学生は、育つこと、学ぶこと、そしてそれらを通して生きること「くすぶり」を持っているのかもしれない。それはむしろ教職において大切な資産になるはず。自らの内面に目を向けながら、		

それを通して子どもたちの育ちや学び、そして生きることに関わることのできるあり方を一緒に考えていきましょう。気軽に参加ください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教職科目としての心理学への導入 育ちや学びを支える教師に必要となる心理学について、全体像を示し導入を図る。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第2回	対面	心の育ちと発達（1） E.H. エリクソンの発達心理学について、特に学齢期の発達を中心に学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第3回	対面	心の育ちと発達（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第4回	対面	心の育ちと発達（3） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第5回	対面	心の育ちと病い（1） 学齢期に見られる精神疾患や障害特性について、心の育ちや関係性といった観点から考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第6回	対面	心の育ちと病い（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第7回	対面	学ぶ理由と動機付け（1） 学習について、学びの意欲、主体性、内容、環境、受験勉強といった観点から考え、よりよい学びを支えるあり方について考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第8回	対面	学ぶ理由と動機付け（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第9回	対面	いじめの心理学（1） 「いじめ」についての深い洞察と、子どもを守る倫理観を持てるように、学校場面	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の	4 時間

		のいじめについて考える。	講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	
第10回	対面	いじめの心理学 (2) 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第11回	対面	子どもの心と物語 子どもの育ちを「物語 (narrative)」という観点から学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第12回	オンデマンド	カウンセリングへの導入 カウンセリング心理学を学ぶための導入として、提示する臨床素材をもとにして、自分自身のこれまでの育ち、学び、関わりについて振り返る取り組みを行う (オンデマンド回)。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第13回	対面	カウンセリング心理学 (1) 教師に必要となるカウンセリングについて、その理論と実践を学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第14回	対面	カウンセリング心理学 (2) 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第15回	対面	まとめと展望 これまで学んだ内容を振り返り、その定着を図る。	学期を通して学んだことを総括すべく、これまで配布したレジュメ全体を振り返っておくこと。	4 時間

科目名	キャリア開発A	開講年度	2025
担当者	笠田 真由美	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Aは、キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、法学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Aの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適正と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK 改訂第 5 版, 日経 HR 編集部, 日経 HR, 2023 年	ISBN	978-4-89112-167-9
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。		

	キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4時間
第2回	オンデマンド	【オンデマンド】【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就BOOK「4章・5章・6章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「4章・5章・6章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第3回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就BOOK「8章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「8章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第4回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行う。グループワークを通して互いの意見交換を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就BOOK「8・9章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「8・9章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第5回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4時間
第6回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己PRを作成する。	【予習】学就BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就BOOK「2章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就BOOK「11章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「11章」、パワーポイント資料を読み直し、新規卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4時間
第11回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められるSPI試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振	4時間

		解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き、「企業が求める人材像」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発A	開講年度	2025
担当者	芳中 千裕	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Aは、キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、法学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Aの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適正と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学就 BOOK 改訂第 5 版, 日経 HR 編集部, 日経 HR, 2023 年	ISBN	978-4-89112-167-9
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。		

	社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4時間
第2回	オンデマンド	【オンデマンド】【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就BOOK「4章・5章・6章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「4章・5章・6章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第3回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就BOOK「8章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「8章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第4回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行う。グループワークを通して互いの意見交換を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就BOOK「8・9章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「8・9章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第5回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4時間
第6回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己PRを作成する。	【予習】学就BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就BOOK「2章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就BOOK「11章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「11章」、パワーポイント資料を読み直し、新規卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4時間
第11回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められるSPI試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成①	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。	4時間

		学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き、「企業が求める人材像」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発A	開講年度	2025
担当者	笠田 真由美	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Aは、キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、法学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Aの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適正と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK 改訂第5版, 日経 HR 編集部, 日経 HR, 2023 年	ISBN	978-4-89112-167-9
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。		

	キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4時間
第2回	オンデマンド	【オンデマンド】【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就BOOK「4章・5章・6章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「4章・5章・6章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第3回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就BOOK「8章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「8章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第4回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行う。グループワークを通して互いの意見交換を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就BOOK「8・9章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「8・9章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第5回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4時間
第6回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己PRを作成する。	【予習】学就BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就BOOK「2章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就BOOK「11章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「11章」、パワーポイント資料を読み直し、新規卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4時間
第11回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められるSPI試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振	4時間

		解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き、「企業が求める人材像」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発A	開講年度	2025
担当者	芳中 千裕	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Aは、キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、法学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Aの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適正と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学就 BOOK 改訂第 5 版, 日経 HR 編集部, 日経 HR, 2023 年	ISBN	978-4-89112-167-9
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。		

	社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4時間
第2回	オンデマンド	【オンデマンド】【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。 学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就BOOK「4章・5章・6章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「4章・5章・6章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第3回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。 特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就BOOK「8章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「8章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第4回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行う。グループワークを通して互いの意見交換を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就BOOK「8・9章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「8・9章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第5回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4時間
第6回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己PRを作成する。	【予習】学就BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就BOOK「2章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就BOOK「11章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「11章」、パワーポイント資料を読み直し、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4時間
第11回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められるSPI試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成①	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。	4時間

		学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き、「企業が求める人材像」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発B	開講年度	2025
担当者	笠田 真由美	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力となる。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考えその養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK 改訂第 5 版, 日経 HR 編集部, 日経 HR, 2023 年	ISBN	9784296117635
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		

特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断+企業動向を知る	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「10章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4時間
第2回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4時間
第3回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホルランドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第6回	オンデマンド	【オンデマンド】【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、「職種・業界」について再度確認する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業）グループワーク「チョコレートが消費者に届くまで」 グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業）グループ発表 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点を解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4時間
第11回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き、「将来の進路と今後の大学生活」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた2年生からの学修計画について考える。（学	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の	4時間

		部コース選択)	学部コース選択について考える。	
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き、「めざす進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【予習】学就BOOK「7章・8章・9章」を事前に読んでおく。 【復習】講演資料・学就BOOK「7章・8章・9章」を読み直し、成長する学生生活について復習する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学習内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリア開発B	開講年度	2025
担当者	芳中 千裕	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力となる。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考えその養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学就 B00K 改訂第 5 版, 日経 HR 編集部, 日経 HR, 2023 年	ISBN	9784296117635
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもら		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断+企業動向を知る	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「10章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4時間
第2回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4時間
第3回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホルランドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第6回	オンデマンド	【オンデマンド】【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、「職種・業界」について再度確認する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業）グループワーク「チョコレートが消費者に届くまで」 グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業）グループ発表 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点を解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4時間
第11回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き、「将来の進路と今後の大学生活」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた2年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4時間

第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き、「めざす進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【予習】学就BOOK「7章・8章・9章」を事前に読んでおく。 【復習】講演資料・学就BOOK「7章・8章・9章」を読み直し、成長する学生生活について復習する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学習内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリア開発B	開講年度	2025
担当者	笠田 真由美	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力となる。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考えその養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK 改訂第 5 版, 日経 HR 編集部, 日経 HR, 2023 年	ISBN	9784296117635
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		

特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断+企業動向を知る	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「10章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4時間
第2回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4時間
第3回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホルンドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第6回	オンデマンド	【オンデマンド】【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、「職種・業界」について再度確認する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業）グループワーク「チョコレートが消費者に届くまで」 グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業）グループ発表 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点を解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4時間
第11回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き、「将来の進路と今後の大学生活」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた2年生からの学修計画について考える。（学	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の	4時間

		部コース選択)	学部コース選択について考える。	
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き、「めざす進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【予習】学就BOOK「7章・8章・9章」を事前に読んでおく。 【復習】講演資料・学就BOOK「7章・8章・9章」を読み直し、成長する学生生活について復習する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学習内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリア開発B	開講年度	2025
担当者	芳中 千裕	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力となる。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考えその養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学就 BOOK 改訂第 5 版, 日経 HR 編集部, 日経 HR, 2023 年	ISBN	9784296117635
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもら		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断+企業動向を知る	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「10章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4時間
第2回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4時間
第3回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホランドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第6回	オンデマンド	【オンデマンド】【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、「職種・業界」について再度確認する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業）グループワーク「チョコレートが消費者に届くまで」 グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業）グループ発表 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点を解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4時間
第11回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き、「将来の進路と今後の大学生活」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた2年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4時間

第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き、「めざす進路に向けた今後の大学生生活」について考える。	【予習】学就BOOK「7章・8章・9章」を事前に読んでおく。 【復習】講演資料・学就BOOK「7章・8章・9章」を読み直し、成長する学生生活について復習する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学習内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリアデザインA	開講年度	2025
担当者	笠田 真由美	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。 ・就職活動本番に向けた実践的な対策を行うことで、就業力（文章・口頭表現）を養う。		
授業の目的及び概要	この授業では、これに続くキャリアデザインBとともに、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、まず、「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考える。次に、社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現する。そして、「自己」について理解するとともに将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、学部を進路として想定される業界についても、業界間のつながりや特色について理解したうえで他者へ説明する。さらに、SPI 対策の徹底（1 回 15 分、年間 20 回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点	—		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考えることができる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現することができる。 ③「自己」について理解するとともに、将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、他者に説明することができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色について、理解し説明することができる。 ⑤SPI 対策の徹底（1 回 15 分、年間 20 回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	なし
参考書	業界地図（マイナビ発行）（WEB 版）	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【職業理解】ガイダンス キャリアデザインに必要な素養・技能を修得することの意義を確認し、授業の概要を紹介する。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する①（自分の興味・関心・強みの認識） キャリア理論（ジョハリの窓、リフレーミング）に基づき、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する②（キャリアアンカー） キャリアアンカーチェックシートを用い、自己の価値観について分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する③（自己分析にどう向き合うか） 各種ツールを使って、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】「自己」を理解し表現する④（自分の興味・関心・強みの認識） 学部で学んだことを棚卸し、自己を分析し、他者に魅力的な人物として伝わるように説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】『「自己」を理解し表現する』 まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【自己理解】「働くことの意義」を考える ①（ダイバーシティ） 「働き方改革」や「ダイバーシティ」をテーマに、講義とグループワークを通じて考え、議論し発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える ②（SDGs） 学部の主な進路先とこれからの企業選びのモノサシを理解し、各自の興味・関心、強みと重ねてみる。（SDGs）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第9回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える ③（観察とディスカッション） 職場で奮闘する社会人の動画を視聴し、働くことの意義・価値観について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える ④（特別講演） ゲストスピーカー／企業人による講話	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【職業理解】業界・企業研究入門①（業界・職種理解） 外部講師（マイナビ）による業界解説講義を受講し、各業界の特徴・動向を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

第12回	対面	【職業理解】業界研究入門②（グループワーク1） 興味関心のある業種毎にグループに分かれ、グループで特定の業界内企業の比較研究に取り組む。特に当該企業の長所を的確に把握する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第13回	対面	【職業理解】業界研究入門③（グループワーク2） 前回につづき、グループワークを通して、特定の業界内企業の比較研究に取り組み、中間発表をする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第14回	対面	【職業理解】業界研究入門④（グループワーク3） 前回につづき、完成した業界内企業の比較研究成果を発表する。特に当該企業の長所を的確に説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について総括し、夏休みに取り組むことを確認する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4時間

科目名	キャリアデザインA	開講年度	2025
担当者	笠田 真由美	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。 ・就職活動本番に向けた実践的な対策を行うことで、就業力（文章・口頭表現）を養う。		
授業の目的及び概要	この授業では、これに続くキャリアデザインBとともに、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、まず、「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考える。次に、社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現する。そして、「自己」について理解するとともに将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、学部を進路として想定される業界についても、業界間のつながりや特色について理解したうえで他者へ説明する。さらに、SPI 対策の徹底（1 回 15 分、年間 20 回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点	—		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考えることができる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現することができる。 ③「自己」について理解するとともに、将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、他者に説明することができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色について、理解し説明することができる。 ⑤SPI 対策の徹底（1 回 15 分、年間 20 回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	なし
参考書	業界地図（マイナビ発行）（WEB 版）	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【職業理解】ガイダンス キャリアデザインに必要な素養・技能を修得することの意義を確認し、授業の概要を紹介する。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する① （自分の興味・関心・強みの認識） キャリア理論（ジョハリの窓、リフレーミング）に基づき、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する② （キャリアアンカー） キャリアアンカーチェックシートを用い、自己の価値観について分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する③ （自己分析にどう向き合うか） 各種ツールを使って、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】「自己」を理解し表現する④（自分の興味・関心・強みの認識） 学部で学んだことを棚卸し、自己を分析し、他者に魅力的な人物として伝わるように説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】『「自己」を理解し表現する』 まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【自己理解】「働くことの意義」を考える ①（ダイバーシティ） 「働き方改革」や「ダイバーシティ」をテーマに、講義とグループワークを通じて考え、議論し発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える ②（SDGs） 学部の主な進路先とこれからの企業選びのモノサシを理解し、各自の興味・関心、強みと重ねてみる。（SDGs）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第9回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える ③（観察とディスカッション） 職場で奮闘する社会人の動画を視聴し、働くことの意義・価値観について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える ④（特別講演） ゲストスピーカー／企業人による講話	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【職業理解】業界・企業研究入門①（業界・職種理解） 外部講師（マイナビ）による業界解説講義を受講し、各業界の特徴・動向を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

第12回	対面	【職業理解】業界研究入門②（グループワーク1） 興味関心のある業種毎にグループに分かれ、グループで特定の業界内企業の比較研究に取り組む。特に当該企業の長所を的確に把握する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第13回	対面	【職業理解】業界研究入門③（グループワーク2） 前回につづき、グループワークを通して、特定の業界内企業の比較研究に取り組み、中間発表をする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第14回	対面	【職業理解】業界研究入門④（グループワーク3） 前回につづき、完成した業界内企業の比較研究成果を発表する。特に当該企業の長所を的確に説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について総括し、夏休みに取り組むことを確認する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4時間

科目名	キャリアデザインB	開講年度	2025
担当者	笠田 真由美	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。 ・就職活動本番に向けた実践的な対策を行うことで、就業力（文章・口頭表現）を養う。		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期のキャリアデザインAに続き、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、春学期に実施した「自己分析・自己理解」を踏まえ、自身の長所・短所を客観的かつ印象的に他者に「自己表現」ができるようにする。また、同じく春学期に実施した「業界研究入門」を深化させ、社会課題や学部進路として想定された業界、業界間のつながり等の多角的な視点から、業界・企業の特長を捉えたうえで自身の希望進路を見出す。さらに、SPI 対策の徹底（1回15分、年間20回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について客観性も踏まえて、他者に印象に残るように表現できる。 ②自身の将来や進路選択に主体性を持っており、希望進路を実現するための計画について具体的に考えることができる。 ③将来の進路選択に前向きであり、困難があっても適切なサポートを受けながら前に進む事ができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色について、理解し説明することができる。 ⑤社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ⑥SPI 対策の徹底（1回15分、年間20回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	なし
参考書	業界地図（マイナビ発行）（WEB 版）	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	40
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 夏休みの振り返りを行い、授業概要についてガイダンスを実施する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就業力】実践トレーニング①ES対策(1) ガクチカ 自分の経験を整理し、「学生時代に力を入れたこと」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング①ES対策(2) 自己PR 自分の経験を整理し、「自己PR」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【就業力】実践トレーニング①ES対策(3) 文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」(特別講演) 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】実践トレーニング ES①ES対策まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第6回	対面	【職業理解】企業研究入門①業界・企業動向調査 興味のある業界に関して、新聞記事(インターネット含む)から最新の業界トピックスを調査し、企業情報も交えて発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【職業理解】企業研究入門②企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方を学び、企業・インターンシップ情報収集のポイントを理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【職業理解】企業研究入門①2・3年生夏のインターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 2・3年生のインターンシップの応募先としてターゲットにする業界を複数、企業を●社(各クラスで指定された社数)選定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング②グループディスカッション対策(1) アサーション 相手を尊重しつつ、自分自身の意見、気持ちを適切に伝える方法を学び、その大切さ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		を認識する。ペアやグループでワークを行い、アサーションの有用性を体感する。		
第10回	対面	【職業理解】実践トレーニング②グループディスカッション対策（2）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【職業理解】実践トレーニング②グループディスカッション対策（3）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（1）簡潔な自己表現 自己分析、企業研究をもとに企業が求める人材像に沿って、簡潔に自己表現する力を養う。グループワークでの相互評価を通じて自身の課題に気づく。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（2）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（3）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、3年次の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリアデザインB	開講年度	2025
担当者	笠田 真由美	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。 ・就職活動本番に向けた実践的な対策を行うことで、就業力（文章・口頭表現）を養う。		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期のキャリアデザインAに続き、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、春学期に実施した「自己分析・自己理解」を踏まえ、自身の長所・短所を客観的かつ印象的に他者に「自己表現」ができるようにする。また、同じく春学期に実施した「業界研究入門」を深化させ、社会課題や学部進路として想定された業界、業界間のつながり等の多角的な視点から、業界・企業の特長を捉えたうえで自身の希望進路を見出す。さらに、SPI 対策の徹底（1回15分、年間20回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について客観性も踏まえて、他者に印象に残るように表現できる。 ②自身の将来や進路選択に主体性を持っており、希望進路を実現するための計画について具体的に考えることができる。 ③将来の進路選択に前向きであり、困難があっても適切なサポートを受けながら前に進む事ができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色について、理解し説明することができる。 ⑤社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ⑥SPI 対策の徹底（1回15分、年間20回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	なし
参考書	業界地図（マイナビ発刊）（WEB 版）	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	40
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 夏休みの振り返りを行い、授業概要についてガイダンスを実施する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就業力】実践トレーニング①ES対策(1) ガクチカ 自分の経験を整理し、「学生時代に力を入れたこと」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング①ES対策(2) 自己PR 自分の経験を整理し、「自己PR」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【就業力】実践トレーニング①ES対策(3) 文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」(特別講演) 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】実践トレーニング ES①ES対策まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第6回	対面	【職業理解】企業研究入門①業界・企業動向調査 興味のある業界に関して、新聞記事(インターネット含む)から最新の業界トピックスを調査し、企業情報も交えて発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【職業理解】企業研究入門②企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方を学び、企業・インターンシップ情報収集のポイントを理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【職業理解】企業研究入門①2・3年生夏のインターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 2・3年生のインターンシップの応募先としてターゲットにする業界を複数、企業を●社(各クラスで指定された社数)選定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング②グループディスカッション対策(1) アサーション 相手を尊重しつつ、自分自身の意見、気持ちを適切に伝える方法を学び、その大切さ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		を認識する。ペアやグループでワークを行い、アサーションの有用性を体感する。		
第10回	対面	【職業理解】実践トレーニング②グループディスカッション対策（2）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【職業理解】実践トレーニング②グループディスカッション対策（3）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（1）簡潔な自己表現 自己分析、企業研究をもとに企業が求める人材像に沿って、簡潔に自己表現する力を養う。グループワークでの相互評価を通じて自身の課題に気づく。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（2）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（3）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、3年次の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習 A	開講年度	2025
担当者	芳中 千裕	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第9回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施される	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		グループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。		
第10回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法SPIの受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第11回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第12回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4時間

科目名	キャリア演習 A	開講年度	2025
担当者	石坂 理恵	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントの資格を取得しており、人材派遣会社にて 10 年以上の業務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第7回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第8回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6時間
第9回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施される	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間

		グループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。		
第10回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法SPIの受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第11回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第12回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4時間

科目名	キャリア演習 A	開講年度	2025
担当者	芳中 千裕	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第7回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第8回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6時間
第9回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施される	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間

		グループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。		
第10回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法SPIの受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第11回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第12回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4時間

科目名	キャリア演習B	開講年度	2025
担当者	石坂 理恵	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントの資格を取得しており、人材派遣会社にて 10 年以上の実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	
	その他の内容	0	

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集团内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集团内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。		
第9回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習B	開講年度	2025
担当者	芳中 千裕	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習Bでは、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した4年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	
	その他の内容	0	

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第7回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第8回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間

		別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。		
第9回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習B	開講年度	2025
担当者	芳中 千裕	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	0	

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。		
第9回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	インターンシップ I	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html/	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	インターンシップ（就業体験学習）を通じて社会、働く意味、そして自分を知る。		
授業の目的及び概要	インターンシップでは、授業のない夏季休暇期間（8・9月）や春季休暇期間（2・3月）において、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うもので、実習を通じて社会や職業への理解を深め、将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成する。企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスもしくは研修を経て、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、1 週間（実働5日間）以上の実習を行う。実習終了後、体験レポートを作成することで、インターンシップでの成果と課題を認識する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、主体的な職業選択に向けた動機づけを行うとともに、社会観・職業観を含む就業力を育成し、希望進路の実現に不可欠な就職活動に対する意識を高めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	企業担当者によって、口頭や実習中に作成する日誌へのコメントで行われる。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	—	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	—	
	【定期試験】レポート試験	—	
	【定期試験】筆記試験（対面）	—	
	その他（％）	—	
	その他の内容	—	
この科目の受講にあたって	<重要>この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、インターンシップは実習先において社会人としてのマナーが厳しく問われる。そのため、欠席・遅刻・早退は論外である。自覚して臨んでほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。	1 時間
第2回	対面	事前研修	【予習】事前学修として、社会人としての基本的な部分を事前に準備しておく。 【復習】事後学修として、事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。	1 時間
第3回	対面	インターンシップ派遣先等において実習①（1日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、その内容を業務報告として実習日誌を作成することで、業務の理解や社会のしくみ、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第4回	対面	インターンシップ派遣先等において実習②（2日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第5回	対面	インターンシップ派遣先等において実習③（3日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第6回	対面	インターンシップ派遣先等において実習④（4日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第7回	対面	インターンシップ派遣先等において実習⑤（5日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。	1 時間
第8回	対面	体験レポートの作成・提出 インターンシップ派遣先企業等にて行った就業体験について、体験レポートを作成し、インターンシップでの成果と課題を振り返り、社会人として必要なビジネススキル等について復習を行う。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。	6 時間

科目名	インターンシップⅡ	開講年度	2025
担当者	金 亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html/	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	インターンシップ（就業体験学習）を通じて社会、働く意味、そして自分を知る。		
授業の目的及び概要	インターンシップでは、授業のない夏季休暇期間（8・9月）や春季休暇期間（2・3月）において、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うもので、実習を通じて社会や職業への理解を深め、将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成する。企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスもしくは研修を経て、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、1 週間（実働5日間）以上の実習を行う。実習終了後、体験レポートを作成することで、インターンシップでの成果と課題を認識する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、主体的な職業選択に向けた動機づけを行うとともに、社会観・職業観を含む就業力を育成し、希望進路の実現に不可欠な就職活動に対する意識を高めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	企業担当者によって、口頭や実習中に作成する日誌へのコメントで行われる。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	—	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	—	
	【定期試験】レポート試験	—	
	【定期試験】筆記試験（対面）	—	
	その他（％）	—	
	その他の内容	—	
この科目の受講にあたって	<重要>この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、インターンシップは実習先において社会人としてのマナーが厳しく問われる。そのため、欠席・遅刻・早退は論外である。自覚して臨んでほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。	1 時間
第2回	対面	事前研修	【予習】事前学修として、社会人としての基本的な部分を事前に準備しておく。 【復習】事後学修として、事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。	1 時間
第3回	対面	インターンシップ派遣先等において実習①（1日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、その内容を業務報告として実習日誌を作成することで、業務の理解や社会のしくみ、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第4回	対面	インターンシップ派遣先等において実習②（2日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第5回	対面	インターンシップ派遣先等において実習③（3日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第6回	対面	インターンシップ派遣先等において実習④（4日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第7回	対面	インターンシップ派遣先等において実習⑤（5日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。	1 時間
第8回	対面	体験レポートの作成・提出 インターンシップ派遣先企業等にて行った就業体験について、体験レポートを作成し、インターンシップでの成果と課題を振り返り、社会人として必要なビジネススキル等について復習を行う。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。	6 時間

科目名	海外インターンシップ		開講年度	2025
担当者	金 亮完		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目			
テーマ	東南アジアやオーストラリアでの就業体験を通じて異文化理解を深め、グローバルマインドを養う。			
授業の目的及び概要	海外インターンシップは、授業のない夏季休暇期間（8・9月）において、東南アジア、オーストラリアにある日系企業等での就業体験するプログラムである。海外での実習を通じて将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成するとともに、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観について理解を深める。海外の企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内での事前ガイダンス受講を必須とする。 授業の目的は、海外の日系企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を目指すことである。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外の日系企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、異文化社会における就業体験により、海外でのワークスタイル、海外勤務の職務特性、現地スタッフとの協働について理解を深め、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観を培う。また、英語コミュニケーション能力の向上、国際的視野の涵養、海外で活躍できるグローバル人材への準備、そして、最終的には日本国内外での広いフィールドで活躍することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	実習中に作成する日誌は、提出後、担当者から返却する。返却した日誌を元に自身を振り返って、次の実習に活かすこと。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	20		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	海外現地での円滑なコミュニケーションには、一定レベルの英語コミュニケーション能力が必要。そのため、研修前か研修後の TOIEC®受験（IP も可）を必須とする。 この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、海外インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、海外インターンシップは国内でのインターンシップと同様に、社会人としてのマナーが			

	厳しく問われる。さらに、派遣先地域・国の治安状況は比較的安定しているものの、日本国内とは異なることを肝に銘じておく。そのため、プログラム全般において、緊張感を持って臨むこと。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション・ガイダンス 授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法など、授業の概要を説明する。併せて、インターンシップの意義と目的について概要を説明する。	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。(30分程度) 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。(30分程度)	1時間
第2回	対面	事前研修①（ビジネスマナー講座） ゲスト講師による講義とグループワークを通じて、ビジネス社会で求められる素養、ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを養い、社会人にとって必要な素養・能力等を理解する。	【予習】事前学修として、社会人としての基本的な部分を事前に準備しておく。(30分程度) 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。(30分程度)	1時間
第3回	対面	事前研修②（現地事情理解講座） ゲスト講師による講義を通じて渡航先の政治・経済事情、文化、歴史に関する理解を深める。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。(30分程度) 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。(30分程度)	1時間
第4回	対面	事前研修③（危機管理講座） 海外の治安状況を踏まえ、危機管理に対する基本事項を理解する。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。(30分程度) 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。(30分程度)	1時間
第5回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習①（1日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第6回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習②（2日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第7回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習③（3日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第8回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習④（4日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第9回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等にお	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業	1時間

		いて実習⑤（5日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	
第10回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑥（6日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第11回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑦（7日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第12回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑧（8日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第13回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑨（9日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第14回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑩（10日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。（30分程度）	1時間
第15回	対面	レポート作成・提出 企業実習の総括を行うことで、海外インターンシップの成果と課題を認識する。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。（30分程度） 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。（30分程度）	1時間

科目名	国際政治学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	山口 治男	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	国際政治の当事者性を学ぶ		
授業の目的及び概要	「国際政治」というと、学生の皆さんからは遠いところで「政治家」などが行っているものと感じられるかもしれませんが、実際には私たちの生活に密接に関わり、また関わっていくことができるものです。 伝統的に「国際政治」は国家や軍事的安全保障を中心に考察されてきましたが、この国際政治学Ⅱでは、より具体的な生活の場において国際政治が私たちの生活にどのように関わっているのかを、なるべく多くの事例を通じて講義していきます。特に、グローバル化が進んでいると言われる現代の世界において、具体的なモノを通じて私たちと世界がどのようにつながっているのかを可視化していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	不可解にも見える国際関係のニュースについて、それがどのような構造の中で起きているかを理解する視点を持ち、それらに興味を持って触れられるようにする。 また、今世界で起こっている重要な出来事についての知識を獲得し、それに対する自分の意見を持つ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付ける。それぞれの質問やコメントペーパー、レポート課題に対しては個別に応答や添削を行うが、必要な情報に関しては全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニング の取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。 講義全体の参考文献としては次の文献を一読しておく と良いが、購入の必要はない。 『国際政治モノ語り』佐藤幸男編、法律文化社、2011 年	ISBN	9784589033420
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	日々触れる国際的なニュースは、「なんとなく大事」だと思っていても、実際にそれがどのような問題を持っているのか、自分にどう関係しているのかが分かりにくいものも多いです。		

あたって	それらを自分の目で見て、自分の頭で考えられるようにしていきましょう。興味を持ったテーマについては、その日の講義のテーマと関連していないように思えても、積極的に質問してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	伝統的国際政治学と国家、個人	授業後に、国際政治学の一般的な定義とこの講義での定義の違いについて確認すること	4時間
第2回	対面	グローバル化とは何か	この講義でのグローバル化の定義について説明できるようにすること	4時間
第3回	対面	商品の連鎖（チェーン）	身近なものから国際政治について考える機会をもつこと	4時間
第4回	対面	鎖の向こう側の現実	身近なモノと国境の向こう側がどのようにつながっているか考えること	4時間
第5回	対面	『ダーウィンの悪夢』は誰にとっての悪夢か	DVDの内容を復習し、必要なら資料に当たること	4時間
第6回	対面	ドキュメンタリーと報道	メディアリテラシーについて整理し、実体験として理解すること	4時間
第7回	対面	一方通行のまなざしの先に	ニュースを通じて、どのように世界が見せられているかについて考えること	4時間
第8回	対面	移動させられる人びと	難民問題の現状と課題について整理すること	4時間
第9回	対面	国際秩序と私たちの生活	私たちにとっての世界秩序がどのように支えられているかを、事例から理解すること	4時間
第10回	対面	何と、どう戦い、何を生み出すのか	テロとの戦いの現状について、現代の事例から整理・理解すること	4時間
第11回	対面	日本の「周辺」から考える	日本国内の事例について、国際政治との関係で理解できるようにすること	4時間
第12回	対面	日本の「国際貢献」の可能性について	日本外交の強みと弱みについて具体的な事例を元に調べ、理解すること	4時間
第13回	対面	論点の補足	国際政治の当事者性という観点から、現代の世界を捉える事例を選択しておくこと	4時間
第14回	対面	国際社会の当事者として	レポートへのレスポンスを踏まえ、その後も世界の中の自分たちの状況について考え続けること	4時間
第15回	オンデマンド	レポート作成に向けたまとめと補足	これまでの講義のポイントについて整理し、自身の関心があるテーマの考察に向けた準備をする	4時間